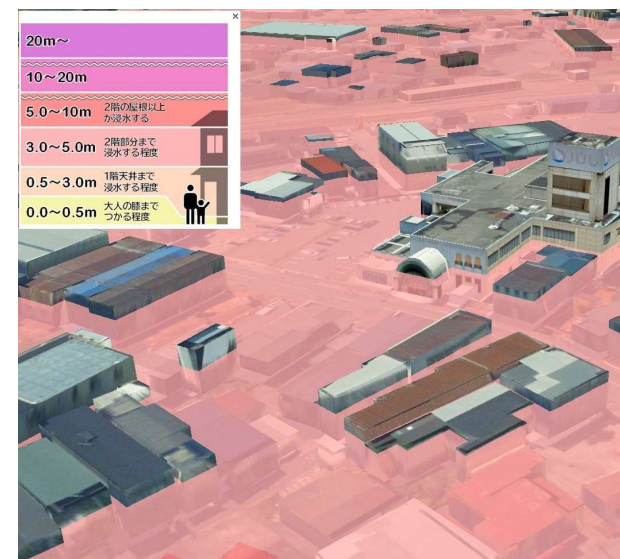


都市空間情報デジタル基盤構築支援事業（PLATEAU補助事業） 取組事例集（令和7年度）



目次



I. Project PLATEAUについて	
1. Project PLATEAUとは	2
2. 3D都市モデルとは	3
3. 整備都市	4
II. 都市空間情報デジタル基盤構築支援事業（PLATEAU補助事業）の概要	
1. 都市空間情報デジタル基盤構築支援事業（PLATEAU補助事業）とは	6
III. 令和7年度採択団体別事業内容	
1. 採択団体一覧	8
2. 団体別事業内容	14
IV. 令和6年度採択団体 フォローアップ調査	
1. 採択団体一覧	230
2. 団体別事業内容	231

I. Project PLATEAUについて

1. Project PLATEAUとは

- **Project PLATEAU (プラトー)** は、スマートシティをはじめとしたまちづくりのデジタルトランスフォーメーションを進めるため、そのデジタル・インフラとなる**3D都市モデルの整備・活用・オープンデータ化を推進する国土交通省のプロジェクト**。
- 国の取組として**標準データモデルの策定**や**先進技術を活用したユースケース開発**を進めるとともに、**地方公共団体におけるデータ整備やユースケースの社会実装を支援**。

2020FY-2021FYの取組	2022FY-2023FYの取組	2024FY-2025FYの取組
<p>標準データモデルの開発/オープンデータ化</p> <p>3D都市モデルは、建物等の三次元形状と用途や構造等の属性情報をパッケージでデータ化することで都市空間のデジタルツインを実現する技術。</p>  <p>3D都市モデル (札幌駅周辺)</p> <ul style="list-style-type: none"> ▶ 国際標準に基づくオープンフォーマットを日本データモデルとして採用し、オープンな活用が可能。 ▶ プロトタイプとしてこれまで約60都市のデータを整備し、オープンデータ化。 	<p>国による技術開発/リーディングケース創出</p> <p>標準データモデルの拡張、先進的なユースケースの技術検証、民間市場形成支援等を国のプロジェクトとして実施。</p>  <p>2022FYリリースのCityGML3.0</p> <ul style="list-style-type: none"> ▶ データ整備の効率化・高度化 最新の国際標準の取込み/効率的な更新スキーム確立 ▶ 先進的なユースケース開発 先進技術を取り入れたユースケース開発 ▶ データ・カバレッジの拡大 リーガル面の課題整理/人材育成プログラム開発 等 	<p>データ・カバレッジの拡大/ベストプラクティスケース開発</p> <p>データ整備の高度化・効率化、ユースケースのベストプラクティス開発、民間市場形成支援等を国のプロジェクトとして実施。</p>  <p>EBPMを促進する公園管理DX v2.0 ユースケース</p> <ul style="list-style-type: none"> ▶ データ整備の高度化・効率化 標準データモデルの拡張や最新技術を取り込んだデータ整備手法の開発を実施。 ▶ ユースケースのベストプラクティス創出 先進的な技術分野と連携し、ユースケースのベストプラクティスを創出するためのPoCを実施。 ▶ 民間市場形成支援 各地で開催されたアイデアソン、ハッカソン等にて、PLATEAUの可能性を訴求。
<p>プロトタイプとなるユースケース開発</p> <p>防災、環境、まちづくり、モビリティなどの分野で3D都市モデルの政策活用や民間サービス創出の手法を開発し、ユースケースの社会実装フェーズを準備。</p>  <ul style="list-style-type: none"> ● 三次元リスク分析を踏まえた防災計画 (郡山市) ✓ 災害リスクを3次元化し、建物データに合わせて分析することで、「垂直避難可能な建物」を特定し、防災計画立案に活用。 ● 太陽光発電ポテンシャルのシミュレーション (石川町) ✓ 建物ごとの屋根形状を解析し、都市全体の太陽光発電ポテンシャルをシミュレーション。地域の脱炭素政策に活用。 	<p>地方公共団体による3D都市モデルの社会実装</p> <p>地方自治体によるデータ整備・更新、ユースケース開発、オープンデータ化等の3D都市モデルの社会実装を支援。</p> <ul style="list-style-type: none"> ▶ 全国約200都市でデータ整備、ユースケース開発等を実施。  <p>インフラマネジメント効率化 災害リスクシミュレーションへの活用 防犯カメラ有効範囲の可視化</p>	<p>オープン・イノベーション創出/地域の社会実装</p> <p>情報発信・コミュニティ形成、地方自治体による社会実装の拡大等を国のプロジェクトとして実施。</p>  <p>自治体交流会の開催</p> <ul style="list-style-type: none"> ▶ 令和7年度末までに329都市でデータ整備、ユースケース開発等を実施。 ▶ 地方公共団体向けのPLATEAU交流イベント「PLATEAUサミット 2024 (自治体交流会) in 広島」、「PLATEAUサミット 2025 (自治体交流会) in さいたま」や3D都市モデルの操作等を学ぶ出前講座を開催。

1. Project PLATEAUについて

2. 3D都市モデルとは

- 3D都市モデルとは、国土交通省都市局の標準に則って作成された、建築物、道路、土木構造物等の**現実の都市に存在する様々なオブジェクトの三次元形状と意味情報をパッケージとして記述した地理空間データ**。
- これまでの三次元データとは異なり、①建築物の用途や建築年といった**意味情報を保持可能**、② **データ連携やソフトウェア連携が円滑**、③地方公共団体の**保有データから効率的に整備可能**、④地域の課題に応じて**保持情報をカスタマイズ可能**。

① 3D都市モデルの整備

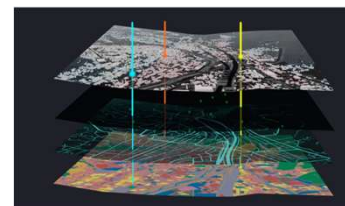
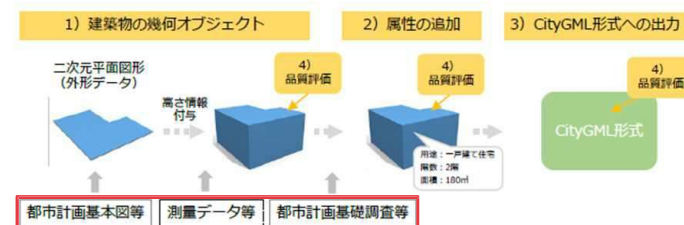
- 3D都市モデルの基本的なデータソースは①都市計画基本図（基盤地図情報）、②都市計画基礎調査、③公共測量成果（航空写真又はLP）の「3点セット」。
- いずれも3D都市モデルの有無に関わらず、地方公共団体が定期的に収集・作成しているデータから整備することが可能（追加のデータ取得費用は不要）。

② 3D都市モデルの活用

- 3D都市モデルの「形状」の情報や用途、地区年数、行政計画などの「意味」の情報を活用することで、様々な分野でのシミュレーション、分析に活用可能。
- 3D都市モデルは、特定のソフトウェアに依存しない、国際標準であるCityGMLというオープンフォーマットによって記述されたデータであるため、GIS（地理空間情報システム）やゲームエンジン、CG、CAD、BIMソフトなど、多様な分野のソフトウェアで利用可能。

③ 3D都市モデルのオープンデータ化

- 3D都市モデルは多様かつ豊富な情報量を持つデータであるため、民間や大学など様々な主体が利用可能な形で公開することで、多様な領域におけるオープンイノベーションの創出が期待される。
- そのためProject PLATEAUでは、二次利用・商用利用可能な形でオープンデータ化すること（CCBY4.0）を基本としている。その際、オープンデータ化に支障のある情報項目等については除いた形でオープン化することも可能であるが、補助事業を活用する際は、プロジェクトの趣旨に鑑みて、可能な限りオープンデータ化することとなっている。



長野県茅野市
開発許可のDX



I. Project PLATEAUについて

3. 整備都市

- 令和7年度末までに、**全国329都市の3D都市モデルを整備**。
- 整備したデータは一般社団法人社会基盤情報流通推進協議会が運用する「G空間情報センター」においてダウンロードが可能。

地方公共団体名	地方公共団体名	地方公共団体名	地方公共団体名	地方公共団体名	地方公共団体名	地方公共団体名	地方公共団体名	地方公共団体名	地方公共団体名			
北海道 札幌市 室蘭市 更別村	越谷市 蕨市 戸田市 入間市 朝霞市 志木市 和光市 新座市 桶川市 久喜市 北本市 八潮市 富士見市 三郷市 蓮田市 坂戸市 幸手市 鶴ヶ島市 吉川市 ふじみ野市	千葉県 千葉市 木更津市 茂原市 柏市 八千代市 多古町 特別区(23区) 八王子市 立川市 武蔵野市 三鷹市 青梅市 府中市 昭島市 調布市 町田市 小金井市 小平市 日野市 東村山市 国分寺市 国立市 福生市 狛江市 東大和市 清瀬市 東久留米市 武蔵村山市 多摩市 稲城市 羽村市 あきる野市 西東京市 瑞穂町 日の出町 檜原村 奥多摩町	東京都 大島町 利島村 新島村 神津島村 三宅村 御蔵島村 八丈町 青ヶ島村 小笠原村 横浜市 川崎市 相模原市 横須賀市 鎌倉市 藤沢市 厚木市 箱根町	新潟県 新潟市 長岡市 三条市 新発田市 加茂市 上越市 高岡市 射水市 舟橋村 氷見市※	富山県 金沢市 加賀市 七尾市※ 輪島市※ 珠洲市※ 羽咋市※ かほく市※ 津幡町※ 内灘町※ 志賀町※ 宝達志水町※ 中能登町※ 穴水町※ 能登町※	石川県 金沢市 羽咋市※ かほく市※ 津幡町※ 内灘町※ 志賀町※ 宝達志水町※ 中能登町※ 穴水町※ 能登町※	山梨県 甲府市 長野市 松本市 岡谷市 諏訪市 伊那市 飯山市 茅野市 佐久市 安曇野市 岐阜市 大垣市 美濃加茂市	静岡県 静岡市 浜松市 沼津市 熱海市 三島市 富士宮市 伊東市 島田市 富士市 磐田市 焼津市 掛川市 藤枝市 袋井市 下田市 裾野市 湖西市 伊豆市 御前崎市 菊川市 伊豆の国市 牧之原市 東伊豆町 河津町 南伊豆町 松崎町 西伊豆町 函南町 清水町 長泉町 小山町 吉田町 川根本町 森町	愛知県 名古屋 岡崎市 豊橋市 春日井市 豊川市 津島市 豊田市 安城市 日進市 四日市市 伊勢市 熊野市 長浜市 近江八幡市 京都市 舞鶴市 与謝野町 大坂市 堺市 岸和田市 豊中市 池田市 高槻市 守口市 河内長野市 和泉市 柏原市 門真市 摂津市 東大阪市 忠岡町 姫路市 加古川市 三木市 朝来市 たつの市	奈良県 奈良市 香芝市 三郷町 和歌山県 和歌山市 田辺市 すさみ町 太地町 鳥取市 米子市 境港市 日吉津村 松江市 益田市 隠岐の島町	岡山県 岡山市 倉敷市 津山市 備前市 早島町 広島市 呉市 竹原市 福山市 府中市 三次市 海田町 周南市 徳島市 徳島市 美波町 高松市 さぬき市 松山市 宇和島市 東温市 高知市 室戸市 安芸市 南国市 土佐市 香南市 東洋町 奈半利町 田野町 安田町 芸西村 いの町	福岡県 北九州市 福岡市 大牟田市 久留米市 飯塚市 宗像市 古賀市 うきは市 筑前町 鳥栖市 武雄市 小城市 大町町 江北町 白石町 佐世保市 松浦市 波佐見町 熊本市 荒尾市 玉名市 宇城市 益城町 日田市 臼杵市 宮崎県 延岡市 鹿児島県 南さつま市 沖縄県 那覇市

Open Dataサイトリンク :

<https://www.mlit.go.jp/plateau/open-data/>

G空間情報センターサイトリンク :

<https://www.geospatial.jp/ckan/dataset/plateau>

目次



I. Project PLATEAUについて	
1. Project PLATEAUとは	2
2. 3D都市モデルとは	3
3. 整備都市	4
II. 都市空間情報デジタル基盤構築支援事業（PLATEAU補助事業）の概要	
1. 都市空間情報デジタル基盤構築支援事業（PLATEAU補助事業）とは	6
III. 令和7年度採択団体別事業内容	
1. 採択団体一覧	8
2. 団体別事業内容	14
IV. 令和6年度採択団体 フォローアップ調査	
1. 採択団体一覧	230
2. 団体別事業内容	231



PLATEAU
by MLIT

II. 都市空間情報デジタル基盤構築支援事業（PLATEAU補助事業）の概要

1. 都市空間情報デジタル基盤構築支援事業（PLATEAU補助事業）とは

- 地方公共団体における3D都市モデルの整備・活用・オープンデータ化を推進するため、令和4年度に「都市空間情報デジタル基盤構築支援事業（PLATEAU補助事業）」を新たに創設。（令和4年度は37団体、令和5年度は48団体、令和6年度は57団体、令和7年度は53団体が本補助事業を活用）
- 地方公共団体ご担当者様及び受託事業者様に向けて「都市空間情報デジタル基盤構築支援事業（PLATEAU補助事業）ポータル」を開設。
- 本制度の交付要綱、モデル発注仕様書、地方公共団体による活用事例の紹介など、「都市空間情報デジタル基盤構築支援事業」への参画に役立つ情報や資料の入手が可能。（詳細は、補助ポータルを参照）
- 令和7年度は、補助対象を広域連合や一部事務組合に拡充したほか、間接補助のタイプを創設した。

3D都市モデル整備・活用に係る補助対象及び補助要件

補助対象：

- (1) 3D都市モデルの整備に関する事業
- (2) 3D都市モデルの活用に関する事業
- (3) 3D都市モデルの整備・活用・オープンデータ化推進事業

支援内容：

- 補助対象：地方公共団体（※広域連合、一部事務組合を含む）
- 補助率：1/2

補助要件：

- ユースケースがあること
注) 原則、単年度で3D都市モデルの整備とユースケース開発を行うこととしている。
ユースケース開発の場合のみの場合も原則として、単年度で成果を報告すること。
- 国が定める標準仕様書及び標準作業手順書に基づく国際標準規格であるCityGML形式でデータを作成すること
- 整備した3D都市モデルをG空間情報センター等にてオープンデータ化すること
- 整備した3D都市モデルを維持管理・更新すること

通常タイプ

支援内容：

- 補助対象：地方公共団体（※広域連合、一部事務組合を含む）
- 補助率：10/10（上限1,000万円までの定額補助）
※1,000万円を超える事業費は地方公共団体負担となる

補助要件：

- 通常タイプの要件を満たすこと
- 事業計画の初年度の事業に限る（以降は通常タイプでの採択となる）
- 早期に課題解決や新たな価値創造が図られること（当該年度の事業において3D都市モデルの活用を達成すること）

早期実装タイプ

令和7年度採択団体一覧

青森県	鱒ヶ沢町*	新潟県	新発田市*	島根県	松江市
岩手県	宮古市	富山県	舟橋村*	岡山県	津山市*
宮城県	仙台市	長野県	飯山市		岡山市
福島県	福島市		安曇野市	広島県	海田町
茨城県	つくば市	岐阜県	岐阜市	徳島県	美波町*
栃木県	宇都宮市		大垣市	愛媛県	宇和島市
	埼玉県	静岡県	静岡県	高知県	高知県
	熊谷市	静岡県	静岡市	高知県	いの町*
埼玉県	さいたま市	愛知県	春日井市	福岡県	古賀市
	荒川北緑水防事務組合*	滋賀県	近江八幡市*		うきは市
千葉県	多古町*		舞鶴市	佐賀県	鳥栖市
	東京都	京都府	与謝野町*	熊本県	玉名市
	中央区		京都市		宇城市*
	台東区		池田市		
東京都	杉並区	大阪府	河内長野市		
	北区		東大阪市		
	練馬区		大阪市		
	東久留米市*		堺市		
神奈川県	藤沢市	奈良県	香芝市		
			三郷町*		
		和歌山県	すさみ町*		

※早期実装タイプ

目次

I. Project PLATEAUについて	
1. Project PLATEAUとは	2
2. 3D都市モデルとは	3
3. 整備都市	4
II. 都市空間情報デジタル基盤構築支援事業（PLATEAU補助事業）の概要	
1. 都市空間情報デジタル基盤構築支援事業（PLATEAU補助事業）とは	6
III. 令和7年度採択団体別事業内容	
1. 採択団体一覧	8
2. 団体別事業内容	14
※ 3D都市モデル整備状況において、R7補助対象地物を赤字としております。	
IV. 令和6年度採択団体 フォローアップ調査	
1. 採択団体一覧	230
2. 団体別事業内容	231

Ⅲ. 令和7年度採択団体別事業内容

1. 採択団体一覧

番号	地域	地方公共団体名	担当部署	掲載ページ
01	東北	青森県鯉ヶ沢町	建設水道課	14
02	東北	岩手県宮古市	都市計画課	19
03	東北	宮城県仙台市	都市計画課	22
04	東北	福島県福島市	都市計画課	25
05	関東	茨城県つくば市	科学技術戦略課	30
06	関東	栃木県宇都宮市	都市計画課	34
07	関東	埼玉県	都市計画課	37
08	関東	埼玉県熊谷市	都市計画課	40
09	関東	埼玉県さいたま市	都市計画課	48
10	関東	埼玉県荒川北縁水防事務組合	熊谷市建設部管理課 熊谷市市長公室政策調査課	52
11	関東	千葉県多古町	空港まちづくり課	56
12	関東	東京都	都市整備局広域調整課 総務局防災管理課	59
13	関東	東京都中央区	都心再生推進課	64
14	関東	東京都台東区	都市づくり部都市計画課	69
15	関東	東京都杉並区	土木計画課	75
16	関東	東京都北区	拠点まちづくり担当課	80
17	関東	東京都練馬区	東部地域まちづくり課	83
18	関東	東京都東久留米市	都市計画課	86
19	関東	神奈川県藤沢市	都市計画課	89
20	中部	新潟県新発田市	地域整備課	95
21	中部	富山県舟橋村	住民生活課	98
22	中部	長野県飯山市	建設水道部まちづくり課	103
23	中部	長野県安曇野市	都市計画課	108
24	中部	岐阜県岐阜市	都市計画課	114
25	中部	岐阜県大垣市	危機管理課	118
26	中部	静岡県	建設政策課	121

番号	地域	地方公共団体名	担当部署	掲載ページ
27	中部	静岡県静岡市	景観まちづくり課	124
28	中部	愛知県春日井市	都市政策課	127
29	近畿	滋賀県近江八幡市	都市計画課	130
30	近畿	京都府舞鶴市	都市計画課	133
31	近畿	京都府与謝野町	建設課	138
32	近畿	京都府京都市	まち再生・創造推進室	141
33	近畿	大阪府池田市	都市政策課	144
34	近畿	大阪府河内長野市	秘書企画課	147
35	近畿	大阪府東大阪市	危機管理室	150
36	近畿	大阪府大阪市	企画振興部 総務担当	154
37	近畿	大阪府堺市	宅地安全課	159
38	近畿	奈良県香芝市	危機管理室	166
39	近畿	奈良県三郷町	都市建設課	171
40	近畿	和歌山県すさみ町	地域未来課	174
41	中国	島根県松江市	都市政策課	177
42	中国	岡山県津山市	都市計画課	182
43	中国	岡山県岡山市	庭園都市推進課	185
44	中国	広島県海田町	まちデザイン課	189
45	四国	徳島県美波町	総務課 デジタル自治推進室	192
46	四国	愛媛県宇和島市	都市整備課	196
47	四国	高知県	都市計画課	199
48	四国	高知県いの町	土木課	203
49	九州	福岡県古賀市	古賀駅周辺開発推進課	206
50	九州	福岡県うきは市	都市整備課	211
51	九州	佐賀県鳥栖市	維持管理課	216
52	九州	熊本県玉名市	都市整備課	219
53	九州	熊本県宇城市	都市整備課	226



Ⅲ. 令和7年度採択団体別事業内容 1. 採択団体一覧

① 3D都市モデルの整備状況

番号	地方公共団体	新規整備	追加	更新	追加・更新	活用のみ
01	青森県鰺ヶ沢町	●				
02	岩手県宮古市	●		●		
03	宮城県仙台市					
04	福島県福島市		●			
05	茨城県つくば市					●
06	栃木県宇都宮市					●
07	埼玉県	●				
08	埼玉県熊谷市		●			
09	埼玉県さいたま市					
10	埼玉県荒川北緑水防事務組合					●
11	千葉県多古町	●				
12	東京都	●		●		
13	東京都中央区					●
14	東京都台東区	●				
15	東京都杉並区			●		
16	東京都北区					
17	東京都練馬区					
18	東京都東久留米市					
19	神奈川県藤沢市	●				
20	新潟県新発田市	●				
21	富山県舟橋村	●				
22	長野県飯山市	●				
23	長野県安曇野市		●			
24	岐阜県岐阜市		●	●		
25	岐阜県大垣市		●			
26	静岡県					

番号	地方公共団体	新規整備	追加	更新	追加・更新	活用のみ
27	静岡県静岡市					
28	愛知県春日井市					
29	滋賀県近江八幡市	●				
30	京都府舞鶴市	●				
31	京都府与謝野町	●				
32	京都府京都市			●		
33	大阪府池田市			●		
34	大阪府河内長野市			●		
35	大阪府東大阪市					
36	大阪府大阪市					
37	大阪府堺市					
38	奈良県香芝市					
39	奈良県三郷町	●				
40	和歌山県すさみ町	●				
41	島根県松江市					
42	岡山県津山市	●				
43	岡山県岡山市	●				
44	広島県海田町	●		●		
45	徳島県美波町	●				
46	愛媛県宇和島市	●				
47	高知県	●				
48	高知県いの町					●
49	福岡県古賀市					
50	福岡県うきは市		●			
51	佐賀県鳥栖市			●		
52	熊本県玉名市					
53	熊本県宇城市	●				



Ⅲ. 令和7年度採択団体別事業内容 1. 採択団体一覧

②ユースケース分野別 逆引き索引

番号	地方公共団体	都市計画 ・まちづくり	防災 ・防犯	地域活性化・観光・ コンテンツ	環境・ エネルギー	交通・物流・ モビリティ	住民参加	その他
01	青森県鯉ヶ沢町	●	●					
02	岩手県宮古市		●					
03	宮城県仙台市	●						
04	福島県福島市		●					
05	茨城県つくば市					●		
06	栃木県宇都宮市	●		●				
07	埼玉県		●					
08	埼玉県熊谷市	●	●	●				
09	埼玉県さいたま市	●		●				●
10	埼玉県荒川北縁水防 事務組合		●					
11	千葉県多古町							●
12	東京都		●					
13	東京都中央区	●						
14	東京都台東区	●	●					
15	東京都杉並区		●					
16	東京都北区	●						
17	東京都練馬区	●						
18	東京都東久留米市	●						
19	神奈川県藤沢市	●	●					
20	新潟県新発田市		●					
21	富山県舟橋村		●					
22	長野県飯山市	●	●					
23	長野県安曇野市		●					
24	岐阜県岐阜市		●			●		
25	岐阜県大垣市		●					
26	静岡県	●						

番号	地方公共団体	都市計画 ・まちづくり	防災 ・防犯	地域活性化・観光・ コンテンツ	環境・ エネルギー	交通・物流・ モビリティ	住民参加	その他
27	静岡県静岡市	●						●
28	愛知県春日井市							●
29	滋賀県近江八幡市	●						
30	京都府舞鶴市	●	●					
31	京都府与謝野町		●					
32	京都府京都市	●						
33	大阪府池田市	●						
34	大阪府河内長野市	●						
35	大阪府東大阪市		●					
36	大阪府大阪市	●						●
37	大阪府堺市	●				●		●
38	奈良県香芝市	●	●					
39	奈良県三郷町		●					
40	和歌山県すさみ町		●					
41	島根県松江市	●						
42	岡山県津山市	●						
43	岡山県岡山市	●			●			
44	広島県海田町	●						
45	徳島県美波町		●					
46	愛媛県宇和島市		●					
47	高知県		●					
48	高知県の町	●						
49	福岡県古賀市	●					●	
50	福岡県うきは市	●						
51	佐賀県鳥栖市		●					
52	熊本県玉名市		●	●				●
53	熊本県宇城市	●						

※インデックス凡例は、左から順に【街】【防】【活】【環】【交】【住】【他】とした。



Ⅲ. 令和7年度採択団体別事業内容 1. 採択団体一覧

③人口規模別 逆引き索引

カテゴリー	番号	地方公共団体	人口(万人)※
15.0万人以上 (右につづ)	12	東京都	1384.1
	07	埼玉県	731.7
	26	静岡県	348.0
	36	大阪府大阪市	275.7
	32	京都府京都市	137.0
	09	埼玉県さいたま市	135.5
	03	宮城県仙台市	106.7
	37	大阪府堺市	80.4
	17	東京都練馬区	75.1
	43	岡山県岡山市	70.2
	27	静岡県静岡市	68.4
	47	高知県	65.6
	15	東京都杉並区	57.1
	06	栃木県宇都宮市	51.7
	35	大阪府東大阪市	48.0
	19	神奈川県藤沢市	44.5
	24	岐阜県岐阜市	40.2
	16	東京都北区	35.4
	28	愛知県春日井市	30.9
	04	福島県福島市	27.1
	05	茨城県つくば市	25.2

カテゴリー	番号	地方公共団体	人口(万人)※
15.0万人以上 (左よりつづ)	14	東京都台東区	21.7
	41	島根県松江市	19.8
	08	埼玉県熊谷市	19.0
	13	東京都中央区	17.4
	25	岐阜県大垣市	15.9
5.0万人～15.0万人	18	東京都東久留米市	11.7
	33	大阪府池田市	10.3
	34	大阪府河内長野市	10.0
	42	岡山県津山市	9.8
	23	長野県安曇野市	9.7
	20	新潟県新発田市	9.1
	29	滋賀県近江八幡市	8.2
	38	奈良県香芝市	7.9
	30	京都府舞鶴市	7.8
	51	佐賀県鳥栖市	7.5
	46	愛媛県宇和島市	6.5
	52	熊本県玉名市	6.4
	49	福岡県古賀市	5.9
53	熊本県宇城市	5.8	
3.0万人～5.0万人	02	岩手県宮古市	4.8
	44	広島県海田町	3.1

カテゴリー	番号	地方公共団体	人口(万人)※
1.0万人～3.0万人	50	福岡県うきは市	2.8
	39	奈良県三郷町	2.3
	48	高知県いの町	2.1
	22	長野県飯山市	2.0
	31	京都府与謝野町	2.0
	11	千葉県多古町	1.4
	01	青森県鱒ヶ沢町	0.9
	45	徳島県美波町	0.6
1.0万人未満	40	和歌山県すさみ町	0.4
	21	富山県舟橋村	0.3
—	10	埼玉県荒川北縁水防事務組合	—

※人口は百人以下四捨五入
※人口規模は当該団体のものであり、整備範囲とは一致しない



Ⅲ. 令和7年度採択団体別事業内容 1. 採択団体一覧

④ 面積規模別 逆引き索引

カテゴリ	番号	地方公共団体	面積 (km ²) ※
500km ² 以上	26	静岡県	7,777
	47	高知県	7,102
	07	埼玉県	3,798
	12	東京都	2,194
	27	静岡県静岡市	1,412
	02	岩手県宮古市	1,259
	32	京都府京都市	828
	43	岡山県岡山市	790
	03	宮城県仙台市	786
	04	福島県福島市	768
	41	島根県松江市	573
	20	新潟県新発田市	533
	42	岡山県津山市	506
	200km ² ～500km ²	48	高知県いの町
46		愛媛県宇和島市	468
06		栃木県宇都宮市	417
01		青森県鱒ヶ沢町	343
30		京都府舞鶴市	342
23		長野県安曇野市	332
05		茨城県つくば市	284
36		大阪府大阪市	225
09		埼玉県さいたま市	217
25		岐阜県大垣市	207
24		岐阜県岐阜市	204
22		長野県飯山市	202

※面積は小数点以下四捨五入

※面積規模は当該団体のものであり、整備範囲とは一致しない

カテゴリ	番号	地方公共団体	面積 (km ²) ※	
100km ² ～200km ²	53	熊本県宇城市	189	
	29	滋賀県近江八幡市	177	
	40	和歌山県すさみ町	174	
	08	埼玉県熊谷市	160	
	52	熊本県玉名市	153	
	37	大阪府堺市	150	
	45	徳島県美波町	141	
	50	福岡県うきは市	117	
	34	大阪府河内長野市	110	
	31	京都府与謝野町	108	
	50km ² ～100km ²	28	愛知県春日井市	93
		11	千葉県多古町	73
		51	佐賀県鳥栖市	72
		19	神奈川県藤沢市	70
35		大阪府東大阪市	62	
50km ² 未満	17	東京都練馬区	48	
	49	福岡県古賀市	42	
	15	東京都杉並区	34	
	38	奈良県香芝市	24	
	33	大阪府池田市	22	
	16	東京都北区	21	
	44	広島県海田町	14	
	18	東京都東久留米市	13	
	13	東京都中央区	10	
	14	東京都台東区	10	
	39	奈良県三郷町	9	
	21	富山県舟橋村	3	
	—	10	埼玉県荒川北縁水防事務組合	—



Ⅲ. 令和7年度採択団体別事業内容 1. 採択団体一覧

⑤ 令和7年度予算規模別 逆引き索引

カテゴリー	番号	地方公共団体	事業費計 (万円)	カテゴリー	番号	地方公共団体	事業費計 (万円)	カテゴリー	番号	地方公共団体	事業費計 (万円)
1,000万円未満	28	愛知県春日井市	48	1,000万円～2,000万円	11	千葉県多古町	1,000	3,000万円～5,000万円	38	奈良県香芝市	3,000
	33	大阪府池田市	400		20	新潟県新発田市	1,000		37	大阪府堺市	3,727
	41	島根県松江市	512		21	富山県舟橋村	1,000		50	福岡県うきは市	3,800
	27	静岡県静岡市	600		31	京都府与謝野町	1,000		32	京都府京都市	3,886
	10	埼玉県荒川北縁水防事務組合	610		42	岡山県津山市	1,000		24	岐阜県岐阜市	4,067
	17	東京都練馬区	745		45	徳島県美波町	1,000		23	長野県安曇野市	4,510
	16	東京都北区	800		53	熊本県宇城市	1,000		51	佐賀県鳥栖市	4,722
	35	大阪府東大阪市	824		18	東京都東久留米市	1,020		8	埼玉県熊谷市	4,806
	3	宮城県仙台市	919		40	和歌山県すさみ町	1,051		9	埼玉県さいたま市	4,948
	1	青森県鱒ヶ沢町	949		13	東京都中央区	1,230		30	京都府舞鶴市	5,950
39	奈良県三郷町	997	48	高知県いの町	1,265	49	福岡県古賀市	6,193			
					6	栃木県宇都宮市	1,500	5,000万円～1億円	19	神奈川県藤沢市	6,740
					34	大阪府河内長野市	1,500		46	愛媛県宇和島市	7,693
					29	滋賀県近江八幡市	1,631		4	福島県福島市	8,100
					5	茨城県つくば市	1,862		22	長野県飯山市	8,389
					36	大阪府大阪市	1,977		26	静岡県	8,400
					44	広島県海田町	2,000		43	岡山県岡山市	9,500
					15	東京都杉並区	2,103		47	高知県	10,000
					25	岐阜県大垣市	2,189		14	東京都台東区	11,362
					52	熊本県玉名市	2,466		7	埼玉県	20,659
					2	岩手県宮古市	2,650		12	東京都	29,495
2,000万円～3,000万円								1億円以上			

※事業費は千円以下四捨五入

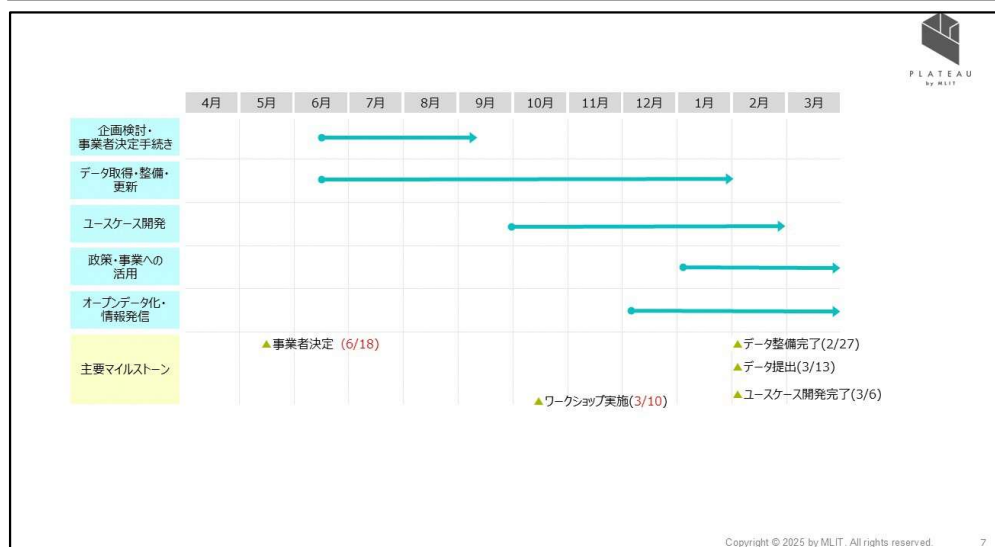
Ⅲ. 令和7年度採択団体別 事業内容

01. 青森県鯉ヶ沢町

■ 団体基礎情報・プロジェクト全体像

人口	約0.9万人（令和5年1月時点）
市域全域面積	約343km ² （令和5年1月時点）
目標	まちづくりにおける政策立案への3D都市モデル活用
課題	<ul style="list-style-type: none"> 国の防災指針に基づく防災対策の充実や防災体制の確立 水害ハザードエリア内における新たな施設の立地シミュレーションによる、講ずべき対策や誘導施策の検討 自主防災組織の新規設立を促進するための災害情報発信

■ 令和7年度スケジュール



分野	人口規模	面積規模	予算規模
街・防	1万人以下	200-500	1千未満

担当部局	建設水道課
------	-------



■ 補助事業実施項目

事前調査等	整備範囲の現況把握
3D都市モデル整備・更新	<ul style="list-style-type: none"> 都市計画図数値図化（地図情報レベル2500） 3D都市モデル整備事業（LOD1、LOD2）
ユースケース開発	<ul style="list-style-type: none"> 3D都市モデルを活用した災害リスクの可視化事業 まちづくりにおける政策立案への活用
推進事業	3D都市モデルのオープンデータサイトの構築

総事業費	9.493（百万円）※うちR7年度 9.493（百万円）
R7年度補助額	9.493（百万円）
補助対象外の関連事業	—

オープンデータ化・可視化・情報発信	<ul style="list-style-type: none"> PLATEAU VIEWへの搭載 【3D都市モデル／関連データ】 G空間情報センターへの掲載 【3D都市モデル／関連データ】 鯉ヶ沢町ホームページ 【3D都市モデル】
-------------------	---

R7年度委託事業者	株式会社パスコ（事前調査、3D都市モデルの整備・更新、ユースケース開発、推進事業）
-----------	---

Ⅲ. 令和7年度採択団体別 事業内容

01.青森県鯉ヶ沢町

■ 3D都市モデル整備状況（基本セット）

※赤字：R7補助対象地物

LOD	整備地物	対象区域	整備面積	整備年度
LOD1	建築物 交通（道路） 都市計画決定情報 土地利用	都市計画用途地域 ほか	3.0km ²	R7年度新規
	災害リスク （洪水・土砂・津波）	鯉ヶ沢町全域	343.08km ²	
	地形	都市計画用途地域 ほか	343.08km ²	
LOD2	建築物	指定一般避難所 鯉ヶ沢町本庁舎	12棟 1棟	

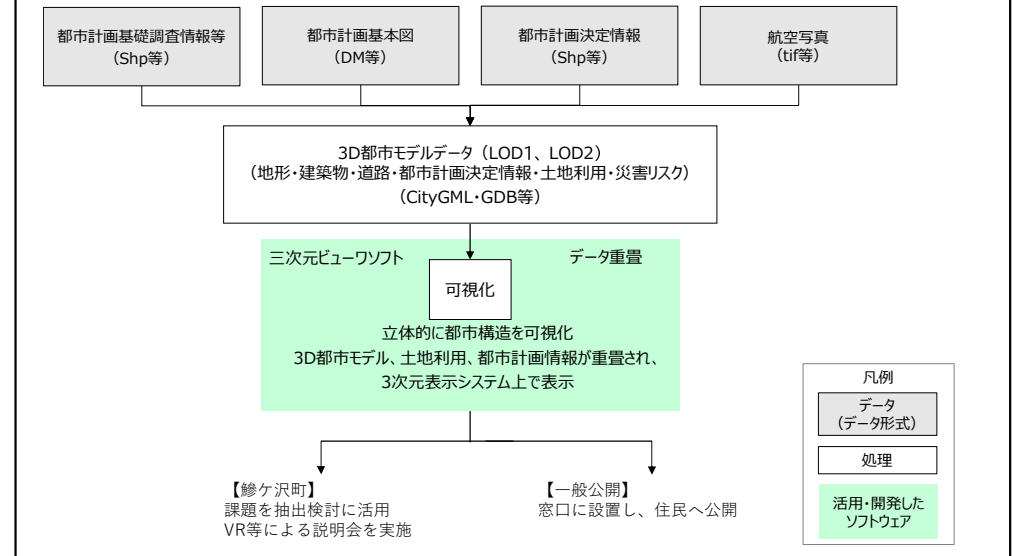
項目	活用したデータ	作成年度	地図情報レベル
平面図	新規作成	R7年度	2,500
測量成果	既存資料（航空写真）	R3年度	1,000
属性情報	都市計画基礎調査（既存）	R4年度	—

分野	人口規模	面積規模	予算規模
街・防	1万人以下	200-500	1千未満

■ ユースケース概要①

テーマ	都市計画・まちづくり
ユースケース名称	まちづくりにおける政策立案への3D都市モデル活用事業
目的	立地適正化計画及び都市計画の変更等に係る検討に活用
取組内容	<ul style="list-style-type: none"> 建物利用現況を属性情報として付与した3D都市モデルと色で塗り分けした土地利用現況等の重ね合わせにより立体的に都市構造を可視化 点在する低未利用地の把握等、まちづくりにおける課題を抽出

■ システム構成図



Ⅲ. 令和7年度採択団体別 事業内容

01. 青森県鯉ヶ沢町

■ ユースケース開発方法

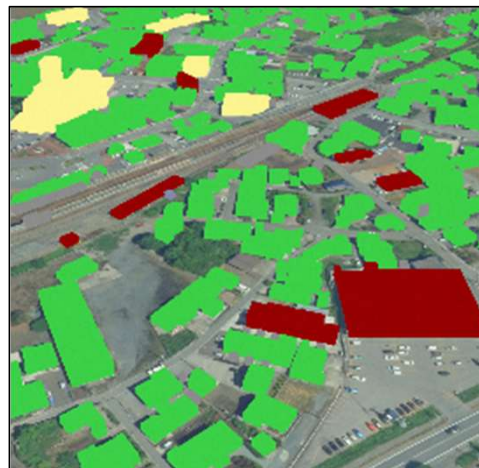
活用データ (3D都市モデル)	<ul style="list-style-type: none"> 建築物LOD1, LOD2 (名称、用途、構造種別、計測高さ、地上階数、建築年) 土地利用LOD1 (土地利用) 地形LOD1
活用データ (上記以外)	—
ユースケース 開発方法	<ul style="list-style-type: none"> 建物利用現況を属性情報として付与した3D都市モデルと色で塗り分けした土地利用現況等の重ね合わせにより立体的に都市構造を可視化する。 点在する低未利用地の把握等、まちづくりにおける課題を抽出する。 作成した3D都市モデルを搭載した3次元ビューワ及びVRゴーグルを用いた説明会を実施。
政策・事業での 活用	属性単位で着色された土地利用現況等の重ね合わせによる三次元的に都市構造を可視化する。
オープンデータ化 情報発信	主要地点の3D都市モデルを画像等で鯉ヶ沢町ホームページに掲載

■ KPI

KPI	目標設定	達成状況
担当職員がPLATEAUと今後の活用について理解ができた人の割合	80% (R9年度)	80% (R7年度)
複数データを重畳したことで、従前よりまちづくりの課題が明確になったと感じた人の割合	80% (R9年度)	80% (R7年度)
担当職員向けに3D都市モデルを搭載した3次元ビューワの説明会 3次元ビューワに対する理解度(%)	80% (R7年度)	80% (R7年度)

分野	人口規模	面積規模	予算規模
街・防	1万人以下	200-500	1千未満

■ ユースケース開発成果イメージ図



建築物属性の可視化

建物の属性情報と土地利用データを重畳し、エリアの機能・特徴を可視化することで、まちづくりの効果的な計画検討を図る。



まちづくりにおける課題抽出

土地利用データから、点在する低未利用地を可視化し、特性や未利用となっている要因を分析し、課題を抽出する。

■ 得られた知見や今後の展望

- 建築物の属性情報と土地利用データを重畳して可視化することで、整備区域内の特徴を立体的かつ俯瞰的に把握できるようになった。
- 将来的な土地利用の方向性や施策の優先順位等のまちづくりにおける課題を検討する上で、有効な判断材料となるデータを得られた。
- 土地利用データを用いて特徴を可視化したことで、立地条件や周辺環境との関係性を整理・把握がしやすくなり、エリアごとの課題が具体化し、利活用の可能性や検討すべき視点を共有しやすくなるなど、課題抽出の効率化に寄与することが分かった。
- これらの知見を踏まえ、今後は関係部署間での情報共有や検討の場においてデータを活用し、利活用に向けた活動を今後検討する。

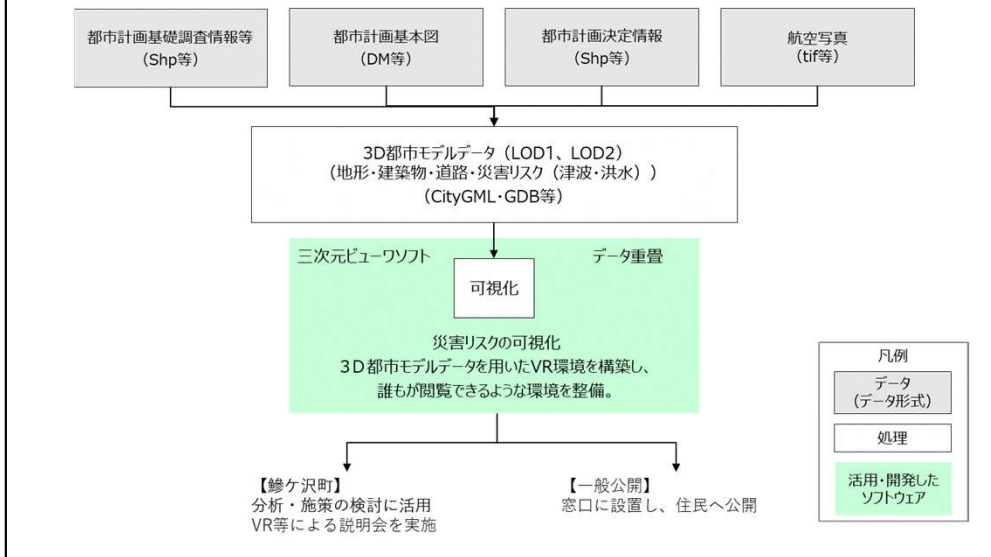
Ⅲ. 令和7年度採択団体別 事業内容

01. 青森県鯉ヶ沢町

■ ユースケース概要②

テーマ	防災・防犯
ユースケース名称	災害リスクの可視化への3D都市モデル活用事業
目的	地域住民の防災意識の向上や都市施設における防災施策の検討
取組内容	<ul style="list-style-type: none"> 洪水や津波といった浸水想定区域の浸水深の三次元化を行い、3D都市モデルと重畳・土砂災害のイエロー・レッドゾーンについて、起伏をつけた地形図にドレープされるよう処理して可視化 災害リスクの高い地域の把握等、防災施策検討にあたっての課題を抽出 防災意識の向上や整備予定の都市施設における防災施策の検討への活用

■ システム構成図



分野	人口規模	面積規模	予算規模
街・防	1万人以下	200-500	1千未満

■ ユースケース開発方法

活用データ (3D都市モデル)	<ul style="list-style-type: none"> 災害リスクLOD1 (洪水浸水想定区域の範囲、津波浸水想定区域の範囲、浸水深の区分、土砂災害警戒区域の範囲) 建築物LOD1, LOD2 (名称、用途、構造種別、計測高さ、地上階数) 地形LOD1
活用データ (上記以外)	—
ユースケース開発方法	<p>(1)災害リスクデータの重畳 3D都市モデルと洪水や津波といった浸水想定区域の浸水深の三次元化を行い、浸水想定区域の災害リスク情報を重畳しリスクを可視化する。 3D都市モデルと土砂災害のイエロー・レッドゾーンについて、起伏をつけた地形図に重畳し、災害リスクを可視化し、災害リスクの高い地域の把握等、防災施策検討にあたっての課題を抽出する。</p> <p>(2)結果の可視化 防災意識の向上や整備予定の都市施設における防災施策の検討へ活用する。</p>
政策・事業での活用	<p>(1)地域住民への防災教育の実施 防災浸水想定区域等の災害情報を3D都市モデルで整備することで、災害リスクを可視化し、災害リスクの認知性向上を図るとともに、防災施策検討の効率化や地域住民への防災教育を図る。</p> <p>(2)職員説明会の実施 作成した3D都市モデルを搭載した3次元ビューワ及びVRゴーグルを用いた説明会を実施する。</p>
オープンデータ化情報発信	主要地点の3D都市モデルを画像等で鯉ヶ沢町ホームページに掲載 <URL掲載ページ未定>

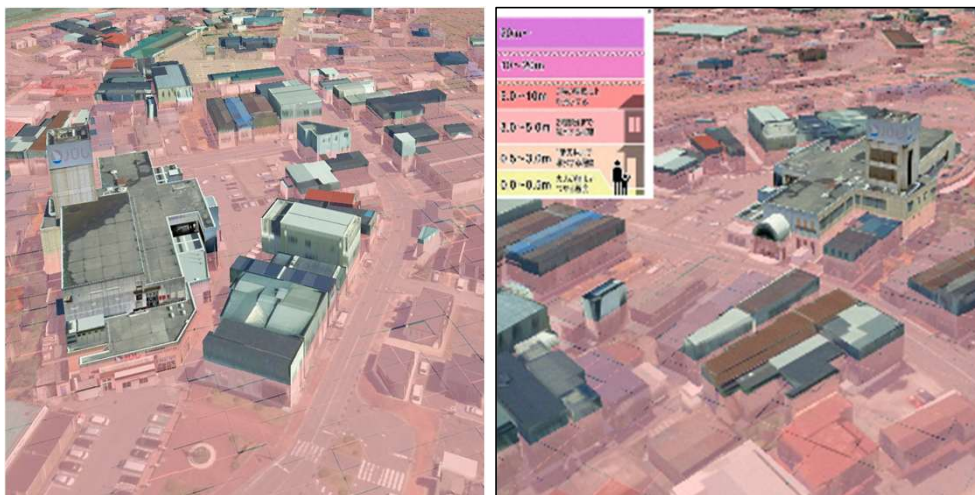
■ KPI

KPI	目標設定	達成状況
防災教育による職員の災害リスク理解の向上	80% (R7年度)	80% (R7年度)

Ⅲ. 令和7年度採択団体別 事業内容

01. 青森県鯉ヶ沢町

■ ユースケース開発成果イメージ図



浸水状況の可視化

建築物モデルに洪水浸水想定区域を重畳することで、災害リスクを可視化し、認知性向上と防災施策検討の効率化を図る。

分野	人口規模	面積規模	予算規模
街・防	1万人以下	200-500	1千未満

■ ユースケース開発成果イメージ図



職員説明会

モデルを搭載した3次元ビューワ及びVRゴーグルを用いた説明会を実施し、防災意識及び災害リスクの理解度を深める。

■ 得られた知見や今後の展望

- 建築物モデルに洪水浸水想定区域を重畳して可視化することにより、これまで平面的な図面や資料では把握しにくかった浸水深と建築物との関係性を直感的に理解できることが確認された。
- 3次元ビューワ及びVRゴーグルを用いることで、災害リスクに対する認知性が向上し、対策検討における内容の具体化・効率化に活用していく。
- 職員説明会では、3Dの浸水状況をリアルに体感してもらうことで防災意識の向上につながった。従来の資料説明に比べ理解しやすいとの意見が多く、特にVRを用いた説明では子供向けにも有効である意見が得られた。
- これらの知見を踏まえ、今後は防災教育や普及啓発の場への展開を図り、小・中学校の防災教室等での活用を検討する。

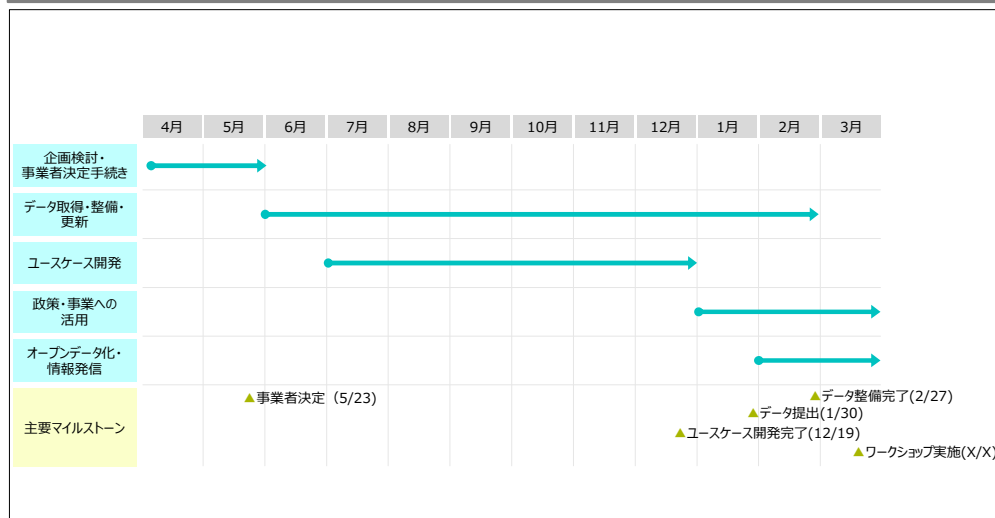
Ⅲ. 令和7年度採択団体別 事業内容

02.岩手県宮古市

■ 団体基礎情報・プロジェクト全体像

人口	約4.8万人（令和5年1月時点）
市域全域面積	約1,259km ² （令和5年1月時点）
目標	森・川・海の自然と共生し、活力に満ちた交流拠点都市の実現
課題	<ul style="list-style-type: none"> 宮古駅周辺地区のまちの中心拠点としての、賑わい・交流機能や各種生活サービス等の強化、魅力ある景観形成、まちなかの回遊・滞留性の高い拠点形成。 東日本大震災からの希望ある復興を契機とした災害に強い安全・安心な都市づくりを推進し、定住環境の充実。 ハード・ソフト両面からの市民参画と協働の取組を推進するとともに、さまざまなまちづくりの活動についての適切な情報提供や人材育成等の支援。

■ 令和7年度スケジュール



分野	人口規模	面積規模	予算規模
防	3-5万	500以上	2-3千

担当部局	都市計画課
------	-------



■ 補助事業実施項目

事前調査等	—
3D都市モデル整備・更新	<ul style="list-style-type: none"> 3D都市モデルの整備のための都市計画基本図更新 3D都市モデル整備事業（LOD1）
ユースケース開発	3D都市モデルを活用した災害リスクの可視化事業
推進事業	データ可視化環境整備事業（ビューワの更新）

総事業費	26.500（百万円）※うちR7年度26.500（百万円）
R7年度補助額	13.250（百万円）
補助対象外の関連事業	—

オープンデータ化・可視化・情報発信	<ul style="list-style-type: none"> G空間情報センターへの掲載【3D都市モデル／関連データ】 PLATEAU VIEWへの掲載【3D都市モデル／関連データ】
-------------------	---

R7年度委託事業者	国際航業株式会社 （3D都市モデルの整備・更新、ユースケース開発、推進事業）
-----------	---

Ⅲ. 令和7年度採択団体別 事業内容

02.岩手県宮古市

■ 3D都市モデル整備状況（基本セット）

※赤字：R7補助対象地物

LOD	整備地物	対象区域	整備面積	整備年度
LOD1	建築物 交通（道路）	宮古市都市計画区域 宮古市都市計画区域	66.44km ² 20.97km ²	R6年度新規 R7年度拡充
	都市計画決定情報 土地利用	宮古市都市計画区域 宮古市都市計画区域	87.97km ² 87.41km ²	R6年度新規 R7年度更新
	災害リスク（土砂）	宮古市全域	87.97km ²	R6年度新規
	災害リスク （洪水・津波）	宮古市全域	87.41km ²	R7年度新規
	地形	宮古市都市計画区域	87.97km ²	R6年度新規
LOD2	建築物	宮古市中心市街地	1.61km ²	R6年度新規

項目	活用したデータ	作成年度	地図情報レベル
平面図	都市計画基本図（修正）	R7年度	2,500
測量成果	既存資料（航空写真）	R5年度	2,500
属性情報	都市計画基礎調査（既存）	R6年度	—

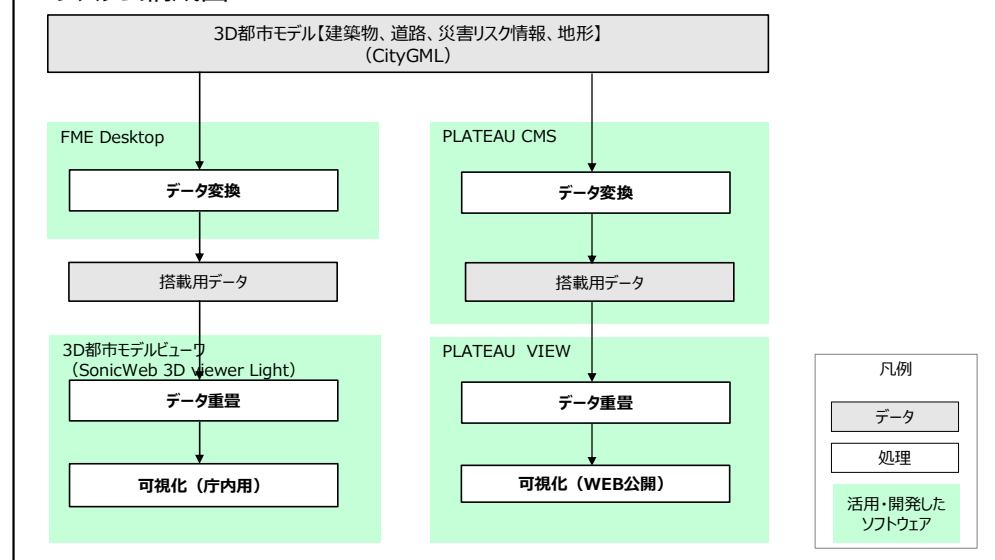


分野	人口規模	面積規模	予算規模
防	3-5万	500以上	2-3千

■ ユースケース概要

テーマ	防災・防犯
ユースケース名称	3D都市モデルを活用した災害リスクの可視化事業
目的	防災計画立案・避難経路設定の効率化
取組内容	浸水想定区域内にある中心市街地を対象として、災害リスク情報の三次元表示を行い、エリアのリスクを可視化する。さらに、これを用いた住民向けワークショップや市防災会議等での検討を行い、防災計画立案や避難経路設定に活用する。

■ システム構成図



Ⅲ. 令和7年度採択団体別 事業内容

02.岩手県宮古市

■ ユースケース開発方法

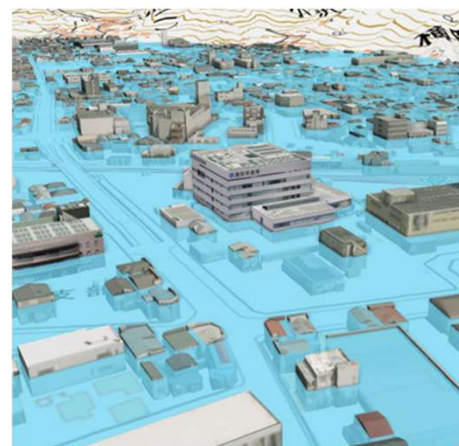
活用データ (3D都市モデル)	・建築物LOD1/2 ・都市計画決定情報LOD1 ・土地利用LOD1 ・地形LOD1 ・交通(道路) LOD1 ・災害リスクLOD1 (洪水浸水想定区域、津波浸水想定区域)
活用データ (上記以外)	—
ユースケース 開発方法	<ul style="list-style-type: none"> ・災害リスク情報(洪水浸水想定区域及び津波浸水想定区域)をCityGML形式で作成する。 ・災害リスク情報を3D都市モデルと重ね合わせ、これらの情報をわかりやすく可視化する。 ・PLATEAU VIEW及び構築する3Dビューワに搭載する。
政策・事業での 活用	<ul style="list-style-type: none"> ・三次元化した災害リスク情報を3D都市モデルと重ね合わせ、わかりやすく可視化。 ・これを用いて津波・大雨時における災害リスクを可視化し、住民との意見交換を行うほか、地域防災計画立案等の検討に活用するなど、地域レベルのきめ細かい防災対策の構築を図る。 ・3D都市モデルと災害リスク情報を重ね合わせたデータを用い、住民向けワークショップや市防災会議等での検討を行い、防災計画立案や避難経路設定に活用する。
オープンデータ化 情報発信	—

■ KPI

KPI	目標設定	達成状況
防災計画立案や避難経路設定への活用について、「有効である」と回答した人の割合	100.0% (R7年度)	100.0% (R7年度)

分野	人口規模	面積規模	予算規模
防	3-5万	500以上	2-3千

■ ユースケース開発成果イメージ図



洪水浸水想定区域の可視化

災害リスク情報(洪水浸水想定区域)と建築物モデルと重畳することで、着目する建築物がどの程度浸水するかが視覚的に把握できる。



背景：国土地理院の地理院地図を使用

津波浸水区域の可視化

災害リスク情報(津波浸水想定区域)と建築物モデルと重畳し、浸水深を視覚的に把握するとともに、避難場所の検討に役立つ。

■ 得られた知見や今後の展望

災害リスク情報を3D化したことにより、危険箇所が視覚的に理解できるようになり、避難経路のイメージが容易になった。今回整備した災害リスク情報を視覚的に表現することで、庁内及び住民の防災・減災に関する意識を向上するとともに、3D都市モデルを活用して防災計画立案や避難経路を検討していく。

Ⅲ. 令和7年度採択団体別 事業内容

03.宮城県仙台市

■ 団体基礎情報・プロジェクト全体像

人口	約106.7万人（令和5年1月時点）
市域全域面積	約786km ² （令和5年1月時点）
目標	3D都市モデルの整備・活用・オープンデータ化を推進し、市民サービスの充実や地域経済の活性化につなげる。特に市中心部においては、まちの回遊性向上・都心の賑わい創出につながる事業の実現を目指す。
課題	<ul style="list-style-type: none"> 市民や企業等において、3D都市モデルへの理解の醸成と利活用アイデアの発掘。 青葉通駅前エリアにおける将来イメージの可視化と回遊性・賑わい等の定量的評価を通じて、青葉通の将来像に対する理解・関心を高めるとともに、「（仮称）青葉通エリア空間構想」へのフィードバックを行う。

■ 令和7年度スケジュール



分野	人口規模	面積規模	予算規模
街	15万以上	500以上	1千未満

担当部局	都市計画課
------	-------



■ 補助事業実施項目

事前調査等	—
3D都市モデル整備・更新	—
ユースケース開発	3D都市モデルを活用した青葉通エリア将来イメージ検証事業
推進事業	<ul style="list-style-type: none"> 3D都市モデルを活用した青葉通エリア将来イメージ検証事業（ワークショップ開催） 3D都市モデルのオープンデータ活用アイデアソン事業

総事業費	33.370（百万円） ※うちR7年度9.186（百万円）
R7年度補助額	4.349（百万円）
補助対象外の関連事業	—

オープンデータ化・可視化・情報発信	<ul style="list-style-type: none"> G空間情報センターへの掲載 【3D都市モデル／関連データ】 PLATEAU VIEWへの掲載 【3D都市モデル／関連データ】 仙台市ホームページ 【3D都市モデル】
-------------------	--

R7年度委託事業者	大成建設株式会社（ユースケース開発、推進事業）
-----------	-------------------------

Ⅲ. 令和7年度採択団体別 事業内容

03.宮城県仙台市

■ 3D都市モデル整備状況（基本セット）

※赤字：R7補助対象地物

LOD	整備地物	対象区域	整備面積	整備年度
LOD1	建築物 交通（道路） 都市計画決定情報 土地利用 災害リスク（洪水、土砂、津波、内水、高潮） 地形	市域全域、市街化区域を包含した市域の約43%	341km ²	R4年度新規
LOD2	建築物	都市再生緊急整備地域、全域	1.8km ²	

■ 3D都市モデル整備状況（基本セット以外）

※赤字：R7補助対象地物

LOD	整備地物	対象区域	整備面積	整備年度
LOD3.2	交通（道路）	都市再生緊急整備地域のうち青葉通駅前エリア	0.026km ²	R6年度拡充
LOD3.0	都市設備 植生	都市再生緊急整備地域のうち青葉通駅前エリア	0.026km ²	R6年度新規
	橋梁	都市再生緊急整備地域のうち仙台駅前ペDESTリアンデッキ	0.020km ²	

項目	活用したデータ	作成年度	地図情報レベル
平面図	都市計画基本図（既存） 道路台帳図	H28年度 R5年度	2,500 500
測量成果	新規測量（MMS、バックパック型レーザ）	R6年度	500
属性情報	新規測量（MMS、バックパック型レーザ） 各種管理台帳（都市公園台帳管理（地図）システム）	R6年度	500 -

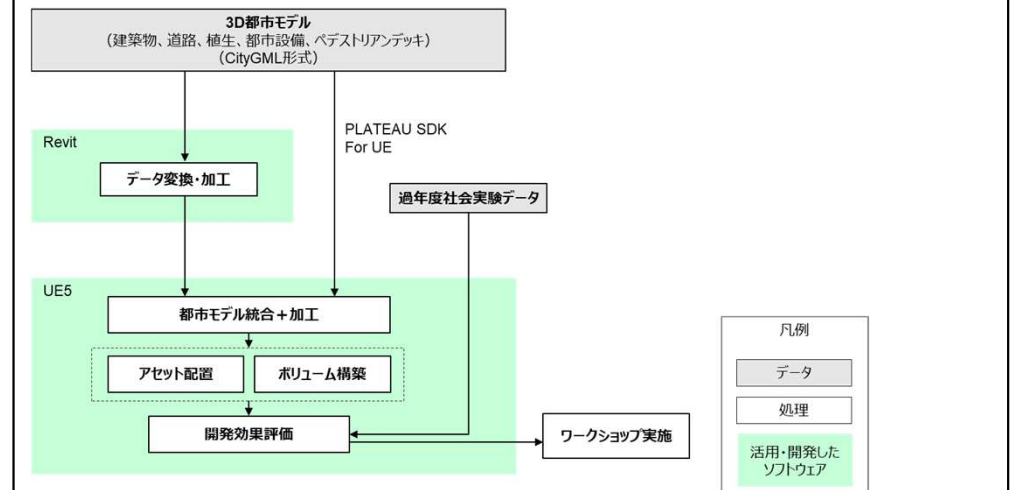
分野	人口規模	面積規模	予算規模
街	15万以上	500以上	1千未満



■ ユースケース概要

テーマ	都市計画・まちづくり
ユースケース名称	3D都市モデルを活用した青葉通エリア空間活用イメージ検証事業
目的	青葉通エリアにおける道路・民地の一体的な公共空間をプランニングし、回遊性・賑わい等の定量的評価をすることで、青葉通の将来像に対する権利者をはじめとしたエリア関係者の理解・関心を高めるとともに、現在策定中の「（仮称）青葉通エリア空間構想」（公民一体空間におけるまちづくりの指針となるもの）へのフィードバックを行うことを目的とする。
取組内容	3D都市モデルを活用した青葉通の道路・民地の一体的な公共空間の検討ツールを構築し、検討結果に合わせた開発効果（回遊性・賑わい等）を定量的に評価するモデルを構築する。

■ システム構成図



Ⅲ. 令和7年度採択団体別 事業内容

03.宮城県仙台市

■ ユースケース開発方法

活用データ (3D都市モデル)	<ul style="list-style-type: none"> 交通（道路）モデル LOD1,LOD3 建築物LOD1,LOD2
活用データ (上記以外)	<ul style="list-style-type: none"> 仙台市所有の過年度に実施を行った社会実験データ（予定） 他地区での社会実験データ（予定）
ユースケース 開発方法	<ul style="list-style-type: none"> 青葉通エリアを対象に、道路・民地の一体的な公共空間について、既存データ等を活用しながら、回遊性の向上及び賑わい創出の定量的評価を行う機能を構築する。 青葉通駅前エリアの3D都市モデルを、エリア関係者がまちづくり検討の場で活用できるように、ゲームエンジンを用いてアプリケーションを開発、利用者が直感的に操作できるようにする。（建築物LOD2、道路LOD3、植生LOD3、都市設備LOD3、橋梁（ペDESTリアンデッキ） LOD3） 過年度の社会実験データ等を基に、開発効果のシミュレーション機能として、「人流総量（人）」、「滞留時間（時間）」等の変化を、定量的にシミュレーションする機能のプロトタイプを開発する。
政策・事業での 活用	<ul style="list-style-type: none"> 青葉通エリアの公共空間の将来イメージの可視化（シミュレーションデータ） 回遊性・賑わい等の定量的評価シミュレーションモデルの構築 ワークショップ参加者のうち、将来イメージへの理解が深まったと回答した割合（アンケート） ワークショップ参加者のうち、回遊性向上に関する取組への関心を持ったと回答した割合（アンケート結果）
オープンデータ化 情報発信	—

■ KPI

KPI	目標設定	達成状況
ワークショップ参加者のうち、将来イメージへの理解が深まったと回答した割合	70% (R7年度)	R8年度へ繰越のため R8年度計測予定
ワークショップ参加者のうち、回遊性向上等に関する取組への関心を持ったと回答した割合	70% (R7年度)	R8年度へ繰越のため R8年度計測予定
アイデアピッチ参加者のうち、3D都市モデルについての理解度が向上したと回答した割合	80% (R7年度)	100% (R7年度)

分野	人口規模	面積規模	予算規模
街	15万以上	500以上	1千未満

■ ユースケース開発成果イメージ図



賑わい評価結果の可視化イメージ※

青葉通エリアを対象として道路・民地の一体的な公共空間における賑わいの定量的な評価・検証のためのアルゴリズムを構築し、その結果を可視化・シミュレーションする機能のプロトタイプを開発する予定である。
※画像は他地区事例であるため、イメージとして掲載している

■ 得られた知見や今後の展望

R8年度は、3D都市モデルを活用し、青葉通駅前エリアにおける将来的な道路・民地の一体的な公共空間の可視化と、回遊性・賑わい等の定量的評価を通じて、青葉通の将来像に対する理解・関心を高めるとともに、「（仮称）青葉通エリア空間構想」へのフィードバックを行う予定としている。空間利活用のイメージを簡易に可視化し、効果が見積もれることから、今後は、地権者などステークホルダーとの検討や開発機運の醸成に資することが考えられる。

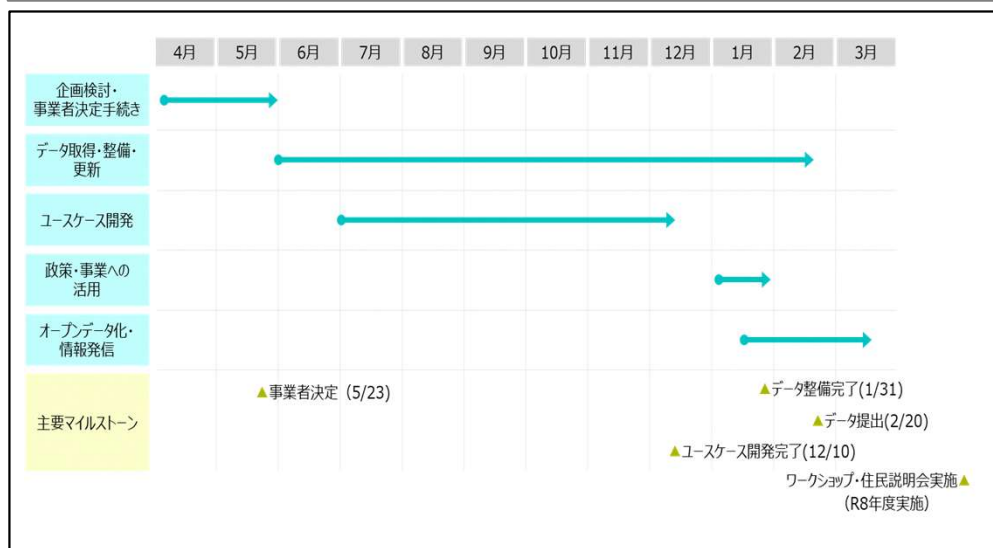
Ⅲ. 令和7年度採択団体別 事業内容

04. 福島県福島市

■ 団体基礎情報・プロジェクト全体像

人口	約27.1万人（令和5年1月時点）
市域全域面積	約768km ² （令和5年1月時点）
目標	災害に強い安全で安心な地域づくり
課題	<ul style="list-style-type: none"> 水害等による住民の防災意識不足 中心市街地の経済活力の衰退、回遊性の不足

■ 令和7年度スケジュール



分野	人口規模	面積規模	予算規模
防	15万以上	500以上	5-10千

担当部局	都市計画課
------	-------



■ 補助事業実施項目

事前調査等	—
3D都市モデル整備・更新	<ul style="list-style-type: none"> 都市計画基本図作成/更新 3D都市モデル整備事業（LOD1）
ユースケース開発	<ul style="list-style-type: none"> 3D都市モデルを活用した災害リスクの可視化 浸水状況を時系列にシミュレーションデータの構築
推進事業	—

総事業費	151.000（百万円）※うちR7年度81.000（百万円）
R7年度補助額	40.500（百万円）
補助対象外の関連事業	—

オープンデータ化・可視化・情報発信	<ul style="list-style-type: none"> G空間情報センターへの掲載 【3D都市モデル/関連データ】 PLATEAU VIEWへの掲載 【3D都市モデル/関連データ】 福島市ホームページに掲載
-------------------	---

R7年度委託事業者	国際航業株式会社 （3D都市モデルの整備・更新、ユースケース開発）
-----------	--------------------------------------

Ⅲ. 令和7年度採択団体別 事業内容

04.福島県福島市

■ 3D都市モデル整備状況（基本セット）

※赤字：R7補助対象地物

LOD	整備地物	対象区域	整備面積	整備年度
LOD1	建築物 交通（道路）	都市計画区域の一部 都市計画区域の一部 都市計画区域の一部	39.0km ² 39.0km ² 135.61km ²	R6年度新規 R7年度更新 R7年度拡充
	都市計画決定情報 土地利用 地形	都市計画区域	228.74km ²	R6年度新規 R7年度更新
	災害リスク（洪水）	6水系8河川 6水系8河川 4水系4河川		R6年度新規 R7年度更新 R7年度拡充
	災害リスク（土砂）	1ケース		R6年度新規 R7年度更新
	災害リスク（内水・高潮）	都市計画区域	228.74km ²	R6年度新規 R7年度更新
LOD2	建築物	都市機能誘導区域	3.33km ²	R6年度新規 R7年度更新

項目	活用したデータ	作成年度	地図情報レベル
平面図	都市計画基本図（修正）	R6～R8年度	2,500
測量成果	既存資料（航空写真）	R4年度	2,500
属性情報	都市計画基礎調査（既存）	R5年度	—

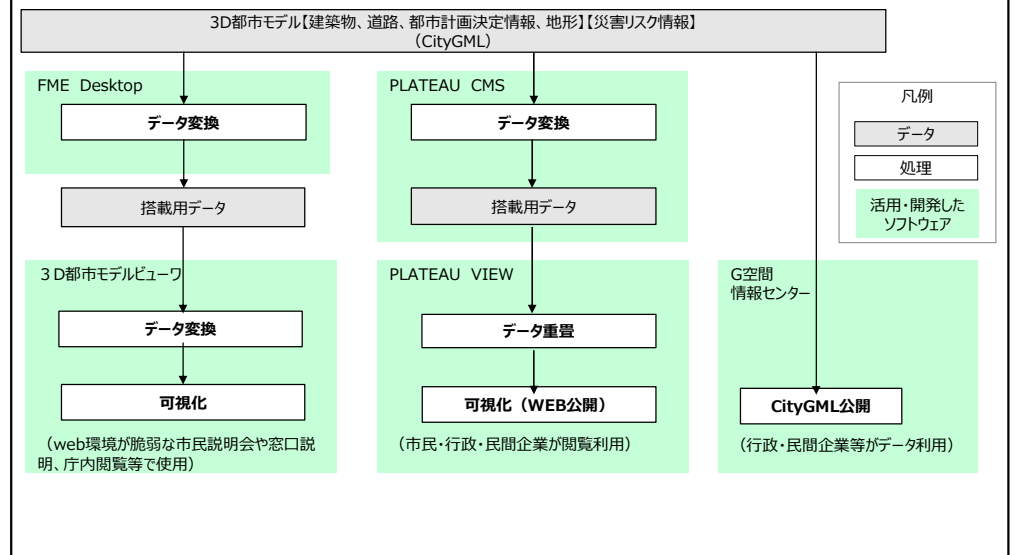


分野	人口規模	面積規模	予算規模
防	15万以上	500以上	5-10千

■ ユースケース概要①

テーマ	防災・防犯
ユースケース名称	3D都市モデルを活用した災害リスクの可視化事業
目的	災害に強い安全で安心な地域づくり
取組内容	洪水の浸水想定区域を3D化し水害等による災害リスクをわかりやすく可視化することで、円滑かつ迅速な住民避難の対策を計画し、地域住民の防災意識の向上を目指す。

■ システム構成図①



Ⅲ. 令和7年度採択団体別 事業内容

04. 福島県福島市

■ ユースケース開発方法

活用データ (3D都市モデル)	<ul style="list-style-type: none"> 建築物LOD1, LOD2 (名称、用途、構造種別、計測高さ、地上階数) 災害リスクLOD1 (洪水浸水想定区域の水面の範囲、浸水深の区分、土砂災害警戒区域の範囲、起こりうる災害の内容)
活用データ (上記以外)	<ul style="list-style-type: none"> 指定避難所情報(避難所名称、所在地) 航空写真 (レベル1000)
ユースケース 開発方法	<ul style="list-style-type: none"> 洪水浸水想定区域、内水浸水想定区域、土砂災害警戒区域及び特別計画区域のデータをCityGML形式で作成する。 3Dデータに付与する属性情報は、建築物の規模、浸水ランク、浸水深、継続時間等とする。 「3D都市モデルを活用した災害リスク情報の可視化マニュアル」に基づき、災害リスク情報を可視化する。
政策・事業での 活用	<ul style="list-style-type: none"> 住民避難対策計画及び地域住民の防災意識の向上。 庁内の災害・防災分野における政策検討への活用。
オープンデータ化 情報発信	-

■ KPI

KPI	目標設定	達成状況
課内職員への利用講習会の参加者より利用に関する肯定的な意見	参加者の7割 (R7年度)	15/18人 83% (R7年度)
庁内職員への利用講習会の参加者より利用に関する肯定的な意見	参加者の7割 (R8年度)	R8年度測定予定
住民説明会参加者の肯定的な意見による防災意識の向上	参加者の半数 (R8年度)	R8年度測定予定

分野	人口規模	面積規模	予算規模
防	15万以上	500以上	5-10千

■ ユースケース開発成果イメージ図



洪水浸水想定区域（災害リスク情報）の三次元可視化

左図：洪水浸水想定区域と建築物モデルを重畳し、浸水範囲及び浸水深を三次元で可視化。

右図：三次元表示により、建築物がどの程度浸水するのかが分かりやすく可視化。

■ 得られた知見や今後の展望

- 三次元にて表示されることにより、建物などの程度浸水するのかが分かりやすく確認することができる。
- 3D都市モデルを活用して災害リスク情報を分かりやすく可視化することにより、住民に浸水範囲や浸水深の認識を深めてもらうとともに、事前の避難行動につながる防災意識の向上を促すために活用していく。
- 庁内における3D都市モデル及び災害リスク情報の利活用を推進していきたい。

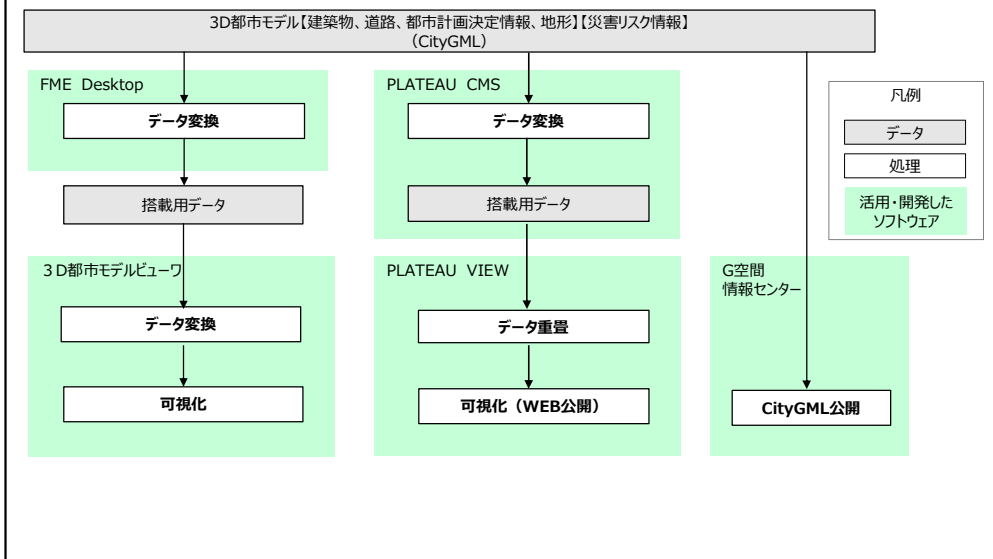
Ⅲ. 令和7年度採択団体別 事業内容

04. 福島県福島市

■ ユースケース概要②

テーマ	防災
ユースケース名称	破堤からの浸水状況を時系列で3D可視化するシミュレーションデータの構築
目的	災害に強い安全で安心な地域づくり
取組内容	洪水の浸水想定区域図を3D化し、3D都市モデルに重ね合わせ可視化したものに、河川の破堤シミュレーションを重ね合わせ、浸水する範囲を時系列で把握し、マイタイムライン等の避難計画作成に役立てる。

■ システム構成図②



分野	人口規模	面積規模	予算規模
防	15万以上	500以上	5-10千



■ ユースケース開発方法

活用データ (3D都市モデル)	建築物LOD1, LOD2.0 (名称、用途、構造種別、計測高さ、地上階数)
活用データ (上記以外)	<ul style="list-style-type: none"> 指定避難所情報(避難所名称、所在地) 航空写真 (レベル1000) 破堤シミュレーションデータ (破堤点ごとの時系列浸水範囲、浸水ランク、浸水深)
ユースケース開発方法	<ul style="list-style-type: none"> 河川の洪水浸水想定区域データから、破堤シミュレーションデータをCZML形式で作成する。 「3D都市モデルを活用した災害リスク情報の可視化マニュアル」に基づき、災害リスク情報を可視化する。
政策・事業での活用	<ul style="list-style-type: none"> 住民避難対策計画及び地域住民の防災意識の向上。 庁内の災害・防災分野における政策検討への活用。
オープンデータ化情報発信	-

■ KPI

KPI	目標設定	達成状況
庁内職員への利用講習会の参加者より利用に関する肯定的な意見	参加者の7割 (R8年度)	R8年度測定予定
住民説明会参加者の肯定的な意見による防災意識の向上	参加者の半数 (R8年度)	R8年度測定予定

Ⅲ. 令和7年度採択団体別 事業内容

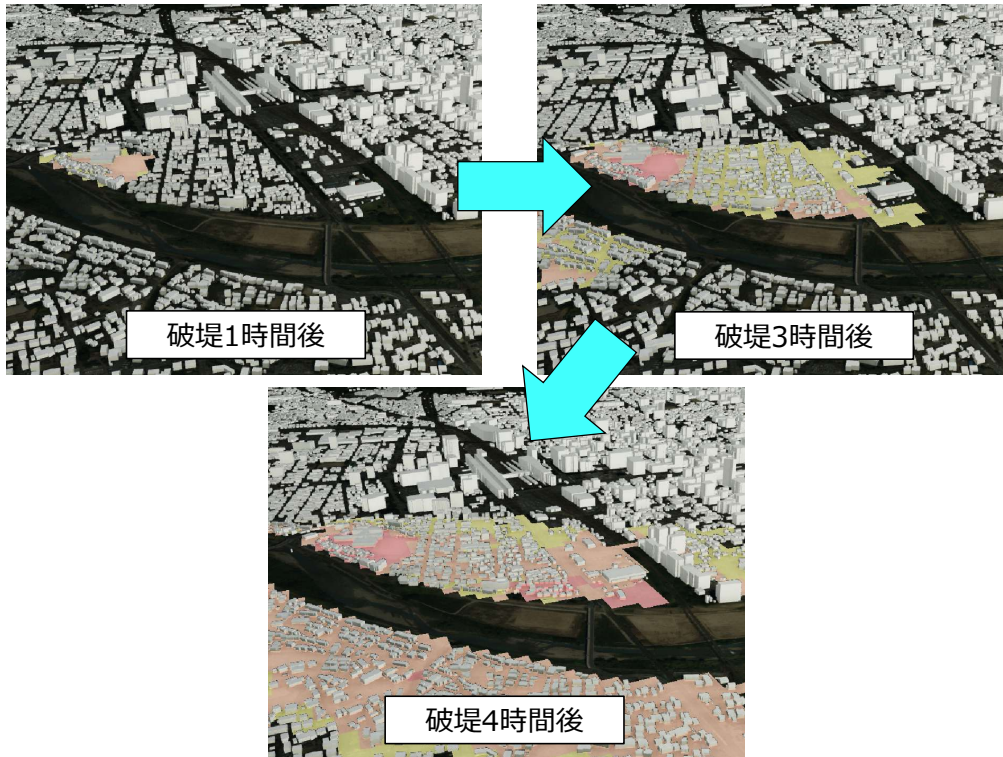
04. 福島県福島市

分野	人口規模	面積規模	予算規模
防	15万以上	500以上	5-10千



PLATEAU
by MLIT

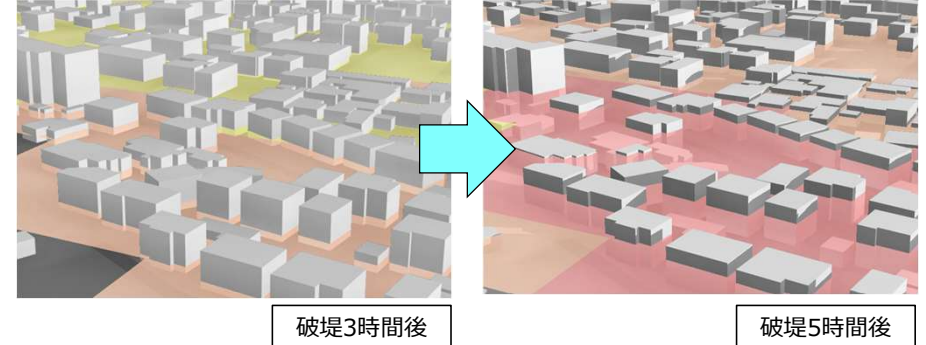
■ ユースケース開発成果イメージ図（浸水域の拡がりを時系列に可視化）



時系列洪水浸水シミュレーション(荒川：福島駅南から県庁付近で浸水が広がるケース)

市内の6河川（9破堤点）について、堤防破堤後に浸水範囲が広がる様子を時系列で表現。建築物モデルと重畳することで、浸水域の変化を具体的に把握。

■ ユースケース開発成果イメージ図（浸水深の変化を時系列に可視化）



時系列洪水浸水シミュレーションの三次元可視化

建築物モデルと重畳することで、堤防破堤後に浸水深の変化を具体的に把握。

■ 得られた知見や今後の展望

- 浸水範囲が広がる速度や建物に対する浸水高が確認でき、浸水が始まると避難が困難であると知ることができる。
- 洪水浸水範囲を時系列に表現することで、洪水時の被害の甚大さや早期避難の重要性を全ての世代の市民に分かりやすく周知したい。
- 今後は、地域住民向けの説明会等において、事前の避難行動の重要性を周知するとともに、洪水時の避難場所や避難経路の検討に活用するなど、住民の防災意識向上につなげたい。

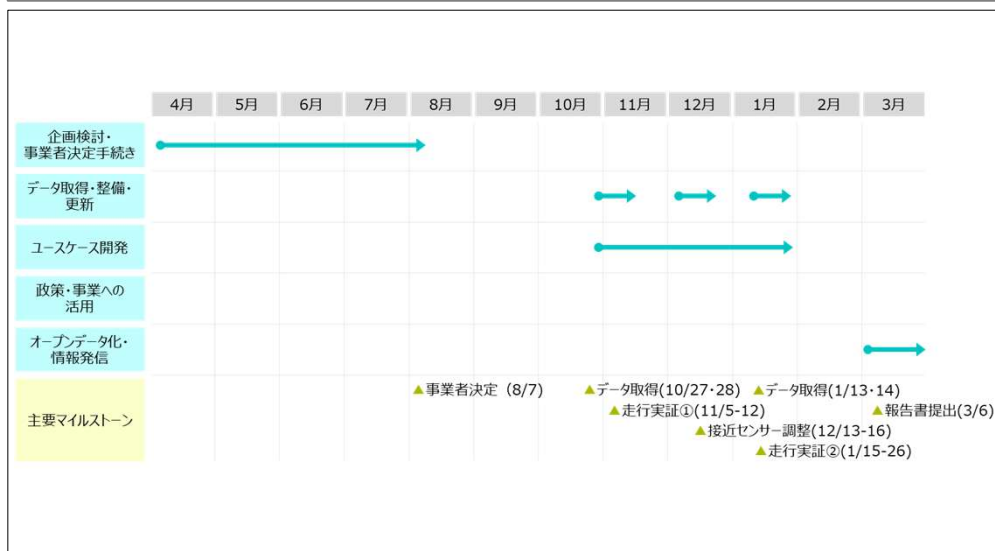
Ⅲ. 令和7年度採択団体別 事業内容

05.茨城県つくば市

■ 団体基礎情報・プロジェクト全体像

人口	約25.2万人（令和5年1月時点）
市域全域面積	約284km ² （令和5年1月時点）
目標	<ul style="list-style-type: none"> 移動の自由と健康な自立を人々へ提供し、安心して暮らせるまちづくりを実現する。 安全で持続可能な都市空間を人々へ提供し、活力ある都市力を向上させる。
課題	必要なとき、必要な場所へ移動できる手段の提供

■ 令和7年度スケジュール



分野	人口規模	面積規模	予算規模
交	15万以上	200-500	1-2千

担当部局	科学技術戦略課
------	---------



■ 補助事業実施項目

事前調査等	-
3D都市モデル整備・更新	-
ユースケース開発	3D都市モデルを活用した低速自動運転モビリティに使用する衛星測位精度向上
推進事業	-

総事業費	18.619（百万円）※うちR7年度18.619（百万円）
R7年度補助額	9.309（百万円）
補助対象外の関連事業	-

オープンデータ化・可視化・情報発信	つくば市ホームページに掲載する。
-------------------	------------------

R7年度委託事業者	東海クラリオン株式会社（ユースケース開発）
-----------	-----------------------

Ⅲ. 令和7年度採択団体別 事業内容

05.茨城県つくば市

■ 3D都市モデル整備状況（基本セット）

※赤字：R7補助対象地物

LOD	整備地物	対象区域	整備面積	整備年度
LOD1	建築物	つくば市全域	283.7km ²	R4年度新規 R5年度更新
	交通（道路） 都市計画決定情報 土地利用 災害リスク 地形	つくば市全域	283.7km ²	R4年度新規
LOD2	建築物	都市機能誘導区域	2.3km ²	R4年度新規

分野	人口規模	面積規模	予算規模
交	15万以上	200-500	1-2千



■ 3D都市モデル整備状況（基本セット以外）

※赤字：R7補助対象地物

LOD	整備地物	対象区域	整備面積	整備年度
LOD3.0	建築物	筑波大学附属病院周辺エリア 筑波大学附属病院 けやき棟	0.2km ² 1棟	R4年度新規 R5年度拡充
	都市設備	筑波大学附属病院周辺エリア つくばセンターエリア 研究学園駅周辺エリア	0.2km ² 0.8km ² 2.36km ²	R4年度新規
	橋梁	つくばセンターエリア ペDESTリアンデッキ	0.8km ² 1.4km ²	R4年度新規 R5年度拡充
	植生	つくばセンターエリア 研究学園駅周辺エリア ペDESTリアンデッキ	0.8km ² 2.36km ² 1.4km ²	R4年度新規 R5年度拡充
LOD3.3	交通（道路）	筑波大学附属病院周辺エリア 研究学園駅周辺エリア	0.2km ² 2.36km ²	R4年度新規
	交通（徒歩道）			
LOD1.0 LOD2.0	都市設備 交通（徒歩道） 橋梁 植生	ペDESTリアンデッキ	1.4km ²	R5年度新規

Ⅲ. 令和7年度採択団体別 事業内容

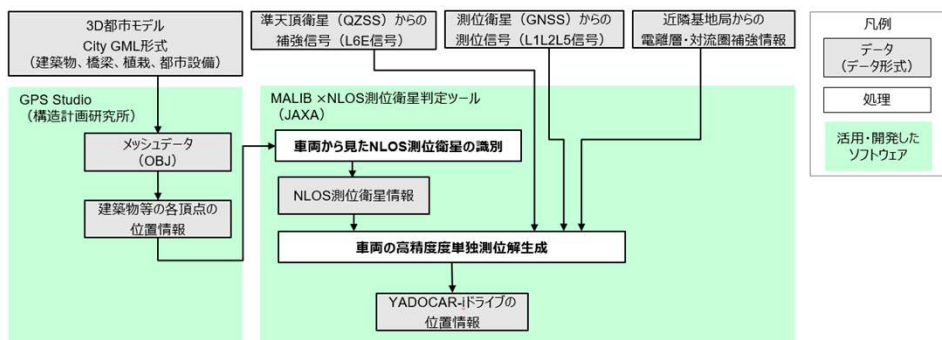
05.茨城県つくば市



■ ユースケース概要

テーマ	交通・物流・モビリティ
ユースケース名称	3D都市モデルを活用した低速自動運転モビリティに使用する衛星測位精度向上
目的	高階層の建物や街路樹の多いつくば駅周辺エリアにおける低速自動運転モビリティの衛星測位精度を向上することで、低速自動運転モビリティの安定走行を実現し、つくば駅周辺の回遊性向上を図る。
取組内容	低速自動運転モビリティの自動運転に使用する衛星測位結果に悪影響を及ぼすマルチパス等の原因となるNLOS (Non Line Of Sight) 測位衛星からの信号をPLATEAUの情報を活用して検知し、測位計算から除外することにより、測位信号の受信状況が悪い環境においても、安定して高精度な衛星測位が実現できることを実証する。

■ システム構成図



分野	人口規模	面積規模	予算規模
交	15万以上	200-500	1-2千

■ ユースケース開発方法

活用データ (3D都市モデル)	<ul style="list-style-type: none"> 建築物LOD2 (属性情報は使用せず。頂点情報のみ使用) 橋梁LOD3 (属性情報は使用せず。頂点情報のみ使用) 植栽LOD3 (属性情報は使用せず。頂点情報のみ使用) 都市設備LOD3 (属性情報は使用せず。頂点情報のみ使用)
活用データ (上記以外)	<ul style="list-style-type: none"> 準天頂衛星 (QZSS) からの補強信号 (L6E信号) 測位衛星 (GNSS) からの測位信号 (L1L2L5信号) (電離層・対流圏補強情報)
ユースケース開発方法	<ul style="list-style-type: none"> 自動走行データ (基準値) の取得：つくば駅周辺で走行させる車両を使用して、自動走行データを取得する。 走行データ評価：PLATEAUデータと「自動走行データ (基準値) の取得」で取得したデータを使用して、測位精度、収束時間、Fix率、及び測位精度に悪影響を及ぼす測位衛星の検知精度等に関する評価・解析を行い、衛星測位性能向上のためのアルゴリズムの検討を行う。 ソフトウェアアップデート：「走行データ評価」で検討したアルゴリズムを、JAXAが研究開発を進める衛星測位ソフトウェア (MALIB) に実装する。 実証とKPI評価：「衛星測位ソフトウェア (MALIB)」を車両に搭載して走行実験を行い、目標とする走行性能が実現できることを確認する。
政策・事業での活用	<ul style="list-style-type: none"> R8年度は市内周辺地域における実証・調査を継続し、市内周辺地域については、R10年度に通年で社会実装を目指す。 R7年度は、3D-LiDARセンサと日本独自の測位衛星みちびきやGPSを利用して車両位置を測定する低速自動運転モビリティを想定し、自動運転に使用する衛星測位結果に悪影響を及ぼすマルチパス等の原因となるNLOS (Non Line Of Sight) 測位衛星からの信号をPLATEAUの情報を活用して検知し、測位計算から除外することにより、測位信号の受信状況が悪い環境においても、安定して高精度な衛星測位が実現できることを実証する。
オープンデータ化情報発信	実証成果をつくば市ホームページに掲載する。

Ⅲ. 令和7年度採択団体別 事業内容

05.茨城県つくば市

■ KPI

KPI	目標設定	達成状況
測位精度	10cm (RMS) 以下 (R7年度)	4.47cm(RMS)
収束時間		38.9秒
Fix率	10分以下 (R7年度)	90.87%
測位精度に悪影響を及ぼす測位衛星の検知精度	90%以上 (R7年度)	78.98
	90%以上 (R7年度)	(96.47%)

■ KPI定義

- ・測位精度：高性能なGNSS受信機の内部で算出した精度の高い測位解を基準値としたときの基準値との差分（単位：cm）
- ・収束時間：高性能なGNSS受信機の内部で算出した精度の高い測位解を基準値とし、基準値との差分が水平方向に30cm以内、垂直方向に50cm以内に収束するまでに要する時間（単位：分秒）
- ・Fix率：高精度測位補強サービス（MADCOCA-PPP）による測位解のうち、位相距離の推定ができていない測位解（Fix解）の割合（単位：%）
- ・測位精度に悪影響を及ぼす測位衛星の検知精度：衛星と受信機の間建物等の遮へい物が存在し、直接波が届かない状態（NLOS：Non Line Of Sight）や樹木などで信号強度が減衰した衛星のうち、三次元都市モデル（PLATEAU）を活用して検知したNLOSの割合（単位：%）

■ KPI計測時期

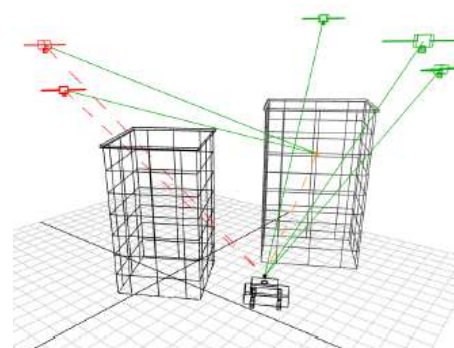
令和8年（2026年）1月26日（月曜日）
第二セッション（11時30分から13時30分）

■ 補足

測位精度に悪影響を及ぼす測位衛星の検知精度について、KPI計測地点付近にある円筒状の建築物データがPLATEAU上に実装されていなかったことが理由である。当該建築物データが実装されていた場合、KPI値は96.47%まで改善できることが判明している。

分野	人口規模	面積規模	予算規模
交	15万以上	200-500	1-2千

■ ユースケース開発成果イメージ図



3D都市モデルの活用イメージ

高層建築物や街路樹が多い市街地では、建築物等に反射した測位信号を受信してしまい、衛星測位結果に悪影響を及ぼすことがある。3D都市モデルで悪影響を及ぼす測位衛星を検知し、除外することで、測位結果の精度向上と安定した走行を実現することができる。



子どもMaaS運行のようす

子育て世帯の多いつくば駅周辺エリアのペDESTリアンデッキ上に主要公園やショッピングセンター等を結ぶ低速自動運転モビリティを走行させ、子どもだけでも安全に移動できる手段を提供することで子育て世帯が直面する子どもの送迎などの課題を解決するとともに、回遊性の向上を実現することができる。

■ 得られた知見等や今後の展望

都市部における衛星測位精度、収束時間、Fix率について、PLATEAUを活用することでいずれも改善することが明らかとなった。今後、市内周辺地域における高齢者等の移動課題解決のため、低速自動運転モビリティを活用した実証・調査を継続し、R10年度に通年で社会実装を目指す。

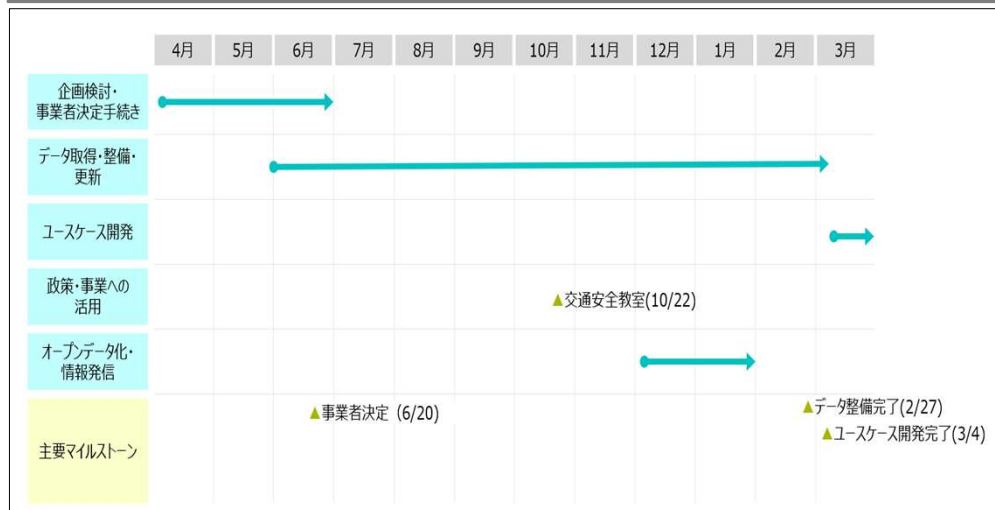
Ⅲ. 令和7年度採択団体別 事業内容

06. 栃木県宇都宮市

■ 団体基礎情報・プロジェクト全体像

人口	約51.7万人（令和5年1月時点）
市域全域面積	約417km ² （令和5年1月時点）
目標	<ul style="list-style-type: none"> スーパースマートシティの土台となるNCCの形成 公共交通の東西の基軸となるライトラインの駅西側延伸の早期実現
課題	JR宇都宮駅西側へのライトライン延伸に向けた事業の説明をする中で、関係者や市民にとって、現在のまちなみにライトラインが導入された際のイメージが湧きにくいいため、宇都宮市の将来の空間イメージが上手く伝わらない。

■ 令和7年度スケジュール



分野	人口規模	面積規模	予算規模
街・活	15万以上	200-500	1-2千

担当部局	都市計画課
------	-------



■ 補助事業実施項目

事前調査等	—
3D都市モデル整備・更新	—
ユースケース開発	VRを活用したライトライン駅西側延伸等への市民理解促進業務
推進事業	—

総事業費	15.000（百万円）※うちR7年度15.000（百万円）
R7年度補助額	7.500（百万円）
補助対象外の関連事業	—

オープンデータ化・可視化・情報発信	市ホームページ上での公開（市公式YouTube動画）
-------------------	----------------------------

R7年度委託事業者	森ビル株式会社（ユースケース開発）
-----------	-------------------

Ⅲ. 令和7年度採択団体別 事業内容

06. 栃木県宇都宮市

■ 3D都市モデル整備状況（基本セット）

※赤字：R7補助対象地物

LOD	整備地物	対象区域	整備面積	整備年度
LOD1	建築物 交通（道路） 都市計画決定情報 土地利用 災害リスク 地形	宇都宮市全域	416.85 km ²	R2年度新規 R5年度更新
LOD2	建築物	高次都市機能 誘導区域	3 km ²	

■ 3D都市モデル整備状況（基本セット以外）

※赤字：R7補助対象地物

LOD	整備地物	対象区域	整備面積	整備年度
LOD1	都市機能誘導区域	都市機能誘導区域	17.33 km ²	R5年度新規
	居住誘導区域	居住誘導区域	46.72 km ²	

項目	活用したデータ	作成年度	地図情報レベル
平面図	都市計画基本図（既存）	R2年度	2,500
測量成果	新規測量（航空写真）	R2年度	2,500
属性情報	都市計画基礎調査（既存）	R3年度	—

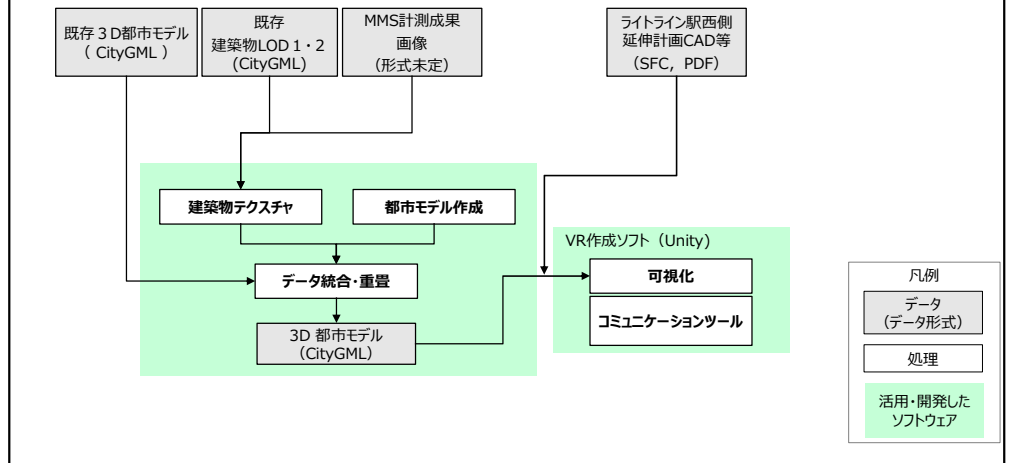
分野	人口規模	面積規模	予算規模
街・活	15万以上	200-500	1-2千



■ ユースケース概要

テーマ	都市計画・まちづくり／地域活性化
ユースケース名称	VRを活用したライトライン駅西側延伸等への市民理解促進事業
目的	ネットワーク型コンパクトシティ（NCC）の形成を更に推進するため、東西軸となる大通り沿線の市民や事業者に対し、様々な機会を通じて、駅西側の将来の空間イメージの共有や今後の取組など、ライトライン駅西側延伸に向けた市民理解のより一層の促進を図る。
取組内容	<ul style="list-style-type: none"> ライトラインの駅西側延伸に係る市民理解をより一層推進するため、今後の沿線郊外部の説明会等において、沿線郊外部の特性を踏まえた空間づくりへの理解促進に取り組むにあたり、R6年度に都心部を中心に作成した将来計画VRについて、ライトライン導入計画の進展に合わせ、更に都心部以西へ再現範囲を拡大する。 市民からの問い合わせが多く、関心も高いJR宇都宮駅の東西横断部の軌道構造及び東武宇都宮駅前停留場の軌道構造の再現を行い、市民理解促進に取り組む。 交通安全教室などにおいて、VRを活用した将来の道路環境で想定される事故状況の啓発画像などを活用し、市民の交通安全意識の啓発活動を更に推進する。

■ システム構成図



Ⅲ. 令和7年度採択団体別 事業内容

06. 栃木県宇都宮市

■ ユースケース開発方法

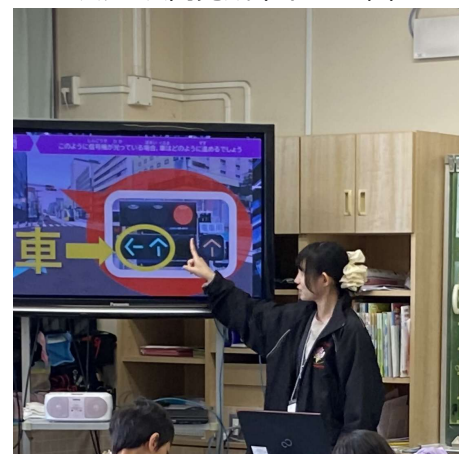
活用データ (3D都市モデル)	<ul style="list-style-type: none"> 建築物LOD1, LOD2 (名称, 分類 (業務施設や商業施設, 文教厚生施設など), 用途, 建築年, 計測高さ, 地上/地下階数, 住所, 建築/図上面積 (上から見た建築物の面積), 構造種別, 調査年, 規模 (敷地面積) 等) 道路LOD1 (道路区分, 道路構造, 作成日)
活用データ (上記以外)	-
ユースケース 開発方法	3D都市モデル (道路, 建築物モデル等) を活用し, R6年度に作成したVRをライトライン 駅西側延伸計画の進展などを踏まえ, 更に西側郊外部へ再現範囲を拡張し, シンボルとなる沿道建築を撮影した写真 (MMS計測) の貼付け, ライトラインが走行する道路の再現など将来計画の更新などを実施し, 整備前後のイメージの比較を行う。
政策・事業での 活用	<ul style="list-style-type: none"> 目指す将来のまちのイメージについて, 計画案 (整備前後の比較など) を分かりやすく関係者や地元民への説明する際のコミュニケーションツールとして活用し, 合意形成を図る。 多様な交通の充実による将来的な自動車や人の流れの変化を見据え, VR上で再現した交通事故の状況を開覧することで, 市民が将来的な道路状況や交通ルールの変化を再認識することを促すとともに, 交通安全の意識向上を図る。
オープンデータ化 情報発信	市ホームページ上での公開 (市公式YouTube動画)

■ KPI

KPI	目標設定	達成状況
都心部より西の大通り沿線におけるライトライン 駅西側延伸に向けた空間づくりへの理解度	60%以上 (R7年度)	100% (R8年度も継続)
市内小中高校生の交通安全への意識や交通ルールの理解度	60%以上 (R7年度)	97% (R7年度)

分野	人口規模	面積規模	予算規模
街・活	15万以上	200-500	1-2千

■ ユースケース開発成果イメージ図



交通安全教室の様子

小学生を対象に, VRを活用してライトライン導入後の交通ルールを説明



関係者への説明に活用

■ 得られた知見や今後の展望

- 目指す将来のまちのイメージについて, 可視化されたVRを活用することで, 市民等へ将来の街並みや正しい交通ルールなどを分かりやすく共有することができ, 理解の深度化に繋がられた。
- オープンスクエアや市民説明会等において, VRを活用し, 西側延伸に向けた全体イメージの共有や市民理解のより一層の促進を図っていく。
- 引き続き, VRを活用し, 交通安全教室による啓発活動等を行い, 市民の更なる交通安全意識の向上を図る。

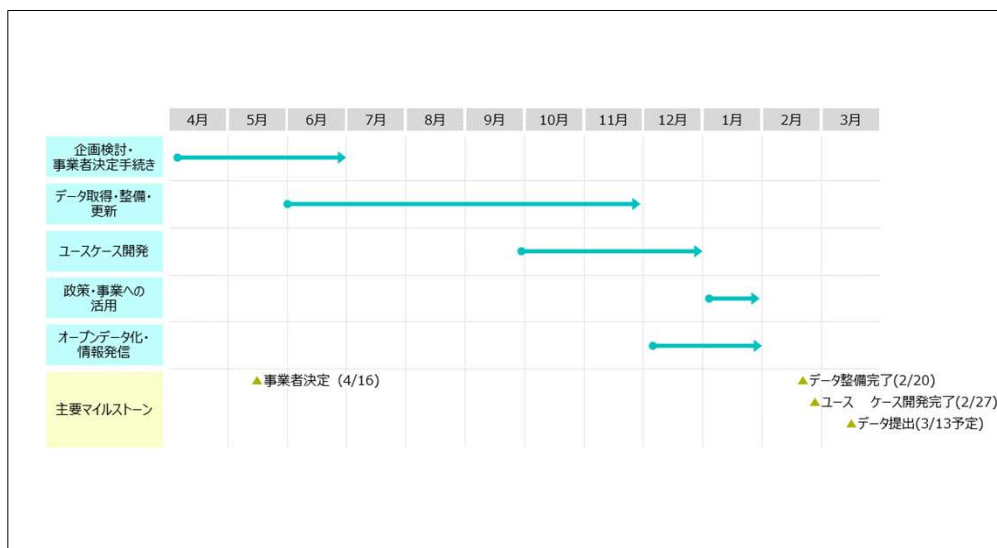
Ⅲ. 令和7年度採択団体別 事業内容

07. 埼玉県

■ 団体基礎情報・プロジェクト全体像

人口	約731.7万人（令和8年2月時点）
市域全域面積	約3,798km ² （令和8年2月時点）
目標	スマートなインフラに支えられた魅力ある暮らしやすい埼玉県への変革
課題	<ul style="list-style-type: none"> 社会全体のDXの実現、まちづくりDXの推進 頻発・激甚化する水害対策、災害リスク情報を分かりやすい形で整備し発信

■ 令和7年度スケジュール



分野	人口規模	面積規模	予算規模
防	15万以上	500以上	10千以上

担当部局	都市計画課
------	-------



■ 補助事業実施項目

事前調査等	—
3D都市モデル整備・更新	3D都市モデル整備事業（LOD1、LOD2）
ユースケース開発	<ul style="list-style-type: none"> 3Dハザードマップの作成 庁内GISにデータ搭載
推進事業	—

総事業費	446.568（百万円） ※うちR7年度 206.587（百万円）
R7年度補助額	103.293（百万円）
補助対象外の関連事業	—

オープンデータ化・可視化・情報発信	<ul style="list-style-type: none"> G空間情報センターへの掲載 【3D都市モデル／関連データ】 PLATEAU VIEWへの掲載 【3D都市モデル／関連データ】 埼玉県GISに掲載 【3D都市モデル／3Dハザードマップ】
-------------------	--

R7年度委託事業者	国際航業株式会社 （3D都市モデル整備・更新、ユースケース開発）
-----------	-------------------------------------

Ⅲ. 令和7年度採択団体別 事業内容

07. 埼玉県

■ 3D都市モデル整備状況（基本セット）

※赤字：R7補助対象地物

LOD	整備地物	対象区域	整備面積	整備年度
LOD1	建築物 交通（道路） 都市計画決定情報 土地利用 災害リスク（洪水、土砂） 地形	左記、全地物共有 10市町 12市町 2市町 20市町 15市町村	左記、全地物共有 478.73km ² 376.44km ² 182.6km ² 940.12km ² 1522.93km ²	左記、全地物共有 R5年度新規 R6年度新規 R6年度更新 R7年度新規 R8年度新規
LOD2	建築物	10市町 12市町 2市町（整備済範囲） 20市町 14市町村	各5棟 各5棟 各5棟 各5棟	R5年度新規 R6年度新規 R6年度更新 R7年度新規 R8年度新規

■ 3D都市モデル整備状況（基本セット以外）

※赤字：R7補助対象地物

LOD	整備地物	対象区域	整備面積	整備年度
LOD2 LOD3	建築物 交通（道路）	埼玉版スーパー・シティプロジェクトで示された範囲の一部 一般県道春日部停車場線	2.0km ² 300m	R5年度新規
LOD2	建築物	R6年度整備市町内の避難施設の一部面積 R7年度整備市町内の避難施設の一部面積	6.8km ² 12.58km ²	R6年度新規 R7年度新規

項目	活用したデータ	作成年度	地図情報レベル
平面図	都市計画基本図（既存）	市町村ごと	2,500
測量成果	既存資料（航空写真）	市町村ごと	2,500
属性情報	都市計画基礎調査のうち、建物利用現況調査のみ新規実施。 その他は既存資料使用。	市町村ごと	—
属性情報	立地適正化計画（既存）	市町村ごと	—

分野	人口規模	面積規模	予算規模
防	15万以上	500以上	10千以上

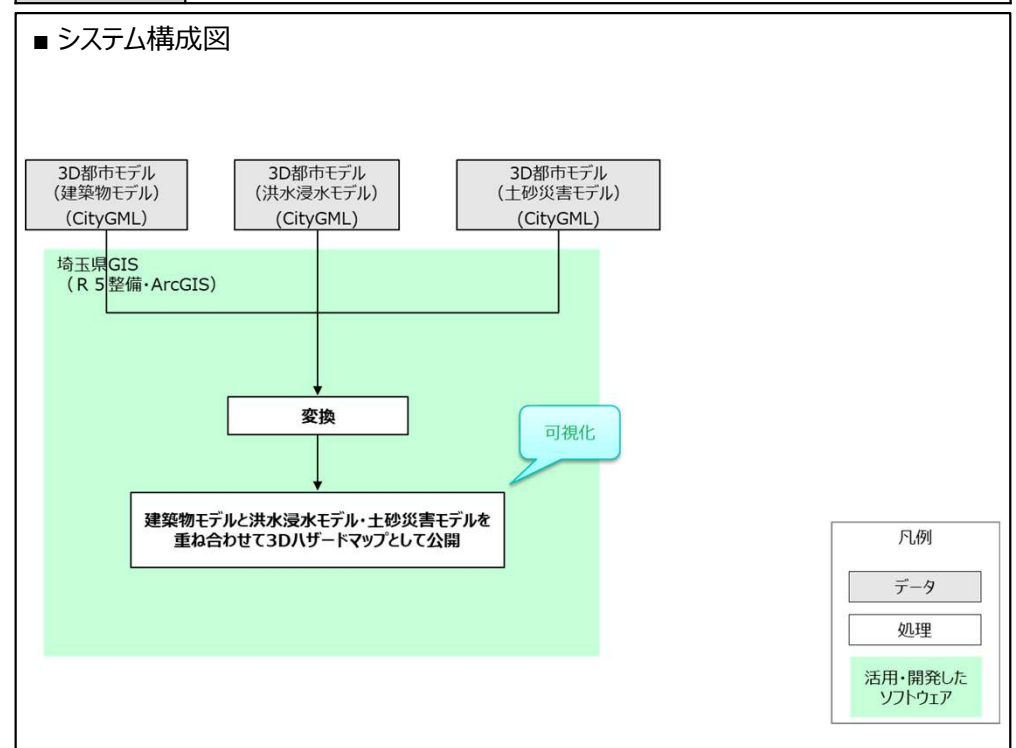


PLATEAU
by MLIT

■ ユースケース概要

テーマ	防災・防犯
ユースケース名称	3Dハザードマップの作成と公開
目的	県民一人一人の危機管理意識の向上、躊躇ない避難行動を促す。
取組内容	3Dハザードマップを埼玉県GISにより公開し、災害リスクを可視化する。

■ システム構成図



Ⅲ. 令和7年度採択団体別 事業内容

07. 埼玉県

■ ユースケース開発方法

活用データ (3D都市モデル)	<ul style="list-style-type: none"> 建築物LOD1 (名称、用途、構造種別、計測高さ、地上階数、建築年) 災害リスクLOD1 (洪水浸水想定区域、土砂災害警戒区域)
活用データ (上記以外)	-
ユースケース 開発方法	<ul style="list-style-type: none"> 埼玉県GISを庁内の別部署にて構築する。(R5年度実施済) 埼玉県及び各市町村が保有するハザード情報(洪水浸水想定区域図と土砂災害警戒区域図)の災害リスクモデルを作成する。 3D都市モデル(建築物、地形)と3次元化した災害リスクモデルを重ね合わせ、埼玉県GISで3Dハザードマップとして公開する。
政策・事業での 活用	<ul style="list-style-type: none"> 3D都市モデルの建築物と災害リスク(洪水浸水モデル・土砂災害モデル)を重ね合わせて「3Dハザードマップ」として公開。
オープンデータ化 情報発信	-

■ KPI

KPI	目標設定	達成状況
埼玉県GISにアップした、3Dハザードマップの閲覧数	20,000回/年 (R7年度)	11,437/年 (R7年度)
3D都市モデルを「活用したい」と評価した県・市町村職員の割合	99% (R7年度末)	83% (R7年度)

KPI未達を受けての 今後の対応	<ul style="list-style-type: none"> 県公式SNSでのPRのほか、市町村と連携した広報・周知を図っていく。 庁内及び市町村関係課に対し、ユースケース事例紹介・事業提案・国補助事業の制度説明など、活用を促す取り組みを進めるとともに、ハンズオン形式の研修を行う。
---------------------	---

分野	人口規模	面積規模	予算規模
防	15万以上	500以上	10千以上

■ ユースケース開発成果イメージ図

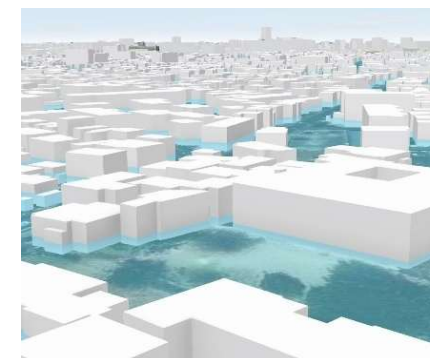


3Dハザードマップイメージ

全景

3D都市モデルの建築物と災害リスク(洪水浸水想定区域)を重ね合わせた状態で公開。

上記画像は、引いたアングルで全景表示したものの。



近景

3D都市モデルの建築物と災害リスク(洪水浸水想定区域)を重ね合わせた状態で公開。

上記画像は、寄ったアングルで近景表示したものの。

■ 得られた知見や今後の展望

3D都市モデルの整備による主な効果は以下の2点である。第一に、災害リスク情報(洪水浸水モデル・土砂災害モデル)を直感的でわかりやすく発信できた。これにより、県民の危機管理意識の向上と躊躇ない避難行動につながる事が期待される。第二に、多様な属性情報が標準仕様に沿って集約・オープンデータ化され、まちづくりのデータプラットフォームが構築された。これにより、県内市町村や民間事業者による課題解決のための新たな事業や投資が促進され、まちづくりDXの推進につながる事が期待される。埼玉県では3Dハザードマップについて、R6年度に引き続きR7年度は20市町の整備を行った。今後も埼玉県全域の整備を目指して進める方針である。

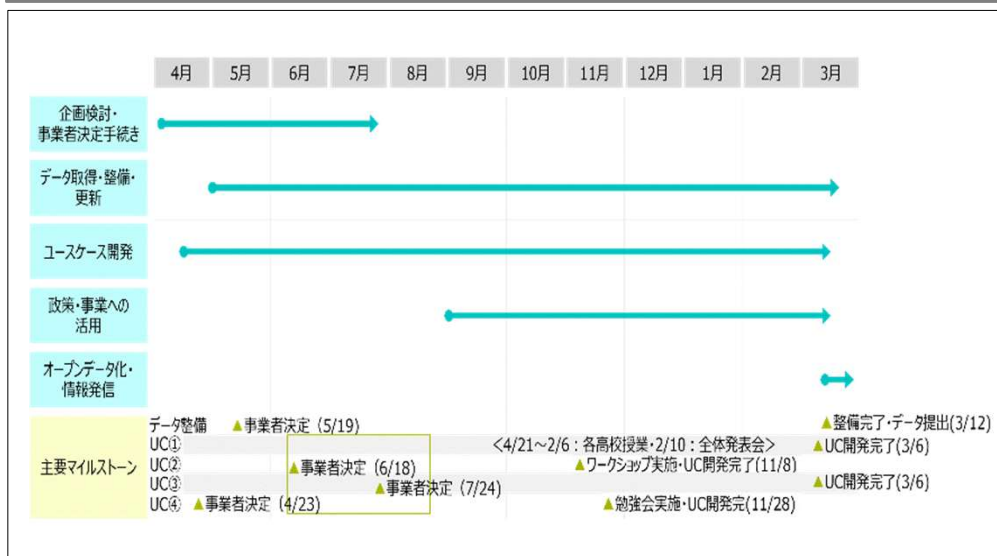
Ⅲ. 令和7年度採択団体別 事業内容

08. 埼玉県熊谷市

■ 団体基礎情報・プロジェクト全体像

人口	約19.0万人（令和8年1月時点）
市域全域面積	約160km ² （令和8年1月時点）
目標	持続性のある地域づくりのため、街の賑わいと魅力を創出する。
課題	<ul style="list-style-type: none"> 地域連携によるデジタルデータ（3D都市モデル）の利活用を進め、市内在住・在学者のまちづくりへの参画を促進し、担い手を育成する。 河川洪水浸水想定区域等の重ね合わせにより災害危険度を可視化する。 歩行者に向けた施策における人流の影響を可視化し、ウォークアビリティの促進を図る。

■ 令和7年度スケジュール



分野	人口規模	面積規模	予算規模
街・防・活	15万以上	100-200	3-5千

担当部局	都市計画課
------	-------



■ 補助事業実施項目

事前調査等	-
3D都市モデル整備・更新	3D都市モデル整備（LOD2）
ユースケース開発	<ul style="list-style-type: none"> 3D都市モデルを活用したまちづくり可視化事業 3D都市モデルを活用した災害リスク可視化事業 3D都市モデルを活用した人流可視化事業 ユースケース開発のために必要な機材調達
推進事業	-

総事業費	87.72（百万円）※うちR7年度48.055（百万円）
R7年度補助額	<ul style="list-style-type: none"> R7年度当初：24.027（百万円） R6年度補正：3.500（百万円）
補助対象外の関連事業	-

オープンデータ化・可視化・情報発信	<ul style="list-style-type: none"> G空間情報センターへの掲載 【3D都市モデル／関連データ】 PLATEAU VIEWへの掲載 【3D都市モデル／関連データ】 熊谷市ホームページ 熊谷版Decidim「ツルバ」
-------------------	---

R7年度委託事業者	<ul style="list-style-type: none"> アジア航測株式会社 (3D都市モデル整備・更新) 株式会社ユーカリヤ (ユースケース開発) 有限会社江南事務機 (ユースケース開発) 株式会社unerry (ユースケース開発) 中日本建設コンサルタント株式会社 (ユースケース開発)
-----------	--

Ⅲ. 令和7年度採択団体別 事業内容

08. 埼玉県熊谷市

■ 3D都市モデル整備状況（基本セット）

※赤字：R7補助対象地物

LOD	整備地物	対象区域	整備面積	整備年度
LOD1	建築物 交通（道路） 都市計画決定情報 土地利用	熊谷都市計画区域 上記のうち市街化区域	159.82 km ² 26.38 km ²	R3年度新規 R5年度更新
	災害リスク（洪水） 地形	熊谷都市計画区域	159.82 km ²	R3年度新規
LOD2	建築物	ランドマーク5か所	0.6 km ²	R3年度新規
		JR熊谷駅周辺エリア JR熊谷・籠原駅周辺エリア	1.2 km ²	R5年度拡充 R7年度拡充

■ 3D都市モデル整備状況（基本セット以外）

※赤字：R7補助対象地物

LOD	整備地物	対象区域	整備面積	整備年度
LOD2	交通（道路）	JR熊谷駅周辺エリア JR熊谷・籠原駅周辺エリア	0.6 km ² 1.2 km ²	R5年度新規 R7年度拡充
	植生	JR熊谷駅周辺エリア 市役所通り、北大通り、国道17号	0.6 km ²	R5年度新規 R7年度拡充
	橋梁	JR熊谷駅周辺エリア	0.6 km ²	R5年度新規

項目	活用したデータ	作成年度	地図情報レベル
平面図	都市計画基本図（修正）	R5年度	2,500
測量成果	既存資料（航空写真）	R5年度	2,500
属性情報	都市計画基礎調査（既存）	R3年度	—

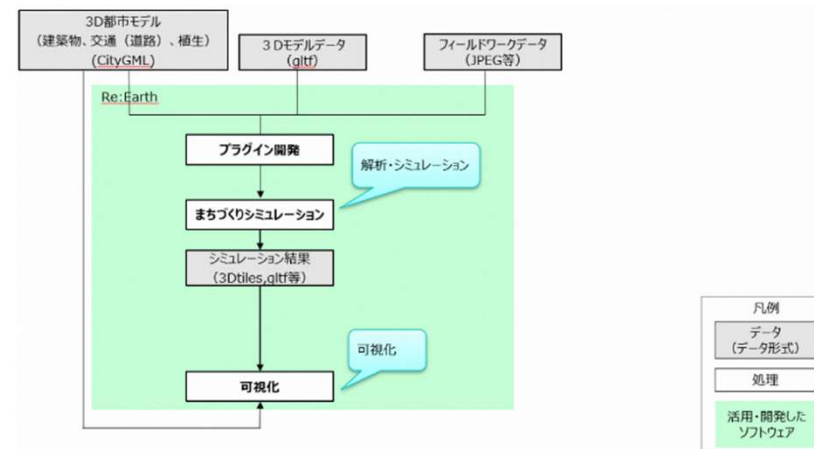
分野	人口規模	面積規模	予算規模
街・防・活	15万以上	100-200	3-5千



■ ユースケース概要①

テーマ	都市計画・まちづくり
ユースケース名称	3D都市モデルを活用したまちづくり可視化事業
目的	地域連携による3D都市モデルの利活用を進め、市内在住・在学者のまちづくりへの参画を促進し、担い手を育成する。
取組内容	<ul style="list-style-type: none"> 高校生を対象にワークショップ形式でJR熊谷・籠原駅周辺の市街地エリアにおける再整備などのまちづくりシミュレーションを行い、アイデアを形にすることで、まちの賑わいと魅力の創出に向けた都市計画の立案に活用する。 風・温熱環境データなどを3D都市モデルに可視化することによるデータ活用や分析を通して、デジタル人材の育成を図るとともに、本ワークショップを通じてまちへの愛着心を育み、本市のまちづくりへ参画してもらう担い手を育成する。 本ユースケース開発終了後のシミュレーション体験の公開を見据え、今年度は、R6年度に開発したシミュレーション機能について、UIの改善や操作性の向上を図る追加開発を実施する。

■ システム構成図



Ⅲ. 令和7年度採択団体別 事業内容

08. 埼玉県熊谷市

■ ユースケース開発方法

活用データ (3D都市モデル)	<ul style="list-style-type: none"> 建築物LOD1, LOD2 (用途、地上階数、延床面積、建築面積、構造種別、耐火構造種別、建築物の高さ) 植生LOD2
活用データ (上記以外)	<ul style="list-style-type: none"> 都市計画決定情報 (市街化区域、用途地域、居住誘導区域、都市機能誘導区域) 風・温熱環境シミュレーションデータ 熊谷市ゆうゆうバス (バス停、ルート) ワークショップ参加者が作成したGeoJSONデータ (ルートやエリア表現)
ユースケース 開発方法	<ul style="list-style-type: none"> WebGIS上で3Dモデルを配置、調整することを可能にするプラグインを開発する。 アカウント登録不要でまちづくりシミュレーションを可能とするプラグインを開発する。 WebGISに表示できるよう3DモデルデータをglTF形式に変換する。 JR熊谷駅・籠原駅周辺の建築物モデル及び道路モデル並びにJR熊谷駅周辺の主要路線の植生モデルをLOD2に拡張する。 関連プラグイン開発で開発したプラグイン及び3Dモデルデータ変換で得た3Dモデルデータを活用し、まちづくりシミュレーションによる可視化環境を整備する。
政策・事業での 活用	<ul style="list-style-type: none"> 3D都市モデルを活用し、JR熊谷駅・籠原駅周辺の市街地エリアを中心としたまちづくりシミュレーションを体験できるシステムを構築し、課題を可視化する。 埼玉県立熊谷高校、熊谷女子高校及び熊谷西高校の生徒を対象にした高校生まちづくりワークショップを開催する。 実施した高校生まちづくりワークショップの成果発表の場として、校内発表会を開催し、各校の代表グループについては市内に立地する立正大学を会場に、全体発表会を開催する。 まちの賑わいと魅力の創出に向けた都市計画の立案に活用するとともに、地域連携によるデータ活用や担い手の育成を図る。 高校生まちづくりワークショップを通じて高校生のアイデアを形にすることで、地域連携型のまちづくりを促進するとともに担い手を育成する。
オープンデータ化 情報発信	-

■ KPI

KPI	目標設定	達成状況
3D都市モデルを用いたまちづくりワークショップを通じ、まちづくりの課題の可視化について肯定的な意見が得られた割合 (%)	70% (R7年度)	89.8% (R7年度)

分野	人口規模	面積規模	予算規模
街・防・活	15万以上	100-200	3-5千

■ ユースケース開発成果イメージ図



シミュレーション操作とグループワーク

まちづくりの現状・課題を学び、その課題に対する解決策を、WebGIS Re:Earthにより生徒それぞれのイメージをグループ内で共有しながら議論を深めていった。

3D都市モデルを活用した発表会

各グループは「自分たちで考えた解決策」を3D都市モデルを用いてそのアイデアをビジュアライズし、提案・発表した。

■ 得られた知見や今後の展望

- R6年度に開発したプラグインを改良したことにより、3D都市モデル上でアイデアを共有・可視化するハードルを下げ、まちづくりの議論の質を向上させることができた。
- 来年度は対象を中学生に変更し、さらなるプラグインの改良を図ることで、多世代にとってユーザーフレンドリーなツールとし、3D都市モデルの世界へのハードルを下げつつ、市民参加型のまちづくり議論の高度化が図られる環境を整備していく。

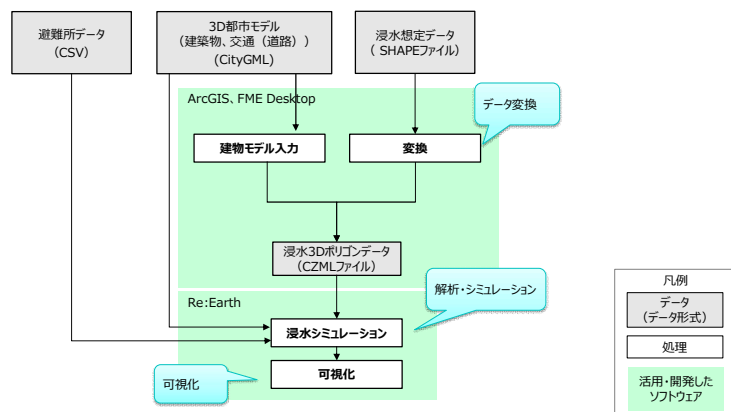
Ⅲ. 令和7年度採択団体別 事業内容

08. 埼玉県熊谷市

■ ユースケース概要②

テーマ	防災・防犯
ユースケース名称	3D都市モデルを活用した災害リスク可視化事業
目的	河川洪水浸水想定区域の重ね合わせにより、災害危険度を可視化し、早期避難の重要性や避難所開設に向けた意見交換・意識共有を図る。
取組内容	<ul style="list-style-type: none"> 関東を代表する2大河川である、利根川及び荒川を市域に有しているため、3D都市モデルと両河川の洪水浸水想定区域データを重ね合わせ、市民の居住するエリアの危険度を可視化し、併せて、避難所への安全な経路選定にも活用する。 R5年度は地元の防災組織、令和6年度は市内の防災士を対象にワークショップを実施し、それぞれ本市にとって被害の大きい破堤点データを取得し、可視化してきたが、今年度は「避難所運営委員会」メンバー（地元住民）を対象にワークショップを開催し、浸水状況を共有しながら避難所開設時の課題などについて意見交換、防災意識の向上を図る。 R7年度も新規で破堤点データを取得、可視化するとともに、これまで開発してきたプラグインのユーザーインターフェースを改善し、どの年代であっても扱いやすいシミュレーション環境を整備する。

■ システム構成図



分野	人口規模	面積規模	予算規模
街・防・活	15万以上	100-200	3-5千

■ ユースケース開発方法

活用データ (3D都市モデル)	<ul style="list-style-type: none"> 建築物LOD1 (用途、地上階数、構造種別、耐火構造種別、建築物の高さ) 災害リスクLOD1 (浸水ランク、浸水深、浸水継続時間)
活用データ (上記以外)	<ul style="list-style-type: none"> 浸水想定データ (経過時間ごとの浸水域、水深) 避難所データ (避難所名称、所在地)
ユースケース開発方法	<ul style="list-style-type: none"> 利根川及び荒川の氾濫による災害リスクを可視化するため、浸水域を示す3Dポリゴンデータを作成する。 浸水の広がりをアニメーションで表現できるデータ形式 (CZML) とする。 避難所を開設した場合の対応を平時から話し合う組織である避難所運営委員会のメンバーを対象に、作成した浸水ポリゴンデータを活用したワークショップを開催する。 避難所までの避難経路について、浸水による時系列の途絶状況を疑似体験し、早期避難の重要性や避難所開設に向けた意見交換・意識共有を図る。
政策・事業での活用	<ul style="list-style-type: none"> WebGIS上にアニメーションで表現できる浸水3Dポリゴンデータ。 ワークショップで用いたマニュアル (アプリケーション操作方法等) をオープンデータ化し、本ユースケースの活用機会を創出、市民の防災意識の向上を図る。
オープンデータ化情報発信	-

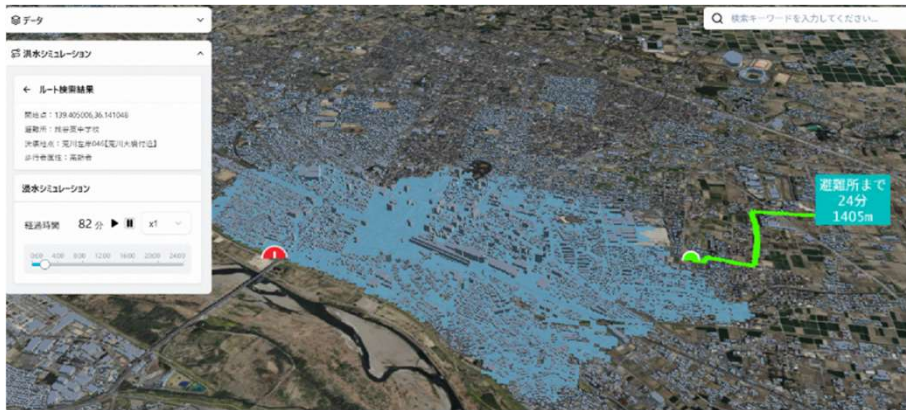
■ KPI

KPI	目標設定	達成状況
3D都市モデルを用いた防災ワークショップを通じ、災害リスク可視化の防災意識が向上した参加者の割合	80% (R7年度)	100% (R7年度)

Ⅲ. 令和7年度採択団体別 事業内容

08. 埼玉県熊谷市

■ ユースケース開発成果イメージ図



時系列で変化する浸水状況

浸水リスクを3D都市モデル上で可視化、時系列の浸水状況を共有しながら、WSに参加した「避難所運営委員会」メンバーが避難所運営の在り方を議論することができた。



■ 得られた知見や今後の展望

- 上記の時系列での浸水状況の変化を確認するほか、建築物モデルの属性データを活用し、垂直避難可能な建物の可視化を行うことで、他地域からの避難者を受け入れる必要性の検討など、2次元のハザードマップでは難しい議論を実現することができた。
- 今後は防災教育に繋げていくようにWSの対象者を広げていくことを検討。

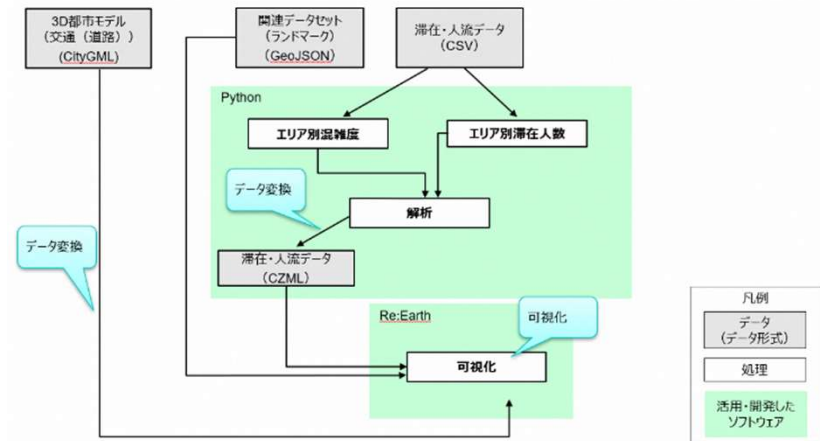
分野	人口規模	面積規模	予算規模
街・防・活	15万以上	100-200	3-5千



■ ユースケース概要③

テーマ	地域活性化・観光・コンテンツ
ユースケース名称	3D都市モデルを活用した人流可視化事業
目的	3D都市モデルを活用した人流の可視化
取組内容	<ul style="list-style-type: none"> • R6年度は、うちわ祭や星川夜市といったイベント時の人流と平時の人流データを取得し、3D都市モデルへの可視化、熊谷版Decidim「ツノルバ」にて公開し、市民の意見を収集した。 • 今年度は、ツノルバにて寄せられた意見を参考に、UIを改善する機能開発を実施する。 • また、今年度は、熊谷市の中心市街地を東西に横断する星川周辺において、グリーンスローモビリティ等の社会実験中とそれ以外の人流を3D都市モデル上に可視化し、影響を分析するとともに、可視化されたデータについて、R6年度と同様にツノルバにて公開し、市民の意見を収集し、施策立案の検討に繋げる。

■ システム構成図



Ⅲ. 令和7年度採択団体別 事業内容

08. 埼玉県熊谷市

■ ユースケース開発方法

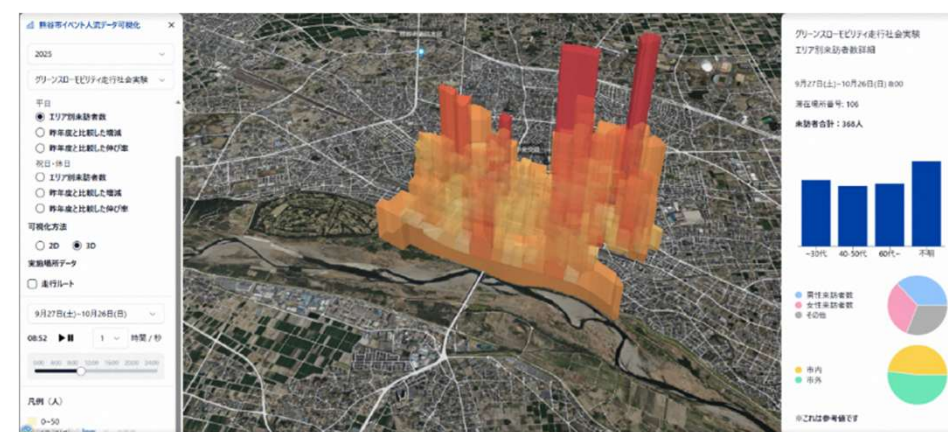
活用データ (3D都市モデル)	<ul style="list-style-type: none"> 交通（道路）LOD1 関連データセット（ランドマーク）
活用データ (上記以外)	エリア別来訪者数（社会実験中とそれ以外）
ユースケース 開発方法	<ul style="list-style-type: none"> 中心市街地における社会実験中とそれ以外の滞在・人流データを収集し、加工する。 3D都市モデルに滞在・人流データを重ね合わせて結果を可視化する。 結果を活用し、熊谷版Decidim「ツルバ」で可視化結果を公開し、市民の意見を収集し、施策立案の検討材料とする。
政策・事業での 活用	<ul style="list-style-type: none"> 3D都市モデル、滞在・人流データを重ね合わせ、それぞれの関係性が可視化されたデータ。 可視化されたデータをもとに、熊谷版Decidim「ツルバ」で収集された市民の意見。
オープンデータ化 情報発信	—

■ KPI

KPI	目標設定	達成状況
3D都市モデルを活用した分析に対し、市民参加型デジタルプラットフォームに書き込まれたコメント数	100件 (R7年度)	35件 (R7年度)
KPI未達を受けての 今後の対応	3D都市モデルを活用したまちなかの滞在・人流データを引き続き公開するとともに、市民参加型デジタルプラットフォーム熊谷版Decidim「ツルバ」の周知を図り、可視化結果に対する意見を求めていく。	

分野	人口規模	面積規模	予算規模
街・防・活	15万以上	100-200	3-5千

■ ユースケース開発成果イメージ図



滞在・人流データの3D表現による可視化

イベントごとの滞在・人流データを時系列に連動するかたちで可視化可能なCZMLに変換して3D都市モデル上に重畳した。

また、時系列で変化するデータをインフォボックスに表示することで、直観的かつ定量的な分析が可能となるユーザーインターフェースを開発した。

■ 得られた知見や今後の展望

- まちなかの滞在・人流データを3D都市モデルに可視化することで、社会実験中とそれ以外の時系列による比較検討が可能になった。
- 本ツールを熊谷版Decidim「ツルバ」で公開することで、社会実験の効果をオープンにするとともに様々な角度から市民意見を収集していく。

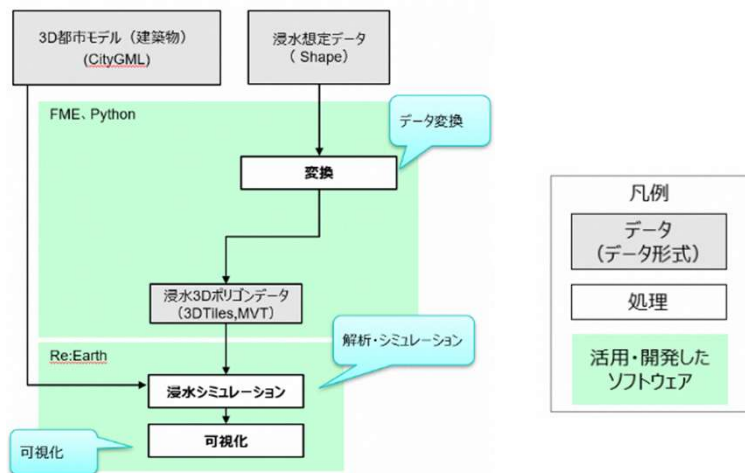
Ⅲ. 令和7年度採択団体別 事業内容

08. 埼玉県熊谷市

■ ユースケース概要④

テーマ	防災・防犯
ユースケース名称	3D都市モデルを活用した災害リスク可視化事業（R6補正）
目的	準用河川新星川の氾濫推定図を3D都市モデルに重ね合わせ、防災部局職員に対し、河川改修の必要性を共有する。
取組内容	準用河川新星川の浸水ポリゴンデータを活用、市民の居住エリアの危険度を可視化し、建設・防災部局職員に対し、想定される浸水範囲や浸水深、想定被害の理解度の向上を図り、河川改修の必要性を共有する。

■ システム構成図



分野	人口規模	面積規模	予算規模
街・防・活	15万以上	100-200	3-5千

■ ユースケース開発方法

活用データ (3D都市モデル)	建築物LOD1 (形状)
活用データ (上記以外)	氾濫推定図 (浸水範囲、浸水深)
ユースケース開発方法	<ul style="list-style-type: none"> 準用河川新星川の氾濫による災害リスクを可視化するため、浸水域を示す3Dポリゴンデータを作成する。 浸水範囲及び浸水深を表現できるデータ形式 (3DTiles) とする。 作成した浸水ポリゴンデータを3D都市モデルに重ね合わせ、可視化する。 可視化したデータを活用しつつ、建設・防災部局職員を対象に、河川改修の必要性を共有する勉強会を開催する。
政策・事業での活用	WebGIS上で建築物データと浸水データを重畳することで、職員が同一イメージを持ち、浸水範囲や浸水深を直感的に把握することを可能にした。
オープンデータ化情報発信	-

■ KPI

KPI	目標設定	達成状況
3D都市を用いた庁内勉強会を通じ、防災部局職員の浸水リスクの理解度向上・維持 (想定される浸水状況の把握率)	70% (R7年度)	72~81% (R7年度)

Ⅲ. 令和7年度採択団体別 事業内容

08. 埼玉県熊谷市

分野	人口規模	面積規模	予算規模
街・防・活	15万以上	100-200	3-5千

■ ユースケース開発成果イメージ図



氾濫推定図の可視化結果

浸水ポリゴンデータを3D都市モデル上で建築物モデルと合わせて可視化することで、リアルな浸水深のイメージを共有することが可能になり、建設・防災部局職員が、河川改修の必要性を認識することができた。

■ 得られた知見や今後の展望

- 3D都市モデルによる可視化表現により、内水氾濫による浸水範囲・浸水深を直感的に、担当部署のみならず建設・防災部局職員が認識することができた。
- 今後は、本UC開発で得た河川改修の必要性、知見や認識を担当課のみならず、建設・防災部局職員がそれぞれ活かし、水防の在り方を検討していく。

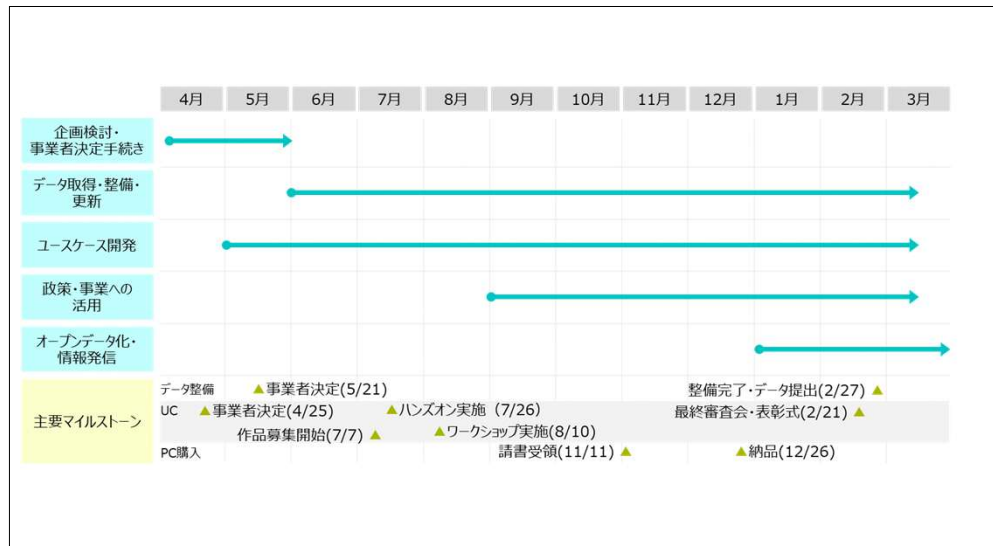
Ⅲ. 令和7年度採択団体別 事業内容

09. 埼玉県さいたま市

■ 団体基礎情報・プロジェクト全体像

人口	約135.5万人（令和8年3月時点）
市域全域面積	217.43km ² （令和8年3月時点）
目標	上質な生活都市・東日本の中枢都市の実現
課題	ゲーミフィケーションによるまちづくりへの多様な市民参画の促進・シビックプライドの醸成

■ 令和7年度スケジュール



分野	人口規模	面積規模	予算規模
街・活・他	15万以上	200-500	3-5千

担当部局	都市計画課
------	-------



■ 補助事業実施項目

事前調査等	—
3D都市モデル整備・更新	<ul style="list-style-type: none"> 都市計画基本図更新 3D都市モデル整備事業（LOD1） ※過年度データのバージョンアップ含む 3D都市モデル整備事業（LOD2）
ユースケース開発	3D都市モデル×マイクラフトによる市民参画促進
推進事業	3D都市モデル活用環境整備（PC購入）

総事業費	366.346（百万円） ※うちR7年度当初：8.480（百万円） ※うちR6年度補正：41.000（百万円）
R7年度補助額	R7年度当初：4.240（百万円） R6年度補正：20.500（百万円）
補助対象外の関連事業	—

オープンデータ化・可視化・情報発信	<ul style="list-style-type: none"> G空間情報センターへの掲載 【3D都市モデル／関連データ】 PLATEAU VIEWへの掲載 【3D都市モデル／関連データ／UCデータ】 さいたま市オープンデータサイト 【UCデータ】 さいたま市ウェブサイト 【UC記事】
-------------------	--

R7年度委託事業者	<ul style="list-style-type: none"> (株)パスコ（都市計画基本図更新、3D都市モデルの整備・更新、ユースケース開発／R6補正） (株)角川アスキー総合研究所（ユースケース開発／R7当初）
-----------	--

Ⅲ. 令和7年度採択団体別 事業内容

09. 埼玉県さいたま市



■ 3D都市モデル整備状況（基本セット） ※赤字：R7補助対象地物

LOD	整備地物	対象区域	整備面積	整備年度
LOD1	建築物 交通（道路）	市域全域 市域全域 市域全域 市域全域	217.43km ² 217.43km ² 217.43km ² 217.43km ²	R2年度新規 R4年度更新 R6年度更新 R7年度更新（R6補正）
	都市計画決定情報 土地利用 地形	市域全域	217.43km ²	R2年度新規
	災害リスク	市域全域 市域全域	217.43km ² 217.43km ²	R5年度新規 R7年度更新（R6補正）
LOD2	建築物	ランドマーク	1.2km ²	R2年度新規
		浦和駅周辺地区	3.3km ²	R4年度拡充
		大宮駅周辺・さいたま新都心周辺地区	4.5km ²	R5年度拡充
		浦和駅周辺地区、大宮駅周辺・さいたま新都心周辺地区	4.5km ²	R6年度更新
	浦和駅周辺地区、大宮駅周辺・さいたま新都心周辺地区	4.5km ²	R7年度更新（R6補正）	
	さいたま新都心周辺地区	0.5km ²	R7年度拡充（R6補正）	
	岩槻駅周辺地区	0.5km ²	R7年度拡充（R6補正）	

■ 3D都市モデル整備状況（基本セット以外） ※赤字：R7補助対象地物

LOD	整備地物	対象区域	整備面積	整備年度
LOD2	交通（道路）	浦和駅周辺地区	1.2km ²	R4年度新規
		大宮駅周辺・さいたま新都心周辺地区	3.3km ²	R5年度拡充
		浦和駅周辺地区、大宮駅周辺・さいたま新都心周辺地区	4.5km ²	R6年度更新
LOD3	交通（広場）	さいたま新都心周辺地区	0.08km ²	R5年度新規
LOD2	橋梁	大宮駅周辺地区（橋・鉄道高架） さいたま新都心周辺地区（歩行者デッキ）	1.5km ² 0.5km ²	R5年度新規
LOD3	都市設備	さいたま新都心周辺地区（上記歩行者デッキに存する都市設備一式）		R5年度新規
LOD3	植生	さいたま新都心周辺地区（上記歩行者デッキに存する植生一式）		R5年度新規

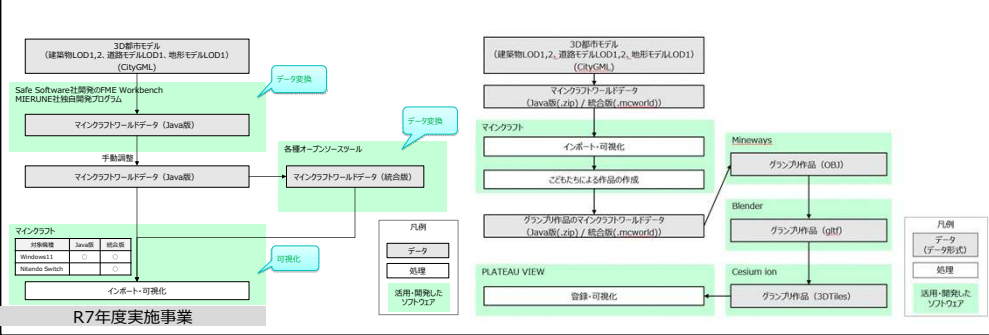
分野	人口規模	面積規模	予算規模
街・活・他	15万以上	200 - 500	3 - 5千

項目	活用したデータ	作成年度	地図情報レベル
平面図	都市計画基本図（修正）	R7(R6補正)	2,500
測量成果	既存資料（航空写真）	R3,R4,R5,R6	1,000
測量成果	オプリークカメラ数値写真	R4	1,000
測量成果	点群データ（LidarSLAMで測量）	R5	その他
属性情報	都市計画基礎調査	R3	-

■ ユースケース概要

テーマ	都市計画・まちづくり／地域活性化・観光・コンテンツ／その他（住民参加）
ユースケース名称	3D都市モデル×マインクラフトによる市民参画促進
目的	まちづくりへの市民参画促進、シビックプライドの醸成
取組内容	まちづくりへの市民参画促進、シビックプライドの醸成を図るため、3D都市モデルを変換して作成したマインクラフトの世界データを活用し、まちづくりワークショップや作品コンテストを開催する。また、作品コンテストにおけるグランプリ等の作品については、誰でもその内容が確認できるようなGISデータに変換してPLATEAU VIEWで可視化する。

■ システム構成図



Ⅲ. 令和7年度採択団体別 事業内容

09. 埼玉県さいたま市

■ ユースケース開発方法

活用データ (3D都市モデル)	建築物LOD1, LOD2, 道路モデルLOD1, 地形モデルLOD1
活用データ (上記以外)	-
ユースケース 開発方法	<ul style="list-style-type: none"> 岩槻駅周辺地区の3D都市モデル（建築物モデルLOD1, 2、交通(道路)モデルLOD1、地形モデルLOD1）を変換し、現実の都市を再現したマイクラフトワールドデータ（Java版及び統合版）を作成する。建築物モデルLOD2の整備範囲については、テクスチャ情報から色を判別し類似色のブロックへ変換する。一部建築物については手動で再現度を高める。作成したワールドデータは、さいたま市オープンデータサイト（G空間情報センター）で公開する。 「SAITAMA Minecraft AWARD」のグランプリ作品（2024年度及び2025年度）について、マイクラフトを持っていない方でも作品が閲覧できるようGISデータ（3DTiles）に変換して、さいたま市版PLATEAU VIEWで可視化。 後述の作品コンテスト、ワークショップ等のレポート記事を作成し、その成果をさいたま市ウェブサイト等で公開。
政策・事業での 活用	<ul style="list-style-type: none"> 2024年度に整備したさいたま市マイクラフトワールドデータ（大宮・さいたま新都心エリア、浦和エリア）を活用しながら、子ども（小中高生）を対象に、さいたま市の未来をマイクラフトでつくるコンテスト「SAITAMA Minecraft AWARD 2025」を開催する。作品募集テーマは「もっと暮らしやすく、もっとワクワクする2050年のさいたま」。 また、すそ野拡大、作品応募促進のため、さいたま市マイクラフトワールドデータのダウンロード及びインポートを支援するハンズオン、まちの特徴、課題等を踏まえてまちの未来のアイデアを発想、それをマイクラフトで再現するワークショップを開催。 これらの取組を通じて、まちづくりへの市民参画の促進を図る。
オープンデータ化 ・情報発信	<ul style="list-style-type: none"> PLATEAU VIEWへの搭載 さいたま市オープンデータサイトに掲載 さいたま市ウェブサイトに掲載

分野	人口規模	面積規模	予算規模
街・活・他	15万以上	200 - 500	3 - 5千



■ KPI

KPI	目標設定	達成状況
イベント参加者のうちまちづくりに関心を持った人の割合	90% (R7年度)	94% (R7年度)

Ⅲ. 令和7年度採択団体別 事業内容

09.埼玉県さいたま市

■ ユースケース開発成果イメージ図



コンテストにおけるこどもの作品(小学生の部グランプリ)



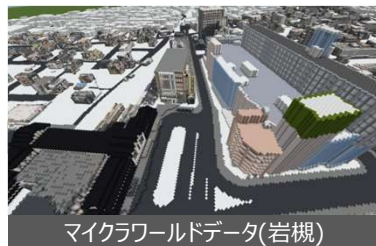
ワークショップの様子



コンテスト表彰式



作品をPLATEAU VIEWで可視化



マイクロワールドデータ(岩槻)

分野	人口規模	面積規模	予算規模
街・活・他	15万以上	200-500	3-5千

■ 得られた知見や今後の展望

- ハンズオン・ワークショップ・アワードに179名のこどもの参加があった。また、参加者及び保護者の94%が、本取組を通じてまちづくりに関心をもったと回答していることから、まちづくりへの市民参画促進について一定の効果が得られた。
- 次年度以降も継続的にSAITAMA Minecraft AWARDを開催することで、まちづくりへの市民参画をより一層促進するとともに、関係人口の増加にも繋げていきたい。
- また、子どもたちの作品の要素を本市のまちづくり計画に反映していくなど、成果の活用をより一層図ってきたい。
- さらに、アワードを含めた「子ども×デジタル×まちづくり」の取組を継続的に展開していくための、公民連携による持続可能な取組体制の構築を進めていきたい。

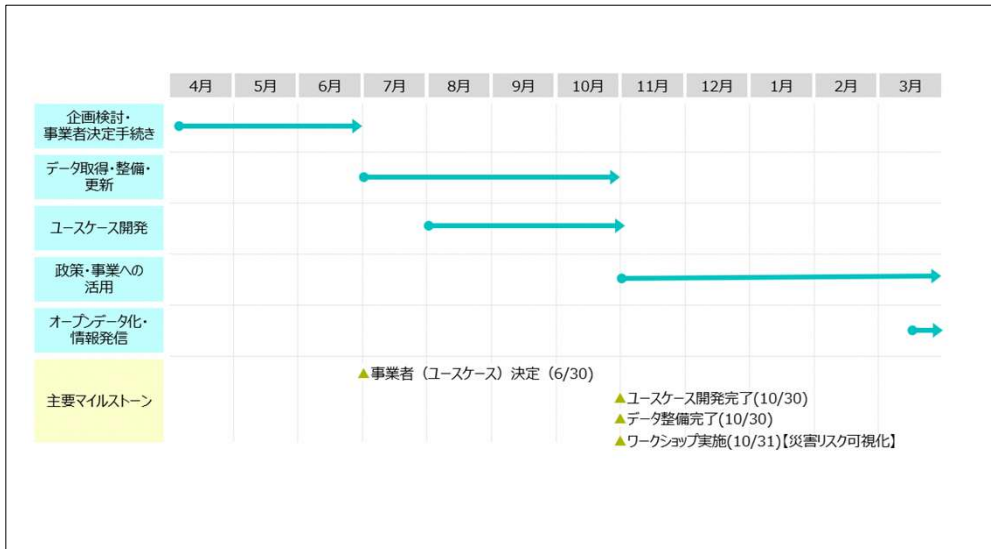
Ⅲ. 令和7年度採択団体別 事業内容

10. 埼玉県荒川北縁水防事務組合

■ 団体基礎情報・プロジェクト全体像

人口	—
市域全域面積	—
目標	一部事務組合の強みを活かし、3市（熊谷市、行田市、鴻巣市）で連携して地域住民の防災意識向上を目指す。
課題	3D都市モデルと荒川左岸の河川洪水浸水想定区域データを重ね合わせて災害危険度の可視化を行い、行政区にとられない避難行動の必要性及び災害リスク可視化の必要性に対する地域住民の防災意識向上を図る機会の確保。

■ 令和7年度スケジュール



分野	人口規模	面積規模	予算規模
防	—	—	1千未満

担当部局	熊谷市建設部管理課・熊谷市市長公室政策調査課
------	------------------------



■ 補助事業実施項目

事前調査等	—
3D都市モデル整備・更新	—
ユースケース開発	3D都市モデルを活用した災害リスク可視化事業
推進事業	—

総事業費	6.099（百万円） ※うちR7年度6.099（百万円）
R7年度補助額	6.099（百万円）
補助対象外の関連事業	—

オープンデータ化・可視化・情報発信	<ul style="list-style-type: none"> 構成市（熊谷市、行田市、鴻巣市） ホームページ 構成市（熊谷市、行田市、鴻巣市） 出前講座
-------------------	--

R7年度委託事業者	株式会社ユーカリヤ（ユースケース開発）
-----------	---------------------

Ⅲ. 令和7年度採択団体別 事業内容

10. 埼玉県荒川北縁水防事務組合

■ 3D都市モデル整備状況（熊谷市基本セット） ※赤字：R7補助対象地物

LOD	整備地物	対象区域	整備面積	整備年度
LOD1	建築物 交通（道路） 都市計画決定情報 土地利用	熊谷市全域 市街化区域	159.88km ² 26.38km ²	R3年度新規 R5年度更新
	災害リスク 地形	熊谷市全域	159.88km ²	R3年度新規
LOD2	建築物	ランドマーク JR熊谷駅周辺エリア	5か所 0.6km ²	R3年度新規 R5年度新規

■ 3D都市モデル整備状況（熊谷市基本セット外） ※赤字：R7補助対象地物

LOD	整備地物	対象区域	整備面積	整備年度
LOD2	交通（道路） 植生	JR熊谷駅周辺エリア	0.6km ²	R5年度新規
	橋梁	JR熊谷駅周辺エリア	2.0km ²	R5年度更新

分野	人口規模	面積規模	予算規模
防	—	—	1千未満



■ 3D都市モデル整備状況（鴻巣市基本セット） ※赤字：R7補助対象地物

LOD	整備地物	対象区域	整備面積	整備年度
LOD1	建築物 交通（道路） 都市計画決定情報 土地利用 災害リスク 地形	鴻巣市全域	67.44km ²	R6年度新規
LOD2	建築物	鴻巣市役所 （本庁舎、吹上支所、 川里支所）		R6年度新規

項目	活用したデータ	作成年度	地図情報レベル
平面図	都市計画基本図（修正）	R5年度	2500
測量成果	既存資料（航空写真）	R2年度	2500
属性情報	都市計画基礎調査（既存）	R3年度	その他

項目	活用したデータ	作成年度	地図情報レベル
平面図	都市計画基本図（修正）	H23年度	2500
測量成果	既存資料（航空写真）	R5年度	2500
属性情報	都市計画基礎調査（既存）	R2年度	-
属性情報	立地適正化計画（既存）	R6年度	-

Ⅲ. 令和7年度採択団体別 事業内容

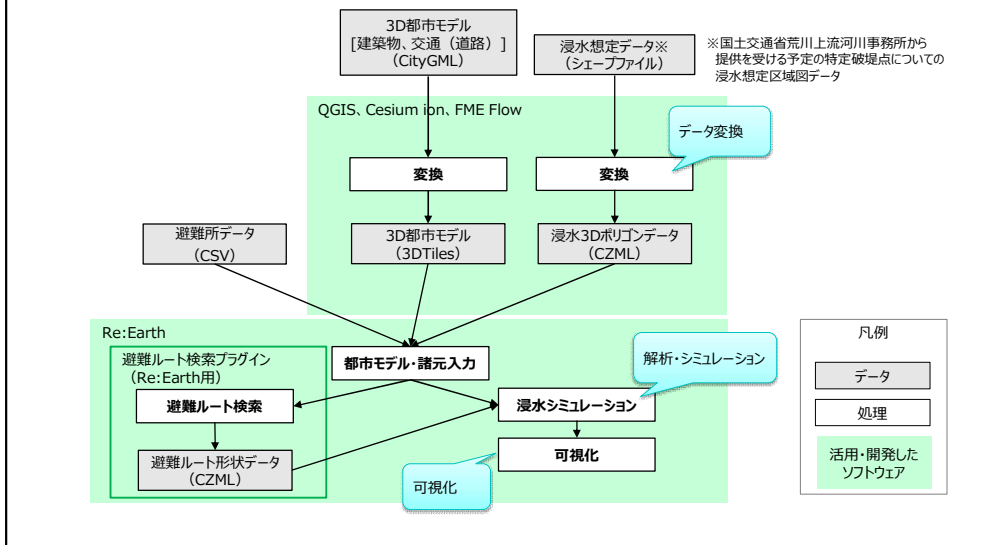
10. 埼玉県荒川北縁水防事務組合



■ ユースケース概要

テーマ	防災・防犯
ユースケース名称	3D都市モデルを活用した災害リスク可視化事業
目的	時系列で変化する災害リスクなどを可視化することで、効率的な行政業務の推進、地域住民への情報提供を進める。
取組内容	鴻巣市内の荒川左岸に破堤点を設定。行田市付近にも破堤点を設定し、構成3市（熊谷市、行田市、鴻巣市）への浸水状況を可視化し、ワークショップ等を行うことで、行政区にとられない避難行動の必要性や災害リスク可視化の必要性について地域住民の意識を高めていく。

■ システム構成図



■ ユースケース開発方法

活用データ (3D都市モデル)	建築物LOD1及びLOD2
活用データ (上記以外)	<ul style="list-style-type: none"> 浸水想定データ（経過時間ごとの浸水域、水深） 避難所データ（避難所名称、所在地）
ユースケース開発方法	荒川の氾濫による本組合管内での災害のリスクを可視化するため、国土交通省荒川上流河川事務所より提供を受けるシェープファイルを基に浸水域を示す3Dポリゴンデータを作成する。浸水の広がりをアニメーションで表現できるデータ形式（CZMLファイル）とする。任意の地点から避難所までのルートを自動で計算し、浸水の広がりを表現するアニメーション上に随時描画する機能を開発する。
政策・事業での活用	<ul style="list-style-type: none"> 浸水ポリゴンデータ及び開発した避難所までのルートを描画する機能を用いて災害リスク等の可視化により、組合市の市議会議員（組合議員）や地域住民等を対象としたワークショップを開催する。 作成した浸水3Dポリゴンデータの静止画及びワークショップの様子を撮影した写真をホームページ等で公開することで、地域住民への防災意識の啓発を行うとともに、防災意識の向上を図る。
オープンデータ化情報発信	<ul style="list-style-type: none"> 3D浸水シミュレーションワークショップの取組について構成市ホームページで公開。※浸水想定可視化画像の掲載を想定 構成市が企画する出前講座にて、浸水シミュレーションモデルの画像を公開。※浸水想定可視化画像の公開を想定

■ KPI

KPI	目標設定	達成状況
災害リスクへの理解がより深まったと回答した組合議員等の割合	70% (R7年度)	93.8% (R7年度)

Ⅲ. 令和7年度採択団体別 事業内容

10. 埼玉県荒川北縁水防事務組合

分野	人口規模	面積規模	予算規模
防	—	—	1千未満

■ ユースケース開発成果イメージ図（その1）



浸水シミュレーション ワークショップ

組合議員等を対象に実施。自身が持つ浸水イメージと3D都市モデルで可視化したイメージとの差異を確認することができた。

■ ユースケース開発成果イメージ図（その2）



可視化結果をディスカッション

それぞれが持つ浸水イメージではなく、可視化結果によるリアルな浸水イメージを共有し、ディスカッションすることができた。

■ 得られた知見や今後の展望

地域住民の代表である組合議員等を対象に浸水シミュレーションワークショップを開催。ワークショップで得た知見を組合議員が地域住民に展開することで、地域住民の防災意識の向上が期待されるとともに、地域防災計画や自身の避難行動の見直しなど、主体的かつ積極的に地域防災に向き合う地域住民と協力・連携していくことで、組合の防災力の強化を目指していく。

なお、本事業において3市（熊谷市、行田市、鴻巣市）で連携し、幅広い視野で課題解決に向け取り組んできたところであるが、他の水防事務組合でも同事業に取り組み、課題を見出すことにより、課題を抱えた水防事務組合同士でも協力・連携し、課題解決を目指していくことで、県内水防事務組合の防災力の強化も期待することができる。一方、組合業務は複数の自治体で運営しているものであり、組織や予算措置等の課題に加え、全ての自治体が平等に恩恵を得られるような「1つの形」を作り上げることに相当な時間を要するため、構成市間での綿密な調整が望まれる。



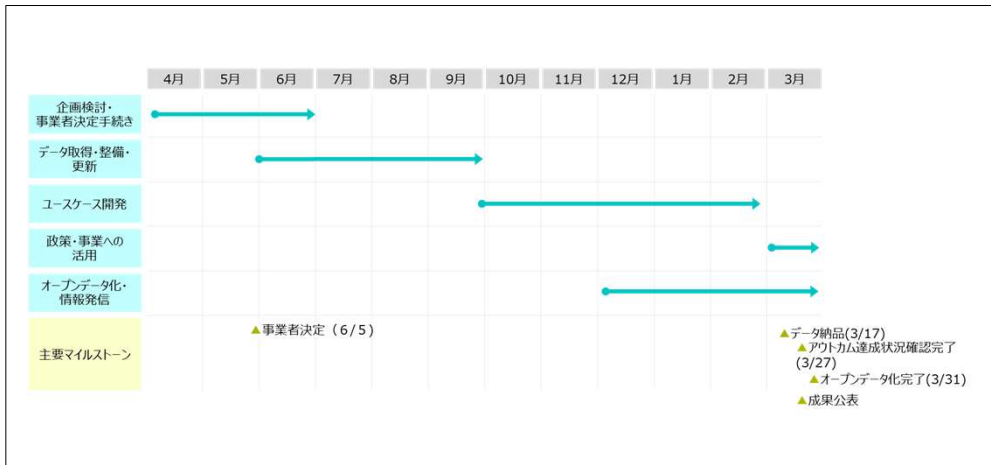
Ⅲ. 令和7年度採択団体別 事業内容

1.1. 千葉県多古町

■ 団体基礎情報・プロジェクト全体像

人口	約1.4万人（令和5年1月時点）
市域全域面積	約73km ² （令和5年1月時点）
目標	成田空港の更なる機能強化とともに多古町もエアポートシティとして発展する。
課題	<ul style="list-style-type: none"> 成田空港の機能強化により、消えゆく集落の保存。 河川の浸水が予想される地域について、避難経路などを住民と共に確認し、浸水災害時に人的な被害を無くす。 空港周辺で、進出を希望している企業への就労者の受け皿となる住宅地整備の検討。

■ 令和7年度スケジュール



分野	人口規模	面積規模	予算規模
他	1-3万	50-100	1千未満

担当部局	空港まちづくり課
------	----------



PLATEAU
by MLIT

■ 補助事業実施項目

事前調査等	-
3D都市モデル整備・更新	<ul style="list-style-type: none"> 3D都市モデル整備事業 (LOD1) (空港周辺地区) 3D都市モデル整備事業 (LOD2) (空港用地)
ユースケース開発	成田空港の機能強化に伴うデジタルアーカイブ事業
推進事業	3D都市モデルのオープンデータサイトの構築

総事業費	19.679 (百万円) ※うちR7年度9.999 (百万円)
R7年度補助額	9.999 (百万円)
補助対象外の関連事業	-

オープンデータ化・可視化・情報発信	<ul style="list-style-type: none"> G空間情報センターへの掲載 【3D都市モデル／関連データ／UCデータ】 PLATEAU VIEWへの掲載 【3D都市モデル／関連データ／UCデータ】 多古町ホームページに掲載 【UCデータ】
-------------------	---

R7年度委託事業者	アジア航測株式会社 (3D都市モデルの整備・更新、ユースケース開発、推進事業)
-----------	--

Ⅲ. 令和7年度採択団体別 事業内容

1.1. 千葉県多古町

■ 3D都市モデル整備状況（基本セット）

※赤字：R7補助対象地物

LOD	整備地物	対象区域	整備面積	整備年度
LOD1	建築物 交通（道路）	市域全域、町西部	28.93km ²	R7年度新規
	都市計画決定情報 土地利用 災害リスク（土砂） 地形	市域全域、町域全域	72.68km ²	
LOD2	建築物	一鍬田地区	2.04km ² 想定棟数 150棟	

項目	活用したデータ	作成年度	地図情報レベル
平面図	都市計画基本図（既存）	H26～H30年度	2,500
測量成果	既存資料（航空写真）	R5年度	2,500
属性情報	都市計画基礎調査（既存）	R3年度	—

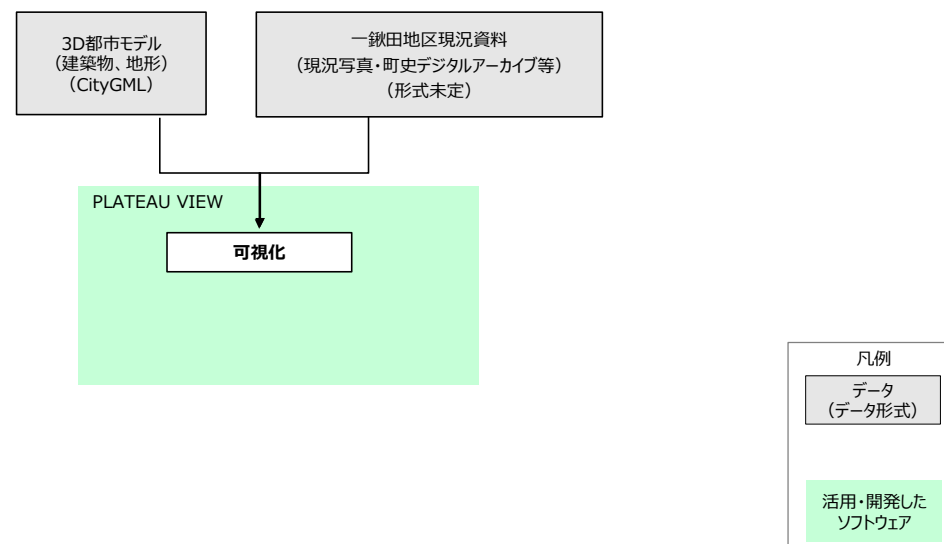
分野	人口規模	面積規模	予算規模
他	1-3万	50-100	1千未満



■ ユースケース概要

テーマ	その他
ユースケース名称	成田空港の機能強化に伴うデジタルアーカイブ事業
目的	開発により消えゆく集落の記録と後世での活用。
取組内容	消えゆく集落（一鍬田地区）の街並みを3D都市モデルで再現する。

■ システム構成図



Ⅲ. 令和7年度採択団体別 事業内容

1.1. 千葉県多古町

■ ユースケース開発方法

活用データ (3D都市モデル)	建築物LOD2 (名称、用途、構造種別、計測高さ、地上階数)
活用データ (上記以外)	<ul style="list-style-type: none"> 植生モデル及び植生点群データ 航空写真等現地写真等
ユースケース 開発方法	<ul style="list-style-type: none"> 成田空港の滑走路整備により、集落の建造物だけでなく、地形においても整備される一銚田集落で3D都市技術を活用し、地形データや構造物を保存する。また、地形に高低差があり、集落の周囲が木々に覆われている特徴を反映するため、植生の点群データ及びポリゴンを作成し、現地の状況に合わせた再現を行う。 公開用アーカイブデータと写真や寺社仏閣等の位置情報を連携させる。
政策・事業での 活用	<ul style="list-style-type: none"> 成田空港の滑走路整備に伴う区域となっている本地域が今後の町内における開発に至るまでの間、住民の移転が徐々に進んでいる。成田空港の滑走路整備に対象区域の3D都市モデルを公開用アーカイブデータとして保存。 作成したデータを公開するとともに、地区への理解に対するアンケート調査を実施。 アーカイブデータとしての記録とともに、教育分野等での活用等周知する。
オープンデータ化 情報発信	<ul style="list-style-type: none"> ユースケースデータ (サンプル) をPLATEAU VIEWに搭載希望 ユースケースデータ (サンプル) をG空間情報センターに掲載 ユースケースデータ (サンプル) やユースケースデータを活用した資料等を多古町ホームページに掲載する。

■ KPI

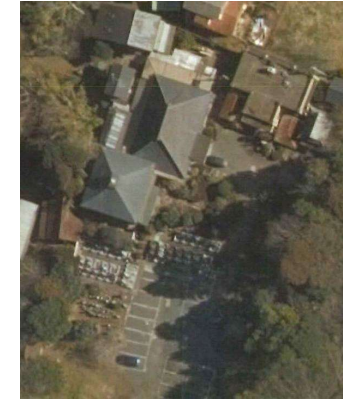
KPI	目標設定	達成状況
空港用地として消えゆく一銚田地区に関する理解が深まった方の割合 (アンケート)	60% (R7年度)	77% (R7年度)

分野	人口規模	面積規模	予算規模
他	1-3万	50-100	1千未満



PLATEAU
by MLIT

■ ユースケース開発成果イメージ図



一銚田地区仏閣 (建築物モデル+植生モデル) (右図はR4航空写真)
建築物モデル (LOD2) と植生モデルを合わせることで、現地の状況を合わせた再現を行った。

■ 得られた知見や今後の展望

既に、住民の移転が進んでおり、今回整備した建築物の中には既に取り壊されたものも多くある中、公共測量成果を活用させていただき、地形や建設物、植生の状況など、移転前の状況を自由な視点で閲覧できるものとして記録、公開することができた。

今回は成田国際空港の滑走路用地となる集落の保存を目的に実施したが、今後は滑走路整備等により、空港周辺の状況が大きく変わることとなる。今後は新滑走路をはじめとする空港関連事業の進展を反映していきたい。

Ⅲ. 令和7年度採択団体別 事業内容

12. 東京都

■ 団体基礎情報・プロジェクト全体像

人口	約1384.1万人（令和5年1月時点）
市域全域面積	約2,194km ² （令和5年1月時点）
目標	<ul style="list-style-type: none"> デジタルの力で東京のポテンシャルを引き出し、都民が質の高い生活を送る「スマート東京」（東京版Society5.0） 高度な都市機能と自然が調和し、人が集い、憩う東京 大規模駅とその周辺エリア（地下街を含む）のバリアフリー移動経路を活用した移動の快適性の実現（車椅子利用者、ベビーカー利用者、大きな荷物をお持ちの方々を対象として） 大規模駅とその周辺エリアの防災情報（避難施設、帰宅困難者受入施設など）の発信による安全・安心なまちづくりへの寄与 活力とゆとりのある高度成熟都市→容積率と建築計画ボリューム可視化による土地有効利用の活性化
課題	<ul style="list-style-type: none"> 3Dビューアを通じた行政が保有する多様な都市情報のリアルな可視化が必要 3D都市モデル上で、浸水や土砂災害の被害の様相をシミュレートし、訓練等で活用 鉄道駅のバリアフリー移動経路は、鉄道事業者が公開する駅構内図等に図示されているが、静止画で1方向からの見え方しかなく不便 バリアフリー移動経路は駅毎に提供され、乗車駅及び降車駅の構内の経路、改札からホームまでの経路、到着駅から駅周辺の目的地までの経路を一気通貫に明示できておらず不便 車椅子利用者が一人で乗車・降車できる鉄道駅ホーム上の地点間を出発地/目的地として選択できるナビゲーションシステムがない 大規模駅と直結する地下街を含む屋内ナビゲーションアプリは普及途上 各自治体が作成するハザードマップ等の防災情報は来街者に届きにくい（各自治体が作成する防災情報は、地域住民向けに旅客や来街者に届いていないのではないか） 市街地環境の改善や土地の高度利用を図る、複数の街区をまとめる大街区化の有効性の可視化 → 東京都23区内全域で任意の敷地を選択しシミュレーション、ユーザー側の自由な選択に基づき、容積率と建築計画ボリュームの可視化をする。 様々な都市づくりのデータや公図データの活用による、容積率可視化等を通じた土地の有効利用 → 3D都市モデルと公図データを利用し、シンプルなUIとすることで専門知識不要で検証可能なシステムを開発する。 木造住宅密集地域等における敷地の統合や住宅の共同建替への推進、その検討における建築計画ボリュームの可視化 → 簡易な建物外形平面、階数、述べ面積等を自動で出力、容積率と建築計画ボリュームを可視化し、土地の有効利用の活性化につなげる。

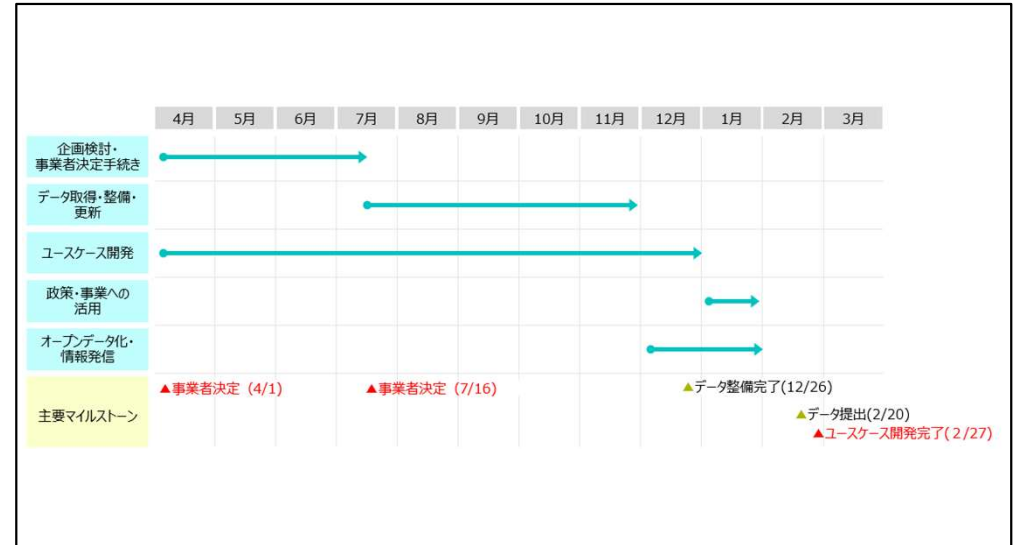
分野	人口規模	面積規模	予算規模
防	15万以上	500以上	10千以上

担当部局	都市整備局広域調整課、総務局防災管理課
------	---------------------



PLATEAU
by MLIT

■ 令和7年度スケジュール



Ⅲ. 令和7年度採択団体別 事業内容

12. 東京都

■ 補助事業実施項目

事前調査等	—
3D都市モデル整備・更新	3D都市モデル整備事業（LOD1、水部）
ユースケース開発	デジタルツインを活用した水害シミュレーション
推進事業	—

総事業費	439.889（百万円）※うちR7年度294.950（百万円）
R7年度補助額	147.475（百万円）
補助対象外の関連事業	デジタルツイン実現プロジェクト

オープンデータ化・可視化・情報発信	<ul style="list-style-type: none"> ・ G空間情報センターへの掲載 【3D都市モデル】 ・ PLATEAU VIEWへの掲載 【3D都市モデル】 ・ 東京都 オープンデータカタログサイト 【3D都市モデル】 ・ 東京都デジタルツイン3Dビューア 【3D都市モデル】
-------------------	---

R7年度委託事業者	<ul style="list-style-type: none"> ・ 株式会社パスコ（3D都市モデル整備・更新） ・ 株式会社フジヤマ（3D都市モデル整備・更新） ・ 国際航業株式会社（3D都市モデル整備・更新） ・ 日本工営株式会社（ユースケース開発）
-----------	---

分野	人口規模	面積規模	予算規模
防	15万以上	500以上	10千以上



■ 3D都市モデル整備状況（基本セット）

※赤字：R7補助対象地物

LOD	整備地物	対象区域	整備面積	整備年度
LOD1	建築物 交通（道路） 災害リスク	都市再生緊急整備地域	30km ²	R4年度更新
		23区 ※R4範囲、江戸川区一部除く 多摩部 ※狛江市(約6km ²)除く	約627km ² 約1,154km ²	R5年度新規
		島しょ部 ※小笠原諸島除く	約290km ²	R6年度新規
		23区・多摩部の更新、小笠原諸島の新規		R7年度新規・更新
		都市再生緊急整備地域	30km ²	R4年度更新
		23区 ※R4範囲、江戸川区一部除く 多摩部 ※狛江市(約6km ²)除く	約627km ² 約1,154km ²	R5年度新規
	都市計画決定情報	島しょ部 ※小笠原諸島除く	約290km ²	R6年度新規
		23区・多摩部の更新		R7年度更新
		都市再生緊急整備地域	30km ²	R4年度更新
		23区 ※R4範囲、江戸川区一部除く 多摩部 ※狛江市(約6km ²)除く	約627km ² 約1,154km ²	R5年度新規
		島しょ部 ※小笠原諸島除く	約290km ²	R6年度新規
		小笠原諸島の新規		R7年度新規
土地利用地形	都市再生緊急整備地域	30km ²	R4年度更新	
	23区 ※R4範囲、江戸川区一部除く 多摩部 ※狛江市(約6km ²)除く	約627km ² 約1,154km ²	R5年度新規	
	島しょ部 ※小笠原諸島除く	約290km ²	R6年度新規	
	小笠原諸島の新規		R7年度新規	
LOD2	建築物	都市再生緊急整備地域	30km ²	R4年度更新
		都市開発諸制度拠点地区	45km ²	R5年度更新
		都市開発諸制度拠点地区の多摩部	45km ² の多摩部	R7年度更新

Ⅲ. 令和7年度採択団体別 事業内容

12. 東京都

■ 3D都市モデル整備状況（基本セット以外）

※赤字：R7補助対象地物

LOD	整備地物	対象区域	整備面積	整備年度
LOD2	交通 (道路)	都市再生緊急整備地域	30km ²	R4年度新規
		都市開発諸制度拠点地区	45km ²	R5年度新規
		都市開発諸制度拠点地区の多摩部	45km ²	R7年度更新
LOD3	交通 (道路)	都市再生緊急整備地域の一部	30km ²	R4年度新規
LOD1 LOD2 LOD3	都市整備	都市再生緊急整備地域の一部 都市開発諸制度拠点地区の一部	30km ² 45km ²	R4年度新規 R5年度新規
LOD1 LOD2	植生	都市再生緊急整備地域の一部 都市開発諸制度拠点地区の一部	30km ² 45km ²	R4年度新規 R5年度新規
LOD2	橋梁	都市再生緊急整備地域の一部 都市開発諸制度拠点地区の一部	30km ² 45km ²	R4年度更新 R5年度新規
LOD4	地下街	都市再生緊急整備地域の一部	30km ²	R4年度新規
LOD0 LOD1	水部	23区・多摩部の河川、運河		R7年度新規

項目	活用したデータ	作成年度	地図情報レベル
平面図	都市計画基本図（既存）	R7年度	2,500
測量成果	既存資料（航空写真）	R7年度	2,500
属性情報	都市計画基礎調査（既存）	R3年度	—



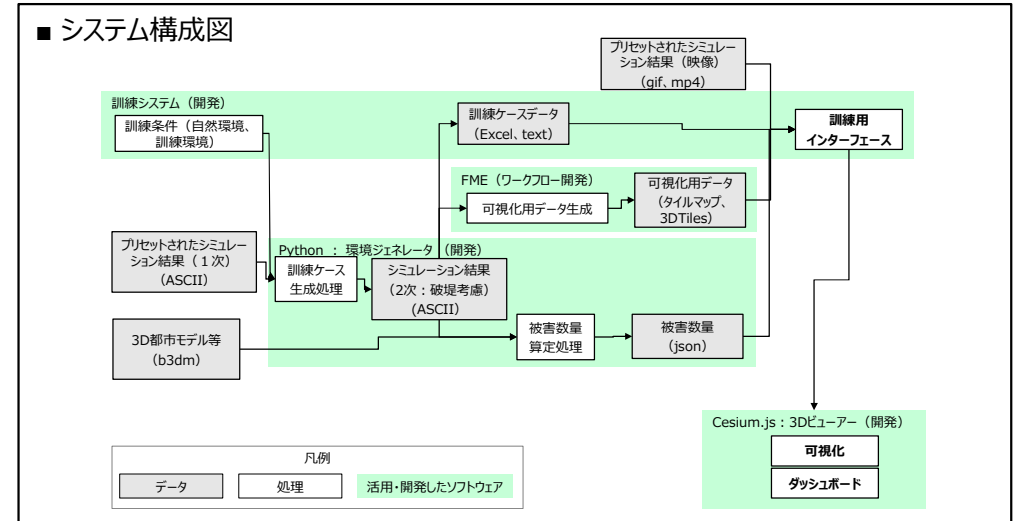
PLATEAU
by MLIT

分野	人口規模	面積規模	予算規模
防	15万以上	500以上	10千以上

■ ユースケース概要

テーマ	防災・防犯
ユースケース名称	デジタルツインを活用した水害シミュレーション
目的	防災上の課題の把握及び解決のための訓練によって、様々な場面で『より効果的に』活用できるシステムの開発・実装
取組内容	3D都市モデル上で、プリセットされた風水害による浸水や土砂災害の被害の様相をシミュレートし、訓練等で活用することで行政機関のより効果的な災害対応のオペレーションにつなげていく。 R7年度は、プリセットされた風水害では浸水や土砂災害が生じない（あるいは浸水等が小規模となる）区市町村が参加する訓練等においてもより有効に活用できるよう、降雨の地域・降雨量の任意設定やアンダーパス箇所等の浸水被害に関する計算プログラムを組み込み、効果の更なる向上を図る。

■ システム構成図



Ⅲ. 令和7年度採択団体別 事業内容

12. 東京都

■ ユースケース開発方法

活用データ (3D都市モデル)	<ul style="list-style-type: none"> 建築物LOD1, LOD2 (建物高さ、住所等) 水部LOD0, LOD1 災害リスクLOD1 (浸水 (高潮) 想定区域) 等
活用データ (上記以外)	<ul style="list-style-type: none"> 水位観測所・CCTV 土砂災害映像 雨量 (降雨ケース) 社会インフラ (災害対策上の重要施設) 人口分布 解析データ 等
ユースケース 開発方法	<ul style="list-style-type: none"> 水部LOD1, LOD2、建築物LOD1, LOD2 (建物高さ、住所等)、災害リスクLOD1 (浸水 (高潮) 想定区域) 等のデータを活用 R6年度までのプリセット済みの災害シミュレーション結果のほか、既往実績のレーダ雨量の時空間分布を任意に 設定し、流出・氾濫計算 (RRIモデル等) をシステム内で行えるように計算プログラムを組み込む 計算プログラムは、エリアを細分化し、内水氾濫やアンダーパス箇所の水位算出を行う 3D都市モデル上で、上記計算結果の様相をシミュレート 河川の洪水による氾濫や土砂災害など、各地の水害リスクの有無を3Dで表示。 浸水エリアの拡がりや水位の上昇など、時間の経過による変化を表示。 図上訓練等で活用することで行政機関のより効果的な災害対応のオペレーションにつなげていく。 <ol style="list-style-type: none"> ① 発災時と同等の訓練環境：気象庁HPや東京都水防災総合情報システム等を模した環境により、発災時と同等の環境で訓練 (情報収集・整理・分析及び対策立案の検討等) を実施できる。 ② 可視化情報に基づく振り返り：訓練中に発生する被害や各種情報を時系列情報として、地図上や映像等で可視化することにより、訓練中の検討内容や判断の妥当性について多角的な視点から検証ができる。 ③ 企画・準備負荷の軽減：プリセット情報によるシミュレーションにより、少ない与条件で訓練の想定災害を設定でき、想定災害に基づく被害状況等の数量等の情報を編集可能なデータとしてダウンロードして活用できる。

分野	人口規模	面積規模	予算規模
防	15万以上	500以上	10千以上



政策・事業での活用	<ul style="list-style-type: none"> 河川の洪水による氾濫など、各地の水害リスクの有無を3Dで表示。 土砂災害など、各地の水害リスクの有無を3Dで表示。
オープンデータ化 情報発信	-

■ KPI

KPI	目標設定	達成状況
訓練において実災害のイメージができたと感じた参加者の割合	90% (R7年度)	90% (R7年度)
訓練において職員の対応力向上に役立つと感じた参加者の割合	95% (R7年度)	95% (R7年度)

Ⅲ. 令和7年度採択団体別 事業内容

12. 東京都

■ ユースケース開発成果イメージ図



【3D浸水状況】

河川の氾濫による浸水状況を3Dで表示。

分野	人口規模	面積規模	予算規模
防	15万以上	500以上	10千以上

■ ユースケース開発成果イメージ図



【土砂災害発生箇所】

土砂災害の状況を3Dで表示。

■ 得られた知見や今後の展望

図上訓練の参加者等の意見から、操作性の向上の必要性などの知見を得ることができた。これを踏まえ、シミュレート機能、訓練機能、3Dビューアの改修等を進めていく。

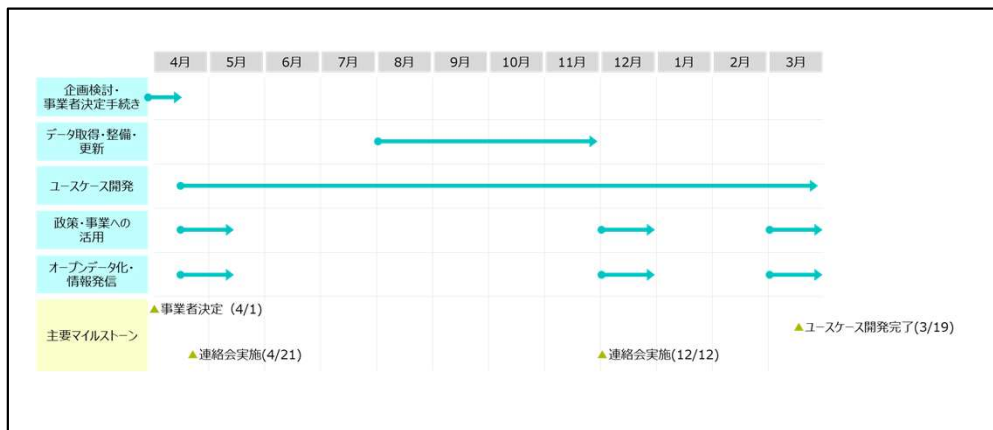
Ⅲ. 令和7年度採択団体別 事業内容

13. 東京都中央区

■ 団体基礎情報・プロジェクト全体像

人口	約17.4万人（令和5年1月時点）
市域全域面積	約10km ² （令和5年1月時点）
目標	日本橋川沿いエリアでは5地区の市街地再開発事業や首都高日本橋区間地下化事業などが連続的かつ長期的に進行していくことから、3D都市モデルを用いることで、住民代表、地域団体、関係事業者、河川管理者等関係行政機関、区とで、より効果的な情報共有を図り、魅力的で一体的な水辺空間の整備推進を行う。
課題	<ul style="list-style-type: none"> 各事業の進捗状況をはじめ、水辺空間等の段階的な整備イメージや各事業完了後における将来のイメージ等を関係者と共有すること。 各事業の工事期間中におけるにぎわい創出方策の検討が必要であること。

■ 令和7年度スケジュール



分野	人口規模	面積規模	予算規模
街	15万以上	50未満	1-2千

担当部局	都心再生推進課
------	---------



■ 補助事業実施項目

事前調査等	—
3D都市モデル整備・更新	—
ユースケース開発	<ul style="list-style-type: none"> 3D都市モデルを活用した関係者とのイメージ共有 3D都市モデルを活用したにぎわい創出方策の検討・可視化
推進事業	—

総事業費	41.602（百万円）※うちR7年度12.298（百万円）
R7年度補助額	6.149（百万円）
補助対象外の関連事業	—

オープンデータ化・可視化・情報発信	<ul style="list-style-type: none"> PLATEAU VIEWへの掲載 【UCデータ】 中央区ホームページに掲載
-------------------	--

R7年度委託事業者	株式会社オリエンタルコンサルタンツ（ユースケース開発）
-----------	-----------------------------

Ⅲ. 令和7年度採択団体別 事業内容

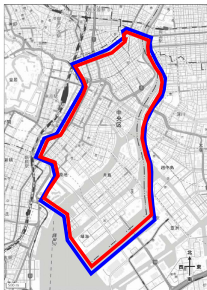
13. 東京都中央区

■ 3D都市モデル整備状況（基本セット）

※赤字：R7補助対象地物

LOD	整備地物	対象区域	整備面積	整備年度
LOD1	建築物	中央区全域 東京都事業において一部更新	10.21km ²	R2年度新規 R4年度更新
	交通（道路） 都市計画決定情報 土地利用 災害リスク 地形	中央区全域	10.21km ²	R2年度新規
LOD2	建築物	R2年度整備範囲（中央区全域） 東京都事業において一部更新	10.21km ²	R2年度新規 R4年度更新

■ 3D都市モデル整備エリア図



- : LOD1（建築物、道路、都市計画決定情報、土地利用、災害リスク）
- : LOD2（建築物）

※中央区のみ明示

分野	人口規模	面積規模	予算規模
街	15万以上	50未満	1-2千

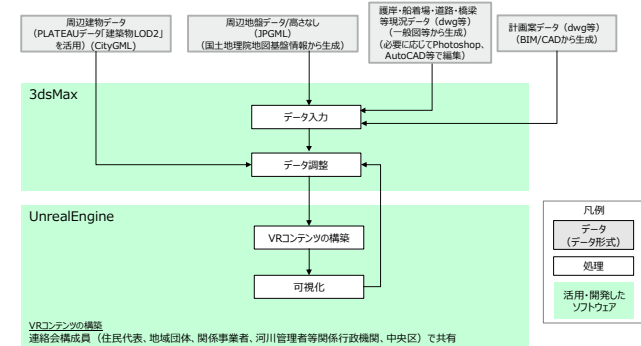


PLATEAU
by MLIT

■ ユースケース概要①

テーマ	都市計画・まちづくり
ユースケース名称	3D都市モデルを活用した関係者とのイメージ共有
目的	日本橋川沿いの5地区の市街地再開発事業や首都高速道路日本橋区間地下化事業などの進捗状況をはじめ、水辺空間等の段階的な整備イメージや各事業完了後における将来のイメージ等を「日本橋川水辺空間の整備推進に関する連絡会」の関係者と共有すること。
取組内容	<ul style="list-style-type: none"> 日本橋川沿いの5地区の市街地再開発事業や首都高速道路日本橋区間地下化事業などの事業について、計画の変更内容を踏まえ、過年度作成した3D都市モデルを更新する。引き続き、3D都市モデルを用いたVRやパース等を使用して関係者との共有を図る。 R7年度は、共有するVRやパース等については、区独自のみならず、関係者間と連携したものを作成する。（「日本橋川水辺空間の整備推進に関する連絡会」構成員：住民代表、地域団体、関係事業者、河川管理者等関係行政機関、中央区） 連絡会資料は区ホームページ上で公開し、事業に対する区民等の理解促進を図る。

■ システム構成図



Ⅲ. 令和7年度採択団体別 事業内容

13. 東京都中央区

■ ユースケース開発方法

活用データ (3D都市モデル)	建築物LOD2
活用データ (上記以外)	<ul style="list-style-type: none"> 航空写真・地形データ 日本橋川防潮堤・船着場等図面 道路台帳平面図(区道、都道、国道) 橋梁図面(日本橋、江戸橋、一石橋、鋸橋、西河岸橋) 首都高日本橋区間地下化事業3Dモデル(首都高高架橋) 日本橋川周辺5地区再開発 施工BIM(再開発施工ステップ) 日本橋川周辺5地区再開発 完成イメージ(再開発計画案) 橋詰広場 完成イメージ(江戸橋橋詰)
ユースケース 開発方法	<ul style="list-style-type: none"> PLATEAUの3D都市モデル (建築物 LOD2) をベースデータとして活用し、当該対象エリアの日本橋及び日本橋川を中心とした再開発5地区の周辺土木データ(道路及び河川)を構築する。(R5年度に作成した3D都市モデルに植栽などのデータを反映、工事の進捗や計画内容に変更があったものを更新) 整備に必要な現況のBIM/CIM、CAD、CG(3dsMax)、GISデータは自治体(中央区、東京都、国土交通省東京国道事務所)及び民間事業者から調達し、更新する。また、データの不足に関しては現地調査・計測を行い、その都度補足する。必要に応じて画像処理ソフト(Photoshop)を用いてテキスト等を生成する。 上記の3D都市データをゲームエンジン(Unreal Engine)に取り込み、VRコンテンツを構築する。区民でもわかり易い合意形成ツールを目指し、必要に応じ、都市設備機能(樹木、照明柱等)をコンテンツに盛り込み、充実を図る。
政策・事業での 活用	<ul style="list-style-type: none"> 対象エリアの現況(R7年度)及びR22年度までの段階的な整備状況、将来イメージについて、最新の計画状況を踏まえて3D都市モデル上及びVR上で表現する。 「日本橋川水辺空間の整備推進に関する連絡会」において、作成したVRコンテンツ(キャプチャ画像、動画)で整備イメージを提示し、構成員間で各視点場での見え方を共有する。 整備イメージの理解度を連絡会関係者に確認し、課題解決の評価を行う。
オープンデータ化 情報発信	中央区ホームページにパース図を掲載(会議資料)

分野	人口規模	面積規模	予算規模
街	15万以上	50未満	1-2千

■ KPI

KPI	目標設定	達成状況
連絡会関係者に対してヒアリング・アンケート等の方法により「わかりやすかった」と回した人の割合(%)	90%以上 (R7年度)	100% (R7年度)

■ ユースケース開発成果イメージ図



「日本橋川水辺空間の整備推進に関する連絡会」の会議資料



橋詰広場の整備イメージ

日本橋川沿いエリアの段階的な整備状況について、橋詰広場の整備計画を反映したVRを作成した。「日本橋川水辺空間の整備推進に関する連絡会」においては、将来のイメージが分かる動画や、3D都市モデルを切り出したパース図として提示し、関係者と共有を図った。

■ 得られた知見や今後の展望

平面図による整備イメージの共有に比べ、3D都市モデルを活用したことにより関係者の理解度が深まることが確認できた。また、先行する再開発地区が完成しつつあり、3D都市モデルによる将来イメージが高い精度で表現されていることも確認できた。今後も会議の場などで整備イメージの説明や共有をする際は、3D都市モデルを積極的に活用していきたい。

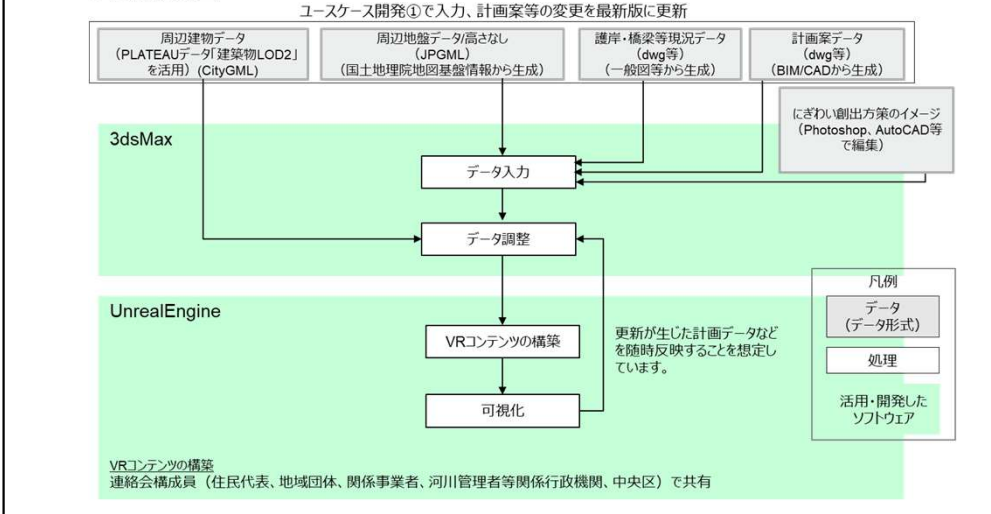
Ⅲ. 令和7年度採択団体別 事業内容

13. 東京都中央区

■ ユースケース概要②

テーマ	都市計画・まちづくり
ユースケース名称	3D都市モデルを活用したにぎわい創出方策の検討・可視化
目的	日本橋川沿いの5地区の市街地再開発事業や首都高速道路日本橋区間地下化事業などの工事期間中におけるにぎわい創出方策に3D都市モデルを活用して実施していくこと。
取組内容	3D都市モデルの活用において、中央区独自の取組や連絡会構成員との連携による取組の充実を図り、まちのにぎわいを創出する方策の実施に向けた検討・調整を行う。特に、地域イベントやweb等を通じたにぎわい創出について、具体的に検討・調整を行う。

■ システム構成図



分野	人口規模	面積規模	予算規模
街	15万以上	50未満	1-2千

■ ユースケース開発方法

活用データ (3D都市モデル)	建築物LOD2
活用データ (上記以外)	<ul style="list-style-type: none"> 航空写真・地形データ 日本橋川防潮堤・船着場等図面 道路台帳平面図(区道、都道、国道) 橋梁図面(日本橋、江戸橋、一石橋、鎧橋、西河岸橋) 首都高日本橋区間地下化事業3Dモデル(首都高高架橋) 日本橋川周辺5地区再開発 施工BIM(再開発施工ステップ) 日本橋川周辺5地区再開発 完成イメージ(再開発計画案) 橋詰広場 完成イメージ (江戸橋橋詰)
ユースケース開発方法	<ul style="list-style-type: none"> 計画案の BIM/CIM、CAD (AutoCAD)、CG (3dsMax) データを自治体及び民間事業者から調達する。必要に応じて添景等は、市販ライブラリーなどから調達し、足りないものは画像処理ソフト(Photoshop)を用いて随時制作する。 上記の3D都市データをゲームエンジン (UnrealEngine) に取り込み、VR コンテンツを構築する。区民でもわかり易い合意形成ツールを目指し、必要に応じ、都市設備機能をコンテンツに盛り込み、充実を図る。VR コンテンツを使い、連絡会で報告し、構成員間で共有を図る。 3D都市モデルの活用において、中央区独自の取組や連絡会構成員との連携による取組の充実を図り、まちのにぎわいを創出する方策の実施に向けた検討・調整を行う。特に、地域イベント等での動画放映やパネル掲出などの取組を検討・調整していく。 3D都市モデルの活用によるにぎわい創出方策の有効性を連絡会関係者に確認し、課題解決の評価を行う。(ヒアリング・アンケート等の方法により「にぎわい創出に寄与している」と回答した人の割合を確認)
政策・事業での活用	<ul style="list-style-type: none"> 作成した動画を地域イベントで公開 作成したパネルをPR拠点で掲出
オープンデータ化情報発信	地域イベント等で動画やイメージパースを公開

Ⅲ. 令和7年度採択団体別 事業内容

13. 東京都中央区

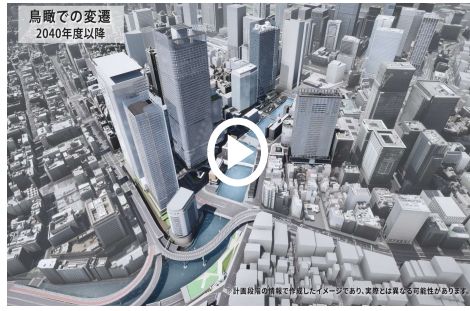
■ KPI

KPI	目標設定	達成状況
3D都市モデルの活用によるにぎわい創出方策の有効性について、ヒアリング・アンケート等の方法により「にぎわい創出に寄与している」と回答した人の割合(%)	100% (R7年度)	83% (R7年度)

KPI未達を受けての今後の対応

実施したアンケートでは「作成したコンテンツはわかりやすいが、その画像自体でもにぎわいを感じられるとより良くなる。」との意見もあったことから、今後のコンテンツ作成時には、歩行者や人々の活動などのにぎわいをより感じられる表現となるよう工夫していく。

■ ユースケース開発成果イメージ図



① 地域イベントでの動画公開

① 首都高速道路(株)と連携し、地域のイベントにて、3D都市モデルを活用した動画を放映 (R7.4月)

分野	人口規模	面積規模	予算規模
街	15万以上	50未満	1-2千

■ ユースケース開発成果イメージ図



■ VISTA内部

出典: 日本橋リバーウォークエリアマネジメントホームページ

② 街づくりのプレゼンテーション拠点「VISTA」でのパネル掲出

② 街づくりのプレゼンテーション拠点「VISTA」(首都高速道路(株)及び関連企業が共同運営するプレゼンテーション拠点)にて、来訪者に将来のまちの姿イメージしてもらい、より一層、日本橋のまちづくりに興味を持っていただくため、3D都市モデルを活用したパネル掲出の取組を開始 (R8.3月～)

■ 得られた知見や今後の展望

来街者の方々に日本橋川沿いエリアにおける将来のまちづくりに興味を持ってもらうため、3D都市モデルを活用して動画等のコンテンツを提供することにより、にぎわい創出に寄与することが確認できた。

今後も3D都市モデルを活用したにぎわい創出に寄与する取組を、関係者と共に継続して実施していきたい。

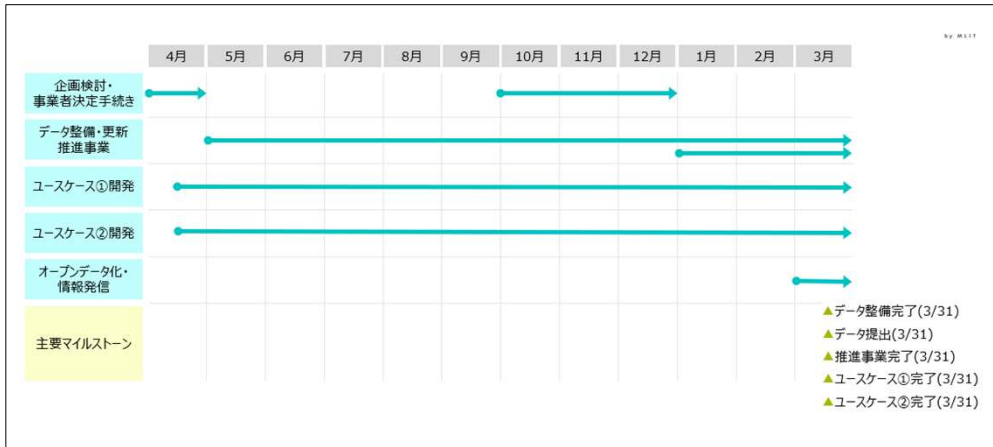
Ⅲ. 令和7年度採択団体別 事業内容

14. 東京都台東区

■ 団体基礎情報・プロジェクト全体像

人口	約21.7万人（令和8年1月時点）
市域全域面積	約10km ² （令和8年1月時点）
目標	<ul style="list-style-type: none"> 官民データを活用して社会情勢等の分析に努めるとともに、これらの裏付けに基づいた施策の企画及び立案を推進する。 社会状況の変化に的確に対応し、デジタルの力によって業務の効率化と区民サービスの向上が一体的に実現する。
課題	<ul style="list-style-type: none"> まちづくり・市街地整備などの将来像を区内や地域と共有する際には二次元の図面等を用いているが、専門的知識がなければ理解が深まらず、円滑な合意形成・意思決定が進まない等の課題がある。 多様なデータを活用したEBPMの推進、まちづくりのみならず多分野事業・行政事務の効率化・高度化が求められる。

■ 令和7年度スケジュール



分野	人口規模	面積規模	予算規模
街・防	15万以上	50未満	10千以上

担当部局	都市づくり部都市計画課
------	-------------



■ 補助事業実施項目

事前調査等	—
3D都市モデル整備・更新	3D都市モデル整備事業
ユースケース開発	①-1：帰宅困難者の避難シミュレーションに係るデータ整備
	①-2：3D都市モデル等を活用した避難シミュレーション
	②：朝倉彫塑館通り景観シミュレーション
推進事業	3D都市モデルデータの統合方式検討

総事業費	190.7212（百万円）※うちR7年度113.6167（百万円）
R7年度補助額	R7年度当初：42.431（百万円） R6年度補正：10.000（百万円）
補助対象外の関連事業	—

オープンデータ化・可視化・情報発信	G空間情報センターへの掲載 【3D都市モデル／関連データ／UCデータ】 PLATEAU VIEWへの掲載 【3D都市モデル／関連データ／UCデータ】
-------------------	---

R6年度（補正分）委託事業者	(株)フォーラムエイト セントラルコンサルタント(株)	(ユースケース開発) (ユースケース開発)
R7年度委託事業者	国際航業(株) (株)フォーラムエイト セントラルコンサルタント(株)	(3D都市モデル整備・更新、推進事業) (ユースケース開発) (ユースケース開発)

Ⅲ. 令和7年度採択団体別 事業内容

14. 東京都台東区

■ 3D都市モデル整備状況（基本セット）

※赤字：R7補助対象地物

LOD	整備地物	対象区域	整備面積	整備年度
LOD1	建築物 交通（道路）	区域全域	10.11km ²	R5年度新規 R6年度更新
	都市計画決定情報			R5年度新規 R6年度拡充
	土地利用 災害リスク（洪水、土砂、 内水・高潮） 地形			R5年度新規
LOD2	建築物	都市再生緊急整備地域 「新しい都市づくりのための 都市開発諸制度活用方 針」で定める「拠点等の地 域」等の範囲	0.02km ² 3.70km ²	R4年度新規 R5年度拡充
		R4,R5年度LOD2未整 備の区域 上野地区、浅草地区	6.41km ² 0.17km ²	R6年度拡充 R7年度更新

項目	活用したデータ	作成年度	地図情報レベル
平面図	都市計画基本図（既存）	R3年度	2,500
測量成果	新規測量（航空レーザー）	R5年度	2,500
属性情報	都市計画基礎調査（既存）	R3年度	—

分野	人口規模	面積規模	予算規模
街・防	15万以上	50未満	5-10千



■ 3D都市モデル整備状況（基本セット以外）

※赤字：R7補助対象地物

LOD	整備地物	対象区域	整備面積	整備年度
LOD3.0	建築物	上野地区 浅草地区 ※地上に設置された地下街出入口が ある建築物	8箇所 6箇所	R7年度新規
LOD4.1		東武浅草駅 ※地上に設置された地下街出入口	約0.045km ²	
LOD2.0	交通 （道路）	「新しい都市づくりのための都市開発諸制 度活用方針」で定める「拠点等の地域」 等の範囲	3.70km ²	R5年度新規
LOD3.0		台東区域全域	10.11km ²	R6年度拡充・更新
LOD1 LOD2.1	橋梁	上野・浅草地区 都市再生緊急整備地域	全5箇所	R5年度新規
LOD1			全19箇所	R6年度拡充
LOD1	都市設備	上野・浅草地区	2.68km ²	R5年度新規
LOD3.0		上野地区 浅草地区 ※地上に設置された地下街 出入口	32箇所 7箇所	R7年度拡充
		上野地区 浅草地区	0.05km ² 0.12km ²	R7年度更新
LOD0	植生	台東区域全域	10.11km ²	R6年度新規
LOD1 LOD2		上野・浅草地区	2.68km ²	R5年度新規
LOD4.1	地下街	上野地区 浅草地区	2.78km ² 0.66km ²	R7年度新規

Ⅲ. 令和7年度採択団体別 事業内容

14. 東京都台東区

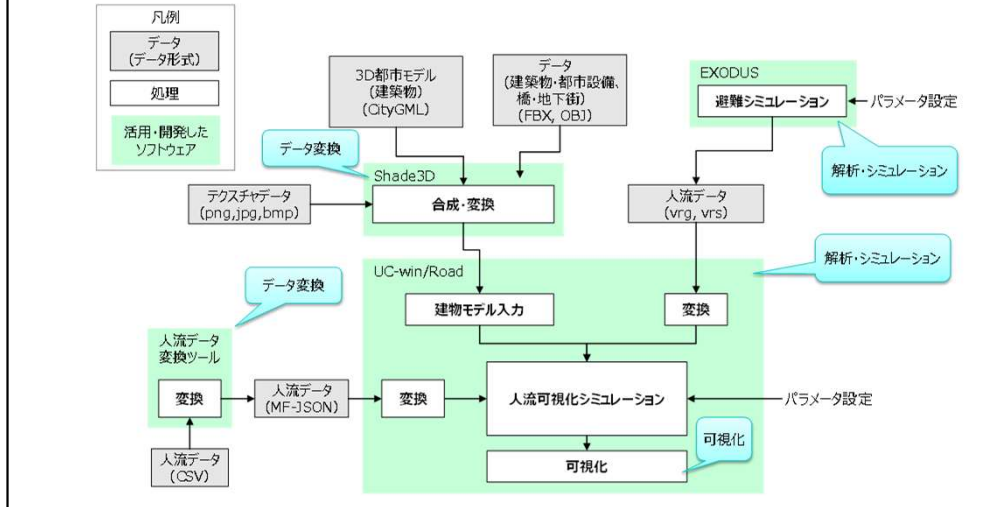


PLATEAU
by MLIT

■ ユースケース①概要

テーマ	防災・防犯
ユースケース名称	<ul style="list-style-type: none"> 帰宅困難者の避難シミュレーションに係るデータ整備 3D都市モデル等を活用した避難シミュレーション
目的	<ul style="list-style-type: none"> 3D都市モデルを活用したわかりやすいシミュレーション表現 効果的な施策立案・円滑な合意形成
取組内容	<ul style="list-style-type: none"> 観光地である上野地区及び浅草地区の地上部・地下街3D都市モデルや人流データ等を活用し、帰宅困難者の避難シミュレーションを実施・映像化することで、災害時における混雑・渋滞が予想される箇所の可視化や対策案の検証を行う。 また、本区危機・災害対策課と連携し、地域の関係者と図上訓練を実施するなど、3D都市モデルを活用したイメージ共有や住民参加、効果的な計画立案等の基礎材料としていく。

■ システム構成図



分野	人口規模	面積規模	予算規模
街・防	15万以上	50未満	5-10千

■ ユースケース開発方法

活用データ (3D都市モデル)	建築物LOD2, LOD3, LOD4、都市設備LOD3、地下街LOD4等 (用途: 避難シミュレーション)
活用データ (上記以外)	人流データ
ユースケース開発方法	<ol style="list-style-type: none"> 人流データの取得 <ul style="list-style-type: none"> 上野地区、浅草地区における人流計測 (実地) GPS人流データの購入 基礎資料収集 <ul style="list-style-type: none"> 建物の耐震性に係る現況調査 (土地利用現況調査データより) 避難場所・避難施設の情報整理 3D都市モデルの更新等 <ul style="list-style-type: none"> 歩道橋(ペDESTリアンデッキ)モデル追加 上野駅前のペDESTリアンデッキの表現を追加 (モデル構造はLOD3に準じたもの) 地下街モデル更新 R7年度整備の地下街モデルについて、テクスチャ貼り付けを行い、外観の再現性を向上させる 避難シナリオ策定と避難シミュレーション <ul style="list-style-type: none"> (1)~(3)の結果をもとに、避難シナリオを構築し、3D都市モデル上で避難シミュレーションを実施する。 図上訓練での活用 <ul style="list-style-type: none"> 上野地区、浅草地区における帰宅困難者の対策会議で図上訓練の資料の一つとして活用し、理解促進や効果的な計画立案を図る。
政策・事業での活用	<ul style="list-style-type: none"> 地理的に特徴のある各地域を含む大域的な大規模人流シミュレーションにより、災害時のシミュレーション行動を可視化し問題箇所を把握する。 問題が発生している箇所に対し、複数の対策案を実施して効果を検証する。 職員自身がツールを用いてパラメトリックに条件を変更し、避難対策検討等に活用。
オープンデータ化情報発信	-

Ⅲ. 令和7年度採択団体別 事業内容

14. 東京都台東区

■ KPI

KPI	目標設定	達成状況
ユースケース①：帰宅困難者のシミュレーションとして有用であると思う（肯定的な評価を持つ）参加者の割合（%）	80% (R7年度)	96.88% (R7年度)

分野	人口規模	面積規模	予算規模
街・防	15万以上	50未満	5-10千

■ ユースケース①開発成果イメージ図



3D都市モデル等を活用した避難シミュレーション

- GPSデータ及び実地計測調査等により上野地区及び浅草地区における滞在人口を推計した後、解析ツールを使用して帰宅困難者の避難シミュレーションを実施し、3D都市モデルを組み合わせ、映像資料を作成した。
- 庁内防災部署が実施する上野地区・浅草地区の帰宅困難者対策に関する会議体において、上記映像を活用することで、参加者に対する解析結果の理解の浸透を図った。

■ 得られた知見や今後の展望

- 3D映像は、従来の手法と比較して、ペDESTリアンデッキ上・地上・地下の多層空間における避難者の流れや混雑状況等の理解を促進し、円滑な合意形成につながった。
- 多分野における3D都市モデルの活用

Ⅲ. 令和7年度採択団体別 事業内容

14. 東京都台東区

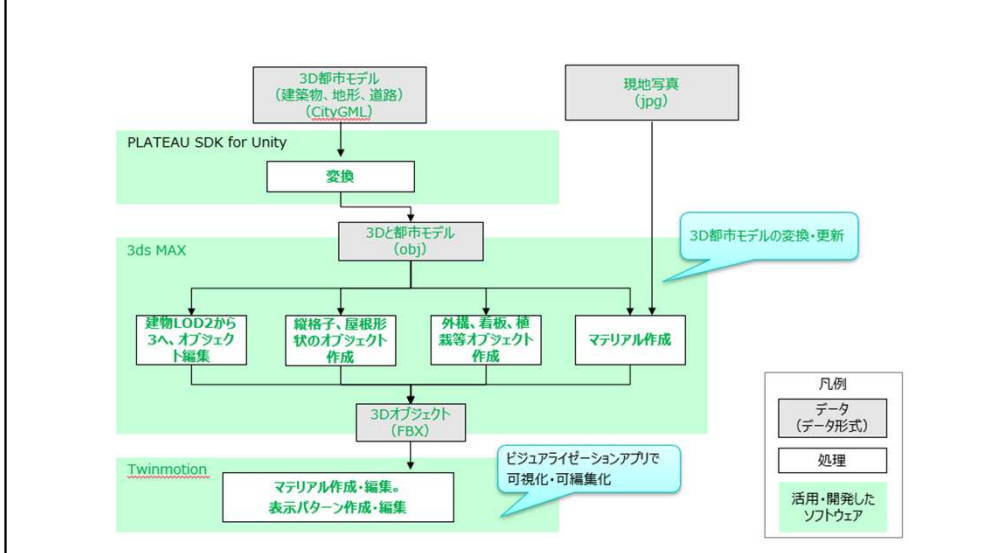


PLATEAU
by MLIT

■ ユースケース②概要

テーマ	都市計画・まちづくり
ユースケース名称	朝倉彫塑館通り景観シミュレーション
目的	<ul style="list-style-type: none"> 3D都市モデルを活用したわかりやすいシミュレーション表現 効果的な施策立案・円滑な合意形成
取組内容	台東区谷中の朝倉彫塑館通りにおいて3D都市モデルを活用し、景観シミュレーションを実施することで、今後策定予定の修景基準を可視化し、各修景項目が街の景観に与えるメリットと課題について地域住民との意見交換・収集を行い、修景基準策定へ向けた合意形成につなげる。

■ システム構成図



分野	人口規模	面積規模	予算規模
街・防	15万以上	50未満	5-10千

■ ユースケース開発方法

活用データ (3D都市モデル)	建築物LOD2、道路LOD1等 (用途：景観シミュレーション)
活用データ (上記以外)	—
ユースケース開発方法	<p>(1) 3D都市モデルの変換・更新 対象区域の3D都市モデルを活用できるように、データを3ds MAX変換し、建物および都市設備のモデルをLOD3.0へ更新し、外観の再現性と視覚的なリアリティを向上する。</p> <p>(2) ビジュアライゼーションアプリで可視化・可編集化 <ul style="list-style-type: none"> LOD3.0のモデルをTwinmotionに出力し、街なみ景観を維持・向上に向けた修景行為をイメージして、建物の屋根形状や外壁素材については、ユーザーが任意の設定に編集できるようにする。 周辺の景観に調和する縦格子、プランター、ベンチなどの景観要素をオブジェクトとしてライブラリーに追加し、位置やサイズ調整して都市モデルに配置する。 </p> <p>(3) 住民対話イベントに活用 景観まちづくりに関する対話の中で、モデルを用いて修景の効果をリアルタイムで確認し、住民が視覚的に理解しやすい形で意見交換を行える環境を整える。</p>
政策・事業での活用	地理的に特徴のある地域の景観基準などを検討する際の将来イメージ可視化ツールとして、現状把握・課題の共通認識化・円滑な合意形成を図る。
オープンデータ化情報発信	—

Ⅲ. 令和7年度採択団体別 事業内容

14. 東京都台東区

■ KPI

KPI	目標設定	達成状況
ユースケース②：景観シミュレーションを通じて、修景に関する取り組みに肯定的な評価を持った参加者の割合 (%)	80% (R7年度)	91.66% (R7年度)

■ ユースケース②開発成果イメージ図



朝倉彫塑館通り景観シミュレーション

- 谷中地区の朝倉彫塑館通り沿道について、TwinmotionでLOD3.0レベルの都市モデルとして再現。
- Twinmotion上、3Dモデルに対してマテリアル変更、オブジェクト追加、ライティング調整等をリアルタイムで反映できる。アプリ既存のマテリアルとオブジェクト以外、ユーザーライブラリーには、谷中のまちなみ景観の意匠に合う素材を追加している。
- 住民との対話の中では、モデルを用いて修景行為の効果をビジュアル的に確認しながら議論した。

分野	人口規模	面積規模	予算規模
街・防	15万以上	50未満	5-10千

■ 得られた知見や今後の展望

- 3D都市モデルを活用し修景行為による効果を視覚的に示すことで、修景への理解を促進した。
- 今後の修景基準策定に向けた合意形成につながる成果を得ることができた。

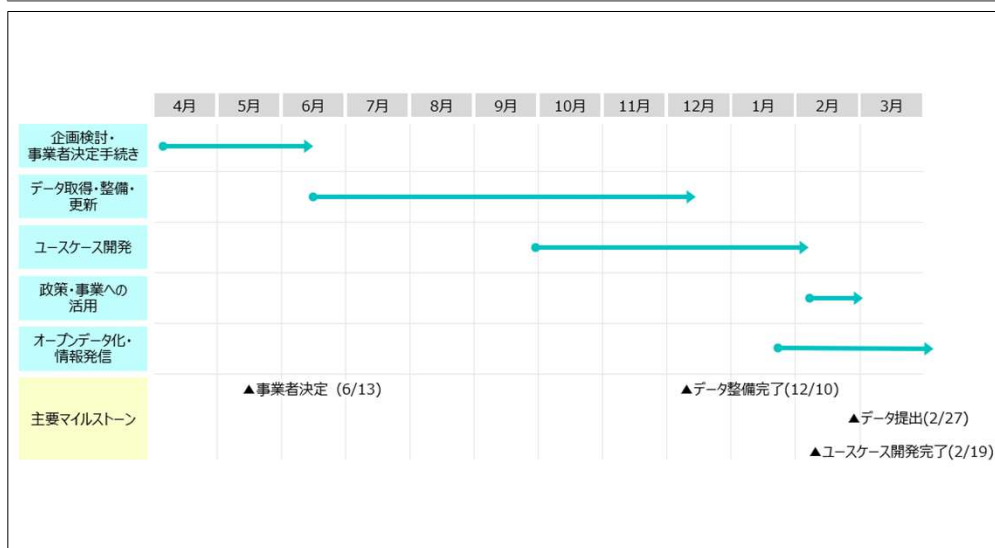
Ⅲ. 令和7年度採択団体別 事業内容

15. 東京都杉並区

■ 団体基礎情報・プロジェクト全体像

人口	約57.1万人（令和5年1月時点）
市域全域面積	34km ² （令和5年1月時点）
目標	<ul style="list-style-type: none"> 建物が倒れにくく燃えにくく風水害に強いまちの実現。 東京都の都市計画道路の整備方針（第四次事業化計画）における杉並区内の優先整備路線に対する整備効果の検証。
課題	<ul style="list-style-type: none"> 木造住宅密集地域の解消に向けた空地の確保。 現状市街地の火災によるリスクや都市計画道路の整備による延焼遮断効果を評価し、事業の進捗に寄与することを目的。

■ 令和7年度スケジュール



分野	人口規模	面積規模	予算規模
防	15万以上	50未満	2-3千

担当部局	土木計画課
------	-------



■ 補助事業実施項目

事前調査等	—
3D都市モデル整備・更新	3D都市モデル（LOD1・LOD2）の更新
ユースケース開発	<ul style="list-style-type: none"> 3D都市モデルを活用したポケットパーク整備のVR体験 延焼シミュレーションの3次元可視化
推進事業	

総事業費	21.034（百万円）※うちR7年度21.034（百万円）
R7年度補助額	10.517（百万円）
補助対象外の関連事業	—

オープンデータ化・可視化・情報発信	<ul style="list-style-type: none"> PLATEAU VIEWへの掲載 【3D都市モデル】 杉並区ホームページに掲載
-------------------	--

R7年度委託事業者	<ul style="list-style-type: none"> 株式会社フォーラムエイト（3D都市モデルの整備・更新、ユースケース開発） 国際航業株式会社（ユースケース開発）
-----------	--

Ⅲ. 令和7年度採択団体別 事業内容

15. 東京都杉並区

■ 3D都市モデル整備状況（基本セット） ※赤字：R7補助対象地物

LOD	整備地物	対象区域	整備面積	整備年度
LOD1	建築物 交通（道路） 都市計画決定情報 災害リスク	区全域	34km ²	R2年度新規 東京都整備 R5年度更新 東京都更新 R7年度更新 東京都更新
	土地利用 地形	区全域	34km ²	R2年度新規 東京都整備 R5年度更新 東京都更新 R7年度更新 東京都バー ジョンアップ
LOD2	建築物	主要駅周辺6箇所 荻窪駅周辺一部 主要駅+荻窪駅周辺一部	0.77km ² 0.1km ² 0.77km ² + 0.1km ²	R5年度新規 東京都整備 R6年度拡充 杉並区拡充 R7年度更新 東京都バー ジョンアップ

■ 3D都市モデル整備状況（基本セット以外） ※赤字：R7補助対象地物

LOD	整備地物	対象区域	整備面積	整備年度
LOD2.0	交通 (道路)	主要駅周辺6箇所 荻窪駅周辺一部 主要駅+荻窪駅周辺一部	0.77km ² 0.1km ² 0.77km ² + 0.1km ²	R5年度新規 東京都整備 R6年度拡充 杉並区拡充 R7年度更新 東京都バー ジョンアップ
LOD3.4		荻窪駅周辺一部 荻窪駅周辺一部	0.1km ² 0.1km ²	R6年度新規 杉並区整備 R7年度更新 東京都バー ジョンアップ
LOD3.0	都市設備	荻窪駅周辺一部 荻窪駅周辺一部	0.1km ² 0.1km ²	R6年度新規 杉並区整備 R7年度更新 杉並区バー ジョンアップ
LOD2.1 LOD3.0	橋梁	荻窪駅周辺一部 荻窪駅周辺一部	2箇所 2箇所	R6年度新規 杉並区整備 R7年度更新 杉並区バー ジョンアップ

分野	人口規模	面積規模	予算規模
防	15万以上	50未満	2-3千

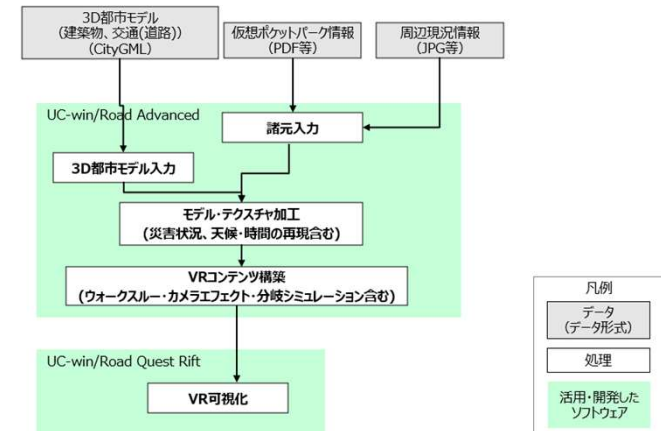


項目	活用したデータ	作成年度	地図情報レベル
平面図	都市計画基本図（既存）	R5年度	2,500
測量成果	-	-	-
属性情報	都市計画基礎調査（既存）	R4年度	-

■ ユースケース概要①

テーマ	防災・防犯
ユースケース 名称	3D都市モデルを活用したポケットパーク整備のVR体験
目的	木造住宅密集地域の解消に向けた空地の確保
取組内容	木造住宅密集地域である方南一丁目地区について、仮想空間上にポケットパークを整備し、ポケットパークの防災上の役割や日常時の価値について、区民のVR体験イベントを通して、普及啓発する。

■ システム構成図



Ⅲ. 令和7年度採択団体別 事業内容

15. 東京都杉並区

■ ユースケース開発方法

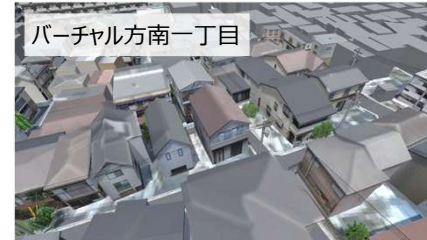
活用データ (3D都市モデル)	<ul style="list-style-type: none"> 建築物LOD1 交通(道路)LOD1 地形(起伏)LOD1
活用データ (上記以外)	<ul style="list-style-type: none"> 別アプリケーションで構築した構造物等の3Dモデル(道路附属物、屋根形状、ブロック塀等) 別アプリケーションで構築した仮想ポケットパーク 現地写真(3Dモデルに貼付け)
ユースケース 開発方法	<ul style="list-style-type: none"> 対象区域の既存の3D都市モデルをVR空間の構築に利用できるように変換する。 変換した3D都市モデルを利用して、方南一丁目地区の仮想空間上にポケットパークを整備する。 仮想空間を活用して、VR体験イベントを行う。 VR体験イベントのVR体験を可視化した動画を作成する。 VR体験イベント結果を活用し、地区内の配布物で報告。 作成した動画をHPで公開する。(予定)
政策・事業での 活用	VR体験を想定した、VR構築を行う。※想定地は、地域住民等と別途調整し決定する。
オープンデータ化 情報発信	VRシミュレーション体験に係る動画を杉並区ホームページに掲載予定

■ KPI

KPI	目標設定	達成状況
アンケートで“方南一丁目にポケットパークは必要だと思うか”という質問に“必要”と回答した区民の割合	80% (R7年度)	86% (R7年度)

分野	人口規模	面積規模	予算規模
防	15万以上	50未満	2-3千

■ ユースケース開発成果イメージ図



方南一丁目とポケットパークの構築

3D都市モデルのLOD1データをベースにバーチャル方南一丁目を再現し、その中に仮想ポケットパークを構築



VR体験会及び動画作成

日常時と災害時のポケットパークを体験できるVRイベントの開催と動画の作成

■ 得られた知見や今後の展望

- PLATEAUはデジタルツインである以上、仮想上であっても、宅地をポケットパークに整備して良いか許可をもらう必要があったため、地域の協力なくては成り立たなかった
- VRゴーグルを用いたVRコンテンツの体験は、VR酔いを抑制するための工夫が必要
- これまでまちづくり検討会に参加のなかった子供や子育て世代にも興味をもって体験してもらえた
- 動画を活用し、幅広い方へ知っていただいたり、今後の取組に活用したりすることを想定している
- 今後はポケットパーク整備に向けた、庁内及び地域との連携を検討する

Ⅲ. 令和7年度採択団体別 事業内容

15. 東京都杉並区

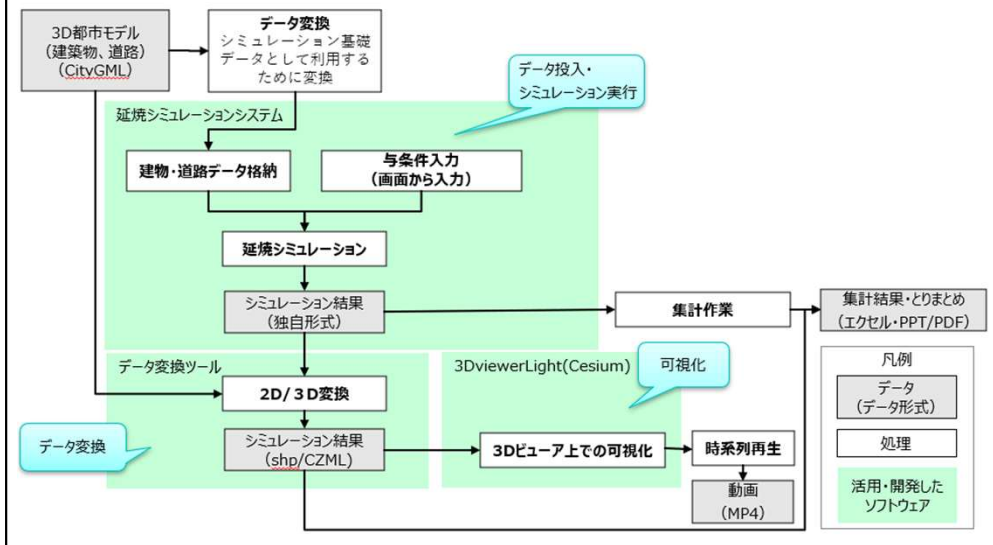


PLATEAU
by MLIT

■ ユースケース概要②

テーマ	防災・防犯
ユースケース名称	延焼シミュレーションの3次元可視化
目的	都市計画道路の整備効果を視覚的に分かりやすくし、ワークショップなどを通じて積極的に区民に情報提供する。
取組内容	東京都の都市計画道路の整備方針（第四次事業化計画）における杉並区内の優先整備路線のうち、区施行の補助132号線、補助227号線、都施行の補助133号線の3路線について、延焼シミュレーションを用いて整備効果の検証を行う。

■ システム構成図



分野	人口規模	面積規模	予算規模
防	15万以上	50未満	2-3千

■ ユースケース開発方法

活用データ (3D都市モデル)	<ul style="list-style-type: none"> 建築物モデル (LOD1) 都市計画決定情報モデル (LOD1) 土地利用モデル (LOD1) 交通 (道路) モデル (LOD1)
活用データ (上記以外)	<ul style="list-style-type: none"> 東京都 3Dデジタルマップ (杉並区) 杉並区道路台帳都市計画図街区基本点データ (街区点)
ユースケース 開発方法	<ul style="list-style-type: none"> 対象区域の3D都市モデルを活用し、延焼シミュレーションが可能ないように変換。 変換した3D都市モデルを用いて、複数パターンの延焼シミュレーションを実施し、延焼拡大状況の予測を行う。 シミュレーション結果を活用し、延焼拡大状況を可視化。その後、延焼遮断効果を評価する。
政策・事業での 活用	<ul style="list-style-type: none"> シミュレーション結果から動画を作成し、(仮称) デザイン会議やオープンハウス等の区民対話の場で活用する。 上記資料は区HPで公開予定。 出火点からの延焼シミュレーションを実施し、延焼面積、焼失面積及び延焼周長を算定する。 延焼拡大状況から延焼遮断効果を評価するとともに、3Dに可視化した再現映像を作成する。
オープンデータ化 情報発信	延焼シミュレーション動画を杉並区ホームページに掲載予定。

Ⅲ. 令和7年度採択団体別 事業内容

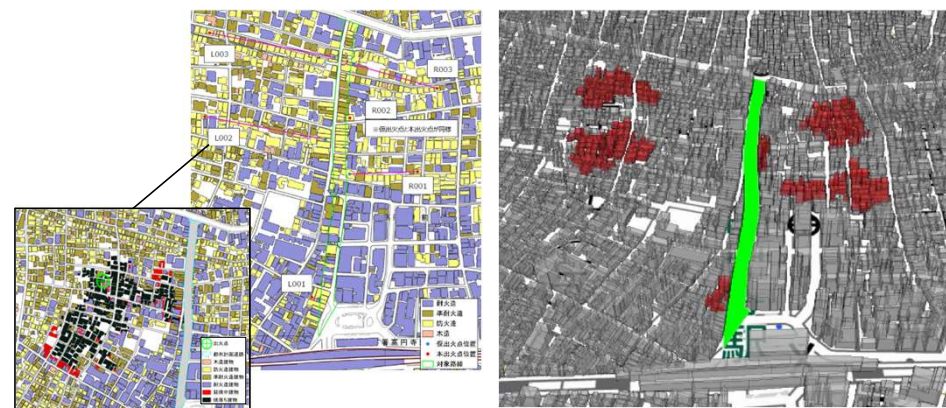
15. 東京都杉並区

■ KPI

KPI	目標設定	達成状況
都市計画道路の整備効果についての理解（アンケート）	80% (R7年度)	R8年度 計測予定
計画範囲（特定3路線）における延焼シミュレーションツールの整備	100% (R7年度)	100% (R7年度)

分野	人口規模	面積規模	予算規模
防	15万以上	50未満	2-3千

■ ユースケース開発成果イメージ図



延焼遮断効果測定イメージ

- 延焼拡大の可能性と遮断ラインの影響範囲を可視化。
- 想定延焼区域を地図上に重ね、延焼遮断効果を確認。
- 延焼リスクを俯瞰的に把握できるよう整理。

3D可視化イメージ

- 市街地を3D表示し、延焼想定範囲を立体的に可視化。
- 延焼の広がりや計画道路の位置関係を立体的に把握でき、整備による防災効果を直感的に理解できるように整理。

■ 得られた知見や今後の展望

- 延焼リスクと計画道路の位置関係を直感的に把握でき、平面図のみでは困難だった空間的な評価が可能となった。
- 今年度実施に至らなかったアンケート調査については、次年度以降に実施し、住民等の理解度の把握とフィードバックの収集を進める。
- 市街地再整備や防災まちづくり等の議論において、市民向け説明資料への活用など、外部への説明にも利活用を進めていきたい。

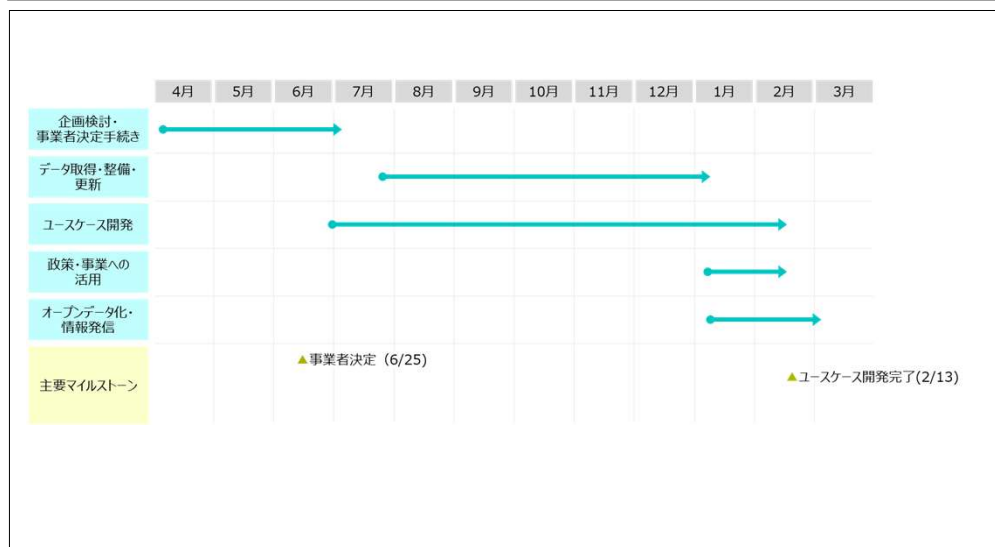
Ⅲ. 令和7年度採択団体別 事業内容

16. 東京都北区

■ 団体基礎情報・プロジェクト全体像

人口	約35.4万人（令和5年1月時点）
市域全域面積	約21km ² （令和5年1月時点）
目標	都市中心拠点にふさわしいにぎわいの創出
課題	<ul style="list-style-type: none"> 王子駅周辺の都市機能の集積・再配置と王子のシンボルである飛鳥山公園へのアクセス性向上。 赤羽駅周辺の都市機能の集積・再配置と歩行者回遊性向上。

■ 令和7年度スケジュール



分野	人口規模	面積規模	予算規模
街	15万以上	50未満	1千未満

担当部局	拠点まちづくり担当課
------	------------



■ 補助事業実施項目

事前調査等	—
3D都市モデル整備・更新	—
ユースケース開発	3D都市モデルを活用した人流可視化事業
推進事業	—

総事業費	8.000（百万円）※うちR7年度8.000（百万円）
R7年度補助額	4.000（百万円）
補助対象外の関連事業	—

オープンデータ化・可視化・情報発信	<ul style="list-style-type: none"> PLATEAU VIEWへの掲載。【UCデータ】 北区ホームページに掲載。
-------------------	--

R7年度委託事業者	国際航業株式会社（ユースケース開発）
-----------	--------------------

Ⅲ. 令和7年度採択団体別 事業内容

16. 東京都北区

■ 3D都市モデル整備状況（基本セット）

※赤字：R7補助対象地物

LOD	整備地物	対象区域	整備面積	整備年度
LOD1	建築物	北区全域	20km ²	R2年度新規 R4年度更新 R5年度更新
	交通（道路） 都市計画決定情報 土地利用 災害リスク（洪水・土砂・内水・高潮） 地形	北区全域	20km ²	R5年度新規
LOD2	建築物	拠点地区	1.06km ²	R5年度新規

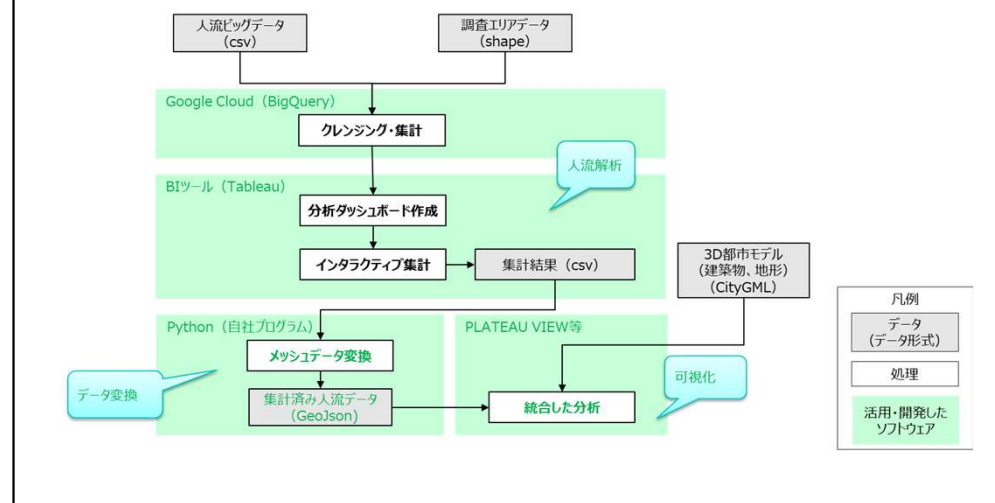
項目	活用したデータ	作成年度	地図情報レベル
平面図	都市計画基本図（既存）	—	2,500
測量成果	新規測量（航空写真）	—	2,500
属性情報	都市計画基礎調査（既存）	—	—

分野	人口規模	面積規模	予算規模
街	15万以上	50未満	1千未満

■ ユースケース概要

テーマ	都市計画・まちづくり
ユースケース名称	3D都市モデルを活用した人流可視化事業
目的	都市中心拠点にふさわしいにぎわいの創出
取組内容	歩行者中心のまちづくりを検討するため、現状の王子駅周辺（飛鳥山公園等の公共施設含む）及び赤羽駅周辺（JR駅・メトロ駅等）の人流を調査し、3D都市モデルで分かりやすく可視化する。また、これを関係者協議等に活用しスムーズな計画立案を図る。

■ システム構成図



Ⅲ. 令和7年度採択団体別 事業内容

16.東京都北区

■ ユースケース開発方法

活用データ (3D都市モデル)	建築物LOD1,LOD2 (名称、用途、構造種別、計測高さ、地上階数)
活用データ (上記以外)	<ul style="list-style-type: none"> 人流計測データ (Wi-Fiパケットセンサ) 人流ビッグデータ (GPSポイントデータ)
ユースケース 開発方法	<ul style="list-style-type: none"> 対象区域での人流について、携帯電話事業者等による人流データの解析及び現地計測を実施。 人流調査の結果と3D都市モデルを重ね合わせる。 人流を可視化したものを一般に公開。
政策・事業での 活用	<ul style="list-style-type: none"> ビッグデータや現地計測で取得した現況の人流を3D都市モデル上で可視化した結果をまちづくりの会議体での資料や関係機関協議資料として活用。 特に赤羽駅周辺はR8年度にかけてまちづくりガイドラインを策定していく予定であるため、可視化したイメージで関係者間のイメージ共有を図る。
オープンデータ化 情報発信	<ul style="list-style-type: none"> PLATEAU VIEWに搭載 人流イメージを北区ホームページに掲載 (予定)

■ KPI

KPI	目標設定	達成状況
3D都市モデルを活用した人流イメージとそうでないものを比較し、3D都市モデルを活用した方が人流のイメージが深まった職員等の割合。	80% (R7年度)	77.3% (R7年度)

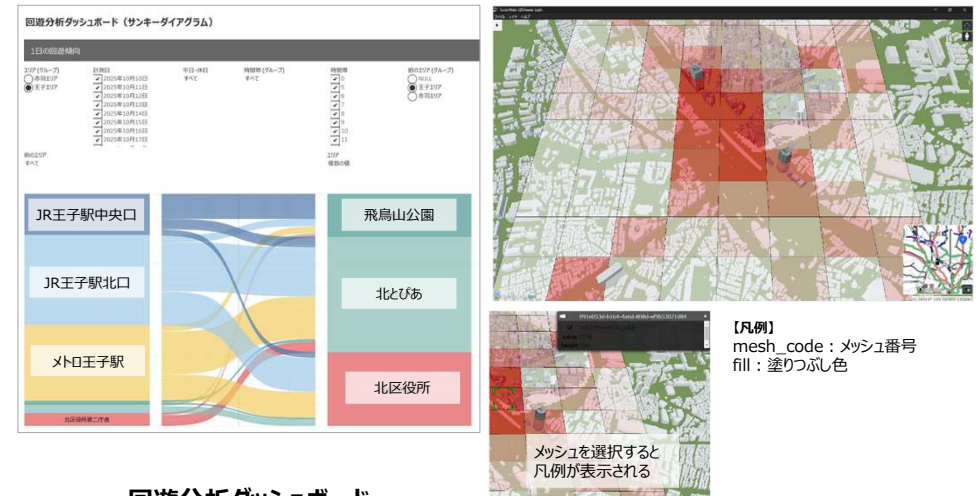
KPI未達を受けて の今後の対応	目標には達しなかったものの3D都市モデルを活用することで概ね人流イメージが深まることを示すことができました。今後は、建物用途等の属性情報や高さ方向の人流データなど、更なる3D都市モデルの特性の活用方法について検討を行う。
---------------------	--

分野	人口規模	面積規模	予算規模
街	15万以上	50未満	1千未満



PLATEAU
by MLIT

■ ユースケース開発成果イメージ図



回遊分析ダッシュボード

Wi-Fiセンサを用いて計測した王子エリア内の移動傾向を可視化。右が目的地で左側が流入元、帯の太さが移動量を示す。例えば北区役所にはJR王子駅北口からの来訪者が一番多いであろうことが分かります。

人流分析結果の都市モデル重畳

GPSデータにより北区住民の主な訪問先を集計し、都市モデルに重畳

■ 得られた知見や今後の展望

Wi-Fiセンサによる各拠点の人流増減の把握や、GPSデータを用いた赤羽駅と赤羽岩淵駅の移動ルートの分析を行うことで、普段想像していた傾向をデータとして確認できた。またその移動先を集計したメッシュデータを3D都市モデル上に重ねてみることで、移動先のイメージを捉えやすくなることが分かった。今回は全体像の把握だったが今後はより具体的なまちづくりテーマに活かしたい。

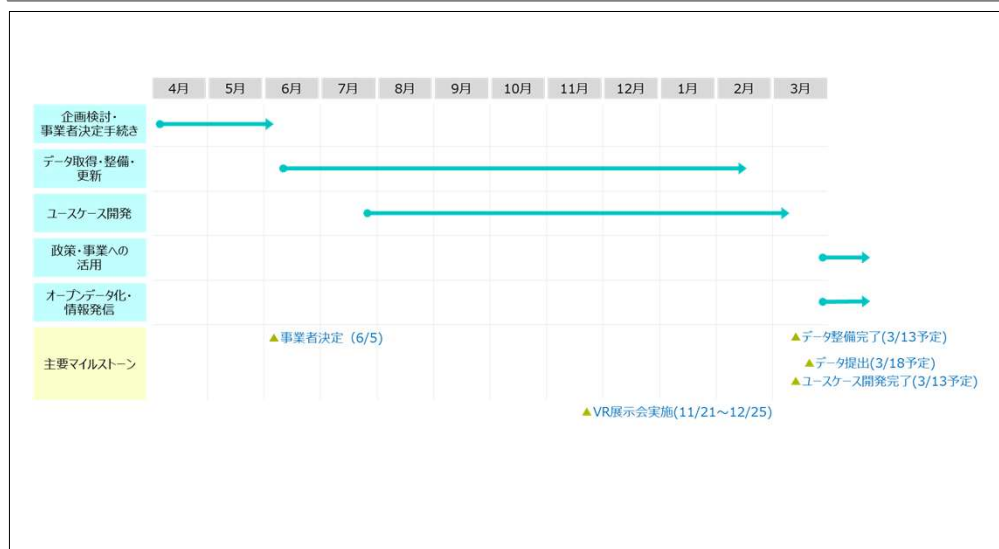
Ⅲ. 令和7年度採択団体別 事業内容

17. 東京都練馬区

■ 団体基礎情報・プロジェクト全体像

人口	約75.1万人（令和8年1月時点）
市域全域面積	約48km ² （令和5年1月時点）
目標	練馬区立美術館の再整備に併せて、中村橋駅周辺がアートを感じられるまちとなるように、美術館と一体となったまちなみ整備の検討をする。
課題	アートを感じられるまちなみ整備について、住民とイメージを共有する必要がある。

■ 令和7年度スケジュール



分野	人口規模	面積規模	予算規模
街	15万以上	50未満	1千未満

担当部局	東部地域まちづくり課
------	------------



■ 補助事業実施項目

事前調査等	—
3D都市モデル整備・更新	—
ユースケース開発	3D都市モデルを活用したまちなみ整備等の可視化事業
推進事業	—

総事業費	7.447（百万円）※うちR7年度7.447（百万円）
R7年度補助額	3.723（百万円）
補助対象外の関連事業	—

オープンデータ化・可視化・情報発信	※東京都により整備済み ・G空間情報センターへの掲載【3D都市モデル／関連データ】 ・PLATEAU VIEWへの掲載【3D都市モデル／関連データ】
-------------------	--

R7年度委託事業者	パナソニック(株) エレクトリックワークス社（ユースケース開発）
-----------	----------------------------------

Ⅲ. 令和7年度採択団体別 事業内容

17. 東京都練馬区

■ 3D都市モデル整備状況（基本セット）

※赤字：R7補助対象地物

LOD	整備地物	対象区域	整備面積	整備年度
LOD1	建築物 交通（道路） 都市計画決定情報 土地利用 災害リスク 地形	練馬区全域	48.08km ²	R2年度新規 R4年度更新 R5年度更新
LOD2	建築物	駅前空間	0.69km ²	R5年度更新

■ 3D都市モデル整備状況（基本セット以外）

※赤字：R7補助対象地物

LOD	整備地物	対象区域	整備面積	整備年度
LOD2	交通（道路）	駅前空間	0.69km ²	R5年度更新

項目	活用したデータ	作成年度	地図情報レベル
平面図	都市計画基本図（既存）	R3年度	2,500
測量成果	既存資料（航空写真）		2,500
属性情報	都市計画基礎調査（既存）		—

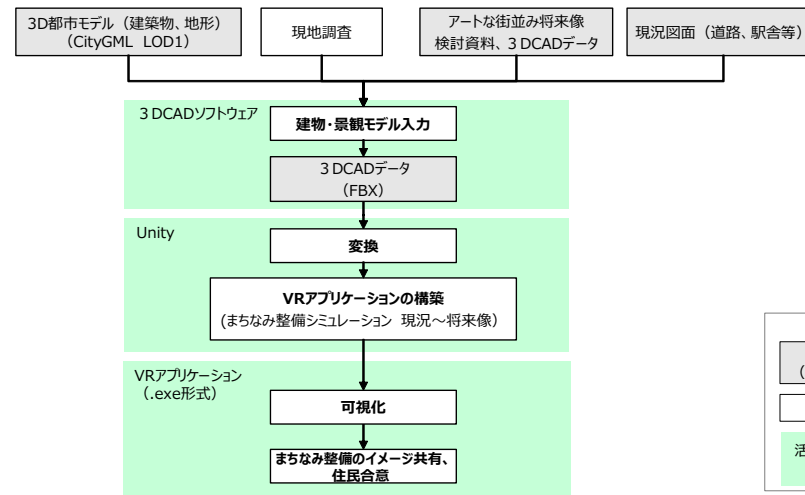
分野	人口規模	面積規模	予算規模
街	15万以上	50未満	1千未満



■ ユースケース概要

テーマ	都市計画・まちづくり
ユースケース名称	3Dモデルを活用したまちなみ整備等の可視化事業
目的	練馬区立美術館の再整備に併せて、中村橋駅周辺がアートを感じられるまちとなるように、美術館と一体となったまちなみ整備の検討をする。
取組内容	R7年度に検討する駅周辺のアートを感じられるまちなみ整備を可視化する。これを活用し、区のまちづくりの取組について住民合意を進める。

■ システム構成図



Ⅲ. 令和7年度採択団体別 事業内容

17. 東京都練馬区

■ ユースケース開発方法

活用データ (3D都市モデル)	<ul style="list-style-type: none"> 建築物LOD1, LOD2 交通（道路）LOD1, LOD2 地形LOD1
活用データ (上記以外)	—
ユースケース 開発方法	<ul style="list-style-type: none"> 整備済みの3D都市モデルデータを活用し、美術館周辺の既存のまちなみを再現する。 アートを感じられるまちとなるように、美術館と一体となったまちなみ整備を再現し、可視化する。
政策・事業での 活用	11月下旬～12月中旬に開催するまちづくりイベント(展示会)を通じて、まちの将来像のイメージを住民と共有し、住民合意を進める。
オープンデータ化 情報発信	—

■ KPI

KPI	目標設定	達成状況
まちづくりイベントにおいて、アートを感じられるまちなみ整備をVRで可視化することにより、まちの将来像のイメージを共有できたイベント参加者の割合	50% (R7年度)	74.6% (R7年度)

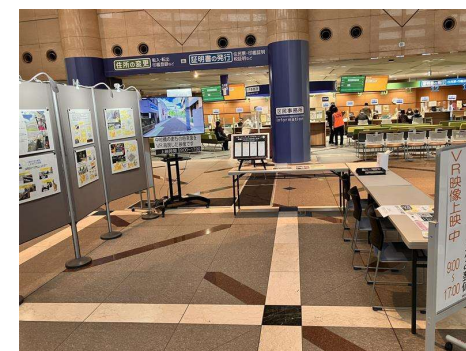
分野	人口規模	面積規模	予算規模
街	15万以上	50未満	1千未満

■ ユースケース開発成果イメージ図



アートなまちなみ3D都市モデルデータ

地域住民との合意形成に資する「アートを感じられるまちの将来像」を可視化。アート性のあるデザインの色合いや配置の変更、デザインの追加、複数案のパターンの切替えを可視化することで、比較・検討を容易にした。



VR（バーチャルリアリティ）展示会

中村橋駅周辺の将来のまちのイメージを可視化した映像やパネルを展示し、広く区民等と共有した。また、まちづくりに関する意見を聴取するためのアンケートを実施した。（11/21～12/25の期間、複数の区立施設で実施）

■ 得られた知見や今後の展望

区が考える「アートを感じられるまちの将来像」について、区民等から具体的かつ今後を見据えた意見や提案をいただくことができた。

引き続き3D都市モデルを用いたVRやパース等を使用して、地域住民や関係者との一層の共有を図る。

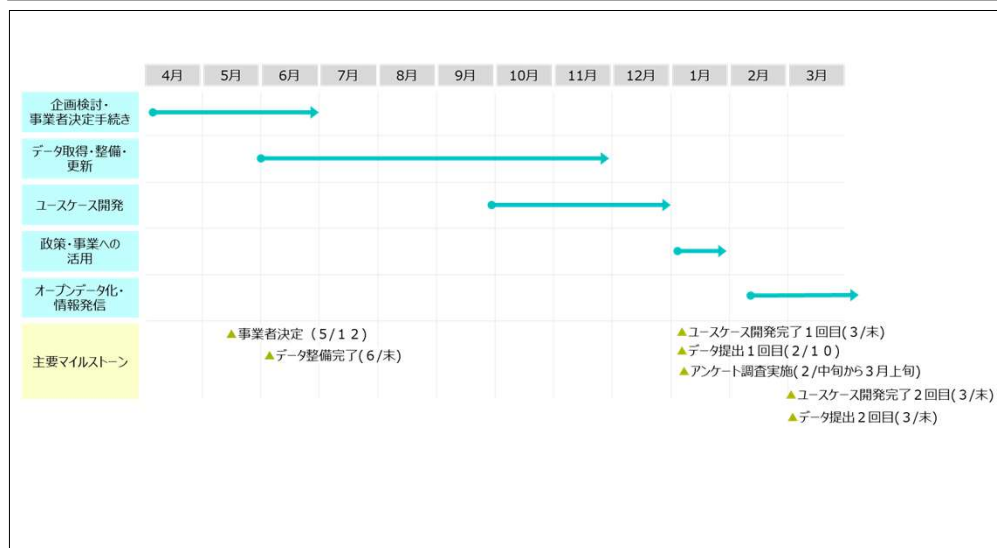
Ⅲ. 令和7年度採択団体別 事業内容

18. 東京都東久留米市

■ 団体基礎情報・プロジェクト全体像

人口	約11.7万人（令和5年1月時点）
市域全域面積	約13km ² （令和5年1月時点）
目標	「安全で住み続けたいまち」の実現
課題	第一種低層住居専用地域で「準防火地域」に指定されていない区域を準防火指定に指定することにより災害時の延焼を防止。

■ 令和7年度スケジュール



分野	人口規模	面積規模	予算規模
街	5-15万	50未満	1-2千

担当部局	都市計画課
------	-------



■ 補助事業実施項目

事前調査等	—
3D都市モデル整備・更新	—
ユースケース開発	3D都市モデルを活用した延焼シミュレーション事業
推進事業	—

総事業費	10.197（百万円） ※うちR6年度補正10.197（百万円）
R7年度補助額	R6年度補正：10.000（百万円）
補助対象外の関連事業	—

オープンデータ化・可視化・情報発信	—
-------------------	---

R7年度委託事業者	株式会社パスコ（ユースケース開発）
-----------	-------------------

Ⅲ. 令和7年度採択団体別 事業内容

18. 東京都東久留米市

■ 3D都市モデル整備状況（基本セット）

※赤字：R7補助対象地物

LOD	整備地物	対象区域	整備面積	整備年度
LOD1	建築物	東久留米市全域	12.88km ²	R5年度新規
	交通（道路） 都市計画決定情報 土地利用 災害リスク（洪水・土砂） 地形	東久留米市全域 G空間情報センター のデータを利用予定	12.88km ²	
LOD2	建築物		0.11km ²	

項目	活用したデータ	作成年度	地図情報レベル
平面図	都市計画基本図（既存）	H27年度	2,500
測量成果	その他	R5年度	2,500
属性情報	その他	R5年度	

分野	人口規模	面積規模	予算規模
街	5-15万	50未満	1-2千

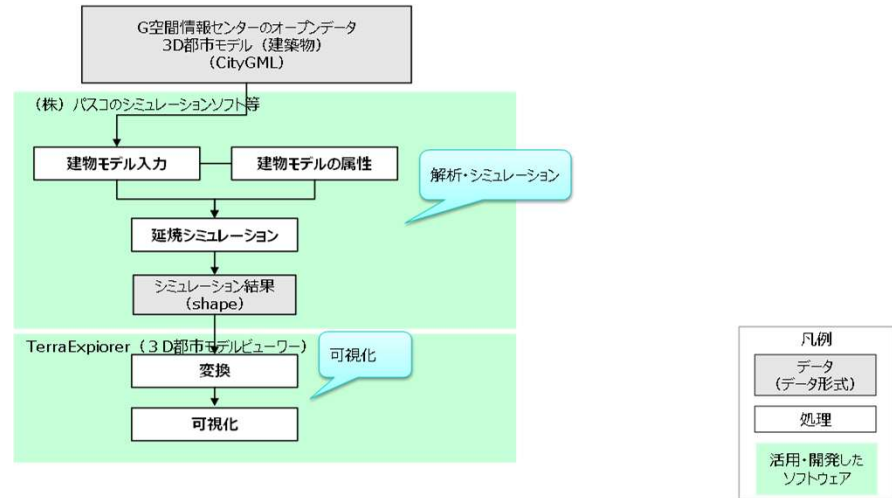


PLATEAU
by MLIT

■ ユースケース概要

テーマ	都市計画・まちづくり
ユースケース名称	3D都市モデルを活用した火災延焼シミュレーションによる「準防火地域」等の見直し検討
目的	第一種低層住居専用地域における準防火地域の指定による不燃化の有効性を検証する。
取組内容	<ul style="list-style-type: none"> 第一種低層住居専用地域で準防火地域に指定されていない区域を「準防火地域」に指定することによる災害時の被害が軽減することを検証する。 都市計画道路等の開通による不燃化効果を検証。

■ システム構成図



Ⅲ. 令和7年度採択団体別 事業内容

18. 東京都東久留米市

■ ユースケース開発方法

活用データ (3D都市モデル)	建築物LOD1 (構造種別、地上階数)
活用データ (上記以外)	東京都地形図、東京都都市施設情報
ユースケース 開発方法	<ul style="list-style-type: none"> G空間情報センターのオープンデータを活用し、延焼シミュレーションを実施する。 「現在のまち」の姿と、「用途地域変更」及び「準防火地域指定」後の「将来のまち」の建築物データを用いて、それぞれ火災延焼シミュレーションを実施し、不燃化効果について検証する。 シミュレーション結果を活用し、3D都市モデルで不燃化効果を検証。 シミュレーション結果を活用して、「用途地域変更」及び「準防火地域指定」後の不燃化効果について視覚的に理解できる画像等を作成する。 不燃化効果の結果及び画像等を市民等の説明に活用する。
政策・事業での 活用	<ul style="list-style-type: none"> 「現在のまち」の姿と、「準防火地域」指定後の「将来のまち」の建築物データを用いて、それぞれ延焼シミュレーションを実施し、不燃化効果について検証する。 延焼シミュレーションの結果、「準防火地域」ではなく「用途地域」の変更が、地域の不燃化を促進することが確認できた。 都市計画道路沿道の用途地域等の変更を行うことが沿道の不燃化効果につながることを理解できるよう、「3D延焼シミュレーション」の結果を住民へ送付した。
オープンデータ化 情報発信	-

■ KPI

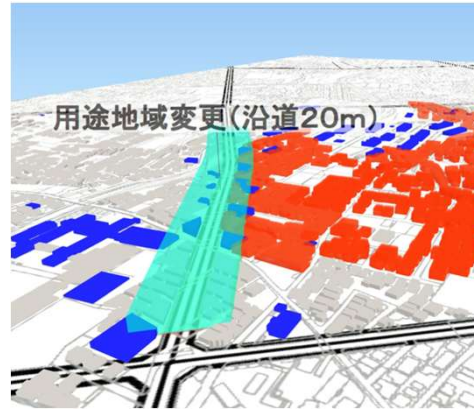
KPI	目標設定	達成状況
3D都市モデルを活用した延焼シミュレーションを見ることで「用途地域」の変更が防火対策に効果的であることを理解できたと回答した住民の割合	60% (R7年度以降)	70% (R7年度)

分野	人口規模	面積規模	予算規模
街	5-15万	50未満	1-2千

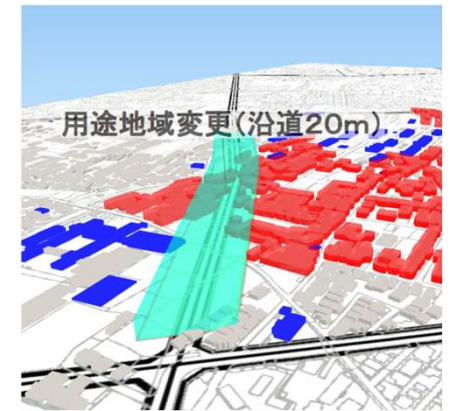


■ ユースケース開発成果イメージ図

- 耐火造以外の建物
- 耐火造の建物
- 延焼範囲



用途地域の変更が延焼を防ぐ様子
都市計画道路沿道の用途地域が変更となり、沿道には商業施設などの耐火建物が建設され、延焼を防ぐ



準防火地域の指定のみの効果
準防火地域の指定のみであると都市計画道路を跨いで延焼が広がることが判明

■ 得られた知見や今後の展望

- 平面で表現した地図を立体的に見せることで、仮想で作った街並みなどがリアルに再現することができた。建物に高さを与え、あらゆる角度から検証できることは、説明資料として説得力がある。
- 災害や都市計画に関するデータはオープンデータで公開されているものも多いため、必要な条件を付与することで、様々な情報が可視化できる可能性がある。可視化するには、3D都市モデルを使用することで、地図上に様々なデータを3D化できると考えられる。

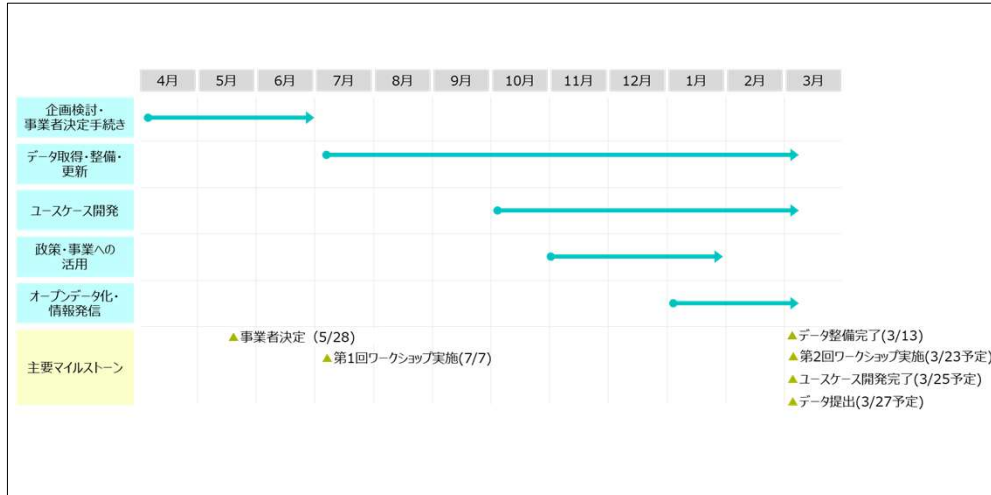
Ⅲ. 令和7年度採択団体別 事業内容

19. 神奈川県藤沢市

■ 団体基礎情報・プロジェクト全体像

人口	約44.5万人（令和5年1月時点）
市域全域面積	約70km ² （令和5年1月時点）
目標	<ul style="list-style-type: none"> 激甚化する災害の被災後におけるより良い復興まちづくりの実現（事前復興まちづくりの取組） 歩いて楽しい歩行空間の実現（交通安全・交通混雑・ウォーカブルの取組）
課題	<ul style="list-style-type: none"> 住民や市職員への災害リスクと復興事前準備の必要性の周知不足 復興事前準備にかかわる課題の抽出と住民との合意形成の方法 都市防災にかかわる都市計画の検証 まちづくりにおける交通安全・交通混雑・ウォーカブルな空間の検証

■ 令和7年度スケジュール



分野	人口規模	面積規模	予算規模
街・防	15万以上	50-100	5-10千

担当部局	都市計画課
------	-------



■ 補助事業実施項目

事前調査等	3D都市モデルの整備範囲や整備内容の検討
3D都市モデル整備・更新	<ul style="list-style-type: none"> 藤沢市都市計画基本図修正業務 3D都市モデル整備事業（LOD1, LOD2, LOD3, LOD3.2）
ユースケース開発	<ul style="list-style-type: none"> 3D都市モデルを活用した災害リスクの可視化事業 3D都市モデルを活用した火災延焼シミュレーションの実施と可視化事業 3D都市モデルを活用したまちづくり参画ツール構築事業
推進事業	3D都市モデルを活用した庁内の事前復興まちづくりワークショップの開催

総事業費	171.400（百万円）※うちR7年度67.400（百万円）
R7年度補助額	33.700（百万円）
補助対象外の関連事業	<ul style="list-style-type: none"> 建築・都市のDXの推進に向けたユースケース開発業務（地下埋設物モデルを活用した都市開発実証等） デジタルライフライン全国総合整備実現会議（インフラ管理のDX）

オープンデータ化・可視化・情報発信	<ul style="list-style-type: none"> G空間情報センターへの掲載 PLATEAU VIEWへの掲載 藤沢市ホームページに掲載 	【3D都市モデル／関連データ】 【3D都市モデル／関連データ】
-------------------	---	------------------------------------

R7年度委託事業者	<ul style="list-style-type: none"> エアロトヨタ(株)（旧：朝日航洋(株)） (株)パスコ 	（事前調査、3D都市モデル整備・更新、ユースケース開発推進事業） （3D都市モデル整備・更新、ユースケース開発）
-----------	--	---

Ⅲ. 令和7年度採択団体別 事業内容

19. 神奈川県藤沢市



■ 3D都市モデル整備状況（基本セット） ※赤字：R7補助対象地物

LOD	整備地物	対象区域	整備面積	整備年度
LOD1	建築物 交通（道路） 災害リスク（洪水、土砂、津波、内水・高潮） 地形	藤沢市域全域	69.56km ²	R7年度新規
	都市計画決定情報 土地利用	藤沢都市計画区域	69.56km ²	
LOD2	建築物	藤沢駅南口エリア 沿岸部・江の島エリア	約150棟 約1300棟	

■ 3D都市モデル整備状況（基本セット以外） ※赤字：R7補助対象地物

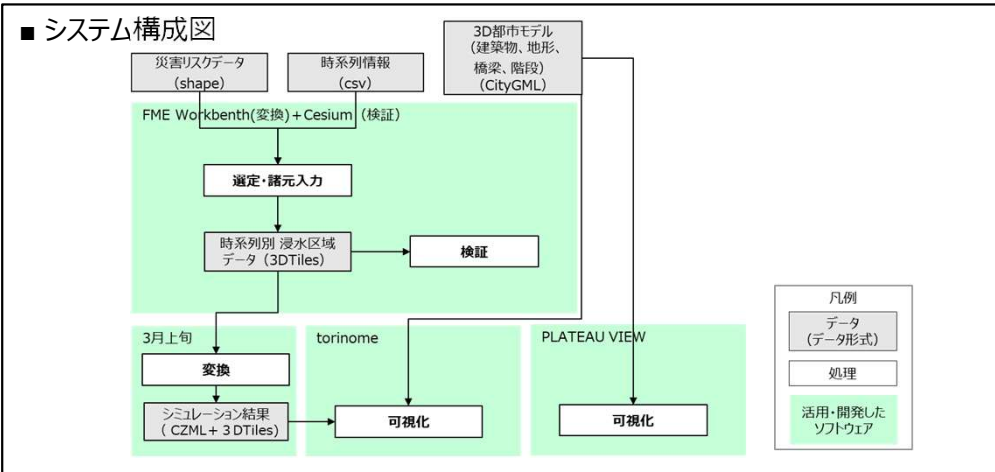
LOD	整備地物	対象区域	整備面積	整備年度
LOD3	橋梁	江の島弁天橋/江の島大橋/弁天橋/片瀬橋/鵜沼橋	計5箇所	R7年度新規
LOD3.2	交通（道路：階段）	江島神社参道	約110m	

項目	活用したデータ	作成年度	地図情報レベル
平面図	都市計画基本図（修正）	R7年度	2,500
測量成果	既存資料（航空写真）	R6年度	2,500
属性情報	都市計画基礎調査（既存）	R3年度	

分野	人口規模	面積規模	予算規模
街・防	15万以上	50-100	5-10千

■ ユースケース概要①

テーマ	防災・防犯
ユースケース名称	3D都市モデルを活用した災害リスクの可視化事業
目的	復興事前準備にかかわる課題の抽出と住民との合意形成の方法を探る。
取組内容	<p>災害リスクの可視化により市民・事業者・行政の災害リスクへの理解、防災意識の向上及び災害への備えに取り組む。3D都市モデルについては、基本セットに加え、災害時・避難時の影響を考え、津波災害のリスクが顕著なエリアの橋梁（LOD3）、階段（LOD3.2）などを活用し可視化を図る。</p> <p>併せて事前復興まちづくりにおける基礎資料として住民とのWS（復興まちづくりイメージトレーニング等）で利用するほか、動画を作成しプロモーションに利用する。</p>



Ⅲ. 令和7年度採択団体別 事業内容

19. 神奈川県藤沢市

■ ユースケース開発方法

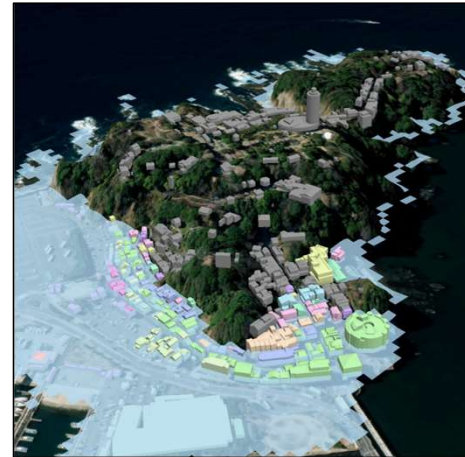
活用データ (3D都市モデル)	<ul style="list-style-type: none"> 建築物LOD1, LOD2 (名称、用途、構造種別、計測高さ、地上階数) 災害リスクLOD1 (津波、洪水、内水、高潮浸水想定区域、土砂災害警戒区域)
活用データ (上記以外)	藤沢市 ハザードマップ
ユースケース 開発方法	<ul style="list-style-type: none"> 対象区域の3D都市モデルをXR等で活用できるように変換する。 変換した3D都市モデルと洪水浸水想定区域、津波・高潮浸水想定区域、土砂災害警戒区域等データを重畳する。 シミュレーション結果を活用し、3Dビューア上でデータを可視化する。 結果を活用し、関係部署を集めてデータの活用方法の検討会を開催するとともにHPで公開する。
政策・事業での 活用	<ul style="list-style-type: none"> 作成されたデータは一般公開を行い、住民及び職員の意識醸成に用いる。 事前復興まちづくりにおける基礎資料として扱うことを念頭に関係部署を集めてデータの活用方法の検討を行う。 3D都市モデルのプロモーション動画や災害リスクの啓発動画を作成し、デジタルサイネージなどで公開することで、3D都市モデルへの関心と災害リスクへの意識啓発を図る。
オープンデータ化 情報発信	—

■ KPI

KPI	目標設定	達成状況
HP上での3D都市モデルと動画の公開 (アクセス数)	20回/日 (R7年度)	40回/日 (R7年度)
災害リスクの理解が深まった職員の割合	70% (R7年度)	91% (R7年度)
災害リスクの理解が深まった市民の割合	70% (R8年度)	R8年度測定予定

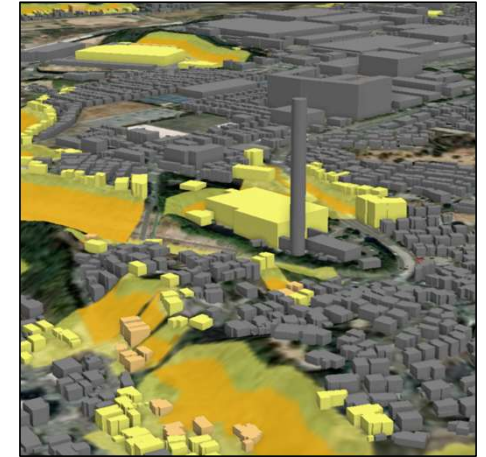
分野	人口規模	面積規模	予算規模
街・防	15万以上	50-100	5-10千

■ ユースケース開発成果イメージ図



**建築物モデル 色分け表示
(津波浸水ランク別)**

3D都市モデルの建築物に津波浸水想定区域を重ね合わせ、浸水深区分ごとに色分け表示することで、津波リスクの高い建築物やエリアを直感的に把握できる。



**建築物モデル 色分け表示
(土砂災害警戒区域ランク別)**

3D都市モデルの建築物に土砂災害警戒区域を重ね合わせ、警戒区域区分ごとに色分け表示することで、土砂災害リスクの高い建築物や地域を視覚的に把握できる。

■ 得られた知見や今後の展望

本ユースケースでは可視化にとどまっているものの、3Dの有用性と活用に関する視座を一定程度得ることができた。今後、整備した3Dモデルや災害リスクのデータを用い、デジタル空間だけでなく、フィジカル空間それぞれの特性を生かした手段や手法を検討し、内容の正しい理解や新たな発見に資する取り組みを進めていきたい。

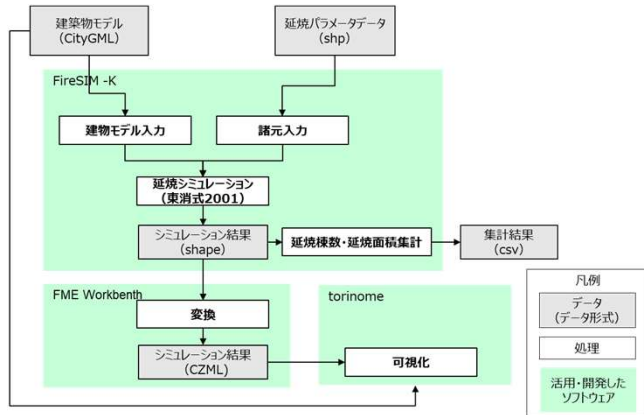
Ⅲ. 令和7年度採択団体別 事業内容

19. 神奈川県藤沢市

■ ユースケース概要②

テーマ	防災・防犯
ユースケース名称	3D都市モデルを活用した火災延焼シミュレーションの実施と可視化事業
目的	大規模地震の事前復興の対象エリアである辻堂地区を対象として、火災について延焼モデルを用いて予測し、火災に強い都市計画策定のための参考資料とする。
取組内容	火災等の災害に強いまちづくりの実現のため、藤沢市で過去に実施した災害危険度判定調査でも地区レベルの延焼危険度の高い辻堂地区を対象として、延焼モデルを用いて検証し、可視化する。(木造率が高い低層住居専用地域と準防火地域との関係性等の検討と提案) 整備したデータについては今後、事前復興まちづくりにおける基礎資料として復興まちづくりイメージトレーニング等で活用予定。

■ システム構成図



PLATEAU
by MLIT

分野	人口規模	面積規模	予算規模
街・防	15万以上	50-100	5-10千

■ ユースケース開発方法

活用データ (3D都市モデル)	<ul style="list-style-type: none"> 建築物LOD1 (構造種別) 道路LOD1 用途地域
活用データ (上記以外)	<ul style="list-style-type: none"> 都市計画基礎調査：建物利用現況データ 都市計画基礎調査：公園ポリゴンデータ 気象庁情報 (アメダス)
ユースケース開発方法	<ul style="list-style-type: none"> 対象区域の3D都市モデルを3Dビューア上で活用できるように変換する。 建物条件 (建蔽率、耐火造率、木造比率など) や気候条件 (風向、風速など) を変えて作成を行う。 シミュレーション結果を活用し、3Dビューア上でデータを可視化する。 結果を活用し、関係部署を集めて活用方法を検討する。
政策・事業での活用	<ul style="list-style-type: none"> シミュレーションについては、建物条件 (建蔽率、耐火造率、木造比率など) や基盤条件を変えて作成し、R8年度に予定する復興まちづくりイメージトレーニングにおける基礎資料としても活用できるよう時系列などを含めて可視化する。 関係部署を集めてデータの活用方法を検討する。
オープンデータ化 情報発信	-

■ KPI

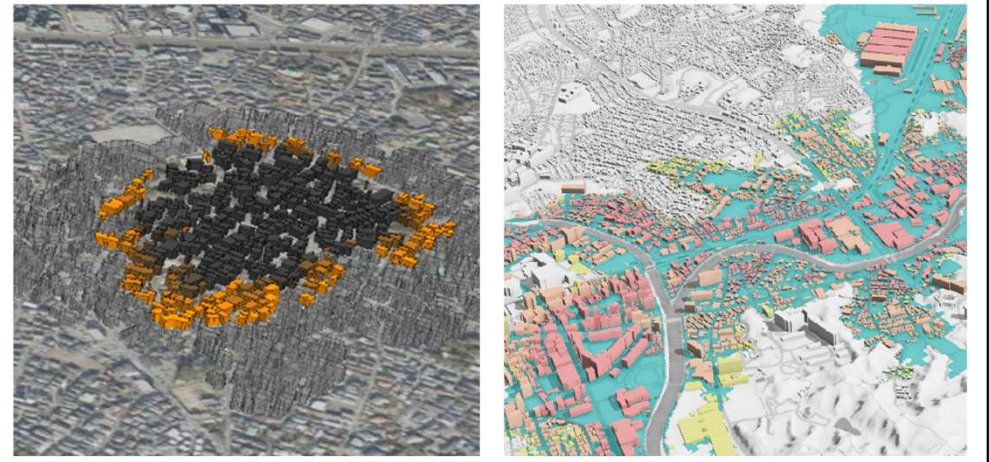
KPI	目標設定	達成状況
復興まちづくりの事前準備の重要性の理解が深まった職員の割合	70% (R7年度)	73% (R7年度)
復興まちづくりの事前準備の重要性の理解が深まった市民の割合	70% (R8年度)	R8年度測定予定

Ⅲ. 令和7年度採択団体別 事業内容

19. 神奈川県藤沢市

分野	人口規模	面積規模	予算規模
街・防	15万以上	50-100	5-10千

■ ユースケース開発成果イメージ図



火災延焼シミュレーションにおける時系列データの可視化

延焼リスクの高い地区を対象に風速や建物構造などの諸条件を加味した火災延焼シミュレーション（動的データ）を実施し、3D都市モデルと重ね合わせることで燃え広がり方を確認することができ、正確な情報の共有が図られる。

洪水浸水想定における時系列データの可視化

洪水浸水想定における時系列データを3D都市モデルと重ねて可視化することで、視覚的に洪水などの災害リスクを確認することで、避難等に資する情報の共有が図られる。

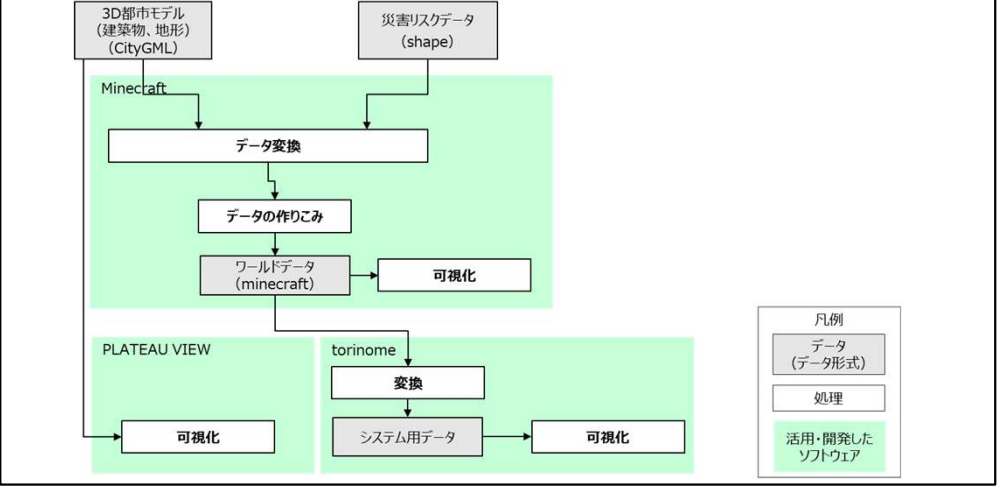
■ 得られた知見や今後の展望

今回開発し可視化した火災延焼シミュレーションは都市計画における地域地区（準防火地域）等に指定した際の火災の燃え広がり方の検証となっている。風速の影響と建物構造による燃え広がり方の抑制のされ方は顕著であり、今後の都市防災を考える上でも、情報を共有する上でも有用であると考えられる。今後は、こうした情報も踏まえて都市防災の在り方について様々な主体と検討を進めていきたい。

■ ユースケース概要③

テーマ	防災・防犯／都市計画・まちづくり
ユースケース名称	3D都市モデルを活用したまちづくり参画ツール構築事業
目的	大規模な津波被害が想定される沿岸部・江の島エリアを対象に、災害リスクや避難路の検討などを意識したうえで、多様な世代がまちづくりに興味を持ち、まちづくりに参画し学習していくことを目指し、3D都市モデルデータのゲーム空間での活用を図る。
取組内容	沿岸部・江の島エリアをLOD2で整備するとともに、Microsoft社が販売するMinecraftでのデータ構築を行い、災害リスクを重ね合わせ、まちづくりへの興味や参画意識の醸成を図る。

■ システム構成図



Ⅲ. 令和7年度採択団体別 事業内容

19. 神奈川県藤沢市

■ ユースケース開発方法

活用データ (3D都市モデル)	<ul style="list-style-type: none"> 建築物LOD1, LOD2 (名称、用途、構造種別、計測高さ、地上階数) 道路LOD1、LOD3 橋梁LOD3 災害リスクLOD1 (津波)
活用データ (上記以外)	地上レーザー成果 (現地写真を含む)
ユースケース 開発方法	<ul style="list-style-type: none"> 江の島周辺エリアについて地上レーザーによるデータを補完的に取得する。 地上レーザー成果と3D都市モデルを用い、現地の状態 (建物や地形、道路) をMinecraftで表現可能な近似的なブロックに置換を行う。 モニュメントとなる建築物に関しては技術者によるブロックの再配置を行う。 整備したデータに津波ハザードの情報 (被害範囲・津波浸水深) を水ブロックとしてマイクラフト上で可視化する。 若年層世代に興味を持ってもらえるよう、データはjava版と教育版の2パターン整備し、各家庭のPC環境で確認できるようにHP上で公開を行う。
政策・事業での 活用	<ul style="list-style-type: none"> ゲーム空間上に都市を可視化し、併せて災害リスクも重畳することで、高さ方向を加味したまちづくりの提案や検討、災害リスクの周知などに活用を図る。 整備したデータはパブリック空間で操作体験会を実施する。 データや動画は庁舎内や公共施設でのデジタルサイネージで公開を行う。R8年度以降、事前復興まちづくりや論理的な思考を養うプログラミングのWS (小中高生対象) などを行うことで、まちへの愛着を育てていくことを目指す。
オープンデータ化 情報発信	—

■ KPI

KPI	目標設定	達成状況
まちづくりに関する合意形成や意識啓発に関して有用性の認識の割合	70% (R7年度)	91% (R7年度)
まちづくりとプログラミングにおける市民ワークショップ等の実施によるまちづくりへの関心の深まり	70% (R8年度)	R8年度測定予定

分野	人口規模	面積規模	予算規模
街・防	15万以上	50 - 100	5 - 10千

■ ユースケース開発成果イメージ図



マイクラフトにおける都市の可視化 (片瀬エリア)

マイクラフトに変換し可視化することで、高さ方向を加味したまちづくりの提案や検討を若年層に向けて行うことが可能となる。



マイクラフトにおける津波リスクの可視化 (江の島エリア)

津波ハザードデータと都市モデルを重ね合わせたうえでマイクラフト上で可視化する。ゲーム空間上で自身で操作できることが没入感につながり、災害リスクについて理解促進を図ることが可能となる。

■ 得られた知見や今後の展望

データ整備とその公開、および操作体験会などを行うことで、ゲーム空間を用いたまちづくりへの参画のきっかけに非常に有効であることが分かった。R8年度以降は若年層世代とのまちづくりを進めていくうえでの対話ツールとして活用を図っていくとともに、災害への意識啓発にもつなげていきたい。

今後はさまざまな媒体を用いて都市データの活用について発信していくことで、他の分野でのまちづくりや事業への展開を図っていく。

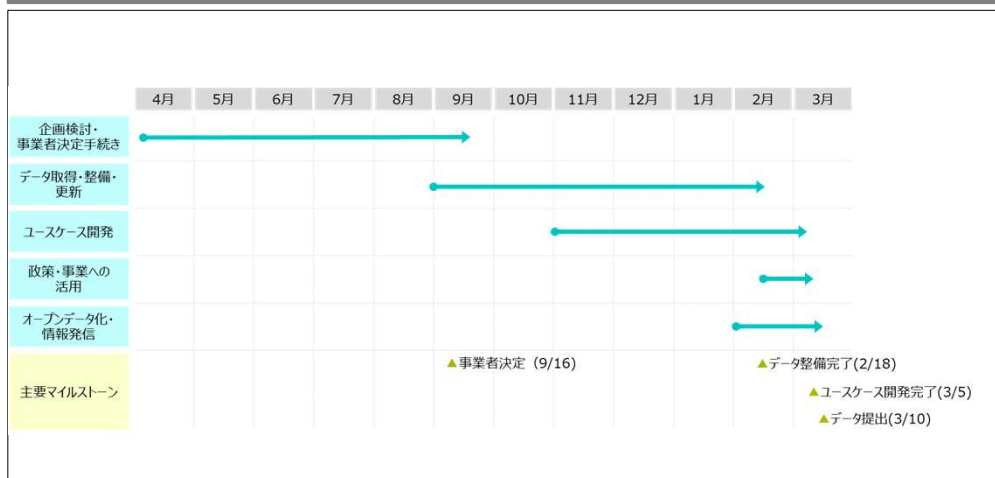
Ⅲ. 令和7年度採択団体別 事業内容

20.新潟県新発田市

■ 団体基礎情報・プロジェクト全体像

人口	約9.1万人（令和8年1月時点）
市域全域面積	約533km ² （令和8年1月時点）
目標	安心安全で持続可能な魅力のある都市
課題	<ul style="list-style-type: none"> 【市民が安心安全に暮らすことのできるまちづくり】 豪雨時に内水氾濫により、道路等の冠水が発生していることから、被害の抑制に向けた浸水箇所の具体把握が必要である。 【コンパクトで暮らしやすいまちづくり】 中心市街地の空洞化を解消し、適切に居住誘導することで人口密度を維持する必要がある。 【新たな魅力やにぎわいを創造し続けるまちづくり】 中心市街地における建物の更新・改築の促進、空き店舗・空きビルなどの遊休施設の有効活用が必要である。

■ 令和7年度スケジュール



分野	人口規模	面積規模	予算規模
防	5-15万	500以上	1-2千

担当部局	地域整備課
------	-------



■ 補助事業実施項目

事前調査等	—
3D都市モデル整備・更新	3D都市モデル整備事業（LOD1、LOD2）
ユースケース開発	3D都市モデルを活用した災害リスクの可視化事業
推進事業	3D都市モデルオープンデータ化事業

総事業費	14.000（百万円）※うちR7年度10.000（百万円）
R7年度補助額	10.000（百万円）
補助対象外の関連事業	—

オープンデータ化・可視化・情報発信	<ul style="list-style-type: none"> G空間情報センターへの掲載 【3D都市モデル／関連データ／UCデータ】 PLATEAU VIEWへの掲載 【3D都市モデル／関連データ／UCデータ】 新発田市オープンデータサイトに掲載 新発田市ホームページに掲載
-------------------	---

R7年度委託事業者	(株)ナカノアイシステム (3D都市モデルの整備・更新、ユースケース開発、推進事業)
-----------	---

Ⅲ. 令和7年度採択団体別 事業内容

20.新潟県新発田市



■ 3D都市モデル整備状況（基本セット） ※赤字：R7補助対象地物

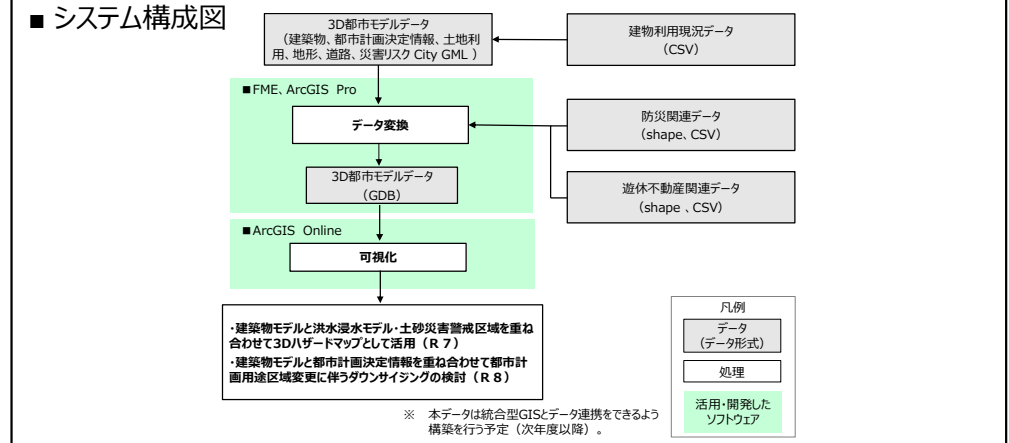
LOD	整備地物	対象区域	整備面積	整備年度
LOD1	建築物 交通（道路） 都市計画決定情報 土地利用 災害リスク（洪水、土砂） 地形	市中心部	47.95km ²	R7年度新規
LOD2	建築物	中心市街地区域 市街地総合再生基本計画区域	0.1km ² 、 10棟 0.5km ²	R7年度新規 R9年度拡充

項目	活用したデータ	作成年度	地図情報レベル
平面図	都市計画基本図（既存）	R5年度	2,500
測量成果	既存資料（航空写真）	R7年度	1,000
属性情報	都市計画基礎調査（既存）	R5年度	—
属性情報	立地適正化計画（都市機能誘導区域・居住誘導区域）	R6年度	—

分野	人口規模	面積規模	予算規模
防	5-15万	500以上	1-2千

■ ユースケース概要

テーマ	防災・防犯
ユースケース名称	3D都市モデルを活用した災害リスクの可視化事業
目的	3D都市モデル上で災害リスクを可視化し、市内での検討などに活用するとともに、市民向けに公開し、防災意識の向上を図る。
取組内容	<ul style="list-style-type: none"> 3D都市モデルに洪水時の浸水想定区域図などを重ね合わせ、影響を受けるエリアを明確化し、現在指定している各避難所の浸水リスクや収容能力等を再評価する。 防災倉庫の配置の再検討など、市の防災マニュアル等の見直しにおける基礎資料として活用する。 立地適正化計画の都市機能誘導区域における各誘導施設の配置状況や、居住誘導区域の設定範囲について、現在の各誘導区域と浸水想定区域を重ね合わせ、その妥当性を検証する。



Ⅲ. 令和7年度採択団体別 事業内容

20.新潟県新発田市

■ ユースケース開発方法

活用データ (3D都市モデル)	<ul style="list-style-type: none"> 建築物LOD1, LOD2 (名称、用途、構造種別、計測高さ、地上階数) 都市計画決定情報LOD1 (名称、分類、決定日、決定主体等) 土地利用LOD1 (都市計画区域、土地利用区分等) 災害リスクLOD1 (洪水浸水想定区域の水面の範囲、浸水深の区分、土砂災害警戒区域の範囲、起こりうる災害の内容)
活用データ (上記以外)	航空写真 (レベル1000)
ユースケース 開発方法	<ul style="list-style-type: none"> 対象区域の3D都市モデルをソフトウェアで活用できるようにFMEで変換。 建築物については、直近の都市計画基礎調査結果を反映させる (R4年度成果)。 変換した3D都市モデル (建築物) データとハザードデータ (浸水想定区域・土砂災害等) のデータを重畳。 立地適正化計画の都市機能誘導区域・居住誘導区域のデータや、防災関連施設配置データを重畳。 結果をArcGISで可視化。
政策・事業での 活用	<ul style="list-style-type: none"> 可視化した結果をまとめ、立地適正化計画における各誘導区域や防災指針の妥当性検証や、整備区域内にある防災関連施設 (避難所、防災倉庫等) の配置見直し・避難計画具体化への基礎資料として活用。 結果を活用し、市幹部会議や、立地適正化計画改定時の都市計画審議会などに報告。 3Dハザードマップとして市ホームページで公開し、防災意識向上につなげる。
オープンデータ化 情報発信	<ul style="list-style-type: none"> G空間情報センターへの掲載 PLATEAU VIEWへの掲載

■ KPI

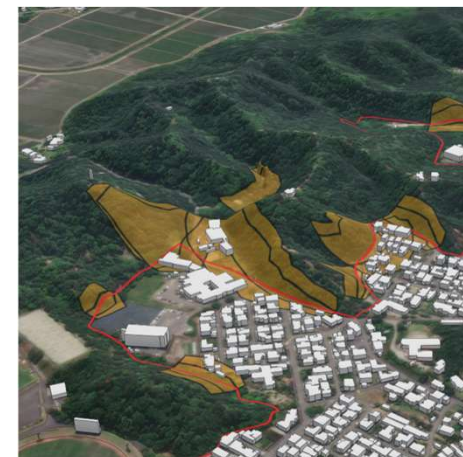
KPI	目標設定	達成状況
防災・減災対策において、R7年度：災害リスクの可視化により、被害状況を想定しやすくなったと感じる職員の割合	80% (R7年度)	100% (R7年度)
防災・減災対策において、R8年度：災害リスクの可視化により、検証・見直しに係る作業時間が効率化したと感じる職員の割合	90% (R8年度)	R8年度測定予定

分野	人口規模	面積規模	予算規模
防	5-15万	500以上	1-2千

■ ユースケース開発成果イメージ図



浸水状況の可視化



土砂災害の可視化

建物モデルに浸水状況や土砂災害警戒区域を重畳することで災害リスクを可視化し、災害リスクの認知性向上と防災計画の再評価や対策向上を図る。

■ 得られた知見や今後の展望

- 洪水時の浸水の深さが明確になったことにより、利用不可になる避難所を特定でき、当該エリアの住民避難を再考する重要性に気づくことができた。
- 現状の土地利用との乖離を解消させるため、3D都市モデルを活用して用途地域の見直しを実施し、遊休不動産の利活用促進を図りたい。

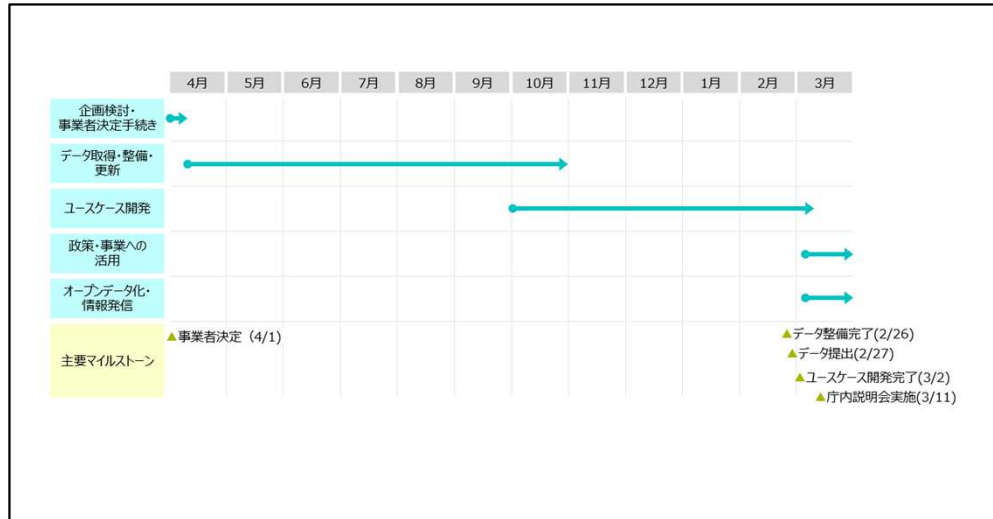
Ⅲ. 令和7年度採択団体別 事業内容

21. 富山県舟橋村

■ 団体基礎情報・プロジェクト全体像

人口	約0.3万人（令和5年1月時点）
市域全域面積	約3km ² （令和5年1月時点）
目標	防災訓練の実施などにより、住民一人ひとりの危機管理意識を高めるなど、防災体制のさらなる強化を図るとともに、地域と行政が連携して、災害時に対する備えを充実するなど災害に強いまちづくりを進める。
課題	<ul style="list-style-type: none"> 洪水発生時の浸水想定区域の可視化による、避難経路の検討及び防災学習への利用。 洪水発生時の垂直避難可能建物を抽出し、避難先をあらかじめ決めておくことで逃げ遅れによる被害の減少を図る。

■ 令和7年度スケジュール



分野	人口規模	面積規模	予算規模
防	1万未満	50未満	1-2千

担当部局	住民生活課
------	-------

■ 補助事業実施項目

事前調査等	-
3D都市モデル整備・更新	3D都市モデル整備事業（LOD1、LOD2）
ユースケース開発	3D都市モデルを活用した災害リスクの可視化事業
推進事業	住民説明会の実施

総事業費	10.000（百万円）※うちR7年度10.000（百万円）
R7年度補助額	10.000（百万円）
補助対象外の関連事業	-

オープンデータ化・可視化・情報発信	<ul style="list-style-type: none"> G空間情報センターへの掲載【3D都市モデル／関連データ】 PLATEAU VIEWへの掲載【3D都市モデル／関連データ／UCデータ】 舟橋村オープンデータサイト 舟橋村ホームページ
-------------------	---

R7年度委託事業者	アジア航測株式会社 （3D都市モデルの整備・更新、ユースケース開発、推進事業）
-----------	--



PLATEAU
by MLIT

Ⅲ. 令和7年度採択団体別 事業内容

21. 富山県舟橋村

■ 3D都市モデル整備状況（基本セット）

※赤字：R7補助対象地物

LOD	整備地物	対象区域	整備面積	整備年度
LOD1	建築物	舟橋村全域	3.47km ²	R7年度新規
	都市計画決定情報	舟橋村全域	3.47km ² 2項目	
	災害リスク（洪水）	舟橋村全域	3.47km ² 6項目	
	土地利用地形	舟橋村全域	3.47km ²	
	交通（道路）	舟橋村全域 県道・村道	3.47km ² 約32km	
LOD2.0	建築物	公共施設・避難施設・要援護者施設	20棟	

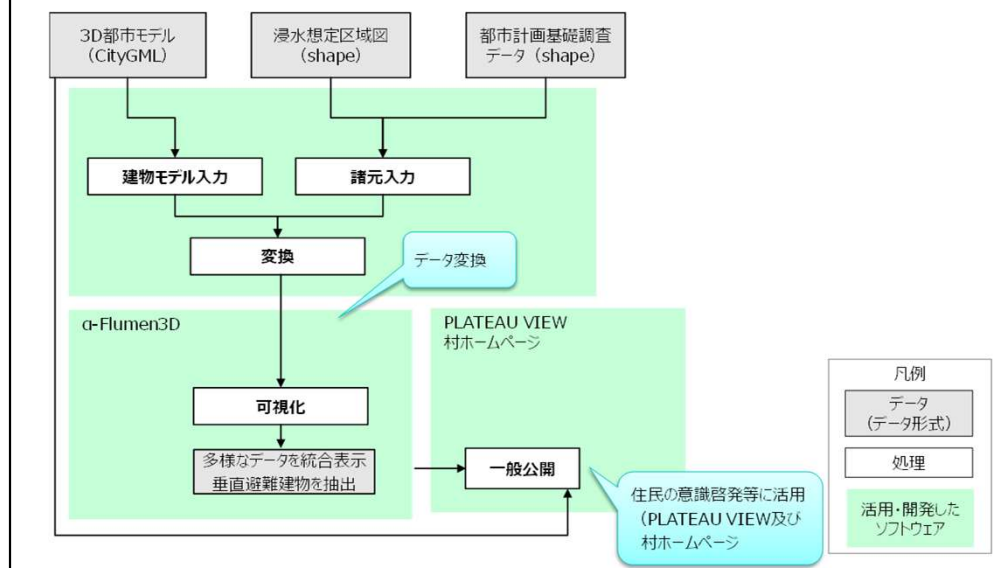
項目	活用したデータ	作成年度	地図情報レベル
平面図	数値地形図（DMデータ） （修正）	R5年度	2,500
測量成果	既存資料（航空写真）	R2年度 R5年度	2,500
属性情報	都市計画基礎調査（既存）	R5年度	—

分野	人口規模	面積規模	予算規模
防	1-3万	50未満	1-2千

■ ユースケース概要①

テーマ	防災・防犯
ユースケース名称	3D都市モデルを活用した災害リスクの可視化事業
目的	浸水想定データ等の災害リスクの可視化により住民の防災意識向上、災害リスク・危険性のイメージ喚起
取組内容	1級河川常願寺川、2級河川白岩川の洪水浸水想定区域の三次元表示を行い、エリアのリスクを可視化する。さらに、これを用いた住民向けワークショップや村の防災計画や避難経路設定に活用する。

■ システム構成図



Ⅲ. 令和7年度採択団体別 事業内容

21. 富山県舟橋村

■ ユースケース開発方法

活用データ (3D都市モデル)	<ul style="list-style-type: none"> 建築物LOD1, LOD2 (名称、用途、構造種別、計測高さ、地上階数) 道路LOD1 災害リスクLOD1 (浸水想定区域)
活用データ (上記以外)	指定避難所情報 (避難所名称、所在地)
ユースケース 開発方法	<ul style="list-style-type: none"> LOD2建築物モデルは避難の際に目印となる公共施設や避難施設、要援護者施設を計20棟作成することで、住民により分かりやすく可視化する。 3D都市モデル及び三次元化した各種災害リスクデータをビューワ上に重ね合わせ、災害リスクをわかりやすく可視化するシステムを構築する。アウトプットは3D都市モデル搭載済み3Dビューワ(a-Flumen3D)。
政策・事業での 活用	開催予定の住民説明会により3D都市モデルと災害リスクを重ね合わせ、地域住民に発災時のイメージを分かりやすく伝えること等により、地域の防災意識向上を図り、早期かつ適切な避難行動を促す。
オープンデータ化 情報発信	PLATEAU VIEWへの搭載

■ KPI

KPI	目標設定	達成状況
浸水想定被害がより理解しやすくなったと回答した職員の割合	90% (R7年度)	92% (R7年度)
地域の災害リスクについての理解 (アンケート)、ハザードマップより分かりやすいと回答した住民の割合	80% (R8年度)	R8年度測定予定

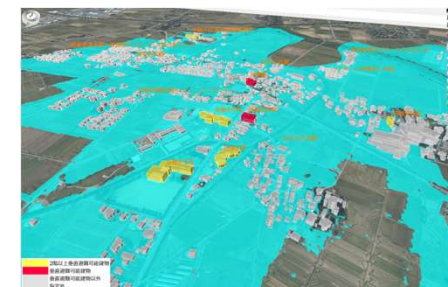
分野	人口規模	面積規模	予算規模
防	1万未満	50未満	1-2千

■ ユースケース開発成果イメージ図



浸水状況の可視化

建物モデルに浸水想定区域を重ね合わせること
で、災害リスクを可視化し、住民の意識向上
を図る。



垂直避難可能建物の表示

浸水時の垂直避難可能建物を階層で色分
け表示し、避難経路の検討に活用する。

■ 得られた知見や今後の展望

- 老人福祉施設など避難援助が必要な施設から垂直避難可能建物までの道のりが遠いなど、災害リスクの可視化によって今後の政策で優先的に取り組むべき課題が整理できた。
- 今回は静的な浸水想定区域の表示にとどめているが、破堤点からの時系列の浸水想定データを搭載し、より具体的な浸水状況のシミュレーションと、避難経路検討のための住民への情報提供を実施したい。

Ⅲ. 令和7年度採択団体別 事業内容

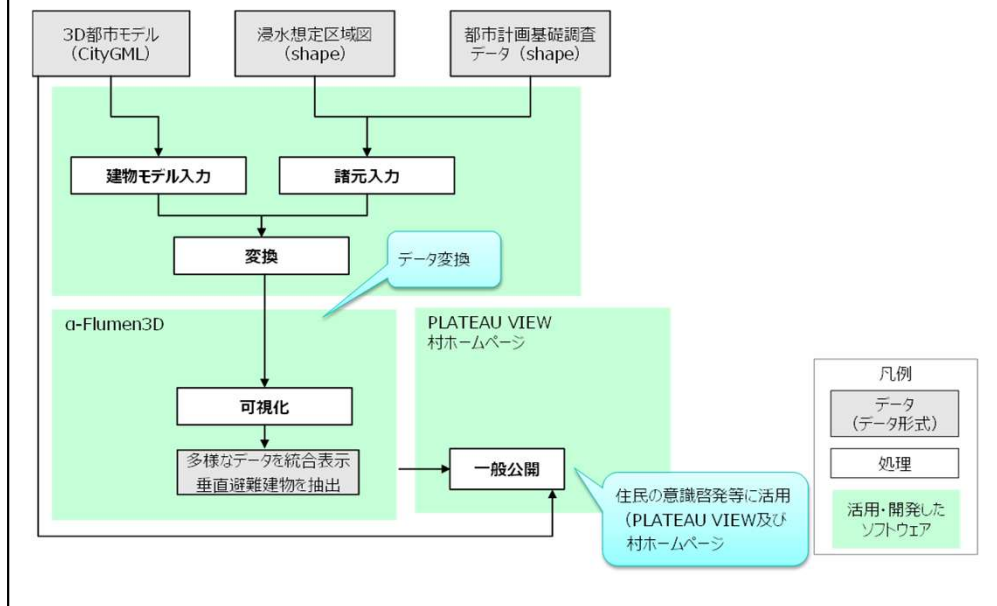
21. 富山県舟橋村



■ ユースケース概要

テーマ	防災・防犯
ユースケース名称	水害時の垂直避難可能建物の抽出
目的	住民向けワークショップや村の防災計画や避難経路設定に活用
取組内容	3D都市モデルの建物・地形データと洪水浸水想定区域図を重ね合わせ、垂直避難可能建物を抽出し可視化する。

■ システム構成図



分野	人口規模	面積規模	予算規模
防	1万未満	50未満	1-2千

■ ユースケース開発方法

活用データ (3D都市モデル)	<ul style="list-style-type: none"> 建築物LOD1, LOD2 (名称、用途、構造種別、計測高さ、地上階数) 道路LOD1 災害リスクLOD1 (浸水想定区域)
活用データ (上記以外)	指定避難所情報(避難所名称、所在地)
ユースケース開発方法	<ul style="list-style-type: none"> 3D都市モデルに属性として情報 (建物高さや浸水深など) を集約しておくことにより、垂直避難建物を容易に抽出することが可能になる。 3D都市モデル及び三次元化した各種災害リスクデータをビューワ上に重ね合わせ、災害リスクをわかりやすく可視化するシステムを構築する。アウトプットは3D都市モデル搭載済み3Dビューワ(α-Flumen3D)。 垂直避難可能建物の抽出結果を踏まえ従来の計画に垂直避難を盛り込むことにより、避難計画の高度化及び住民の水害対策意識の向上が可能になる。
政策・事業での活用	開催予定の住民説明会で3D都市モデルと災害リスクを重畳化し活用して、地域住民に発災時のイメージを分かりやすく伝えること等により、地域の防災意識向上を図る。アウトプットは防災関係者アンケート調査結果。
オープンデータ化情報発信	PLATEAU VIEWへの搭載

Ⅲ. 令和7年度採択団体別 事業内容

21. 富山県舟橋村

■ KPI

KPI	目標設定	達成状況
浸水想定被害がより理解しやすくなったと回答した職員の割合	90% (R7年度)	92% (R7年度)
地域の災害リスクについての理解（アンケート）、ハザードマップより分かりやすいと回答した住民の割合	80% (R8年度)	R8年度測定予定

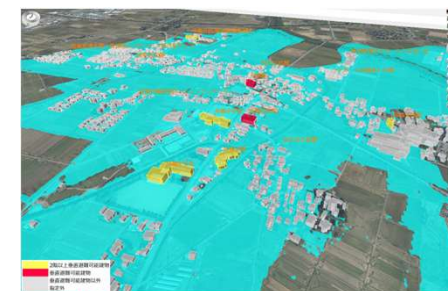
分野	人口規模	面積規模	予算規模
防	1万未満	50未満	1-2千

■ ユースケース開発成果イメージ図



浸水状況の可視化

建物モデルに浸水想定区域を重畳することで、災害リスクを可視化し、住民の意識向上を図る。



垂直避難可能建物の表示

浸水時の垂直避難可能建物を階層で色分け表示し、避難経路の検討に活用する。

■ 得られた知見や今後の展望

- 老人福祉施設など避難援助が必要な施設から垂直避難可能建物までの道のりが遠いなど、災害リスクの可視化によって今後の政策で優先的に取り組むべき課題が整理できた。
- 今回は静的な浸水想定区域の表示にとどめているが、破堤点からの時系列の浸水想定データを搭載し、より具体的な浸水状況のシミュレーションと、避難経路検討のための住民への情報提供を実施したい。

Ⅲ. 令和7年度採択団体別 事業内容

22.長野県飯山市

■ 団体基礎情報・プロジェクト全体像

人口	約2.0万人（令和5年1月時点）
市域全域面積	約202km ² （令和5年1月時点）
目標	飯山市総合戦略を支えるデジタル地図基盤整備
課題	<ul style="list-style-type: none"> 都市空間における多様な情報を集約、重ね合わせにより、2次元では実現できなかった行政情報の一覧化や、立体的な把握、情報共有を促進し、行政業務の効率化と高度化を実現するDXの創出。 流域治水や土砂災害対策を進めるなかで、立体的なハザードマップの作成による効果的な理解の周知・活用。 道路、橋梁、上下水道、公園、樹木等の各種台帳と紐付け、計画的で効率的な施設等の維持管理更新の推進。 災害リスクの可視化、防災訓練におけるXR・AR等の災害疑似体験による防災意識の向上。

■ 令和7年度スケジュール



分野	人口規模	面積規模	予算規模
街・防	1-3万	200-500	5-10千

担当部局	建設水道部まちづくり課
------	-------------



PLATEAU
by MLIT

■ 補助事業実施項目

事前調査等	—
3D都市モデル整備・更新	<ul style="list-style-type: none"> 都市計画基本図新規作成（地図情報レベル2,500） 3D都市モデル構築整備事業（LOD1、LOD2、LOD2.1）
ユースケース開発	<ul style="list-style-type: none"> 3D都市モデルを活用した都市構造の可視化 3D都市モデルを活用した災害リスクの可視化
推進事業	—

総事業費	83.890（百万円）※うちR7年度83.890（百万円）
R7年度補助額	41.925（百万円）
補助対象外の関連事業	—

オープンデータ化・可視化・情報発信	<ul style="list-style-type: none"> G空間情報センターへの掲載【3D都市モデル／関連データ】 PLATEAU VIEWへの掲載【3D都市モデル／関連データ／UCデータ】 飯山市ホームページ ArcGIS Onlineへの掲載【3D都市モデル／関連データ／UCデータ】
-------------------	--

R7年度委託事業者	<ul style="list-style-type: none"> 株式会社ナカノアイシステム（3D都市モデル整備・更新、ユースケース開発） 株式会社フォーラムエイト（ユースケース開発）
-----------	--

Ⅲ. 令和7年度採択団体別 事業内容

22.長野県飯山市

■ 3D都市モデル整備状況（基本セット）

※赤字：R7補助対象地物

LOD	整備地物	対象区域	整備面積	整備年度
LOD1	建築物 交通（道路） 土地利用 災害リスク（土砂） 地形	飯山市全域	202.43km ²	R7年度新規
	災害リスク（洪水）		4河川	
	都市計画決定情報	都市計画区域	13km ²	
LOD2	建築物	飯山駅周辺	0.2km ²	
		いいやま寺町寺院群	20棟	

■ 3D都市モデル整備状況（基本セット以外）

※赤字：R7補助対象地物

LOD	整備地物	対象区域	整備面積	整備年度
LOD2.1	建築物	飯山市役所、飯山駅、 飯山日赤病院、飯山 市公民館、文化交流 館なちゅら、 ほか指定避難所39棟	全44棟	R7年度新規

項目	活用したデータ	作成年度	地図情報レベル
平面図	新規作成	R7年度	2,500
測量成果	新規測量（航空写真）	R7年度	1,000
測量成果	既存資料（航空レーザー）	R4年度	その他
属性情報	都市計画基礎調査（既存）	R4年度	—

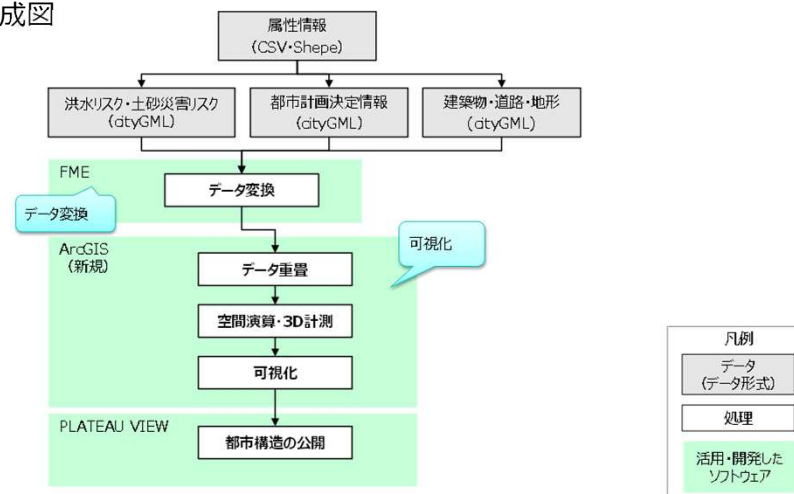
分野	人口規模	面積規模	予算規模
街・防	1-3万	200-500	5-10千



■ ユースケース概要①

テーマ	都市計画・まちづくり
ユースケース名称	3D都市モデルを活用した都市構造の可視化事業
目的	本取組では、飯山市全域における建物・交通・都市機能等の空間情報を三次元で可視化し、都市構造の特徴や課題（未利用地、空間の偏在など）を把握することで、まちづくり施策の立案や立地適正化計画の検討に資する基礎情報を整備することを目的とする。
取組内容	従来の2D地図や各種統計データでは、都市の立体的な構造や空間的な関係性を直感的に理解することが難しいという課題がある中で、3D都市モデルを整備し建物、交通ネットワーク、都市計画、人口分布などを立体的に表現することで、構造的な課題を明らかにする。

■ システム構成図



Ⅲ. 令和7年度採択団体別 事業内容

22.長野県飯山市

■ ユースケース開発方法

活用データ (3D都市モデル)	<ul style="list-style-type: none"> 建築物LOD1, LOD2 (名称、用途、構造種別、計測高さ、地上階数) 道路LOD1 (名称、機能、用途) 都市計画決定情報LOD1 (名称、区域の種類、告示番号、告示日、決定者等) 土地利用LOD1 (土地利用区分、面積等) 災害リスク情報LOD1 (洪水浸水想定区域、土砂災害警戒区域及び特別警戒区域) 地形LOD1
活用データ (上記以外)	-
ユースケース 開発方法	<ul style="list-style-type: none"> 建築物モデル、都市計画決定情報モデル、浸水想定区域モデル、土砂災害警戒区域モデルのCityGMLをGISで使用可能な形式へ変換する。 変換したモデルをGIS上で統合的に可視化・解析する。
政策・事業での 活用	<ul style="list-style-type: none"> 可視化された都市課題マップ：ハザード・交通・用途分布等を3Dで重ねたレイヤーの表示。 説明会等で使用するプレゼンテーション資料へ活用し、都市政策における理解醸成を図る。 空間的な余剰地や未利用地、都市機能の偏在を可視化し、土地利用転換や誘導方針の検討や住民・関係機関との合意形成の推進を図る。 取得した成果は、3D都市モデルとしてデータを整備・公開し、土地利用や都市計画に関する情報の可視化を通じて、市民や関係者への周知・理解度の向上を図る。これにより、今後の都市計画立案及び市土の戦略的かつ適正な管理に資する基礎資料として活用する。
オープンデータ化 情報発信	<ul style="list-style-type: none"> PLATEAU VIEWへの搭載 ArcGIS Onlineへの搭載

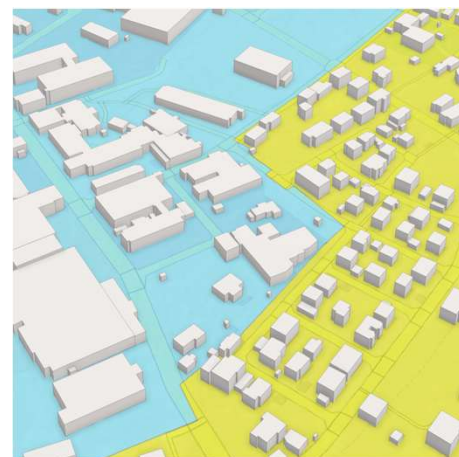
■ KPI

KPI	目標設定	達成状況
都市計画等の規制の内容に関する対応件数	12件/月 以下 (R7年度)	10件/月 (R7年度)
庁内説明会アンケートにおける、UCを活用した業務（事務）の実施意思を示した参加者の割合	75% (R7年度)	100% (R7年度)
住民自身が居住する地域の都市構造について“理解が深まった”と回答した住民の割合	60% (R7年度)	98% (R7年度)

分野	人口規模	面積規模	予算規模
街・防	1-3万	200-500	5-10千



■ ユースケース開発成果イメージ図



建築物と都市計画決定情報の重畳
都市の利用状況を可視化し、用途地域の違いによる容積率の違いを客観的に理解可能。



都市計画決定情報の公開
3D都市モデルはセマンティクス情報が付与されているため、電話問い合わせ時に建物の構造・用途・都市計画決定状況を一覧把握でき、事業者との意思疎通が円滑化した。

■ 得られた知見や今後の展望

都市空間を3Dで可視化したことにより、市街地の建物高さ分布や土地利用状況など、都市構造を構成する要素の関係性を俯瞰的に把握することが可能になり、行政内外部の理解促進や合意形成に寄与する可能性が示された。
来年度は、ユースケースを発展させ、都市計画決定における合意形成や審議会資料に活用可能な土地利用シミュレータの開発を予定している。

Ⅲ. 令和7年度採択団体別 事業内容

22.長野県飯山市

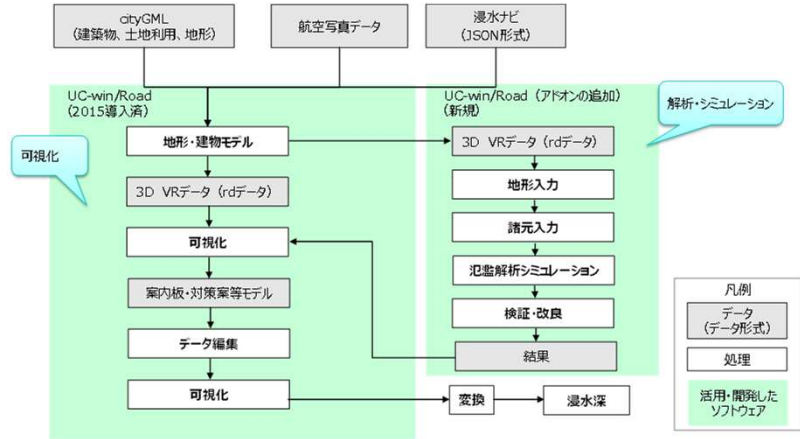


PLATEAU
by MLIT

■ ユースケース概要②

テーマ	防災・防犯
ユースケース名称	3D都市モデルを活用した災害リスクの可視化事業
目的	本取組では、飯山市全域における災害リスク（洪水・土砂災害等）を三次元的に可視化し、住民や関係者が自身の生活圏のリスクを直感的に理解できる環境を整備することで、災害への備えと避難行動の促進を図る。特に、破堤シナリオに基づく浸水拡大の時間的推移をアニメーションで表現することにより、防災意識の醸成と実効性ある防災啓発を目的とする。
取組内容	飯山市全域を対象として、災害リスク情報の三次元表示を行い、各エリアのリスクを可視化する。さらに、千曲川における破堤シミュレーション（既存の浸水ナビを元に詳細の解析を実施）を行い居住地での災害リスクの理解度向上に活用する。

■ システム構成図



■ ユースケース開発方法

活用データ (3D都市モデル)	<ul style="list-style-type: none"> 建築物LOD1, LOD2, LOD2.1 (名称、用途、構造種別、計測高さ、地上階数) 災害リスク情報LOD1 (洪水浸水想定区域、土砂災害警戒区域及び特別警戒区域) 地形LOD1
活用データ (上記以外)	<ul style="list-style-type: none"> 指定避難所情報(避難所名称、所在地) 浸水ナビデータ (国土交通省千曲川河川事務所)
ユースケース開発方法	<ul style="list-style-type: none"> 作成したCityGML形式のLOD1と災害リスクを分かりやすく理解するために道路や周辺地物の追加の作成を行い、ビューア上での表示やシミュレーションに対応できる3D環境を整備する。 3D都市モデルにおいて整備した洪水浸水想定区域などの災害リスクデータをGISで整備・統合し、3D都市モデル上に空間的に重畳させる。 3D都市モデルに含まれる、洪水浸水想定区域の災害リスクデータを重畳表示し、空間的分布と指定避難所や地形との関係性を直感的に示す。 河川氾濫シナリオに基づく浸水範囲や水深を時間軸で変化するアニメーションとして表示し、影響の時間的推移を表現する。UC-win/Roadを用いて動的表示が可能な構成とする。
政策・事業での活用	<ul style="list-style-type: none"> 想定破堤箇所からの氾濫シミュレーション結果を時刻歴で表示し、災害リスクをわかりやすく可視化する。 3D都市モデルに重ね合わせ、案内版や対策案などを追加し、防災計画や避難経路設定に活用する。 飯山市HPを通して、YouTubeに掲出するとともに、市役所市民ホール等へデジタルサイネージとしてシミュレーションを放映する。 広報誌などを通じて住民へ周知する。
オープンデータ化情報発信	<ul style="list-style-type: none"> PLATEAU VIEWへの搭載 ArcGIS Onlineへの搭載 市ホームページへ動画掲載

■ KPI

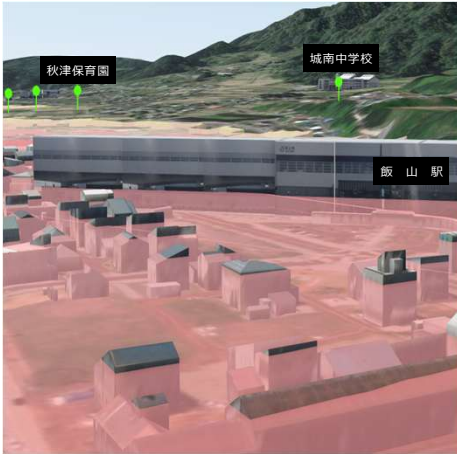
KPI	目標設定	達成状況
破堤シミュレーションを閲覧した住民のうち“ハザードマップ等の既存防災情報を確認したい”と回答した住民の割合	60% (R7年度)	100% (R7年度)

Ⅲ. 令和7年度採択団体別 事業内容

22. 長野県飯山市

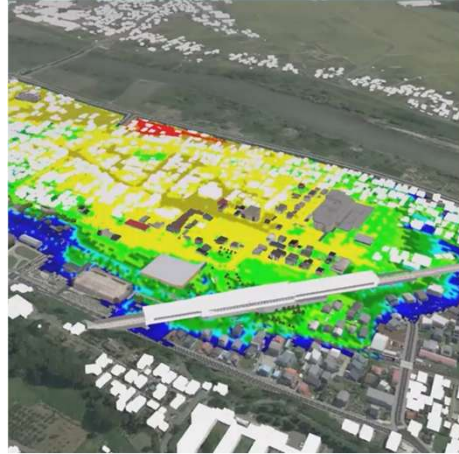
分野	人口規模	面積規模	予算規模
街・防	1-3万	200-500	5-10千

■ ユースケース開発成果イメージ図



ハザードマップの3D化

建物及び浸水想定区域図を3D化重畳することで、災害リスクの認知性が向上し、客観的に浸水状況が確認可能。



浸水シミュレーション

アニメーション動画により浸水していく様子と、経過時間を表示し浸水速度の客観視により、災害の自分事化を推進する。

■ 得られた知見や今後の展望

関係機関において、想定以上の反響があり、国土交通省千曲川河川事務所、長野県、飯山市及び流域市町村における流域治水の取組への理解向上や、3Dによる可視化を通じて、既存ハザードマップの再確認を促し、災害の自分事化に寄与した。

今後は、さらなるユースケースを模索し、防災教育や避難行動の啓発等への活用を進めることで、3D都市モデルを活用した防災・流域治水の取組を一層推進していく。

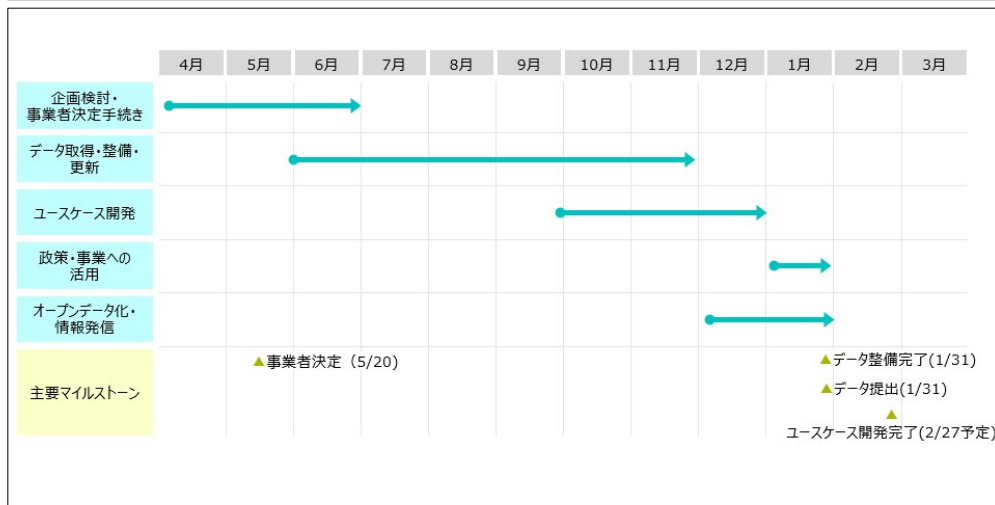
Ⅲ. 令和7年度採択団体別 事業内容

23. 長野県安曇野市

■ 団体基礎情報・プロジェクト全体像

人口	約9.7万人（令和5年1月時点）
市域全域面積	約332km ² （令和5年1月時点）
目標	自然、文化、産業が織りなす 共生の街 安曇野
課題	<ul style="list-style-type: none"> 安曇野市の適正な土地利用に関する条例による市独自の土地利用制度の情報と防災情報の一元提供による土地利用の適正な誘導。 市民の防災意識の向上と避難場所や経路検討、緊急時の垂直避難可能建物の把握。 質の高い道路網の構築と安全性の向上。

■ 令和7年度スケジュール



分野	人口規模	面積規模	予算規模
交・防	5 - 15万	200 - 500	3 - 5千

担当部局	都市計画課
------	-------



■ 補助事業実施項目

事前調査等	—
3D都市モデル整備・更新	<ul style="list-style-type: none"> 都市計画基本図作成/更新 3D都市モデル整備事業（LOD1、LOD2）
ユースケース開発	3D都市モデルを活用した道路交通課題の可視化
推進事業	

総事業費	45.100（百万円）※うちR7年度45.100（百万円）
R7年度補助額	22.550（百万円）
補助対象外の関連事業	—

オープンデータ化・可視化・情報発信	<ul style="list-style-type: none"> G空間情報センターへの掲載 【3D都市モデル／関連データ】 PLATEAU VIEWへの掲載 【3D都市モデル／関連データ】 安曇野市オープンデータサイト 【3Dデータ（UCデータ）】
-------------------	--

R7年度委託事業者	エアロトヨタ株式会社 （3D都市モデルの整備、ユースケース開発）
-----------	-------------------------------------

Ⅲ. 令和7年度採択団体別 事業内容

23.長野県安曇野市

■ 3D都市モデル整備状況（基本セット）

※赤字：R7補助対象地物

LOD	整備地物	対象区域	整備面積	整備年度
LOD1	建築物 交通（道路）	都市計画区域の一部 残りの都市計画区域	70.3km ² 128.1km ²	R6年度新規 R7年度拡充
	都市計画決定情報 土地利用 災害リスク（洪水・土砂） 地形	都市計画区域	198.4km ²	R6年度新規
LOD2	建築物	市庁舎等 災害時医療救護所	11棟 5棟	R6年度新規 R7年度拡充

項目	活用したデータ	作成年度	地図情報レベル
平面図	都市計画基本図（修正）	R6年度	2,500
測量成果	既存資料（航空写真）	R5年度	2,500
属性情報	都市計画基礎調査（既存）	R5年度	—

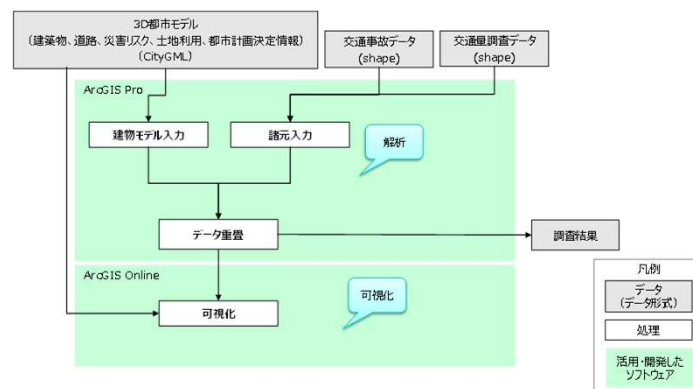
分野	人口規模	面積規模	予算規模
交・防	5 - 15万	200 - 500	3 - 5千



■ ユースケース①概要

テーマ	モビリティ・ロボティクス
ユースケース名称	3D交通情報マップ
目的	交通施策の適正化
取組内容	交通量調査データ及び交通事故データを3D都市モデル上に重畳させて表示させることで、既存の二次元地図では把握が難しかった課題（例：角地の建築物により道路の見通しが効かない交差点）などの抽出に活用する。これにより道路改良の優先度を正確に算出出来るようにし、交通施策の更なる適正化を図ると共に、市で作成する「道路整備推進計画」の見直しに活用する。

■ システム構成図



Ⅲ. 令和7年度採択団体別 事業内容

23.長野県安曇野市

■ ユースケース①開発方法

活用データ (3D都市モデル)	建築物LOD1（用途、構造種別、計測高さ、地上階数、建築年）
活用データ (上記以外)	<ul style="list-style-type: none"> 令和3年道路交通センサス情報（路線名、調査箇所、観測年月、12時間交通量（車種別、上り・下り・計）） 令和7年市調査交通量調査情報（路線名、調査箇所、観測年月、12時間交通量（車種別、上り・下り・計）） 交通事故情報（発生日月、事故内容）
ユースケース 開発方法	<ul style="list-style-type: none"> 3D都市モデルをArcGIS Onlineで使用可能な形式へ変換する。 変換した3D都市モデルと交通量調査データ、交通事故データを重畳。 結果を活用し、ArcGIS Onlineでデータを可視化。
政策・事業での 活用	角地の建築物により道路の見通しが効かない交差点などを抽出し、安曇野市道路整備推進計画の改定に活用する。
オープンデータ化 情報発信	ユースケースデータを可視化し、市ホームページで公開

分野	人口規模	面積規模	予算規模
交・防	5 - 15万	200 - 500	3 - 5千



PLATEAU
by MLIT

■ KPI

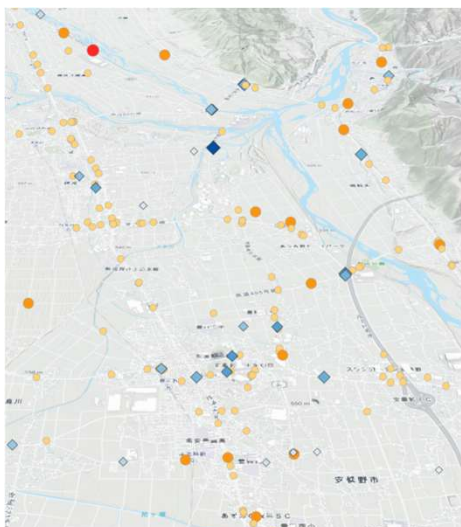
KPI	目標設定	達成状況
安曇野市道路整備推進計画の改定における活用		
計画の改定件数	1件 (R7年度)	1件 (R7年度)
整備目標路線数 (計画に位置付けた路線の数)	90路線 (R7年度)	78路線 (R7年度)

KPI未達を受けての 今後の対応	整備目標路線数（計画に位置付けた路線の数）のKPIについて、目標90路線が未達となっているが、ユースケースにより高度な状況把握や分析した路線数は延べ92路線に上っており、未達の影響は少ないものと考えている。
---------------------	---

Ⅲ. 令和7年度採択団体別 事業内容

23.長野県安曇野市

■ ユースケース開発成果イメージ図



道路交通量と事故発生地点の重畳
主な道路の交通量と事故発生地点を重畳し、課題のある道路を可視化



事故多発地点の状況可視化
通行視野や道路見通し等を可視化し、改良事業の要否や優先度等を分析し、道路整備計画の改定に活用

分野	人口規模	面積規模	予算規模
交・防	5-15万	200-500	3-5千

■ 得られた知見や今後の展望

- 市内道路における事故多発地点と交通量、運転者の視野（角地建築物による道路視野の阻害状況）を視覚化することで、道路課題の把握や分析の高度化が実現できた。
- ユースケースにより把握・分析した内容をもとに、より高度な道路改良事業の必要性の検討が実現でき、市道路整備推進計画の改定に活用できた。（検討路線の総数：92路線）
- 次年度以降は、具体的な道路事業の検討等に活用すると共に、市内開発事業における道路整備の要否の判断等に活用したい。

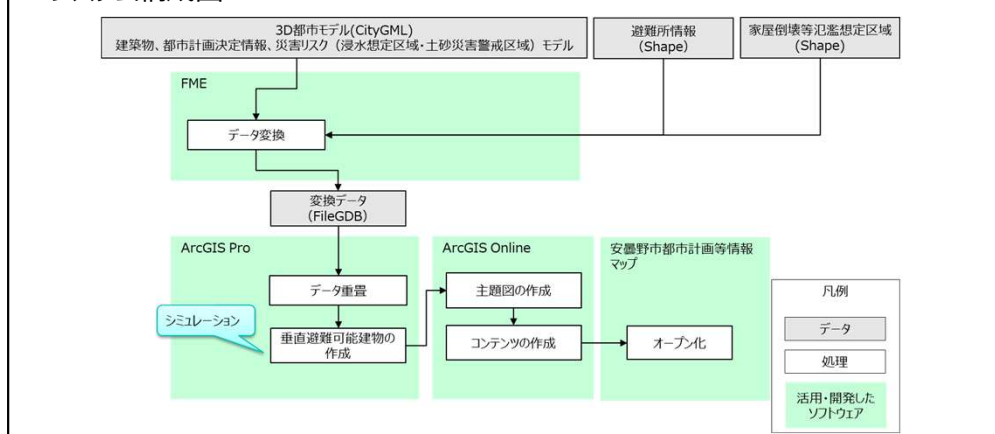
Ⅲ. 令和7年度採択団体別 事業内容

23.長野県安曇野市

■ ユースケース②概要

テーマ	防災・防犯
ユースケース名称	3Dハザードマップ
目的	3D都市モデルにおける建築物、洪水浸水や土砂災害等の災害リスク等を重畳させることで、災害イメージを具体化させ、市民の防災意識の向上を図る。
取組内容	浸水想定区域内にある中心市街地を対象として、災害リスク情報の三次元表示を行い、エリアのリスクを可視化し、緊急的な垂直避難可能建物の把握等に役立てる。また、市の防災会議等で報告すると共に、市の公開型GIS上で公開し、市の広報誌やLINEなどを通じて住民へ周知することで市民の防災意識の向上を図る。

■ システム構成図



分野	人口規模	面積規模	予算規模
交・防	5-15万	200-500	3-5千

■ ユースケース②開発方法

活用データ (3D都市モデル)	<ul style="list-style-type: none"> 建築物LOD1 (用途、構造種別、計測高さ、地上階数、建築年) 都市計画決定情報LOD1 (区域名称の区域の範囲、区域の種類) 災害リスクLOD1 (洪水浸水想定区域の水面の範囲、浸水深の区分、土砂災害警戒区域の範囲、起こりうる災害の内容)
活用データ (上記以外)	<ul style="list-style-type: none"> 避難所情報 家屋倒壊等氾濫想定区域 (氾濫流) 家屋倒壊等氾濫想定区域 (河岸浸食)
ユースケース開発方法	<ul style="list-style-type: none"> 3D都市モデルのデータ形式をArcGIS Onlineで使用可能な形式へ変換する。 3D都市モデル、垂直避難可能建物、避難所情報の表示設定を行い、防災計画や避難経路設定に活用5年主題図を作成する。 3D都市モデルと避難所情報等、垂直避難可能建物（建築物モデル、浸水想定区域モデルより垂直避難可能建物を抽出）をArcGIS Onlineで重畳させる。
政策・事業での活用	<ul style="list-style-type: none"> 市の広報誌やLINEなどを通じて住民へ周知する。また、市の防災会議等で報告する。 作成したユースケースについて、市ホームページで公開し、地域住民や開発事業者の来庁や問合せに係る事務負担を軽減させる。
オープンデータ化情報発信	ユースケースデータを可視化し、市ホームページで公開

Ⅲ. 令和7年度採択団体別 事業内容

23.長野県安曇野市

■ KPI

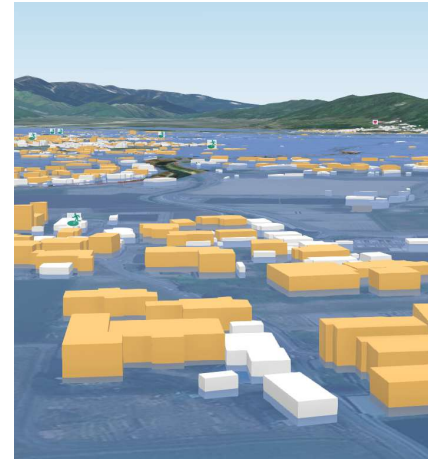
KPI	目標設定	達成状況
災害に対して住民の理解が深まった割合	70% (R7年度)	83% (R7年度)

分野	人口規模	面積規模	予算規模
交・防	5 - 15万	200 - 500	3 - 5千

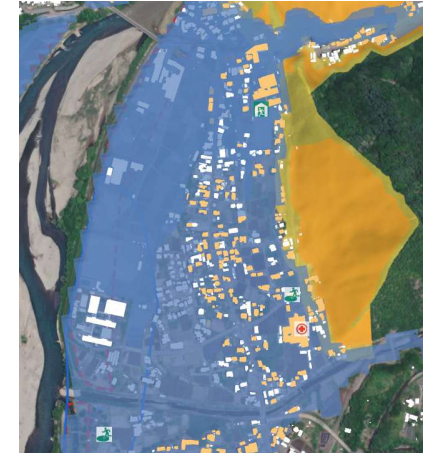


PLATEAU
by MLIT

■ ユースケース開発成果イメージ図



垂直避難可能建物の可視化
浸水想定区域(浸水深)と建築物(構造・高さ)より垂直避難可能建物の抽出・可視化



災害リスクと避難施設の重畳
浸水範囲及び土砂災害範囲と避難施設の重畳により防災情報を可視化して防災計画に活用する。

■ 得られた知見や今後の展望

- 特に浸水ハザードについて、各建物の垂直避難の可否を把握することができ、今後の防災対策やまちづくりに係る基礎資料を得ることができた。
- 今後は、建築物の高さデータ等を活用し、災害時における市内の緊急輸送道路の罹災シミュレーションなどを行いたい。

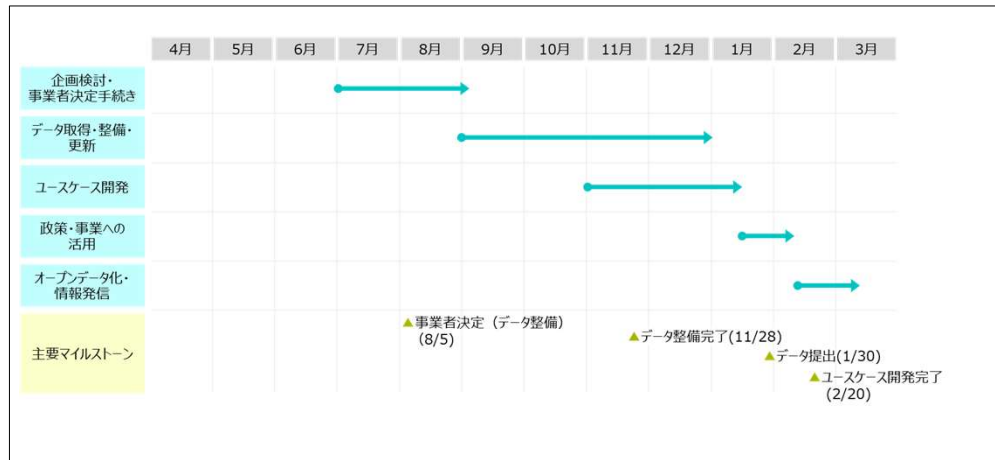
Ⅲ. 令和7年度採択団体別 事業内容

24. 岐阜県岐阜市

■ 団体基礎情報・プロジェクト全体像

人口	約40.2万人（令和5年1月時点）
市域全域面積	約204km ² （令和5年1月時点）
目標	人がつながる 創造が生まれる しなやかさのあるまち
課題	<ul style="list-style-type: none"> センターゾーンの各エリアとエリア間をつなぐ連携軸の魅力や利便性を高めることなどによるゾーン全体のにぎわいや快適性の創出、回遊性の向上。 市民一人ひとりの防災意識の向上と行動促進。 通学路における効果的な交通安全対策の実現。 発災時に救助・救急・医療・消火活動及び避難等に重要である緊急輸送道路の確保が必要

■ 令和7年度スケジュール



分野	人口規模	面積規模	予算規模
防	15万以上	200-500	3-5千

担当部局	都市計画課
------	-------



■ 補助事業実施項目

事前調査等	—
3D都市モデル整備・更新	<ul style="list-style-type: none"> 数値地形図データ更新 都市計画基本図更新 3D都市モデル更新事業（LOD1、LOD2、LOD3）
ユースケース開発	3D都市モデルを活用した緊急輸送道路沿道建築物調査事業（直営）
推進事業	3D都市モデルを活用した市民向けGISプラットフォームの構築

総事業費	80.672（百万円）※うちR7年度40.672（百万円）
R7年度補助額	20.336（百万円）
補助対象外の関連事業	—

オープンデータ化・可視化・情報発信	<ul style="list-style-type: none"> G空間情報センターへの掲載 【3D都市モデル】 PLATEAU VIEWへの掲載 【3D都市モデル】 岐阜市ホームページに掲載
-------------------	---

R7年度委託事業者	アジア航測株式会社 （3D都市モデルの整備・更新、推進事業）
-----------	-----------------------------------

Ⅲ. 令和7年度採択団体別 事業内容

24. 岐阜県岐阜市

■ 3D都市モデル整備状況（基本セット）

※赤字：R7補助対象地物

LOD	整備地物	対象区域	整備面積	整備年度
LOD1	建築物	市域全域	203.6km ²	R2年度新規
		R2～4地形図更新範囲	130.5km ²	R4年度更新
		R5地形図更新範囲	12.7km ²	R5年度更新
		R6地形図更新範囲	88.3km ²	R6年度更新
		R7地形図更新範囲	26.6km ²	R7年度更新
交通（道路）	都市計画決定情報 災害リスク	市域全域	203.6km ²	R2年度新規
		R6地形図更新範囲	88.3km ²	R6年度更新
		市全域	203.6km ²	R2年度新規
		土地利用	市全域	203.6km ²
地形		市全域	203.6km ²	R2年度新規 R4年度更新
LOD2	建築物	中心市街地区域	2.2km ²	R2年度新規 R4年度更新 R5年度更新 R6年度更新 R7年度更新

分野	人口規模	面積規模	予算規模
防	15万以上	200-500	3-5千



PLATEAU
by MLIT

■ 3D都市モデル整備状況（基本セット以外）

※赤字：R7補助対象地物

LOD	整備地物	対象区域	整備面積	整備年度
LOD3.0	建築物	ランドマークとなる建物	1棟	R3年度新規
	交通（道路）	中心市街地区域	0.79km ²	R4年度新規
	交通（広場）	駅前空間（駅北口）	0.03km ²	R6年度新規
	都市設備	中心市街地区域 駅前空間（駅北口） シェルター、柵・壁、点字ブ ロック等 駅前空間（駅北口）区 画線、標識、信号機等	2.2km ² 0.03km ² 0.03km ²	R4年度新規 R6年度拡充 R7年度拡充

項目	活用したデータ	作成年度	地図情報レベル
平面図	数値地形図（DMデータ） （修正）	R7年度～R9年度	2,500
測量成果	新規測量（航空写真）	R6年度～R8年度	2,500
測量成果	その他（点群データ）	R6年度	500
属性情報	都市計画基礎調査（既存）	R4年度	—

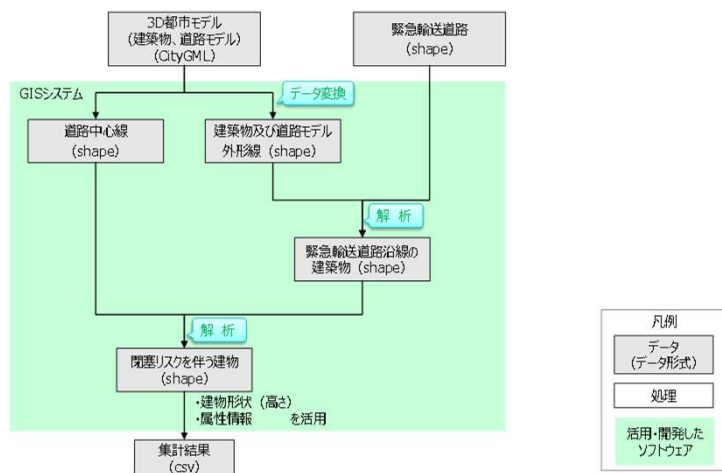
Ⅲ. 令和7年度採択団体別 事業内容

24. 岐阜県岐阜市

■ ユースケース概要

テーマ	防災・防犯
ユースケース名称	3D都市モデルを活用した緊急輸送道路沿道建築物調査事業
目的	発災時に救助・救急・医療・消火活動及び避難を確実に実施できるよう緊急輸送道路沿道建築物を調査する。
取組内容	<ul style="list-style-type: none"> 能登半島地震で倒壊した家屋のがれきが散乱し、道路を閉塞するなど通行に支障が発生し、救助や地域支援に大きな影響を及ぼした。 そのため、発災時に救助や避難が確実にできるよう緊急輸送道路沿道建築物のリスク調査を3D都市モデル（建物モデル及び道路モデル）を活用し、「建築物の耐震改修の促進に関する法律」に基づき、実施する。 建築物モデルの属性情報（建築年、建物構造、建物用途等）を活用し、該当建築物のリスク判定を行い、耐震化計画の検討等の基礎資料及び庁内説明として活用する。

■ システム構成図



分野	人口規模	面積規模	予算規模
防	15万以上	200-500	3-5千

■ ユースケース開発方法

活用データ (3D都市モデル)	<ul style="list-style-type: none"> 建築物LOD1, LOD2 (建築年、計測高さ) 道路モデル LOD1 (緊急輸送道路沿道の建物を抽出 及び 道路中心データの作成)
活用データ (上記以外)	道路幅員データ
ユースケース開発方法	<ul style="list-style-type: none"> 3D都市モデルの建築物モデルと道路モデルから、外形線及び道路中心線を作成。 緊急輸送道路データを重畳し、緊急輸送道路に該当する道路データを抽出。 データと建築物モデルを活用し、緊急輸送道路沿線に立地する建築物を抽出。 作成した道路中心線から幅員×1/2以上の高さの建築物を抽出。 建築物モデルの属性情報を活用し、リスク判定を行い、耐震化計画の基礎資料及び庁内説明として活用。
政策・事業での活用	<ul style="list-style-type: none"> 道路中心線から幅員×1/2以上の高さの建築物を抽出し、道路の閉塞リスクを顕在化。 耐震化計画の基礎資料として活用し、発災時に救助や避難が確実にできるようにする。
オープンデータ化 情報発信	-

■ KPI

KPI	目標設定	達成状況
調査・検討に要した期間	5か月 (R7年度)	4.5か月 (R7年度)

Ⅲ. 令和7年度採択団体別 事業内容

24. 岐阜県岐阜市

■ ユースケース開発成果イメージ図

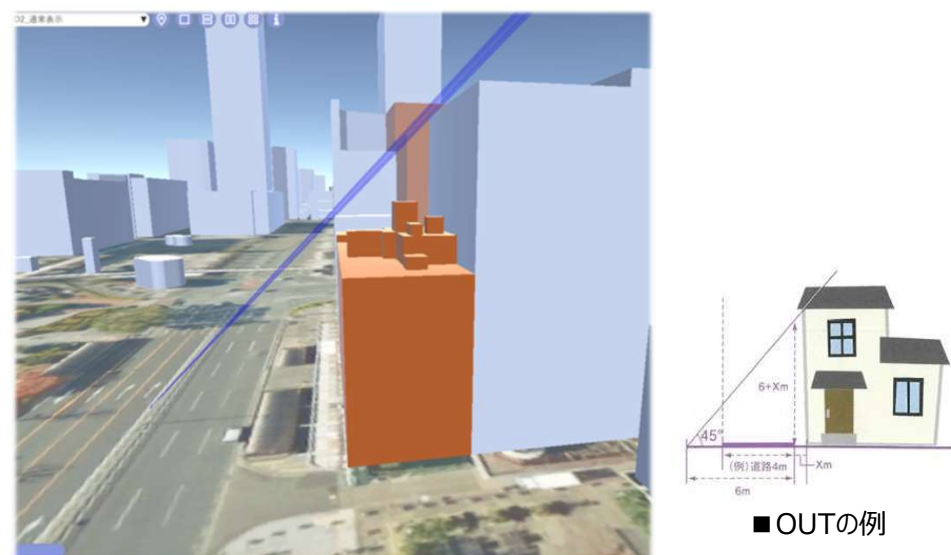


対象建物の可視化

調査対象建物を色分けして、可視化することで、どのエリアにどの程度分布一目で把握できるようになった。

分野	人口規模	面積規模	予算規模
防	15万以上	200-500	3-5千

■ ユースケース開発成果イメージ図



対象建物へのあたり判定

3D都市モデルの精緻な高さ情報により正確なシミュレーションができたことにより事前調査だと“OUT”となったが、実際に解析すると“SAFE”となった事例

■ 得られた知見や今後の展望

- 分析に用いるデータの別途作成が必要であったが、昨年度整備した3D都市モデルに対応したGISツールで、都市モデルを活用した簡易な分析は実施可能であった。
- 際どい判定であった建物もシステムで分析でき、現地調査等の必要な件数を低減でき、調査検討期間が短縮できた。
- 建築物LOD1だと、屋根形状が再現されなかったり、低層部と高層部からなる建物は平均高さでモデルが構築される等、実際とは異なる結果となる可能性があるため、注意が必要となる。

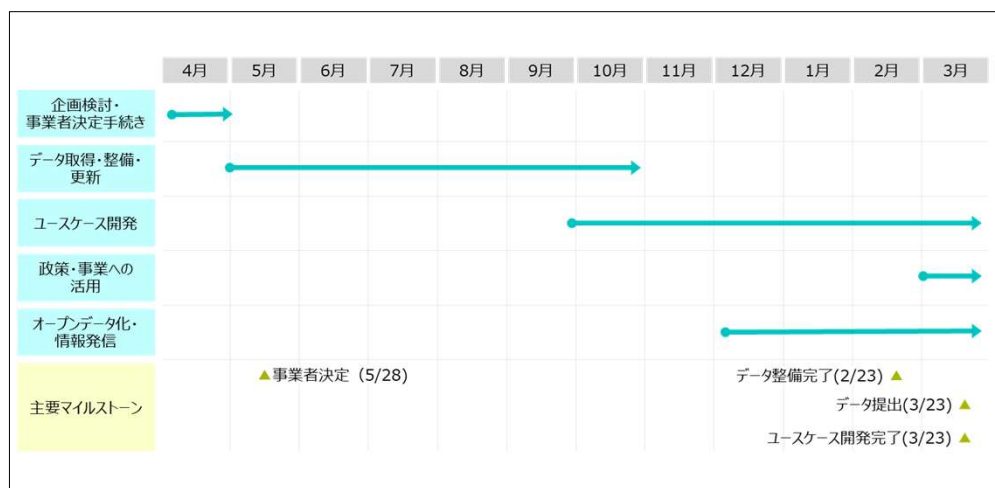
Ⅲ. 令和7年度採択団体別 事業内容

25. 岐阜県大垣市

■ 団体基礎情報・プロジェクト全体像

人口	約15.9万人（令和5年1月時点）
市域全域面積	約207km ² （令和5年1月時点）
目標	災害リスクの可視化による、市民の防災意識の向上
課題	ハザードマップで表示される災害情報は、浸水域の範囲と段階別の浸水深を2次元で色分けしたもので、浸水リスクを把握することはできるが、浸水等の状況が直感的にイメージできるものとはなっていない。

■ 令和7年度スケジュール



分野	人口規模	面積規模	予算規模
防	15万以上	200 - 500	2 - 3千

担当部局	危機管理課
------	-------



■ 補助事業実施項目

事前調査等	—
3D都市モデル整備・更新	3D都市モデル整備事業（災害リスク【洪水】：LOD1）
ユースケース開発	3D都市モデルを活用した災害リスクの可視化事業
推進事業	3D都市モデルのオープンデータサイトの構築

総事業費	21.890（百万円）※うちR7年度 21.890（百万円）
R7年度補助額	10.945（百万円）
補助対象外の関連事業	—

オープンデータ化・可視化・情報発信	<ul style="list-style-type: none"> ・ G空間情報センターへの掲載 【3D都市モデル／関連データ／UCデータ】 ・ PLATEAU VIEWへの掲載 【3D都市モデル／関連データ／UCデータ】 ・ 大垣市ホームページ
-------------------	--

R7年度委託事業者	国際航業株式会社 岐阜営業所 （3D都市モデル整備・更新、ユースケース開発、推進事業）
-----------	--

Ⅲ. 令和7年度採択団体別 事業内容

25. 岐阜県大垣市

■ 3D都市モデル整備状況（基本セット）

※赤字：R7補助対象地物

LOD	整備地物	対象区域	整備面積	整備年度
LOD1	建築物 交通（道路） 都市計画決定情報 土地利用 地形	大垣都市計画区域	83.14km ²	R6年度新規
	災害リスク	大垣地域に影響する3 河川 都市計画区域、大垣地 域・墨俣地域	65.7km ² 83.14km ²	R6年度新規 R7年度拡充
LOD2	建築物	中心市街地	0.44km ²	R6年度新規

項目	活用したデータ	作成年度	地図情報レベル
平面図	家屋現況図（GISデータ） （既存）	R5年度	1,000
測量成果	既存資料（航空写真）	R5年度	1,000
属性情報	都市計画基礎調査（既存）	R5年度	—



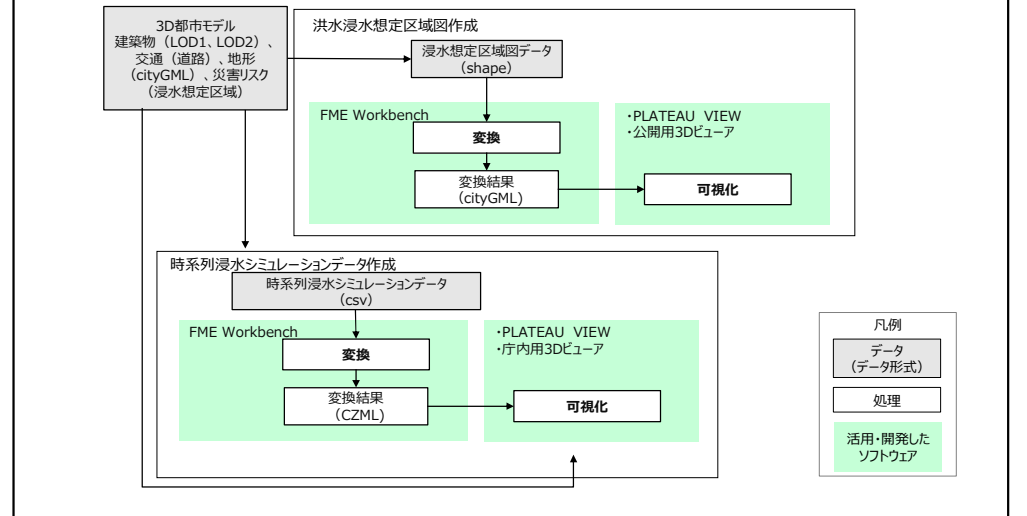
PLATEAU
by MLIT

分野	人口規模	面積規模	予算規模
防	15万以上	200 - 500	2 - 3千

■ ユースケース概要

テーマ	防災・防犯
ユースケース名称	3D都市モデルを活用した災害リスクの可視化事業
目的	災害リスクの可視化による、市民の防災意識の向上
取組内容	ハザードマップで表示される災害情報は、浸水域の範囲と段階別の浸水深を2次元で色分けしたもので、浸水リスクを把握することはできるが、浸水等の状況が直感的にイメージできるものとはなっていないため、浸水想定区域のデータを3D都市モデル上でハザードマップにして、地域の防災訓練等に活用する。

■ システム構成図



Ⅲ. 令和7年度採択団体別 事業内容

25. 岐阜県大垣市

■ ユースケース開発方法

活用データ (3D都市モデル)	<ul style="list-style-type: none"> 建築物LOD1, LOD2 (名称、用途、構造種別、計測高さ、地上階数) 災害リスクLOD1 (洪水浸水想定区域の水面の範囲、浸水深の区分)
活用データ (上記以外)	<ul style="list-style-type: none"> 指定避難所情報 (避難所名称、所在地) 航空写真 (レベル1000)
ユースケース 開発方法	<ul style="list-style-type: none"> 浸水想定における浸水深及び高さ情報を利用し、3Dデータを作成する。 長良川、根尾川、牧田川 (広瀬橋下流域)、相川、泥川、大谷川、薬師川、大滝川、東川、粕川、梅谷川、天王川、平野井川、矢道川、菅野川、奥川、中之江川、新規川、加納川の19河川を対象に作成する。 水系毎、計画降雨 (L1) 及び想定最大規模降雨 (L2) を作成する 3Dデータに付与する属性情報は以下の通り 建築物：名称、浸水ランク、浸水深、指定機関の種類、規模区分、継続時間 洪水浸水想定区域：名称、浸水ランク、指定機関の種類、規模区分 浸水深、浸水時間CSVデータ等を利用し、3D時系列データを作成する。 3D時系列データは構築する庁内用3Dビューワで時系列表現が可能なCZML形式とする。 対象河川は発注者と受注者で協議の上、決定するものとし、計5ケース作成する。 地域住民の防災意識の向上を図るため、作成した時系列浸水シミュレーションデータを使用し、住民説明を想定した動画データを5動画作成する。 本業務成果と令和6年度に整備した3D都市モデルを確認するための庁内用ビューアと市民公開用の公開用ビューアを導入する。
政策・事業での 活用	作成成果 (3D洪水ハザードマップ、時系列浸水シミュレーション) を用いて、自治会や防災士等が行う防災訓練において啓発を行う。
オープンデータ化 情報発信	<ul style="list-style-type: none"> PLATEAU VIEWへの搭載 【3D洪水ハザードマップ】 G空間情報センターへの掲載 【3D洪水ハザードマップ】 大垣市ホームページに掲載 【3D洪水ハザードマップ/時系列浸水シミュレーション】

■ KPI

KPI	目標設定	達成状況
大垣市未来ビジョンに係る大垣市民アンケート内における、市の防災に対する取り組みへの満足度	90% (R9年度)	R9年度 測定予定
災害リスクの可視化に有効だと感じる危機管理部署職員の割合 (%)	90%以上 (R7年度)	100% (R7年度)

分野	人口規模	面積規模	予算規模
防	15万以上	200 - 500	2 - 3千

■ ユースケース開発成果イメージ図



3D洪水ハザードマップ

河川氾濫時の浸水状況の可視化。



時系列浸水シミュレーション

揖斐川の河川氾濫による浸水状況。

■ 得られた知見や今後の展望

防災のユースケース作成により、建物単位での浸水深等を立体的に可視化でき、避難経路の安全性評価や適切な避難行動の判断に大きく寄与する事が確認できた。一方で、情報量が多く住民の理解と活用促進には工夫が必要だと感じる。今年度実施した市職員向けの3D都市モデルの説明会を機に、引き続き職員の3D都市モデルへの理解を促進するとともに、継続的な利活用シーンの発掘・実装を目指す。

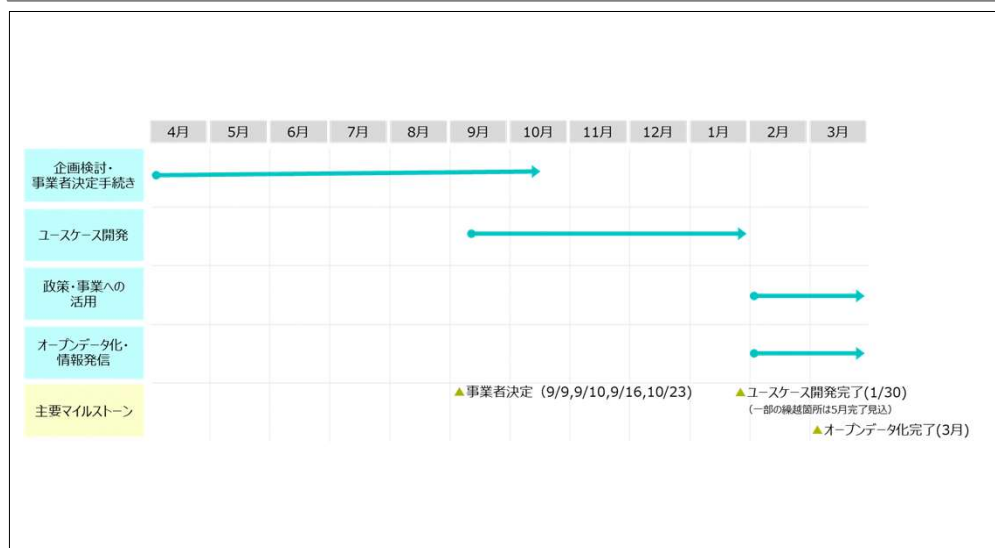
Ⅲ. 令和7年度採択団体別 事業内容

26. 静岡県

■ 団体基礎情報・プロジェクト全体像

人口	約348万人（令和8年1月時点）
市域全域面積	約7,777km ² （令和8年1月時点）
目標	3次元データ活用による安全・安心で利便性が高く快適に暮らせる地域の形成
課題	<ul style="list-style-type: none"> インフラ施設の施設台帳や点検台帳等と3次元仮想空間の統合によるマネジメントの効率化。 災害リスクの可視化による県民の防災意識向上と避難行動の実効性向上。

■ 令和7年度スケジュール



分野	人口規模	面積規模	予算規模
街	15万以上	500以上	5-10千

担当部局	建設政策課
------	-------



■ 補助事業実施項目

事前調査等	—
3D都市モデル整備・更新	—
ユースケース開発	3D都市モデルを活用した施設管理の可視化事業
推進事業	WEB GISのデータ更新等

総事業費	169.000（百万円）※うちR7年度 84.000（百万円）
R7年度補助額	42.000（百万円）
補助対象外の関連事業	—

オープンデータ化・可視化・情報発信	<ul style="list-style-type: none"> G空間情報センターへの掲載 【3D都市モデル／関連データ】 PLATEAU VIEWへの掲載 【3D都市モデル／関連データ】 東京都デジタルツイン3Dビューア 【3D都市モデル／UCデータ】
-------------------	---

R7年度委託事業者	<ul style="list-style-type: none"> (株)フジヤマ (ユースケース開発：道路) 服部エンジニア(株) (ユースケース開発：港湾) 昭和設計(株) (ユースケース開発：漁港) 株式会社三菱総合研究所 (推進事業)
-----------	--

Ⅲ. 令和7年度採択団体別 事業内容

26. 静岡県

■ 3D都市モデル整備状況（基本セット）

※赤字：R7補助対象地物

	整備地物	対象区域	整備面積	整備年度
LOD1	建築物	県内26市町の都市計画区域 上記除く県全域（航空レーザ未取 得範囲を除く）	2563.61km ² 2862.03km ²	R4年度新規 R5年度新規
	交通（道路）	県内31市町	625km ²	R4年度新規
	都市計画決定情報	都市計画区域（政令市除く） 市街化区域モデルを追加	3033.57km ² 228.46km ²	R4年度新規 R5年度新規
	土地利用	都市計画区域（政令市、整備済 の市を除く）	2654.58km ²	R4年度新規
	災害リスク （洪水）	洪水浸水想定区域モデル、津波浸 水想定区域モデル、高潮浸水想定 区域モデル	5425.64km ²	R4年度新規
	（土砂）	土砂災害警戒区域モデル	5425.64km ²	R5年度新規
	地形	県全域（静岡市、浜松市の都市 計画区域、山間地を除く） ※LOD3として整備	6010.33km ²	R4年度新規
LOD2	建築物	富士山周辺エリア	1,032棟	R4年度新規

■ 3D都市モデル整備状況（基本セット以外）

※赤字：R7補助対象地物

LOD	整備地物	対象区域	整備面積	整備年度
LOD3	地形	県全域（静岡市、浜松市の都市 計画区域、山間地を除く）	6010.33km ²	R4年度新規

項目	活用したデータ	作成年度	地図情報レベル
平面図	数値地形図（DMデータ）（既存）	R4年度	2,500
測量成果	既存資料（航空レーザ）	R1～R3年度	2,500
属性情報	都市計画基礎調査（既存）	R3年度	—

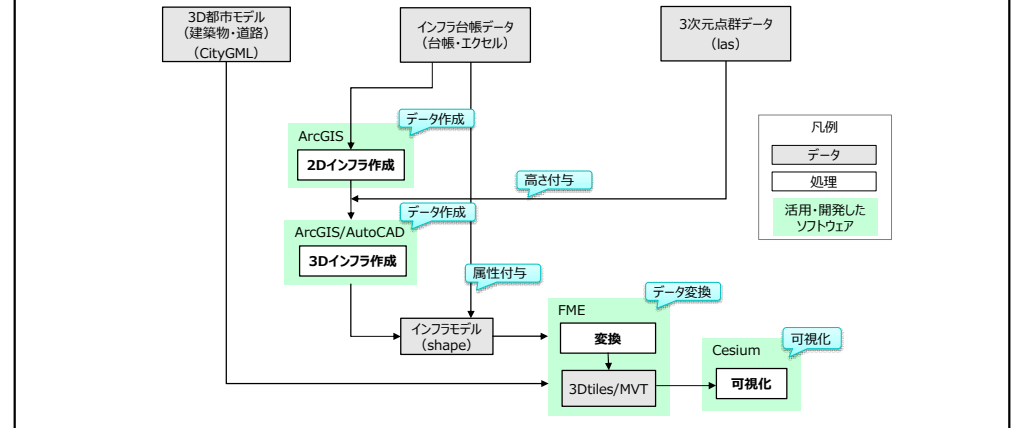
分野	人口規模	面積規模	予算規模
街	15万以上	500以上	5～10千



■ ユースケース概要

テーマ	都市計画・まちづくり
ユースケース 名称	3D都市モデルを活用した施設管理の可視化事業
目的	インフラ施設の施設台帳や点検台帳等と3次元仮想空間の統合によるマ ネジメントの効率化
取組内容	3D都市モデルと道路、港湾・漁港の各種施設の台帳や点検記録等の重 ね合わせにより、一元的にデータを蓄積、確認ができる環境を構築すること で、施設の維持管理の効率化や災害対応の迅速化を図る。 【可視化する施設の違い】 ～R6：道路(本体)/照明灯/標識、河川/海岸、砂防施設、沼津/清 水港、戸田/静岡漁港 R7：道路トンネル/橋梁、田子の浦港、焼津/妻良/稲取漁港

■ システム構成図



Ⅲ. 令和7年度採択団体別 事業内容

26. 静岡県

■ ユースケース開発方法

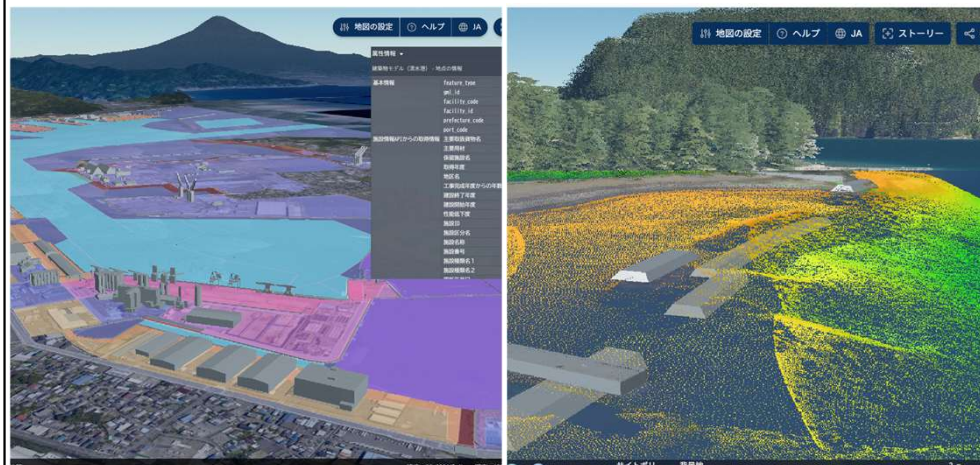
活用データ (3D都市モデル)	<ul style="list-style-type: none"> 建築物LOD1 道路LOD1
活用データ (上記以外)	<ul style="list-style-type: none"> インフラ台帳データ（施設情報（施設名称、管理番号、施設の構造に関する情報、根拠法令による分類、図面）） 3次元点群データ（座標情報（地形））
ユースケース 開発方法	<ul style="list-style-type: none"> 県管理道路等公共施設の台帳や点検記録等を収集し、路線やエリアごとに情報を整理。 インフラ施設モデルを作成し、整理した台帳等の情報や、位置情報を付与する。 3D都市モデルと台帳データ等を3次元空間上で重ね合わせ、一元的にデータを蓄積、確認ができる環境を構築する。 インフラ施設の位置・構造等の確認、台帳情報の閲覧作業を3次元空間上で行うことで簡略化し、施設の維持管理の効率化を図る。
政策・事業での 活用	<ul style="list-style-type: none"> 台帳を可視化して、施設の位置や構造等を迅速に把握できるようにし、県職員及び県民に公開する。 可視化した施設から簡易に台帳情報を閲覧することが可能となる。職員の業務効率向上や県民が管理機関まで来庁する手間が省ける。
オープンデータ化 情報発信	東京都デジタルツイン3Dビューア（東京都と協定締結し共同運用）に掲載

■ KPI

KPI	目標設定	達成状況
施設管理の効率化・職員の現場確認等に要する時間削減	1,326時間→1,313時間 (R6年度) (R7年度)	1,296時間 (R7年度)
災害ハザードマップの理解促進・GIS閲覧数（単年度）	16,116人→17,000人 (R6年度) (R7年度)	17,084人 (R7年度)

分野	人口規模	面積規模	予算規模
街	15万以上	500以上	5-10千

■ ユースケース開発成果イメージ図



台帳の可視化

台帳を可視化して、属性情報から台帳情報を簡易に閲覧できるようにし、県職員及び県民に公開

構造物の位置把握

施設モデルと3次元点群データの重ね合わせにより、海底等の通常視認できない構造物を把握

■ 得られた知見や今後の展望

属性情報の活用・3次元空間での可視化が施設情報や構造物の把握を簡略化することに寄与し、効率的に施設管理を行う環境を整備することができた。
引き続き施設台帳の可視化を進めるとともに、可視化したデータの使用方法や活用例などを操作研修等により職員へ周知し、業務に活用されるよう浸透を図るとともに、県民に対して広報していくことで、利用を促す。

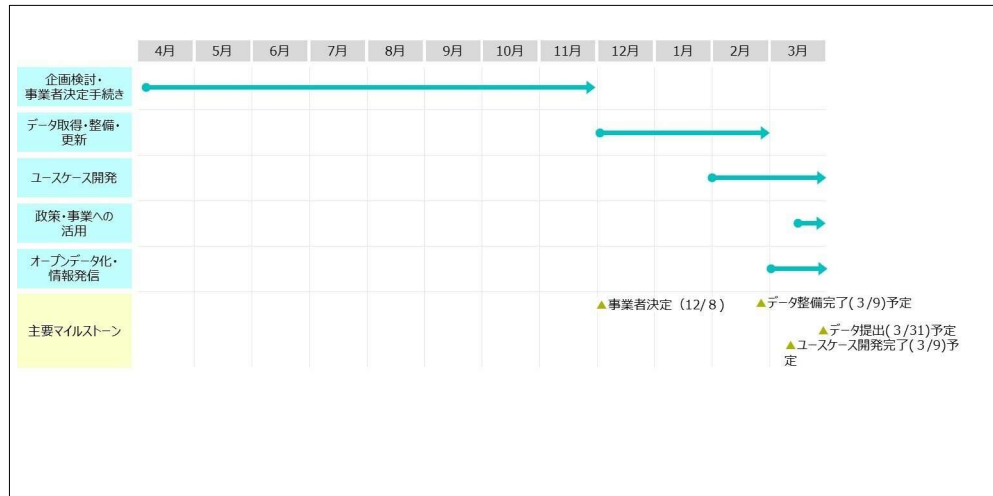
Ⅲ. 令和7年度採択団体別 事業内容

27. 静岡県静岡市

■ 団体基礎情報・プロジェクト全体像

人口	約68.4万人（令和5年1月時点）
市域全域面積	約1,412km ² （令和5年1月時点）
目標	政策を進めるうえで、より多くの市民と都市政策の共有を図る。
課題	<ul style="list-style-type: none"> 行政が作る都市政策の多くは、言語が抽象的で言葉も難しく、自発的に知る気が起きない。もっと直感的でわかりやすい表現が必要 都市政策の情報発信媒体は、利用者が限られる広報誌、HP、SNSとなっているため、別の情報発信媒体が必要 都市政策を自分事としてもらうためには、実際に現地で再現することが重要であるが、現実での再現にはハードルがある。バーチャルで再現することでハードルを下げる。

■ 令和7年度スケジュール



分野	人口規模	面積規模	予算規模
街・他	15万以上	500以上	1千未満

担当部局	景観まちづくり課
------	----------



■ 補助事業実施項目

事前調査等	—
3D都市モデル整備・更新	3D都市モデル整備（LOD2）
ユースケース開発	3D都市モデルを活用した都市XRキャンバス構築及びフラグシップコンテンツの開発
推進事業	—

総事業費	12.000（百万円）※うちR7年度 6.000（百万円）
R7年度補助額	3.00（百万円）
補助対象外の関連事業	—

オープンデータ化・可視化・情報発信	<ul style="list-style-type: none"> G空間情報センターへの掲載 【3D都市モデル／関連データ】 PLATEAU VIEWへの掲載 【3D都市モデル／関連データ】
-------------------	---

R7年度委託事業者	アジア航測株式会社 （3D都市モデル整備・更新、ユースケース開発）
-----------	--------------------------------------

Ⅲ. 令和7年度採択団体別 事業内容

27. 静岡県静岡市

■ 3D都市モデル整備状況（基本セット）

※赤字：R7補助対象地物

LOD	整備地物	対象区域	整備面積	整備年度
LOD1	建築物 交通（道路） 都市計画決定情報 土地利用 地形	静岡都市計画区域	234.9km ²	R4年度新規
	災害リスク（洪水）	安倍川・藁科川浸水想定区域 静岡都市計画区域	234.9km ² 234.9km ²	R4年度新規 R5年度拡充
LOD2	建築物	中心市街地区域、 上記を除く、静岡市中心市街地、壁面にテキスト貼り付け	5棟 0.3km ² (呉服通り、青葉緑地)	R4年度新規 R7年度更新

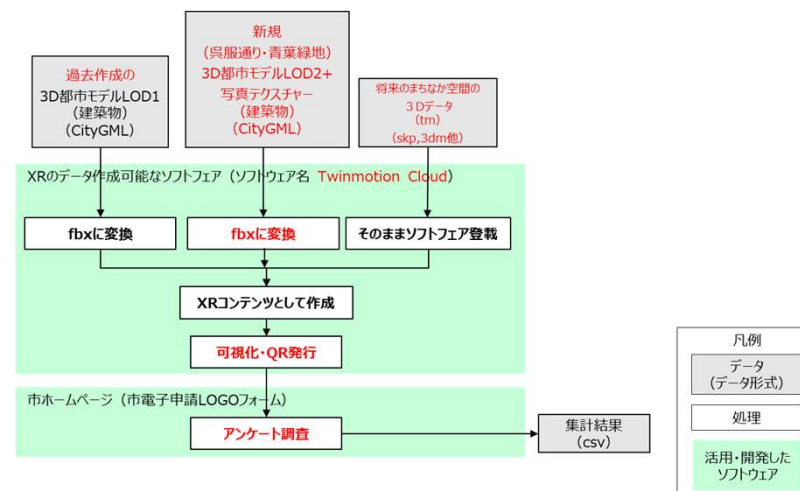
項目	活用したデータ	作成年度	地図情報レベル
平面図	都市計画基本図（既存）	R3年度	2,500
測量成果	既存資料（航空写真）	R3年度	500
属性情報	都市計画基礎調査（既存）	R3年度	—

分野	人口規模	面積規模	予算規模
街・他	15万以上	500以上	1千未満

■ ユースケース概要

テーマ	都市計画・まちづくり／その他
ユースケース名称	都市政策見える化プロジェクト
目的	XR技術を活用して、アイレベルで都市政策に触れる機会を作り、都市政策の周知率を高める。
取組内容	3D都市モデルをベースにして、都市政策が実現する社会を「見える化」する仕組みを作ることで、事業によって実現する「将来のまちの姿」を市民が体験できる体制をする。これにより、都市政策の市民周知度を高め、パブリックコメントや市民参画ワークショップの出席率の向上を図り、公民連携によるまちづくりの実現を目指す。

■ システム構成図



Ⅲ. 令和7年度採択団体別 事業内容

27. 静岡県静岡市

■ ユースケース開発方法

活用データ (3D都市モデル)	建築物LOD1, LOD2 (建築物形状データ)
活用データ (上記以外)	3DCADで作成したストリートファニチャー (SKP形式)
ユースケース 開発方法	<ul style="list-style-type: none"> 過年度に作成した対象区域の3D都市モデル (LOD1) をゲームエンジンで活用できるようにfbx形式に変換。 対象区域のうち、呉服通りと青葉緑地の沿道建築物をLOD2で作成し、側面写真から作成したテクスチャを壁面に貼り付け、CityGMLで作成後、ゲームエンジン (PLATEAU SDK for UE) で活用できるようにfbx形式に変換。 上記のデータを合わせて、バーチャル空間に静岡市の中心市街地を再現する。 見える化する都市政策の3Dモデリングデータを都市XRキャンバスに搭載できるようにゲームエンジン (Twinmotion) を活用して変換。 作成した都市XRキャンバスと合成し、コンテンツを作成する。 コンテンツ利用者にアンケートを実施し、3Dで政策を見る有効性を調べる。
政策・事業での 活用	<ul style="list-style-type: none"> 都市XRキャンバスは、過年度に作成した3D都市モデルのデータ (LOD1) と今回新たに呉服通りと青葉シンボルロードの沿道建築物をLOD2としたデータを合わせたものをイメージ。 フラグシップコンテンツは、スマートフォンで都市政策を実現した将来の姿をアイレベルで確認することができるコンテンツをイメージ
オープンデータ化 情報発信	更新した3D都市モデルをG空間情報センターに掲載

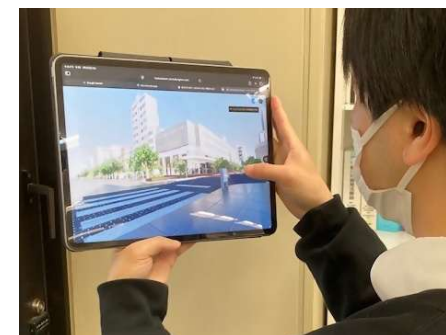
KPI	目標設定	達成状況
都市政策の周知数を調べる。 (コンテンツ利用者数と政策が見える化した周知手法の有効度を測定)	アンケート回答で有効と判断した人の割合70% (R7年度)	81% (R7年度)

分野	人口規模	面積規模	予算規模
街・他	15万以上	500以上	1千未満

■ ユースケース開発成果イメージ図



ゲームエンジンを使用したコンテンツ作成
職員によるTwinmotion研修の様子



ゲームエンジンを使用したVRコンテンツ
実際作成したVRコンテンツの様子

■ 得られた知見や今後の展望

- XRコンテンツが政策を伝える手法として有効であると判断した人が目標設定よりも多く、3D都市モデル (LOD2) を利用したコンテンツが合意形成で有効であることが実証されたため、今後もLOD2化の範囲を広げていくことを検討したい。
- 今回のユースケースはTwinmotionの活用して職員内製で実施した。庁外でコンテンツを報告する際に、「3D都市モデルを使ってみよう」という声が多かったため、誰もが3D都市モデルを利用できる環境づくりを検討してきた。
- 一方で、庁内報告では3D都市モデルの有効性は示せたものの、まだ業務活用へのイメージが合意形成の場合でしかできていない。今後は業務支援ツールとしての可能性を検討していきたい。

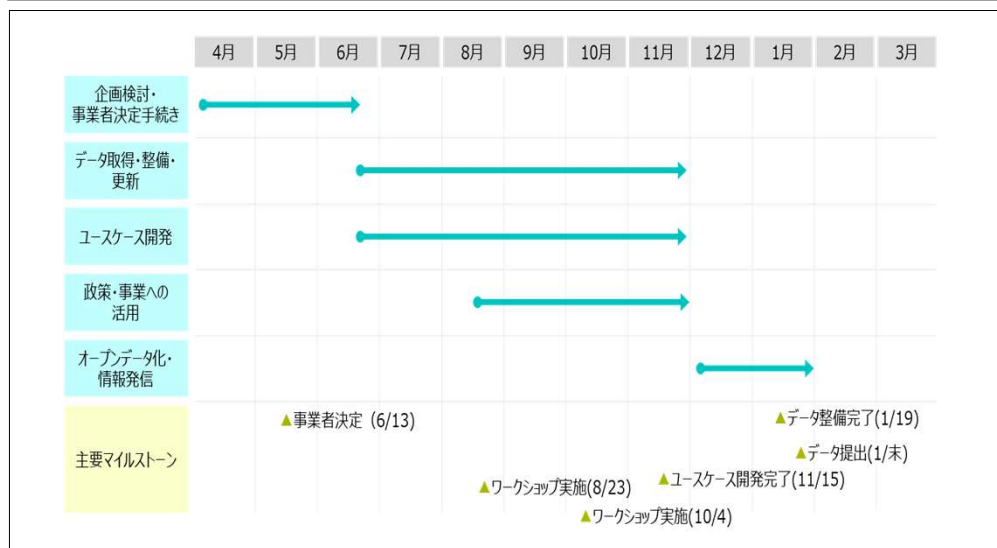
Ⅲ. 令和7年度採択団体別 事業内容

28. 愛知県春日井市

■ 団体基礎情報・プロジェクト全体像

人口	約30.9万人（令和5年1月時点）
市域全域面積	約93km ² （令和5年1月時点）
目標	地域住民の理解を得た公園施設の配置計画
課題	<ul style="list-style-type: none"> • 模型や2Dの図面では住民が正確に完成形をイメージできず、計画に対する理解度を高めることができない。 • 模型では、作り直すことができないため、中間時点で作成できず、議論の活性化を図れない。

■ 令和7年度スケジュール



分野	人口規模	面積規模	予算規模
他	15万以上	50-100	1千未満

担当部局	都市政策課
------	-------



■ 補助事業実施項目

事前調査等	—
3D都市モデル整備・更新	—
ユースケース開発	VR技術を活用した公園施設の配置計画
推進事業	—

総事業費	0.480（百万円）※うちR7年度0.480（百万円）
R7年度補助額	0.240（百万円）
補助対象外の関連事業	—

オープンデータ化・可視化・情報発信	春日井市ホームページ
-------------------	------------

R7年度委託事業者	国際航業株式会社（ユースケース開発）
-----------	--------------------

Ⅲ. 令和7年度採択団体別 事業内容

28. 愛知県春日井市

■ 3D都市モデル整備状況（基本セット）

※赤字：R7補助対象地物

LOD	整備地物	対象区域	整備面積	整備年度
LOD1	建築物 交通（道路） 都市計画決定情報 土地利用 災害リスク（洪水・土砂） 地形	市域全域	92.78km ²	R4年度新規
LOD1	災害リスク（内水・高潮）	市域全域	92.78km ²	R5年度新規
LOD2	建築物	中心市街地区 域、JR春日井駅 及び高蔵寺駅周 辺	0.75km ²	R5年度新規

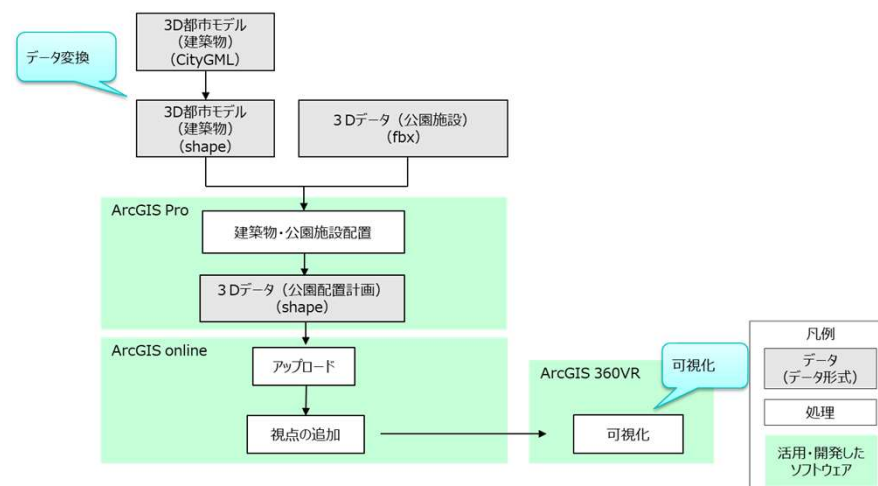
項目	活用したデータ	作成年度	地図情報レベル
平面図	都市計画基本図（既存）	R2年度	2,500
測量成果	既存資料（航空写真）	R2年度	2,500
属性情報	都市計画基礎調査（既存）	R2年度	—

分野	人口規模	面積規模	予算規模
他	15万以上	50 - 100	1千未満

■ ユースケース概要

テーマ	その他（住民参加）
ユースケース名称	VR技術を活用した公園施設の配置計画
目的	公園施設の配置計画に係るワークショップにVR技術を活用することで、ワークショップを活性化させ、より地域住民の理解を得た合意形成を図る。
取組内容	ワークショップ参加者が検討した配置案を基に3Dモデルを作成し、VR空間で検証作業を行う。検証で得た気づきを基に当初案の再検討を行い、配置計画をとりまとめる。

■ システム構成図



Ⅲ. 令和7年度採択団体別 事業内容

28. 愛知県春日井市

■ ユースケース開発方法

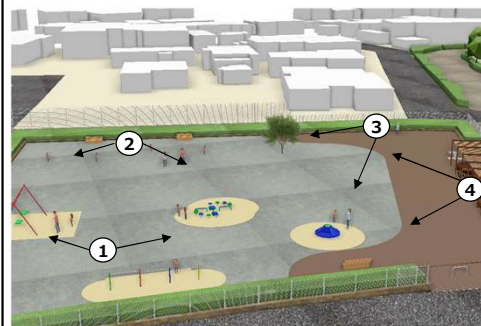
活用データ (3D都市モデル)	建築物LOD1、LOD2
活用データ (上記以外)	公園施設（職員及び委託業者で作成）
ユースケース 開発方法	<ul style="list-style-type: none"> 公園施設の3Dデータを作成。 3D都市モデル（建築物）及び3Dデータ（公園施設）を活用し、ワークショップ参加者が検討した公園施設配置案をその場でVR空間上に表現し、可視化。 案ごとにVR空間上で表現して検討を行い、公園施設配置最終案を取りまとめる。
政策・事業での 活用	公園の施設配置計画に係るワークショップにて活用。
オープンデータ化 情報発信	春日井市ホームページに掲載。

■ KPI

KPI	目標設定	達成状況
施設の配置や構造について平面模型に比バイメージしやすかった人の割合	60% (R7年度)	67% (R7年度)

分野	人口規模	面積規模	予算規模
他	15万以上	50-100	1千未満

■ ユースケース開発成果イメージ図



公園施設配置案（全景）



視点からの見え方（視点③）

全景の確認に加えて、確認する視点を4つ設定し、設定した視点を中心に360度可視化した。

VR空間上で表現することで、遊具等の大きさや位置関係、道路や建築物との位置関係を確認しながら議論が可能となる。

また、VRゴーグルを着用して見ることで、公園の中で立って見ているような目線で確認が可能となる。

■ 得られた知見等や今後の展望

3D都市モデルを活用することで、平面上だけではわかりづらい遊具の大きさや位置関係を可視化できるため、ワークショップ参加者の理解度向上への効果を感じた。今後は、今回の住民参加のユースケースに関連して、他分野での合意形成を目的とした活用や、防災分野での3D都市モデルのさらなる活用のため、検討を進める。

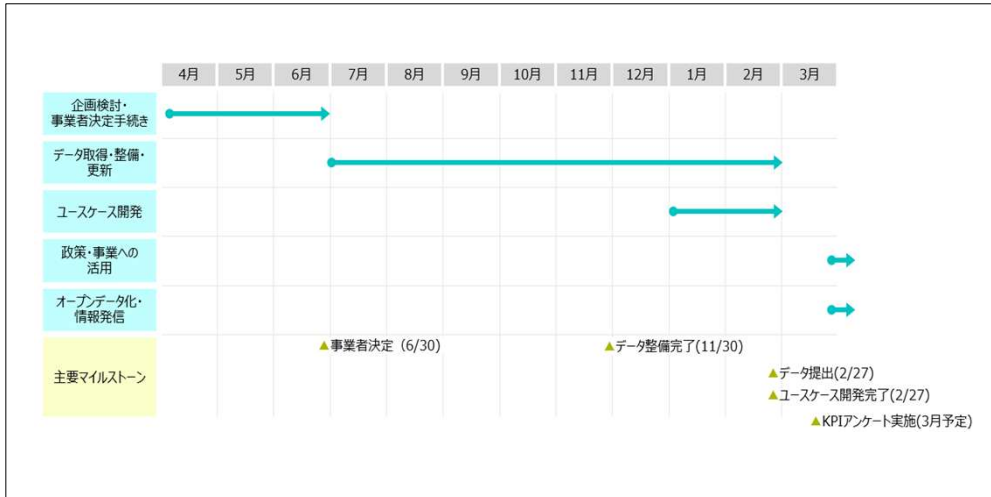
Ⅲ. 令和7年度採択団体別 事業内容

29. 滋賀県近江八幡市

■ 団体基礎情報・プロジェクト全体像

人口	約8.2万人（令和5年1月時点）
市域全域面積	約177km ² （令和5年1月時点）
目標	近江八幡市の伝統と歴史ある町なみを後世に残し、ネットワーク型コンパクトシティを実現する。
課題	<ul style="list-style-type: none"> 戸建て住居の小規模な開発から商業施設や分譲地の大規模な開発が多く行われており、市街地の姿が日々変化している。特に、市街化調整区域では住宅開発が拡散しており、市街地の低密度化が懸念される。 このような状況において、市が策定している各種計画の見直しが必要となる。

■ 令和7年度スケジュール



分野	人口規模	面積規模	予算規模
街	5-15万	100-200	1-2千

担当部局	都市計画課
------	-------



■ 補助事業実施項目

事前調査等	各種データ整理に係る事前準備
3D都市モデル整備・更新	3D都市モデル整備事業（LOD1、LOD2）
ユースケース開発	3D都市モデルを活用した開発許可の可視化事業
推進事業	3D都市モデルのオープンデータサイトの構築

総事業費	16.310（百万円） ※うちR7年度 16.310（百万円）
R7年度補助額	10.000（百万円）
補助対象外の関連事業	—

オープンデータ化・可視化・情報発信	<ul style="list-style-type: none"> G空間情報センターへの掲載 【3D都市モデル／関連データ】 PLATEAU VIEWへの掲載 【3D都市モデル／関連データ】 近江八幡市オープンデータサイト 【3D都市モデルデータ／UCデータ】 近江八幡市ホームページ 【3D都市モデルPR動画】
-------------------	--

R7年度委託事業者	エアロトヨタ株式会社 滋賀支店 （事前調査、3D都市モデル整備・更新、ユースケース開発、推進事業）
-----------	--

Ⅲ. 令和7年度採択団体別 事業内容

29. 滋賀県近江八幡市

■ 3D都市モデル整備状況（基本セット）

※赤字：R7補助対象地物

LOD	整備地物	対象区域	整備面積	整備年度
LOD1	建築物	市域全域	101.4km ² 、 51,454棟	R7年度新規
	都市計画決定情報 土地利用 災害リスク（洪水・土砂） 地形	市域全域	101.4km ²	
	交通（道路）	市域全域	総延長 654km	
LOD2	建築物	市役所、市立病院、警察署、JR駅舎等	11棟	

項目	活用したデータ	作成年度	地図情報レベル
平面図	都市計画基本図（既存）	R6年度	2,500
測量成果	既存資料（航空写真）	R4年度	1,000
属性情報	都市計画基礎調査（既存）	R4年度	—

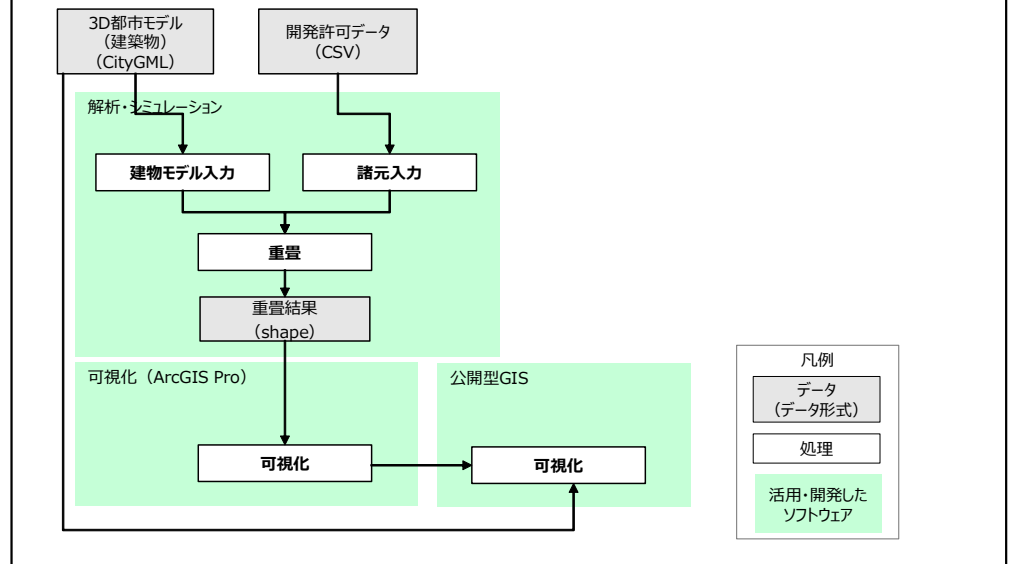
分野	人口規模	面積規模	予算規模
街	5-15万	100-200	1-2千



■ ユースケース概要

テーマ	都市計画・まちづくり
ユースケース名称	3D都市モデルを活用した開発許可の可視化事業
目的	都市の利用状況を把握・検討し、都市計画マスタープラン等の本市の計画に活用する。
取組内容	都市計画法第29条、第42条及び第43条許可を受けた建築物について、開発許可された変遷を年度別に可視化を行う。これを用いて都市の利用状況を把握・検討し、都市計画マスタープラン等の本市の計画に活用する。

■ システム構成図



Ⅲ. 令和7年度採択団体別 事業内容

29. 滋賀県近江八幡市

■ ユースケース開発方法

活用データ (3D都市モデル)	建築物LOD1, LOD2 (名称、用途、構造種別、計測高さ、地上階数)
活用データ (上記以外)	開発許可データ (許可年月日、許可種類)
ユースケース 開発方法	<ul style="list-style-type: none"> 都市計画図DMから外形ポリゴンを作成し、数値表層モデル (DSM) と数値標高モデル (DEM) を用いて建築物高さを付与する。 変換した3D都市モデルと開発許可データを重畳。 重畳結果を活用し、ArcGIS Proでデータを5年間隔で可視化。
政策・事業での 活用	建築物と開発許可情報を重畳し、都市の変遷をわかりやすく可視化し、都市計画の各計画策定及び改定に向けた検討資料とする。また、近江八幡市マップ公開サイト (公開型GIS) で公開し、都市計画審議会等の会議で活用するほか、庁内や住民との合意形成に活用する。
オープンデータ化 情報発信	近江八幡市マップ公開サイト (公開型GIS) へ搭載

■ KPI

KPI	目標設定	達成状況
「まちの変遷の理解度」が向上したと回答した職員の割合	80% (R7年度)	100% (R7年度)
「都市計画法や景観法に関する各種計画、開発許可基準の見直しの動機となり得た」と回答した職員の割合	50% (R7年度)	88% (R7年度)
「まちの変遷の理解度」が向上したと回答した職員の割合	80% (R8年度)	R8年度 測定予定
「まちの変遷の理解度」や「各種計画の見直しの動機となり得た」と回答した職員の割合	50% (R8年度)	R8年度 測定予定

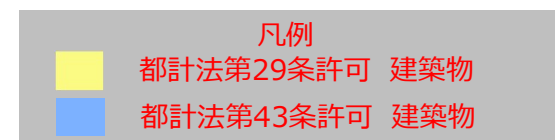
分野	人口規模	面積規模	予算規模
街	5-15万	100-200	1-2千

■ ユースケース開発成果イメージ図



建築物へ開発許可情報を付与

建築物と開発許可情報を重畳し、都市の変遷をわかりやすく可視化する。都市計画の各計画策定及び改定に向けた検討資料として、庁内や住民との合意形成に活用する。



■ 得られた知見や今後の展望

市街化調整区域内の開発が多いことを再認識した反面、同区域内で用途変更や改築が行われていることから、農村集落の維持・活性化を視覚的に感じ取ることができた。なお、今回作成した3D都市モデルは、開発許可実績の可視化に留まらず、幅広い分野で活用が期待できることから、庁内で周知・啓発を行う。

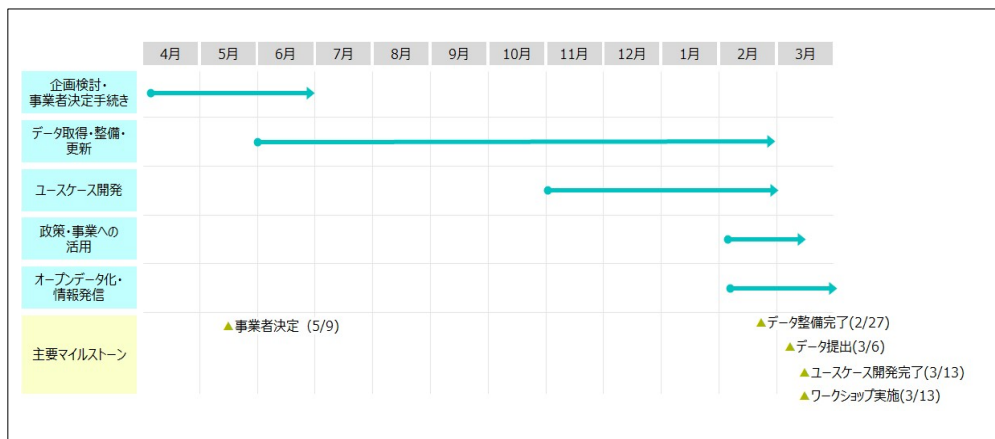
Ⅲ. 令和7年度採択団体別 事業内容

30. 京都府舞鶴市

■ 団体基礎情報・プロジェクト全体像

人口	約7.8万人（令和5年1月時点）
市域全域面積	約342km ² （令和5年1月時点）
目標	「次世代への積極的な投資」「安全で安心できる社会の実現」「魅力的なまちづくりの構築」の3つの視点を中心に、「未来に希望がもてる活力あるまち・舞鶴」
課題	<ul style="list-style-type: none"> 地域防災力向上のための、災害リスクの認識向上や、防災に対する市民意識の醸成。 中心市街地の低密度化。 便利な田舎暮らしを実現する公共交通の空白不便地域の移動確保、データを活用した公共交通の最適化、移動需要の見える化、社会状況に対応した移手段の確保。 データ駆動型社会におけるEBPMの推進。

■ 令和7年度スケジュール



分野	人口規模	面積規模	予算規模
街・防	5-15万	200-500	5-10千

担当部局	都市計画課
------	-------



■ 補助事業実施項目

事前調査等	3D都市モデルの整備範囲や整備内容の検討
3D都市モデル整備・更新	3D都市モデル整備事業（LOD1, LOD2）
ユースケース開発	<ul style="list-style-type: none"> 3D都市モデルを活用した災害リスクの可視化事業 3D都市モデルを活用したまちなかの課題把握
推進事業	<ul style="list-style-type: none"> 庁内3D都市モデル閲覧システムの構築 まちづくりシミュレーションシステムの構築

総事業費	109.500（百万円） ※うちR7年度59.500（百万円）
R7年度補助額	29.750（百万円）
補助対象外の関連事業	—

オープンデータ化・可視化・情報発信	<ul style="list-style-type: none"> G空間情報センターへの掲載【3D都市モデル／関連データ／UCデータ】 PLATEAU VIEWへの掲載【3D都市モデル／関連データ／UCデータ】
-------------------	---

R7年度委託事業者	アジア航測株式会社 （事前調査、3D都市モデルの整備・更新、ユースケース開発、推進事業）
-----------	---

Ⅲ. 令和7年度採択団体別 事業内容

30. 京都府舞鶴市



■ 3D都市モデル整備状況（基本セット） ※赤字：R7補助対象地物

LOD	整備地物	対象区域	整備面積	整備年度
LOD1	建築物 交通（道路） 都市計画決定情報 土地利用	舞鶴市市街化区域 舞鶴市市街化調整区域	20.89km ² 242.09km ²	R7年度新規 R9年度拡充
	災害リスク災害リスク （洪水、土砂、津波、 内水・高潮） 地形	舞鶴市都市計画区域	262.98km ²	R7年度新規
LOD2	建築物	鶴市市街化区域 （都市機能誘導区域）	0.64km ²	R7年度新規
		舞鶴市市街化区域 （居住誘導区域）	0.91km ²	R8年度拡充

■ 3D都市モデル整備状況（基本セット以外） ※赤字：R7補助対象地物

LOD	整備地物	対象区域	整備面積	整備年度
LOD2.0	交通（道路）	舞鶴市市街化区域 （都市機能誘導区域） 舞鶴市市街化区域 （居住誘導区域）	0.64km ² 0.91km ²	R7年度新規 R8年度拡充

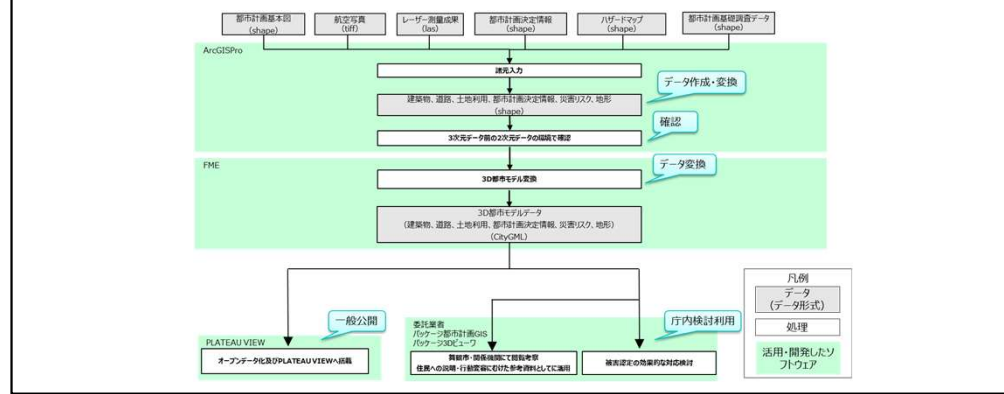
項目	活用したデータ	作成年度	地図情報レベル
平面図	都市計画基本図（修正）	H27年度	2,500
測量成果	新規測量（航空写真）	R5年度	1,000
属性情報	都市計画基礎調査（修正）	R6年度	—

分野	人口規模	面積規模	予算規模
街・防	5-15万	200-500	5-10千

■ ユースケース概要①

テーマ	防災・防犯
ユースケース名称	3D都市モデルを活用した災害リスクの可視化事業
目的	災害リスク理解の向上
取組内容	市内全域での災害リスク情報の三次元表示を行い、市が抱える災害リスクをわかりやすく可視化する。 さらに、3D都市モデル（建築物）に固定資産管理番号、被害想定状況などを重畳化することで災害時における被災可能性住家を可視化し、被害認定の効果的な対応（実際に被災した住家の被害認定までの時間短縮、経過管理）を効率的に行えるか検討を実施する。 可視化した結果は、令和8年度以降、水害においては、垂直避難を含めた避難行動見直し、今後の防災計画や避難経路設定、避難訓練等防災まちづくりイベントなどに活用し、市民の行動変容を促す。

■ システム構成図



Ⅲ. 令和7年度採択団体別 事業内容

30. 京都府舞鶴市

■ ユースケース開発方法

活用データ (3D都市モデル)	<ul style="list-style-type: none"> 建築物LOD1、2（名称、用途、構造種別、計測高さ、地上階数、建築年 等） 交通（道路）LOD1、2（名称、分類、機能、用途 等） 災害リスクLOD1（洪水浸水想定区域の水面の範囲、浸水深の区分、土砂災害警戒区域の範囲、起こりうる災害の内容）
活用データ (上記以外)	被災想定建築物可視化データ
ユースケース 開発方法	<ul style="list-style-type: none"> パブリッククラウド上に都市計画GIS、3D都市モデルビューアを構築し、非常時に庁外からアクセス可能なスキームとする。 3D都市モデル及び三次元化した災害リスク（土砂災害、浸水想定区域図）を3Dビューア上に重ね合わせ、災害リスクをわかりやすく可視化 3D都市モデル（建築物）に固定資産管理番号、浸水状況などの情報を重畳化し、水害時における被災可能性住家を可視化（固定資産管理番号は庁内利用に限定）
政策・事業での 活用	<ul style="list-style-type: none"> 作成した3D都市モデルと浸水、土砂災害、地震といったシミュレーションデータを3D都市モデル閲覧システムへインストールし、三次元で重畳化して可視化する。可視化した災害リスクデータは、防災計画・避難経路設定の検討に活用できるように調整を行う。 市街化区域を対象として、3D都市モデル（建築物）に固定資産管理番号、被害想定状況などの情報を重畳化することで、災害時における被災可能性住家を可視化する。可視化した結果を用いて、被害認定の効果的な調査方法について検討を行う。 上記で作成したデータ・検討結果の庁内に報告を行い、今後の利活用に向けた防災計画見直しに向けた基礎資料とする。
オープンデータ化 情報発信	<ul style="list-style-type: none"> PLATEAU VIEWへの搭載 G空間情報センターへの掲載

■ KPI

KPI	目標設定	達成状況
職員の災害リスク理解度アンケートで、理解度が上がった職員の割合	75% (R7年度)	86% (R7年度)
検討会議の開催回数	2回 (R7年度)	2回 (R7年度)

分野	人口規模	面積規模	予算規模
街・防	5-15万	200-500	5-10千

■ ユースケース開発成果イメージ図

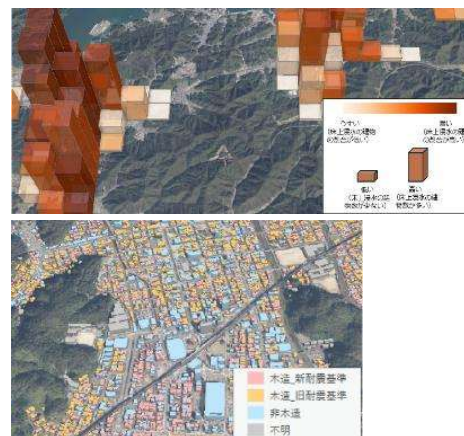


図1：災害リスクの可視化

3D都市モデルに固定資産管理番号や被害想定データを重ね、各住家の被災可能性を可視化することで、災害時の影響範囲を事前把握し、被害認定調査の効率化・迅速化や進捗管理の改善を検討する。



図2：災害ユースケース説明会の様子

- 防災意識の向上を目的に説明会を実施
- 災害リスクの説明

■ 得られた知見や今後の展望

- ハザード情報と建物情報を組み合わせ、可視化することにより、災害時のリスクを事前把握し、職員のこれまでの経験値ではなく、客観的データに基づき検討することが出来た。
- 今回のユースケースで得られた被災可能性住家のシミュレーション結果を用いて、発災時の被害把握や初動対応を迅速化、罹災証明や支援業務の効率化、事前防災施策につなげる。

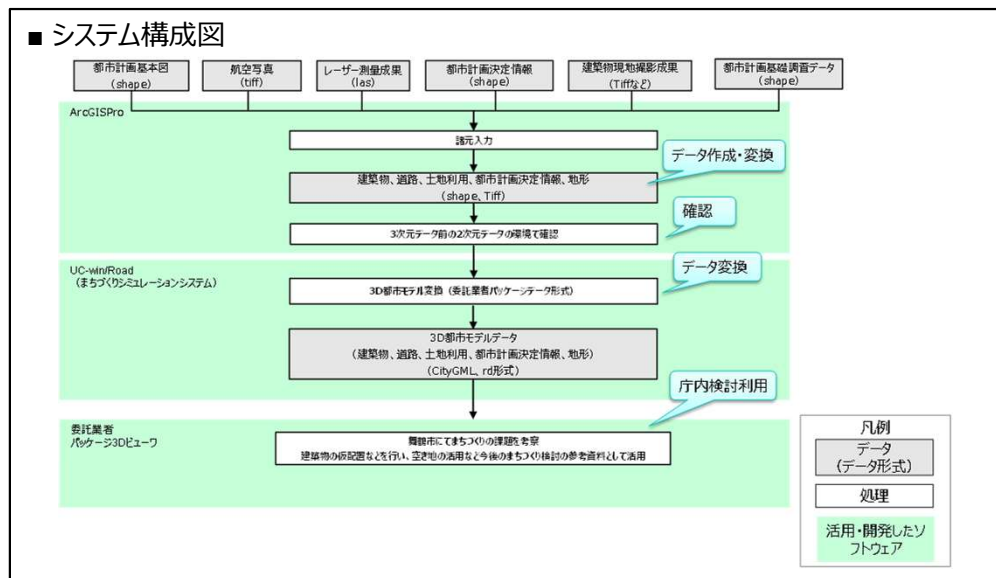
Ⅲ. 令和7年度採択団体別 事業内容

30. 京都府舞鶴市

■ ユースケース概要②

テーマ	まちづくり
ユースケース名称	3D都市モデルを活用したまちなかの課題把握
目的	まちなかの現状をリアルに可視化することにより、庁内関係者の課題認識を共有する。
取組内容	東舞鶴駅周辺のまちなかエリアにおいて、建物モデルに写真データをテキストチャとして付与し、リアリティのあるまちなみを再現するとともに、土地利用現況データや建物利用現況データと重ね合わせることで、まちなかが抱える課題を庁内関係者が把握し、共通の課題認識を持てるようにする。

■ システム構成図



■ ユースケース開発方法

活用データ (3D都市モデル)	<ul style="list-style-type: none"> 建築物 LOD1、2 (名称、用途、構造種別、計測高さ、地上階数、建築年 等) 交通 (道路) LOD1、2 (名称、分類、機能、用途 等) 都市計画決定情報 LOD1 (区域名称の区域の範囲、区域の種類 等)
活用データ (上記以外)	都市計画基礎調査データ
ユースケース開発方法	<ul style="list-style-type: none"> 委託業者のパッケージを利用してスタンドアロン形式でまちづくりシミュレーションシステムを構築する。構築したシステムでは、3D都市モデル (建築物 LOD1・LOD2など) の表示に加え、建築物の仮想配置、リアリティのある地物の配置など、高度なまちづくりのシミュレーションができるようにする。 東舞鶴駅周辺の主要な街路について、街路に面する建築物モデルを中心にテキストチャを付与する。さらに、委託業者のパッケージシステム上で東舞鶴駅周辺の鉄道高架橋、東舞鶴駅舎を3Dで表示させ、リアリティのあるまちなみを再現する。
政策・事業での活用	<ul style="list-style-type: none"> 構築したまちづくりシミュレーションシステムにテキストチャ付きの建築物モデル、都市計画基礎調査の結果などを重ね合わせて東舞鶴駅周辺の課題の把握し、空き地の有効活用方法の検討など今後のまちづくりの検討材料とする。 上記で作成したデータ・検討結果の庁内に報告を行い、今後のまちづくりの政策決定資料とする。
オープンデータ化 情報発信	<ul style="list-style-type: none"> PLATEAU VIEWへの搭載 G空間情報センターへの掲載

■ KPI

KPI	目標設定	達成状況
職員のまちづくり課題理解度アンケートで、理解度が上がった職員の割合	60% (R7年度)	75% (R7年度)

Ⅲ. 令和7年度採択団体別 事業内容

30. 京都府舞鶴市

■ ユースケース開発成果イメージ図



図1：まちなかの課題把握

東舞鶴駅周辺の主要街路で建築物モデルにテクスチャを付与し、高架橋や駅舎をパッケージシステム上で3D表示してリアルな景観を再現し、建築物モデルや都市計画基礎調査結果を重ね、課題の把握や空き地の活用策など今後のまちづくり検討に活用する。



図2：ロータリー整備イメージ

現状を再現し、現在の課題を把握するだけでなく、駅前ロータリーの課題として出された市の玄関口としての景観に関して、モニュメント整備案のモデルを作成し、景観検討や、車両からの視認性確認に活用。

分野	人口規模	面積規模	予算規模
街・防	5-15万	200-500	5-10千



図3：商店街アーケードモデル

老朽化による維持管理が課題となっている商店街のアーケードをモデル化し、今後の在り方を検討する基礎資料とした。

今後、アーケードの在り方の検討だけでなく、ウォークアブル空間の検討など、まちなかの回遊性向上に向けた計画検討を進める。

■ 得られた知見や今後の展望

- 東舞鶴駅周辺で構築した3D都市モデルは、精密な景観検討や土地活用のシミュレーションへの活用を行う。また、将来予測を重ね合わせることで、都市整備や公共施設配置の検討にも活用範囲が広がり、持続的なまちづくりに寄与することが期待できる。
- 舞鶴市の都市構造の課題と目指す都市像を3D都市モデル上で表示し、市民に共有することで、まちづくりのための意見収集を行う。また、居住誘導区域では、整備された住みやすい区画のシミュレーションを行い、都市計画マスタープラン改定へ活用する。

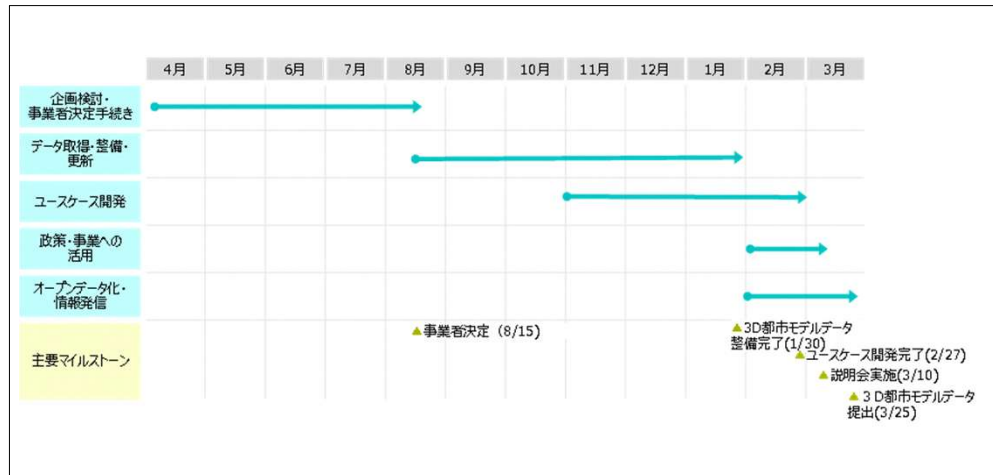
Ⅲ. 令和7年度採択団体別 事業内容

31. 京都府与謝野町

■ 団体基礎情報・プロジェクト全体像

人口	約2.0万人（令和5年1月時点）
市域全域面積	約108km ² （令和5年1月時点）
目標	浸水対策としての防災調節池事業の効果を流域全体でのリスク低減量として可視化し、関係者の情報共有を図る。
課題	<ul style="list-style-type: none"> 既往実績被害で集落全体が浸水しており、その再現性を図り潜在的要因を把握する必要がある。 減災対策を目的とした貯留施設の整備効果を可視化し、地域防災計画の見直しや最適な避難経路の検討が必要。 3D都市モデルの描写機能を活かし、住民個人個人が治水効果を体感し、防災意識の向上を図る必要がある。

■ 令和7年度スケジュール



分野	人口規模	面積規模	予算規模
防	1-3万	100-200	1-2千

担当部局	建設課
------	-----



■ 補助事業実施項目

事前調査等	—
3D都市モデル整備・更新	3D都市モデル整備事業（LOD1） 3D都市モデル整備事業（主要公共施設：LOD2）
ユースケース開発	3D都市モデルを活用した災害リスクの可視化事業
推進事業	3D都市モデルのオープンデータサイトの構築

総事業費	10.013（百万円）※うちR7年度10.000（百万円）
R7年度補助額	10.000（百万円）
補助対象外の関連事業	—

オープンデータ化・可視化・情報発信	<ul style="list-style-type: none"> G空間情報センターへの掲載【3D都市モデル／関連データ】 PLATEAU VIEWへの掲載【3D都市モデル／関連データ】
-------------------	---

R7年度委託事業者	株式会社ウエスコ （3D都市モデル整備、ユースケース開発、推進事業）
-----------	---------------------------------------

Ⅲ. 令和7年度採択団体別 事業内容

31. 京都府与謝野町

■ 3D都市モデル整備状況（基本セット）

※赤字：R7補助対象地物

LOD	整備地物	対象区域	整備面積	整備年度
LOD1	建築物 交通（道路） 都市計画決定情報 土地利用 災害リスク（洪水・内水） 地形	三河内地域ほか	9km ²	R7年度新規
LOD2	建築物	三河内地域ほか （主要公共施設）	17棟	

項目	活用したデータ	作成年度	地図情報レベル
平面図	都市計画基本図（既存）	H27年度	2,500
測量成果	既存資料（航空レーザー）	R5年度	500

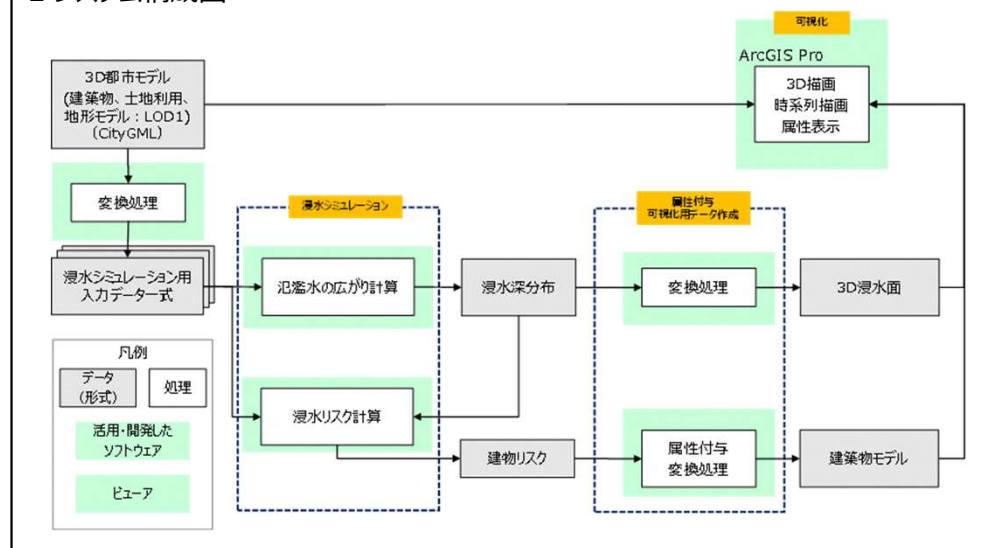
分野	人口規模	面積規模	予算規模
防	1-3万	100-200	1-2千



■ ユースケース概要

テーマ	防災・防犯
ユースケース名称	3D都市モデルを活用した災害リスクの可視化事業
目的	浸水対策としての防災調節池事業の効果を、流域全体でのリスク低減量として可視化し、関係者の情報共有を図る。
取組内容	浸水想定区域内にある中心市街地を対象として、災害リスク情報の三次元表示を行い、エリアのリスクを可視化する。さらに、これを用いた住民向け説明会や町の災害対策計画検討委員会等での検討を行い、防災計画や避難経路設定に活用する。

■ システム構成図



Ⅲ. 令和7年度採択団体別 事業内容

31. 京都府与謝野町

■ ユースケース開発方法

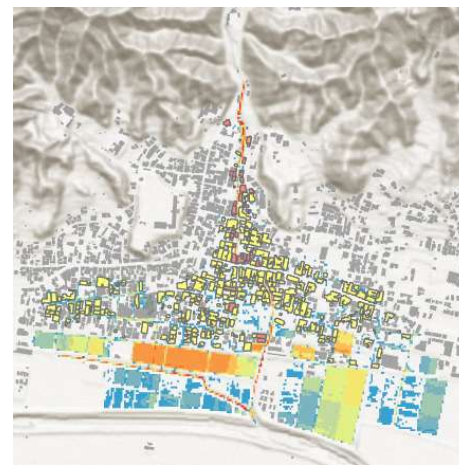
活用データ (3D都市モデル)	<ul style="list-style-type: none"> 建築物LOD1, LOD2 災害リスクLOD1 (洪水浸水想定区域の水面の範囲、浸水深の区分)
活用データ (上記以外)	<ul style="list-style-type: none"> 指定避難所情報 (避難所名称、所在地) 写真地図 (地図情報レベル1000)
ユースケース 開発方法	<ul style="list-style-type: none"> 対象区域の3D都市モデル及びその他データから、2Dシミュレーションに用いる必要なデータを抽出し、浸水シミュレーション用プログラムで読み込み可能なデータを整備 (変換) する。 整備 (変換) したデータを基に、メッシュ上に地盤高、土地利用、建物の敷地面積から透過率・空隙率を算定し、建物の影響を考慮した河川からの氾濫水の広がりを計算するための浸水シミュレーションモデルを構築する。 構築した浸水シミュレーションを実施し、モデル及びデータが適切に構築・整備されているかを、既往浸水実績との比較等により確認する。 構築した浸水シミュレーションを用いて、各規模 (確率雨量・実績雨量) に対し、調節池あり・なしの条件で計算を実施し、浸水深分布の違いを比較・分析する。 時系列の解析結果を3D都市モデルデータと重ね合わせ、別途調査した各建物の床下高と比較し、未浸水・床下浸水・床上浸水を判別するとともに、閾値を超えた時刻を記録する。これにより、床上浸水等の出現状況を可視化し、被害特性を把握する。 浸水対策事業の住民説明会において、浸水被害低減効果を3Dで可視化して説明することで、事業の有効性について住民の実感がどの程度得られたかを把握するため、住民アンケートを実施する。
政策・事業での 活用	浸水対策としての防災調節池事業の効果に加え、下流域の浸水リスクについても可視化し、関係者の情報共有を図る。
オープンデータ化 情報発信	-

■ KPI

KPI	目標設定	達成状況
災害リスクを可視化することにより治水効果を体感した住民の割合	90% (R7年度)	100% (R7年度)

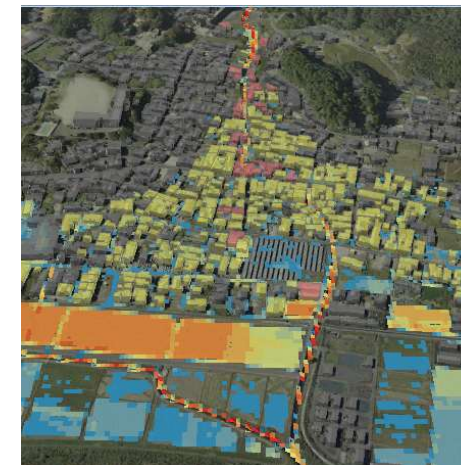
分野	人口規模	面積規模	予算規模
防	1-3万	100-200	1-2千

■ ユースケース開発成果イメージ図



氾濫解析

豪雨災害発生時の浸水被害状況を再現するモデルを構築することで施設整備による被害低減効果を検討する。



氾濫解析の可視化

氾濫解析結果を時系列で可視化することで、貯留施設の整備による浸水被害低減状況をわかりやすく表現する。

■ 得られた知見や今後の展望

ユースケースの開発により、流域全体の浸水リスクに対する潜在的エリアが可視化された。特に住民がランダム的に認知している建物周辺の浸水状況が再現でき、事業効果に関する理解度の向上に寄与した。今後、町の総合計画に沿った地域防災計画の見直しや公共施設の再配置など様々な施策の取り組みにおける基礎資料として活用したい。

Ⅲ. 令和7年度採択団体別 事業内容

32. 京都府京都市

■ 団体基礎情報・プロジェクト全体像

人口	約137.0万人（令和8年1月時点）
市域全域面積	約827.83km ² （令和8年1月時点）
目標	<ul style="list-style-type: none"> 「みんなが暮らしやすい魅力と活力のあるまち」の実現、時を超え光り輝く京都の景観づくりの推進 まちづくりのデジタルトランスフォーメーションの推進
課題	<ul style="list-style-type: none"> 暮らしの豊かさや利便性につながる都市機能の集積・充実。 若年・子育て世代が「京都で住みたい、学びたい、働きたい、子育てしたい」とより一層思える魅力的な空間の創出。 伝統文化の継承と新たな創造との調和を基調とする景観形成。 行政、市民、事業者等のパートナーシップによる景観形成。

■ 令和7年度スケジュール



分野	人口規模	面積規模	予算規模
街	15万以上	500以上	3-5千

担当部局	まち再生・創造推進室
------	------------

■ 補助事業実施項目

事前調査等	—
3D都市モデル整備・更新	<ul style="list-style-type: none"> 都市計画基本図修正 都市計画基礎調査の更新 3D都市モデル整備（LOD1更新及びバージョンアップ）
ユースケース開発	高精細3Dモデルによる将来像検討及び共有
推進事業	<ul style="list-style-type: none"> ハッカソンの開催 3D都市モデル活用推進プラットフォーム運用

総事業費	102.98（百万円）※うちR7年度38.86（百万円）
R7年度補助額	19.43（百万円）
補助対象外の関連事業	—

オープンデータ化・可視化・情報発信	<ul style="list-style-type: none"> G空間情報センターへの掲載【3D都市モデル】 PLATEAU VIEWへの掲載【3D都市モデル】 京都市オープンデータサイトに【3D都市モデル/その他オープンデータ化可能なデータ】掲載
-------------------	--

R7年度委託事業者	<ul style="list-style-type: none"> 株式会社パスコ京都支店（3D都市モデルの整備・更新） 国際航業株式会社（高精細3Dモデルによる将来像検討及び共有） 株式会社Copalette（ハッカソンの開催）
-----------	---



Ⅲ. 令和7年度採択団体別 事業内容

32. 京都府京都市

■ 3D都市モデル整備状況（基本セット）

※赤字：R7補助対象地物

LOD	整備地物	対象区域	整備面積	整備年度
LOD1	建築物	市街化区域を中心とした範囲	185km ²	R4年度新規
		都市計画基本図更新範囲	30km ²	R6年度拡充・更新
		都市計画基本図更新範囲外	155km ²	
		都市計画基本図更新範囲	32.5km ²	R7年度更新
	交通（道路）	市街化区域を中心とした範囲	185km ²	R4年度新規
		都市計画基本図更新範囲	30km ²	R6年度更新
	都市計画基本図更新範囲	32.5km ²	R7年度更新	
	都市計画決定情報	市街化区域を中心とした範囲	185km ²	R4年度新規 R6年度更新 R7年度更新
	土地利用 災害リスク（洪水、土砂）	市街化区域を中心とした範囲	185km ²	R6年度新規 R7年度更新
	地形	市街化区域を中心とした範囲	185km ²	R4年度新規
LOD2	建築物	都心部の景観地区の一部及び景観保全地区	15箇所 24.24km ²	R4年度新規

■ 3D都市モデル整備状況（基本セット以外）

※赤字：R7補助対象地物

LOD	整備地物	対象区域	整備面積	整備年度
LOD3	建築物	先斗町・祇園新橋地域	0.097km ²	R5年度新規

項目	活用したデータ	作成年度	地図情報レベル
平面図	都市計画基本図（修正）	R7年度	2,500
測量成果	新規測量（航空写真）	R6年度	2,500
属性情報	都市計画基礎調査（修正）	R7年度	-

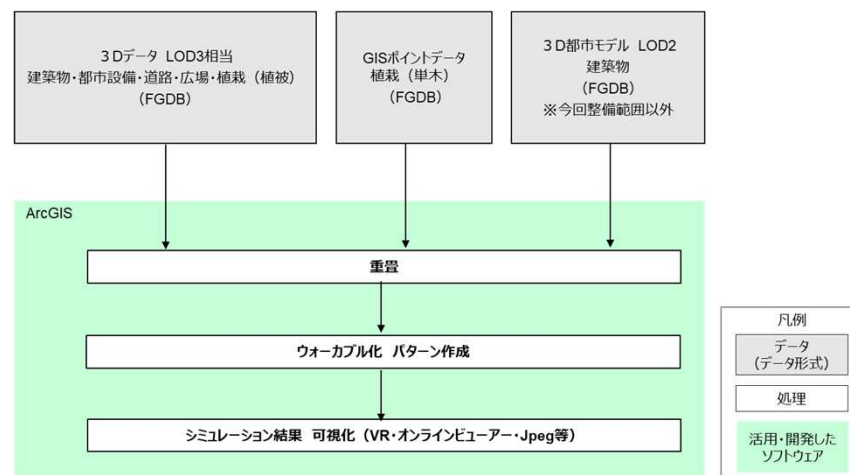
分野	人口規模	面積規模	予算規模
街	15万以上	500以上	3-5千



■ ユースケース概要

テーマ	都市計画・まちづくり
ユースケース名称	高精細3Dモデルによる将来像検討及び共有
目的	京都最大の交通結節点である京都駅前の再生について、ウォーカブルなまちづくりの実現に向けた将来像の共有の促進を図る。
取組内容	今後、京都駅前のまちづくりの取組を進めるにあたり、駅周辺の3D都市モデルに対する高解像度なテクスチャの付与や、道路構造物や植栽等の都市設備モデルの追加整備など、高精度なデジタルツインデータを整備することで、まちづくりの将来イメージの検討・可視化や関係者間での共有など、機運醸成や施策の立案につなげることを目的とする。

■ システム構成図



Ⅲ. 令和7年度採択団体別 事業内容

32. 京都府京都市

■ ユースケース開発方法

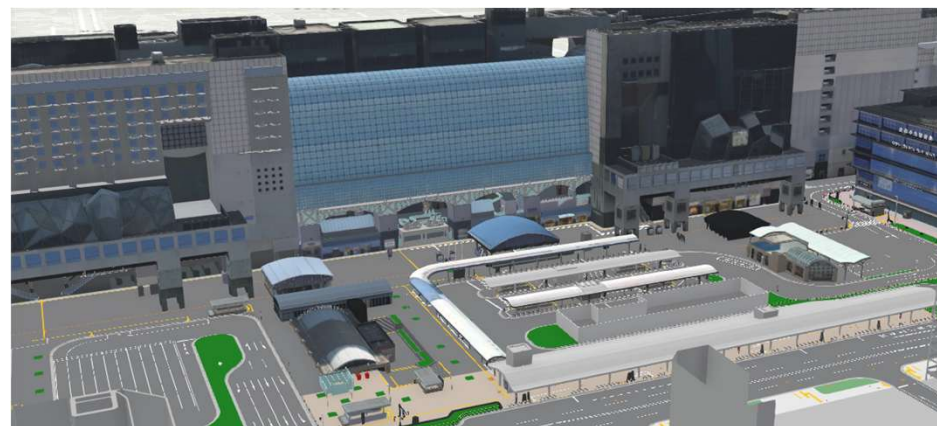
活用データ (3D都市モデル)	建築物LOD2
活用データ (上記以外)	<ul style="list-style-type: none"> 3Dデータ (建築物・道路・広場・都市設備LOD3相当) 3Dデータ (植栽 : LOD2相当) 3Dデータ (単木 : GISポイントデータ)
ユースケース 開発方法	<ul style="list-style-type: none"> 現状の建物、都市設備等について3Dデータを作成。 作成した3Dデータと既存の3D都市モデルをGIS上で重畳。 沿道建物のセットバックや道路の歩車道再編などウォークアブルなまちづくりに向けた将来イメージを作成。
政策・事業での 活用	庁内外の関係者との協議の場で将来イメージを可視化し、合意形成の円滑化を図る。
オープンデータ化 情報発信	—

■ KPI

KPI	目標設定	達成状況
将来像の理解が深まったと感じる人の割合	80% (R7年度)	90% (R7年度)

分野	人口規模	面積規模	予算規模
街	15万以上	500以上	3-5千

■ ユースケース開発成果イメージ図



京都駅前の将来イメージ
 現状の建物、都市設備等を
 LOD3相当で再現
 ※ ビジュアルは現状のもの
 上図：オンラインビューア
 右図：VR



■ 得られた知見や今後の展望

高精細なモデルによる将来イメージの共有が有効であることが確認できた。
 今後も必要に応じて範囲の拡充や整備地物の充実などを行い、将来イメージの共有に活用することを継続していきたい。

Ⅲ. 令和7年度採択団体別 事業内容

33.大阪府池田市

■ 団体基礎情報・プロジェクト全体像

人口	約10.3万人（令和5年1月時点）
市域全域面積	約22km ² （令和5年1月時点）
目標	みどりと強い結びつきを持つ池田の文化をまちの顔となる駅前空間再整備に向けた合意形成
課題	<ul style="list-style-type: none"> 市の玄関口となる阪急池田駅前のウォークブル推進に向け、公共交通の最適化等を図りながら市民等に利用される駅前空間のリニューアル。 利用者ニーズに合った再整備が求められるほか、交通事業者や周辺地権者、交通管理者等の様々な関係者との円滑な合意形成。

■ 令和7年度スケジュール



分野	人口規模	面積規模	予算規模
街	5-15万	50未満	1千未満

担当部局	都市政策課
------	-------



■ 補助事業実施項目

事前調査等	—
3D都市モデル整備・更新	3D都市モデル整備事業（LOD2）
ユースケース開発	<ul style="list-style-type: none"> 3D都市モデルを活用した駅前再整備計画の可視化事業 3D都市モデルを活用した関係者協議事業
推進事業	—

総事業費	4.000（百万円）※うちR7年度4.000（百万円）
R7年度補助額	2.000（百万円）
補助対象外の関連事業	駅前空間のウォークブル推進に向けた実証調査

オープンデータ化・可視化・情報発信	<ul style="list-style-type: none"> G空間情報センターへの掲載【3D都市モデル/UCデータ】 PLATEAU VIEWへの掲載【3D都市モデル/UCデータ】 池田市ホームページ
-------------------	--

R7年度委託事業者	パナソニック(株)エレクトリックワークス社 （3D都市モデル整備・更新、ユースケース開発）
-----------	--

Ⅲ. 令和7年度採択団体別 事業内容

33.大阪府池田市

■ 3D都市モデル整備状況（基本セット）

※赤字：R7補助対象地物

LOD	整備地物	対象区域	整備面積	整備年度
LOD1	建築物 交通（道路） 都市計画決定情報 土地利用 災害リスク（洪水、土砂、津波、内水・高潮） 地形	都市計画区域	22.11km ²	R2年度新規
LOD2	建築物	都市機能誘導区域及び伏尾台	1.56km ²	R2年度新規
		都市機能誘導区域 都市機能誘導区域	0.48km ² 0.79km ²	R6年度更新 R7年度更新

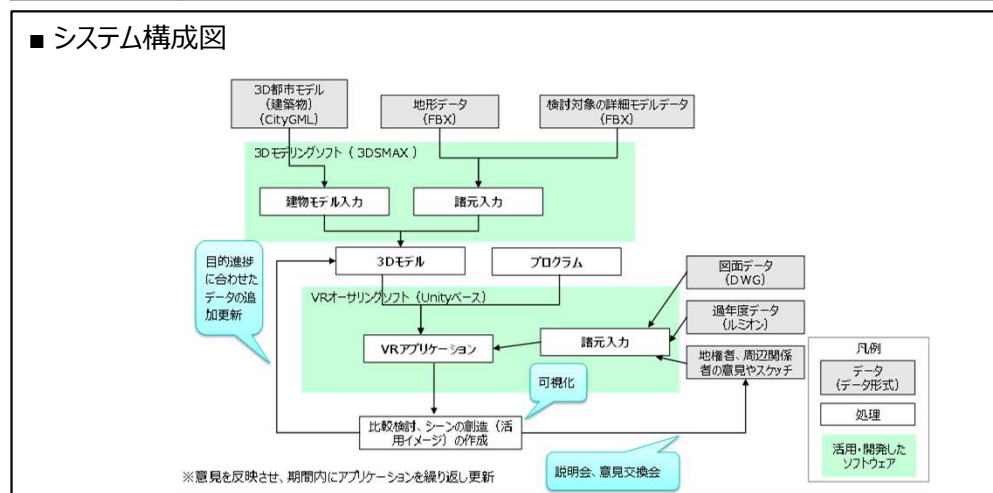
項目	活用したデータ	作成年度	地図情報レベル
平面図	都市計画基本図（修正）	R5年度	2,500
測量成果	新規測量（航空写真）	R5年度	2,500
属性情報	都市計画基礎調査（修正）	R2年度	—

分野	人口規模	面積規模	予算規模
街	5-15万	50未満	1千未満

■ ユースケース概要

テーマ	都市計画・まちづくり
ユースケース名称	3D都市モデルを活用した駅前再整備ビジョンの可視化事業
目的	3D都市モデルデータを活用したVRアプリケーションにより、駅前空間の将来像や空間活用のイメージを可視化し、関係者間での認識共有を図るとともに、社会実験等の実施に向けた仮説整理および事業検討の深度化を行う。これにより、試行錯誤に係るコストの低減と円滑な合意形成プロセスの構築を目指す
取組内容	池田駅南広場やサカエマチ商店街及びさくら通りを対象にVRアプリケーションを作成し、再整備や空間活用に向けた将来イメージの可視化を行う。これを活用し、関係者協議や庁内検討を通じて意見集約を行い、社会実験の実施に向けたシミュレーションおよび実施内容の具体化を図る。

■ システム構成図



Ⅲ. 令和7年度採択団体別 事業内容

33.大阪府池田市

■ ユースケース開発方法

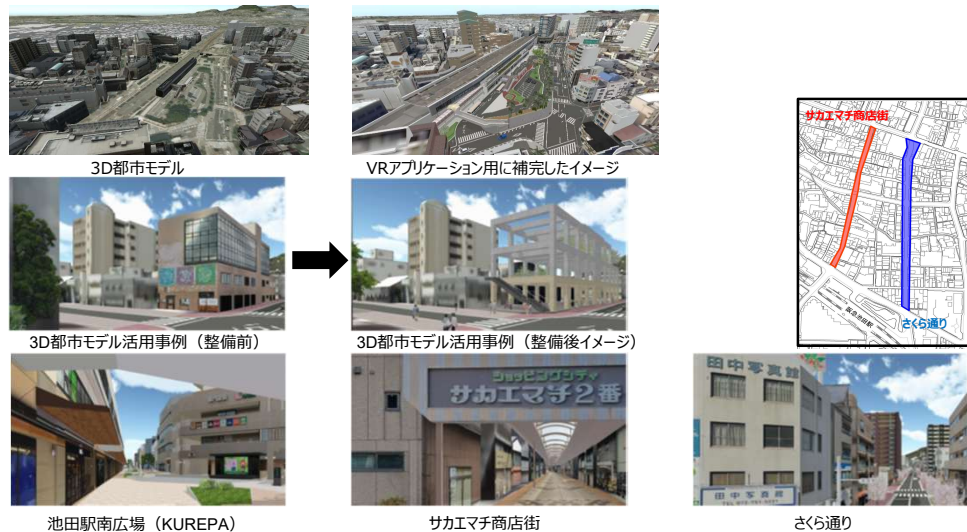
活用データ (3D都市モデル)	建築物LOD2 (形状・高さ・用途等)
活用データ (上記以外)	<ul style="list-style-type: none"> 航空写真データ・整備計画図面 (CADデータ) 道路台帳図等
ユースケース 開発方法	<ul style="list-style-type: none"> 対象区域の3D都市モデルをソフトウェアで活用できるようにCIMを活用して変換。 3Dモデリングソフトで道路構造物等3D都市モデルにない情報を補完。 変換した3D都市モデル及び(2)で作成した3Dモデルを活用し、VRアプリケーションを作成。 VRアプリケーションを活用し、対象区域の将来イメージを作成、比較検討を行う。 作成した3DモデルおよびVRコンテンツを活用し、庁内検討や関係者協議、説明会等を実施する。 可視化した将来イメージを共有しながら意見集約を行い、社会実験の実施に向けた課題整理および検討の深度化を図る。
政策・事業での 活用	<p>駅前空間の再整備や活用促進のための社会実験の実施に向けた将来イメージを可視化し、関係者間での協議およびシミュレーションを行うことで事業化に向けた検討の深度化を図る。</p> <p>また、作成した可視化データを活用し、庁内及び地権者等に対して駅前空間の再整備による周辺への波及効果を視覚的に共有することで、円滑な合意形成プロセスを構築する。</p>
オープンデータ化 情報発信	ユースケース開発結果を池田市ホームページに掲載

■ KPI

KPI	目標設定	達成状況
関係者協議等へのVR活用の理解度	70% (R7年度)	70% (R7年度)
駅前再整備に向けた理解度	70% (R7年度)	75% (R7年度)

分野	人口規模	面積規模	予算規模
街	5-15万	50未満	1千未満

■ ユースケース開発成果イメージ図



池田駅南広場「KUREPA」整備後の空間や、サカエマチ商店街・さくら通りにおける将来的な再整備および空間活用のイメージを、VRアプリケーションにより可視化

関係者間での具体的な空間イメージの共有を図るとともに、ファニチャー配置や歩行者動線等に関する仮想的なシミュレーションを通じて、社会実験の実施等に向けた具体化および事業の深度化

■ 得られた知見や今後の展望

本手法を駅前周辺エリアへ段階的に展開し、関係者協議や社会実験の検討ツールとして活用することで、回遊性・滞在性の向上に資する取組みを推進する。今後は、本事業で整理した仮説や、可視化による空間認識の共有、回遊動線の把握等により得られた知見をもとに社会実験を実施し、効果検証を行うとともに、その成果を広場運営やエリアマネジメントへ反映していく。さらに、3D都市モデルのオープンデータ化や継続的な更新を通じて、民間連携や利活用を促進し、都市のデジタル基盤としての活用を推進する。

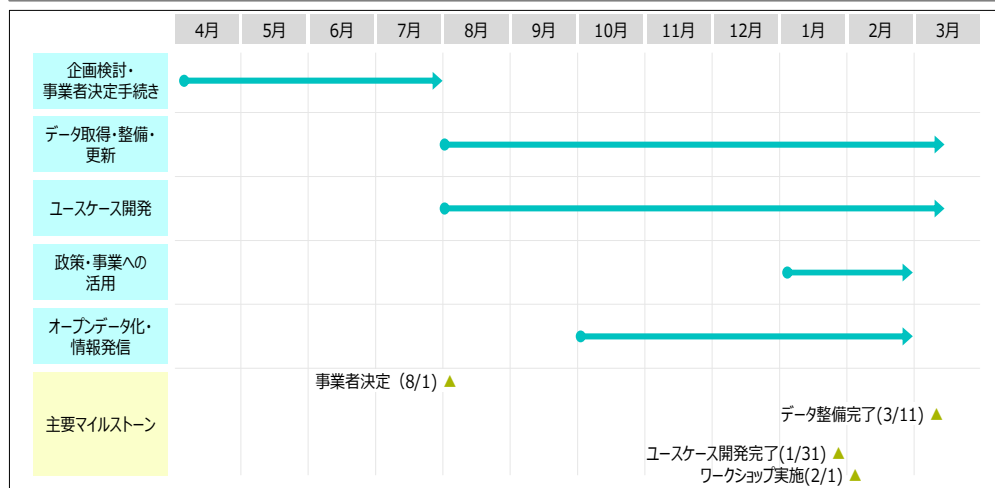
Ⅲ. 令和7年度採択団体別 事業内容

34.大阪府河内長野市

■ 団体基礎情報・プロジェクト全体像

人口	約10.0万人（令和5年1月時点）
市域全域面積	約110km ² （令和5年1月時点）
目標	<ul style="list-style-type: none"> ・ 集約連携都市への再構築～生活圏の自立性を高め、地域との連携を図りながら、多様な価値観に対応した豊かな生活を創出～ ・ 「地域力」と「新たなテクノロジー」を融合しつつ、規制や固定概念にとらわれない住民本位のまちづくりを実現
課題	<ul style="list-style-type: none"> ・ 時間や場所にとらわれず、多くの住民や事業者の意見収集を実現した、住民参加型まちづくりの推進。 ・ 可視化により説明性の高まる防災指針等を策定し、実態に即した計画策定の実現。

■ 令和7年度スケジュール



分野	人口規模	面積規模	予算規模
街	5-15万	100-200	1-2千

担当部局	秘書企画課
------	-------



■ 補助事業実施項目

事前調査等	既存資料の収集整理等
3D都市モデル整備・更新	3D都市モデルの更新 ※都市計画基礎調査含む
ユースケース開発	<ul style="list-style-type: none"> ・ 3D都市モデルを活用した住民参加型のまちづくりの実施事業 ・ 3D都市モデル及びその関連データを活用した都市計画マスタープラン策定 ・ 3D都市モデル及びその関連データを活用した立地適正化計画策定
推進事業	3D都市モデルオープンデータ化推進事業

総事業費	27.304（百万円）（予定） ※うちR7年度 15.004（百万円）
R7年度補助額	7.502（百万円）
補助対象外の関連事業	—

オープンデータ化・可視化・情報発信	<ul style="list-style-type: none"> ・ G空間情報センターへの掲載【3D都市モデル／関連データ】 ・ PLATEAU VIEWへの掲載【3D都市モデル／関連データ】
-------------------	---

R7年度委託事業者	アジア航測株式会社（事前調査、3D都市モデル整備・更新、ユースケース開発、推進事業）
-----------	--

Ⅲ. 令和7年度採択団体別 事業内容

34.大阪府河内長野市



PLATEAU
by MLIT

■ 3D都市モデル整備状況（基本セット）

※赤字：R7補助対象地物

LOD	整備地物	対象区域	整備面積	整備年度
LOD1	建築物	市全域（都市計画区域）	109.63km ²	R4年度新規 R6年度更新 R7年度更新
	交通（道路）	市内一部 市内一部 市全域（都市計画区域）	60km 287km 347km	R4年度新規 R5年度新規 R6年度更新
	都市計画決定情報	市全域（都市計画区域）	109.63km ²	R4年度新規 R7年度更新
	土地利用	市全域（都市計画区域）	109.63km ²	R4年度新規 R7年度更新
	災害リスク（洪水,土砂）	市域全域（都市計画区域） ※土砂災害及び浸水リスクを有する河川（石川・天見川・石見川・加賀田川・西除川）	109.63km ²	R4年度新規
地形	市全域（都市計画区域）	109.63km ²	R4年度新規	
LOD2	建築物	市内一部	1.0km ² 0.3km ²	R5年度新規

■ 3D都市モデル整備状況（基本セット以外）

※赤字：R7補助対象地物

LOD	整備地物	対象区域	整備面積	整備年度
LOD2	交通（道路）	河内長野市内	60km 314km 33km	R4年度新規 R5年度拡充 R6年度拡充
LOD3		南花台地区 （バスルート4路線沿道）	0.3km	R5年度新規

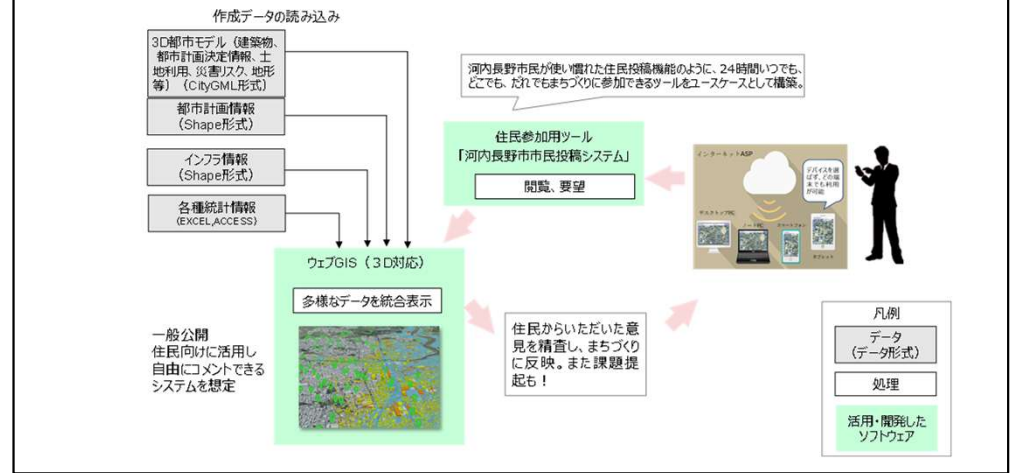
項目	活用したデータ	作成年度	地図情報レベル
平面図	数値地形図（DMデータ）（修正）	R6年度	2,500
測量成果	既存資料（航空写真）	R2年度	1,000
属性情報	都市計画基礎調査（修正）	R7年度	-

分野	人口規模	面積規模	予算規模
街	5-15万	100-200	1-2千

■ ユースケース概要

テーマ	都市計画・まちづくり
ユースケース名称	3D都市モデルを活用した「オンライン住民参加システム」の開発と、投稿結果を活用した各種計画の作成
目的	まちの将来イメージ等に対して、時間や場所にとらわれず、多くの住民や事業者の意見を収集し、住民参加型まちづくりを促進するとともに、各種計画策定の高度化、効率化を図る。
取組内容	<ul style="list-style-type: none"> 市民投稿システムを活用した、「3D都市モデルを活用したオンライン住民参加システム」を構築する。これにより、まちの将来イメージに対する要望や意見について、いつでも、どこでも、だれでもコメントできる環境を整備し、住民参加型まちづくりを目指す。 オンライン住民参加システムの活用結果を反映し、都市計画マスタープランの策定及び立地適正化計画更新につなげる。

■ システム構成図



Ⅲ. 令和7年度採択団体別 事業内容

34.大阪府河内長野市

■ ユースケース開発方法

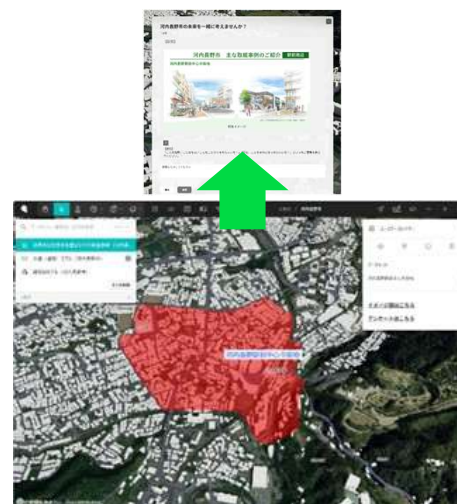
活用データ (3D都市モデル)	<ul style="list-style-type: none"> 建築物LOD1,LOD2 (名称、用途、構造種別、計測高さ、地上階数) 災害リスクLOD1 (土砂災害警戒区域、浸水想定区域)
活用データ (上記以外)	市の主要プロジェクトの区域
ユースケース 開発方法	<ul style="list-style-type: none"> 複数のまちづくり事業の対象区域について、3D都市モデルを作成する。 作成した3D都市モデルを、PLATEAU VIEWで活用できるようにソフトウェアを利用して変換する。 変換した3D都市モデルと都市計画に関する情報や各種データを重畳する。 PLATEAU VIEWにおいて、住民意見投稿機能とリンクにより連携する。
政策・事業での 活用	<ul style="list-style-type: none"> 住民投稿機能を活用し、3D都市モデルによるオンライン住民参加システムを構築。まちづくりに関する要望や意見等について、いつでも、どこでも、だれでもコメントできる環境を整備することで、住民参加型まちづくりを目指す。 住民参加型システム活用の結果を反映し、都市計画マスタープランの策定及び立地適正化計画更新につなげる。
オープンデータ化 情報発信	-

■ KPI

KPI	目標設定	達成状況
住民参加機能に対し肯定的評価をした人の割合	70% (R7年度)	87% (R7年度)
3D都市モデルを活用した計画案を理解し、肯定的に評価した人の割合	70% (R7年度)	90% (R7年度)

分野	人口規模	面積規模	予算規模
街	5-15万	100-200	1-2千

■ ユースケース開発成果イメージ図



まちづくり事業実施区域のイメージ

3D都市モデル上にまちづくりの事業区域を搭載し、将来イメージのリンクと連携

まちの将来像の検討

市民ワークショップにて3D都市モデル及び将来イメージを見ながらまちの将来像について意見交換

■ 得られた知見や今後の展望

通常の住民投稿システムと3D都市モデルが融合することにより、住民の理解促進はもとより、これまで以上に、「府内でも有数の高校があることを踏まえて、コンパクトシティ化を進めるために、歩道の整備だけでなく、自転車専用道路を整備してほしい」などといったまちの実態に即した現実的な意見聴取ができることが判明。今後は、3D都市モデル上における市内の主要プロジェクト情報を最新化し、コンテンツの拡充と操作性の向上を図る。併せて、本モデルを多様なまちづくり事業や計画策定へ展開するための検討を進める。

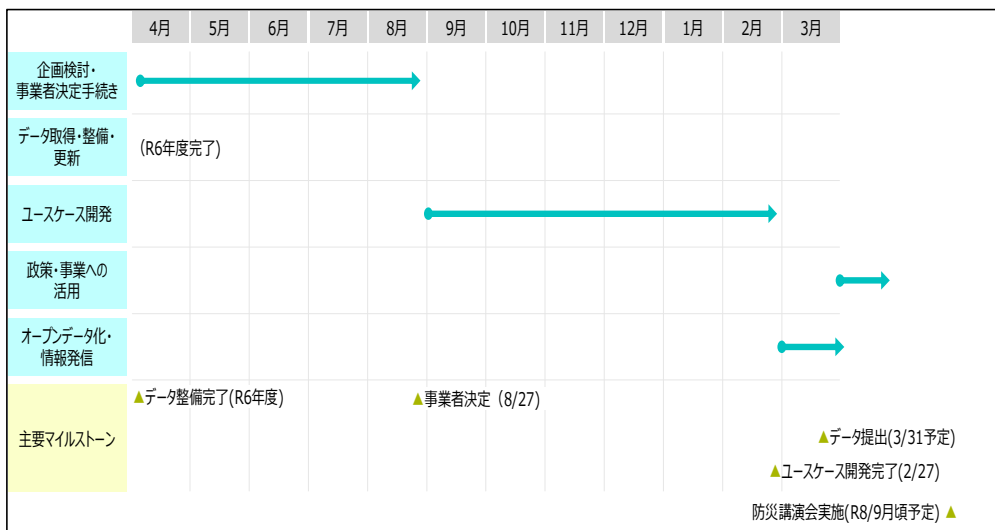
Ⅲ. 令和7年度採択団体別 事業内容

35.大阪府東大阪市

■ 団体基礎情報・プロジェクト全体像

人口	約48.0万人（令和5年1月時点）
市域全域面積	約62km ² （令和5年1月時点）
目標	災害リスク情報を可視化することにより市民の防災意識を向上することを目的とする。
課題	<ul style="list-style-type: none"> 土砂災害警戒区域における市街地の避難経路の確保及び住民への周知。 土砂災害シミュレーション結果を用いた市街地の効果的な避難誘導の検討。

■ 令和7年度スケジュール



分野	人口規模	面積規模	予算規模
防	15万以上	50-100	1千未満

担当部局	危機管理室
------	-------



■ 補助事業実施項目

事前調査等	—
3D都市モデル整備・更新	—
ユースケース開発	3D都市モデルを活用した災害リスクの可視化事業
推進事業	—

総事業費	37.760（百万円）※うちR7年度8.236（百万円）
R7年度補助額	4.118（百万円）
補助対象外の関連事業	—

オープンデータ化・可視化・情報発信	※R6年度実施済み ・G空間情報センターへの掲載【3D都市モデル】 ・PLATEAU VIEWへの掲載【3D都市モデル】
-------------------	--

R7年度委託事業者	株式会社ウエスコ（ユースケース開発）
-----------	--------------------

Ⅲ. 令和7年度採択団体別 事業内容

35.大阪府東大阪市

■ 3D都市モデル整備状況（基本セット）

※赤字：R7補助対象地物

LOD	整備地物	対象区域	整備面積	整備年度
LOD1	建築物 交通（道路） 都市計画決定情報 土地利用 災害リスク（洪水、土砂） 地形	東大阪市全域	62km ²	R6年度新規
LOD2	建築物	山麓地域の市立学校	20箇所	R6年度新規

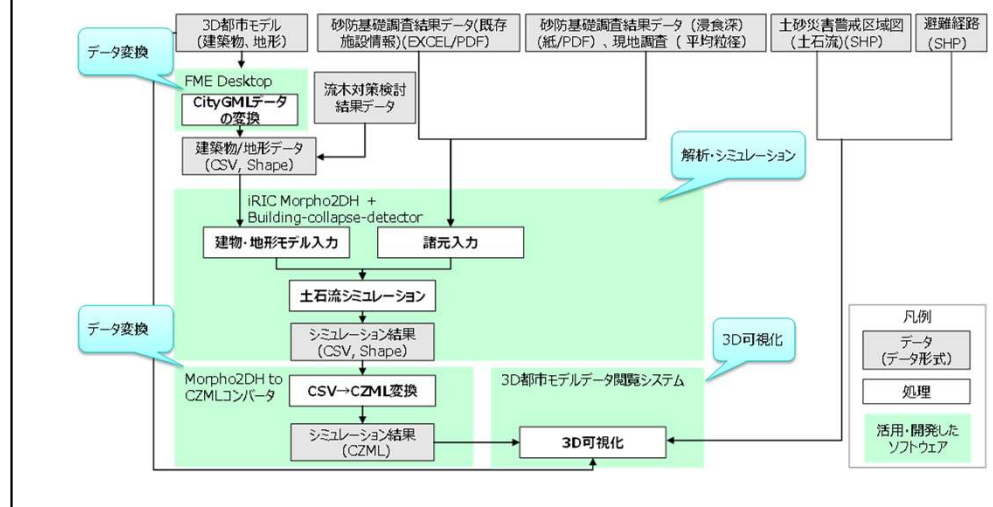
項目	活用したデータ	作成年度	地図情報レベル
平面図	都市計画基本図（既存）	H25年度	2,500
測量成果	既存資料（航空写真）	R4年度	2,500
属性情報	都市計画基礎調査（既存）	H21年度	2,500

分野	人口規模	面積規模	予算規模
防	15万以上	50 - 100	1千未満

■ ユースケース概要

テーマ	防災・防犯
ユースケース名称	3D都市モデルを活用した災害リスクの可視化事業
目的	3D都市モデルを用いた土砂災害シミュレーションを活用し、区域内における相対的に安全な避難経路の選定及び避難行動の高度化を目指し、市民の防災意識を向上することを目的とする。
取組内容	土砂災害警戒区域（イエローゾーン）に該当する市街地を対象として、災害リスク情報の三次元表示を行い、エリアのリスクを可視化するとともに、避難経路情報を重ね合わせることで、避難計画の高度化に活用する。

■ システム構成図



Ⅲ. 令和7年度採択団体別 事業内容

35.大阪府東大阪市



PLATEAU
by MLIT

■ ユースケース開発方法

活用データ (3D都市モデル)	<ul style="list-style-type: none"> 建築物LOD1 (構造種別、地上階数、建築年) 地形LOD1 (地形形状)
活用データ (上記以外)	<ul style="list-style-type: none"> 砂防基礎調査結果データ (既設砂防・治山堰堤など) 砂防基礎調査結果データ(浸食深) 土砂災害警戒区域 (土石流) データ 現地調査 (平均粒径)
ユースケース 開発方法	<ul style="list-style-type: none"> 土石流シミュレータで3D都市モデルを活用できるよう、3D都市モデル (地形LOD1データ) のCityGML を、点群データ(CSV)に変換する。 同じく、3D都市モデル (建築物LOD1データ) のCityGMLを、ポリゴンデータ (SHP) に変換する。 変換した地形データと流木対策検討結果データを用いて、土石流シミュレーションに使用するための2mメッシュ地形データを整備する。 既設の砂防施設情報、地盤の最大浸食深さ、斜面崩壊を発生させる場所と大きさ・深さ、土石流条件(土砂濃度・内部摩擦角・層流層の厚さ等)、河床材料の条件(平均粒径や粒度分布等)を、シミュレータ上で設定する。 平均粒径の設定等にあたり、現地調査を実施する。 データ変換した3D都市モデルをインプットデータとして活用し、(2)で設定した解析諸元をもとに、家屋倒壊/非倒壊判定を含む土石流シミュレーションを実行する。 土石流シミュレーションの結果をCSV 及びSHP(ポイントデータ)で出力する。 土石流シミュレーションの出力結果である、時刻ごと水理量・変化した地形データ・建物メッシュごと倒壊判定結果・建物ごと倒壊判定結果 (それぞれCSVファイル) を、タイムスタンプに従った三次元アニメーション表示ができるよう、CZML形式に変換する。 CZML形式のシミュレーション結果を三次元的に可視化できる環境を提供する。 描画はタイムスタンプに従ったアニメーション表現を含む。 避難すべきタイミングや経路上の留意点が明らかになるよう、作成したアニメーションに都市防災総合推進事業で実施した業務で検討した避難経路情報を重ね合わせて表示する。
政策・事業での 活用	<ul style="list-style-type: none"> シミュレーション結果として出力される、時刻ごと流体力・地形データの変化量・建物メッシュごと倒壊判定結果・建物ごと倒壊判定結果を、三次元可視化環境上で、アニメーションとして表示する。 庁内の担当課にて結果共有会を実施し、ユースケース開発の成果を避難計画高度化に活用する。 関心の高い自主防災組織等に結果閲覧機会を提供し、ユースケース開発の成果を避難啓発に活用する。
オープンデータ化 情報発信	-

分野	人口規模	面積規模	予算規模
防	15万以上	50 - 100	1千未満

■ KPI

KPI	目標設定	達成状況
地域の災害リスクについての理解促進 ※アンケートを実施 (令和8年11月頃の地域向けの防災講演会で実施)	50% (R8年度)	R8年度 測定予定
避難誘導者数の減少 ※土砂災害シミュレーション結果において被害が想定される町丁目の人口統計データを抽出	49,108人 (R6年度) 43,000人 (R7年度) 35,000人 (R8年度)	40,133人 (R7年度)

Ⅲ. 令和7年度採択団体別 事業内容

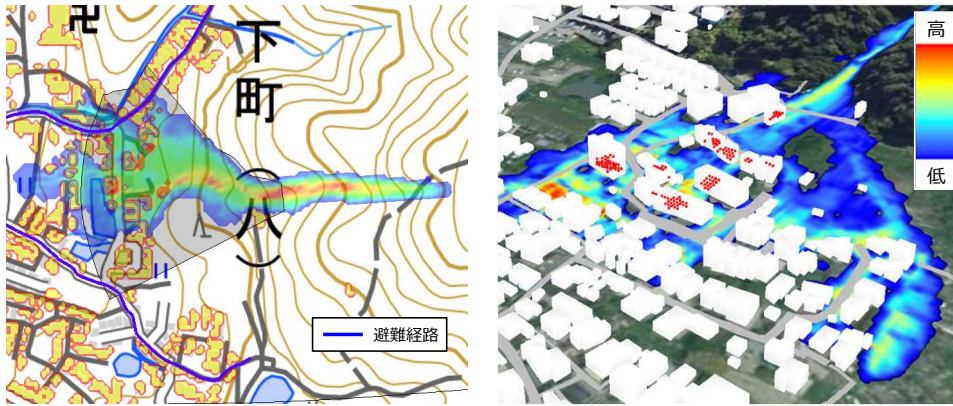
35.大阪府東大阪市

分野	人口規模	面積規模	予算規模
防	15万以上	50-100	1千未満



PLATEAU
by MLIT

■ ユースケース開発成果イメージ図



土石流シミュレーションの様子

家屋の倒壊過程を考慮した土石流シミュレーションを行い、結果を避難経路と重ね合わせて表示することで、相対的に安全な避難経路選定などに活用

土石流シミュレーションの3D可視化

3D都市モデルと土石流シミュレーションの結果から、土砂災害及び倒壊の危険性がある建築物を可視化

■ 得られた知見や今後の展望

本ユースケース開発を行ったことにより、谷が深い溪流においては、1度の土石流の場合、土砂災害警戒区域（イエローゾーン）のように広範囲に拡散するのではなく、谷筋に沿って流下する傾向が見られることが確認された。これは地形条件により、土砂や水の流下方向が限定されるためと考えられる。一方で、ハザードマップ等で示される警戒区域との違いが市民にとってわかりにくい場合も十分想定されるため、防災啓発活動において周知する際には、地形条件による被害範囲の違いについて、より丁寧な説明を行うことが重要である。

今後は、PLATEAU事業と並行して実施している、都市防災総合推進事業を活用した、土砂災害警戒区域等における避難計画のための基礎資料作成業務と併せて、山麓地域の市民にリアルな災害リスク想定及び相対的に安全な避難経路を示したうえで、個々の状況に合わせた避難行動計画の作成、避難方法の判断材料として活用していただけるよう啓発活動を行っていく。

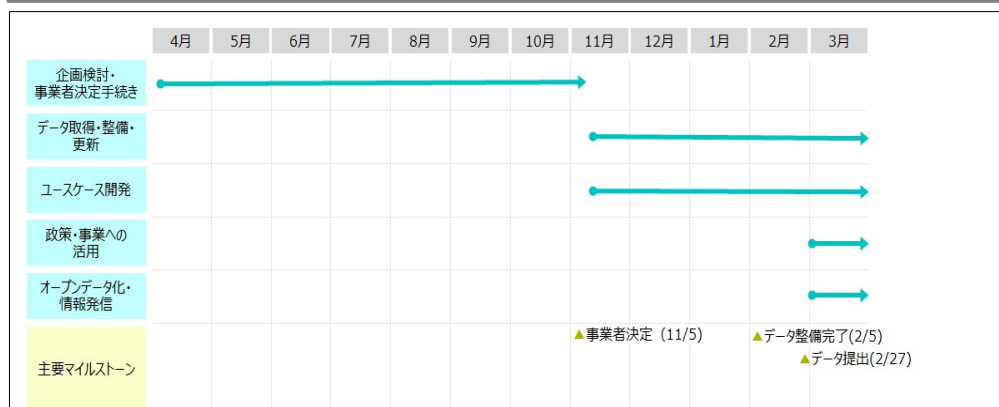
Ⅲ. 令和7年度採択団体別 事業内容

36.大阪府大阪市

■ 団体基礎情報・プロジェクト全体像

人口	約275.7万人（令和5年1月時点）
市域全域面積	約225km ² （令和5年1月時点）
目標	将来的な都市のデジタルツインを見据え、計画策定や最適化検討及び関係者説明等において、新たな価値創出といった行政運営の高度化を進めていく。
課題	<ul style="list-style-type: none"> 本市の実施する都市計画基礎調査において、国の定めた実施要領との項目の乖離が発生しており、オープンデータ化も進んでいない。 3D都市モデルの整備が進められているが、更新の手法が確定しておらず、今後まちづくり等に活用していくにあたり最新状態との乖離により利用率の低下が懸念される。 過年度の国直轄事業・PLATEAU補助事業により作成された3D都市モデルの蓄積が一定あるが、個別利用の範囲を越えた利用を見込むことが難しい。 3D都市モデルデータを活用し、計画策定や関係者説明等で有効に活用されるための手段や環境が整備されていない。

■ 令和7年度スケジュール



分野	人口規模	面積規模	予算規模
街・他	15万以上	200 - 500	1 - 2千

担当部局	企画振興部 総務担当
------	------------



■ 補助事業実施項目

事前調査等	—
3D都市モデル整備・更新	3D都市モデル属性データ作成事業
ユースケース開発	<ul style="list-style-type: none"> 3D都市モデルを活用した都市計画基礎調査情報等の可視化事業 市内全域3D都市モデルの年次更新スキーム構築事業
推進事業	都市計画基礎調査情報オープンデータ化事業

総事業費	19.767（百万円）※うちR7年度19.767（百万円）
R7年度補助額	9.883（百万円）
補助対象外の関連事業	—

オープンデータ化・可視化・情報発信	<ul style="list-style-type: none"> G空間情報センターへの掲載【3D都市モデル】 PLATEAU VIEWへの掲載【3D都市モデル】 大阪市オープンデータポータルサイト 大阪市ホームページ【3D都市モデル】
-------------------	--

R7年度委託事業者	株式会社 パスコ （3D都市モデル整備・更新、ユースケース開発、推進事業）
-----------	--

Ⅲ. 令和7年度採択団体別 事業内容

36.大阪府大阪市

■ 3D都市モデル整備状況（基本セット）

※赤字：R7補助対象地物

LOD	整備地物	対象区域	整備面積	整備年度
LOD1	建築物	市域全域	225.3km ²	R2年度新規 R7年度拡充 (属性情報) R9年度更新
	交通（道路）			R2年度新規 R4年度拡充 R9年度更新
	都市計画決定情報 災害リスク（洪水、土砂、津波、内水・高潮）			R4年度新規 R9年度更新
	土地利用			R2年度新規 R9年度更新
	地形			R2年度新規
LOD2	建築物	新大阪エリア、十三エリア 南港北・舞洲付近 本町・天満 中心市街地	1.91km ² 3.29km ² 0.038km ² 5km ²	R2年度新規 R4年度拡充 R6年度拡充

■ 3D都市モデル整備状況（基本セット）

※赤字：R7補助対象地物

LOD	整備地物	対象区域	整備面積	整備年度
LOD3	建築物 交通（道路） 都市計画 植生	南港北・舞洲付近 本町・天満	3.29km ² 0.038km ²	R4年度拡充

項目	活用したデータ	作成年度	地図情報レベル
平面図	都市計画基本図（既存）	H27年度	2,500
測量成果	既存資料（航空写真）	R6年度	2,500
属性情報	都市計画基礎調査（修正）	R2年度	-

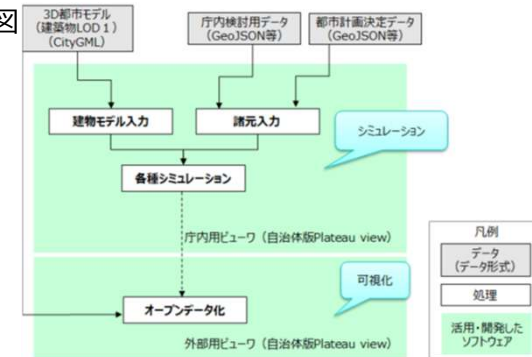
分野	人口規模	面積規模	予算規模
街・他	15万以上	200 - 500	1-2千



■ ユースケース概要①

テーマ	都市計画・まちづくり
ユースケース名称	3D都市モデルを活用した都市計画基礎調査情報等の可視化事業
目的	都市計画基礎調査情報・3D都市モデルを活用した計画策定や関係者説明の効率化・高度化を図る。
取組内容	<ul style="list-style-type: none"> 都市計画基礎調査に必要な情報を本市所有情報からスムーズに抽出、整理する手法を確立し、業務の効率化を進めるとともに、調査結果のオープンデータ化を行うことで、官民によるデータ活用を推進する。 また、整理された都市計画基礎調査結果を属性データとして付与された3D都市モデルについて、過去の国直轄事業において整備されている平成12年度から平成29年度の3D都市モデルデータ等との時点比較や、各種のデータの重畳を可能とするビューを整備することで可視化し、まちづくりの検討にかかる会議や関係者の説明に活用する。 ビューの整備にあたっては、外部公開用のデータと、より深度の高いデータを活用できる内部検討用を使い分けできる環境を構築する。

■ システム構成図



Ⅲ. 令和7年度採択団体別 事業内容

36.大阪府大阪市

■ ユースケース開発方法

活用データ (3D都市モデル)	<ul style="list-style-type: none"> 建築物LOD1,LOD2,LOD3 (名称、用途、構造種別、計測高さ、地上階数) 交通 (道路) LOD1,LOD2,LOD3 災害リスク LOD1 (洪水、土砂、津波、内水、高潮) 土地利用・地形 LOD1、都市計画・植生 LOD3
活用データ (上記以外)	-
ユースケース 開発方法	<ul style="list-style-type: none"> 本市の「自治体版PLATEAU VIEW」を作成。 システムは「庁内用ビュー」及び「外部用ビュー」の構成すること。 本市内部用可視化システム (庁内用ビュー) <ul style="list-style-type: none"> →各種まちづくりの企画や市民・関係者への説明、行政データを組み合わせることによるさらなる可視化やシミュレーションの実施 外部公開用可視化システム (外部用ビュー) <ul style="list-style-type: none"> →オープンデータ化することにより、市民や企業においてデータを有効活用 各種都市計画基礎調査結果の時点比較や2Dマップの重畳が可能であること。 職員によるデータ取り込みが可能であること。 庁内用ビューについては、外部用ビューで閲覧可能な形式でのエクスポートが可能であること。
政策・事業での 活用	庁内関係部局やまちづくりに関する説明会等に活用する。
オープンデータ化 情報発信	-

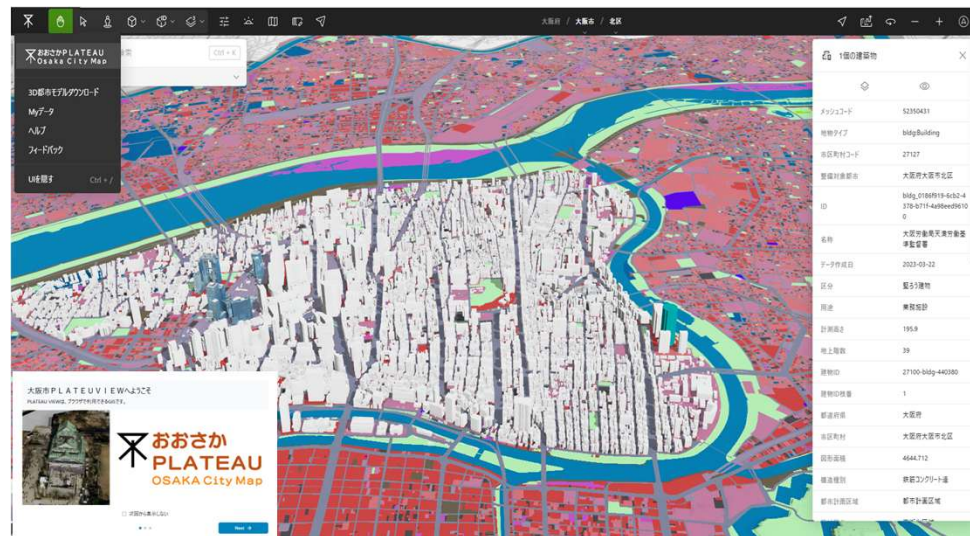
■ KPI

KPI	目標設定	達成状況
関係部局内で職員アンケートを実施し、わかりやすくなった、まちづくり計画の策定作業や関係者説明作業が効率化する、と感じた職員の割合	70% (R7年度)	83% (R7年度)

分野	人口規模	面積規模	予算規模
街・他	15万以上	200 - 500	1-2千



■ ユースケース開発成果イメージ図



大阪市PLATEAU VIEW (建築物+土地利用)

大阪市版のPLATEAU VIEWを導入し、庁内・外で閲覧可能な環境を構築

3D都市モデル+市が保有するデータを組み合わせることにより、各種まちづくりの企画やシミュレーションの実施が可能

■ 得られた知見や今後の展望

今年度は大阪市PLATEAU VIEWを構築し、様々な都市計画基礎調査情報等を重畳することで、本市の横断的な活用が可能であると考えられる。今後、様々なユースケースを開発し、業務効率化や市民サービスへの積極的な活用を図るとともに、導入効果を検証しつつ、本市の様々な課題解決に向けた基盤ツールのひとつとして運用を進めたい。

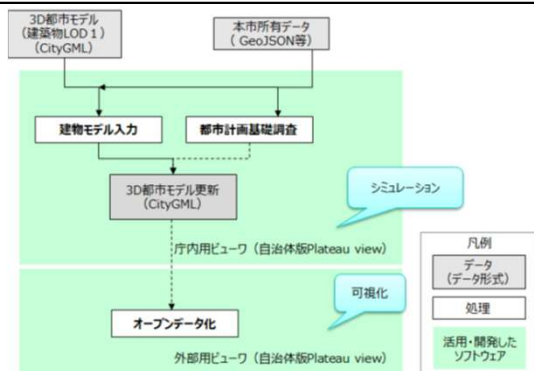
Ⅲ. 令和7年度採択団体別 事業内容

36.大阪府大阪市

■ ユースケース概要②

テーマ	その他
ユースケース名称	市内全域3D都市モデルの年次更新スキーム等構築事業
目的	定期更新により3D都市モデルと現実世界との乖離を低減しつつ、高度なモデル整備の際の基礎としていく。
取組内容	<ul style="list-style-type: none"> 本市が毎年実施している航空測量・2D地図データ更新業務成果などを活用して、3D都市モデルを経済的かつ定期的に更新する手法を検討する。 都市計画基図の更新を令和8年度に実施し、更新した都市計画基図を基に、市域全域の3D都市モデル及び属性データとしての都市計画基礎調査結果等の整備を令和9年度に実施する。また、新たな3D都市モデルを整備以降、毎年度それぞれ部分更新を行うスキームを構築することを目標とする。 時点比較も含めた可視化が可能となっていることを前提に、定期更新による鮮度の高い3D都市モデルが常時整備される環境を提供することで、局地的な高度なモデル整備の基礎データとするとともに、まちづくりに関する検討への活用をはじめ、その他部局においても3D都市モデルに係るユースケースを内部的に開発し、活用していくためのプラットフォームを提供していくことをめざす。

■ システム構成図



分野	人口規模	面積規模	予算規模
街・他	15万以上	200 - 500	1-2千

■ ユースケース開発方法

活用データ (3D都市モデル)	-
活用データ (上記以外)	<ul style="list-style-type: none"> 平成26年経済センサス基礎調査メッシュ集計データ、平成30年度地価（固定資産税路線価）メッシュ集計データ、令和2年国勢調査メッシュ集計データ、令和3年度大阪市建物用途別土地利用現況データ、令和6年度建物床面積調査データ 大阪市共通電子地図整備データ、航空写真データ
ユースケース開発方法	<ul style="list-style-type: none"> 本市が所有する既存データを活用し、概ね5年周期で実施している各種都市計画基礎調査の効率的な更新手法を検討し、可能な限りオープンデータ化を行う。 本市が所有する既存データを活用し、3D都市モデルの効率的な更新手法の検討。 <ul style="list-style-type: none"> 調査項目の各データはCityGMLファイルの属性データとして活用可能であること。 CityGML属性データ・集計データのうち、オープンデータ化が可能なものを整理し、更新の際に適宜オープンデータ化される状態であること。 オープンデータ化される調査項目、CityGML属性データについては、国要領に準拠したものであること。 オープンデータ化されない集計データについても、過去の調査結果と比較できること。 国土交通省都市局が定める「3D都市モデル標準作業手順書」及び「3D都市モデル標準製品仕様書」に準拠して作成されたデータ仕様書であること。 対象地物 建築物、土地利用、道路、都市計画決定情報、災害リスク（いずれもLOD1）。 属性情報 都市計画基礎調査情報、都市計画決定情報、災害リスクなど。 検討条件を踏まえ、確立した新たな更新手法をもとにデータの更新を実施。
政策・事業での活用	<ul style="list-style-type: none"> 都市計画基本図を令和8年度に更新し、令和9年度に市内全域のLOD1データを一斉更新する。以降、定期的に3D都市モデルを更新する手法を確立。 庁内での検討、シミュレーションの基礎となるプラットフォームを提供。
オープンデータ化情報発信	-

Ⅲ. 令和7年度採択団体別 事業内容

36.大阪府大阪市

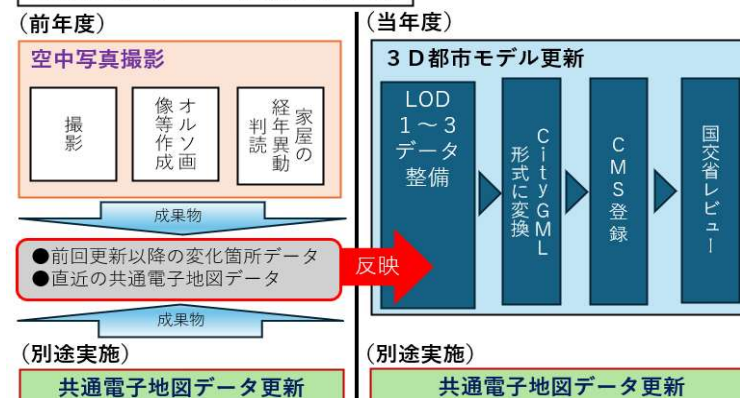
■ KPI

KPI	目標設定	達成状況
データの定期更新を行うことで3D都市モデルの活用が高まると考える職員数の割合	70% (R7年度)	100% (R7年度)
会議などを開催し3D都市モデルの活用を検討した部局数	3部局以上/年 (R8年度)	R8年度 測定予定
内部データを活用した本市職員によるシミュレーション実施やユースケースの開発	2件 (R9年度)	R9年度 測定予定

分野	人口規模	面積規模	予算規模
街・他	15万以上	200 - 500	1-2千

■ ユースケース開発成果イメージ図

3D都市モデルデータ更新スキーム案



都市計画基礎調査実施方法見直し案

調査名称	実施スパン
建物用途別土地利用現況	5年周期 ⇒ 1年周期
建物床面積調査	5年周期
国勢調査メッシュ集計	5年周期
経済センサス活動調査メッシュ集計	5年周期
地価メッシュ別集計	5年周期

■ 得られた知見や今後の展望

本市他業務の成果品を有効活用することで、3D都市モデルの鮮度を保った定期更新が可能であることが分かった。令和10年度以降の定期更新については、今年度構築した更新スキームを基に、鮮度の高い3D都市モデルの維持に努めるとともに、構築した更新スキームについても随時見直しを行ってブラッシュアップを図っていく。

Ⅲ. 令和7年度採択団体別 事業内容

37.大阪府堺市

■ 団体基礎情報・プロジェクト全体像

人口	約80.4万人（令和7年4月時点）
市域全域面積	約150km ² （令和7年4月時点）
目標	<ul style="list-style-type: none"> 盛土規制法に基づく地盤変位及び現地確認の効率化 堺都心部の活性化に資する便利・快適な移動環境の構築や地域公共交通の維持確保
課題	<ul style="list-style-type: none"> 地盤変位を効率的に把握するためのシステム構築 実空間では再現が困難な事象をデジタル空間上で安全性を検証し、自動運転バスの社会実証を効率化する。

■ 令和7年度スケジュール



分野	人口規模	面積規模	予算規模
街・交・他	15万以上	100-200	3-5千

担当部局	宅地安全課
------	-------



■ 補助事業実施項目

事前調査等	-
3D都市モデル整備・更新	-
ユースケース開発	<ul style="list-style-type: none"> 3D都市モデルを活用した地盤変位の可視化 大小路筋の自動運転走行実証に係る安全性等検証事業 広幅員歩道空間を活用した滞留空間の創出検討促進事業
推進事業	-

総事業費	58.772（百万円）※うちR7年度37.272（百万円）
R7年度補助額	18.636（百万円）
補助対象外の関連事業	-

オープンデータ化・可視化・情報発信	<ul style="list-style-type: none"> G空間情報センターへの掲載【3D都市モデル／関連データ】 PLATEAU VIEWへの掲載【3D都市モデル／関連データ／UCデータ】
-------------------	---

R7年度委託事業者	株式会社フォーラムエイト（ユースケース開発）
-----------	------------------------

Ⅲ. 令和7年度採択団体別 事業内容

37.大阪府堺市

■ 3D都市モデル整備状況（基本セット）

※赤字：R7補助対象地物

LOD	整備地物	対象区域	整備面積	整備年度
LOD1	建築物 交通（道路） 土地利用 災害リスク 地形	市街化区域 市街化調整区域	約107km ² 約42km ²	R4年度新規 R6年度拡充
	都市計画決定情報	市街化区域 市街化調整区域 市街化区域	約107km ² 約42km ² 約107km ²	R4年度新規 R6年度拡充 R6年度更新
LOD2	建築物	都心地域	約4km ² +1棟	R4年度新規

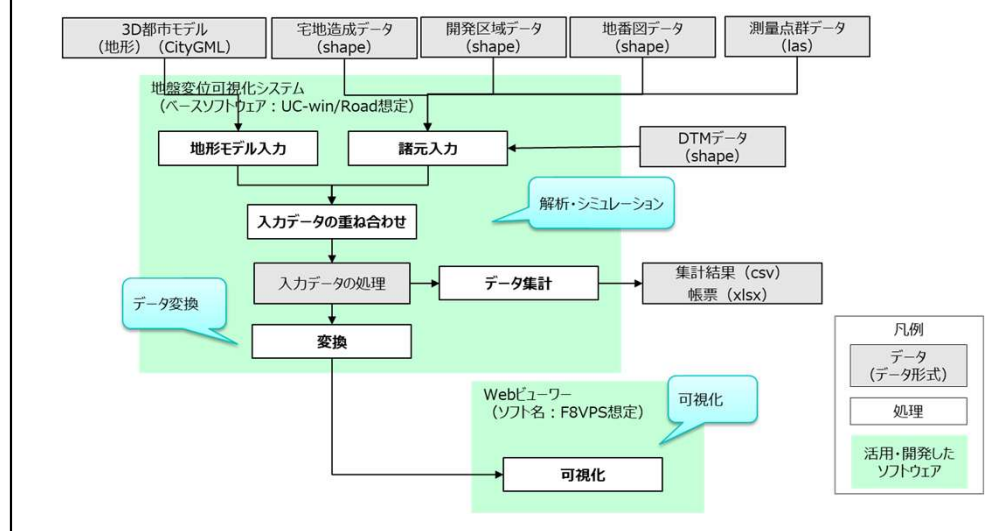
項目	活用したデータ	作成年度	地図情報レベル
平面図	都市計画基本図（既存）	H29年度	2,500
	道路台帳平面図	R5年度	500
測量成果	既存資料（航空写真）	R5年度	1,000
属性情報	都市計画基礎調査（既存）	R1,2,5年度	2,500
	建築確認申請	R5年度	
	水害ハザードマップ	R3年度	
	土砂災害警戒区域データ	R1年度	
	施設情報データ	R5年度	

分野	人口規模	面積規模	予算規模
街・交・他	15万以上	100 - 200	3 - 5千

■ ユースケース概要①

テーマ	その他
ユースケース名称	3D都市モデルを活用した地盤変位の可視化
目的	盛土規制法に基づく地盤変位の確認を効率的に行う。
取組内容	2時点の地形データを3D都市モデルに重ね合わせ、地盤変位をわかりやすく可視化するシステムを構築する。R6年度実施の盛土等現地調査管理の効率化ユースケースと合わせて活用し、盛土等の把握から現地確認までを効率的に行う。日々の点検や、おおむね5年ごとに行う盛土規制法に基づく基礎調査の資料として活用する。

■ システム構成図



Ⅲ. 令和7年度採択団体別 事業内容

37.大阪府堺市

■ ユースケース開発方法

活用データ (3D都市モデル)	地形LOD1
活用データ (上記以外)	<ul style="list-style-type: none"> 宅地造成情報 (所在地、許可年月日) 開発区域情報 (所在地、許可年月日) 地番図情報 (地番)
ユースケース 開発方法	<ul style="list-style-type: none"> 対象区域の3D都市モデル (地形) をソフトウェア (UC-win/Roadを想定) に取り込む。 3D都市モデルと宅地造成・開発区域・地番図データを重畳。 3D都市モデルと時点の異なるDTMデータを重畳。 3D都市モデルと調査済区域 (現地測量による点群データ: R6年度ユースケース開発) を重畳。 3D都市モデルとDTMデータの差分がある箇所 (地盤変位箇所) を色分け表示等により可視化する。 地盤変位箇所と調査済区域と重畳させ、未調査区域を可視化する。 盛土規制法に基づく基礎調査のカルテ及び一覧表にて出力する。
政策・事業での 活用	<ul style="list-style-type: none"> 3D都市モデルとDTMデータの差分がある箇所 (地盤変位箇所) を色分け表示等により可視化する。また、R6年度にユースケースとして開発した調査管理システムの調査済区域と重ね合わせ、未確認区域を明確にする。未確認区域に対して規模等で一覧表を作成し、調査計画を最適化する。 盛土等の安全対策推進ガイドライン及び同解説に基づく基礎調査のカルテや一覧表を出力し、庁内外への説明資料として活用する。 タブレット端末での情報登録を行うことにより、即時性を向上させる。 窓口相談及び庁内の情報共有にて活用する。 経年の情報を一元的に記録し、保存する。 盛土規制法に基づく基礎調査の資料として活用する。
オープンデータ化・情報発信	-

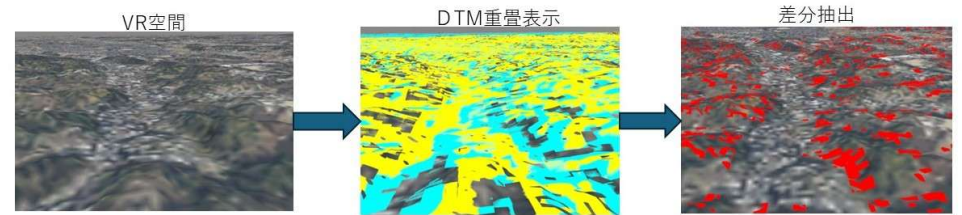
■ KPI

KPI	目標設定	達成状況
変位が確認しやすいと感じた職員の割合 (%)	80% (R7年度)	100% (R7年度)
1件あたりの変位確認～調査完了までの時間が短縮されたと感じた職員の割合 (%)	80% (R7年度)	80% (R7年度)

分野	人口規模	面積規模	予算規模
街・交・他	15万以上	100 - 200	3 - 5千

■ ユースケース開発成果イメージ

VR空間上に異なる時期のDTMデータを重畳表示
その差分を抽出する。



黄色：2023年度DTM
水色：2024年度DTM

新規盛土として
登録

番号	区	町	地番	規制対象	最新の調査状況	最新の調査日	優先度	対応状況	登録
新規盛土1	南区	富原	〇〇〇	非判定				未調査	■
新規盛土2	南区	別所	〇〇〇	非判定				未調査	■
既存盛土1	西区	堤上緑町	〇〇〇	対象5	応急対策の必要性...	2026/02/27		対応不要	■
既存盛土2	中区	大野花町	〇〇〇	対象3	安全性把握調査の...	2026/03/01		対応不要	■

地盤変位箇所の可視化

VR空間上に異なる時期のDTMデータを重畳表示し、その差分を抽出する。

■ 得られた知見や今後の展望

- 現地において盛土等の調査のほか、前面道路を含めた点群データを取得することにより道路幅員の情報を得られることから、狭あい道路に関する協議への活用を想定。

Ⅲ. 令和7年度採択団体別 事業内容

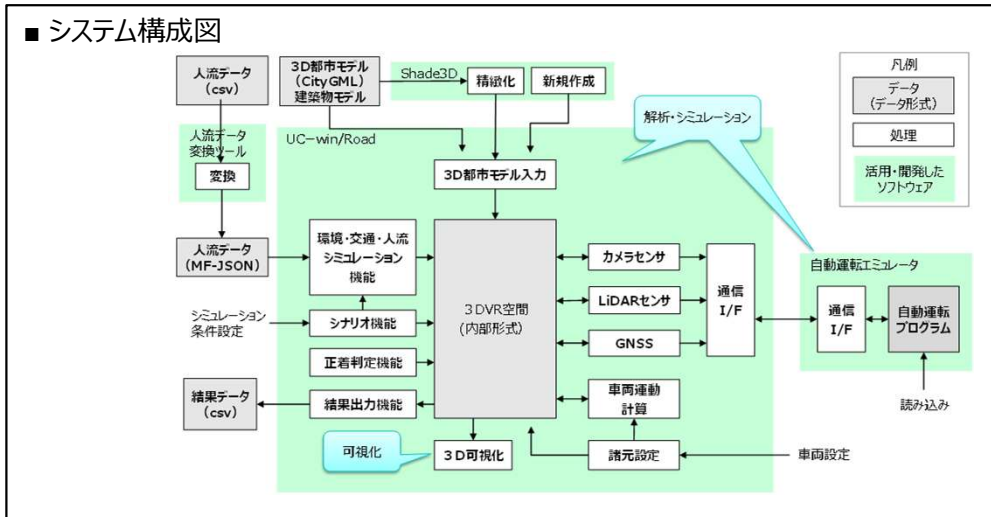
37.大阪府堺市



■ ユースケース概要②

テーマ	交通・物流・モビリティ
ユースケース名称	大小路筋の自動運転走行実証に係る安全性等検証事業
目的	走行ルートを再現した仮想空間で安全性やバス停への正着技術を事前に検証することで、都市部での自動運転走行実証の効率化を図る。
取組内容	3D都市モデルを活用した自動運転バスの走行シミュレーションを実施し、駐停車車両等の回避や歩行者の乱横断への対応など、複数シナリオによるセンサの稼動状況や自動運転システムの挙動を可視化した。また、バス停への正着性を向上させるバスベイの形状や停留所の高さや形状など、自動運転バスに対応した施設整備の検討を実施した。

■ システム構成図



分野	人口規模	面積規模	予算規模
街・交・他	15万以上	100 - 200	3 - 5千

■ ユースケース開発方法

活用データ (3D都市モデル)	<ul style="list-style-type: none"> 地形LOD1 建築物LOD2
活用データ (上記以外)	<ul style="list-style-type: none"> 道路平面図 堺市撮影の空中写真 (令和6年撮影) パークレット図面 市所有建築物各種図面 自動運転バス正着プラットフォーム図面 自動運転バス走行軌跡ログ、バス走行用磁気マーカー設置座標情報 KDDI Location Analyzer 人流データ
ユースケース開発方法	<ul style="list-style-type: none"> 対象区域の3D都市モデルをソフトウェアで活用できるように過年度の3D都市モデルをインポートし、所定のモデルについては精緻化、不足しているモデルについてはソフトウェアにて3Dオブジェクトを追加作成。 コンソーシアムの自動運転制御開発事業者が開発した自動運転制御プログラムを読み込み、上記3D都市モデルで構築した空間内で自動運転車両を手動または自動で運転できるシステムを構築。 構築したシステムを用いて所定の条件下でシミュレーションを実施する。 LiDAR放射範囲やカメラの認知範囲を可視化。 障害物回避シミュレーションを繰り返し検証。 自動運転技術を活用したバリアフリー化をめざし、停留所の乗降口の形状等を検証。 自動運転技術を活用したバス停留所への正着性を向上させバス公共交通の利便性が高まることを具体的に可視化。
政策・事業での活用	<ul style="list-style-type: none"> 自動運転バスの市民説明会等の資料で活用し、安全性について理解促進を図る。また、自動運転技術を活用したバス停留所への正着性を可視化したものを説明会等の資料として活用して自動運転バスの社会受容性の向上を図る。 自動運転の危機事象への対応について、交通管理者との協議資料として活用。 構築したシステムを用いて職員に対して操作研修を実施し、今後の活用を図る。バスの走行シミュレーションにより、LiDAR放射範囲やカメラの認知範囲を可視化したものを使い、センサ死角を補う路車協調システムの設置検討を効率化・高度化。 様々な状況を仮想空間で再現し、障害物回避シミュレーションを繰り返し検証。乱横断対策や駐停車車両対策の検討に活用。
オープンデータ化情報発信	PLATEAU VIEWへの搭載

Ⅲ. 令和7年度採択団体別 事業内容

37.大阪府堺市

■ KPI

KPI	目標設定	達成状況
大小路筋の自動運転走行率	70% (R7年度)	65.9% (R7年度)

KPI未達を受けての
今後の対応

R7年度は、自動運転システムとの連携に時間を要したことから課題に対し、自動運転システムの改善まで至らなかったが、今後は走行実証前に自動運転システムで対応したい課題を可視化し、検討を加速化させ目標達成を図る。

分野	人口規模	面積規模	予算規模
街・交・他	15万以上	100 - 200	3 - 5千

■ ユースケース開発成果イメージ図



バス停留所への正着の様子

自動運転バス用の乗降プラットフォームを作成し、運転シミュレーションを実施。



歩行者の乱横断の再現

歩行者の飛び出し等、危険な事象を再現し、運転シミュレーションを実施。

■ 得られた知見や今後の展望

- 3D都市モデルを活用することで早期にシミュレーション環境を構築することが可能であった。
- 今後、大型バスによる自動運転走行実験を予定しており、事前に本システムで走行シミュレーションを実施し、走行軌跡を検討することにより、自動運転率の向上、調律運行の負担軽減を図る。また、関係者との協議・調整において、課題認識の共有に活用したい。

Ⅲ. 令和7年度採択団体別 事業内容

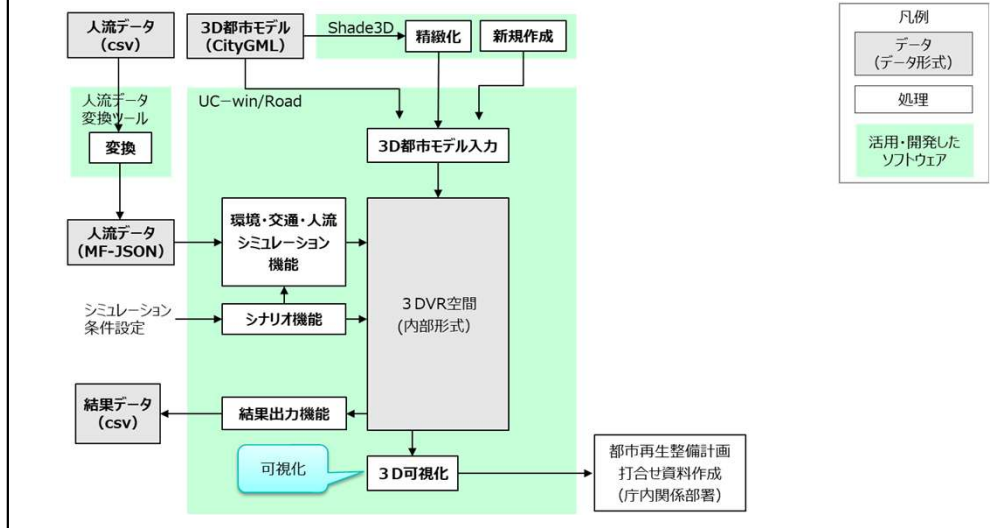
37.大阪府堺市



■ ユースケース概要③

テーマ	都市計画・まちづくり
ユースケース名称	広幅員歩道空間を活用した滞留空間の創出検討促進事業
目的	広場と歩行空間を一体的に活用した滞留空間の創出に向けて、沿道住民や事業者にわかりやすく示し、早期の合意形成の確立を実現する。
取組内容	シンボルロード整備事業（昭和59年～平成11年）により、車線を縮小し、先進的に安全快適な歩行空間の創出等を図った路線の有効活用を庁内で検討し、キッチンカーやストリートファニチャー、自動運転バス停留所の整備検討など次年度以降の実証実験の計画作成に取り組む。

■ システム構成図



分野	人口規模	面積規模	予算規模
街・交・他	15万以上	100 - 200	3 - 5千

■ ユースケース開発方法

活用データ (3D都市モデル)	<ul style="list-style-type: none"> 地形LOD1 建築物LOD2
活用データ (上記以外)	<ul style="list-style-type: none"> 道路平面図 堺市撮影の空中写真（令和6年撮影） パークレット図面 市所有建築物各種図面 自動運転バス正着プラットフォーム図面 自動運転バス走行軌跡ログ、バス走行用磁気マーカー設置座標情報 KDDI Location Analyzer人流データ
ユースケース開発方法	<ul style="list-style-type: none"> 対象区域のデジタルツイン環境に、キッチンカーやストリートファニチャー、自動運転バス停留所等を再現。 既存の人流データを重畳させ、現状を再現。 キッチンカーやストリートファニチャー、自動運転バス停留所等の配置を検討し、道路空間の活用を可視化。
政策・事業での活用	<ul style="list-style-type: none"> 当該歩道の利用者が増加した際の自転車と歩行者の利用空間に対する課題を検証し、実証実験や施策を検討。 街路樹の木陰やバス待合空間の形状、風雨や暑熱に対応可能なキッチンカーやストリートファニチャーの配置を検証し、居心地が良く歩きたくなる歩行空間を検討する。 可視化したものを活用し、関係者の意思疎通を促し庁内（R7年度）や、市民、飲食店事業者等（R8年度）に整備・活用案を共有。
オープンデータ化 情報発信	PLATEAU VIEWへの搭載

■ KPI

KPI	目標設定	達成状況
三次元で検討することで作業が効率化されたと回答した職員の割合	90% (R7年度)	91.7% (R7年度)

Ⅲ. 令和7年度採択団体別 事業内容

37.大阪府堺市

■ ユースケース開発成果イメージ図



人流データの可視化
既存の人流データをもとに、
歩行者を再現。



ストリートファニチャーの配置検討
歩行空間にベンチ等のストリート
ファニチャーを設置し、
実際の設置イメージを可視化。

分野	人口規模	面積規模	予算規模
街・交・他	15万以上	100-200	3-5千



PLATEAU
by MLIT

■ 得られた知見や今後の展望

- 目標とする歩行者交通量を可視化することで、ファニチャーの配置による歩道幅員の検討などに活用できるほか、関係者間での意思疎通の迅速化が可能となった。
- 今後は、歩行空間の活用にとどまらず、交通量調査の結果を活用して、車線数削減の影響を視覚化し、道路計画に役立てたい。

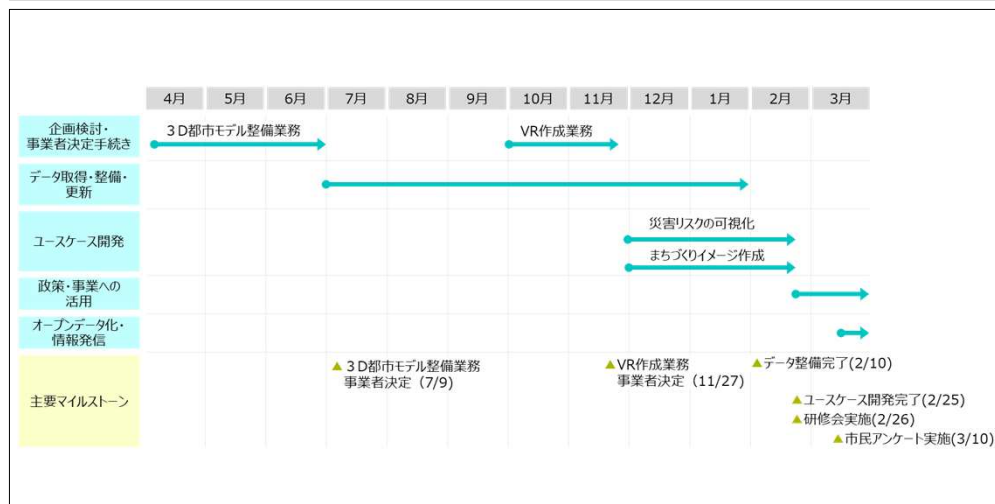
Ⅲ. 令和7年度採択団体別 事業内容

38. 奈良県香芝市

■ 団体基礎情報・プロジェクト全体像

人口	約7.9万人（令和5年1月時点）
市域全域面積	約24km ² （令和5年1月時点）
目標	<ul style="list-style-type: none"> 住宅都市としての「暮らしやすさ」をさらに深め、もっと住みよい高品質の都市 「住む」だけにとどまらず、「働く」「遊ぶ」「活動する」「訪れる」など、多彩なまちの機能と魅力の発掘・想像
課題	<ul style="list-style-type: none"> Eビデンス（証拠）に基づく政策立案、視覚的要素が高く分かりやすい資料作成。 大雨時の被災予測による効果的対応、災害に対する市民意識の向上及び自助・公助・共助による対応能力の向上。 景観形成に配慮した主要駅周辺を中心としたまちづくりの企画立案。

■ 令和7年度スケジュール



分野	人口規模	面積規模	予算規模
街・防	5 - 15万	50未満	2 - 3千

担当部局	都市計画課
------	-------



■ 補助事業実施項目

事前調査等	—
3D都市モデル整備・更新	3D都市モデル整備事業（LOD1/LOD2/LOD3）
ユースケース開発	<ul style="list-style-type: none"> 3D都市モデルを活用した災害リスクの可視化事業 3D都市モデルを活用した駅前整備及びまちづくりイメージの作成
推進事業	3D都市モデルのオープンデータサイトの構築

総事業費	51.166（百万円） ※うちR6年度補正予算30.000（百万円）
R7年度補助額	15.000（百万円） ※R6年度補正予算
補助対象外の関連事業	<ul style="list-style-type: none"> 統合型GIS整備事業 公開型GIS整備事業 市公式ホームページの改修

オープンデータ化・可視化・情報発信	<ul style="list-style-type: none"> G空間情報センターへの掲載【3D都市モデル／関連データ／UCデータ】 PLATEAU VIEWへの掲載【3D都市モデル／関連データ／UCデータ】 香芝市オープンデータサイト【3D都市モデル／UCデータ】 香芝市ホームページ
-------------------	--

R7年度委託事業者	<ul style="list-style-type: none"> 株式会社かんこう（3D都市モデルの整備・更新、ユースケース開発、推進事業） パナソニック株式会社 エレクトリックワークス社（ユースケース開発）
-----------	--

Ⅲ. 令和7年度採択団体別 事業内容

38.奈良県香芝市

■ 3D都市モデル整備状況（基本セット）

※赤字：R7補助対象地物

LOD	整備地物	対象区域	整備面積	整備年度
LOD1	建築物 交通（道路） 橋梁 都市計画決定情報 土地利用 災害リスク（洪水） 地形	市域全域	24.26km ²	R7年度新規
LOD2	建築物	近鉄五位堂駅北側・ 南側エリア、近鉄下田 駅、近鉄二上駅、JR 志都美駅、香芝市庁 舎周辺	0.76km ²	

■ 3D都市モデル整備状況（基本セット以外）

※赤字：R7補助対象地物

LOD	整備地物	対象区域	整備面積	整備年度
LOD3.0	橋梁	近鉄五位堂駅デッキ、 近鉄下田駅横断歩道、 中和幹線	0.05km ²	R7年度新規
	道路	中和幹線高架	0.05km ²	

項目	活用したデータ	作成年度	地図情報レベル
平面図	都市計画基本図（既存）	R2年度	2,500
測量成果	既存資料（航空写真）	R6年度	1,000
属性情報	都市計画基礎調査（既存）	H26年度	—

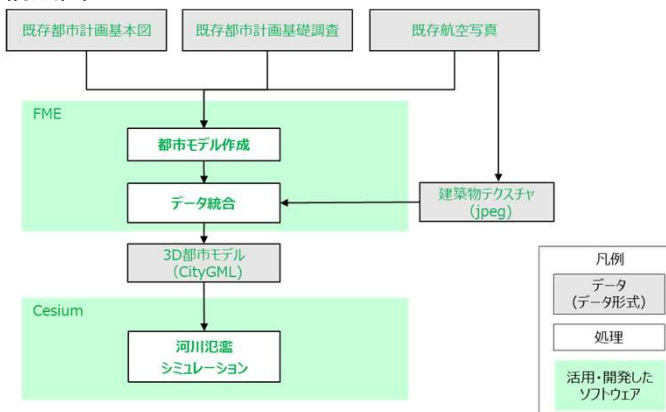
分野	人口規模	面積規模	予算規模
街・防	5-15万	50未満	2-3千



■ ユースケース概要①

テーマ	防災・防犯
ユースケース名称	3D都市モデルを活用した災害リスクの可視化事業
目的	浸水想定区域内の住宅集中地区における災害対策の検討及び住民意識の向上
取組内容	近年、激甚化する大雨災害等に伴う災害リスクの高まりを受け、浸水想定区域内にある住宅集中地区を対象として、災害リスク情報の三次元表示を行い、エリアのリスクを可視化する。また、中和幹線をLOD3により整備し、高低差を含めた浸水イメージとする。これを用いて、発災後に通行可能な道路の状況等を時系列で把握し、防災対策の検討材料として活用する。また、動画を作成し、検討会に活用する。

■ システム構成図



Ⅲ. 令和7年度採択団体別 事業内容

38. 奈良県香芝市

■ ユースケース開発方法

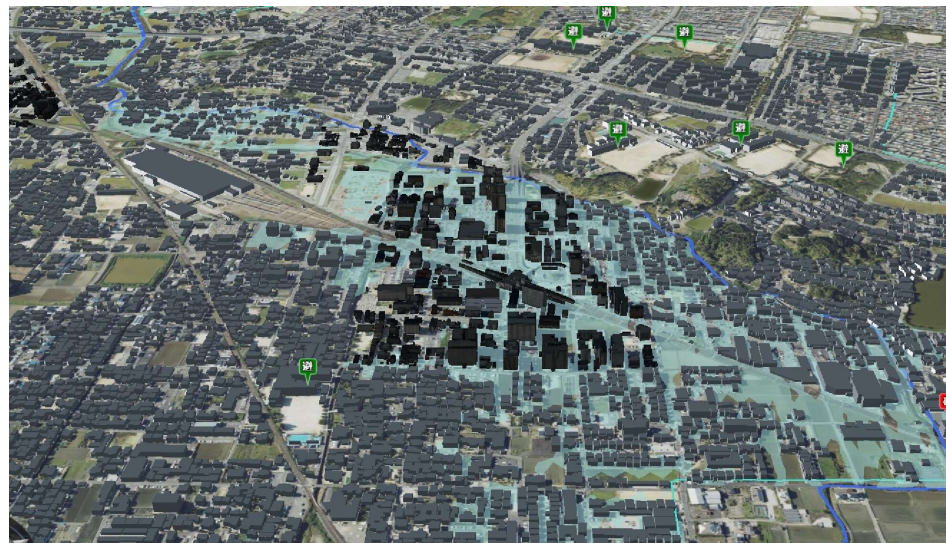
活用データ (3D都市モデル)	<ul style="list-style-type: none"> 建築物LOD1, LOD2 (高さ・形状) 交通 (道路) LOD1, LOD3 (高さ・形状) 地形LOD1 (高さ) 橋梁LOD1, LOD3 (高さ・形状) 災害リスクLOD1 (洪水浸水想定区域)
活用データ (上記以外)	<ul style="list-style-type: none"> 指定避難所情報(避難所名称、所在地) 航空写真 (レベル1000)
ユースケース 開発方法	<ul style="list-style-type: none"> 対象区域の3D都市モデル (CityGML形式) のデータをFME Form等を活用して変換し、浸水想定区域データ(11河川)や時系列浸水(主要1地点)のデータ、避難所位置データ等を重畳する。 シミュレーション結果を活用し、3D可視化ソフトでデータを可視化し、防災上の課題等の洗い出しに活用する。 3D可視化ソフトを用いて3Dで災害リスクがイメージできる動画の作成を行い、作成した動画等を市のホームページを通じて公開する。
政策・事業での 活用	<ul style="list-style-type: none"> 市内全域を対象とした3D浸水データと建物を重畳し、建物の属性情報で色分け表示できるシミュレーションデータを整備、また浸水の時系列シミュレーションができるデータ (主要1箇所) を整備。 災害リスクの理解を深めるための動画を作成。
オープンデータ化 情報発信	<ul style="list-style-type: none"> PLATEAU VIEWへの搭載 G空間情報センターへの掲載 香芝市オープンデータサイトに掲載

■ KPI

KPI	目標設定	達成状況
時系列浸水シミュレーションをHPで公開し、被災リスクについてよく理解できたと感じる市民の割合	60% (R7年度)	70% (R7年度)

分野	人口規模	面積規模	予算規模
街・防	5 - 15万	50未満	2 - 3千

■ ユースケース開発成果イメージ図



河川氾濫シミュレーションによる可視化

3D都市モデル上で河川氾濫シミュレーションを可視化し、時間経過による浸水範囲の拡大や建物の浸水深さの変化をよりわかりやすく再現する。

■ 得られた知見や今後の展望

3D都市モデルの整備により、平面上ではイメージしにくい浸水深さなどを可視化し、庁内協議や住民への啓発として、よりイメージしやすい資料とすることができた。また、複数の図を見比べることなく、建築物の規模や高さ、土地の高低などを直感的に把握できるため、都市計画等の検討ツールとしての活用が見込める。今後は、庁内関連部署へのさらなる周知・連携を図ってきたい。

Ⅲ. 令和7年度採択団体別 事業内容

38.奈良県香芝市

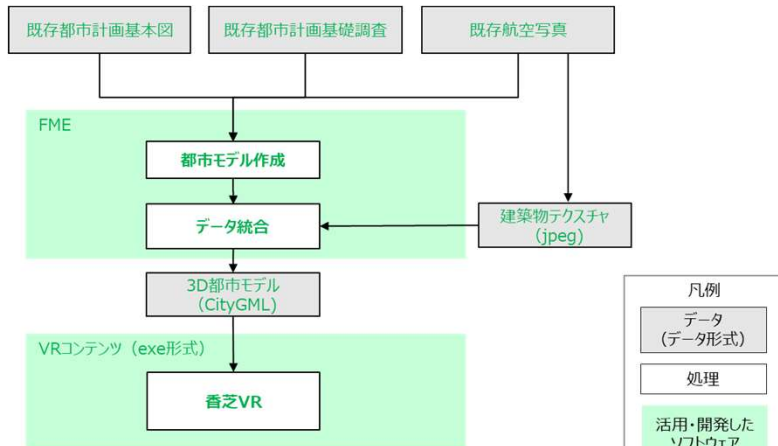


PLATEAU
by MLIT

■ ユースケース概要②

テーマ	都市計画・まちづくり
ユースケース名称	3D都市モデルを活用した駅前整備及びまちづくりイメージの作成
目的	駅前等における景観検討とイメージの共有
取組内容	駅前広場の整備、都市計画の見直しにより周辺建物の高度利用を図った場合の駅前エリアの検討にあたり、駅前の橋梁をLOD3により整備するなど、駅前空間を可視化し、景観・日照等に対する課題の抽出に活用する。 また、事業計画内容の熟度アップにつなげるための庁内意志決定資料の作成（将来的には住民説明への活用も想定。）に活用する。

■ システム構成図



分野	人口規模	面積規模	予算規模
街・防	5 - 15万	50未満	2 - 3千

■ ユースケース開発方法

活用データ (3D都市モデル)	<ul style="list-style-type: none"> 建築物LOD1, LOD2 (高さ・形状) 交通 (道路) LOD1, LOD3 (高さ・形状) 地形LOD1 (高さ) 橋梁LOD1, LOD3 (高さ・形状) 災害リスクLOD1 (洪水浸水想定区域)
活用データ (上記以外)	<ul style="list-style-type: none"> 航空写真 (レベル1000)
ユースケース 開発方法	<ul style="list-style-type: none"> 3D都市モデルを変換し、建物テクスチャの貼り付け及び植栽等の添景物の配置により、対象区域における景観等の検討が可能なVRコンテンツを構築する。 VRコンテンツを用いて、景観シミュレーションを行い、対象区域における課題等を整理する。 庁内意志決定時、将来的には住民説明会、都市計画審議会等の説明資料として活用するとともに、市ホームページ上で公開する。
政策・事業での 活用	緑豊かな魅力ある景観の形成やウォークアブルのまちづくりの観点を取り入れた計画案作成、施策検討等に向け、仮想現実空間でシミュレーションし、全体イメージの共有、合意形成の円滑化を図ることができる資料の作成に活用する。
オープンデータ化 情報発信	<ul style="list-style-type: none"> PLATEAU VIEWへの搭載 G空間情報センターへの掲載 香芝市オープンデータサイトに掲載

■ KPI

KPI	目標設定	達成状況
まちづくり等の庁内意志決定資料の作成において、3次元の資料を作ったことでより整備イメージを具体化できたと感じる職員の割合	80% (R7年度)	100% (R7年度)

Ⅲ. 令和7年度採択団体別 事業内容

38. 奈良県香芝市

分野	人口規模	面積規模	予算規模
街・防	5 - 15万	50未満	2 - 3千

■ ユースケース開発成果イメージ図



香芝市VRコンテンツ

任意の位置に3Dオブジェクトを配置する機能や既存建築物を消去する機能により、視覚的な検討を容易にし、関係者間でのイメージの共有や資料作成に活用。



職員研修会の開催

今後の3D都市モデルの活用に向けて、活用事例や操作方法を説明。

■ 得られた知見や今後の展望

3D都市モデル（LOD）だけでは表現しにくい樹木や信号などの添景物を加えたVRコンテンツを構築することにより、駅前整備等の検討をより現実に近いイメージで行うことができた。まちづくりの基盤データとして、必要に応じてデータ更新や範囲を拡げていくことにより、今後の公共施設の整備計画や景観イメージの検討などに広く活用したい。

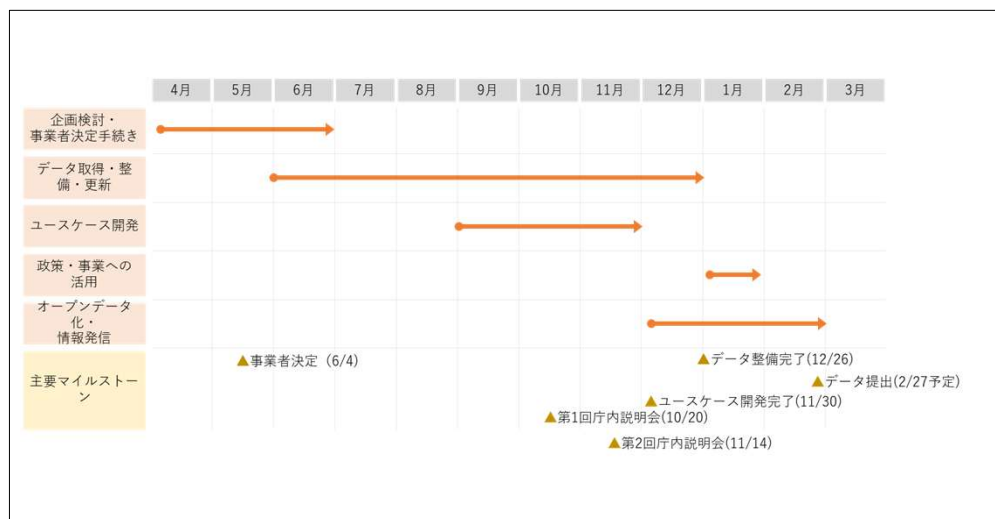
Ⅲ. 令和7年度採択団体別 事業内容

39. 奈良県三郷町

■ 団体基礎情報・プロジェクト全体像

人口	約2.3万人（令和5年1月時点）
市域全域面積	約9km ² （令和5年1月時点）
目標	世界に誇る！！「人にもまちにもレジリエンスなスマートシティSANGO」の実現
課題	<ul style="list-style-type: none"> 山地と市街地が近接する地形特性を有しており水害や土砂災害への迅速かつ適切な対応が必要である。 データベースがなくデータ利活用に向けたデータベースの作成が必要。 地域活性化及び住民生活の質の向上に向けた移動・交通の利便性向上が必要。

■ 令和7年度スケジュール



分野	人口規模	面積規模	予算規模
防	1-3万	50未満	1千未満

担当部局	都市建設課
------	-------

■ 補助事業実施項目

事前調査等	3D都市モデルの整備範囲や整備内容の検討
3D都市モデル整備・更新	3D都市モデル整備事業（LOD1,LOD2）
ユースケース開発	3D都市モデルを活用した災害リスクの可視化事業
推進事業	3D都市モデルのオープンデータサイトの構築

総事業費	9.970（百万円）※うちR7年度9.970（百万円）
R7年度補助額	9.955（百万円）
補助対象外の関連事業	—

オープンデータ化・可視化・情報発信	<ul style="list-style-type: none"> G空間情報センターへの掲載【3D都市モデル／関連データ／UCデータ】 PLATEAU VIEWへの掲載【3D都市モデル／関連データ／UCデータ】 町ホームページ
-------------------	--

R7年度委託事業者	株式会社かんこう（事前調査、3D都市モデル整備・更新、ユースケース開発、推進事業）
-----------	---



Ⅲ. 令和7年度採択団体別 事業内容

39. 奈良県三郷町

■ 3D都市モデル整備状況（基本セット）

※赤字：R7補助対象地物

LOD	整備地物	対象区域	整備面積	整備年度
LOD1	建築物 交通（道路） 都市計画決定情報 土地利用 災害リスク（洪水・土砂） 地形	都市計画区域 = 全域	8.8km ²	R7年度新規
LOD2	建築物	三郷町駅北側及び三郷町役場周辺エリア	0.76km ²	

項目	活用したデータ	作成年度	地図情報レベル
平面図	都市計画基本図（修正）	R元年度	2,500
測量成果	新規測量（航空写真）	R6年度	1,000
属性情報	都市計画基礎調査（既存）	H26年度	

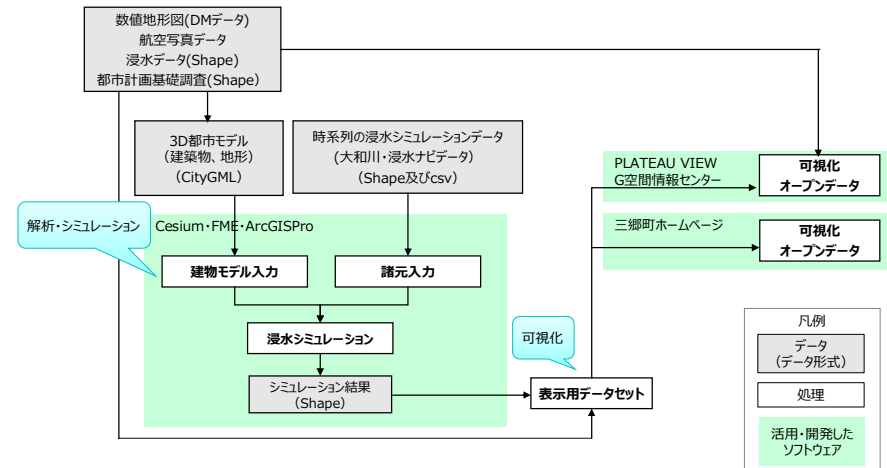


分野	人口規模	面積規模	予算規模
防	1 - 3万	50未満	1千未満

■ ユースケース概要

テーマ	防災・防犯
ユースケース名称	3D都市モデルを活用した災害リスクの可視化事業
目的	水害リスクの可視化及び時系列シミュレーションにより、市民の防災意識を高める。
取組内容	浸水想定区域内にある中心市街地を対象として、災害リスク情報の三次元表示を行い、エリアのリスクを可視化する。

■ システム構成図



Ⅲ. 令和7年度採択団体別 事業内容

39. 奈良県三郷町

■ ユースケース開発方法

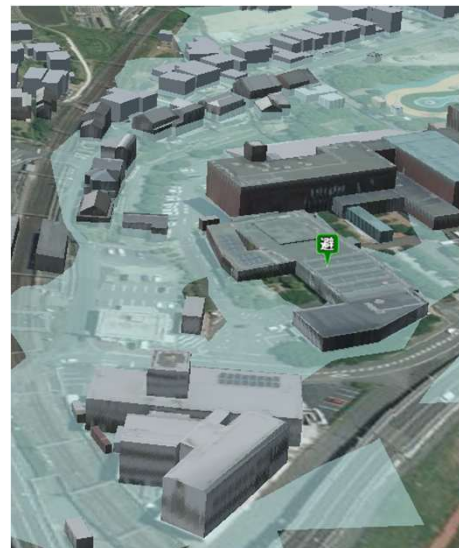
活用データ (3D都市モデル)	<ul style="list-style-type: none"> 建築物LOD1, LOD2 災害リスクLOD1 地形LOD1
活用データ (上記以外)	<ul style="list-style-type: none"> 指定避難所情報（避難所名称、所在地） 航空写真（レベル1000）
ユースケース 開発方法	<ul style="list-style-type: none"> 対象区域の3D都市モデルをソフトウェアで活用できるようにArcGISPro、FMEを活用して変換。 変換した3D都市モデルに含まれる浸水想定区域データを重畳表示する。 河川氾濫を想定し、3D都市モデルに搭載する各データと三郷町を管内とする県、国の広域的データを活用することによりユースケース開発する。 想定ハザード及びシミュレーションケース（破堤点）数（既存の浸水ナビデータを活用）、シミュレーション範囲等の条件について設定を行う。
政策・事業での 活用	<ul style="list-style-type: none"> 浸水想定は、ハザード範囲への被害が想定される、大和川の2点を破堤点と想定する。 また、洪水浸水想定区域図における浸水深・流速データ等を用いて、破堤点別に10分毎の按分計算を行い、時系列表示が可能となるシミュレーションデータを作成するものとする。 3D都市モデルを活用した浸水シミュレーションについて、庁内防災関連職員への説明会で報告し災害意識が高まったか調査し、その理解度を本業務のKPIとする。
オープンデータ化 情報発信	<ul style="list-style-type: none"> PLATEAU VIEWへの搭載 G空間情報センターへの掲載

■ KPI

KPI	目標設定	達成状況
3D都市モデルを活用した浸水シミュレーションについて、防災訓練等で住民に活用して頂けるよう、庁内防災関連職員への説明会で報告し災害意識が高まった割合	70% (R7年度)	76% (R7年度)

分野	人口規模	面積規模	予算規模
防	1-3万	50未満	1千未満

■ ユースケース開発成果イメージ図



大和川河川氾濫シミュレーション

時系列3Dシミュレーションによる、氾濫状況の再現。



破堤点と避難施設

大和川河川氾濫時の浸水状況と避難場所を表示。

■ 得られた知見や今後の展望

浸水及び土砂災害を三次元的に可視化したことで、建物高さや地盤高を考慮した被害状況の把握が可能となり、浸水シミュレーションの有効性を確認した。また、防災・減災分野での活用拡大を目指し、浸水シミュレーションや避難経路検討など、防災分野での空間解析活用強化を目指す。また、3D都市モデルを活用し、事業説明や都市計画における理解促進を図るため、住民説明や合意形成ツールとしての活用を目指す。

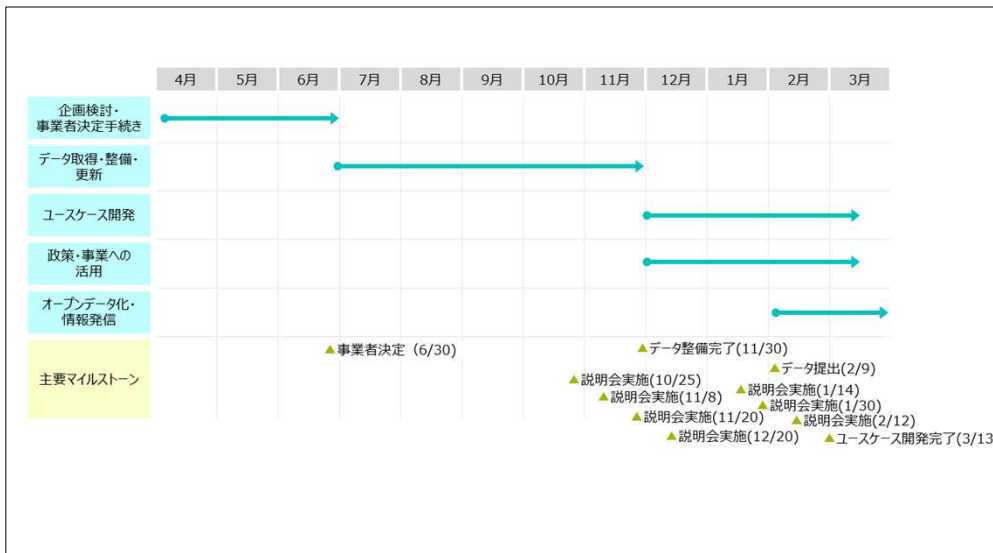
Ⅲ. 令和7年度採択団体別 事業内容

40.和歌山県すさみ町

■ 団体基礎情報・プロジェクト全体像

人口	約0.4万人（令和5年1月時点）
市域全域面積	約174km ² （令和5年1月時点）
目標	<ul style="list-style-type: none"> すさみ町での南海トラフ地震や台風等の災害対策と住民の防災意識向上。 中学生向け放課後教室によるAIやICT教育の推進。
課題	<ul style="list-style-type: none"> 南海トラフ地震による津波被害や台風と大雨による土砂災害における孤立避難所や集落の発生。 中学生数減少による限られた部活動選択肢。

■ 令和7年度スケジュール



分野	人口規模	面積規模	予算規模
防	1万未満	100 - 200	1 - 2千

担当部局	地域未来課
------	-------



■ 補助事業実施項目

事前調査等	航空写真測量データ可視化
3D都市モデル整備・更新	<ul style="list-style-type: none"> 3D都市モデル整備事業（LOD1, LOD2） 3D都市モデルのオープンデータサイト対応
ユースケース開発	災害リスク可視化事業
推進事業	—

総事業費	15.600（百万円）※うちR7年度10.509（百万円）
R7年度補助額	10.000（百万円）
補助対象外の関連事業	—

オープンデータ化・可視化・情報発信	<ul style="list-style-type: none"> G空間情報センターへの掲載【3D都市モデル／関連データ】 PLATEAU VIEWへの掲載【3D都市モデル／関連データ】 すさみ町オープンデータサイト【3D都市モデル】 すさみ町からの広報
-------------------	---

R7年度委託事業者	国際航業株式会社 （事前調査、3D都市モデルの整備・更新）
-----------	----------------------------------

Ⅲ. 令和7年度採択団体別 事業内容

40.和歌山県すさみ町

■ 3D都市モデル整備状況（基本セット）

※赤字：R7補助対象地物

LOD	整備地物	対象区域	整備面積	整備年度
LOD1	建築物	すさみ町海岸部 すさみ町都市計画区域 すさみ町海岸部と山間部 (都市計画区域外)	7.14km ² 12.07km ² 162.33km ²	R5年度新規 R6年度拡充 R7年度拡充
	交通（道路） 都市計画決定情報 土地利用 災害リスク（土砂・ 津波） 地形	すさみ町都市計画区域 すさみ町海岸部と山間部 (都市計画区域外)	12.07km ² 162.33km ²	R6年度拡充 R7年度拡充
LOD2	建築物	都市計画区域	0.01km ² 5棟以上	R7年度新規

項目	活用したデータ	作成年度	地図情報レベル
平面図	町保有のデータを活用	—	その他
測量成果	既存資料（航空レーザー）	R5年度	2,500
属性情報	町保有のデータを活用	—	—

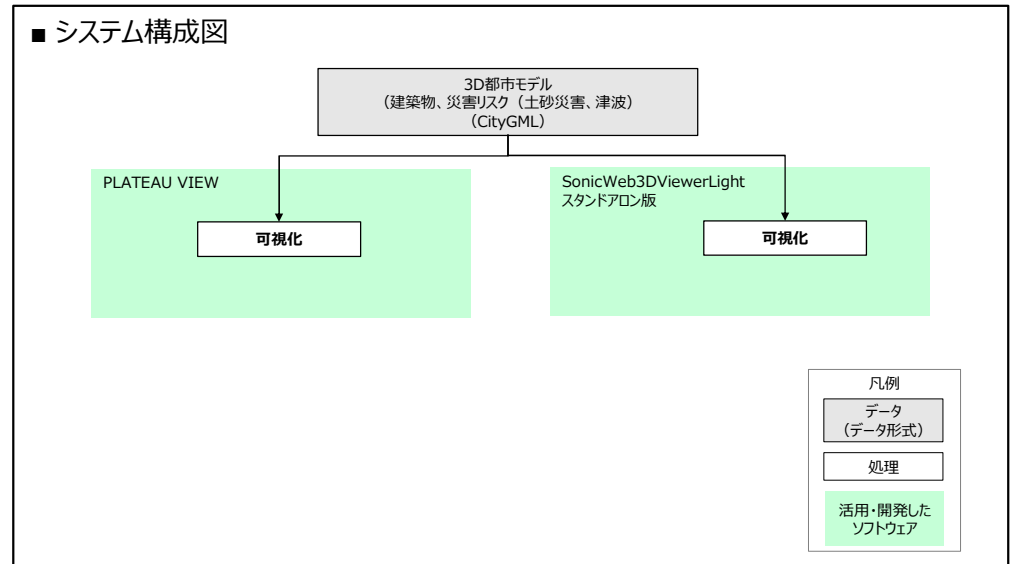
分野	人口規模	面積規模	予算規模
防	1万未満	100 - 200	1 - 2千



■ ユースケース概要

テーマ	防災・防犯
ユースケース名称	災害リスク可視化事業
目的	すさみ町での南海トラフ地震や台風等の災害対策と住民の防災意識向上
取組内容	南海トラフ地震による津波被害や台風と大雨による土砂災害における孤立避難所や集落の発生があるため、土砂災害と津波災害のデータを重ね合わせて可視化し避難ルート及び防災倉庫設置場所再検討に活用する。

■ システム構成図



Ⅲ. 令和7年度採択団体別 事業内容

40.和歌山県すさみ町

■ ユースケース開発方法

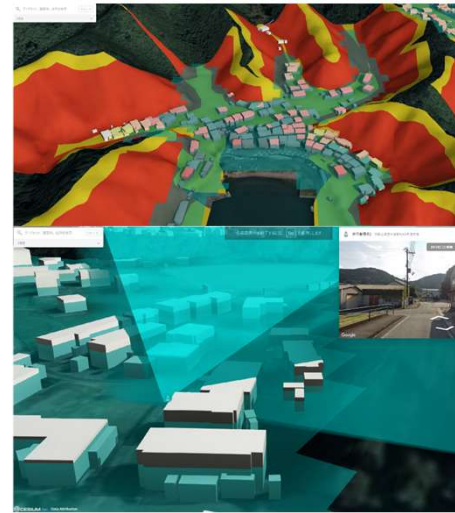
活用データ (3D都市モデル)	<ul style="list-style-type: none"> 建築物LOD1,LOD2 (名称、用途、構造種別、計測高さ、地上階数) 災害リスクLOD1 (洪水浸水想定区域の水面の範囲、浸水深の区分、土砂災害警戒区域の範囲)
活用データ (上記以外)	すさみ町公共施設等総合管理計画
ユースケース 開発方法	PLATEAU VIEWを活用し、建物データと災害リスクデータを重畳して可視化。
政策・事業での 活用	<ul style="list-style-type: none"> 南海トラフ地震等を想定した土砂災害と津波ハザードマップの可視化イメージを町内全域で作成。 可視化画像を町内の38地区の区長向けに説明会を実施。 38地区で準備している災害備蓄倉庫の津波浸水と土砂災害リスクについて再点検。 津波浸水リスクある地区毎に想定している避難場所までの避難ルートにて、津波到達時間及び土砂災害リスクを確認し避難ルートを再検討。
オープンデータ化 情報発信	-

■ KPI

KPI	目標設定	達成状況
38地区全ての区長へ説明を実施し、避難計画の見直し案作成	見直し案5か所以上作成 (R7年度)	8案件 (R7年度)
2D紙ハザードマップと3DMAPハザードマップの住民理解度差分比較 (アンケート)	紙のハザードマップでの理解度より3DMAPでの理解度が他2択合計よりも20%以上高いこと (R7年度)	3DMAP選択肢が他選択肢よりも44%高い結果 (R7年度)
地域の災害リスクについての理解	85% (R8年度)	R8年度測定予定

分野	人口規模	面積規模	予算規模
防	1万未満	100 - 200	1 - 2千

■ ユースケース開発成果イメージ図



災害リスクの重ね合わせ

津波と土砂災害を重ね合わせて表示することで複数リスクを可視化



住民説明会の様子

町内各地区にて3DMAPを用いたハザードリスクと避難路確認を実施

■ 得られた知見や今後の展望

- 3DMAPでのハザードマップ住民説明会にて、各地区の防災倉庫、各人の想定する避難路、の津波浸水リスク確認を実施。防災倉庫は1ヶ所浸水リスクが判明し次年度以降の移設を予定。一部の住民は当初想定避難場所までの途中で津波遭遇危険性があり、新規避難場所を1ヶ所構築。
- 避難者数が多い避難所のLOD2を推進し、住民の3DMAP上での避難所建物判別を容易にした。
- PLATEAU VIEWハザードマップリンクの広報誌周知を2回実施。引き続き住民周知を継続予定。

Ⅲ. 令和7年度採択団体別 事業内容

4.1. 島根県松江市

■ 団体基礎情報・プロジェクト全体像

人口	約19.8万人（令和5年1月時点）
市域全域面積	約573km ² （令和5年1月時点）
目標	DX推進による魅力ある都市デザインの推進と市民サービスの向上
課題	<ul style="list-style-type: none"> 都市計画業務の効率化・高度化 まちづくりにおける市民の合意形成や理解度の向上

■ 令和7年度スケジュール



分野	人口規模	面積規模	予算規模
街	15万以上	500以上	1千未満

担当部局	都市政策課
------	-------



■ 補助事業実施項目

事前調査等	—
3D都市モデル整備・更新	—
ユースケース開発	<ul style="list-style-type: none"> 3D都市モデルを活用した景観基準確認システム構築事業 3D都市モデルを活用した新たな土地利用制度検討事業 v2.0
推進事業	—

総事業費	105.12（百万円）※うちR7年度5.117（百万円）
R7年度補助額	0.635（百万円）
補助対象外の関連事業	—

オープンデータ化・可視化・情報発信	—
-------------------	---

R7年度委託事業者	株式会社シナスタジア（ユースケース開発） 株式会社地域計画建築研究所（ユースケース開発）
-----------	---

Ⅲ. 令和7年度採択団体別 事業内容

4.1. 島根県松江市

■ 3D都市モデル整備状況（基本セット） ※赤字：R7補助対象地物

LOD	整備地物	対象区域	整備面積	整備年度
LOD1	建築物 交通（道路） 都市計画決定情報 土地利用 災害リスク（洪水、土砂、津波、 内水・高潮） 地形	松江市域全域	572.96km ²	R6年度新規
LOD2	建築物	中心市街地及びその周辺	3.54km ²	R6年度新規

■ 3D都市モデル整備状況（基本セット以外） ※赤字：R7補助対象地物

LOD	整備地物	対象区域	整備面積	整備年度
LOD3.3	建築物	松江城	1棟	R6年度新規
LOD2.1	橋梁	松江市を象徴する橋梁	4本	R6年度新規
LOD3.0	交通（道路）	松江市を象徴する橋梁上の道路	4本	R6年度新規

項目	活用したデータ	作成年度	地図情報レベル
平面図	新規作成	R6年度	2,500
	都市計画基本図（修正）	R3～6年度	2,500
	基盤地図情報（都市計画区域外）	R6年度更新	2,500
測量成果	既存資料（航空写真）	R4年度	1,000
	既存資料（航空レーザー）	R3年度	その他
	UAVレーザー測量データ（松江城）	R6年度予定	200点/m ²
	LidarSLAMデータ（松江城）	R6年度予定	400点/m ²
属性情報	都市計画基礎調査（既存）	H30年度	2,500
	都市計画決定情報	～R3年度	2,500
	建築計画概要書	—	—
	地適正化計画	H30年度	2,500

分野	人口規模	面積規模	予算規模
街	15万以上	500以上	1千未満

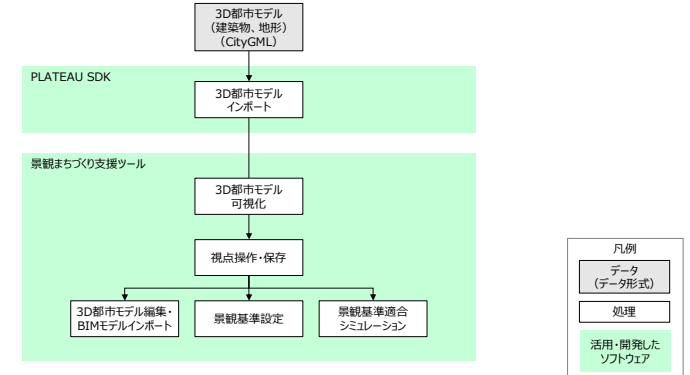


PLATEAU
by MLIT

■ ユースケース概要①

テーマ	都市計画・まちづくり
ユースケース名称	3D都市モデルを活用した景観基準確認システム構築事業
目的	松江市では、令和7年1月1日から、より景観に配慮した建築物などへの誘導が行えるよう、計画に反映できる早期の段階から事業者と積極的に協議・調整を行う「松江市景観事前協議制度」を創設した。より効率的に協議を行えるよう、3D都市モデルを活用する。
取組内容	<ul style="list-style-type: none"> 中高層建築物を建築する事業者から事前協議の申出を受けた際、3Dビューワ上で建築予定地に建物モデルを配置し建築後の景観への影響を可視化する。 可視化した建築物の高さが景観基準に適合しているかの判断に活用する。 職員は現地に行かずに判断できるため、業務効率化につながる。 その他、見通し解析や建物の色彩などの景観基準に適合できているかの判断にも活用する。

■ システム構成図



Ⅲ. 令和7年度採択団体別 事業内容

4.1. 島根県松江市

■ ユースケース開発方法

活用データ (3D都市モデル)	<ul style="list-style-type: none"> 建築物LOD1, LOD2, LOD3.3 交通（道路）モデルLOD3.0 橋梁モデルLOD2.1
活用データ (上記以外)	<ul style="list-style-type: none"> PLATEAU-Terrain（地形メッシュ） 地理院タイル（地形テクスチャ） <ul style="list-style-type: none"> ○ 全国最新写真（シームレス） ○ 全国ランドサットモザイク画像 ○ 世界衛星モザイク画像 松江城からの眺望基準（稜線、嫁が島の水際線データ） 松江城を眺望する視点場、眺望対象の高さ、制限範囲基準
ユースケース 開発方法	<ul style="list-style-type: none"> 景観基準確認システムの開発。 システムにBIMモデルデータをインポートするなどして、事業者との事前協議で活用。 システムに3D都市モデルをインポート。 景観基準データを重畳。
政策・事業での 活用	<ul style="list-style-type: none"> 景観事前協議において、本システムで以下3点の基準を満たしているか確認しながら、事業者と調整・協議を行う。 <ol style="list-style-type: none"> ①松江城からの眺望 ②高さ制限 ③視点場からの眺望
オープンデータ化 情報発信	-

■ KPI

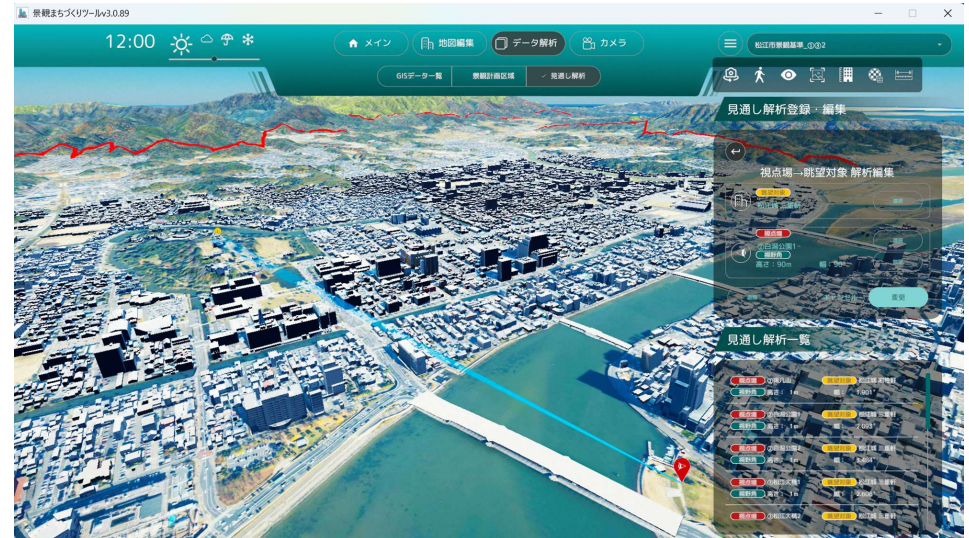
KPI	目標設定	達成状況
景観関連部署において景観基準確認システム研修を実施し、システムの利用が事業者との景観事前協議において有効であると回答した職員の割合。（%）	70% (R7年度)	100% (R7年度)

分野	人口規模	面積規模	予算規模
街	15万以上	500以上	1千未満



PLATEAU
by MLIT

■ ユースケース開発成果イメージ図



景観基準確認システム

松江市景観計画で定める松江市景観計画区域における基準等についてシステムに設定した。

■ 得られた知見や今後の展望

- 事業者や職員の負担を軽減しつつイメージを共有できるため、協議がスムーズに行えることが期待される。
- 今後窓口でシステムを使いながら、より現実的で使い勝手のよいシステムにしていきたい。

Ⅲ. 令和7年度採択団体別 事業内容

4.1. 島根県松江市

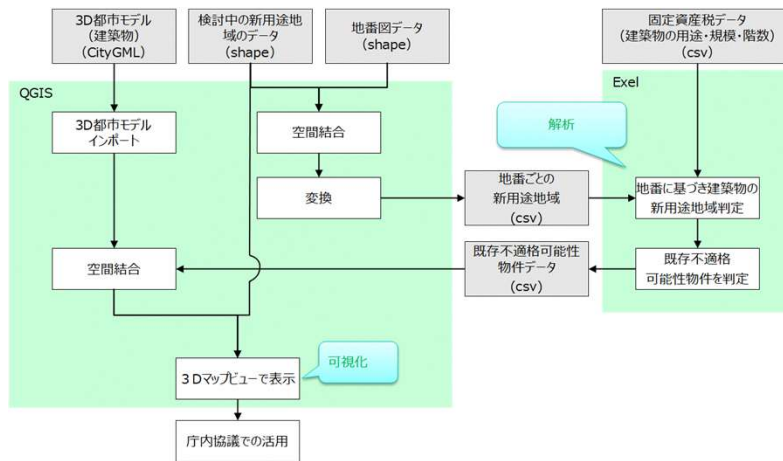


PLATEAU
by MLIT

■ ユースケース概要②

テーマ	都市計画・まちづくり
ユースケース名称	3D都市モデルを活用した新たな土地利用制度検討事業v2.0
目的	松江市が検討を進めている新たな土地利用制度について、3D都市モデルを用いて複雑な都市の情報をわかりやすくビジュアライズすることで、合意形成や市民理解を促進するもの。
取組内容	<ul style="list-style-type: none"> 松江市の土地利用制度検討の大きなポイントである市街地の密度構造、現在の都市計画上の課題・変更の意図などをわかりやすく伝えるためには、平面図などの図表による表現より3Dを活用した表現が望ましい。 土地利用制度見直しによる効果など具体イメージをもって理解してもらうため、3D都市モデルを加工することにより、将来のまちの姿を作成し、市民に対して具体的なまちの変化に対する認識の共有を図る。

■ システム構成図



分野	人口規模	面積規模	予算規模
街	15万以上	500以上	1千未満

■ ユースケース開発方法

活用データ(3D都市モデル)	建築物LOD1 (名称、計測高さ、)
活用データ(上記以外)	<ul style="list-style-type: none"> 都市計画情報の各種データ 固定資産税データ
ユースケース開発方法	<ul style="list-style-type: none"> 対象エリアの土地利用転換予測モデルの作成。 開発したツールに3D都市モデルをインポート。 都市計画情報データ・航空写真データを重畳。
政策・事業での活用	<ul style="list-style-type: none"> 検討状況の理解促進のために内部議論に活用。 想定される複数の土地利用制度毎に、採用した際の将来像イメージを作成し、制度の見直しによる効果など具体的なイメージを示す。
オープンデータ化情報発信	-

■ KPI

KPI	目標設定	達成状況
土地利用転換予測モデルの活用が新たな土地利用制度の検討において制度設計作業に有効と回答した職員の割合。	70% (R7年度)	100% (R7年度)

Ⅲ. 令和7年度採択団体別 事業内容

41. 島根県松江市

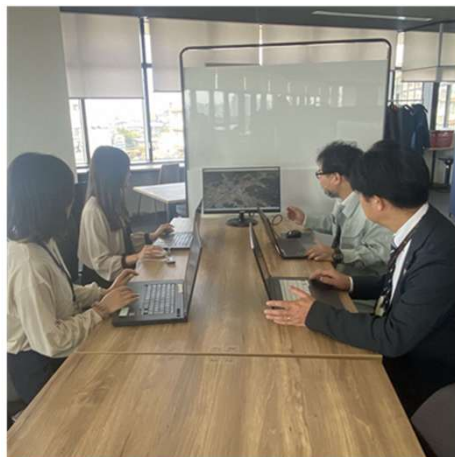
分野	人口規模	面積規模	予算規模
街	15万以上	500以上	1千未満

■ ユースケース開発成果イメージ図



QGIS上で作成モデルを表示

作成したモデルを都市計画情報等と重ねて表示するため、QGISを使用



内部研修会開催の様子

作成したモデルの目的や内容について内部研修会を行い、課題点や今後の展開について議論した

■ 得られた知見や今後の展望

- 今回は新たな土地利用制度における既存不適格確認という部分にフォーカスしたモデルを作成した。制度の変化による影響が可視化されたことにより、より具体的な議論をすることができた。
- 今後は市民理解を得るために活用できるよう展開していきたい。

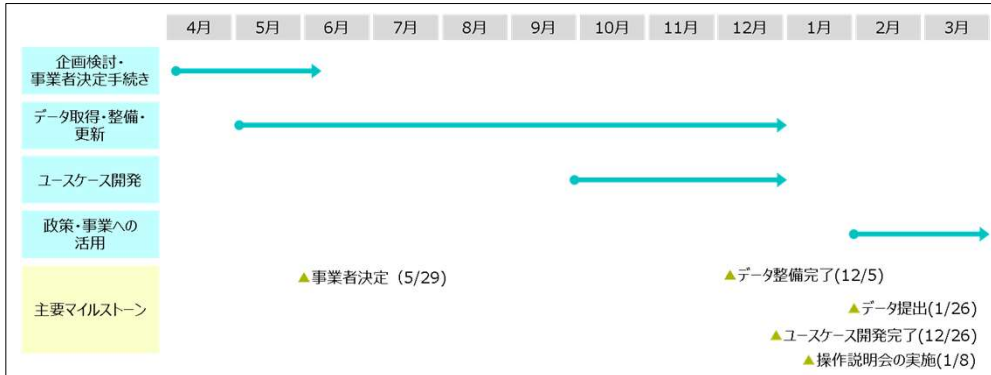
Ⅲ. 令和7年度採択団体別 事業内容

42. 岡山県津山市

■ 団体基礎情報・プロジェクト全体像

人口	約9.8万人（令和5年1月時点）
市域全域面積	約506km ² （令和5年1月時点）
目標	城下町津山にふさわしい歴史・文化にあふれた魅力ある都市景観の保全と活用
課題	<ul style="list-style-type: none"> 市街地の拡散と人口減少による中心市街地の低未利用地が増加している。空き店舗や空き地により、町並みの連続性や賑わいが失われている状況もみられるため、城下町らしい風情と活気あるまちの形成が求められる。 中心市街地では周囲との調和が取れていない屋外広告物や、市街地からの眺望を妨げる工作物等の景観阻害要因が見られる。また、津山城跡への眺望を妨げる屋外広告物や工作物が見られる。 中心市街地活性化基本計画との連動により都市計画（立地適正化計画、防災計画等）の高度化や可視化が求められている。

■ 令和7年度スケジュール



分野	人口規模	面積規模	予算規模
街	5-15万	500以上	1-2千

担当部局	都市計画課
------	-------



■ 補助事業実施項目

事前調査等	資料収集整理
3D都市モデル整備・更新	3D都市モデル整備事業（LOD1、LOD2）
ユースケース開発	津山城跡（鶴山公園）周辺の景観まちづくり事業
推進事業	3D都市モデルのオープンデータ、メタデータ作成等

総事業費	10.000（百万円） ※うちR7年度10.000（百万円）
R7年度補助額	10.000（百万円）
補助対象外の関連事業	—

オープンデータ化・可視化・情報発信	<ul style="list-style-type: none"> G空間情報センターへの掲載【3D都市モデル／関連データ】 PLATEAU VIEWへの掲載【3D都市モデル／関連データ】
-------------------	---

R7年度委託事業者	株式会社パスコ岡山支店 （事前調査等、3D都市モデル整備・更新、ユースケース開発、推進事業）
-----------	---

Ⅲ. 令和7年度採択団体別 事業内容

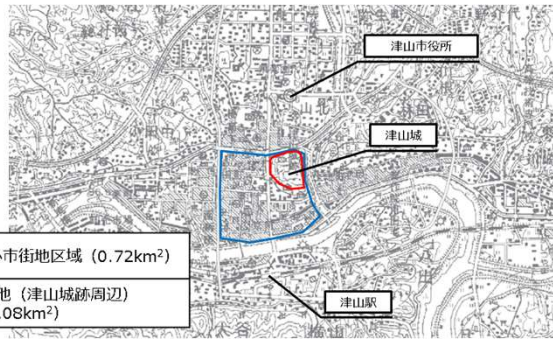
42.岡山県津山市

■ 3D都市モデル整備状況（基本セット）

※赤字：R7補助対象地物

LOD	整備地物	対象区域	整備面積	整備年度
LOD1	建築物 交通（道路） 都市計画決定情報 土地利用 災害リスク 地形	中心市街地区域	0.72km ²	R7年度新規
LOD2	建築物	その他（津山城跡周辺）	0.08km ² 50棟	

■3D都市モデル整備エリア図



	LOD1（建築物、交通（道路）、都市計画決定情報、土地利用、災害リスク、地形）	中心市街地区域（0.72km ² ）
	LOD2（建築物）	その他（津山城跡周辺）（0.08km ² ）

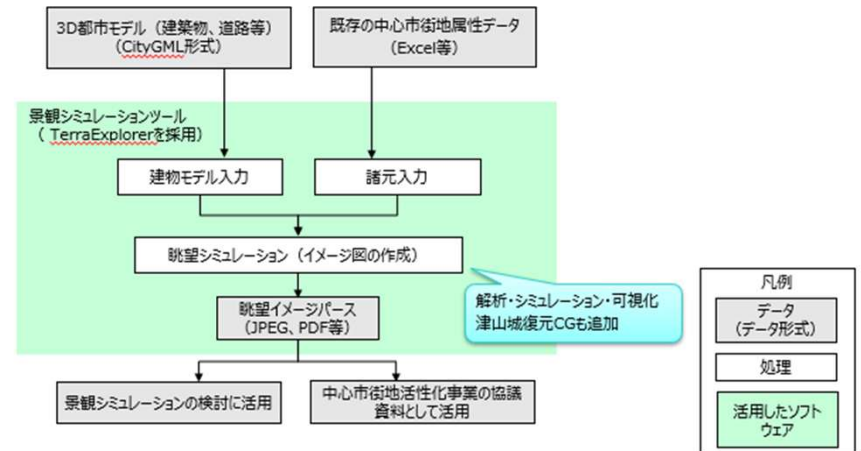
項目	活用したデータ	作成年度	地図情報レベル
平面図	都市計画基本図（既存）	R4年度	2,500
測量成果	既存資料（航空写真）	R2年度	2,500
属性情報	都市計画基礎調査（既存）	R5年度	—

分野	人口規模	面積規模	予算規模
街	5-15万	500以上	1-2千

■ ユースケース概要

テーマ	都市計画・まちづくり
ユースケース名称	津山城跡（鶴山公園）周辺の景観まちづくり事業
目的	景観まちづくりによる津山城跡周辺の良い景観の保全・形成
取組内容	景観まちづくりによる津山城跡周辺の良い景観の保全・形成を目指し、津山城跡周辺の建築物を3D都市モデル上で表現し、3次元的に可視化することで、開発のコントロール（高さ制限、屋外広告物等）を図る。民間企業や市民が公共データを活用して政府・自治体の政策等を分析、判断することで計画の高度化や可視化を図る。また、関連計画でもある「中心市街地活性化基本計画」では住民の合意形成の効率化や透明化を図る。

■ システム構成図



Ⅲ. 令和7年度採択団体別 事業内容

42. 岡山県津山市

■ ユースケース開発方法

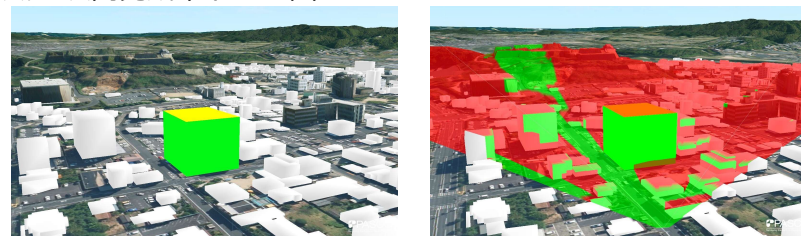
活用データ (3D都市モデル)	建築物LOD1, LOD2 (建築物形状、計測高さ、地上階数)
活用データ (上記以外)	津山城復元CGデータ
ユースケース 開発方法	<ul style="list-style-type: none"> 整備した3D都市モデルデータを景観シミュレーションツールに読み込み、景観シミュレーション機能の性能について検証を行い、実業務にて活用可能か確認する。 課内でシステム内容の共有を行い、問題点や改善点があれば意見聴取を行う。
政策・事業での 活用	<ul style="list-style-type: none"> 津山城跡（鶴山公園）からの景観や城の石垣等城下町からの眺望を保全する。また、歩行者目線でのまちなみの検証に活用する。 津山城復元CGデータを3D都市モデルに取り込むことで、津山城跡地の歴史的な景観を復元し、新たな景観検討視点として活用する。 景観シミュレーション結果を活用し、景観計画等における開発のコントロール（高さ制限、屋外広告物等）指標として活用する。
オープンデータ化 情報発信	—

■ KPI

KPI	目標設定	達成状況
景観シミュレーションによる検討作業時間の削減（時間/1件あたり）	12時間削減 (R7年度)	R8年度以降 計測予定
中心市街地活性化事業における景観ツールが有用と感じる人の割合	80% (R7年度)	81.8% (R7年度)

分野	人口規模	面積規模	予算規模
街	5-15万	500以上	1-2千

■ ユースケース開発成果イメージ図



視点場による景観シミュレーション

建物の高さや配置などの任意設定や視点場を設け眺望をシミュレーションできるため、景観協議での活用や歩行者目線でのまちなみ検証に活用する。



津山城復元CGデータの活用による可視化

津山城跡地の歴史的景観を復元し、新たな景観検討視点として活用する。

■ 得られた知見や今後の展望

- データの汎用性が高く、まちづくりに限らずアイデア次第で活用の幅が広い。また、データの視認性や可視化性能が大きく向上したと感じる。特に2D図面を見慣れていない住民の方々に説明する場では活用効果が期待できる。
- 景観協議や中心市街地事業等でシミュレーションツールを活用し、3D都市モデル整備に関する理解を深め、さらなる利活用の可能性を模索したい。また、整備範囲の拡充（用途区域若しくは都市計画区域）を検討したい。

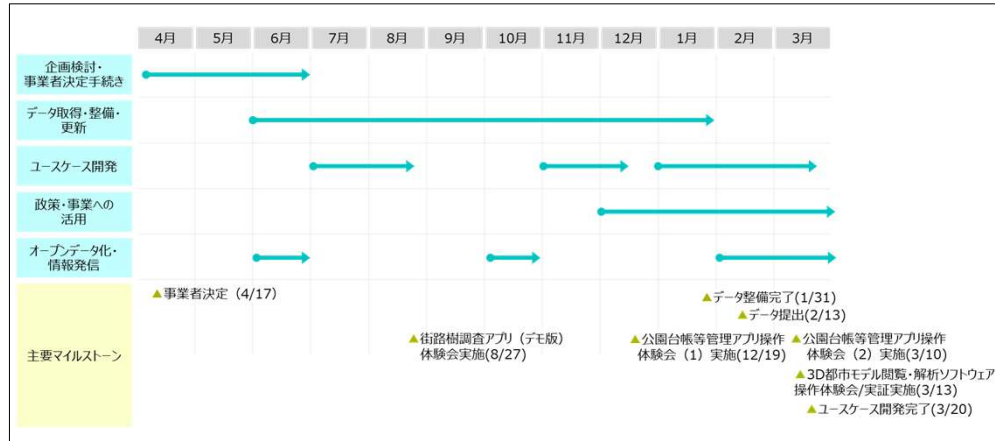
Ⅲ. 令和7年度採択団体別 事業内容

43.岡山県岡山市

■ 団体基礎情報・プロジェクト全体像

人口	約70.2万人（令和5年1月時点）
市域全域面積	約790km ² （令和5年1月時点）
目標	<ul style="list-style-type: none"> 3D都市モデルの活用による安全・安心で利便性が高く、快適に暮らせる地域の形成 3D都市モデルを活用した緑化施策の推進による良好な都市景観の形成
課題	<ul style="list-style-type: none"> 作成からの時間経過による施設台帳の老朽化、現況との不整合が発生している。 各種台帳が別々に存在することから、任意地点の管理施設の把握に多大な時間を要している。 緑の基本計画に基づく各種施策の企画立案、実行、評価の際に、必要なデータの収集・解析等に多大な時間を要している。

■ 令和7年度スケジュール



分野	人口規模	面積規模	予算規模
街・環	15万以上	500以上	5-10千

担当部局	庭園都市推進課
------	---------



■ 補助事業実施項目

事前調査等	—
3D都市モデル整備・更新	ユースケース開発に伴う3D都市モデル整備事業
ユースケース開発	3D都市モデルを活用した管理施設の可視化及び緑化施策の実施・評価の効率化事業
推進事業	—

総事業費	125.000（百万円）※うちR7年度95.000（百万円）
R7年度補助額	47.500（百万円）
補助対象外の関連事業	—

オープンデータ化・可視化・情報発信	<ul style="list-style-type: none"> G空間情報センターへの掲載【3D都市モデル】 PLATEAU VIEWへの掲載【3D都市モデル】 岡山市ホームページ
-------------------	--

R7年度委託事業者	<ul style="list-style-type: none"> 国際航業株式会社（3D都市モデル整備・更新、ユースケース開発） Pacific Spatial Solutions株式会社（3D都市モデル整備・更新、ユースケース開発） 株式会社サンワコン（ユースケース開発）
-----------	--

Ⅲ. 令和7年度採択団体別 事業内容

43.岡山県岡山市

■ 3D都市モデル整備状況（基本セット） ※赤字：R7補助対象地物

LOD	整備地物	対象区域	整備面積	整備年度
LOD1	建築物 交通（道路） 災害リスク 地形	岡山市全域	789.95km ²	R6年度新規
	都市計画決定情報 土地利用	都市計画区域	586.00km ²	
LOD2	建築物	岡山市都心地区	3.83km ²	

■ 3D都市モデル整備状況（基本セット以外） ※赤字：R7補助対象地物

LOD	整備地物	対象区域	整備面積	整備年度
LOD3	交通（道路）	街路樹再生プログラム（第1期）（第2期）の道路	15路線・約16km	R7年度新規
LOD0	植生	岡山市全域にある街路樹	約400路線・60,502本	
LOD3	植生	街路樹再生プログラム（第1期）の街路樹	7路線・約11km・1,131本	
		下石井公園の一部	96本	
LOD3	都市設備	下石井公園の一部	109施設	
LOD1	区域	都市公園法における都市公園の区域 遊園地及び都市計画区域 外公園の区域	465公園 889遊園地、10公園	

項目	活用したデータ	作成年度	地図情報レベル
平面図	数値地形図（DMデータ）（既存）	R7年度	2,500
測量成果	既存資料（航空写真）	R5年度	1,000
測量成果	車載写真レーザ測量	R7年度	500
測量成果	LidarSLAM技術を用いた測量	R7年度	500

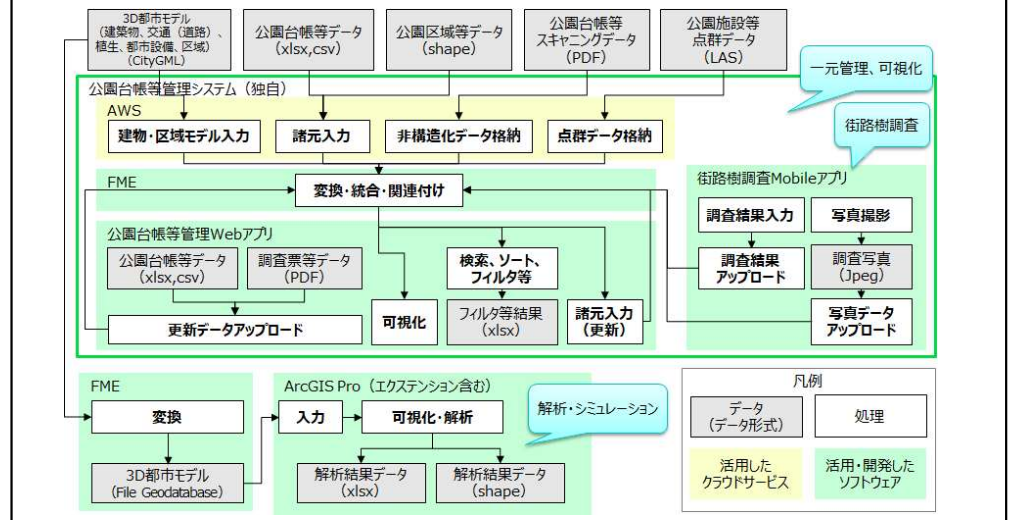
分野	人口規模	面積規模	予算規模
街・環	15万以上	500以上	5-10千



■ ユースケース概要

テーマ	都市計画・まちづくり／環境・エネルギー
ユースケース名称	3D都市モデルを活用した管理施設の可視化及び緑化施策の実施・評価の効率化事業
目的	3D都市モデルを活用し、施設の効率的な管理及び緑化施策の効果的な推進を図ることにより、安全・安心で利便性が高く、快適に暮らせる地域及び良好な都市景観を形成することを目的とする。
取組内容	施設の老朽化と現況との不整合、複数台帳の存在による管理施設の把握の非効率性、及び緑化施策におけるデータ収集・解析の煩雑さという課題があるため、街路樹・公園等の管理施設データ及び緑化施策に関するデータを3D都市モデルが扱えるGIS上で統合・可視化し、施設管理の効率化及び緑化施策の企画立案、実行、評価プロセスの迅速化・効率化に活用する。

■ システム構成図



Ⅲ. 令和7年度採択団体別 事業内容

43. 岡山県岡山市

■ ユースケース開発方法

活用データ (3D都市モデル)	<ul style="list-style-type: none"> 区域LOD1 (名称、区域の種類) 植生LOD3 (分類、幹径、樹高、樹冠径、機能) 植生LOD0 (分類) 都市設備LOD3 (モデル形状) 道路LOD3 (モデル形状) 建築物LOD1 (モデル形状)
活用データ (上記以外)	<ul style="list-style-type: none"> 航空写真 (レベル1000) 点群データ (レベル500)
ユースケース 開発方法	<p>岡山市内の公園・遊園地区域及び街路樹を3D都市モデルで可視化し、整備した3D都市モデルと連携するRDBMS (関係データベース管理システム) を構築し、公園台帳等のデジタル化データを一元的に管理するシステムを構築。</p> <ul style="list-style-type: none"> 既存又は本事業内で整備する3D都市モデル (CityGML) を本事業で開発する「公園台帳等管理システム」で活用できる形式 (3D Tiles) にFMEを活用して変換。 既存又は本事業内で整備する3D都市モデル (CityGML) を「3D都市モデル閲覧・解析ソフトウェア」で活用できる形式 (FGDB) にFMEを活用して変換。 2D/3Dモデル及び公園台帳等情報をWebブラウザで閲覧・一元管理可能なWebアプリケーションを開発。 システム内で運動し、街路樹調査 (現地調査) を支援するMobileアプリ (デモ版) を開発し、実証。 Webアプリケーションを用いた台帳等基本情報閲覧・管理により、RDBMSの動作の正確性を確認及び導入の妥当性を確認。 3D都市モデル閲覧・解析ソフトウェアとして「ArcGIS Pro」を導入し、3D都市モデルを変換したFGDBを用いて、日影解析等の解析機能を実証。 公園台帳等管理システム及び3D都市モデル閲覧・解析ソフトウェアについて、利用予定ユーザーに対して、操作説明会及び意見交換を3回実施 (12月、3月) し、優先度が高い改良点をシステムに反映。 利用予定ユーザーに対してアンケート調査を実施し、システム導入効果等を定量・定性評価。 本事業で作成する3D都市モデルについて、PLATEAU VIEWへ搭載し、G空間情報センターへ掲載。 PLATEAU VIEWへのリンク、G空間情報センターでの掲載先リンク、及びイメージを市ホームページに掲載し、取組内容について説明し情報公開。

分野	人口規模	面積規模	予算規模
街・環	15万以上	500以上	5-10千



政策・事業での活用	<ul style="list-style-type: none"> 3D都市モデル閲覧・解析ソフトウェアの導入により、3D都市モデルを用いた日影解析等の具体的な管理・計画支援機能を実証する。 本事業の実施により、「紙ベースからデジタル管理手法への移行」を実現し、公園等管理業務の効率化や緑化施策の高度化を推進する。
オープンデータ化 情報発信	<ul style="list-style-type: none"> G空間情報センターへの掲載 PLATEAU VIEWへの掲載

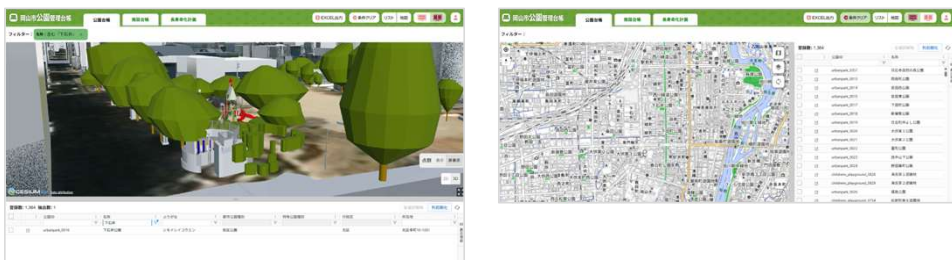
■ KPI

KPI	目標設定	達成状況
公園台帳等管理システムを用いることにより、情報収集作業が効率化されると感じた職員の割合	70% (R7年度)	93% (R7年度)
公園台帳等管理システムを用いることにより、情報更新作業が効率化されると感じた職員の割合	70% (R7年度)	73% (R7年度)
3D都市モデル閲覧・解析ソフトウェアを用いることにより、緑化施策の実施・評価の作業時間が効率化できると感じる職員の割合	70% (R7年度)	80% (R7年度)

Ⅲ. 令和7年度採択団体別 事業内容

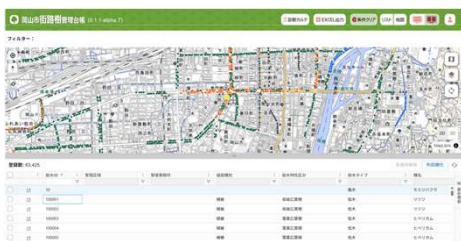
43.岡山県岡山市

■ ユースケース開発成果イメージ図



公園管理台帳アプリによる情報閲覧

Webアプリにより、公園等基礎情報、公園台帳・施設台帳情報、長寿命化計画情報を閲覧、また、一部公園施設モデルを高LODで整備し、閲覧



街路樹管理台帳アプリによる情報閲覧

Webアプリにより、街路樹位置を俯瞰し、街路樹基本情報閲覧

分野	人口規模	面積規模	予算規模
街・環	15万以上	500以上	5-10千

■ ユースケース開発成果イメージ図



街路樹調査アプリ（デモ版）及び公園・街路樹管理台帳アプリの周知・意識醸成体験説明会を複数実施し、意識醸成

■ 得られた知見や今後の展望

本事業を通じ、3D都市モデルと公園台帳等のデジタル化データを一体的に管理することで、公園区域、台帳情報及び関連資料を分かりやすく把握でき、公園等管理業務の効率化及び緑化施策の高度化に有効であることを確認した。また、街路樹調査アプリ（デモ版）及び操作説明会等を通じて、現地確認から情報共有までの業務フローをデジタル化する有効性と、庁内展開に向けた具体的な活用イメージを得た。今後は、3D都市モデル閲覧・解析ソフトウェアも活用した解析等の管理・計画支援機能の活用を進めるとともに、庁内の幅広い課で様々な分野への活用を検討する。

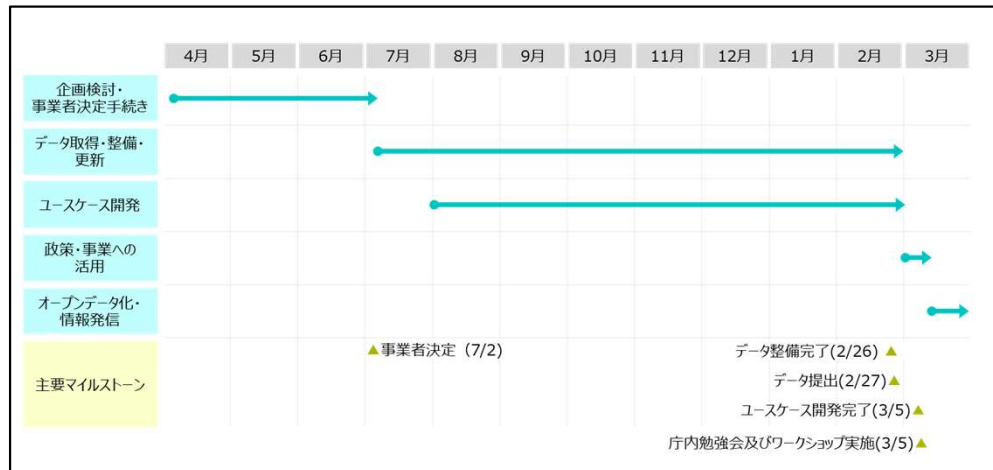
Ⅲ. 令和7年度採択団体別 事業内容

44. 広島県海田町

■ 団体基礎情報・プロジェクト全体像

人口	約3.1万人（令和5年1月時点）
市域全域面積	約14km ² （令和5年1月時点）
目標	第5次海田町総合計画の地区別計画に掲げる海田地区の将来像である『～歴史・文化の継承とさらなるにぎわいを創出するまちづくり～』形成の実現に向けて、海田市駅周辺の拠点性の向上と地域資源を活かしたにぎわいづくりを推進するとともに、町民、事業者及び行政の適切な役割分担と協働（パートナーシップ）により、総合的な取組を図ること。
課題	<ul style="list-style-type: none"> 中心拠点内では商業・業務等による都市機能が集積されているが、滞在時間が短く、回遊がほとんど見られない状況である。 旧千葉家住宅や日浦山等の地域資源を保存するとともに、各施設等とのネットワークを形成することによる賑わいの創出が求められている。

■ 令和7年度スケジュール



分野	人口規模	面積規模	予算規模
街	3-5万	50未満	1-2千

担当部局	まちデザイン課
------	---------



■ 補助事業実施項目

事前調査等	3D都市モデルの整備範囲や整備内容等の検討事業
3D都市モデル整備・更新	<ul style="list-style-type: none"> 都市計画基本図・都市計画情報更新 3D都市モデル整備事業（LOD1、LOD2）
ユースケース開発	3D都市モデルを活用したまちづくり都市計画立案への活用事業
推進事業	PlateauViewと庁内型3Dシステムへのデータ搭載

総事業費	19.998（百万円）※うちR7年度19.998（百万円）
R7年度補助額	9.999（百万円）
補助対象外の関連事業	—

オープンデータ化・可視化・情報発信	<ul style="list-style-type: none"> G空間情報センターへの掲載【3D都市モデル／関連データ／UCデータ】 PLATEAU VIEWへの掲載【3D都市モデル／関連データ／UCデータ】 海田町ホームページ
-------------------	--

R7年度委託事業者	国際航業(株) （事前調査、3D都市モデルの整備・更新、ユースケース開発、推進事業）
-----------	---

Ⅲ. 令和7年度採択団体別 事業内容

44. 広島県海田町

■ 3D都市モデル整備状況（基本セット）

※赤字：R7補助対象地物

LOD	整備地物	対象区域	整備面積	整備年度
LOD1	建築物 地形	海田町全域	13.79km ²	R3年度新規
	災害リスク（洪水、土砂、津波、内水・高潮）			R6年度新規
	交通（道路） 土地利用	市街化区域	5.51km ²	R6年度新規
	都市計画決定情報			R6年度新規 R7年度更新
LOD2	建築物	中心拠点 海田市駅周辺	12棟 286棟	R6年度新規 R7年度拡充

■ 3D都市モデル整備状況（基本セット以外）

※赤字：R7補助対象地物

LOD	整備地物	対象区域	整備面積	整備年度
LOD2	都市設備	塀	2棟	R7年度新規

項目	活用したデータ	作成年度	地図情報レベル
平面図	数値地形図（DMデータ） （修正）	R7年度	2,500
測量成果	既存資料（航空写真）	R6年度	1,000
属性情報	都市計画基礎調査（既存）	R3年度	—

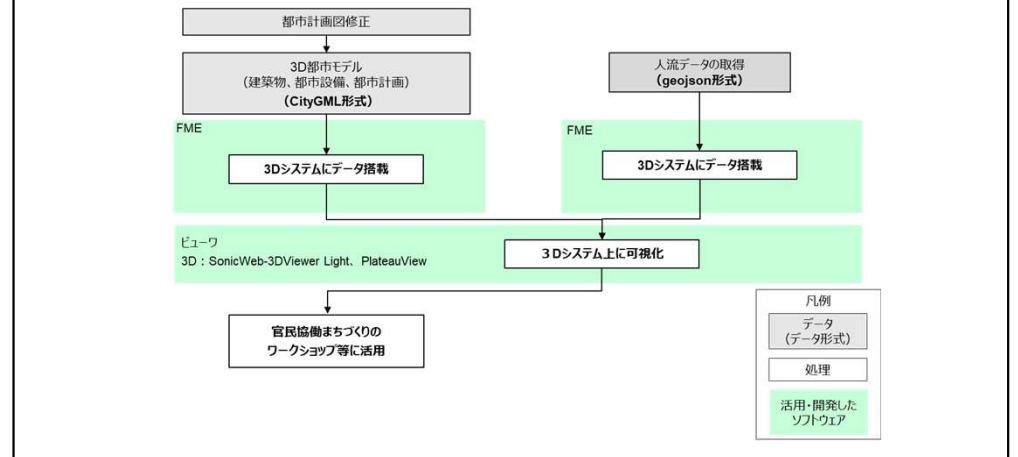
分野	人口規模	面積規模	予算規模
街	3-5万	50未満	1-2千



■ ユースケース概要

テーマ	都市計画・まちづくり
ユースケース名称	3D都市モデルを活用したまちづくり都市計画立案への活用事業
目的	住民参加型ワークショップ等で行政と町民や事業者等とのコミュニケーション活性化を図る。
取組内容	地域資源を活かしたにぎわいづくりを推進するため、3D都市モデル（西国街道の街並み（建築物に加え一部塀（都市設備）を整備）と人流データを一元表示するビューワを活用した住民参加ワークショップを実施する。歩いて楽しむ拠点づくりについて、町民、事業者及び行政の適切な役割分担のもと、協働（パートナーシップ）によるまちづくりを推進するためのツールとして3D都市モデルを活用し、関係者との合意形成を図る。

■ システム構成図



Ⅲ. 令和7年度採択団体別 事業内容

44. 広島県海田町

■ ユースケース開発方法

活用データ (3D都市モデル)	<ul style="list-style-type: none"> 建築物LOD2.0 都市設備LOD2.0 ※塀 都市計画決定情報LOD1.0
活用データ (上記以外)	<ul style="list-style-type: none"> 数値地形図データ 人流データ (Agoop「マチレポ」、Azira社) 2024年に撮影したオルソデータ
ユースケース 開発方法	<ul style="list-style-type: none"> 対象区域の3D都市モデルを既存の3Dシステム (ビューワ) で活用できるように3D都市モデルデータ変換ツール等を用いてジオデータベースに変換する。 既存の庁内用3Dシステム上にデータを搭載する。 変換した3D都市モデルと人流データを重畳する。 データ搭載の結果、3D都市モデルと人流データをそれぞれ可視化する。
政策・事業での 活用	<ul style="list-style-type: none"> 3D都市モデルと人流データを可視化したものをワークショップ時に活用し、空間イメージの共有を図る。 まちづくりの関係者が円滑なコミュニケーションを図れるように、可視化したデータを用いたワークショップを実施することで、官民協働のまちづくりを推進する。
オープンデータ化 情報発信	<ul style="list-style-type: none"> G空間情報センターへの掲載 PLATEAU VIEWへの掲載

■ KPI

KPI	目標設定	達成状況
可視化によるまちづくりについての町民等の理解度	85% (R7年度)	88% (R7年度)
可視化されたことで円滑なコミュニケーションが図れたと感じた町民等の割合	80% (R7年度)	84% (R7年度)

分野	人口規模	面積規模	予算規模
街	3-5万	50未満	1-2千

■ ユースケース開発成果イメージ図



昨年度から継続して整備を進めてきた3D都市モデル及び人流データを周知するとともに、西国街道を中心としたVRイメージを作成。これらを協働 (パートナーシップ) によるまちづくりを推進するツールとして活用し、関係者間の合意形成を図ることを目的とした住民参加まちづくりワークショップを3月5日に実施した。

■ 得られた知見や今後の展望

可視化によって、直感的に空間の理解が深まった。特に高齢者にも伝わりやすいことが確認できた。今後も引き続き、協働によるまちづくりを推進するツールとして、3D都市モデルと人流データを活用していきたい。地域住民はもちろんのこと、企業や大学等と連携し、取組みを推進したい。

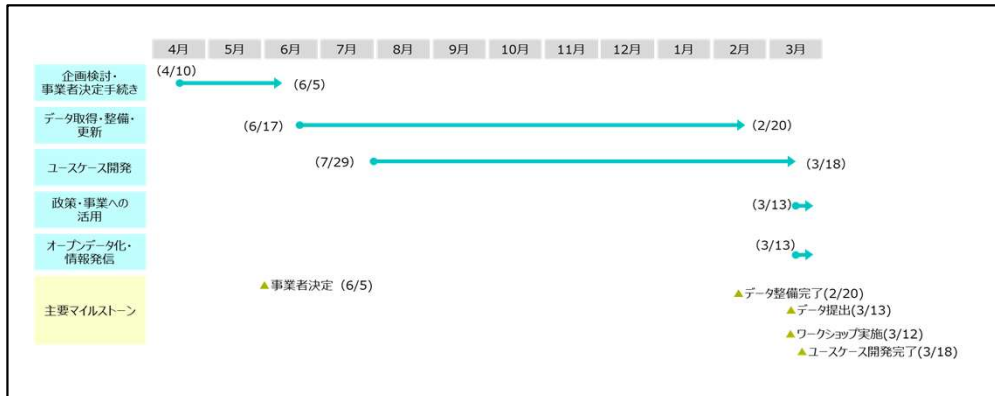
Ⅲ. 令和7年度採択団体別 事業内容

45. 徳島県美波町

■ 団体基礎情報・プロジェクト全体像

人口	約0.6万人（令和5年1月時点）
市域全域面積	約141km ² （令和5年1月時点）
目標	<ul style="list-style-type: none"> 海・山・川の恵みを活かし、知恵と心でつくる町で、住んで良かったと実感できる町を目指す。 そのためには人命の保護が最大限図られるしかりとした基盤が必要であり、南海トラフ巨大地震等の大規模災害を想定し、ハード・ソフト両面の整備を行い、災害に強いまちづくりを進める。
課題	<p>美波町の沿岸地域では、南海トラフ地震に伴う津波のリスクが高く、迅速な避難が必要である。しかし、現状では住民が利用する避難経路が十分に可視化されておらず、緊急時の避難行動に不安がある。</p> <ul style="list-style-type: none"> 災害時に利用する避難施設の配置が住民の居住地や避難経路に対して適切でないケースがある可能性がある。 関係人口創出、移住者誘致等を進めているが、土地勘の無い住民にとって災害時の安全確保に課題がある。 観光客への効果的な情報発信に課題がある。 道路、橋梁、上下水道等の社会資本の管理（ライフライン、燃料供給関連施設、交通ネットワーク等の被害を最小限にとどめるとともに、早期に復旧させる）に課題がある。

■ 令和7年度スケジュール



分野	人口規模	面積規模	予算規模
防	1万未満	100 - 200	1 - 2千

担当部局	総務課 デジタル自治推進室
------	---------------



■ 補助事業実施項目

事前調査等	<ul style="list-style-type: none"> R7年度 美波町都市空間情報デジタル基盤構築業務に関する事前調査（データ確認や現地との整合性調査） 都市計画基本図作成/更新
3D都市モデル整備・更新	<ul style="list-style-type: none"> 3D都市モデル整備（LOD1、LOD2） 品質チェックオープンデータ検査、データセット、CMS登録、各種帳票作成、公共測量申請支援
ユースケース開発	3D都市モデルを活用した災害リスクの可視化事業
推進事業	避難訓練等、防災教育

総事業費	27.500（百万円）※うちR7年度10.000（百万円）
R7年度補助額	10.000（百万円）
補助対象外の関連事業	大学との地域連携事業

オープンデータ化・可視化・情報発信	<ul style="list-style-type: none"> G空間情報センターへの掲載【3D都市モデル/関連データ/UCデータ】 PLATEAU VIEWへの掲載【3D都市モデル/関連データ/UCデータ】 美波町オープンデータサイト Re:Earthでの情報公開
-------------------	--

R7年度委託事業者	エアロトヨタ株式会社 （事前調査、3D都市モデル整備・更新、ユースケース開発、推進事業）
-----------	---

Ⅲ. 令和7年度採択団体別 事業内容

45. 徳島県美波町

■ 3D都市モデル整備状況（基本セット）

※赤字：R7補助対象地物

LOD	整備地物	対象区域	整備面積	整備年度
LOD1	建築物 交通（道路）	美波町都市計画区域、 由岐地区	15.6km ²	R7年度新規
	都市計画決定情報 土地利用 災害リスク(洪水,土砂, 津波,内水・高潮潮)	美波町都市計画区域	15km ²	
	地形	町域全域	141m ²	
LOD2	建築物	美波町都市計画区域	10箇所 町内公共施設	

■ 3D都市モデル整備状況（基本セット以外）

※赤字：R7補助対象地物

LOD	整備地物	対象区域	整備面積	整備年度
LOD2	地下埋設物	美波町都市計画区域	15km ²	R8年度新規
LOD2	橋梁	美波町都市計画区域、 由岐地区	15.6km ²	R8年度新規

項目	活用したデータ	作成年度	地図情報レベル
平面図	数値地形図（DMデータ）（修正）	H19	2,500
測量成果	航空写真	R4	1,000
属性情報	都市計画基礎調査（既存）	H28	—
測量成果	航空写真（地形改変部を新規撮影）	R7	2,500

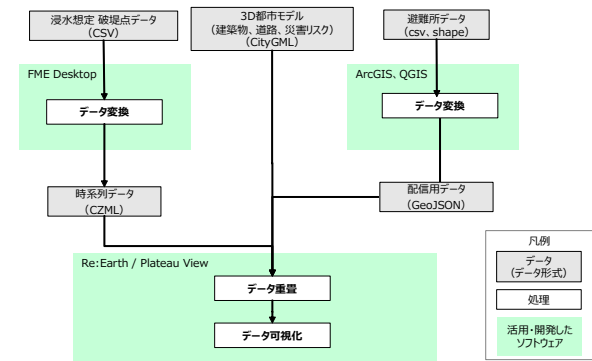
分野	人口規模	面積規模	予算規模
防	1万未満	100 - 200	1 - 2千



■ ユースケース概要

テーマ	防災・防犯
ユースケース名称	3D都市モデルを活用した災害リスクの可視化事業
目的	高潮時（津波時）の水位モニタリングや被災予測による効果的な対応を図る
取組内容	<p>時系列の浸水深及び避難を開始するタイミングに応じた避難ルートを3D都市モデル上で表現し、水害範囲の拡大により避難行動が限定される様子を三次元的に可視化。</p> <p>ライフライン、燃料供給関連施設、交通ネットワーク等の被害を想定し、事前に災害復旧想定をする。</p> <p>これを大学と連携し、メタバースを活用することで、防災教育や、住民の水害に対する意識の啓発や避難行動の変容を促進。</p> <p>美波町HP上のGIS、Re:Earth等を活用し、整備データと美波町保有データ等を組み合わせて運用可能なデータ連携の仕組みを構築する。</p>

■ システム構成図



Ⅲ. 令和7年度採択団体別 事業内容

45. 徳島県美波町

■ ユースケース開発方法

活用データ (3D都市モデル)	<ul style="list-style-type: none"> 建築物LOD1, LOD2 (名称、用途、構造種別、計測高さ、地上階数) 災害リスクLOD1 (洪水浸水想定区域の水面の範囲、浸水深の区分、土砂災害警戒区域の範囲、起こりうる災害の内容)
活用データ (上記以外)	<ul style="list-style-type: none"> 津波シミュレーション時系列データ (徳島大学地震工学研究室提供) 指定避難所情報 (避難所名称、所在地)、備蓄倉庫
ユースケース 開発方法	<ul style="list-style-type: none"> 対象区域の3D都市モデルをWebGISで活用できるように3DTiles形式に変換。 津波シミュレーション時系列データをCZML形式に変換。 避難所情報等はGoogle Spredsheetで管理しスクリプトを用いてGeoJSON形式に変換。 変換した3D都市モデルと、避難場所、備蓄倉庫のデータを重畳表示する。 時系列浸水シミュレーション結果 (今年度、消防や県で公開するシミュレーション結果を使うか、既存の浸水ナビ等のデータを活用するかは、今後検討) を活用し、浸水でデータを可視化。 時系列浸水シミュレーション結果を活用して、防災教材を作成。R8年度活用予定。(大学連携)
政策・事業での 活用	<ul style="list-style-type: none"> 避難場所、備蓄倉庫のデータ等を参考に計画策定等を効率的に実施する。 結果を活用し、美波町3D都市モデル検討会で報告。 結果を美波町公式ホームページ等で公開。 時系列の浸水深及び避難を開始するタイミングに応じた避難ルートを3D都市モデル上で表現し、水害範囲の拡大により避難行動が限定される様子を三次元的に可視化 ライフライン、燃料供給関連施設、交通ネットワーク等の被害を想定し、事前に災害復旧想定をする。 これを大学と連携し、メタバースを活用することで、防災教育や、住民の水害に対する意識の啓発や避難行動の変容を促進。 大学のアプリケーションでの活用、美波町で整備予定のRe : Earth上での可視化を想定する。 都市計画区域内の地下埋設物 (上下水道) を3D都市モデルとして整備する。(R8予定) 地下埋設物と道路や建物など施設の位置情報と災害情報が3D都市モデルとして一元的に管理されることにより、管路の維持管理や、修繕計画の策定、災害発生時の被害箇所の予測などへ活用が期待できる。(R8予定) 地下埋設物の情報をスマートフォンやヘッドマウントディスプレイなどでAR表示することにより、施工時の位置の特定を容易にし、掘削時に誤って既存の管路を損傷するリスクを低減できる。(R8予定)
オープンデータ化 情報発信	<ul style="list-style-type: none"> PLATEAU VIEWへの搭載 G空間情報センターへの掲載

分野	人口規模	面積規模	予算規模
防	1万未満	100 - 200	1 - 2千



PLATEAU
by MLIT

■ KPI

KPI	目標設定	達成状況
作業時間が効率化したと感じる人の割合 ※都市計画立案作業に本ユースケースの成果を活用する予定	70% (R7年度)	100% (R7年度)
地域の災害リスクについての理解	60% (R10年度)	R10年度測定予定
作業時間が効率化したと感じる人の割合	70% (R10年度)	R10年度測定予定
3Dにすることで、従来より理解が深まった割合	60% (R10年度)	R10年度測定予定

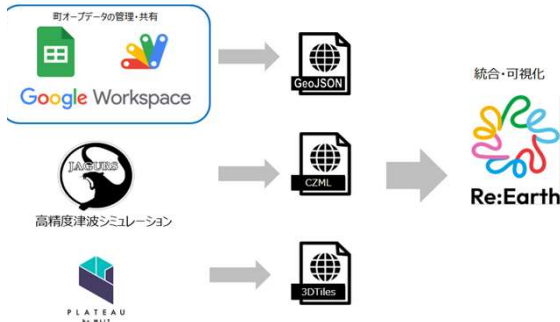
Ⅲ. 令和7年度採択団体別 事業内容

45. 徳島県美波町

■ ユースケース開発成果イメージ図

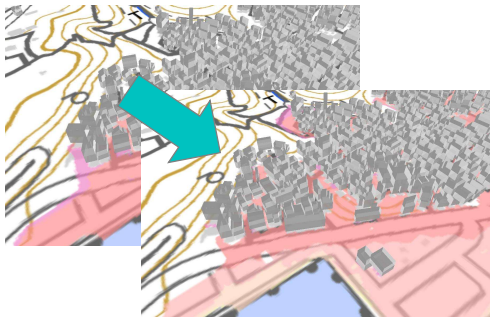
クラウドでのデータ自動更新

美波町の運用するGoogleワークスペース上のSpreadSheetで避難施設や備蓄倉庫などの属性情報を管理し、スクリプトによる自動処理によりGISデータに変換、Re:Earth上で3D都市モデルと統合・可視化を行った。



大学連携

- ・3D都市モデルの建物形状を反映した徳島大学地震工学研究室提供の高解像度の津波シミュレーションデータを可視化
- ・徳島大学の学生・院生を対象としてRe:Earthプラグイン開発講習会を開催し、3D都市モデルを活用できる高度人材を育成（防災×観光の切り口でアプリ発案。Re:Earth上でジオフェンスによるイベント発動、写真投稿機能、リアルタイム音声チャット実装実績等あり）



分野	人口規模	面積規模	予算規模
防	1万未満	100 - 200	1 - 2千



■ ユースケース開発成果イメージ図

地方公共団体	ID	名称	名称_カナ	名称_英字	国地方公共団体	郡市ID	所在地_補注表記	所在地_郡市町村名	所在地_区
36.3871	000000001	伊豫町役所	伊豫町役所	IZU	36.3871	000000001	美波町伊豫町字片山005-5	徳島県	美波町
36.3871	000000002	伊豫町公民館	伊豫町公民館	IZU	36.3871	000000002	美波町伊豫町字片山005-5	徳島県	美波町
36.3871	000000003	伊豫町公民館1階	伊豫町公民館1階	IZU	36.3871	000000003	美波町伊豫町字片山005-5	徳島県	美波町
36.3871	000000004	山田公民館	山田公民館	IZU	36.3871	000000004	美波町伊豫町字山田182	徳島県	美波町
36.3871	000000005	種子伊豫町公民館	種子伊豫町公民館	IZU	36.3871	000000005	美波町伊豫町字山田182	徳島県	美波町
36.3871	000000006	徳島建設事務所	徳島建設事務所	IZU	36.3871	000000006	美波町伊豫町字山田182	徳島県	美波町
36.3871	000000007	町民センター	町民センター	IZU	36.3871	000000007	美波町伊豫町字山田182	徳島県	美波町
36.3871	000000008	伊豫町公民館	伊豫町公民館	IZU	36.3871	000000008	美波町伊豫町字山田182	徳島県	美波町
36.3871	000000009	伊豫町公民館	伊豫町公民館	IZU	36.3871	000000009	美波町伊豫町字山田182	徳島県	美波町
36.3871	000000010	伊豫町小学校	伊豫町小学校	IZU	36.3871	000000010	美波町伊豫町字山田182	徳島県	美波町
36.3871	000000011	伊豫町公民館	伊豫町公民館	IZU	36.3871	000000011	美波町伊豫町字山田182	徳島県	美波町
36.3871	000000012	伊豫町公民館	伊豫町公民館	IZU	36.3871	000000012	美波町伊豫町字山田182	徳島県	美波町
36.3871	000000013	伊豫町公民館	伊豫町公民館	IZU	36.3871	000000013	美波町伊豫町字山田182	徳島県	美波町
36.3871	000000014	伊豫町公民館	伊豫町公民館	IZU	36.3871	000000014	美波町伊豫町字山田182	徳島県	美波町
36.3871	000000015	伊豫町公民館	伊豫町公民館	IZU	36.3871	000000015	美波町伊豫町字山田182	徳島県	美波町
36.3871	000000016	伊豫町公民館	伊豫町公民館	IZU	36.3871	000000016	美波町伊豫町字山田182	徳島県	美波町
36.3871	000000017	伊豫町公民館	伊豫町公民館	IZU	36.3871	000000017	美波町伊豫町字山田182	徳島県	美波町



■ 得られた知見や今後の展望

- クラウドでのデータ自動更新のワークフローを確立したことにより公開GISの維持コストを劇的に下げ、GISを扱えない職員でも容易にデータ更新が可能となった。
- 3D都市モデルや高解像度の津波シミュレーションデータと、徳島大学の高度人材がコラボレーションすることにより来年度以降様々なユースケースを展開することが可能となった。

Ⅲ. 令和7年度採択団体別 事業内容

46. 愛媛県宇和島市

■ 団体基礎情報・プロジェクト全体像

人口	約6.5万人（令和8年1月時点）
市域全域面積	約468km ² （令和8年1月時点）
目標	四国西南地域の玄関口にふさわしい魅力ある都市の形成
課題	<ul style="list-style-type: none"> 2次元では把握しにくい津波浸水状況等の災害リスクを3次元で可視化し、さらなる災害リスクの理解や避難行動を促す必要性 まちづくりにおける市民の合意形成や理解度の向上 都市計画業務の効率化・高度化

■ 令和7年度スケジュール



分野	人口規模	面積規模	予算規模
防	5-15万	200-500	5-10千

担当部局	都市整備課
------	-------



■ 補助事業実施項目

事前調査等	—
3D都市モデル整備・更新	<ul style="list-style-type: none"> 原典データ整備事業（都市計画基本図修正） 3D都市モデル整備事業（LOD1 ,LOD2）
ユースケース開発	想定最大浸水の三次元可視化事業
推進事業	3D都市モデル活用PC導入（1台購入）

総事業費	91.930（百万円）※うちR7年度76.930（百万円）
R7年度補助額	38.465（百万円）
補助対象外の関連事業	—

オープンデータ化・可視化・情報発信	<ul style="list-style-type: none"> G空間情報センターへの掲載【3D都市モデル／関連データ】 PLATEAU VIEWへの掲載【3D都市モデル／関連データ】 宇和島市オープンデータサイト【3D都市モデル】
-------------------	--

R7年度委託事業者	<ul style="list-style-type: none"> 株式会社パスコ（3D都市モデル整備・更新、ユースケース開発、推進事業） 株式会社デンケン（推進事業）
-----------	---

Ⅲ. 令和7年度採択団体別 事業内容

46. 愛媛県宇和島市

■ 3D都市モデル整備状況（基本セット）

※赤字：R7補助対象地物

LOD	整備地物	対象区域	整備面積	整備年度
LOD1	建築物 交通（道路） 都市計画決定情報 土地利用 地形	宇和島都市計画区域	139.01km ²	R7年度新規
	災害リスク（洪水、土砂、津波・高潮）		洪水 4河川 土砂 1,000箇所 津波35km ² 高潮23km ²	
LOD2	建築物	宇和島市居住誘導区域内域	2.83km ²	

項目	活用したデータ	作成年度	地図情報レベル
平面図	都市計画基本図（修正）	R7年度	2,500
測量成果	新規測量（航空写真）	R5年度	2,500
属性情報	都市計画基礎調査（既存）	R6年度	—
属性情報	立地適正化計画	R6年度	—

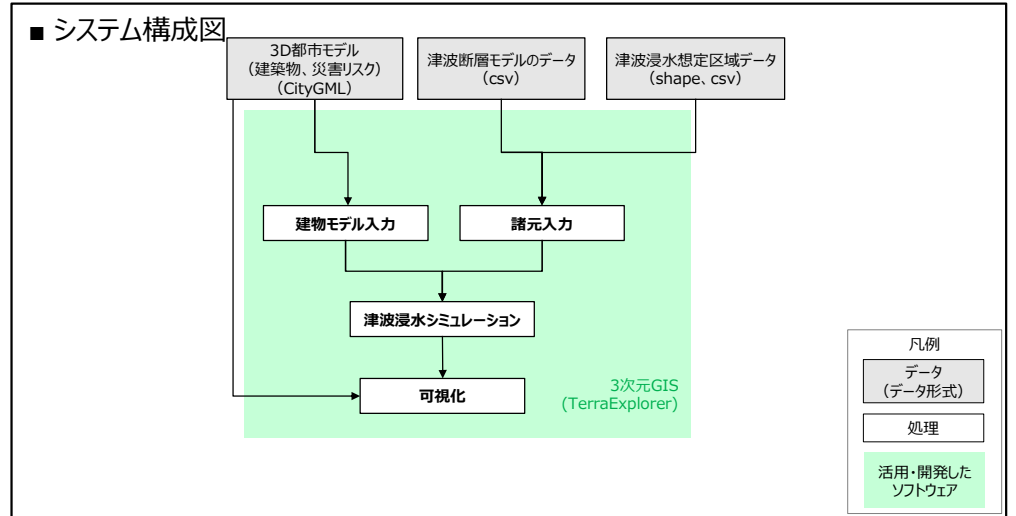
分野	人口規模	面積規模	予算規模
防	5-15万	200-500	5-10千



■ ユースケース概要

テーマ	防災・防犯
ユースケース名称	想定最大浸水の三次元可視化事業
目的	3D都市モデルと既存データとの組み合わせにより、よりリアルな津波浸水モデルを作成し、住民の防災意識向上を図る。
取組内容	災害リスクモデルを用いて最大浸水を宇和島都市計画区域で可視化する。一部エリアでは、時系列の浸水深を3D都市モデル上で表現し、宇和島市での津波浸水の様子を3Dビューアで三次元的により詳しく可視化し、市民説明会等での活用することで、住民の津波に対する意識の啓発や避難行動の変容を促進する。

■ システム構成図



Ⅲ. 令和7年度採択団体別 事業内容

46. 愛媛県宇和島市

■ ユースケース開発方法

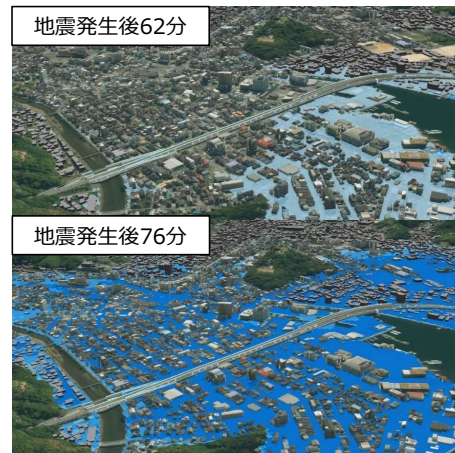
活用データ (3D都市モデル)	<ul style="list-style-type: none"> 建築物LOD1, LOD2 (名称、用途、構造種別、計測高さ、地上階数) 災害リスクLOD1 (洪水浸水想定区域、土砂災害警戒区域、津波浸水想定区域、高潮浸水想定区域) 都市計画決定LOD1 (都市計画区域、用途地域、伝統的建造物群保存地区、立地適正化計画) 土地利用LOD1 (土地利用区分)
活用データ (上記以外)	<ul style="list-style-type: none"> 津波浸水データ (最大浸水深、津波到達時間) 指定避難所情報 (避難所名称、所在地、避難所種別情報) 航空写真、商店街アーケード内の建築物写真
ユースケース 開発方法	<ul style="list-style-type: none"> 対象区域の3D都市モデルを新規に構築。 同時に都市計画基本図を修正し、最新の状況で3D都市モデルを構築。 構築した3D都市モデルと津波浸水想定区域データを重畳。 津波浸水想定区域データ以外にも災害リスクデータを重畳。 シミュレーション結果を活用し、3次元GISでデータを可視化。 結果を活用し、3次元GISを利用して報告。
政策・事業での 活用	<ul style="list-style-type: none"> 構築した3D都市モデルと津波浸水想定区域データを3次元GISで表現する。 説明会・勉強会において、作成したデータを搭載した3次元GISを活用して防災意識変容を促進する。 津波浸水想定データから補完データを作成することで、よりリアルな津波浸水の様子を作成し、防災意識向上を寄与することを目指す。
オープンデータ化 情報発信	PLATEAU VIEW及びG空間情報センターへのリンクを宇和島市ホームページ上に掲載

■ KPI

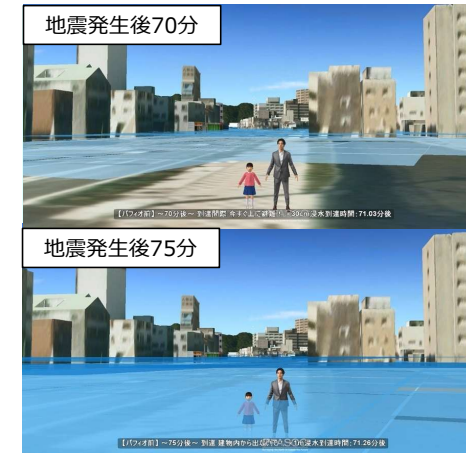
KPI	目標設定	達成状況
開発したユースケースが津波警報発令時の避難行動変容に有効とする職員の割合	80% (R7年度)	81% (R7年度)
開発したユースケースが津波警報発令時の避難行動変容に有効とする防災出前講座参加者の割合	60% (R8年度)	R8年度測定予定

分野	人口規模	面積規模	予算規模
防	5-15万	200-500	5-10千

■ ユースケース開発成果イメージ図



津波浸水状況の時系列可視化
地震発生後の津波浸水状況を時系列で可視化
(水面表示・浸水ランクの表示)



防災意識変容に向けた表現
津波浸水状況を宇和島市の代表的な場所で人物模型を配置する表現や動画作成し、防災意識変容を促進

■ 得られた知見や今後の展望

- 3D都市モデルを活用することで、これまでよりも視覚的に把握できるようになった。
- 今回開発したユースケースを活用し、防災出前講座などで防災意識変容を促進したい。
- 今後、作成した3D都市モデルを活用してまちづくりの課題解決を目指す。
- 庁内で3D都市モデルの周知を行い、利活用する機運を醸成したい。

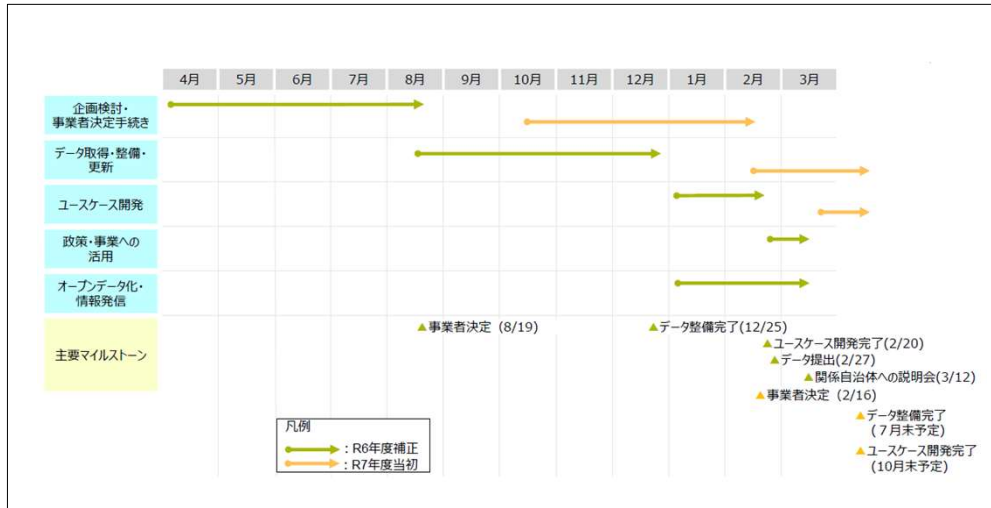
Ⅲ. 令和7年度採択団体別 事業内容

47. 高知県

■ 団体基礎情報・プロジェクト全体像

人口	約65.6万人（令和6年10月時点）
市域全域面積	約7,102km ² （令和7年4月時点）
目標	南海トラフ地震をはじめとする大規模災害に対し、県民が安全に安心して暮らすことができる県土づくり
課題	<ul style="list-style-type: none"> 南海トラフ地震における津波災害について、正しく理解し正しく恐れる判断材料を提示し、防災意識の更なる向上を図ることが必要。 災害リスクを踏まえたまちづくりを検討することが必要。 大規模災害発生後には都市の現況や課題、災害リスクを踏まえながら、住民と合意形成を図り迅速に都市の復興を図ることが必要。

■ 令和7年度スケジュール



分野	人口規模	面積規模	予算規模
防	15万以上	500以上	5-10千

担当部局	都市計画課
------	-------



■ 補助事業実施項目

事前調査等	3D都市モデルの整備範囲や整備内容の検討、整備に必要な資料収集等
3D都市モデル整備・更新	3D都市モデル整備 (LOD1、LOD2)
ユースケース開発	3D都市モデルを活用した津波浸水リスクの可視化事業
推進事業	3D都市モデルのオープンデータサイトの構築

総事業費	219.999 (百万円) ※うちR7年度実施事業99.999 (百万円)
R7年度補助額	<ul style="list-style-type: none"> R6年度補正: 9.999 (百万円) R7年度当初: 45.000 (百万円)
補助対象外の関連事業	-

オープンデータ化・可視化・情報発信	<ul style="list-style-type: none"> G空間情報センターへの掲載 【3D都市モデル／関連データ／UCデータ】 PLATEAU VIEWへの掲載 【3D都市モデル／関連データ／UCデータ】
-------------------	---

R7年度委託事業者	<ul style="list-style-type: none"> R6年度補正: 国際航業(株) (事前調査、3D都市モデル整備・更新、ユースケース開発、推進事業) R7年度当初: 国際航業・フォーラムエイト共同企業体 (事前調査、3D都市モデル整備・更新、ユースケース開発、推進事業)
-----------	---

Ⅲ. 令和7年度採択団体別 事業内容

47. 高知県

■ 3D都市モデル整備状況（基本セット）

※赤字：R7補助対象地物

LOD	整備地物	対象区域	整備面積	整備年度
LOD1	建築物 交通（道路）	津波浸水予測区域	146.0km ²	R7年度新規
			68.8km ²	R8年度拡充
	都市計画決定情報 土地利用 災害リスク（津波）	津波浸水予測区域	144.8km ²	R7年度新規
			47.1km ²	R8年度拡充
	災害リスク（洪水、土砂） 地形	市域全域	168.0km ²	R7年度新規
			82.5km ²	R8年度拡充
LOD2	建築物	津波浸水予測区域	110棟	R7年度新規
			80棟	R8年度拡充

項目	活用したデータ	作成年度	地図情報レベル
平面図	数値地形図（DMデータ） （修正）	R6年度	2,500
測量成果	新規測量（航空写真）	R6年度	2,500
属性情報	都市計画基礎調査（既存）	R6年度	

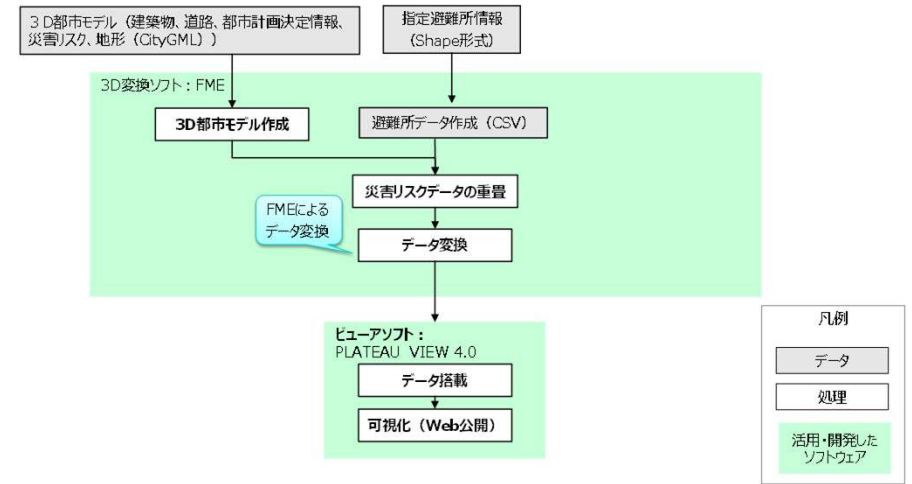
分野	人口規模	面積規模	予算規模
防	15万以上	500以上	5-10千



■ ユースケース概要

テーマ	防災・防犯
ユースケース名称	3D都市モデルを活用した津波浸水リスクの可視化事業
目的	南海トラフ地震をはじめとする大規模災害に対し、県民が安全に安心して暮らすことができる県土づくり
取組内容	高知県中東部エリア（土佐市～東洋町）の津波浸水予測区域を対象として、津波浸水リスク情報の三次元表示を行い、エリアのリスクを時系列で可視化する。さらに、市町村の行政職員にこれを共有し、災害リスクに対する理解を深め、防災意識を向上する。

■ システム構成図



Ⅲ. 令和7年度採択団体別 事業内容

47. 高知県

■ ユースケース開発方法

活用データ (3D都市モデル)	<ul style="list-style-type: none"> 建築物LOD1, LOD2 (名称、用途、構造種別、計測高さ、地上階数) 災害リスクLOD1 (洪水・津波浸水想定区域の水面の範囲、浸水深の区分、土砂災害警戒区域の範囲)
活用データ (上記以外)	<ul style="list-style-type: none"> 指定避難所情報(避難所名称、所在地) 要配慮者利用施設 (名称、収容人数)
ユースケース 開発方法	<ul style="list-style-type: none"> 対象区域の建築物・道路・都市計画決定情報・土地利用・災害リスク・地形をPLATEAU標準仕様にに基づき3D都市モデルとして整備を実施。 整備した3D都市モデルは自治体職員や住民がPLATEAUビューワで閲覧できるよう変換処理を実施。 整備・変換した3D都市モデルと津波浸水想定区域、河川浸水想定区域、土砂災害特別警戒区域及び警戒区域に関するデータを重畳表示する。 県で整備中の最新の津波浸水予測データを活用した時系列シミュレーションユースケースを整備し、整備した3D都市モデルに重畳させる。 津波災害リスクのある県内市町村の行政職員にこれを共有し、災害リスクに対する理解を深め、防災意識の向上を図る。 庁内や関係市町村と事業進捗に関する報告会を開催し、今後の利活用について検討を実施。
政策・事業での 活用	<ul style="list-style-type: none"> 対象区域の建築物・道路・都市計画決定情報・土地利用・災害リスク・地形を3D都市モデルとして整備。 災害リスクを分かり易く表現し、防災意識の向上を図るためにも、避難所や自治体のランドマークとなる建築物についてはLOD2で整備を行う。 整備した3D都市モデルはPLATEAU VIEWで公開し、関係自治体や住民への活用を促す。 津波災害リスクのある県内市町村の行政職員にこれを共有し、災害リスクに対する理解を深め、防災意識の向上を図る。 庁内や関係市町村と事業進捗に関する報告会を開催し、今後の利活用について検討を実施。
オープンデータ化 情報発信	<ul style="list-style-type: none"> G空間情報センターへの掲載 PLATEAU VIEWへの掲載

分野	人口規模	面積規模	予算規模
防	15万以上	500以上	5-10千



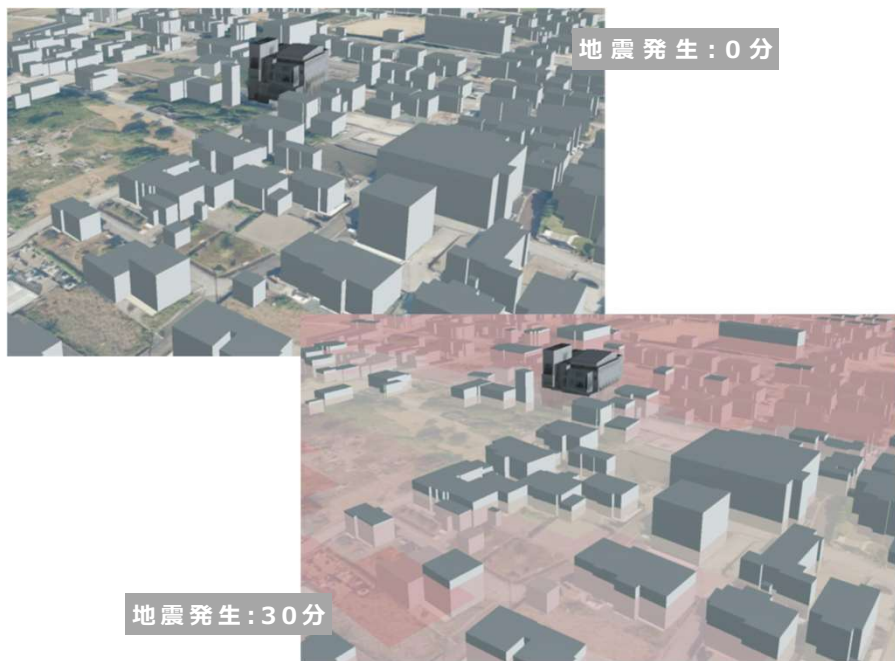
■ KPI

KPI	目標設定	達成状況
香南市・安芸市において地域の津波災害リスクについての理解が今まで以上に深まった職員の割合	80% (R7年度)	93% (R7年度)
香南市・安芸市において住民の防災意識向上に役立つと感じる職員の割合	80% (R7年度)	100% (R7年度)
高知県中東部エリア(土佐市～東洋町)において地域の津波災害リスクについての理解が今まで以上に深まった職員の割合	80% (R7年度)	R8年度へ繰越のため R8年度計測予定
高知県中東部エリア(土佐市～東洋町)において住民の防災意識向上に役立つと感じる職員の割合	80% (R7年度)	R8年度へ繰越のため R8年度計測予定

Ⅲ. 令和7年度採択団体別 事業内容

47.高知県

■ ユースケース開発成果イメージ図

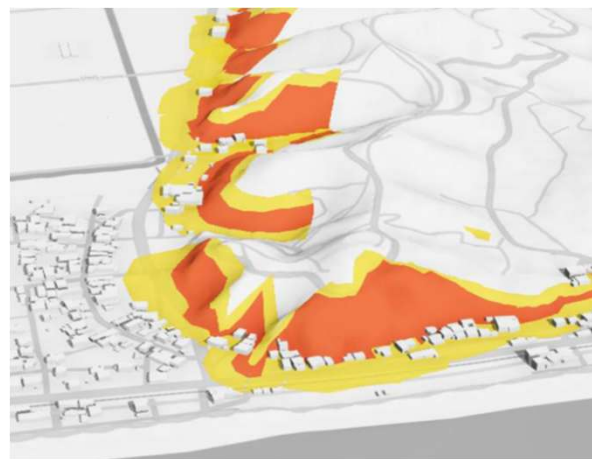


津波時系列シミュレーションの可視化

建築物モデルや重要構造物、指定緊急避難場所等を詳細なモデルで整備の上、津波の時系列シミュレーションデータを重畳

分野	人口規模	面積規模	予算規模
防	15万以上	500以上	5-10千

■ ユースケース開発成果イメージ図



土砂災害警戒区域の可視化

建築物モデルと土砂災害警戒区域を重畳させ、地域の土砂災害リスク情報を可視化

■ 得られた知見や今後の展望

- 3D都市モデル上で津波浸水リスクを可視化することで、これまで以上に津波災害に対する理解を深めることができた。
- 避難ルートの遮断リスクや垂直避難の可否を把握できるため、県内市町村が策定する地域防災計画をはじめとする各種計画の見直しなどへの活用を推進していく。
- 要配慮者利用施設における個別避難計画の策定や、避難訓練の実施などにおける活用を推進していく。

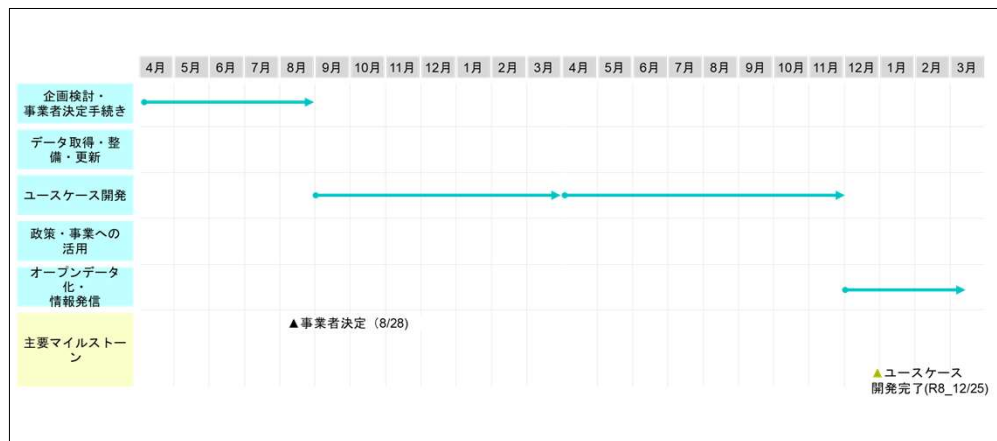
Ⅲ. 令和7年度採択団体別 事業内容

48. 高知県のいの町

■ 団体基礎情報・プロジェクト全体像

人口	約2.1万人（令和5年1月時点）
市域全域面積	約471km ² （令和5年1月時点）
目標	3D都市モデルを活用した駅前周辺整備事業
課題	町中心部であるJR伊野駅前は、いの町の玄関口であると共に、公共交通の連結地点として多くの公共交通バスが出入りしているが、昨今のバスの大型化やスクールバス、デマンドタクシーの流入によりバスが停留できない状況が見受けられ、バス連結点としての停留所の整備の検討が必要である。町の中心部として、駅入り口は北側として整備されてきたが、南側についても、町の公共施設である福祉センターや町立の総合病院が立地され、病院等へ行く際に、南北自由通路が存在しないため、大きく迂回する必要がある。また、駅内の駐輪場は、伊野商業高校生の利用に併せ、多くの駐輪台数を確保していたが、伊野商業高校近隣に新たに駅が開設されたことに伴い、駐輪場の利用台数が、大幅に減少し、未利用地となっている。最後に駅に隣接している、JA高知県伊野支所のビルは、耐震基準を満たしていなく、施設の統廃合に伴い、規模縮小を検討していることから、未利用地が発生すると思われる。

■ 令和7年度スケジュール



分野	人口規模	面積規模	予算規模
街	1-3万	200-500	1-2千

担当部局	土木課
------	-----



■ 補助事業実施項目

事前調査等	—
3D都市モデル整備・更新	—
ユースケース開発	3D都市モデルを活用した駅前周辺整備事業
推進事業	—

総事業費	31.240（百万円）※うちR7年度12.650（百万円）
R7年度補助額	6.325（百万円）
補助対象外の関連事業	—

オープンデータ化・可視化・情報発信	<ul style="list-style-type: none"> G空間情報センターへの掲載【UCデータ】 PLATEAU VIEWへの掲載【UCデータ】 いの町オープンデータサイト【3Dデータ】
-------------------	---

R7年度委託事業者	国際航業株式会社・昭和株式会社特定委託業務共同企業体（ユースケース開発）
-----------	--------------------------------------

Ⅲ. 令和7年度採択団体別 事業内容

48. 高知県のいの町

■ 3D都市モデル整備状況（基本セット）

※赤字：R7補助対象地物

LOD	整備地物	対象区域	整備面積	整備年度
LOD1	建築物 交通（道路） 都市計画決定情報 土地利用 災害リスク（洪水）	高知広域都市 計画区域	28.2km ²	R6年度新規
	災害リスク（土砂） 地形	いの町全域	470.97km ²	
LOD2	建築物	町役場、避難所 及び国道33号 線沿	545棟	

項目	活用したデータ	作成年度	地図情報レベル
平面図	家屋現況図（GISデータ） （既存）	R2年度	1,000
平面図	都市計画基本図（修正）	H26年度	2,500
測量成果	既存資料（航空写真）	R5年度	1,000
属性情報	都市計画基礎調査（既存）	R2年度	
属性情報	立地適正化計画	R2年度	

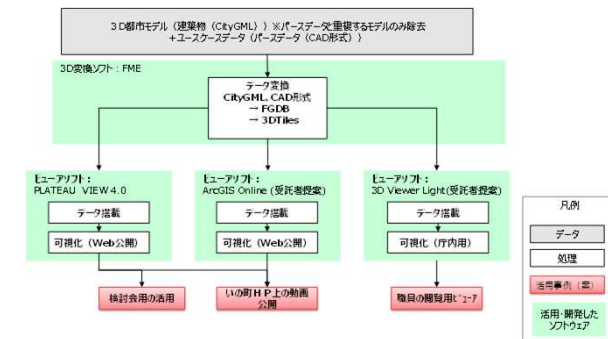


分野	人口規模	面積規模	予算規模
街	1-3万	200-500	1-2千

■ ユースケース概要

テーマ	都市計画・まちづくり
ユースケース名称	3D都市モデルを活用した駅前周辺整備事業
目的	3D活用することにより、ステークホルダーとの協議や周辺住民との円滑な協議に活用する。
取組内容	町中心部であるJR伊野駅前、いの町の玄関口であると共に、公共交通の連結地点として多くの公共交通バスが出入りしているが、駅前の駐輪場が活用されず、未利用地となっている。また、線路によって南北が分断され、駅入り口が北側のみしかないため、南側にある病院等への福祉ゾーンへ行くには大きく迂回する必要がある。 南北にある駅前エリアを都市機能の集約化及び住居のゆるやかな誘導を図る区域とするべく、人口データ等を基に、ステークホルダーと協議するなか、3D都市モデル上で、駐輪場の活用や周辺整備の活用、南北自由通路について具体的なビジョンを作成し、周辺住民などとの円滑な協議に活用する。

■ システム構成図



Ⅲ. 令和7年度採択団体別 事業内容

48. 高知県の町

■ ユースケース開発方法

活用データ (3D都市モデル)	<ul style="list-style-type: none"> 建築物LOD1, LOD2 (名称、用途、構造種別、計測高さ、地上階数) 交通 (道路) LOD1 (形状のみ)
活用データ (上記以外)	<ul style="list-style-type: none"> 航空写真 (レベル1000)
ユースケース 開発方法	<ul style="list-style-type: none"> R6年度に整備した3D都市モデルを活用しJR伊野駅周辺のまちづくりの方向性について検討を行う。 検討委員会では3D都市モデルを活用しJR伊野駅の再整備後のイメージについて協議し、伊野駅再整備後の基本構想を検討する。 住民が再整備後のイメージを把握できるようJR伊野駅再整備後のイメージパースの作成を行い、R6年度に整備した3D都市モデルにパースを組み込む。 ビューワ等に搭載し、今後、住民説明会や事業者説明会の際に活用する。
政策・事業での 活用	<ul style="list-style-type: none"> 3D都市モデルでの都市データ等を基に、庁内関係者や検討委員会で基本構想を策定し、その内容を将来イメージとして可視化することによって、最終的に、基本構想内容について、庁内関係者や検討委員との円滑な合意形成を図る。 基本構想して策定した内容を将来イメージとして可視化することによって、町民との円滑な合意形成を図る。
オープンデータ化 情報発信	<ul style="list-style-type: none"> G空間情報センターへの掲載 PLATEAU VIEWへの掲載

■ KPI

KPI	目標設定	達成状況
町のまちづくりに対して、理解が進んだと感じたステークホルダーの割合	80% (R7年度) 2回・40人	R8年度へ繰越のため R8年度計測予定
町のまちづくりに対して、理解が進んだと感じた町民の割合	80% (R7年度) 1回・40人	R8年度へ繰越のため R8年度計測予定

分野	人口規模	面積規模	予算規模
街	1-3万	200-500	1-2千



PLATEAU
by MLIT

■ ユースケース開発成果イメージ図



※上記の図は現時点で想定される考え方のイメージである。今回の業務を通して隣接する土地利用の状況を踏まえて考え方を整理し、基本構想としてとりまとめる。

図 拠点の土地利用及びネットワークイメージ (例)

3D都市モデルを活用した再整備後の伊野駅前広場イメージ

基本構想において、地区の現状のほか、再整備後の駅前広場や屋外空間の広がり、複合施設の新設をした場合の駅前から見えるイメージ等について、3D都市モデルのデータを活用しながら簡易のイメージイラストパースを作成し、資料や検討委員会で提示しながら意見交換を促す。

■ 得られた知見や今後の展望

- 検討委員会において、3Dモデルを提示しながら議論することで、住民や公共交通事業者、地権者といった多様な関係者が、同じ将来イメージを共有した状態で意見交換を行える。
- エリアプラットフォーム (エリプラ) などの多様な主体が、このデジタル空間をイベントのシミュレーションや新たな商業活動の検討に活用し続けられる。

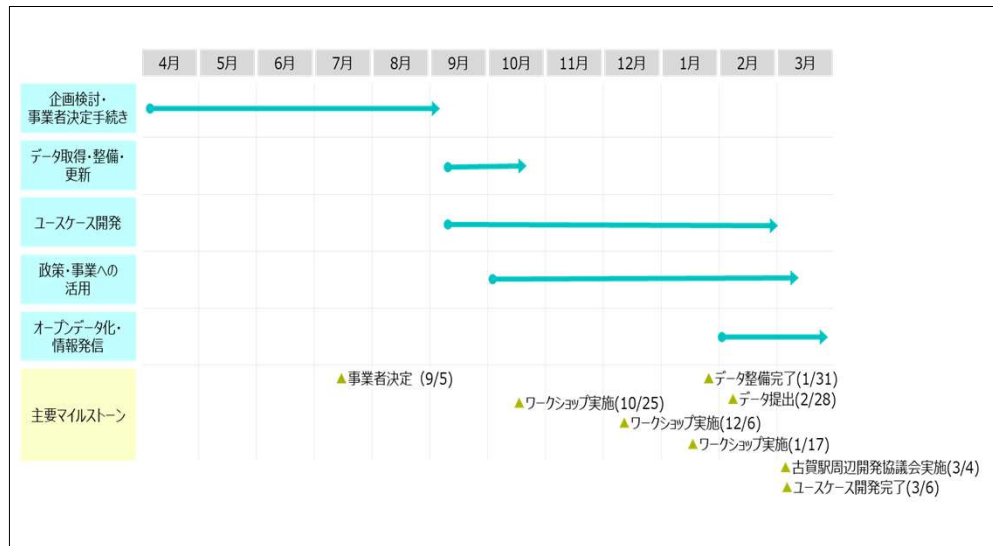
Ⅲ. 令和7年度採択団体別 事業内容

49.福岡県古賀市

■ 団体基礎情報・プロジェクト全体像

人口	約5.9万人（令和5年1月時点）
市域全域面積	約42km ² （令和5年1月時点）
目標	歩きたくなる 暮らしたくなる 居心地の良い まちづくり
課題	<ul style="list-style-type: none"> デザイン検討段階における有識者や市民とのイメージの共有や合意形成の手法。 計画段階で住民の意見を取り入れる手法や、途中からの参加でも議論に参加できる仕組みづくり。

■ 令和7年度スケジュール



分野	人口規模	面積規模	予算規模
街・住	5-15万	50未満	5-10千

担当部局	古賀駅周辺開発推進課
------	------------



■ 補助事業実施項目

事前調査等	—
3D都市モデル整備・更新	—
ユースケース開発	<ul style="list-style-type: none"> 3D都市モデルを活用した駅前再開発検討事業 3D都市モデルを活用した住民参加型まちづくり事業
推進事業	—

総事業費	182.565（百万円）※うちR7年度61.930（百万円）
R7年度補助額	R7年度当初：47.290（百万円） R6年度補正：31.561（百万円）
補助対象外の関連事業	—

オープンデータ化・可視化・情報発信	<ul style="list-style-type: none"> G空間情報センターへの掲載【UCデータ】 古賀市ホームページ【UCデータ】
-------------------	--

R6年度補正委託事業者	<ul style="list-style-type: none"> (株)都市環境研究所 九州事務所（ユースケース開発） (株)日建設計 九州オフィス（ユースケース開発） スペースシンタックス・ジャパン(株)（ユースケース開発） 八千代エンジニアリング(株) 九州支店（ユースケース開発）
-------------	---

R7年度委託事業者	<ul style="list-style-type: none"> (株)日建設計 九州オフィス（ユースケース開発） RFA+日建設計共同体（ユースケース開発） RKB毎日放送(株)（ユースケース開発）
-----------	---

Ⅲ. 令和7年度採択団体別 事業内容

49.福岡県古賀市

■ 3D都市モデル整備状況（基本セット）

※赤字：R7補助対象地物

LOD	整備地物	対象区域	整備面積	整備年度
LOD1	交通（道路） 都市計画決定情報 土地利用 災害リスク 地形	古賀市全域	42km ²	R6年度新規
LOD2	建築物	中心市街地区域	0.6km ²	

■ 3D都市モデル整備状況（基本セット以外）

※赤字：R7補助対象地物

LOD	整備地物	対象区域	整備面積	整備年度
LOD1	汎用都市オブジェクト （公園）	古賀駅前周辺エリア	0.05km ²	R6年度新規
LOD2.1	交通（道路）			

項目	活用したデータ	作成年度	地図情報レベル
平面図	都市計画基本図（既存）	R元年度	2,500
測量成果	既存資料（航空写真）	R元年度	2,500
属性情報	都市計画基礎調査（既存）	R4年度	

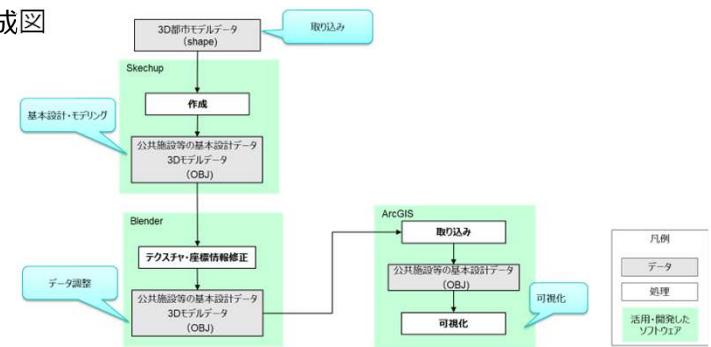
分野	人口規模	面積規模	予算規模
街・住	5-15万	50未満	5-10千



■ ユースケース概要①

テーマ	都市計画・まちづくり
ユースケース名称	3D都市モデルを活用した駅前再開発検討事業
目的	駅前再開発エリアにおけるランドスケープを考慮した、住み心地のいい街区形成や公園等の基盤整備の検討を図ることを目的とする。
取組内容	<ul style="list-style-type: none"> 駅前再開発エリアの土地利用計画の見直しに伴い、街区形成や公共施設、道路・公園等の都市施設、用途地域・地区計画などの前提条件となるプランニングに3D都市モデルを活用しながら、効率的に実施する。 駅前再開発エリアの将来的な街区空間を三次元的に可視化し、基本設計に向けた空間解析や条件整理を行う。 三次元的に可視化した駅前再開発エリアを元に様々な角度からランドスケープの検証を行い、基盤となる自由通路橋や道路・公園等の基本設計を行う。 基本設計の内容をソフトウェア上に反映。 古賀駅前周辺開発推進協議会において報告。

■ システム構成図



Ⅲ. 令和7年度採択団体別 事業内容

49.福岡県古賀市

■ ユースケース開発方法

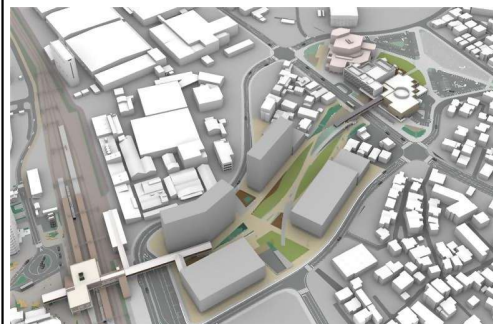
活用データ (3D都市モデル)	<ul style="list-style-type: none"> 建築物LOD1,LOD2 (名称、用途、構造種別、計測高さ、地上階数) 道路LODD1 (道路、道路線名)
活用データ (上記以外)	古賀駅周辺エリアLOD1,LOD2 (公園、道路)
ユースケース 開発方法	<ul style="list-style-type: none"> 対象区域の既存の3D都市モデルをもとに土地利用計画を見直し、前提条件を整理。 成果を3D都市モデルに反映し、ArcGISで活用できるようにcgdbデータに変換及び更新。 更新した3D都市モデルを活用して自由通路や公園等の基本設計を実施。 作成した基本設計データをモデリングデータ (サーフェス又はソリッド) として重畳。 3D都市モデルを活用し駅前再開発エリアの土地利用計画の見直しに伴う条件整理を実施。 駅前再開発エリアの将来的な街区空間を三次元的に可視化した3D都市モデルを活用し、様々な角度からランドスケープの検証、自由通路橋や道路・公園等の基本設計を実施した上で三次元的に可視化。 成果を活用し、ArcGISでデータを可視化。
政策・事業での 活用	<ul style="list-style-type: none"> 設計内容を反映した駅前再開発エリアの3D都市モデルをワークショップや古賀駅周辺開発推進協議会に報告し、古賀市ホームページ上で公開。 古賀市ホームページ上で公開したものを、議会や市民への説明に活用。
オープンデータ化 情報発信	古賀市ホームページ

■ KPI

KPI	目標設定	達成状況
住民説明会・ワークショップ等の参加者の理解度 (%)	70% (R7年度)	100% (R7年度)

分野	人口規模	面積規模	予算規模
街・住	5-15万	50未満	5-10千

■ ユースケース開発成果イメージ図



3次元モデルを活用した与件整理
空間解析の結果や街区と公園区画シミュレーションのパターン検討について3次元モデルを活用しながら実施。



設計内容を3次元モデルで可視化
基本設計内容を元に公園や自由通路、公共施設、居住街区などを再現。

■ 得られた知見や今後の展望

- ボリューム・デザイン検討において、模型と違って容易に拡大・縮小ができるので様々な縮尺や視点での検討も行うことができ、有識者を含む会議の中でイメージを共有しながらの議論ができた。
- 公共基盤整備の設計内容から居住空間まで想定される土地利用計画を具体的に可視化出来たため、今後、関係者や地域理解を深めるためのツールとして役立てていく。
- 開発エリアの都市計画道路の事業化に向けて、道路詳細設計を行い今回可視化した3次元モデルに重畳して道路の詳細な再現と隣接する既存宅地も再現した上で、住民説明用動画を作成し、本格的な地権者交渉を進めていく。

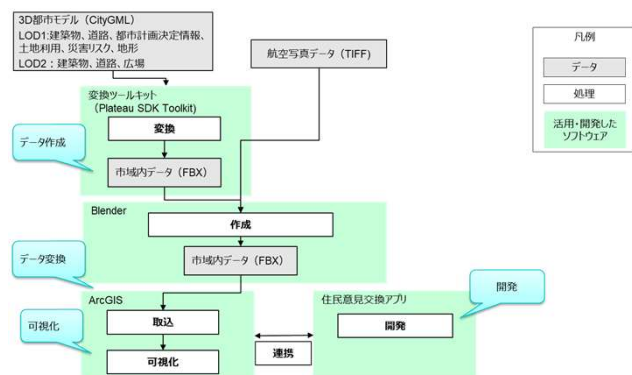
Ⅲ. 令和7年度採択団体別 事業内容

49.福岡県古賀市

■ ユースケース概要②

テーマ	住民参加
ユースケース名称	3D都市モデルを活用した住民参加型まちづくり事業
目的	住民参加型のまちづくりを進めるため、3D都市モデルやデジタルプラットフォームを活用し、ウォークラブルな取組に向けた古賀駅前周辺の道路や広場等の課題について、デジタル・リアル相互に住民との意見交換を行う。
取組内容	<ul style="list-style-type: none"> 3D都市モデルを活用し、駅前商店街エリアの建物に航空写真データのテキストを貼り付ける等、より具体的な三次元の可視化を行う。 まちづくりデジタルプラットフォームを導入し、ウォークラブルな取組に向けた駅前商店街エリアの道路や広場等の課題等を題材に、デジタル・アナログ相互を使ったワークショップを行う。 ワークショップで可視化した三次元空間とデジタルプラットフォームの利活用における住民の意見をもとに、デジタルプラットフォームの機能改善を行う。 駅前の社会実験プロジェクトの一環として住民参加型のまちづくりを展開していくため、市のホームページに公開する。

■ システム構成図



分野	人口規模	面積規模	予算規模
街・住	5-15万	50未満	5-10千

■ ユースケース開発方法

活用データ (3D都市モデル)	<ul style="list-style-type: none"> 建築物LOD1, LOD2 (名称、用途、構造種別、計測高さ、地上階数) 道路LODD1 (道路、道路線名)
活用データ (上記以外)	<ul style="list-style-type: none"> 航空写真 (レベル1000) 撮影写真
ユースケース開発方法	<ul style="list-style-type: none"> 3D都市モデルを活用して航空写真や撮影した画像データをテキストとして面に貼り付けし、建物をリアルに再現。 成果を活用し、ArcGISでデータを可視化。 更新した3D都市モデルと連携してデジタル上で住民が意見を書き込み出来るアプリの開発又は導入を行う。 ウォークラブルな取組に向けた駅前商店街エリアの道路や広場等の課題等を題材に、デジタル・アナログ相互を使ったワークショップを行う。
政策・事業での活用	<ul style="list-style-type: none"> アプリの使い方からアプリと併用して古賀駅西口の課題や広場等の整備に向けた意見などをワークショップで聞いて、整備方針に反映。 ワークショップの結果をもとに、古賀駅周辺開発推進協議会に報告。 駅前の社会実験プロジェクトの一環として住民参加型のまちづくりを展開していくため、市のホームページに公開。
オープンデータ化 情報発信	<ul style="list-style-type: none"> G空間情報センターへの掲載 古賀市ホームページ

■ KPI

KPI	目標設定	達成状況
ワークショップ等の参加者の増加 (延べ数)	50人 (R7年度)	74人 (R7年度)

Ⅲ. 令和7年度採択団体別 事業内容

49.福岡県古賀市

■ ユースケース開発成果イメージ図



商店街エリアの詳細可視化

航空写真等を活用し、3D都市モデルにテクスチャマッピングリアルに再現。ゲームエンジンにも搭載。



J R 古賀駅周辺のエリアは、東口で再開発に向けた検討が始まり、西口では現在の商店街の街並みを活かして古賀市と民間事業者とが手を取り合い、新たなまちづくりを通じて生まれ変わろうとしています。

そのまちづくりに、今度は地元に住んでいる人や働いている人、駅前に関

住民合意形成プラットフォームの開発

オンライン上で住民の意見をを集め合意形成を行うためのツールを開発。駅再開発エリアの基盤整備の検討に活用する。

分野	人口規模	面積規模	予算規模
街・住	5-15万	50未満	5-10千



PLATEAU
by MLIT

■ 得られた知見や今後の展望

- 3D都市モデルを活用した住民合意形成プラットフォームの開発により、アーカイブ的に過去の議論を振り返ることができ、途中からの参加でも議論に参加することができた。(全3回のワークショップ)
- 商店街エリアでは今後駅前広場や商店街内の街路、公共施設等の改修などを予定しており、設計に合わせて今回搭載したものを元に更新を行い、将来イメージに対し地域住民理解を深める。
- 共創型社会に向けて住民参加を積極的に促し、意見集約や議論を行い基盤整備を進めていくため、住民合意形成プラットフォームを本格的に活用していく。

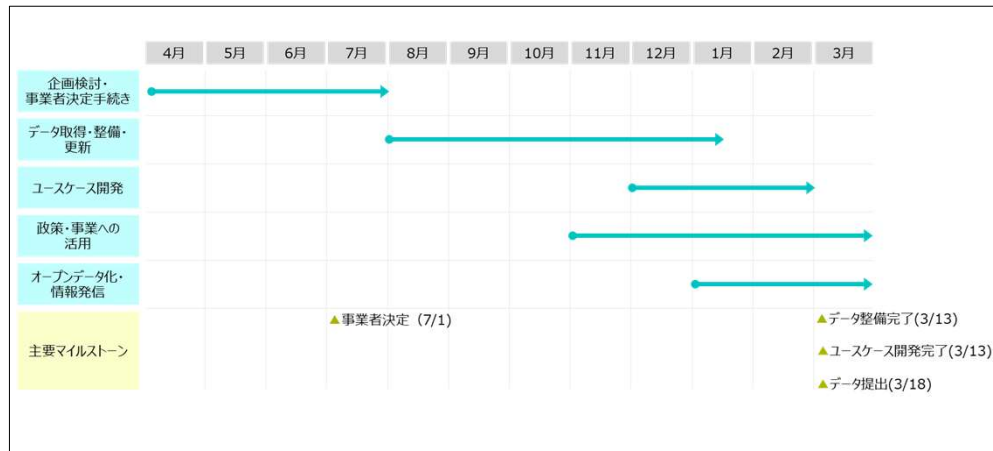
Ⅲ. 令和7年度採択団体別 事業内容

50.福岡県うきは市

■ 団体基礎情報・プロジェクト全体像

人口	約2.8万人（令和5年1月時点）
市域全域面積	約117km ² （令和5年1月時点）
目標	限りある土地を有効活用するため、バランスのとれた土地利用を目指す（第2次うきは市総合計画より）
課題	<ul style="list-style-type: none"> 近年の頻発化・激甚化する災害に対し、市全体としての防災意識を向上が必要である。 人口減少・空き家の増加・市街地のスプロール化等に対し、現在の準都市計画区域を含めた都市計画区域を検討する必要がある。 景観形成・景観保存のため、伝統的建造物群保存地区を含め市全体の街並み・景観整備促進が必要である。

■ 令和7年度スケジュール



分野	人口規模	面積規模	予算規模
街	1-3万	100-200	3-5千

担当部局	都市整備課
------	-------



■ 補助事業実施項目

事前調査等	<ul style="list-style-type: none"> 3D都市モデルを活用したまちづくり・都市計画立案への活用事業 3D都市モデルを活用した景観保存・整備事業への活用事業
3D都市モデル整備・更新	3D都市モデル整備事業（LOD2及びLOD3）（屋外広告物、景観施設等）
ユースケース開発	<ul style="list-style-type: none"> 3D都市モデルを活用したまちづくり・都市計画立案への活用事業 3D都市モデルを活用した景観保存・整備事業への活用事業
推進事業	庁内共有GIS改修（3Dビューア構築）

総事業費	116.458（百万円）※うちR7年度38.000（百万円）
R7年度補助額	19.000（百万円）
補助対象外の関連事業	—
オープンデータ化・可視化・情報発信	<ul style="list-style-type: none"> G空間情報センターへの掲載【3D都市モデル／関連データ】 PLATEAU VIEWへの掲載【3D都市モデル／関連データ】 うきは市公開型GISサイト【3D都市モデル／UCデータ】 うきは市ホームページ

R7年度委託事業者	<ul style="list-style-type: none"> エアロトヨタ(株) 福岡支店（事前調査等、3D都市モデル整備・更新、ユースケース開発、推進事業） (株)都市環境研究所 九州事務所（事前調査、ユースケース開発）
-----------	---

Ⅲ. 令和7年度採択団体別 事業内容

50.福岡県うきは市

■ 3D都市モデル整備状況（基本セット）

※赤字：R7補助対象地物

LOD	整備地物	対象区域	整備面積	整備年度
LOD1	建築物 交通（道路） 土地利用 地形	うきは市全域	117.46km ²	R4年度新規
	都市計画決定 情報	うきは市全域： 準都市計画区域／伝統的 建造物群保存地区／ 地区：町並み保存地区	117.46km ²	
	災害リスク	洪水浸水想定区域 筑後川／隈上川／巨瀬川 ／巨瀬川・樋ノ口川・山曾 谷川	4区域	
		土砂災害警戒区域	2区域	
	洪水浸水想定区域： 隈上川他	1区域	R5年度拡充	
LOD2	建築物	ランドマーク： うきは市公共施設等	7棟	R4年度新規
		筑後吉井伝統的建造物群 保存地区、新川田籠伝統 的建造物群保存地区、筑 後川温泉地区西部	1,839棟	R5年度拡充
		屋外広告物・景観施設	15棟 21棟	R6年度拡充 R7年度拡充

分野	人口規模	面積規模	予算規模
街	1-3万	100-200	3-5千



■ 3D都市モデル整備状況（基本セット以外）

※赤字：R7補助対象地物

LOD	整備地物	対象区域	整備面積	整備年度
LOD1.0	都市設備 （屋外広告物、 景観施設）	うきは市一部地域	359施設	R6年度新規
LOD2.0			上記LOD1のうち28施設 上記LOD1のうち20施設	R6年度新規 R7年度拡充
LOD3.0			上記LOD1のうち25施設 上記LOD1のうち14施設	
LOD3.0	建築物 （屋外広告物、 景観施設）		上記LOD1のうち13施設 上記LOD1のうち5施設	

項目	活用したデータ	作成年度	地図情報レベル
平面図	都市計画基本図（修正）	R4年度	2,500
	数値地形図（DMデータ）（修正）		10,000
測量成果	既存資料（航空写真）		
	地上レーザー （R7年度新規測量含む）	R6年度	500
属性情報	都市計画基礎調査（既存）	R4年度	—
	伝統的建造物群保存地区等 （既存）	R5年度	—
	屋外広告物、景観施設（既存）	R6年度	—
	建築基準法既存不適格調査 （新規）	R7年度	—

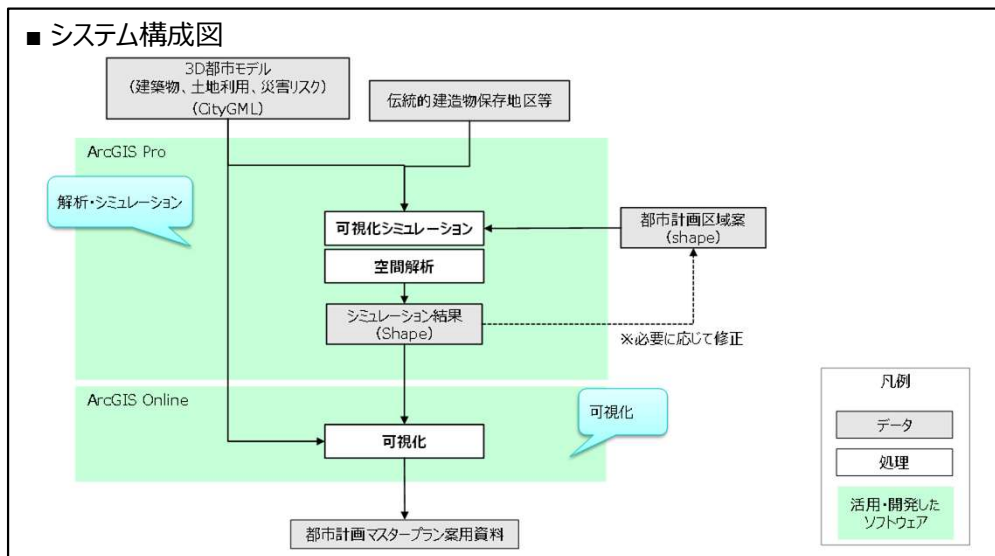
Ⅲ. 令和7年度採択団体別 事業内容

50.福岡県うきは市

■ ユースケース概要①

テーマ	都市計画・まちづくり
ユースケース名称	3D都市モデルを活用したまちづくり・都市計画立案への活用事業
目的	都市計画区域設定に向けた建築基準法既存不適格の把握・緩和検討への活用を図る。
取組内容	都市計画区域設定に向け、過年度整備した3D都市モデルを伝統的建造物群保存地区等（都市計画区域外）の建築基準法既存不適格調査に活用する。調査結果は、都市計画マスタープランや、建築基準法緩和条例の検討資料として庁内活用する。

■ システム構成図



分野	人口規模	面積規模	予算規模
街	1 - 3万	100 - 200	3 - 5千

■ ユースケース開発方法

活用データ (3D都市モデル)	<ul style="list-style-type: none"> 建築物LOD1, LOD2, LOD3 (名称、住所、用途、構造種別、計測高さ、地上階数、建築年) 都市計画決定情報LOD1 (準都市計画区域、伝統的建造物群保存地区、街なみ環境整備事業地区) 土地利用LOD1 (土地利用区分、面積) 災害リスクLOD1 (洪水浸水想定区域の水面の範囲、浸水深の区分、土砂災害警戒区域の範囲、災害種別)
活用データ (上記以外)	<ul style="list-style-type: none"> 建築基準法既存不適格調査、伝統的建造物群保存地区情報 都市計画区域、用途地域 (案)
ユースケース開発方法	<ul style="list-style-type: none"> 都市計画区域設定に向けて過年度整備した3D都市モデルを伝統的建造物群保存地区等（現都市計画区域外）の建築基準法既存不適格調査に活用できるようにFMEを活用して変換。 変換した都市計画区域決定用の伝統的建造物群保存地区等と建築基準法既存不適格調査結果を重畳。
政策・事業での活用	<ul style="list-style-type: none"> 可視化シミュレーション及び、空間解析により、都市計画区域 (案) の妥当性検証を実施。必要に応じてデータ修正、再分析をして、区域 (案) のブラッシュアップを図ることにより、都市計画マスタープラン策定、用途地域設定等に向けた検討資料に活用。 庁内及び関係機関への都市計画区域設定の協議に活用。
オープンデータ化情報発信	うきは市公開型GISサイトに掲載

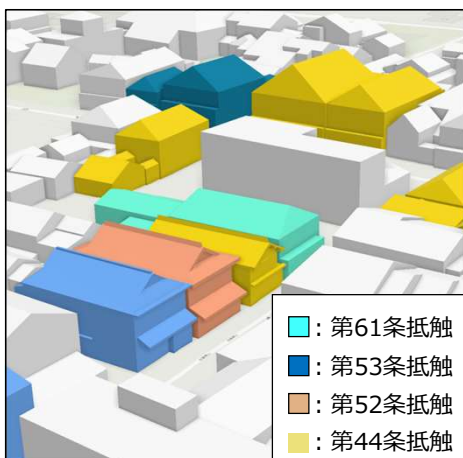
■ KPI

KPI	目標設定	達成状況
都市計画担当以外の関係職員の、都市計画への理解が深まったと回答した職員の割合	70% (R7年度)	100% (R7年度)

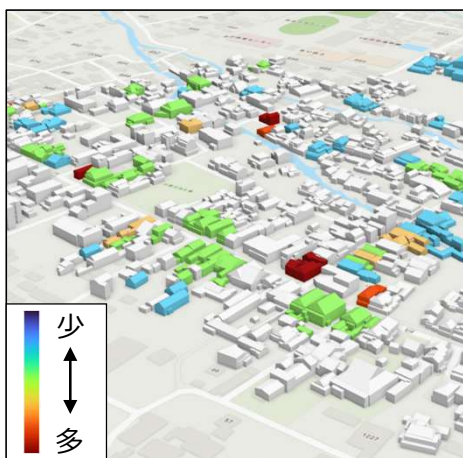
Ⅲ. 令和7年度採択団体別 事業内容

50.福岡県うきは市

■ ユースケース開発成果イメージ図



既存不適格調査結果の可視化
調査結果を建築基準法条文抵触別に可視化し、都市計画区域・用途地域検討資料として活用。



既存不適格調査結果の可視化
建物別抵触条文数の集計結果を可視化し、複数の条文に抵触している建築物を空間的に把握。

■ 得られた知見や今後の展望

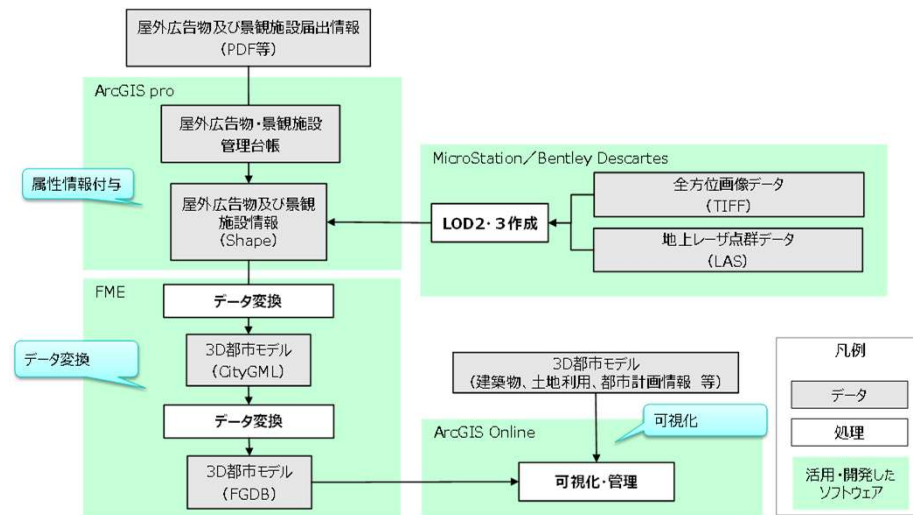
今回は、伝統的建造物群保存地区の建築基準法既存不適格調査結果の可視化を行い、建築基準法第85条の3に対する整合性を整理することが出来たため、都市計画区域・用途地域検討に活用した。今後は、3D都市モデルを用いた、庁外関係者や住民との合意形成に活用できるツールを開発していきたい。

分野	人口規模	面積規模	予算規模
街	1-3万	100-200	3-5千

■ ユースケース概要②

テーマ	都市計画・まちづくり
ユースケース名称	3D都市モデルを活用した景観保存・整備事業への活用事業
目的	作成したLOD2及びLOD3へ情報を付加することにより景観計画区域における適正な管理、把握及び景観保存等への活用を図る。
取組内容	R6年度整備した屋外広告物、景観施設（建築物・都市設備）のモデル地区を拡大し、LOD2またはLOD3を作成する。作成した3D都市モデルを活用し、景観計画の区域区分の見直しや、眺望景観を保つための検討資料として庁内活用する。

■ システム構成図



Ⅲ. 令和7年度採択団体別 事業内容

50.福岡県うきは市

■ ユースケース開発方法

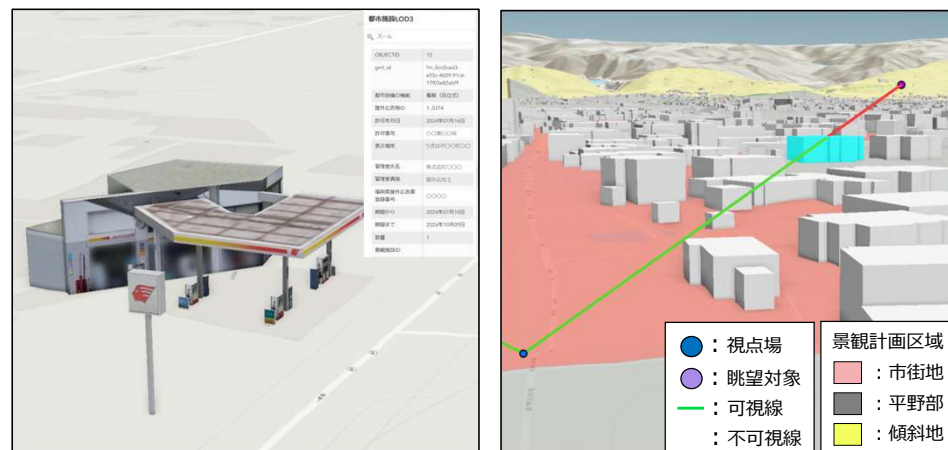
活用データ (3D都市モデル)	<ul style="list-style-type: none"> 建築物LOD1,LOD2,LOD3 (名称、住所、用途、構造種別、計測高さ、地上階数、建築年) 都市設備LOD1,LOD2,LOD3 (計測高さ) 都市計画決定情報LOD1 (準都市計画区域、伝統的建造物群保存地区、街なみ環境整備事業地区) 土地利用LOD1 (土地利用区分、面積)
活用データ (上記以外)	うきは市景観計画
ユースケース 開発方法	<ul style="list-style-type: none"> 屋外広告物・景観区域内届出を航空写真、都市計画基本図を活用して位置特定し、LOD2,LOD3を作成・屋外広告物・景観施設の属性情報の付与を行い可視化する。 3Dビューア(ArcGISOnline等)を使用し、作成した3D都市モデルと景観計画区域を重畳、さらに視点場と眺望対象を結び建築物の遮蔽判定を行う。
政策・事業での 活用	屋外広告物及び景観対象施設の適正な管理・把握、市全域の景観形成、景観保存、景観計画の改訂への検討として活用。
オープンデータ化 情報発信	うきは市公開型GISサイトに掲載

■ KPI

KPI	目標設定	達成状況
屋外広告物・景観施設の事務作業が効率化したと感じる都市計画担当職員の割合	80% (R7年度)	100% (R7年度)

分野	人口規模	面積規模	予算規模
街	1-3万	100-200	3-5千

■ ユースケース開発成果イメージ図



屋外広告物・景観施設の可視化

市内一部地域をモデル地区として、屋外広告物及び景観施設を3D都市モデル化・属性情報を付与し、対象施設の適正な管理・把握に活用。

景観見通し解析の実施

3D都市モデルと景観計画区域を重畳・可視化し、さらに視点場と眺望対象を結び建築物の遮蔽判定を行うことで景観計画改訂の検討資料に活用。

■ 得られた知見や今後の展望

今回は、屋外広告物・景観施設（建築物・都市設備）のモデル地区を拡大、対象施設の適正な管理・把握を行い、景観情報の重畳・眺望解析により景観計画改訂の検討を行うことが出来た。今後は、3D都市モデルを用いた、庁外関係者や住民との合意形成に活用できるツールを開発していきたい。

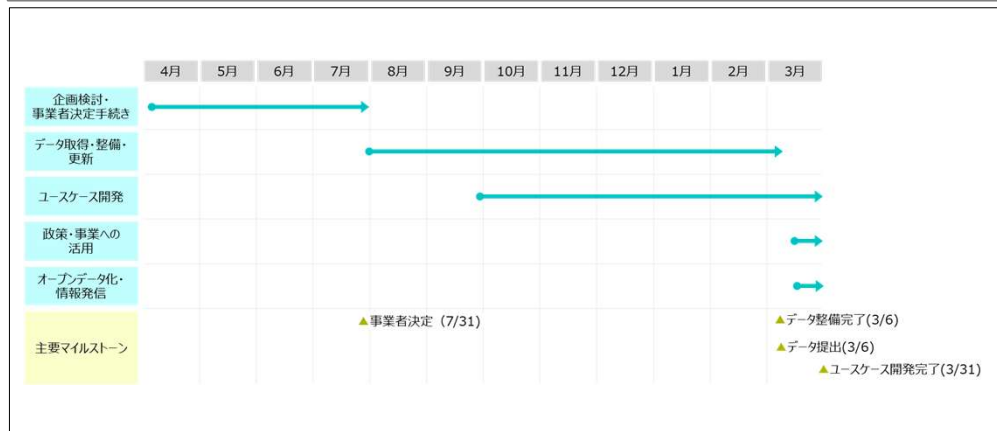
Ⅲ. 令和7年度採択団体別 事業内容

51. 佐賀県鳥栖市

■ 団体基礎情報・プロジェクト全体像

人口	約7.5万人（令和5年1月時点）
市域全域面積	約72km ² （令和5年1月時点）
目標	災害に強い都市基盤を形成し「災害に強く、安全安心で住みたい選ばれるまちづくり」を進める。
課題	九州の交通の要衝として、九州南北、東西の交通・物流の大動脈が通る本市において、近年大雨災害が頻発しており、土砂災害、道路・農地等の冠水が発生している。 とくに、主要な広域幹線道路の通行止めに伴い、周辺地域の道路交通が麻痺し、市内の生活道路への渋滞が波及し、市民生活にも重大な支障が生じている。 このため、大雨災害により発生が予測される内水氾濫について、災害リスクを市民に対しわかりやすく可視化し防災意識の高揚を図るとともに、今後の浸水対策を検討する必要がある。

■ 令和7年度スケジュール



分野	人口規模	面積規模	予算規模
防	5 - 15万	50 - 100	3 - 5千

担当部局	維持管理課
------	-------



■ 補助事業実施項目

事前調査等	—
3D都市モデル整備・更新	3D都市モデル整備（LOD1及びLOD2）
ユースケース開発	3D都市モデルを活用した災害リスク（内水ハザード）の可視化事業
推進事業	—

総事業費	74.613（百万円）※うちR7年度47.223（百万円）
R7年度補助額	23.611（百万円）
補助対象外の関連事業	—

オープンデータ化・可視化・情報発信	<ul style="list-style-type: none"> ・ G空間情報センターへの掲載 【3D都市モデル／関連データ】 ・ PLATEAU VIEWへの掲載 【3D都市モデル／関連データ】 ・ 鳥栖市ホームページ
-------------------	--

R7年度委託事業者	株式会社 建設技術研究所 （3D都市モデル整備・更新、ユースケース開発）
-----------	---

Ⅲ. 令和7年度採択団体別 事業内容

51. 佐賀県鳥栖市

■ 3D都市モデル整備状況（基本セット）

※赤字：R7補助対象地物

LOD	整備地物	対象区域	整備面積	整備年度
LOD1	建築物 交通（道路） 都市計画決定情報 土地利用 地形	市域全域	71.72km ²	R6年度新規 R7年更新
	災害リスク	市域全域（洪水 浸水想定区域、 土砂災害計画区 域及び特別警戒 区域、高潮浸水 想定区域、内水 浸水想定区域）	71.72km ²	R6年度新規 R7年新規・更新 ※内水は新規整備
LOD2	建築物	鳥栖駅周辺約 1.0km ² の建築物 及び市内全域の 公共施設	約1.0km ²	R6年度新規 R7年更新

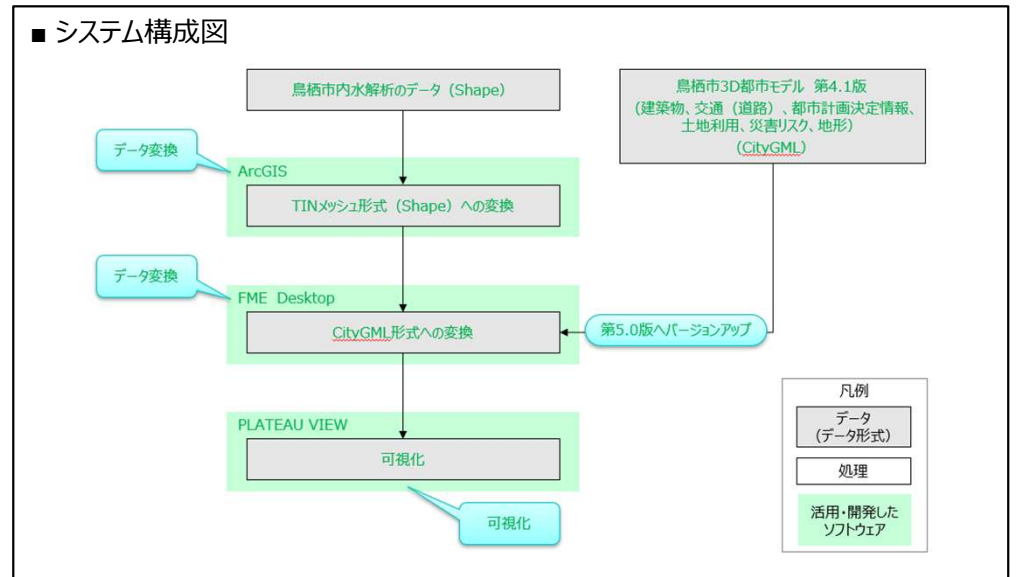
項目	活用したデータ	作成年度	地図情報レベル
平面図	都市計画基本図（既存）	R6年度	2,500
測量成果	既存資料（航空写真）	R4年度	1,000
属性情報	都市計画基礎調査（既存）	R5年度	—

分野	人口規模	面積規模	予算規模
防	5-15万	50-100	3-5千

■ ユースケース概要

テーマ	防災・防犯
ユースケース名称	3D都市モデルを活用した災害リスク可視化事業
目的	<ul style="list-style-type: none"> 浸水シミュレーション3D可視化 市民防災意識の啓発
取組内容	内水浸水想定区域図を作成し、3D都市モデルを整備してビューア上に搭載し、災害リスクを分かりやすく表示し、市民の災害意識の高揚を図るとともに、今後の浸水対策の検討に活用する。

■ システム構成図



Ⅲ. 令和7年度採択団体別 事業内容

51. 佐賀県鳥栖市

■ ユースケース開発方法

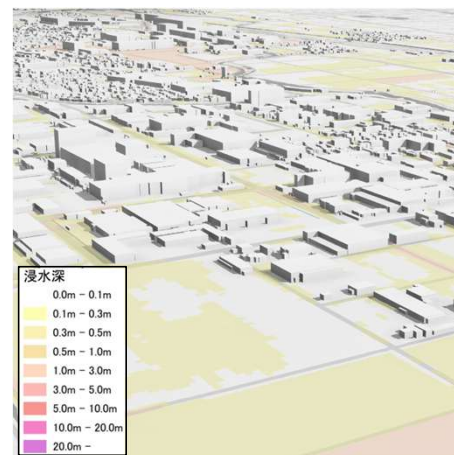
活用データ (3D都市モデル)	<ul style="list-style-type: none"> 建築物LOD1 (名称、用途、構造種別、計測高さ、建築年数) (R6データ利用) 災害リスクLOD1 (浸水継続時間 (内水))
活用データ (上記以外)	避難所、避難地 (名称、災害種別ごとの避難所) (R6データ利用)
ユースケース 開発方法	<ul style="list-style-type: none"> 3D都市モデル及び三次元化した浸水想定区域図をビューア上に搭載し、可視化された災害リスクを分かりやすく表示するシステムの構築。 システムを活用し、内水浸水想定区域を可視化することで、市民の防災意識の高揚を図る。 システムを活用し、今後の浸水対策を検討する。
政策・事業での 活用	3D都市モデル及び三次元化した内水浸水想定区域をビューア上に搭載し、災害リスクを分かりやすく表示し、市民の災害意識の高揚を図るとともに、今後の浸水対策の検討に活用する。
オープンデータ化 情報発信	PLATEU VIEW及びG空間情報センターへのリンクを鳥栖市ホームページに掲載

■ KPI

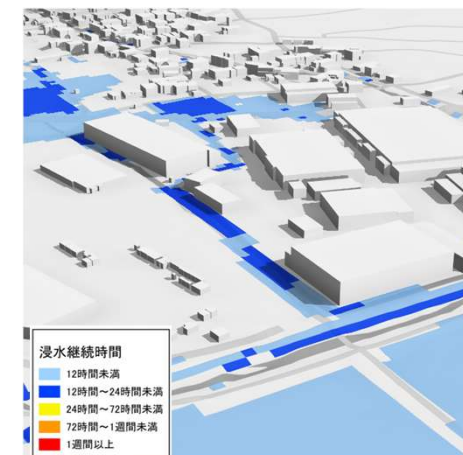
KPI	目標設定	達成状況
市HP内でのアンケートによる回答割合・3D都市モデルを活用することで、防災リスクの理解が進んだと回答した市民の割合	75% (R7年度)	100% (R7年度)

分野	人口規模	面積規模	予算規模
防	5-15万	50-100	3-5千

■ ユースケース開発成果イメージ図



3D内水浸水想定区域
内水浸水想定区域を追加



浸水継続時間情報
内水浸水継続時間情報の可視化を実施

■ 得られた知見や今後の展望

- 2Dではわかりにくいことも、3Dで表現することにより住民の理解を深めることができる。
- 3D都市モデル及び三次元化した内水浸水想定区域等をビューア上に搭載し、災害リスクを分かりやすく表示し、市民の災害意識の高揚を図るとともに、今後の浸水対策の検討に活用する。

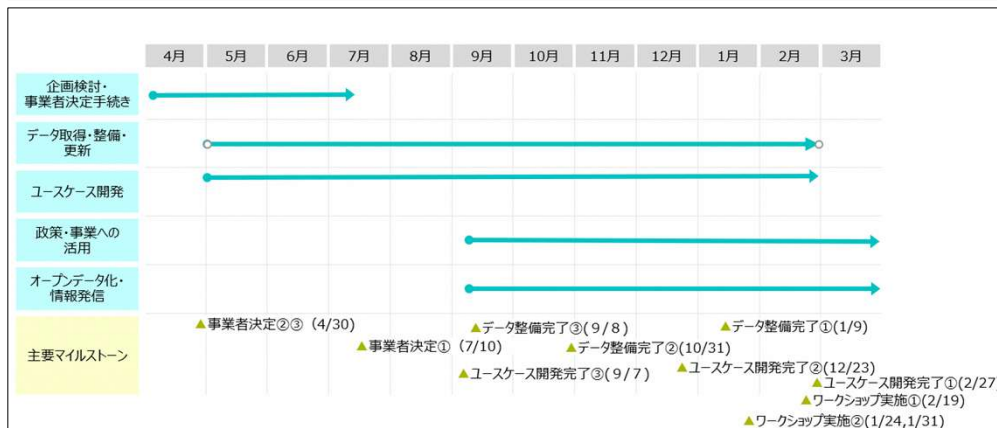
Ⅲ. 令和7年度採択団体別 事業内容

52. 熊本県玉名市

■ 団体基礎情報・プロジェクト全体像

人口	約6.4万人（令和5年1月時点）
市域全域面積	約153km ² （令和5年1月時点）
目標	笑顔があふれるまち、健康と福祉のまち、良質な暮らしができるまちの実現
課題	<ul style="list-style-type: none"> ・ 市中心部（観光地等）の回遊性の向上、地域経済活性化。 ・ 公共交通の利便性向上空白不便地域の移動確保、データを活用した公共交通の最適化、移動需要の見える化、社会状況に対応した移動手段の確保。 ・ 大雨時の水位モニタリングや被災予測による効果的対応。（避難施設配置検討や避難経路検討等） ・ インフラの更新とランニングコスト抑制、道路・橋梁等のインフラの診断とデータ統合によるマネジメントの効率化。（「橋梁の点検データ」×「人流・自動車流」等） ・ 再生可能エネルギー利用の促進、エリア全体での省エネ促進、部門別（家庭、業務）エネルギー消費の特性や地域特性・資源に応じた創エネ促進。

■ 令和7年度スケジュール



分野	人口規模	面積規模	予算規模
活・防・他	5-15万	100-200	2-3千

担当部局	都市整備課
------	-------



■ 補助事業実施項目

事前調査等	—
3D都市モデル整備・更新	—
ユースケース開発	<ul style="list-style-type: none"> ・ 3D都市モデルを活用した観光誘致事業 ・ 災害時の避難行動支援における3D都市モデルを活用した実証実験事業 ・ 3D点群インフラ管理システム構築事業
推進事業	—

総事業費	110.660（百万円）※うちR7年度24.660（百万円）
R7年度補助額	R7年度当初：12.330（百万円） R6年度補正：10.500（百万円）
補助対象外の関連事業	—

オープンデータ化・可視化・情報発信	玉名市ホームページ
-------------------	-----------

R6年度（補正）委託事業者	<ul style="list-style-type: none"> ・ 株式会社モンドリアン（ユースケース開発） ・ 株式会社WorldLink & Company（ユースケース開発）
R7年度委託事業者	株式会社フォーラムエイト（ユースケース開発）

Ⅲ. 令和7年度採択団体別 事業内容

52. 熊本県玉名市

■ 3D都市モデル整備状況（基本セット）

※赤字：R7補助対象地物

LOD	整備地物	対象区域	整備面積	整備年度
LOD1	建築物 交通（道路） 地形	その他 都市機能誘導区域 ほか 上記を除く市全域	109km ² 1.36km ² 151.24km ²	R2年度新規 R5年度更新 R6年度拡充・更新
	都市計画決定情報 災害リスク	その他 市全域	109km ² 152.6km ²	R2年度新規 R6年度拡充・更新
	土地利用	その他 市全域	109km ² 152.6km ²	R2年度新規 R5年度拡充・更新
LOD2	建築物	都市機能誘導区域 ほか	1.36km ²	R2年度新規 R5年度更新 R6年度更新

■ 3D都市モデル整備状況（基本セット以外）

※赤字：R7補助対象地物

LOD	整備地物	対象区域	整備面積	整備年度
LOD3.1	建築物	高瀬裏川河川緑地	0.015km ²	R5年度新規
LOD3.2	交通（道路） 交通（徒歩道）			
LOD1	水部			
LOD3.0	都市設備 植生 地形 橋梁 その他の構造物			

分野	人口規模	面積規模	予算規模
活・防・他	5-15万	100-200	2-3千

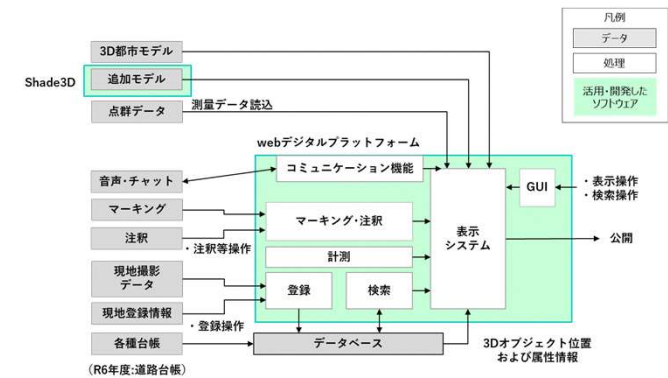


項目	活用したデータ	作成年度	地図情報レベル
平面図	都市計画基本図（既存）	R6年度	2,500
測量成果	新規測量（航空写真）	R5年度	2,500
属性情報	都市計画基礎調査（既存）	R4年度	-
測量成果	その他（高瀬裏川水際緑地）	R5年度	-

■ ユースケース①概要

テーマ	その他
ユースケース名称	3D点群インフラ管理システム構築事業
目的	3D都市モデルと点群データを活用した効果的かつ効率的なインフラ維持管理システムを実現する。
取組内容	3D都市モデル「PLATEAU」を活用したユースケースで、3D都市モデルと点群データを用いて現況のインフラ設備と玉名市が保有する各種台帳の情報を連携させることによって、より効率的な維持管理システムを構築し、視覚的な直観性に基づく点検・メンテナンスの効率化を図る。

■ システム構成図



Ⅲ. 令和7年度採択団体別 事業内容

52. 熊本県玉名市

■ ユースケース開発方法

活用データ (3D都市モデル)	<ul style="list-style-type: none"> 建築物 (LOD1) 地形(LOD1) 地下埋設物(LOD2、別事業作成)
活用データ (上記以外)	<ul style="list-style-type: none"> 玉名市MMS計測による点群データ 航空写真(レベル1000) 各課が管理している台帳
ユースケース 開発方法	<ul style="list-style-type: none"> PLATEAU 3D都市モデルデータをもとに玉名市全域の市道を中心とするwebデジタルプラットフォームを構築する。 R7年度に整備予定の3Dモデルデータを空間内に配置し、将来の活用に備える。 玉名市全域の市道の3D点群データを、玉名市メタバース空間内にインポートして設置する。 市道3D点群データの、市道沿いの所定の道路構造物を対象として位置情報をデータベース化する。 対象：橋梁、歩道橋、トンネル、門型標識、道路標識、照明、擁壁 3Dモデル化対象：橋梁 上記構造物の属性に対し、道路台帳の情報を紐づけることによって、表示・検索可能なシステムを構築する。 3D都市モデルと3D点群をベースとしたクラウドベースの3D可視化対応インフラ管理システムの実現 結果を市のホームページ上に公開する。
政策・事業での 活用	<ul style="list-style-type: none"> メタバース空間の表示UIを用いた玉名市の市道に関わるインフラ管理システム 上記システムにおける市道沿いの道路構造物の2D/3D/点群表示 上記システムにおける道路構造物の登録・表示・検索、各種属性表示 コミュニケーションプラットフォーム インフラ管理システムを市役所内の関係部署職員に対して、報告を行い、操作研修を実施。 現地調査を効率化
オープンデータ化 情報発信	-

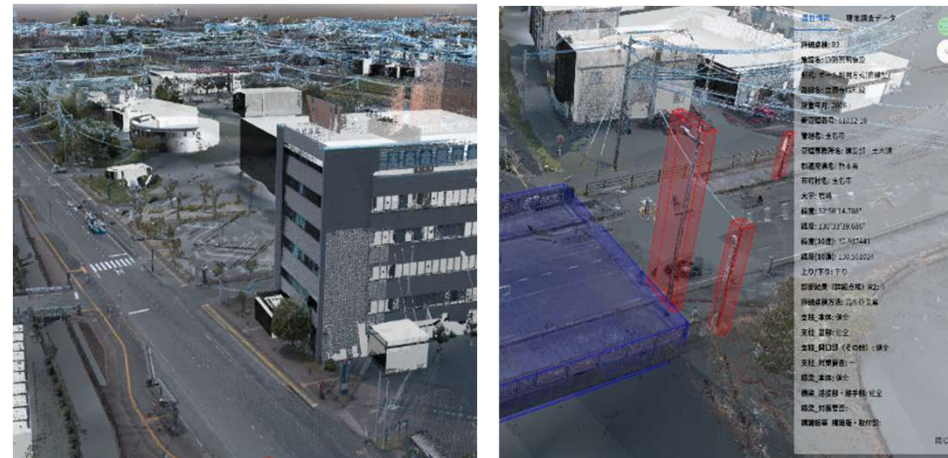
■ KPI

KPI	目標設定	達成状況
職員へのアンケートによる満足度	70%以上 (R7年度)	50% (R7年度)
KPI未達を受けての 今後の対応	システムの周知を図るとともに、継続的に操作研修を実施し、説明、操作という作業を繰り返すことで職員への満足度向上を目指す。	

分野	人口規模	面積規模	予算規模
活・防・他	5-15万	100-200	2-3千



■ ユースケース開発成果イメージ図



玉名市全域を再現したプラットフォームを構築、及び既存台帳データベース化
玉名市全域の点群、3D都市モデルを設置したブラウザ上で動作する空間を構築。台帳をデータベース化し、台帳検索及び施設情報の可視化を行うとともに、遠隔からの現地調査情報の登録を可能とすることで、現地調査業務の効率化を図る。

■ 得られた知見や今後の展望

- 職員が直感的に操作できる3D空間内で、統合されたデータを視覚的に理解・活用できる空間を実現できた。また、結果報告及び研修会で得られた職員の声として、「職員間で施設管理について共有しやすいと感じた」が挙げられる。
- 各種台帳関係についてのロードマップを作成したので、庁内調整を図りつつ、システムへ連携を促進する。

Ⅲ. 令和7年度採択団体別 事業内容

52. 熊本県玉名市

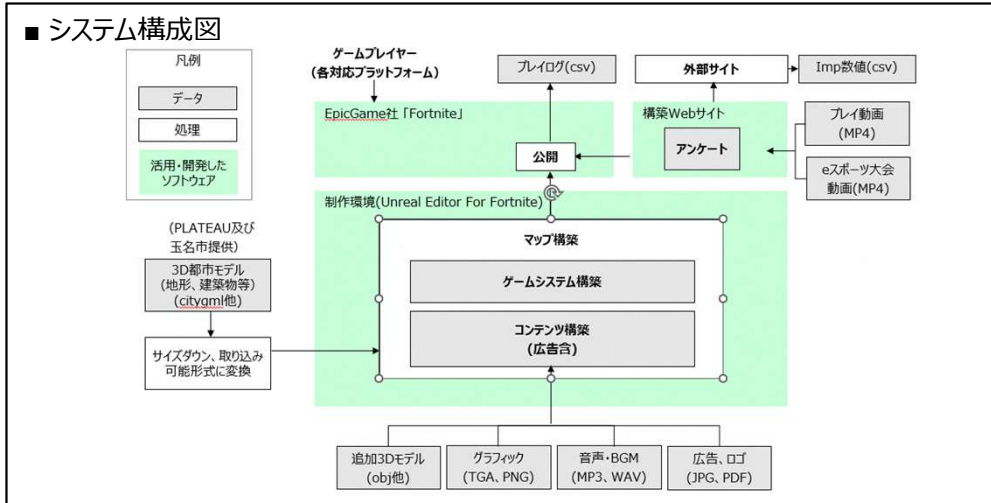


PLATEAU
by MLIT

■ ユースケース②概要 (R6年度補正分)

テーマ	地域活性化・観光・コンテンツ
ユースケース名称	3D都市モデルを活用した観光誘致事業
目的	メタバース空間を利用した新たな関係人口の取り込みと、3D都市モデルを活用したマネタイズ化による地域活性化、雇用創出の実証実験を行うことを目的とする。
取組内容	3D都市モデル「PLATEAU」を活用したユースケースで、R5年度に作成した、元湯通り、蓮華院誕生寺奥之院地域のLOD1モデルを使った仮想空間をFortnite上にマップとして構築し、そのマップを活用したeスポーツイベントをオフライン・オンラインで実施。観光誘致及び、SNS等を活用して認知拡大、観光興味喚起を実証する。

■ システム構成図



分野	人口規模	面積規模	予算規模
活・防・他	5-15万	100-200	2-3千

■ ユースケース開発方法

活用データ (3D都市モデル)	<ul style="list-style-type: none"> 建築物→LOD1 用途→蓮華院誕生寺奥之院、地形、建物の位置利用
活用データ (上記以外)	他に利用したデータ→GoogleMap、ロケハンで撮影した現地の写真
ユースケース開発方法	<ul style="list-style-type: none"> 玉名市より支給するPLATEAU LOD1 のデータを用いて元湯通り、蓮華院誕生寺奥之院のメタバース空間をEpic Games社のゲームプラットフォーム「Fortnite」上に構築する 構築した空間内に「企業版ふるさと納税」を活用した広告枠を構築し、出稿希望の企業ロゴ等を反映できるようにする。 メタバース空間構築時、不足する3Dモデルがある場合は追加制作し、メタバース空間構築に用いる。 構築したマップに同じく「Fortnite」のゲームシステムを構築し、ゲームとして利用できるようにする。またゲームに使用するアイテムを玉名市の特産品等に変更する。ゲーム内には広告枠を設置。「企業版ふるさと納税」を活用し、玉名市企業へ広告出稿の提案をする。アイテムや広告を市内/外のプレイヤーがゲーム内で見ること、玉名市への興味喚起や理解を深めるきっかけを提供する。 R7年度内にオンライン大会「TAMANA CUP(仮)」を1回、「e-Spa TAMANA」と連携しリアル大会を1回、計2回のeスポーツ大会を開催する。 並行してメタバース空間を一般公開する。 市内の店舗やお祭り、学校の文化祭等で広く利用できるよう告知し、マップの活用頻度を上げる。 オンライン大会の様子をSNSや動画プラットフォームから配信し、認知拡大、マップへの集客を図る。 結果を市役所内検討会で報告しホームページで公開する。
政策・事業での活用	<ul style="list-style-type: none"> 元湯通り、蓮華院誕生寺奥之院のメタバース空間をFortnite上にゲームマップとして構築し、Fortniteシステム上に一般公開 メタバース空間内に配置する新規作成データ、及び広告データを含む ゲームプレイの様子、eスポーツ大会の様子を録画した動画データ
オープンデータ化情報発信	-

■ KPI

KPI	目標設定	達成状況
大会参加者アンケートによる満足度	60%が満足 (R7年度)	90%が満足 (R7年度)

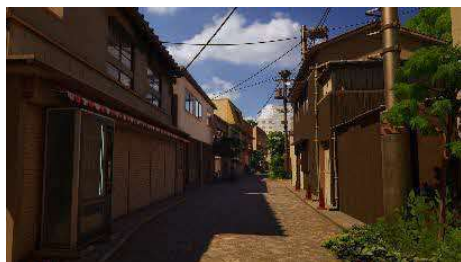
Ⅲ. 令和7年度採択団体別 事業内容

52. 熊本県玉名市

■ ユースケース開発成果イメージ図



**蓮華院誕生寺
奥之院のデータ活用**
蓮華院誕生寺 奥之院の地形データを活用し建築物の配置等を再現



元湯通り
元湯通りの外見や建築の配置図を参考に再現

■ 得られた知見や今後の展望

PLATEAUデータにより、蓮華院誕生寺奥之院や元湯通りをUEFN内で忠実に再現。3D都市モデルは、地域資産を活用した体験型コンテンツ開発の基盤となる知見を得た。今後は制作したゲームを元に地域の魅力発信の催事や地域連携の強化への使用を検討している。

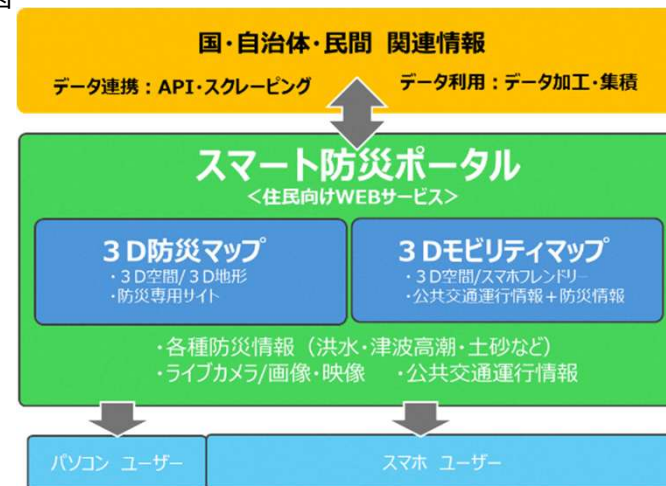
分野	人口規模	面積規模	予算規模
活・防・他	5-15万	100-200	2-3千



■ ユースケース③概要 (R6年度補正分)

テーマ	防災・防犯
ユースケース名称	災害時の避難行動支援における3都市モデルを活用した実証実験事業
目的	河川流域において3D都市モデルを活用した災害情報、災害地域映像情報、公共交通機関情報のデジタルツインによる提供の実証により、効果的な避難行動支援を実現する。
取組内容	災害時の避難において、避難の決定及び避難ルートの判断に、玉名市の3D都市モデル（LOD1）を基盤に、河川氾濫、津波・高潮情報、災害時の映像・公共カメラ映像・公共交通機関の運行情報を効果的に表現した仮想空間を構築し、住民サービスとして有効性を実証する。

■ システム構成図



Ⅲ. 令和7年度採択団体別 事業内容

52. 熊本県玉名市

■ ユースケース開発方法

活用データ (3D都市モデル)	<ul style="list-style-type: none"> 建築物LOD1 (名称、用途、構造種別、計測高さ、地上階数) 災害リスクLOD1 (洪水浸水想定区域の水面の範囲、浸水深の区分、土砂災害警戒区域の範囲、起こりうる災害の内容)
活用データ (上記以外)	<ul style="list-style-type: none"> 水位観測所/水位計、避難所、ライブカメラ、潮汐情報、土砂災害区域 バス運行情報 (GTFS) バスルート、地形 (標高) データ 国土地理院地図、MapBox地図、OpenStreetMap
ユースケース 開発方法	<ul style="list-style-type: none"> 玉名市より支給するPLATEAU LOD3 のデータを用いて菊池川流域のデジタルツイン空間を構築する。 目的に合わせたデジタルツイン空間を構築する 目的①-避難意志決定：河川水位、氾濫/津波・高潮浸水 目的②-避難場所判断：災害時のドローン/スマホ映像を共有 目的③-避難ルート判断：公共交通運行情報及びライブカメラ情報共有 * デジタルツイン空間は、目的と必要な表現・利用方法に合わせて3つのプラットフォームから選択 CesiumJS (PLATEAUでも採用されているデジタルツインプラットフォームCesium社が提供) MapBoxJS (地図企業MapBox社が提供) MaprayJS (SONY社) が提供 * 関連情報は、川の防災情報 (国交省)、防災情報くまもと・くまもとデータ連携基盤 (熊本県) とデータ連携 ・複数のデジタルツイン空間を、自在に遷移し、住民環境で利用するために最適化 目的①-避難意志決定：河川水位、氾濫/津波・高潮浸水 目的②-避難場所判断：災害時のドローン/スマホ映像を共有 目的に合わせたデジタルツイン環境の自在な切り替え パソコン・スマホのインターネット接続による利用環境を提供する。 サーバーのアクセス状況のログ、訪問数やECサイト、誘導率など、利用状況の分析を行う。 アンケートページへの誘導し、アンケートの記載ができるようにする。 継続利用 (実装フェーズ) に移行することを想定して、流域自治体における経費 (導入・運用コスト) の最小化のポイント明確化、流域自治体の経費負担モデル (案) の構築 を目標に取り組み。
政策・事業での 活用	<ul style="list-style-type: none"> 菊池川流域の防災マップとして一般公開 SNS等による利用促進 地域コミュニティにおける利用促進 アンケートを分析し、周知活動、広域連携及び追加機能に活用する。
オープンデータ化 情報発信	-

分野	人口規模	面積規模	予算規模
活・防・他	5 - 15万	100 - 200	2 - 3千



■ KPI

KPI	目標設定	達成状況
地域の災害リスクについての理解促進・ 地域の災害リスクについての理解 (アンケート)	60%以上 (R7年度)	81.6% (R7年度)

Ⅲ. 令和7年度採択団体別 事業内容

52. 熊本県玉名市

分野	人口規模	面積規模	予算規模
活・防・他	5-15万	100-200	2-3千

■ ユースケース開発成果イメージ図



3D防災マップ

3D空間/3D地形に、各種防災情報閲覧機能、参画10自治体の防災情報、国、県の防災情報へリンク機能を提供。パソコン・Wi-Fi環境で利用に最適化。

3Dモビリティマップ

- スマホフレンドリーの3D空間の構築。
- 公共交通（バス）運行情報の提供し、平常利用（フェーズフリー）から、防災時の利用までの環境を実現。

■ 得られた知見や今後の展望

- 3D都市モデルは、一部の自治体のみで整備されているため、他自治体との連携を推進するため、3D都市モデルのカバー率が上がることを期待する。
- 3Dマップの有効性は、理解を得られた、フェーズフリー、スマホフレンドリーの定着には、システム開発の意識的な取り組みも必要だが、リリース後の、慣れを醸成する取り組みと期間が必要である。

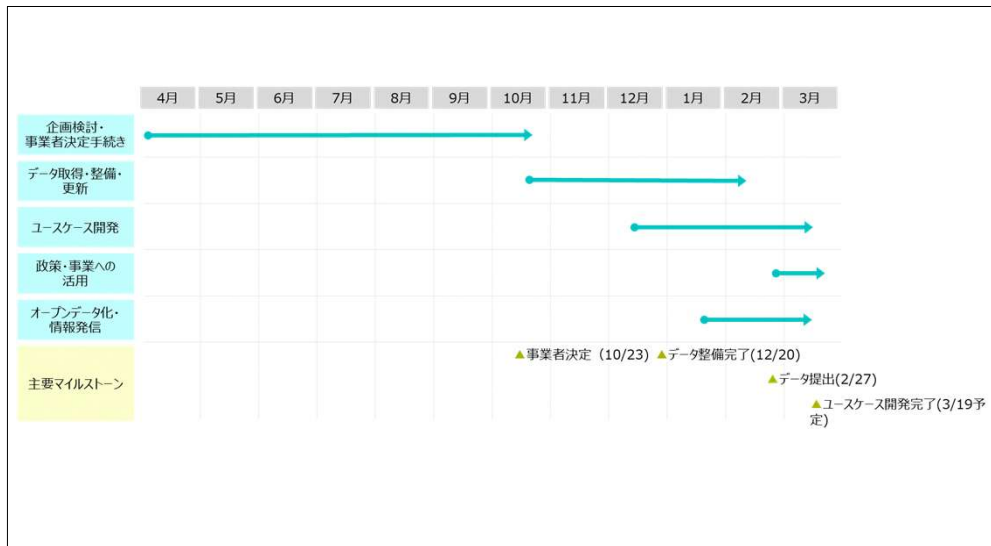
Ⅲ. 令和7年度採択団体別 事業内容

53. 熊本県宇城市

■ 団体基礎情報・プロジェクト全体像

人口	約5.8万人（令和5年1月時点）
市域全域面積	約189km ² （令和5年1月時点）
目標	ここがいい。ともに過ごすまち 宇城
課題	JR松橋駅周辺地区は本市における重要な交通結節点であるため、駅前空間における都市としての現況から課題やニーズを把握し、駅前広場や道路網の整備の方向性を検討する必要がある

■ 令和7年度スケジュール



分野	人口規模	面積規模	予算規模
街	5-15万	100-200	1-2千

担当部局	都市整備課
------	-------



■ 補助事業実施項目

事前調査等	-
3D都市モデル整備・更新	3D都市モデル整備 (LOD2, LOD3)
ユースケース開発	3D都市モデルを活用した事業まちづくり(交通)事業の検討
推進事業	G空間センターへの搭載

総事業費	10.000 (百万円) ※うちR7年度10.000 (百万円)
R7年度補助額	10.000 (百万円)
補助対象外の関連事業	-

オープンデータ化・可視化・情報発信	<ul style="list-style-type: none"> G空間情報センターへの掲載【3D都市モデル／関連データ／UCデータ】 PLATEAU VIEWへの掲載【3D都市モデル／関連データ／UCデータ】 宇城市ホームページ
-------------------	--

R7年度委託事業者	国際航業株式会社 熊本支店 (事前調査、3D都市モデル整備・更新、ユースケース開発、推進事業)
-----------	--

Ⅲ. 令和7年度採択団体別 事業内容

53. 熊本県宇城市

■ 3D都市モデル整備状況（基本セット）

※赤字：R7補助対象地物

LOD	整備地物	対象区域	整備面積	整備年度
LOD1	建築物 交通（道路） 都市計画決定情報 土地利用 災害リスク 地形	都市計画区域	34.4km ²	R6年度新規
LOD2	建築物	松橋駅周辺エリア 都市機能誘導区域	0.1km ² 、 10棟 0.2km ² 、 約520棟	R6年度新規 R7年度新規

■ 3D都市モデル整備状況（基本セット以外）

※赤字：R7補助対象地物

LOD	整備地物	対象区域	整備面積	整備年度
LOD1	区域	建築基準法第22条 区域	1.44km ²	R6年度新規
LOD3.0	都市設備	JR松橋駅東口「バ ス・タクシー乗降場」と 「駐輪場」の上屋		R7年度新規

項目	活用したデータ	作成年度	地図情報レベル
平面図	都市計画基本図（既存）	R6年度	2,500
測量成果	既存資料（航空写真）	R6年度	1,000
属性情報	都市計画基礎調査（既存）	R5年度	—

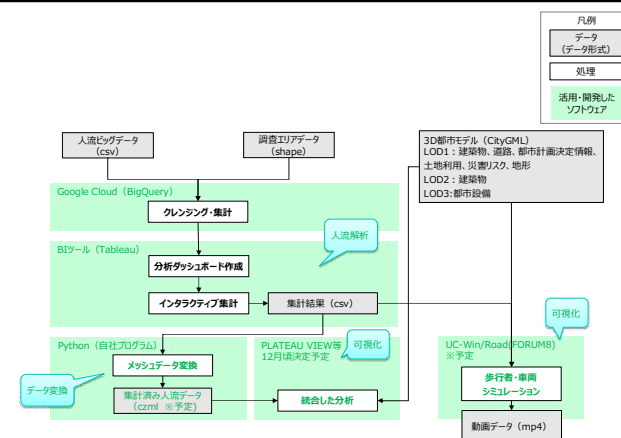
分野	人口規模	面積規模	予算規模
街	5-15万	100-200	1-2千



■ ユースケース概要

テーマ	都市計画・まちづくり
ユースケース 名称	3D都市モデルを活用したまちづくり（交通）事業
目的	松橋駅周辺再整備等検討
取組内容	JRの運行本数が往復30本/日を超える松橋駅だが、東口は広場が狭く、通勤通学時の各種車両が交錯し、歩行者動線の確保が困難である。また駐輪場から駅舎までの利便性にも課題があり、歩行者の安全な空間の確保が必要である。 また、松橋駅東口へのバスターミナル移転計画（九州産交）があり、駅東口の交通結節性の検討が重要課題となっているため、松橋駅及び現行の松橋バスターミナルの人流データを取得し、ターミナル移転前後の人流の把握及び駅東口の混雑状況を把握し、3D都市モデル上で松橋駅の拠点化及び交通結節性の検討を実施する。

■ システム構成図



Ⅲ. 令和7年度採択団体別 事業内容

53. 熊本県宇城市



■ ユースケース開発方法

活用データ (3D都市モデル)	<ul style="list-style-type: none"> 建築物LOD1, LOD2 (用途), 道路LOD1, 都市設備LOD3 都市計画決定情報LOD1
活用データ (上記以外)	人流データ (GPS)
ユースケース 開発方法	<ul style="list-style-type: none"> 対象地を選定し、3D都市モデルをLOD2, LOD3で作成する。 GPSやwi-fi等を活用し、人流データを取得。ソフトウェアなどを用いて可視化・シミュレーション。 シミュレーション結果をもとに、駐輪場の設置個所や駅周辺のまちづくり施策検討へ活用。 3D都市モデルのイメージや市の取り組みを広く気軽に庁内外に伝えられるようにイメージ動画を作成する。 松橋駅東口で整備する都市設備LOD3 (バス・タクシー乗降場と駐輪場) と建築物LOD2を、シミュレーションソフトを利用して加工を行い、リアリティのある動画に仕上げる。 動画の内容は松橋駅東口付近をシミュレーションし、人の視点に立って駅付近の人や車両の往来や混雑を確認することができるものである。 あらかじめ視点が定まり自動的にシーンが移り変わる動画に加えて、市のPCにはフリーのビューソフトをインストールし、手で視点を変えて作成イメージを閲覧することができるデータも用意する。 イメージ動画及び人流データの結果を活用し、松橋駅整備計画等の検討資料として利用。
政策・事業での 活用	<ul style="list-style-type: none"> 人流データを取得し、バスターミナル発着地点検証等松橋駅の交通結節性を検証する 人流データと松橋駅出入口の向き、道路との関係性などから駐輪場等の設置個所検討に活用する。 分析結果をもとに、道路や駅前広場の設計や、同線計画など松橋駅整備計画の検討材料とする。
オープンデータ化 情報発信	<ul style="list-style-type: none"> PLATEAU VIEWへの搭載 G空間情報センターへの掲載

■ KPI

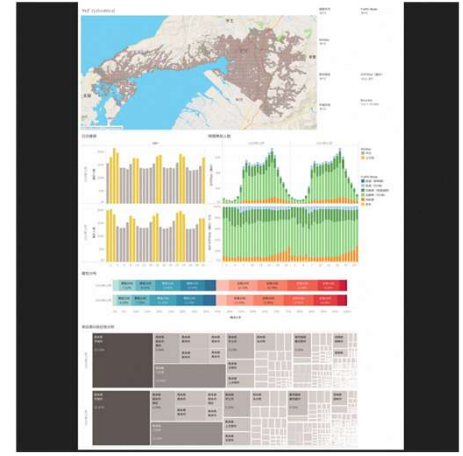
KPI	目標設定	達成状況
職員へのアンケートにおけるバスターミナル移転前後の人流の把握及び駅東口の混雑状況を把握できた割合	80% (R7年度)	88% (R7年度)

分野	人口規模	面積規模	予算規模
街	5 - 15万	100 - 200	1 - 2千

■ ユースケース開発成果イメージ図



松橋駅ロータリーのVR
JR松橋駅の現状イメージと駐輪場を設置した場合の将来像を作成



宇城市全域人流分析ダッシュボード
GPSデータを用いて宇城市全域を125mメッシュ統計で可視化

■ 得られた知見や今後の展望

- 松橋駅周辺のVRイメージを作成したことにより、駅東口駅前広場及び駐輪場の混雑状況に関する課題を共有しやすくなり、またこの対策案（新規駐輪場を整備した後の人流シミュレーションを実施）イメージを可視化できた。
- 宇城市全体を俯瞰できる人流データと、指定した場所や道路をピンポイントで確認できる人流分析ツールを合わせて使うことで、市内の移動状況をデータで示すことができ、本市の人流特性の把握及び、交通渋滞発生個所の推測等を行うことができた。今後はより具体的な渋滞緩和施策の検討などカーブローデータなどと合わせて分析してみたい。

目次

I. Project PLATEAUについて	
1. Project PLATEAUとは	2
2. 3D都市モデルとは	3
3. 整備都市	4
II. 都市空間情報デジタル基盤構築支援事業（PLATEAU補助事業）の概要	
1. 都市空間情報デジタル基盤構築支援事業（PLATEAU補助事業）とは	6
III. 令和7年度採択団体別事業内容	
1. 採択団体一覧	8
2. 団体別事業内容	14
IV. 令和6年度採択団体 フォローアップ調査	
1. 採択団体一覧	230
2. 団体別事業内容	231
※ 3D都市モデル整備状況において、R6補助対象地物を赤字としております。	

IV. 令和6年度採択団体 フォローアップ調査

1. 採択団体一覧

※令和6年度採択団体のうち、令和6年度末にKPIを未計測だった団体 及び 繰越手続きを行い令和7年度支援対象外の団体を対象とした。

番号	地域	地方公共団体名	担当部署	掲載ページ
R6-06	関東	栃木県宇都宮市	都市計画課	P231
R6-07	関東	群馬県前橋市	都市計画課	P235
R6-17	関東	東京都東村山市	経営改革課	P238
R6-21	中部	長野県安曇野市	都市計画課	P241
R6-23	中部	岐阜県岐阜市	都市計画課	P246
R6-35	近畿	大阪府東大阪市	危機管理室	P251
R6-36	近畿	和歌山県和歌山市	都市計画課	P254
R6-38	中国	島根県松江市	都市政策課	P258
R6-39	中国	島根県益田市	都市整備課	P263
R6-41	中国	岡山県岡山市	都市計画課	P268
R6-46	中国	山口県周南市	都市政策課	P271
R6-48	四国	愛媛県東温市	都市整備課	P277

IV. 令和6年度採択団体 フォローアップ調査

R6-06. 栃木県宇都宮市



PLATEAU
by MLIT

■ 団体基礎情報・プロジェクト全体像

人口	約52万人（令和6年12月時点）
市域全域面積	416.85km ² （令和6年12月時点）
主な産業 地域課題等	<p>本市は、栃木県のほぼ中央、東京から北に約100kmの距離に位置し、面積は416.85km²で、県土の約6.5%を占めている。人口は約52万人。 本市の市域を超えた広域的な経済や生活、交流などの拠点として、圏域の発展をリードする役割を担う。</p> <p>南北には東北新幹線、東北自動車道、国道4号が、東西には北関東自動車道が市内を貫くなど、主要な交通が交差する要衝にある。</p> <p>豊かな自然環境や高度な都市機能など商農がバランスよく調和した都市。 都市全体の課題は、人口減少・少子高齢化、デジタル化の急速な進展への対応、脱炭素社会の構築。</p> <p>「ネットワーク型コンパクトシティ」（NCC）を土台に「地域経済循環社会」「地域共生社会」「脱炭素社会」の3つの社会が人づくりの取り組みやデジタル技術の活用によって発展する「夢や希望がかなうまち」の実現を目指している。</p>

■ 令和6年度スケジュール



分野	人口規模	面積規模	予算規模
街	15万以上	200-500	3-5千

担当部局	都市計画課
------	-------

■ 補助事業実施項目

目標	都心部における人中心のウォーカブルなまちの実現に向けた緑豊かで魅力ある都市空間の創出（まちづくりの市民理解促進コンテンツ作成事業）
課題	<p>JR宇都宮駅西側の大通りを中心とした都心部においては、ライトラインを基軸とした公共交通と一体となった魅力ある都心部の将来像実現に向け、市民や事業者が主体となったウォーカブルなまちづくりを更に推進するため、まちなかの空間や市民等の移動や滞在の仕方が、どのように変化するか共有する必要がある。</p> <p>ライトライン導入や緑豊かで魅力ある景観の形成に関する事業など、大通りを中心とした空間形成や、人や自動車の誘導策など、将来像実現に向けた計画や施策の効果等について、関係者や地元への説明時等に、わかりやすく示す必要がある。</p>
創出価値	<ul style="list-style-type: none"> 3D都市モデルを活用し、将来の空間イメージや取組の共有を円滑に進められる。 まちづくりにおける合意形成や関係者の意見の吸い上げに効果的である。

事前調査等	-
3D都市モデル整備・更新	-
ユースケース開発	・ 都心部まちづくり市民理解促進コンテンツ作成業務
推進事業	-

総事業費（予定）	5,328（万円） ※うちR6年度3,757（万円）
R6年度補助額	1,540（万円）
補助対象外の関連事業	-

オープンデータ化・可視化・情報発信	・ 市ホームページ上での公開
-------------------	----------------

R6年度委託事業者	森ビル株式会社（都心部まちづくりの市民理解促進コンテンツ作成業務）
-----------	-----------------------------------

IV. 令和6年度採択団体 フォローアップ調査 R6-06. 栃木県宇都宮市

■ 3D都市モデル整備状況（基本セット）

※赤字：R6補助対象地物

LOD	整備地物	対象区域	整備面積	整備年度
LOD1	建築物 交通(道路) 都市計画決定情報 土地利用 災害リスク 地形	宇都宮市全域	416.85km ²	R2年度整備済
	建築物 交通(道路) 都市計画決定情報 土地利用 災害リスク 地形	宇都宮市全域	416.85km ²	R5年度整備済
LOD2	建築物	高次都市機能誘導区域	3km ²	R2年度整備済
		高次都市機能誘導区域	3km ²	R5年度整備済

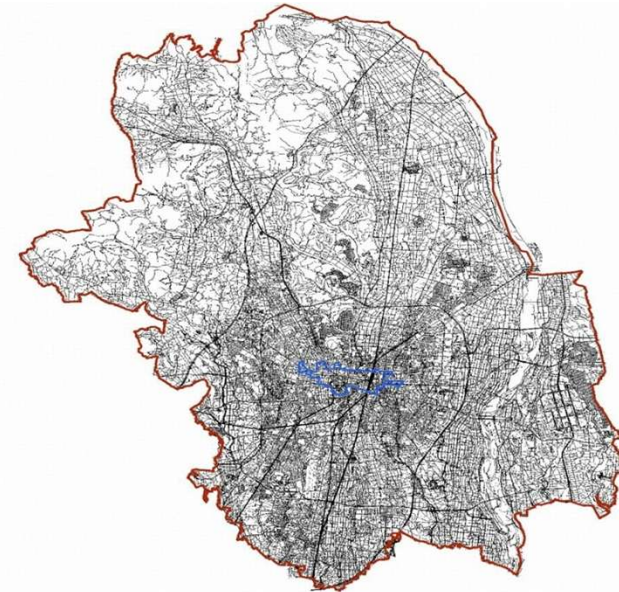
■ 3D都市モデル整備状況（基本セット以外）



※赤字：R6補助対象地物

LOD	整備地物	対象区域	整備面積	整備年度
LOD1	都市機能誘導区域	都市機能誘導区域	17.33km ²	R5年度整備済
	居住誘導区域	居住誘導区域	46.72km ²	R5年度整備済

分野	人口規模	面積規模	予算規模
街	15万以上	200-500	3-5千

■ 3D都市モデル整備エリア図



	LOD1（建築物、交通（道路）、都市計画決定情報、土地利用、災害リスク、地形）	宇都宮市全域（416.85km ² ）
	LOD2（建築物）	高次都市機能誘導区域（3km ² ）

項目	活用したデータ	作成年度	地図情報レベル
平面図	都市計画基本図（既存）	R2年度	2,500
測量成果	新規測量（航空写真）	R2年度	2,500
属性情報	都市計画基礎調査（既存）	R3年度	—

IV. 令和6年度採択団体 フォローアップ調査

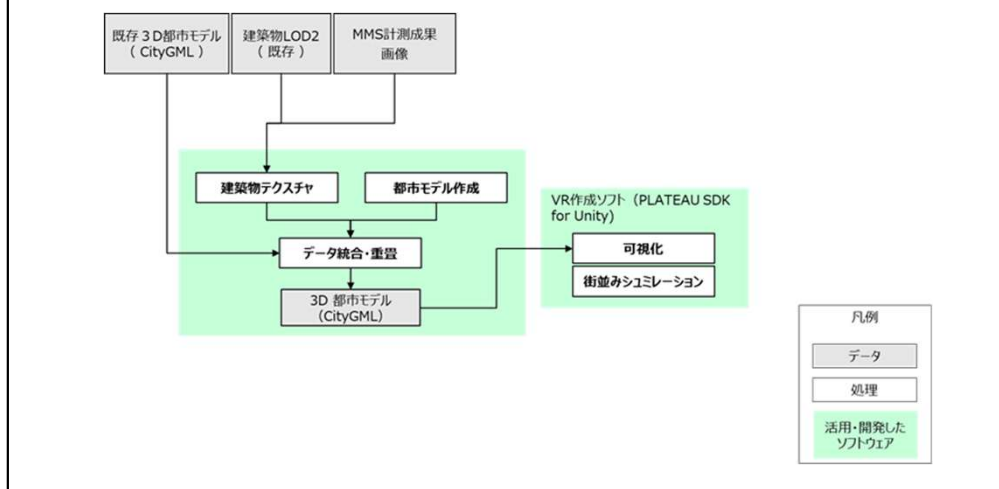
R6-06. 栃木県宇都宮市



■ ユースケース概要

分野	都市計画・まちづくり・地域活性化
目的	都心部の将来像実現を官民協働で取り組むため、市民や事業者に対し、様々な機会を通じて、都心部におけるウォーカブルなまちづくり等の取組に関する市民理解の促進を図る。
取組内容	都心部の東西都心軸となる大通り沿線において、ビジョンが描くまちの変化を共有しながら、ライトライン導入の検討や緑豊かで魅力ある景観の形成に関する事業などの大通りを中心とした空間形成、人や自動車の誘導策など、将来像実現に向けた計画案や施策の効果等について、仮想現実空間でシミュレーションなどが可能なコミュニケーションツールを作成し、空間形成に関する合意形成の円滑化を図る。

■ システム構成図



分野	人口規模	面積規模	予算規模
街	15万以上	200-500	3-5千

■ ユースケース開発方法

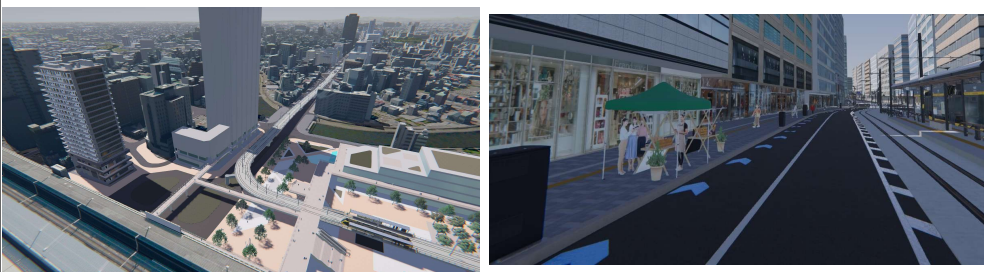
活用データ (3D都市モデル)	<ul style="list-style-type: none"> 建築物LOD1, LOD2 (名称, 分類 (業務施設や商業施設, 文教厚生施設など), 用途, 建築年, 計測高さ, 地上/地下階数, 住所, 建築/図上面積 (上から見た建築物の面積), 構造種別, 調査年, 規模 (敷地面積) 等) 道路LOD1 (道路区分, 道路構造, 作成日)
活用データ (上記以外)	-
ユースケース開発方法	<ul style="list-style-type: none"> R4年度において、可視化事業の検討を進めるため、3D表示が可能な都市計画情報管理システム (行政内利用) を本課へ導入。 R3年度に都市計画基礎調査 (市全域)、R2年度に都市計画基本図 (市南部) のデータが新たに作成されているため、R5年度に3D都市モデルを既存データから最新データに更新を行い整備された。 作成した都市計画3次元データを活用し、人の回遊・滞在で使う空間をVR化し、沿道建築の撮影した写真 (MMS計測) を貼付け、宇都宮駅西側へのライトライン延伸や建物の移動や色彩の変更等を行ったり、ストリートファニチャーなどを配置することなど、整備前後の街並みイメージの比較を行う。 計画案や施策の効果等を分かりやすく関係者や地元への説明する際の、コミュニケーションツールとして活用する。 街なかの空間について、現状と将来のイメージを比較しながら、景観形成に関する事業など人中心のウォーカブルなまちづくりに必要な取組の具体案を官民一体で検討する。
政策・事業での活用	<ul style="list-style-type: none"> R6年度にユースケース開発で整備予定のシステム公開。 目指す将来のまちイメージについて、計画案・施策の効果・整備前後の比較などを分かりやすく関係者や地元民への説明する際のコミュニケーションツールとして活用し、合意形成を図る。
オープンデータ化情報発信	市ホームページ上での公開

■ KPI

KPI	目標設定	達成状況
関係者協議や説明会などにおいて、目指す将来のまちの姿のイメージをビジュアル的に理解を深めることができた人 (人)	肯定的評価6割以上 (R6年度)	肯定的評価96% (R7年度)

IV. 令和6年度採択団体 フォローアップ調査 R6-06. 栃木県宇都宮市

■ ユースケース開発成果イメージ図



【現況と将来計画イメージの比較】

現況の街並みと将来計画の街並みを再現したVRを活用し、様々な視点で瞬時に切り替えながら街の変化を確認できる。

【居心地の良いウォークアブルな空間づくりのシミュレーション】

壁面後退された沿道間において、どのような空間が人が居心地のよいものであるか、任意のツールを配置してシミュレーションが可能。

分野	人口規模	面積規模	予算規模
街	15万以上	200-500	3-5千

■ 今後の展望

今後、VRを活用したライトライン駅西側延伸の市民理解促進を加速化していくため、将来の街なかをライトラインに乗車した目線でツアー体験できる機能等や、意見交換を活発に行えるよう人や車の流れなど描画するツールを追加したい。

IV. 令和6年度採択団体 フォローアップ調査

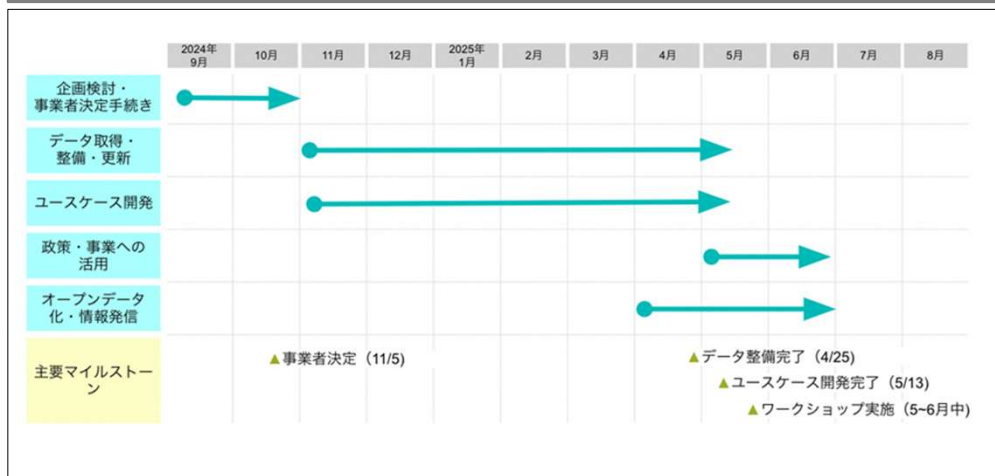
R6-07.群馬県前橋市



■ 団体基礎情報・プロジェクト全体像

人口	約33万人（令和6年4月時点）
市域全域面積	311.59km ² （令和6年4月時点）
目標	人口減少社会に対応した持続可能なまちづくりの実現
課題	<ul style="list-style-type: none"> 住民の災害リスクへの理解と防災意識の向上 まちづくりにおけるデジタル技術の活用。多様な主体がデータを共有、活用することによるまちづくりの効率化・高度化 持続可能でコンパクトなまちづくりと公共交通を中心とした交通ネットワークの構築

■ 令和6年度スケジュール



分野	人口規模	面積規模	予算規模
街・防	15万以上	200-500	2-3千

担当部局	都市計画課
------	-------

■ 補助事業実施項目

事前調査等	3D都市モデルの整備範囲や整備内容の検討
3D都市モデル整備・更新	-
ユースケース開発	3D都市モデルを活用したデジタルツイン環境構築事業
推進事業	-

総事業費（予定）	6,750（万円） ※うちR6年度3,000（万円）
R6年度補助額	1,500（万円）
補助対象外の関連事業	-

オープンデータ化・可視化・情報発信	<ul style="list-style-type: none"> G空間情報センターへの掲載 【3D都市モデル／関連データ】 PLATEAU VIEWへの掲載 【3D都市モデル／関連データ】 前橋市ホームページに掲載 【ユースケース動画等】
-------------------	---

R6年度委託事業者	シナスタジア/パスココンソーシアム（3D都市モデルの整備範囲や整備内容の検討、3D都市モデルを活用したデジタルツイン環境構築事業）
-----------	---

IV. 令和6年度採択団体 フォローアップ調査 R6-07.群馬県前橋市

■ 3D都市モデル整備状況（基本セット）

※赤字：R6補助対象地物

LOD	整備地物	対象区域	整備面積	整備年度
LOD1	建築物 交通(道路) 都市計画決定情報 土地利用 災害リスク 地形	前橋市全域	311.59km ²	R5年度整備済
LOD2	建築物	前橋市市街地総合再生計画区域	1.5km ²	R5年度整備済

項目	活用したデータ	作成年度	地図情報レベル
測量成果	3.既存資料（航空写真）	R4年度	2,500
	前橋市3D都市モデル	R5年度	2,500

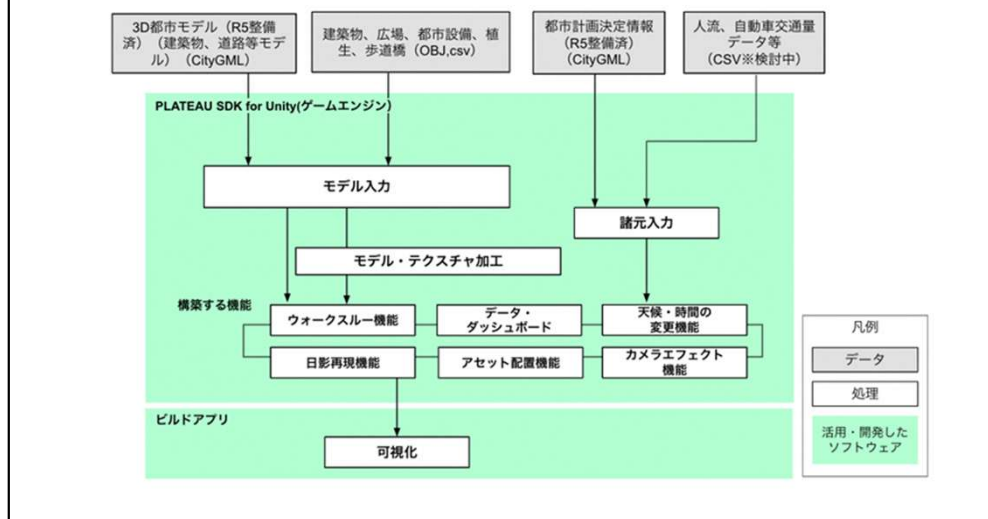
分野	人口規模	面積規模	予算規模
街・防	15万以上	200-500	2-3千



■ ユースケース概要

分野	都市計画・まちづくり
目的	地域の課題解決や政策立案に向けて多様な主体がデータを共有・活用し、まちづくりに参画できるデジタルツイン環境を構築する。
取組内容	様々なデータを一元的に可視化、重畳化して表示することができるダッシュボードを作成することで、多様な主体がデータを活用し、課題解決や政策立案につなげる環境を構築する。 都市デザインや公共交通と連携したまちづくりに向けたシミュレーション用のモデルとして、前橋駅—県庁間の沿道区間に高精細モデルを付加する。

■ システム構成図



IV. 令和6年度採択団体 フォローアップ調査 R6-07.群馬県前橋市

■ ユースケース開発方法

活用データ (3D都市モデル)	<ul style="list-style-type: none"> 建築物 LOD1,LOD2、LOD1交通（道路） (名称、用途、構造種別、計測高さ、地上階数、建築年) 都市計画決定情報 LOD1(区域区分、地域地区等の範囲、種別)
活用データ (上記以外)	<ul style="list-style-type: none"> MMS計測データ 可搬型計測データ 人流、自動車交通量データ 建築物(ランドマーク) 建築物(沿道) 交通(広場) 都市設備 植生 その他構造物
ユースケース 開発方法	<ul style="list-style-type: none"> PLATEAUデータ(LOD1/LOD2建築物、LOD1交通(道路)及び高精細建築物(10棟)、壁面加工テクスチャ付建築物(前橋駅一帯間の沿道)、高精細交通(広場)(3か所)、都市設備、植生等)の3次元都市モデルデータをPLATEAU SDK 3.0を使用してゲームエンジンに取り込む。 ゲームエンジンを用いて、高グラフィックで快適な操作性を有し、多面的な視点設定(歩行者目線、鳥瞰、任意の角度等)が可能なシステムを構築し、建物データ及び交通データに加えて、人流データや都市計画情報等、各種データをデジタルツインにインポートする。 デジタルツイン上で、都市のデータを集約し、前橋駅前から県庁までの通り沿いを中心にデータを可視化することで、現状の課題の把握を実施する。
政策・事業での 活用	<ul style="list-style-type: none"> 構築したデジタルツイン環境上で、公共交通と連携した道路空間の再編、都市デザインの検討・可視化を実施する。 検討結果を市民への合意形成に向けたツールとして活用する。
オープンデータ化 情報発信	ユースケース動画等を前橋市ホームページにて掲載

■ KPI

KPI	目標設定	達成状況
3D都市モデルを活用して課題解決やまちづくり等に向けたユースケース開発に取り組む主体数	2団体 (R6年度)	4団体 (R6年度)

分野	人口規模	面積規模	予算規模
街・防	15万以上	200-500	2-3千

■ ユースケース開発成果イメージ図



デジタルツイン環境の構築

- ・LOD3相当で整備したモデルに対し、約60種類のアセットを配置可能な実装を行い、よりリアルなまちづくりのイメージを再現。
- ・人流データと自動車の交通量データを可視化することで、混雑状況やリアルな交通状況を正確に把握し、交通課題の特定を可能にする。

■ 今後の展望

構築したデジタルツインを活用した将来都市構造や道路空間の再編案を視覚的にシミュレーションできるツールを開発することにより、市民をはじめ各主体が課題や可能性を視覚的に検討できるなど、まちづくりへの参加を促しながら意思決定の透明性を高めたい。

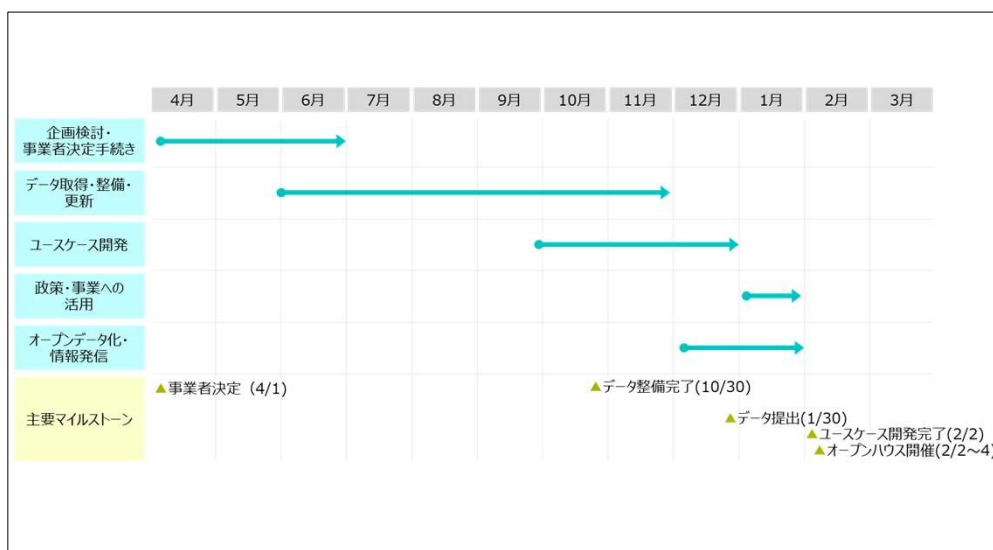
IV. 令和6年度採択団体 フォローアップ調査

R6-17.東京都東村山市

■ 団体基礎情報・プロジェクト全体像

人口	151,795人（令和7年1月時点）
市域全域面積	17km ² （令和6年10月時点）
目標	河川の維持管理と都市型水害の抑制
課題	<ul style="list-style-type: none"> 市民等（市内・関係機関含む）に対して様々な機会を通じて、前川流域の溢水対策における取組に関する理解の促進を図る必要がある。

■ 令和6年度スケジュール



分野	人口規模	面積規模	予算規模
防	15万以上	50未満	1-2千

担当部局	経営改革課
------	-------



■ 補助事業実施項目

事前調査等	<ul style="list-style-type: none"> 計画準備、資料収集整理
3D都市モデル整備・更新	<ul style="list-style-type: none"> 3D都市モデル整備（LOD3）（暫定河道、将来河道、調整池（検討中））
ユースケース開発	<ul style="list-style-type: none"> 河川整備計画検討の進捗に応じたシミュレーションの実施及び検討（暫定河道、将来河道等の複数ケースの氾濫解析3D可視化）
推進事業	—

総事業費（予定）	1,030（万円）
R6年度補助額	515（万円）
補助対象外の関連事業	—

オープンデータ化・可視化・情報発信	<ul style="list-style-type: none"> G空間情報センターへの掲載 【3D都市モデル】 PLATEAU VIEWへの掲載 【3D都市モデル】
-------------------	---

R6年度委託事業者	朝日航洋株式会社（事前調査）
	朝日航洋株式会社（3D都市モデルの整備・更新）
	朝日航洋株式会社（ユースケース開発）

IV. 令和6年度採択団体 フォローアップ調査 R6-17.東京都東村山市



■ 3D都市モデル整備状況（基本セット） ※赤字：R6補助対象地物

LOD	整備地物	対象区域	整備面積	整備年度
LOD1	建築物 交通(道路) 都市計画決定情報 土地利用 災害リスク 地形	市内全域	17km ²	R4年度整備済
LOD2	建築物	一部ランドマークのみ		R2年度整備済

■ 3D都市モデル整備状況（基本セット以外） ※赤字：R6補助対象地物

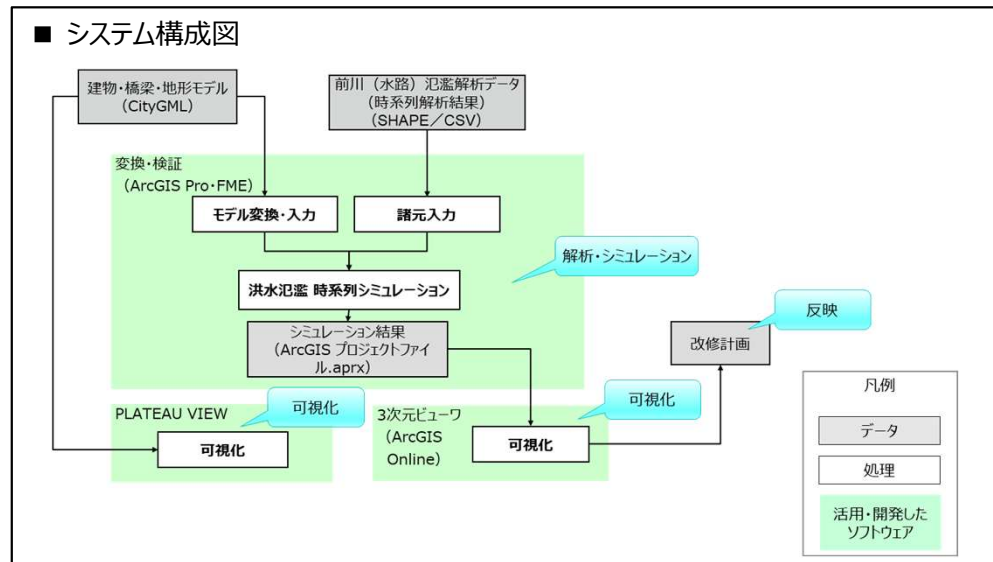
LOD	整備地物	対象区域	整備面積	整備年度
LOD2	橋梁	前川(水路)橋梁42橋		R5年度整備済
LOD3	地形	前川(水路) 前川(水路) (暫定河道、 0.1km² 将来河道)	0.1km²	R5年度整備済 R6年度整備
	橋梁	前川(水路)橋梁3橋		R5年度整備済

項目	活用したデータ	作成年度	地図情報レベル
平面図	その他（暫定河道及び将来河道の設計資料）	R5年度	その他(なし)
測量成果	既存資料（航空レーザー）	R2年度	500
属性情報	—	—	—

分野	人口規模	面積規模	予算規模
防	15万以上	50未満	1-2千

■ ユースケース概要

分野	防災・防犯
目的	都市型水害の抑制による安心した暮らしの実現に向けた、河川整備計画の作成における検討の深化。護岸等の地形及びまたがる橋梁を整備する対象エリアに、複数の条件のもとシミュレーションを行い、将来図の高度な検討を行う。
取組内容	現況河道に対し、検討中の将来河道形状及び遊水池（検討中）モデルを作成し、想定氾濫解析結果データを3次元ビューワにて重ねて可視化することで、現況に対する効果を可視化する。



IV. 令和6年度採択団体 フォローアップ調査

R6-17.東京都東村山市

■ ユースケース開発方法

活用データ (3D都市モデル)	<ul style="list-style-type: none"> 建築物LOD1、地形LOD3（河道）、橋梁LOD2・3
活用データ (上記以外)	<ul style="list-style-type: none"> 前川(水路)氾濫解析データ (破堤点時系列データ(時系列毎浸水深))
ユースケース 開発方法	<ul style="list-style-type: none"> 暫定及び将来河道の設計資料の収集、整理。3D都市モデルの作成を行う。 氾濫解析結果を3次元表示可能なデータ形式に編集し氾濫解析結果3Dデータの作成を行う。 作成した3D都市モデル及び氾濫解析結果の3Dデータを重ねて表示させる。 3次元ビューワに搭載する。 今後、可視化による内部検討の深度化、庁内・関係機関との合意形成の迅速化、住民説明会での活用の検討を行う。
政策・事業での 活用	<ul style="list-style-type: none"> 3D都市モデル整備（前川3D都市モデルデータ、製品仕様書） 氾濫解析結果3D可視化（氾濫解析結果3Dデータ（3次元ビューワPCへ搭載））。
オープンデータ化 情報発信	-

KPI	目標設定	達成状況
利用方法について理解できたと回答した職員の割合 (%)	90% (R5年度)	100% (R5年度)
改修計画について理解できたと回答した住民(対外関係者)の割合 (%)	90% (R6年度)	91% (R6年度)
閲覧数(pv)	5,000pv (R7年度)	3,000pv (R7年度)

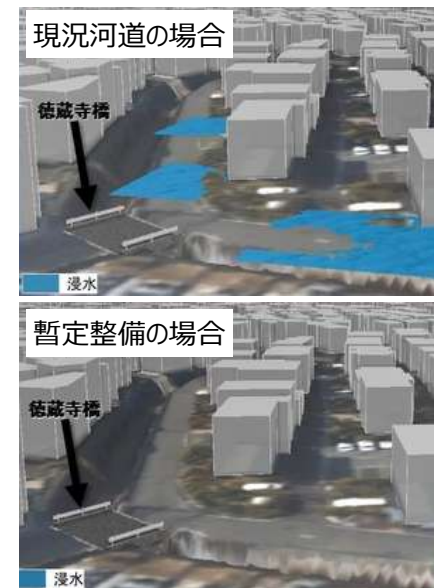
分野	人口規模	面積規模	予算規模
防	15万以上	50未満	1-2千

■ ユースケース開発成果イメージ図



3Dビューワでのアニメーション

整備前後の効果について、様々な場所を任意の視点で、時系列アニメーションにて浸水箇所の確認が可能となった。



住民説明会用の動画

整備効果の理解を深めるために、現況河道の場合、暫定及び将来整備の場合を比較表示が可能な動画を作成

■ 今後の展望

今後、可視化による内部検討の深度化、庁内・関係機関との合意形成の迅速化、住民説明会等での活用の検討を引き続き行いたい。

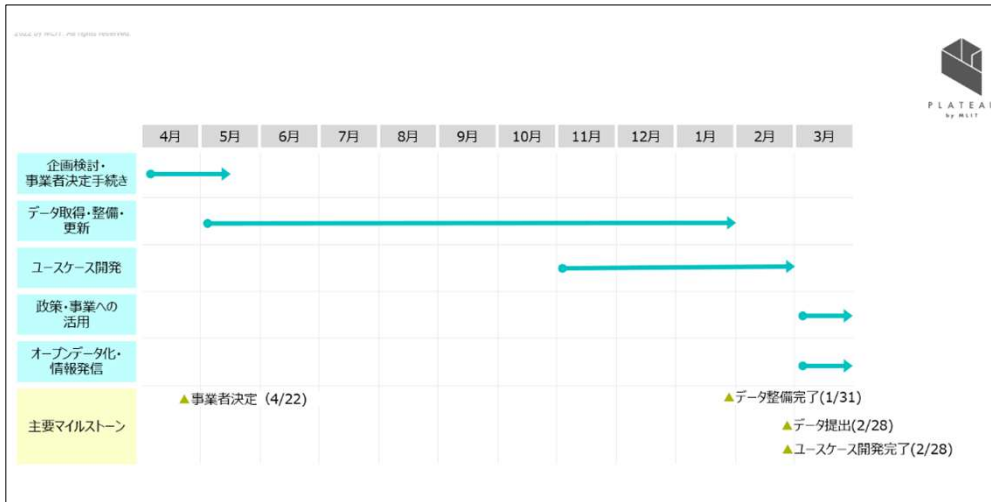
IV. 令和6年度採択団体 フォローアップ調査

R6-21.長野県安曇野市

■ 団体基礎情報・プロジェクト全体像

人口	約9.6万人（令和7年3月時点）
市域全域面積	331.78km ² （令和7年3月時点）
主な産業 地域課題等	<p>長野県中部（中信地区）に位置し、東西を山地・山岳に囲まれ、西側に北アルプスの連峰がそびえ立つ。南北に開け四方から河川が集まる比較的平坦な複合扇状地が広がっている。平成17年に5町村の対等合併により誕生した市であり、拠点となる市街が分散している。</p> <p>北アルプスと田園、豊富で清冽な湧水に恵まれ、その自然環境と景観がこの地固有の財産であり、「適正な土地利用に関する条例」による独自の土地利用制度や「地下水の保全・涵養及び適正利用に関する条例」による健全な地下水環境の創出など、暮らしやすさと産業発展のバランスがとれた田園産業都市づくりを目標に掲げている。</p>

■ 令和6年度スケジュール



分野	人口規模	面積規模	予算規模
街・防	5-15万	200-500	2-3千

担当部局	都市計画課
------	-------

■ 補助事業実施項目

目標	「自然、文化、産業が織りなす共生の街安曇野」の実現	
課題	<ul style="list-style-type: none"> 市独自の土地利用制度の情報と防災情報の一元提供による土地利用の適正な誘導 市民の防災意識の向上と避難場所や経路検討、緊急時の垂直避難可能建物の把握 	
創出価値	<ul style="list-style-type: none"> 3D都市モデル（建築物、都市計画決定情報）と土地利用制度に関する情報とを重畳することで、地域住民や開発事業者の来庁や問合せを軽減させ、行政事務効率化を図る。 3D都市モデルにおける建築物、洪水浸水や土砂災害等の災害リスクを重畳させることで、災害イメージを具体化させ、市民の防災意識の向上を図る。 	
事前調査等	-	
3D都市モデル整備・更新	<ul style="list-style-type: none"> 都市計画基本図修正 3D都市モデル整備（LOD1, LOD2） 	
ユースケース開発	<ul style="list-style-type: none"> 3D都市モデルを活用した都市計画等情報マップ作成事業 3D都市モデルを活用した災害リスクの可視化事業 	
推進事業	-	
総事業費（予定）	6,000（万円）	※うちR6年度3,000（万円）
R6年度補助額	1,500（万円）	
補助対象外の関連事業	-	
オープンデータ化・可視化・情報発信	<ul style="list-style-type: none"> G空間情報センターへの掲載 PLATEAU VIEWへの掲載 安曇野市オープンデータサイト 	<ul style="list-style-type: none"> 【3D都市モデル／関連データ】 【3D都市モデル／関連データ】 【3D都市モデル／UCデータ】
R6年度委託事業者	朝日航洋株式会社（3D都市モデルを活用した都市計画等情報マップ作成事業、3D都市モデルを活用した災害リスクの可視化事業）	



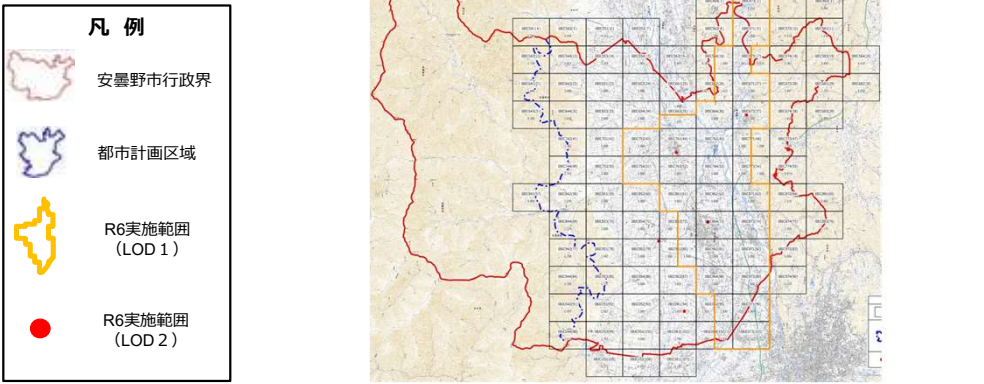
IV. 令和6年度採択団体 フォローアップ調査 R6-21.長野県安曇野市

■ 3D都市モデル整備状況（基本セット）

※赤字：R6補助対象地物

LOD	整備地物	対象区域	整備面積	整備年度
LOD1	建築物 交通（道路）	都市計画区域の一部 上記以外の都市計画区域	70.3km ² 128.11km ²	R6年度整備 R7年度整備
	都市計画決定 情報 土地利用 災害リスク 地形	都市計画区域の一部	198.41km ²	R6年度整備
LOD2	建築物	市庁舎等（11棟）	km ²	R6年度整備

■ 3D都市モデル整備エリア図

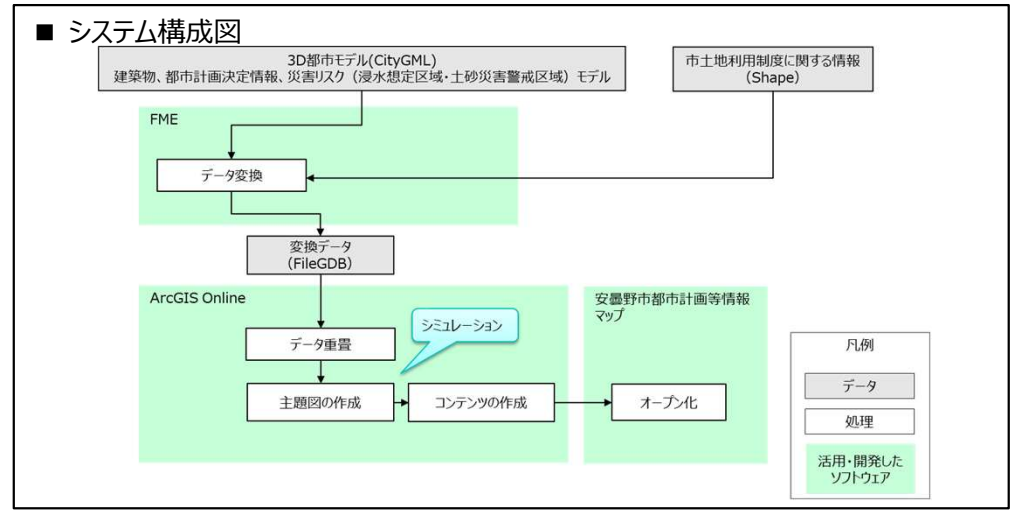


項目	活用したデータ	作成年度	地図情報レベル
平面図	都市計画基本図（修正）	R6年度	2,500
測量成果	既存資料（航空写真）	R5年度	2,500
属性情報	都市計画基礎調査（既存）	R5年度	—

分野	人口規模	面積規模	予算規模
街・防	5-15万	200-500	2-3千

■ ユースケース①概要

分野	都市計画・まちづくり
目的	3D都市モデル（建築物、都市計画決定情報）と土地利用制度に関する情報を重畳させることで、地域住民や開発事業者の来庁や問合せを軽減し、行政事務の効率化を図る。
取組内容	都市計画決定情報や市独自の土地利用制度に関する情報に、浸水想定モデル等の防災情報を重ね合わせた3D都市モデルのマップを作成・Web上で公表する。これにより、Web上で建築制限等の確認を行う開発事業者の割合を増加させることで、窓口での問い合わせの件数の減少を図り、事務の効率化と土地利用の適正な誘導を図る。



IV. 令和6年度採択団体 フォローアップ調査

R6-21.長野県安曇野市

■ ユースケース開発方法

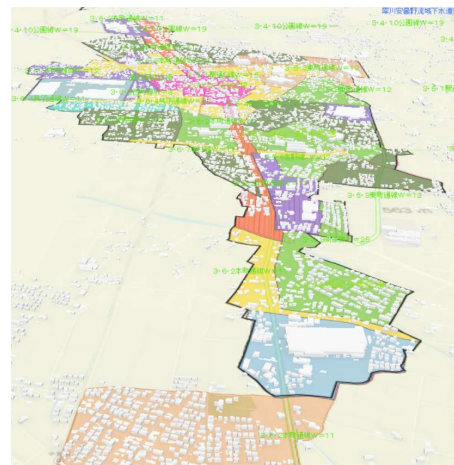
活用データ (3D都市モデル)	<ul style="list-style-type: none"> 建築物LOD1 (名称、用途、構造種別、計測高さ、地上階数、建築年) 都市計画決定情報LOD1 (区域名称の区域の範囲、区域の種類) 災害リスクLOD1 (洪水浸水想定区域の水面の範囲、浸水深の区分、土砂災害警戒区域の範囲、起こりうる災害の内容)
活用データ (上記以外)	<ul style="list-style-type: none"> 市土地利用制度に関する情報
ユースケース 開発方法	<ul style="list-style-type: none"> 3D都市モデル(建築物モデル、都市計画決定情報モデル、浸水想定区域モデル、土砂災害警戒区域モデル。以下本UC①においては同じ。)のデータ形式をCityGMLからArcGIS Onlineで使用可能な形式へ変換する。 3D都市モデルと市土地利用制度に関する情報をArcGIS Onlineで重畳する。 3D都市モデルの表示設定を行い、地域住民や開発事業者の来庁や問合せを軽減させるための主題図を作成する。 「安曇野市都市計画等情報マップ」へ公開し、ウェブサイトのアクセス数や対面での開発相談件数より効果を測定する。
政策・事業での 活用	<ul style="list-style-type: none"> 開発事業者の来庁や問合せを軽減させるために、現在の2D版の都市計画等情報マップに掲載している都市計画法関連の情報に加え、新たに立地適正化計画の誘導区域を掲載した主題図を公開する。 3D都市モデルを活用した「視覚的に捉えやすいマップ」を作成するため、R5年度より運用している「安曇野市都市計画等情報マップ」へコンテンツを公開する。
オープンデータ化 情報発信	3D都市モデルを安曇野市都市計画等情報マップに掲載 ユースケースデータを可視化し、市ホームページで公開

■ KPI

KPI	目標設定	達成状況
全戸配布する広報誌での周知による 都市計画等情報マップへのアクセス数の向上 (PV)	820PV/月 (R7年3月)	1,024PV/月 (R7年度)
対面での開発相談件数の減少率 整備後の件数と直近3か年の平均件数との比較 (%)	10%減 (R6年度)	0%減 (R6年度)
KPI未達を受けて の今後の対応	開発相談件数の増減については外部的な要因が多いため目標未達となった。今後は都市計画等情報マップの活用について更なる周知を行うことで相談件数の減少を図る。	

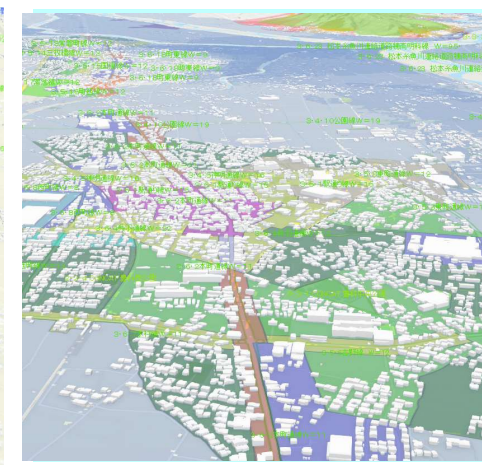
分野	人口規模	面積規模	予算規模
街・防	5-15万	200-500	2-3千

■ ユースケース開発成果イメージ図



都市計画図の3D可視化

3D都市モデルの建築物と都市計画の重畳で、場所の特定及び建築制限等イメージが容易となる。



都市計画図と災害リスクの重畳

災害リスクと都市計画図の重畳による用途地域内での浸水想定などの課題の可視化。

■ 今後の展望

今後は様々な土地利用規制データを3D都市モデル上に追加していくと共に、現在は市内に5棟のみであるLOD2の建物の割合を増加させ、よりわかりやすい都市計画等情報マップを目指していく。

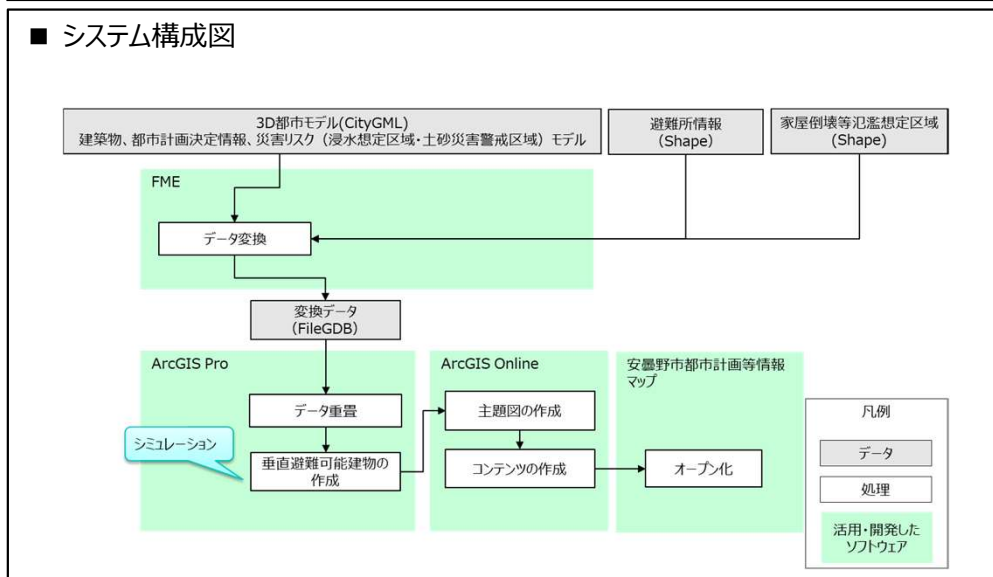
IV. 令和6年度採択団体 フォローアップ調査 R6-21.長野県安曇野市



■ ユースケース②概要

分野	防災・防犯
目的	3D都市モデルにおける建築物、洪水浸水や土砂災害等の災害リスク等を重畳させることで、災害イメージを具体化させ、市民の防災意識の向上を図る。
取組内容	浸水想定区域内にある中心市街地を対象として、災害リスク情報の三次元表示を行い、エリアのリスクを可視化し、緊急的な垂直避難可能建物の把握等に役立てる。また、市の防災会議等で報告すると共に、市の公開型GIS上で公開し、市の広報誌やLINEなどを通じて住民へ周知することで市民の防災意識の向上を図る。

■ システム構成図



■ ユースケース開発方法

活用データ (3D都市モデル)	<ul style="list-style-type: none"> 建築物LOD1 (名称、用途、構造種別、計測高さ、地上階数、建築年) 都市計画決定情報LOD1 (区域名称の区域の範囲、区域の種類) 災害リスクLOD1 (洪水浸水想定区域の水面の範囲、浸水深の区分、土砂災害警戒区域の範囲、起こりうる災害の内容)
活用データ (上記以外)	<ul style="list-style-type: none"> 避難所情報 家屋倒壊等氾濫想定区域 (氾濫流) 家屋倒壊等氾濫想定区域 (河岸浸食)
ユースケース 開発方法	<ul style="list-style-type: none"> 3D都市モデル (建築物モデル、浸水想定区域モデル、土砂災害警戒区域モデル。以下本UC②においては同じ。) のデータ形式をCityGMLからArcGIS Onlineで使用可能な形式へ変換する。 3D都市モデル、垂直避難可能建物、避難所情報の表示設定を行い、防災計画や避難経路設定に活用できる主題図を作成する。 市の広報誌やLINEなどを通じて住民へ周知する。また、市の防災会議等で報告する。 「安曇野市都市計画等情報マップ (市ホームページ)」へコンテンツを公開する。
政策・事業での 活用	<ul style="list-style-type: none"> 地域住民や開発事業者の来庁や問合せを軽減させるための主題図を公開する。 3D都市モデルと避難所情報等、垂直避難可能建物 (建築物モデル、浸水想定区域モデルより垂直避難可能建物を抽出) をArcGIS Onlineで重畳させる。
オープンデータ化 情報発信	ユースケースデータを可視化し、市ホームページで公開

■ KPI

KPI	目標設定	達成状況
地域の自主防災組織や市の出前講座等での活用件数 (件)	5件 (R7年度)	15件 (R7年度)
災害対応力の向上に効果的と感じる職員の割合 (%)	80%以上 (R6年度)	95% (R6年度)

IV. 令和6年度採択団体 フォローアップ調査

R6-21.長野県安曇野市

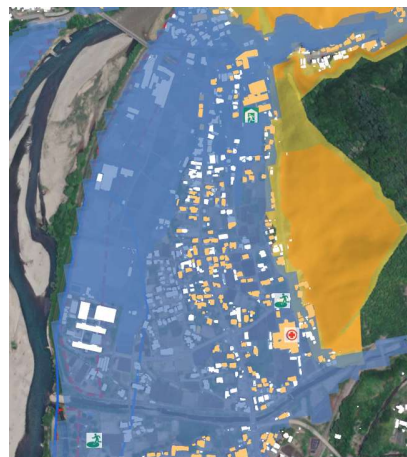
分野	人口規模	面積規模	予算規模
街・防	5-15万	200-500	2-3千

■ ユースケース開発成果イメージ図



垂直避難可能建物の可視化

浸水想定区域(浸水深)と
建築物(構造・高さ)より垂直避難可能
建物の抽出・可視化



災害リスクと避難施設の重畳

浸水範囲及び土砂災害範囲と
避難施設の重畳により防災情報を
可視化して防災計画に活用する。

■ 今後の展望

今後は、建築物の高さデータ等を活用し、災害時における市内の緊急輸送道路の罹災シミュレーションなどを行いたい。

IV. 令和6年度採択団体 フォローアップ調査

R6-23. 岐阜県岐阜市

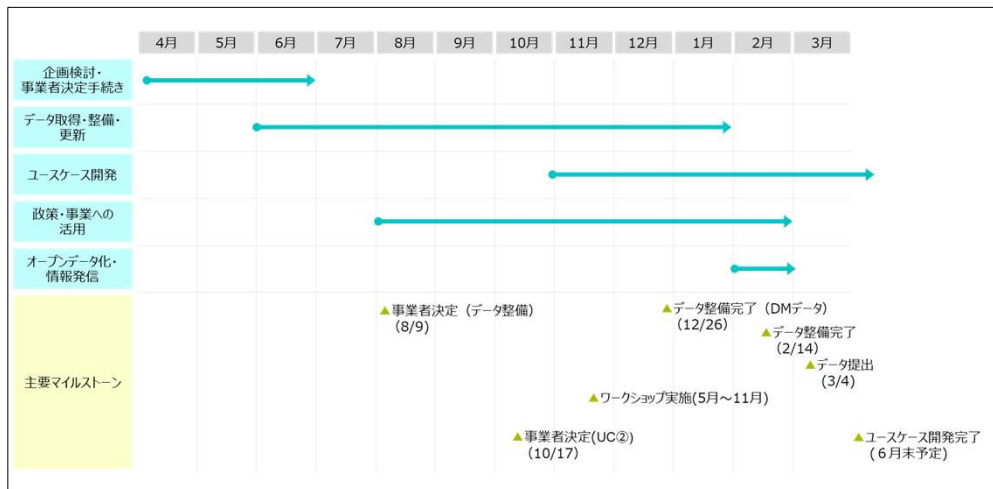


PLATEAU
by MLIT

■ 団体基礎情報・プロジェクト全体像

人口	約40万人（令和7年1月時点）
市域全域面積	203.60km ² （令和7年1月時点）
主な産業 地域課題等	<p>日本のほぼ中央、岐阜県の南西部に位置し、人口約40万人、面積約203.6km²、1996年に中核市になった岐阜県の県庁所在地である。</p> <p>JR東海道線の岐阜駅、名鉄名古屋本線の名鉄岐阜駅の北側に中心市街地、それを囲むように周辺市街地、さらにその外延部に農地が広がる。また、市内の北東から南西には一級河川長良川が横断する。</p> <p>地域特性に応じた市街地の整備改善と商業等の活性化を一体的に推進してきた。</p> <p>「駅周辺」「柳ヶ瀬」「つかさのまち」「岐阜公園」の4つのエリアからなる「センターゾーン」において、商業、居住など多様で高次の都市機能の集積を目指し、行政と民間が力を合わせた取組を進めている。</p>

■ 令和6年度スケジュール



分野	人口規模	面積規模	予算規模
防・交	15万以上	200-500	5-10千

担当部局	都市計画課
------	-------

■ 補助事業実施項目

目標	人がつながる 創造が生まれる しなやかさのあるまち
課題	<ul style="list-style-type: none"> センターゾーンの各エリアとエリア間をつなぐ連携軸の魅力や利便性を高めるなどによるゾーン全体のにぎわいや快適性の創出、回遊性の向上。 市民一人ひとりの防災意識の向上と行動促進。 通学路における効果的な交通安全対策の実現。
創出価値	<ul style="list-style-type: none"> 3D都市モデルの活用により市民目線でわかりやすい情報提供を実践し、市民一人ひとりの防災意識の向上と行動促進につなげる。 3D都市モデルを活用したまちの未来を創造できる議論を活性化し、センターゾーンの各エリアとエリア間をつなぐ連携軸の魅力や利便性を高め、ゾーン全体のにぎわいや快適性の創出、回遊性の向上につなげる。
事前調査等	-
3D都市モデル整備・更新	<ul style="list-style-type: none"> 数値地形図データ更新 3D都市モデル整備（LOD1, LOD2, LOD3）
ユースケース開発	<ul style="list-style-type: none"> 3D都市モデルを活用した交通事故リスクの可視化事業 3D都市モデルを活用した内水浸水対策検討及び効果の可視化事業
推進事業	3D都市モデルを活用した統合型GISプラットフォームの構築
総事業費（予定）	21,206(万円)
R6年度補助額	4,226（万円）※当初：3,076(万円) 補正：1,150(万円)
補助対象外の関連事業	-
オープンデータ化・可視化・情報発信	<ul style="list-style-type: none"> G空間情報センターへの掲載 【3D都市モデル】 PLATEAU VIEWへの掲載 【3D都市モデル】 岐阜市ホームページや専用サイトに掲載予定 【UCデータ】
R6年度委託事業者	<p>岐阜市（3D都市モデルを活用した交通事故リスクの可視化事業）</p> <p>アジア航測株式会社（3D都市モデルを活用した統合型GISプラットフォームの構築）</p> <p>アジア航測株式会社（数値地形図データ更新、3D都市モデル整備 LOD1, LOD2, LOD3）</p> <p>株式会社バスコ（3D都市モデルを活用した内水浸水対策検討及び効果の可視化事業）</p> <p>未定（5月中旬）（3D都市モデルを活用した災害リスクの可視化事業）</p>

IV. 令和6年度採択団体 フォローアップ調査

R6-23. 岐阜県岐阜市

■ 3D都市モデル整備状況（基本セット）

※赤字：R6補助対象地物

LOD	整備地物	対象区域	整備面積	整備年度
LOD1	建築物	市全域 R2~4地形図更新範囲 R5地形図更新範囲 R6地形図更新範囲	203.6km ² 130.5km ² 12.7km ² 79.1km ²	R2年度整備済 R4年度整備済 R5年度整備済 R6年度整備
	交通（道路）	市全域 R6地形図更新範囲	203.6km ² 79.1km ²	R2年度整備済 R6年度整備
	都市計画決定情報 災害リスク	市全域	203.6km ²	R2年度整備済
	土地利用	市全域	203.6km ²	R4年度整備済
	地形	市全域	203.6km ² 203.6km ²	R2年度整備済 R4年度整備済
LOD2	建築物	岐阜市中心市街地 岐阜市中心市街地 岐阜市中心市街地 岐阜市中心市街地	2.2km ² 2.2km ² 2.2km ² 2.2km ²	R2年度整備済 R4年度整備済 R5年度整備済 R6年度整備

■ 3D都市モデル整備状況（基本セット以外）

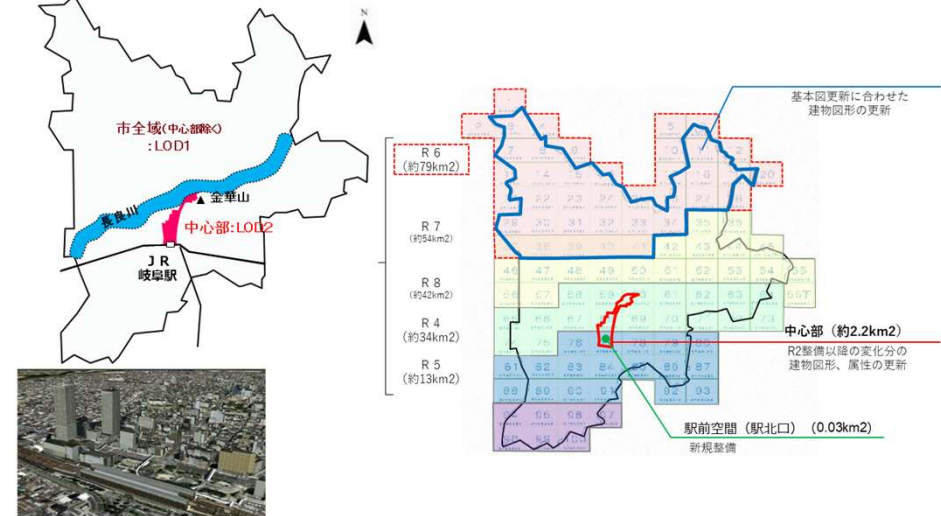
※赤字：R6補助対象地物

LOD	整備地物	対象区域	整備面積	整備年度
LOD3	建築物	ランドマークとなる建物（1棟）		R3年度整備済
	交通（道路）	岐阜市中心市街地	0.79km ²	R4年度整備済
	交通（広場）	駅前空間（駅北口）	0.03km ²	R6年度整備
	都市設備	岐阜市中心市街地アーケード 駅前空間（駅北口）シェルター、柵・壁、点字ブロック等	2.2km ² 0.03km ²	R4年度整備済 R6年度整備

分野	人口規模	面積規模	予算規模
防・交	15万以上	200-500	5-10千

■ 3D都市モデル整備エリア図

3D都市モデル整備区域
(R2整備済)



	LOD1（建築物、道路、都市計画決定情報、土地利用、災害リスク、地形）	地形図更新範囲（60.40km ² ）
	LOD2（建築物）	中心市街地（2.2km ² ）
	LOD3（交通（広場）、都市設備）	駅前空間（駅北口）（0.03km ² ）

項目	活用したデータ	作成年度	地図情報レベル
平面図	都市計画基本図（修正）	R6年度	2,500
測量成果	既存資料（航空写真）	R5年度	2,500
	点群データ	R6年度	500
属性情報	都市計画基礎調査（既存）	R4年度	—

IV. 令和6年度採択団体 フォローアップ調査

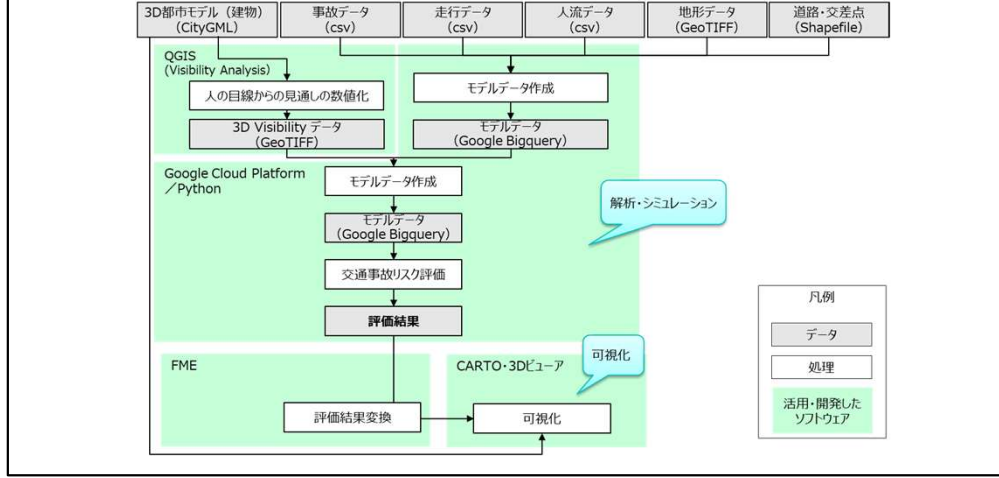
R6-23. 岐阜県岐阜市



■ ユースケース①概要

分野	交通・物流・モビリティ
目的	市内全道路・交差点における交通事故リスクの評価及び可視化を行い、効果的な安全対策を図ることを目的とする。
取組内容	R5年度では、交通事故実績や車両走行データなどのビッグデータに加え、3D都市モデルの建物モデルに基づく道路の見通しの数値化データを取り入れ、AI技術を活用した交通事故発生リスク評価を行った。 さらに、交通事故発生リスク評価結果を3D都市モデルで表示し、わかりやすく可視化することで、潜在的危険箇所を直感的に把握でき、ワークショップを通して地域の交通事故リスクを共有し、具体的な安全対策箇所・内容を立案した。 R6年度は、前年度に引き続き、市民を対象としたワークショップを約60回実施し、さらなる安全性の向上を目指す。

■ システム構成図



分野	人口規模	面積規模	予算規模
防・交	15万以上	200-500	5-10千

■ ユースケース開発方法

活用データ (3D都市モデル)	<ul style="list-style-type: none"> 建築物LOD1 (計測高さ)
活用データ (上記以外)	<ul style="list-style-type: none"> 事故データ(緯度経度、事故タイプ、事故関連者情報) 走行データ(緯度経度、急加速、速度等) 人流データ(緯度経度、タイムスタンプ、UUID) 地形データ(標高、斜面傾斜、斜面方位) 道路データ(道路形状、交差点位置、道路管理者、道路規制情報)
ユースケース開発方法	<ul style="list-style-type: none"> 3D都市モデルの建物モデルによる見直し解析結果等を、AI技術を活用した交通事故発生リスク評価を行い、見える化地図として作成し、地域住民とワークショップを実施する。 対策検討箇所の選定、具体的な安全対策内容を立案する。
政策・事業での活用	<ul style="list-style-type: none"> 事故発生リスクAIアセスメントを用いて交通事故リスク評価のモデルデータを作成する。 3D都市モデルの建物データから、Visibility Analysisで各道路・交差点の人の目線からの視認性を可視化する。 上記2つのデータを用いて、市内の全道路・全交差点で交通事故リスク評価を行い、3D表示で可視化する。
オープンデータ化情報発信	<ul style="list-style-type: none"> G空間情報センターへの掲載【3D都市モデル】 PLATEAU VIEWへの掲載【3D都市モデル】 ユースケース開発データは、専用サイトに掲載予定 (R7.11予定)

■ KPI

KPI	目標設定	達成状況
交通安全を意識している回答者の割合 (%)	70%以上 (R6年度)	85% (R6年度)

IV. 令和6年度採択団体 フォローアップ調査 R6-23. 岐阜県岐阜市

■ ユースケース開発成果イメージ図



ワークショップ 実施状況
参加者全員にタブレットを配布し、交通事故発生リスク評価結果を含めた潜在的な危険箇所を手元の操作で確認できるようにし、危険箇所のイメージを参加者間で共有することで、効率的なワークショップを開催。

交通安全対策 施工状況
前年度のワークショップで合意形成された対策箇所、対策内容、優先順位に基づき安全対策を実施した。

■ 今後の展望

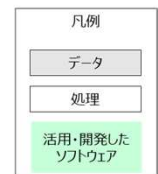
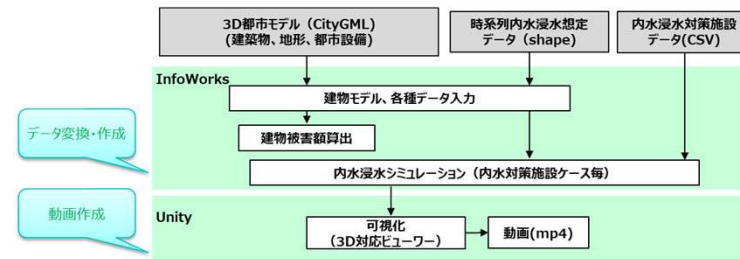
- 参加者からは3D都市モデルの建物モデルによる見通し解析結果等を用いた見える化地図を活用することで、事故リスクを数値的に評価できるようになり、危険箇所がわかりやすく、効果的な対策の立案につながったとの意見があった。
- 引き続き、交通事故発生リスク評価等を活用し、市内各校区でワークショップを実施するとともに、合意形成された安全対策を優先順位に基づいて実施していく。

分野	人口規模	面積規模	予算規模
防・交	15万以上	200-500	5-10千

■ ユースケース②概要

分野	防災・防犯
目的	内水浸水想定区域図及び施設整備による浸水深の低下を3D都市モデル上で可視化することで、内水浸水対策における、より効果的な施設整備方法の検討や、水防災に対する市民意識の更なる向上を図る。
取組内容	浸水開始から最大浸水深を経て、浸水終了までの経過時間に伴う浸水発生状況の3次元表示を行い、浸水シミュレーション動画を作成する。アイビューや鳥瞰で動画を作成し、任意の箇所において内水対策施設効果が確認できるようにする。 庁内にて共有し政策活用に用いる。

■ システム構成図



IV. 令和6年度採択団体 フォローアップ調査

R6-23. 岐阜県岐阜市

■ ユースケース開発方法

活用データ (3D都市モデル)	<ul style="list-style-type: none"> 建築物LOD1, LOD2 (計測高さ、建物ID、延床面積、構造種別を使用。(想定)) 地形LOD1 (属性は使用しない。(想定)) 都市設備 LOD3 (属性は使用しない。(想定))
活用データ (上記以外)	<ul style="list-style-type: none"> 時系列浸水深データ (経過時間ごとの3Dポリゴンデータ) 内水浸水対策施設データ (内水浸水対策施設データ(貯留管内径寸法)(調整池寸法 幅×奥行×高さ))
ユースケース 開発方法	<ul style="list-style-type: none"> 本市が作成した内水浸水想定区域図等のデータを用い、内水対策施設ケース毎に被害額を算出し、効果の比較検討を行う。 内水浸水想定区域図の3Dデータ化を行う。 3D都市モデル上に内水浸水想定区域図等を表示し、指定した位置や取得した情報の箇所における想定浸水深等の情報表示に関する機能を実装する。 選定した箇所において、浸水開始から最大浸水深を経て、浸水終了までの経過時間に伴う浸水発生状況を示す浸水シミュレーション動画を作成する。 アイビューや鳥瞰で動画を作成し、任意の箇所において内水対策施設効果が確認できるようにする。 浸水シミュレーション動画を庁内で共有し、効果的な政策の立案に有効と感じたか調査する。
政策・事業での 活用	<ul style="list-style-type: none"> 3D化した内水浸水想定区域図を作成する。 浸水シミュレーション動画を作成する。(mp4等を想定) 庁内にて共有し、対策案の実施優先度の決定等に活用する。
オープンデータ化 情報発信	<ul style="list-style-type: none"> G空間情報センターへの掲載【3D都市モデル】 PLATEAU VIEWへの掲載【3D都市モデル】 ユースケース開発データは、市HPや専用サイトに掲載予定

■ KPI

KPI	目標設定	達成状況
内水浸水対策効果の可視化が政策活用に有効と感じた職員の割合 (%)	70% (R7年度)	70% (R7年度)

分野	人口規模	面積規模	予算規模
防・交	15万以上	200 - 500	5 - 10千

■ ユースケース開発成果イメージ図



内水浸水想定区域図を3Dで可視化

3D都市モデル上に内水浸水想定区域図等を表示し、指定した位置における想定浸水深等の情報を表示

浸水深の低下をシミュレートし、3D+時系列 (= 4D) で可視化

選定した箇所において、浸水開始から最大浸水深を経て、浸水終了までの経過時間に伴う浸水発生状況を示す浸水シミュレーション動画を作成

■ 今後の展望

気候変動による水災害リスクの増大、それに伴う浸水対策の必要性を共有する際に浸水シミュレーション動画を活用することで、事業への理解、関係者との合意を図り、事業の円滑化を図る。

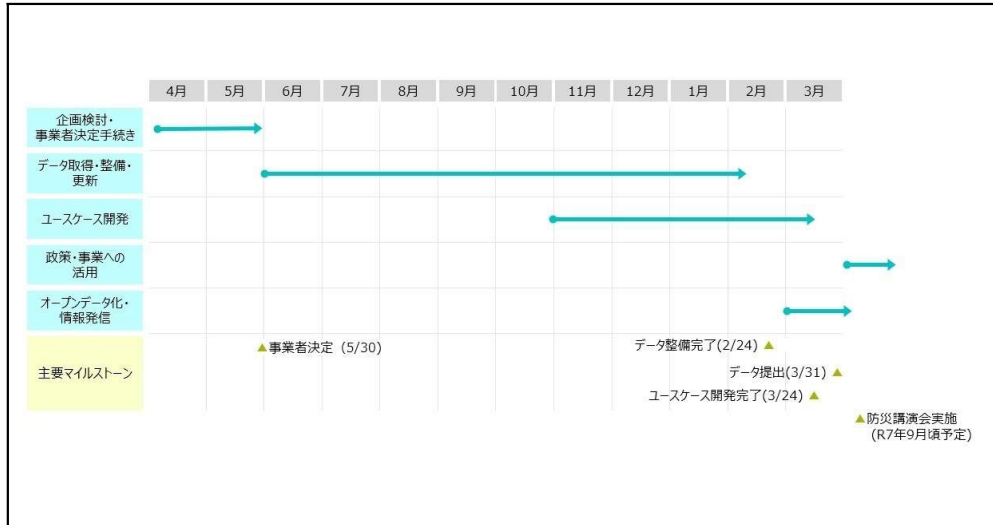
小学生等の防災学習等に浸水シミュレーション動画を活用することで、水災害時に自ら安全な行動を取ることができるような必要な知識等の取得、意識向上を図る。

IV. 令和6年度採択団体 フォローアップ調査 R6-35.大阪府東大阪市

■ 団体基礎情報・プロジェクト全体像

人口	493,940人（令和2年10月時点）
市域全域面積	約62.00km ² （令和6年10月時点）
主な産業 地域課題等	わが国でも有数の中小モノづくり企業の集積地「モノづくりのまち東大阪」として知られている。本市の人口は昭和50年の約52万人をピークに平成2年から減少しはじめており、年少人口、生産年齢人口の減少が進み、令和22年には約41万人まで減少することが予測されている。本市では、次世代への投資として、妊娠・出産・子育て期における切れ目もない支援を実施し、子どもを産み、育てることを希望するすべての方が迷うことなく、安心して産み育てることができるよう環境づくりを進めている。そして子供たちが安全で、健やかに育つことができる地域づくりを進め、若者・子育て世代に選ばれ、定住してもらえるまち東大阪を目指している。

■ 令和6年度スケジュール



分野	人口規模	面積規模	予算規模
防	15万以上	50-100	2-3千

担当部局	危機管理室
------	-------



■ 補助事業実施項目

目標	災害リスクを可視化することにより市民の防災意識を向上させ、災害に強いまちづくりの実現を目指す
課題	山麓市街地には土砂災害危険渓流が37渓流あり、そのうち18渓流は砂防堰堤が無い。ハード整備には時間がかかるが、自然災害は突然発生し、待ってられない。 土砂災害警戒区域の住民が避難所へ避難する際には、どのような経路を通れば良いのかを理解し、周知していく必要がある。
創出価値	3D都市モデルを用いた土砂災害シミュレーションを活用し、区域内における相対的に安全な避難経路の確保及び避難行動の高度化を目指し、市民の防災意識を向上させることである。

事前調査等	-
3D都市モデル整備・更新	3D都市モデル整備 (LOD1,LOD2)
ユースケース開発	3D都市モデルを活用した災害リスクの可視化事業
推進事業	3D都市モデルのオープンサイトへの掲載支援

総事業費（予定）	2,652（万円）
R6年度補助額	1,326（万円）
補助対象外の関連事業	-

オープンデータ化・可視化・情報発信	<ul style="list-style-type: none"> ・ G空間情報センターへの掲載 【3D都市モデル】 ・ PLATEAU VIEWへの掲載 【3D都市モデル】
-------------------	---

R6年度委託事業者	株式会社パスコ（3D都市モデルの整備） 株式会社ウエスコ・株式会社構造計画研究所（ユースケース開発）
-----------	---

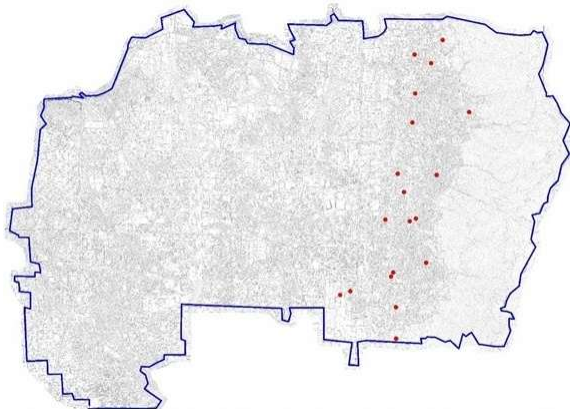
IV. 令和6年度採択団体 フォローアップ調査 R6-35.大阪府東大阪市

■ 3D都市モデル整備状況（基本セット） ※赤字：R6補助対象地物

LOD	整備地物	対象区域	整備面積	整備年度
LOD1	建築物 交通(道路) 都市計画決定情報 土地利用 災害リスク 地形	東大阪市全域	約62.00km ²	R6年度整備
LOD2	建築物	山麓地域の市立学校 20か所		R6年度整備

■ 3D都市モデル整備エリア図

	LOD1 (建築物、交通(道路)、 都市計画決定情報、 土地利用、災害リスク、 地形)	東大阪市全域 (62km ²)
	LOD2 (建築物)	山麓地域の市立学校 (20箇所)



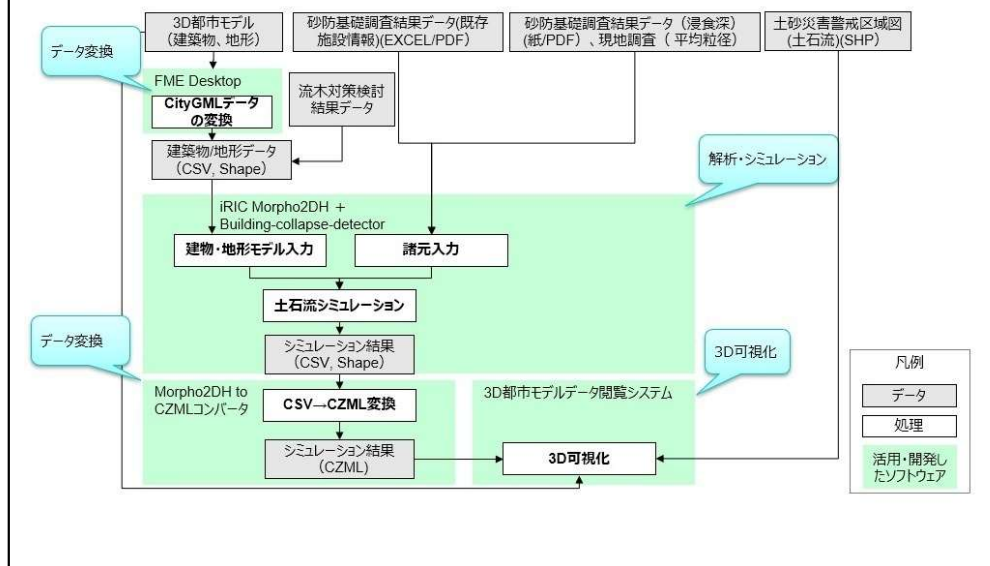
項目	活用したデータ	作成年度	地図情報レベル
平面図	都市計画基本図（既存）	H25年度	2,500
測量成果	既存資料（航空写真）	H24年度	2,500
属性情報	都市計画基礎調査（東大阪市）	R5年度	2,500

分野	人口規模	面積規模	予算規模
防	15万以上	50-100	2-3千

■ ユースケース概要

分野	防災・防犯
目的	災害リスクを三次元表示し、可視化し市民の防災意識の向上を目指す。
取組内容	3D都市モデルを用いた土砂災害シミュレーションを活用し、区域内における相対的に安全な避難経路の選定及び避難行動の高度化を目指し、市民の防災意識を向上することを目的とする。

■ システム構成図



IV. 令和6年度採択団体 フォローアップ調査 R6-35.大阪府東大阪市

■ ユースケース開発方法

活用データ (3D都市モデル)	<ul style="list-style-type: none"> 建築物LOD1 (構造種別、地上階数、建築年) 地形LOD1 (地形形状)
活用データ (上記以外)	<ul style="list-style-type: none"> 砂防基礎調査結果データ (既設砂防・治山堰堤など) 砂防基礎調査結果データ(浸食深) 土砂災害警戒区域 (土石流) データ 現地調査 (平均粒径)
ユースケース 開発方法	<ul style="list-style-type: none"> 土石流シミュレータで3D都市モデルを活用できるよう、3D都市モデル (地形LOD1データ) の CityGML を、点群データ(CSV)に変換する。また、3D都市モデル (建築物LOD1データ) の CityGMLを、ポリゴンデータ (SHP) に変換する。 変換した地形データと流木対策検討結果データを用いて、土石流シミュレーションに使用するための 2m メッシュ地形データを整備する。 既設の砂防施設情報、地盤の最大浸食深さ、斜面崩壊を発生させる場所と大きさ・深さ、土石流条件(土砂濃度・内部摩擦角・層流層の厚さ等)、河床材料の条件(平均粒径や粒度分布等)を、シミュレータ上で設定する。 平均粒径の設定等にあたり、現地調査を実施する。 データ変換した3D都市モデルをインプットデータとして活用し、設定した解析諸元をもとに、家屋倒壊/非倒壊判定を含む土石流シミュレーションを実行する。 土石流シミュレーションの結果をCSV およびSHP(ポイントデータ)で出力する。 土石流シミュレーションの出力結果である、時刻ごと水理量・変化した地形データ・建物メッシュごと倒壊判定結果・建物ごと倒壊判定結果 (それぞれCSV ファイル) を、タイムスタンプに従った三次元アニメーション表示ができるよう、CZML 形式に変換する。 CZML形式のシミュレーション結果を三次元的に可視化できる環境を提供する。 描画はタイムスタンプに従ったアニメーション表現を含む。 庁内の担当課にて結果共有会を実施し、ユースケース開発の成果を避難計画高度化に活用する。 関心の高い自主防災組織等に結果閲覧機会を提供し、ユースケース開発の成果を避難啓発に活用する。
政策・事業での 活用	<ul style="list-style-type: none"> シミュレーション結果として出力される、時刻ごと流体力・地形データの変化量・建物メッシュごと倒壊判定結果・建物ごと倒壊判定結果を、三次元可視化環境上で、アニメーションとして表示する。
オープンデータ化 情報発信	-

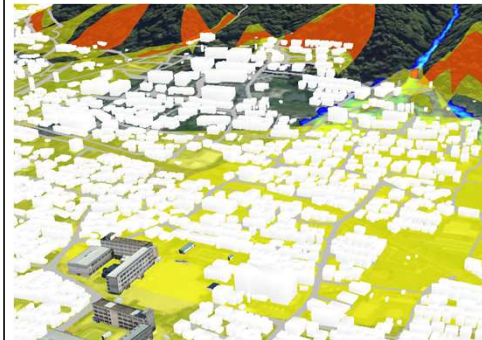
分野	人口規模	面積規模	予算規模
防	15万以上	50-100	2-3千



■ KPI

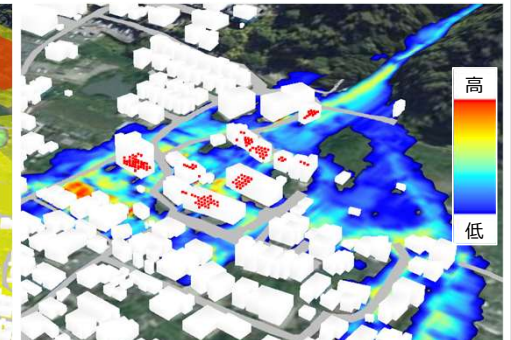
KPI	目標設定	達成状況
地域の災害リスクについての理解 (%)	50% (R8年度)	95% (R7年度)
土砂災害シミュレーション結果後の想定避難誘導者数 (= 避難誘導しないとしない人口) (人)	65,000人 (R6年度) 60,000人 (R7年度) 35,000人 (R8年度)	49,108人 (R6年度)

■ ユースケース開発成果イメージ図



東大阪市内の土砂災害警戒区域の様子

三次元ビューワに土砂災害警戒区域と区域内の市立学校 (LOD2) を重ねて可視化し、相対的に安全な避難経路選定などに利用



土石流シミュレーションの様子

3D都市モデルと土石流シミュレーションの結果から土砂災害と倒壊の危険性がある建築物を可視化

■ 今後の展望

PLATEAU事業と平行して実施している、都市防災総合推進事業を活用した、土砂災害警戒区域等における避難計画のための基礎資料作成業務と併せて、山麓地域の市民にリアルな災害リスク想定及び相対的に安全な避難経路を示したうえで、個々の状況に合わせた避難行動計画の作成、避難方法の判断材料として活用していただけるよう啓発活動を行っていく。

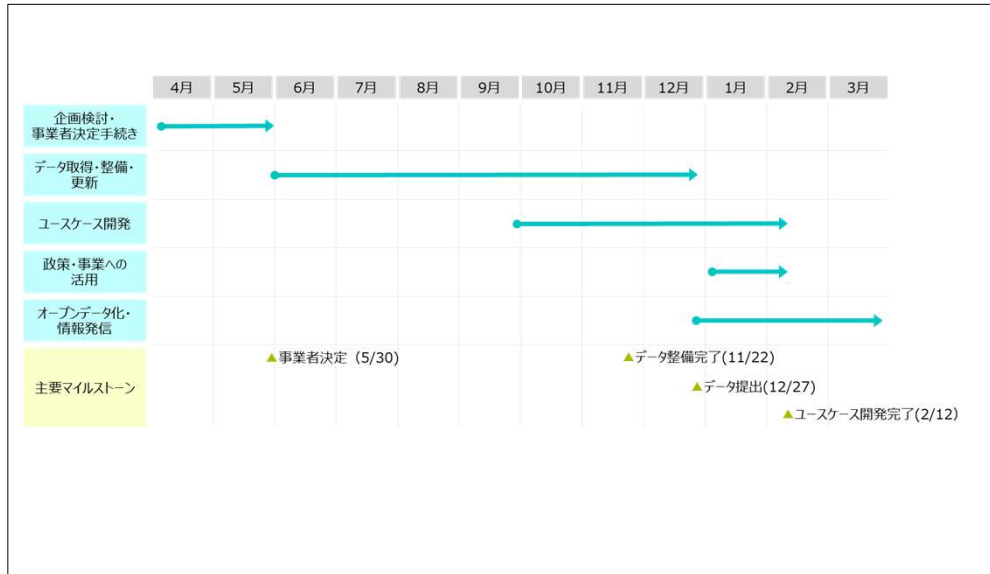
IV. 令和6年度採択団体 フォローアップ調査

R6-36.和歌山県和歌山市

■ 団体基礎情報・プロジェクト全体像

人口	356,729人（令和2年10月時点）
市域全域面積	209km ² （令和6年1月時点）
目標	誰もが安心して住み続けられる持続可能なまちの実現
課題	<ul style="list-style-type: none"> 交通事故の発生件数、死者数はともに減少傾向にあるが、子供や高齢者をはじめとした交通事故を最小限に抑えるためには、更なる対策が必要。

■ 令和6年度スケジュール



分野	人口規模	面積規模	予算規模
防・交	15万以上	200-500	1千未満

担当部局	都市計画課
------	-------

■ 補助事業実施項目

事前調査等	—
3D都市モデル整備・更新	—
ユースケース開発	<ul style="list-style-type: none"> 3D都市モデルを活用した通学路交通安全プログラムの高度化事業
推進事業	—

総事業費（予定）	2,288（万円） ※うちR6年度968（万円）
R6年度補助額	484（万円）
補助対象外の関連事業	—

オープンデータ化・可視化・情報発信	<ul style="list-style-type: none"> G空間情報センターへの掲載【3D都市モデル/UCデータ】 PLATEAU VIEWへの掲載【3D都市モデル/UCデータ】
-------------------	---

R6年度委託事業者	アジア航測株式会社（3D都市モデルを活用した通学路交通安全プログラムの高度化事業）
-----------	---



IV. 令和6年度採択団体 フォローアップ調査 R6-36.和歌山県和歌山市

■ 3D都市モデル整備状況（基本セット）

※赤字：R6補助対象地物

LOD	整備地物	対象区域	整備面積	整備年度
LOD1	建築物	和歌山市全域 和歌山市全域（建物構造（木造・非木造区分）、建物階（地上階）及び津波避難施設の属性を追加。）	209km ² 209km ²	R4年度整備済 R5年度整備済
	交通（道路） 土地利用 災害リスク 地形	和歌山市全域	209km ²	R4年度整備済
	都市計画決定 情報	和歌山市全域 和歌山市全域（都市計画道路のみ）	209km ² 209km ²	R4年度整備済 R5年度整備済
LOD2	建築物	14棟 14棟（建物構造（木造・非木造区分）、建物階（地上階）及び津波避難施設の属性を追加。）	—	R4年度整備済 R5年度整備済

分野	人口規模	面積規模	予算規模
防・交	15万以上	200-500	1千未満



■ 3D都市モデル整備状況（基本セット以外）

※赤字：R6補助対象地物

LOD	整備地物	対象区域	整備面積	整備年度
LOD1 (ポイントデータ)	汎用都市オブジェクト ※津波避難施設（建築物以外） 汎用都市オブジェクト ※災害時ヘリコプター予定発着地・臨時ヘリポート	和歌山市全域	209km ²	R5年度整備済
		和歌山市全域	209km ²	R5年度整備済

項目	活用したデータ	作成年度	地図情報レベル
平面図	2.都市計画基本図（既存）	R4年度	2,500
	4.数値地形図（DMデータ）（既存）	R2年度	2,500
	10.その他 （避難場所及び避難所情報一覧）	R4年度	その他 （緯度経度）
	10.その他 （災害時ヘリコプター予定発着地・臨時ヘリポート情報一覧）	R4年度	その他 （紙図面）
測量成果	3.既存資料（航空写真）	R3年度	1,000
	4.既存資料（航空レーザー）	R元年度	1,000
属性情報	1.都市計画基礎調査（既存）	R2年度	2,500

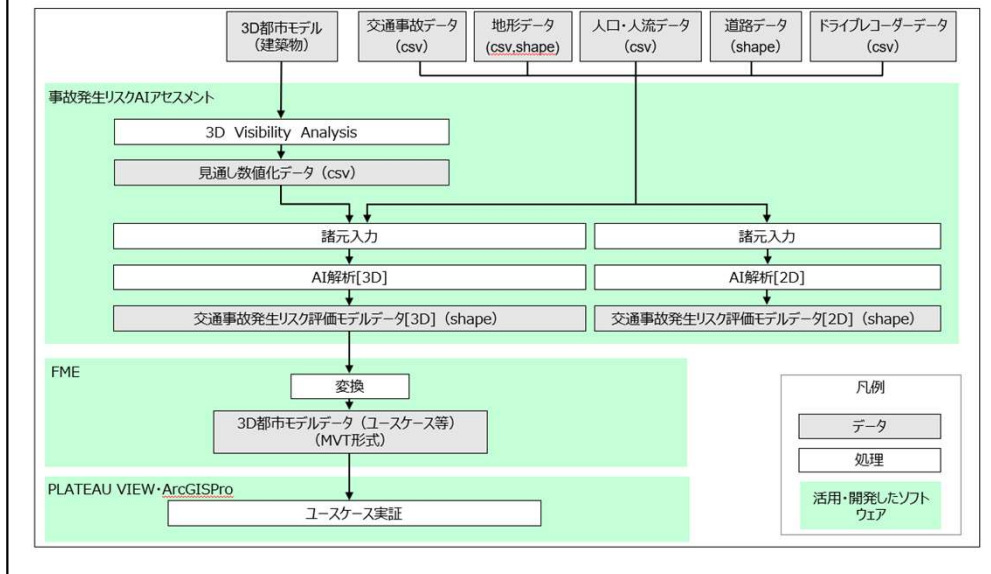
IV. 令和6年度採択団体 フォローアップ調査

R6-36.和歌山県和歌山市

■ ユースケース概要

分野	その他（交通）
目的	3D都市モデルを通学路交通安全プログラムの高度化に活用し、交通安全意識の向上に寄与する運用について検討する。
取組内容	3D都市モデルを活用し、公道等における交通事故発生リスクを評価し、3次元にわかりやすく可視化する。また、これを活用し、通学路交通安全プログラムの高度化を図り、関係機関と「市民の交通安全意識の向上」に寄与する運用の仕方について検討する。

■ システム構成図



分野	人口規模	面積規模	予算規模
防・交	15万以上	200-500	1千未満

■ ユースケース開発方法

活用データ (3D都市モデル)	<ul style="list-style-type: none"> 建築物LOD1
活用データ (上記以外)	<ul style="list-style-type: none"> 交通事故データ（交通事故オープンデータ（2020年～2022年）） 地形データ（土地利用、標高等） 人口・人流データ（人流等） 道路データ（車線数、一時停止規制有無等） ドライブレコーダーデータ（急加減、速度等）
ユースケース開発方法	<ul style="list-style-type: none"> 交通事故データ、ドライブレコーダーデータ、地形データ、人口・人流データ、道路データ、和歌山市の3D都市モデル（建築物）の情報を「交通事故発生リスクAIアセスメント」の仕組みを用いてAIに学習させ、3次元的な道路視角情報を加味した和歌山市向けの交通事故発生リスク評価用モデルを作成 作成した和歌山市向けの交通事故発生リスク評価用モデルを用いて、和歌山市内各道路における交通事故発生リスク評価値を算出 算出した交通事故発生リスク評価値をArcGIS Pro上で可視化 多様な視点での評価のために、複数の表示方法を整備
政策・事業での活用	<ul style="list-style-type: none"> 3Dで可視化した公道等における交通事故発生リスクを活用し、通学路安全推進会議等における関係機関（通学路・道路関係部署、警察、学校関係者等）との協議において、交通安全意識の向上に向けた運用について検討する。
オープンデータ化情報発信	<ul style="list-style-type: none"> 和歌山市オープンデータカタログサイトにてG空間情報センターへの誘導 和歌山市ホームページにてG空間情報センターへの誘導

■ KPI

KPI	目標設定	達成状況
通学路交通安全プログラムへの活用が効果的である人の割合（%）	60% (R6年度)	75% (R6年度)
関係機関との通学路点検作業にかかる期間（週）	6週 (R7年度)	10週 (R7年度)

IV. 令和6年度採択団体 フォローアップ調査 R6-36.和歌山県和歌山市

分野	人口規模	面積規模	予算規模
防・交	15万以上	200-500	1千未満



■ ユースケース開発成果イメージ図

① 交通事故発生リスク（時間帯・年齢別）

凡例

- 0.00~0.25
- 0.25~0.50
- 0.50~0.75
- 0.75~1.00

交通事故発生リスク（時間帯・年齢別）の表示

和歌山市内全地点のリスク値を可視化
※交通事故発生リスク値を0~1で算出し、4段階の閾値（0.25未満、0.25以上0.50未満、0.50以上0.75未満、0.75以上1.00）で道路・交差点を可視化したものであり、1に近いほど交通事故発生リスクが高くなる。

交通事故発生リスク（朝・夕）の表示
※一部エリアを拡大

データセットを切り替えることで、時間帯（朝/昼/夕/夜）・年齢（未成年/成人/高齢者）別の交通事故発生リスクを表示

■ ユースケース開発成果イメージ図

② 交通事故発生リスク（高リスク地点）

交通事故発生リスク（高リスク地点）の表示

和歌山市内の高リスク地点を可視化
2020~2022年における交通事故実績箇所の平均リスク値を道路・交差点別に算出し、その平均リスク値以上の道路・交差点（高リスク地点）を強調表示

交通事故実績1件の平均リスク値以上

交通事故実績3件以上の平均リスク値以上

交通事故実績（1件/3件以上）の平均リスク値以上の表示 ※一部エリアを拡大

データセットを切り替えることで、交通事故実績（1件/2件/3件以上）の平均リスク値以上の交通事故発生リスクを表示

■ 今後の展望

通学路交通安全プログラムの高度化を目的としているが、作成したデータを可視化・発信することで、交通事故抑制につなげていきたい。3D都市モデルの庁内外への周知にさらに力を入れ、今後のさらなる活用方法を探していきたい。

IV. 令和6年度採択団体 フォローアップ調査

R6-38. 島根県松江市

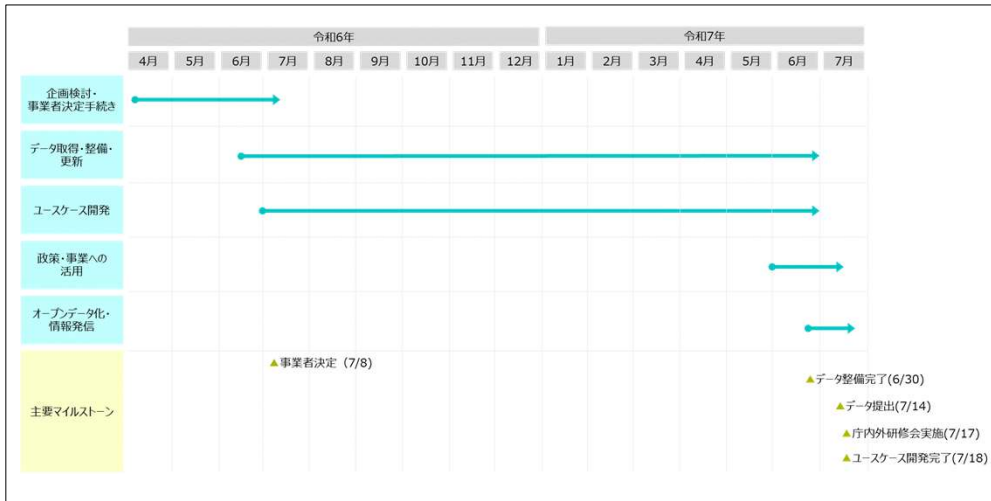


PLATEAU
by MLIT

■ 団体基礎情報・プロジェクト全体像

人口	約20万人（令和6年4月時点）
市域全域面積	572.96km ² （令和6年4月時点）
主な産業 地域課題等	<p>当市は、島根県の東部、山陰地方の中央部に位置する中核市。島根半島部の景観美しいリアス式海岸、中央部には中海・宍道湖、南部には緑豊かな山々を有する、水と緑に囲まれた自然豊かな都市。人口は約20万人。</p> <p>宍道湖から中海に注ぐ大橋川によって松江の市街地は南北に二分されているおり、国宝・松江城の堀から広がる水路「松江堀川（通称：堀川）」が縦横に走る「水の都」には、コロナ禍前は年間1000万人の観光客が訪れた。</p> <p>当市の将来像「夢を実現できるまち 誇れるまち 松江」をつくるために、すべての分野で①人口減少対策の推進②文化力を生かしたまちづくり③デジタル技術の活用（DX）の3点を推進している。</p>

■ 令和6年度スケジュール



分野	人口規模	面積規模	予算規模
街	15万以上	500以上	5-10千

担当部局	都市政策課
------	-------

■ 補助事業実施項目

目標	DX推進による魅力ある都市デザインの推進と市民サービスの向上
課題	まちづくりにおける市民の合意形成や理解度の向上 都市計画業務の効率化・高度化
創出価値	<ul style="list-style-type: none"> 市民向けの説明会などの合意形成の場で3D都市モデルを活用することで、市民等が視覚的、立体的に理解できるようにする。 3D都市モデルを活用し、用途地域や特定用途制限地域の検討など都市計画の施策立案につなげ、都市計画図閲覧の高度化や申請証明業務を効率化する。

3D都市モデル整備・更新	<ul style="list-style-type: none"> 都市計画基本図作成/更新 3D都市モデル整備（LOD1, LOD2, LOD3）
ユースケース開発	<ul style="list-style-type: none"> 3D都市モデルを活用したまちづくり関連施策検討事業 3D都市モデルを活用した新たな土地利用制度検討事業

総事業費（予定）	10,217.5（万円） ※うちR6年度10,000.2（万円）
R6年度補助額	4,999.9（万円）

オープンデータ化・可視化・情報発信	<ul style="list-style-type: none"> G空間情報センターへの掲載 【3D都市モデル/UCデータ/関連データ】 PLATEAU VIEWへの掲載 【3D都市モデル/UCデータ/関連データ】 松江市ホームページに掲載 【人流可視化結果】
-------------------	---

R6年度委託事業者	アジア航測株式会社（3D都市モデルの整備・更新、ユースケース開発）
-----------	-----------------------------------

IV. 令和6年度採択団体 フォローアップ調査

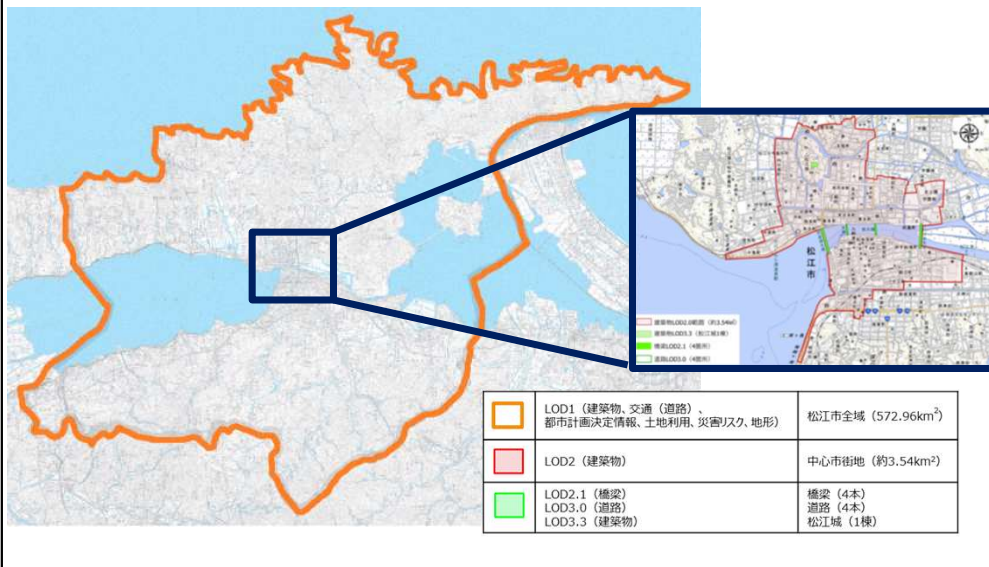
R6-38. 島根県松江市

■ 3D都市モデル整備状況（基本セット）

※赤字：R6補助対象地物

LOD	整備地物	対象区域	整備面積	整備年度
LOD1	建築物 交通(道路) 都市計画決定情報 土地利用 災害リスク 地形	松江市全域	572.96km ²	R6年度整備
LOD2	建築物	中心市街地及びその周辺	約3.54km ²	R6年度整備

■ 3D都市モデル整備エリア図



分野	人口規模	面積規模	予算規模
街	15万以上	500以上	5-10千

■ 3D都市モデル整備状況（基本セット以外）

LOD	整備地物	対象区域	整備面積	整備年度
LOD2.1	橋梁	松江市を象徴する橋梁	4本	R6年度整備
LOD3	道路	松江市を象徴する橋梁の上の道路	4本	R6年度整備
LOD3.3	建築物	松江城	1棟	R6年度整備

項目	活用したデータ	作成年度	地図情報レベル
平面図	都市計画基本図（新規作成）	R6年度	2,500レベル
	都市計画基本図（修正）	R3～6年度	2,500レベル
	基盤地図情報	R6年度更新	—
測量成果	既存資料（航空写真）	R4年度	1,000レベル
	既存資料（航空レーザー）	R3年度	4点/m ²
	UAVレーザー測量データ	R6年度	200点/m ²
	LidarSLAMデータ	R6年度	400点/m ²
属性情報	都市計画基礎調査（既存）	H30年度	2,500レベル
	都市計画決定情報	～R3年度	2,500レベル
	建築計画概要書	～R3年度	—
	立地適正化計画	H30年度	2,500レベル

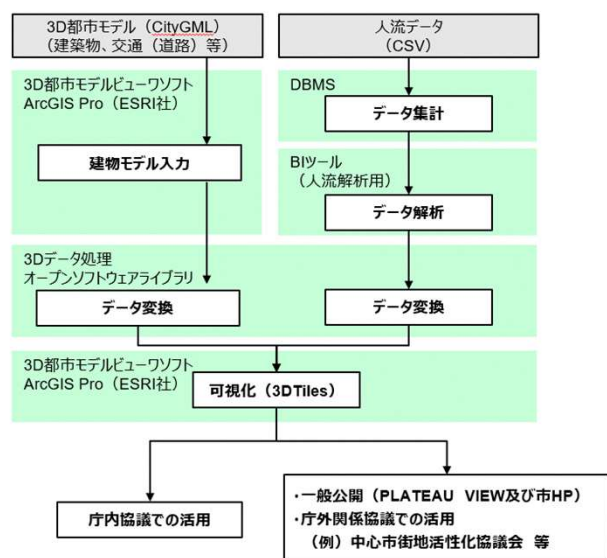
IV. 令和6年度採択団体 フォローアップ調査

R6-38. 島根県松江市

■ ユースケース①概要

分野	都市計画・まちづくり
目的	中心市街地における賑わい創出の可能性の検討。
取組内容	3D都市モデル上に都市計画決定情報、立地適正化計画における誘導区域や土地利用情報、災害リスク情報を重ね合わせ、今後様々な施策の検討に活用できるようビューを構築する。 当市では、JR松江駅から国宝松江城に至るエリアについて、中心市街地の魅力向上を推進している。人流データを3D都市モデルに重ね合わせ、中心市街地における人の流れ（滞留）を可視化し、効果的、効率的に賑わい創出の可能性を検討する。

■ システム構成図



分野	人口規模	面積規模	予算規模
街	15万以上	500以上	5-10千

■ ユースケース①開発方法

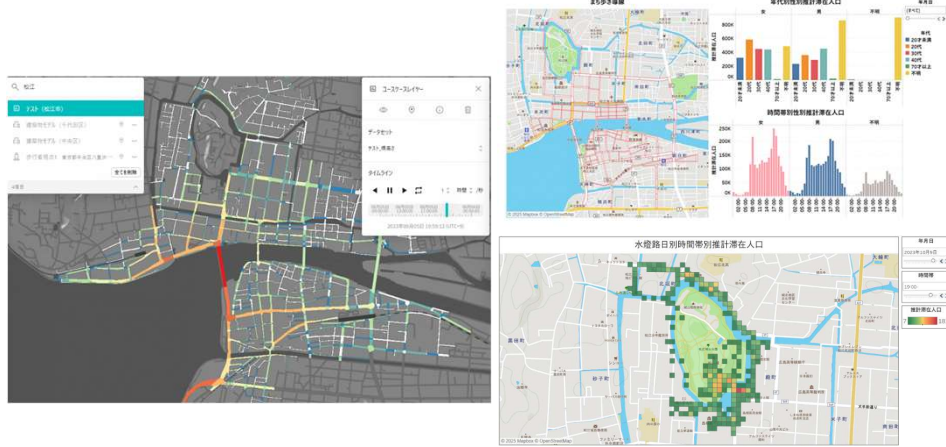
活用データ (3D都市モデル)	<ul style="list-style-type: none"> 建築物LOD2, LOD3.3 (名称、用途、構造種別、計測高さ、地上階数、建築年 等) 交通 (道路) LOD 1, LOD3 (名称、分類、機能、用途 等) 橋梁LOD2.1 (名称、分類、機能 等) 都市計画決定情報LOD1 (区域名称の区域の範囲、区域の種類、立地適正化計画等) 土地利用情報LOD1 (分類) 災害リスクLOD1 (洪水浸水想定区域の水面の範囲、浸水深の区分、土砂災害警戒区域の範囲、起こりうる災害の内容)
活用データ (上記以外)	<ul style="list-style-type: none"> 人流データ (性別、年代、推定居住地 (市内又は市外) 等)
ユースケース開発方法	<ul style="list-style-type: none"> 3D都市モデルをFMEにて3DTilesにデータに変換する。 中心市街地の人流データを調達し、DBMSで集計の後、BIツールでの解析結果をFMEにて3DTilesにデータ変換する。 上記のデータを3Dビューを用いて、統合・可視化する。 建築物や人流を3Dで可視化し、庁内での各種施策協議や庁外関係者協議で活用する。
政策・事業での活用	<ul style="list-style-type: none"> 中心市街地で賑わい創出のため実施されている各種施策や社会実験の効果を知るため、人の流れ (滞留) を可視化し、効果的、効率的に賑わい創出の可能性を検討する。 市民や事業者に公開し、官民連携での中心市街地の魅力向上に向けて取組む。
オープンデータ化情報発信	<ul style="list-style-type: none"> 人流可視化結果を松江市ホームページに掲載

■ KPI①

KPI	目標設定	達成状況
まちづくり関連部署の職員に対するアンケートで、3D都市モデルが市街地における賑わい政策立案等に役立つと回答した職員の割合 (%)	70% (R6年度)	72.9% (R7年度)

IV. 令和6年度採択団体 フォローアップ調査 R6-38. 島根県松江市

■ ユースケース開発成果イメージ図



■ 人流の可視化

2023松江水郷祭で、9:00から24:00までの歩行者の人流を道路上に可視化。歩行者の滞留や移動状況が閲覧できる。

■ 中心市街地及びその周辺の人流解析

中心市街地活性化施策の効果検証や歩行者誘導に伴う新たな施策の実施検証が可能になる。

■ 今後の展望

■ 今回調達した人流データの集計・解析結果の可視化を一般に公開することにより、官民連携での中心市街地の魅力向上に向けて取り組んでいきたい。

■ 庁内外で3D都市モデルの説明会を実施し、まちづくり分野以外の分野でも活用されるよう周知・啓発していきたい。

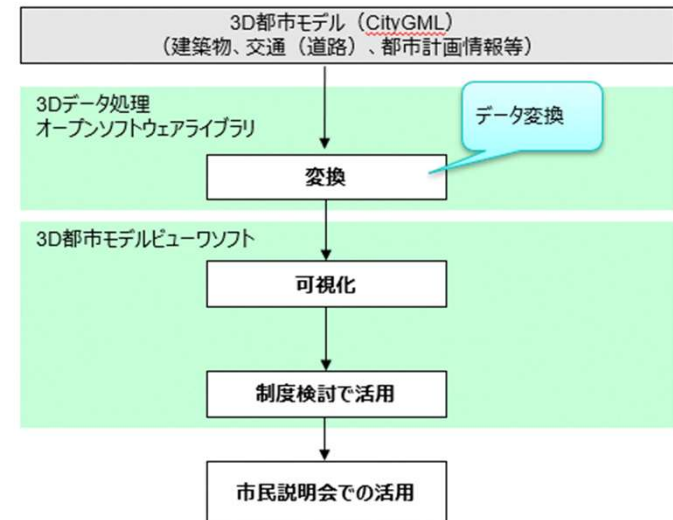
分野	人口規模	面積規模	予算規模
街	15万以上	500以上	5-10千



■ ユースケース②概要

分野	都市計画・まちづくり
目的	市民向けの説明会などの合意形成の場での活用。
取組内容	令和8年度中に向けて検討中の「線引き制度を用いない土地利用制度」の構築に向けて、都市計画区域全体で3D都市モデルを構築し、制度の考え方について、市民や民間事業者、その他関係者にわかりやすく情報を提供する。

■ システム構成図



IV. 令和6年度採択団体 フォローアップ調査

R6-38. 島根県松江市

分野	人口規模	面積規模	予算規模
街	15万以上	500以上	5-10千

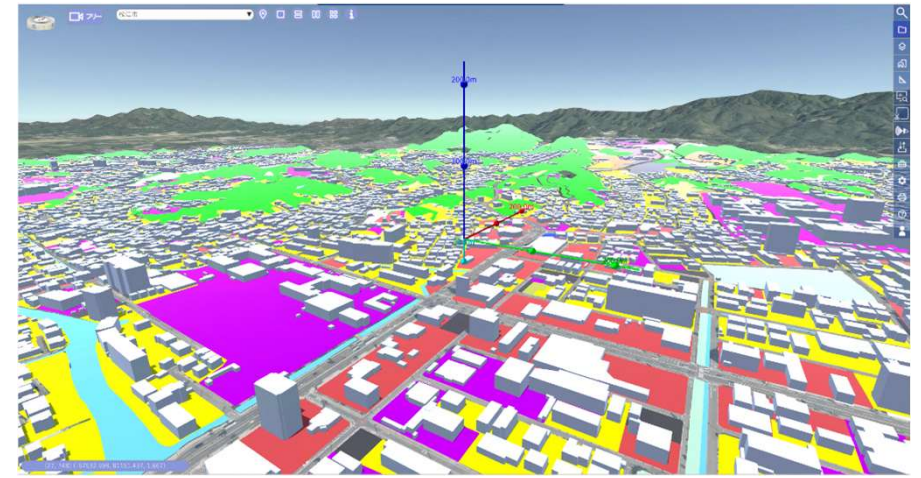
■ ユースケース②開発方法

活用データ (3D都市モデル)	<ul style="list-style-type: none"> 建築物LOD2 (名称、用途、構造種別、計測高さ、地上階数、建築年等) 建築物LOD1 (名称、計測高さ、等) 交通 (道路) LOD1 (名称、分類、機能、用途等) 都市計画決定情報LOD1 (区域名称の区域の範囲、区域の種類等) 立地適正化計画LOD1 (立地適正化計画における誘導区域) 土地利用情報LOD1 (分類) 災害リスクLOD1 (洪水浸水想定区域の水面の範囲、浸水深の区分、土砂災害警戒区域の範囲、起こりうる災害の内容)
ユースケース 開発方法	<ul style="list-style-type: none"> 令和8年度中に向けて検討中の「線引き制度を用いない土地利用制度」の構築に向けて、新たな土地利用制度の検討内容を可視化する。
政策・事業での 活用	<ul style="list-style-type: none"> 市民向けの説明会などの合意形成の場で活用し、市民等が視覚的、立体的に理解できるようにする。 3D都市モデルを活用し、用途地域や特定用途制限地域の検討など都市計画の施策立案につなげ、都市計画図閲覧の高度化や申請証明業務を効率化する。
オープンデータ化 情報発信	—

■ KPI②

KPI	目標設定	達成状況
新たな土地利用制度についての市民の理解 (アンケート) (%)	50% (R6年度)	83.3% (R7年度)

■ ユースケース開発成果イメージ図



■「線引き制度を用いない土地利用制度」の構築に向けて、用途地域や特定用途制限地域の検討などで活用。

■ 今後の展望

■ 庁内外で3D都市モデルの説明会を実施し、まちづくり分野以外の分野でも活用されるよう周知・啓発していきたい。

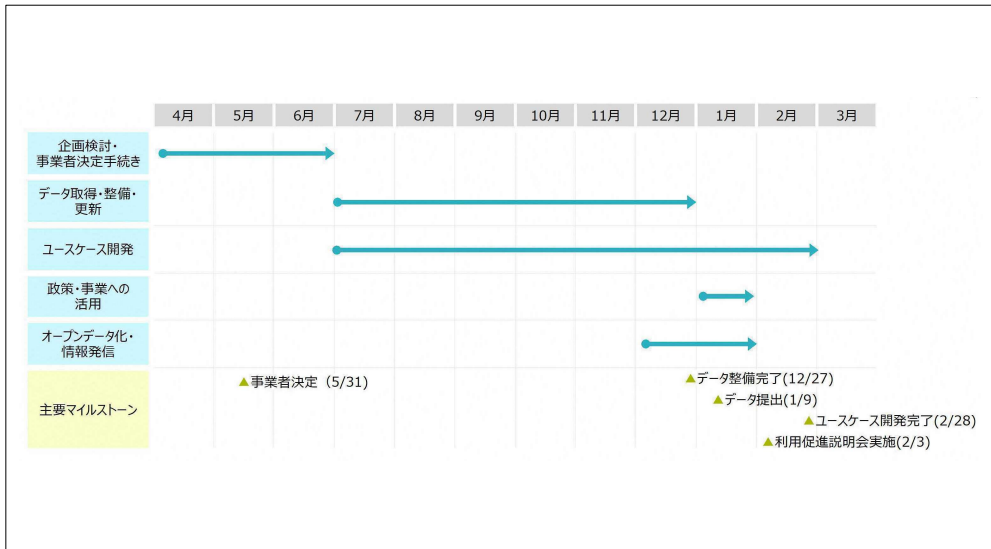
IV. 令和6年度採択団体 フォローアップ調査

R6-39. 島根県益田市

■ 団体基礎情報・プロジェクト全体像

人口	約4.5万人（令和7年3月時点）
市域全域面積	733.20km ² （令和7年3月時点）
目標	DX推進による社会変化に対応した持続可能なまちの実現
課題	<ul style="list-style-type: none"> ・複雑化する地域課題に対応できる協働体制の構築 ・本市の将来を担う人材を育成する「ひとづくり」の推進 ・関係人口の拡大による将来の定住人口増加の推進 ・本市の実情に合わせた先端技術の活用による市民生活の向上

■ 令和6年度スケジュール



分野	人口規模	面積規模	予算規模
街・活	1-3万	500以上	1-2千

担当部局	都市整備課
------	-------

■ 補助事業実施項目

事前調査等	・ 計画準備、資料収集整理、拡張製品仕様書作成
3D都市モデル整備・更新	・ 3D都市モデル整備（LOD1, LOD2）
ユースケース開発	<ul style="list-style-type: none"> ・ 3D都市モデルを活用したまちづくり関連施策検討事業 ・ 3D都市モデルを活用した人流情報活用事業
推進事業	—

総事業費（予定）	1,005（万円）
R6年度補助額	1,000（万円）
補助対象外の関連事業	—

オープンデータ化・可視化・情報発信	<ul style="list-style-type: none"> ・ G空間情報センターへの掲載 【3D都市モデル／関連データ】 ・ PLATEAU VIEWへの掲載 【3D都市モデル／関連データ】 ・ 益田市ホームページに掲載予定 【PLATEAU VIEWのリンク】
-------------------	--

R6年度委託事業者	国際航業株式会社（3D都市モデルの整備・更新、ユースケース開発）
-----------	----------------------------------



IV. 令和6年度採択団体 フォローアップ調査

R6-39. 島根県益田市



■ 3D都市モデル整備状況（基本セット） ※赤字：R6補助対象地物

LOD	整備地物	対象区域	整備面積	整備年度
LOD1	建築物 交通(道路) 地形	益田都市計画区域及 び石見空港	31.81km ²	R6年度整備
	都市計画決定情報 土地利用 災害リスク	益田都市計画区域	30.94km ²	R6年度整備
LOD2	建築物	益田駅前空間	0.14km ²	R6年度整備

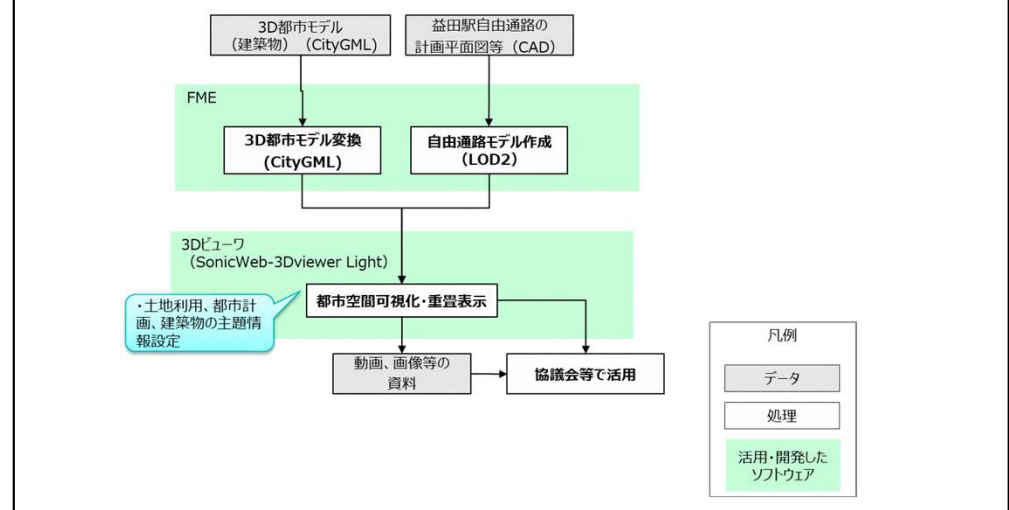
項目	活用したデータ	作成年度	地図情報レベル
平面図	都市計画基本図（既存）	H24年度	2,500
測量成果	既存資料（航空写真）	H23年度	2,500
属性情報	都市計画基礎調査（既存）	H8年度	—
	益田市立地適正化計画	R5年度	2,500

分野	人口規模	面積規模	予算規模
街・活	1-3万	500以上	1-2千

■ ユースケース①概要

分野	都市計画・まちづくり
目的	都市空間に関する情報を3D可視化し一元化することで、都市計画立案の検討や窓口業務の効率化、民間開発における情報収集の効率化のために活用する。
取組内容	3D都市モデル（都市計画決定情報や土地利用情報、災害リスク情報）を重ね、今後の都市開発の検討に活用（可視化等）する。 また、益田駅周辺南北エリアのまちづくり将来像を3D都市モデル上に重ね合わせ、益田駅の将来イメージを関係機関と共有し合意形成を促進するための資料とする。

■ システム構成図



IV. 令和6年度採択団体 フォローアップ調査

R6-39. 島根県益田市

■ ユースケース開発方法

活用データ (3D都市モデル)	建築物LOD1,LOD2 (名称、用途、計測高さ)
活用データ (上記以外)	益田駅自由通路の計画平面図等 (CAD)
ユースケース 開発方法	<ul style="list-style-type: none"> 対象区域の3D都市モデルを3Dビューワ (SonicWeb-3Dviewer Ligh) で可視化できるように既存の3D都市モデルデータ変換ツールを用いて3Dtileに変換する。 概略図等の検討図面をもとに益田駅周辺南北エリアが連携したまちづくりの将来イメージをLOD2データ (3次元化) で作成する。 作成したデータは3Dビューワ上で、既存の3D都市モデルと重ね合わせる。 3Dビューワにて、建物高さの色分け、都市計画基礎調査情報の色分け (土地利用等)、災害リスクの色分け (浸水深) などの設定を行い、主題属性を可視化する。可視化された属性情報をもとに、地区ごとに歩行者視点による可視化を行う。
政策・事業での 活用	3D都市モデルビューワ (3D都市モデルに都市計画情報や施設情報を実装し都市空間を可視化) をアウトプットし、まちづくりの庁内検討に活用
オープンデータ化 情報発信	—

■ KPI

KPI	目標設定	達成状況
3D都市モデルを利用した活用回数 (回)	1回 (R6年度)	1回 (R6年度)
内部業務の作業時間が効率化したと感じる人の割合 (アンケート) (%)	70% (R10年度)	70% (R10年度)

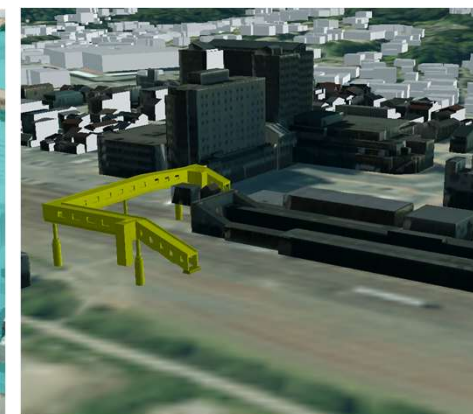
分野	人口規模	面積規模	予算規模
街・活	1-3万	500以上	1-2千

■ ユースケース開発成果イメージ図



洪水浸水想定区域の可視化

3D都市モデルの整備データ
及びユースケースの重畳①



益田駅自由通路の完成イメージ

3D都市モデルの整備データ
及びユースケースの重畳②

■ 今後の展望

今年度調査した人流データを活用して、観光誘致のためにも益田駅前開発を含めて中心市街地活性化に活用したい。

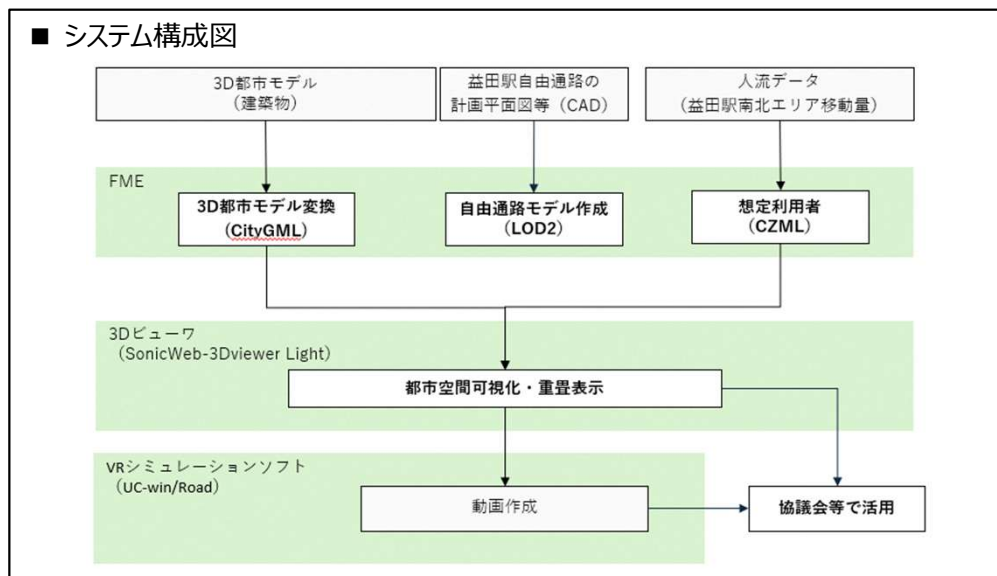
IV. 令和6年度採択団体 フォローアップ調査

R6-39. 島根県益田市

■ ユースケース②概要

分野	地域活性化・観光・コンテンツ
目的	市民や来訪者の人流を可視化・分析を行い、交通結節拠点を中心としたまちづくりの検討に利用する。
取組内容	3D都市モデル上に人流情報を重ね合わせ、人の滞留状況を可視化し、益田駅周辺の賑わい創出の検討を行う。

■ システム構成図



分野	人口規模	面積規模	予算規模
街・活	1-3万	500以上	1-2千

■ ユースケース開発方法

活用データ (3D都市モデル)	<ul style="list-style-type: none"> 建築物LOD2 (計測高さ) 建築物LOD1 土地利用情報LOD1 (土地利用) 都市計画決定情報LOD1 (区域名称) 災害リスクLOD1 (浸水想定区域 (洪水))
活用データ (上記以外)	<ul style="list-style-type: none"> 人流データ
ユースケース 開発方法	<ul style="list-style-type: none"> 対象区域の3D都市モデルを3Dビューワ (既存パッケージソフトウェア) で可視化できるように既存の3D都市モデルデータ変換ツールを用いて変換する。 人流データを調達し、既存人流可視化ツール (BIツール) を用いて滞留状況等を分析する。 3Dビューワで3D都市モデルと人流情報を重ね合わせて、人の滞留状況を3Dで可視化し、益田駅周辺の賑わい創出の検討に活用する。 作成されたデータはまちづくりの賑わい創出の参考資料として、今後動画による公開等オープンデータ化を検討する。
政策・事業での 活用	<ul style="list-style-type: none"> 3D都市モデル上に人流情報を重ね合わせ今後の益田駅自由通路の計画検討や賑わい創出の検討を行う。
オープンデータ化 情報発信	PLATEAU VIEWに搭載後、益田市HPにPLATEAU VIEWのリンクを掲載予定

■ KPI

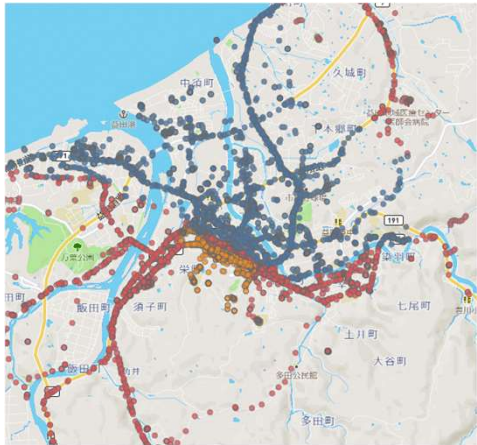
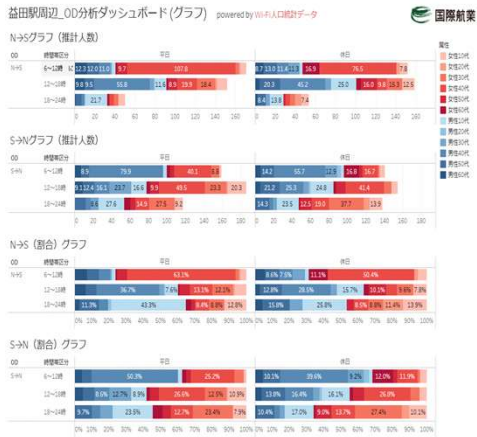
KPI	目標設定	達成状況
人流情報を活用した活用回数 (回)	1回 (R6年度)	1回 (R6年度)

IV. 令和6年度採択団体 フォローアップ調査 R6-39. 島根県益田市

分野	人口規模	面積規模	予算規模
街・活	1-3万	500以上	1-2千



■ ユースケース開発成果イメージ図



ダッシュボードによる人流把握

- ・人流ビッグデータを用いた益田市内広域の人流分析ダッシュボードを作成
- ・市民や来訪者属性から特性を把握

益田駅南北エリアの移動量解析

- ・今後北エリア・南エリアが連携したまちづくりを進めるため、現在の南北間移動傾向を人流ビッグデータを元に解析

南北自由通路完成時の利用者を動画化

- ・南北自由通路完成した場合の近隣住民の利用状況を人流データから予測し、予測結果を動画データにて可視化

■ 今後の展望

益田駅周辺南北エリアのまちづくり将来像を3D都市モデル上に重ね合わせ、今後の中心市街地活性化に活用したい。
益田市内広域の人流分析データを用いて、市民が利用しやすい住環境、観光客が来訪しやすい情報を発信し、地活性化等に活用していきたい。

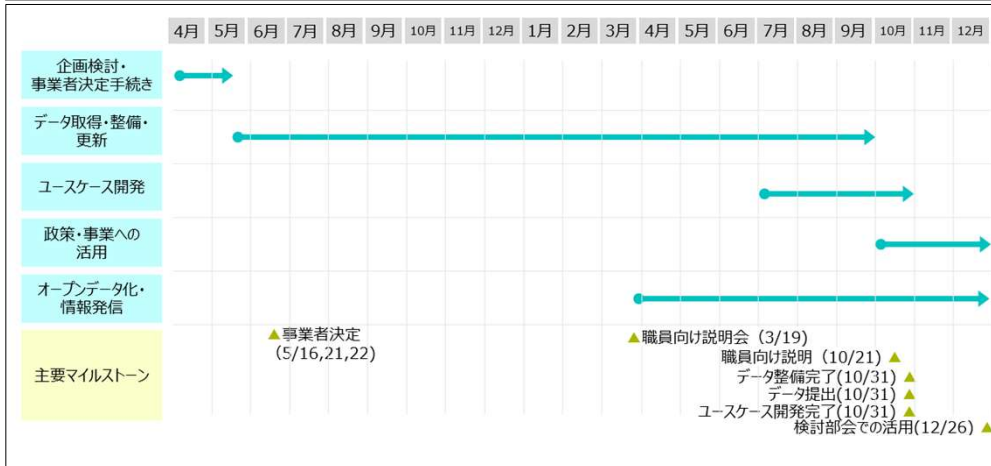
IV. 令和6年度採択団体 フォローアップ調査

R6-41.岡山県岡山市

■ 団体基礎情報・プロジェクト全体像

人口	約71.0万人（令和7年12月時点）
市域全域面積	789.95km ² （令和8年1月時点）
主な産業 地域課題等	<p>岡山県の南部に位置する都市。岡山県の県庁所在地および東瀬戸経済圏最大の人口を有し、政令指定都市に指定されている。当市を中心とした岡山都市圏は中四国地方最大の都市雇用圏を持つ。人口は約71.0万人。</p> <p>近畿と九州を結ぶ東西軸と、山陰と四国を結ぶ南北軸の結節点に位置し、鉄道・道路・空路などの交通網が集中しており、充実した交通網を有している。</p> <p>中心市街地における更なる移動の円滑化を図るため策定した「岡山市路面電車ネットワーク計画」に基づき、路面電車のネットワーク化に取り組む。</p> <p>まちなかの回遊性向上や賑わいづくりに向け、官民連携による公共空間活用の推進、旭川を中心とした賑わいの拠点づくりに取り組む。</p> <p>駐車場等の低未利用地が多く散在している中心市街地において、土地の高度利用と都市機能の更新を進めるため、市街地再開発事業の促進によって民間活力を後押しし、高次都市機能や居住機能の充実・強化を図る。</p>

■ 令和6年度スケジュール



分野	人口規模	面積規模	予算規模
街	15万以上	500以上	10千以上

担当部局	都市計画課
------	-------

■ 補助事業実施項目

目標	中四国の広域交流拠点を目指した都市づくり
課題	<ul style="list-style-type: none"> 都心の空洞化と拠点性の低下への対応 市街地の拡大と居住環境悪化への対応 環境負荷の高い市街地構造の是正 都市基盤の老朽化対応と都市経営の健全化
創出価値	<ul style="list-style-type: none"> 3D都市モデルを活用し、市域全体の建物、道路、地形などを俯瞰し、庁内及び市民説明資料として活用する。また、将来的には防災情報などの利活用も視野に入れる。 都市計画決定情報データと3D都市モデルとを重ね合わせ、都市の利用状況や構造について、可視化・考察を行う。また、この結果を踏まえて各種計画の立案や検討資料として庁内で活用する。
事前調査等	-
3D都市モデル整備・更新	<ul style="list-style-type: none"> 都市計画図修正 都市計画法規制情報データ入力業務 3D都市モデル整備 (LOD1, LOD2)
ユースケース開発	<ul style="list-style-type: none"> 都市の利用状況や構造の可視化
推進事業	-
総事業費	28,426 (万円)
R6年度補助額	14,050 (万円)
補助対象外の関連事業	-
オープンデータ化・可視化・情報発信	<ul style="list-style-type: none"> G空間情報センターへの掲載 【3D都市モデル】 PLATEAU VIEWへの掲載 【3D都市モデル】 岡山市ホームページに掲載 【G空間情報センターへのURLリンク先等】
R6年度委託事業者	株式会社バスコ（都市計画図修正、都市計画法規制情報データ入力業務、3D都市モデル整備 (LOD1, LOD2)、都市の利用状況や構造の可視化） 国際航業株式会社、アジア航測株式会社、朝日航洋株式会社（都市計画図修正、3D都市モデル整備 (LOD1)）



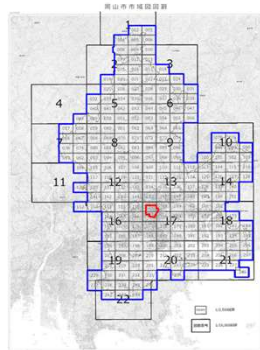
IV. 令和6年度採択団体 フォローアップ調査



R6-41.岡山県岡山市

■ 3D都市モデル整備状況（基本セット） ※赤字：R6補助対象地物

LOD	整備地物	対象区域	整備面積	整備年度
LOD1	建築物 交通(道路) 災害リスク 地形	岡山市全域	789.95km ²	R6年度整備
	都市計画決定情報 土地利用	岡山県南広域都市計画区域	586.00km ²	R6年度整備
LOD2	建築物	岡山都心地区	3.83km ²	R6年度整備

■ 3D都市モデル整備エリア図



	LOD1 (建築物、交通(道路)、都市計画決定情報、土地利用、災害リスク、地形)	岡山市全域 (789.95km ²)
	LOD2 (建築物)	岡山都心地区 (3.83km ²)

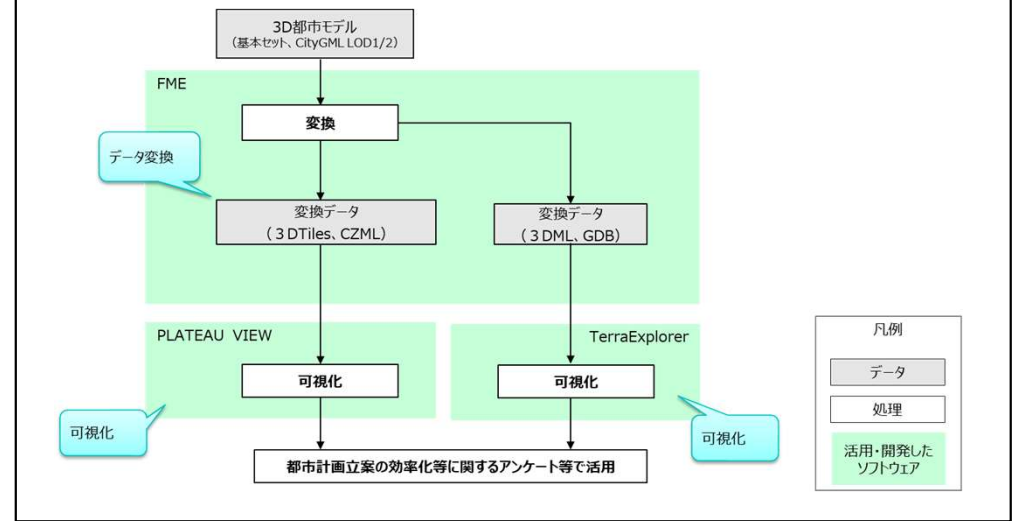
項目	活用したデータ	作成年度	地図情報レベル
平面図	1.新規作成	R6年度	2,500
測量成果	3.既存資料(航空写真)	R5年度	1,000
属性情報	1.都市計画基礎調査(既存)	R4年度 R5年度	2,500
	3.その他(都市計画基礎調査(都市計画区域外)(既存))	R5年度	2,500

分野	人口規模	面積規模	予算規模
街	15万以上	500以上	10千以上

■ ユースケース概要

分野	都市計画・まちづくり
目的	都市の利用状況や構造を可視化することにより、計画立案や合意形成ツールとして岡山市の都市づくりへ活用する。
取組内容	市全体の建物、道路、地形などを俯瞰し、庁内及び市民説明資料として活用する。 都市計画決定情報データと3D都市モデルLOD2を重ね合わせ、都市の利用状況や構造について、3Dビューを用いて可視化・考察を行うと共に、結果を踏まえ、各種計画の立案や検討資料として庁内で活用する。

■ システム構成図



IV. 令和6年度採択団体 フォローアップ調査

R6-41.岡山県岡山市

■ ユースケース開発方法

活用データ (3D都市モデル)	<ul style="list-style-type: none"> 建築物LOD1,LOD2 (名称、用途、構造種別、計測高さ、地上階数、建築年) 交通 (道路) LOD1 (車道の情報) 都市計画決定情報LOD1 (都市計画区域、市街化区域、用途地域) 土地利用LOD1 (土地利用区分) 災害リスクLOD1 (洪水浸水想定区域、津波浸水想定区域、土砂災害警戒区域、高潮浸水想定区域、内水浸水想定区域)
活用データ (上記以外)	-
ユースケース 開発方法	<ul style="list-style-type: none"> 3D都市モデルを3Dビューライゼーションソフトウェアにおいて閲覧・解析が行えるよう3D都市モデル閲覧・解析システム等を活用して変換を行う。 都市計画決定情報のデジタル化及び3D都市モデル化を実施し、3Dビューライゼーションソフトウェア及び庁内GIS及び公開用GISにおいて重畳表示が可能なデータを作成する。 3Dビューライゼーションソフトウェアに3D都市モデル及び都市計画決定情報等のセットアップを行い、都市計画データの掛け合わせによる分析・可視化が可能となるようにする。 部署内利用は、3Dビューライゼーションソフトウェアを活用して都市計画・まちづくり立案に役立てる閲覧・解析が行えるようにする。
政策・事業での 活用	<ul style="list-style-type: none"> 3D都市モデルを活用した、関係機関との協議資料。 3D都市モデルを活用した、庁内協議資料。
オープンデータ化 情報発信	岡山市ホームページにて、G空間情報センターへのURLリンク先等を掲載

■ KPI

KPI	目標設定	達成状況
作業時間が効率化したと感じる職員の割合 (%)	50% (R6年度)	56%(R7年度)
部署内で活用できている職員の割合 (%)	70% (R6年度)	67%(R7年度)

KPI未達を受けての
今後の対応

庁内職員へ積極的に周知することにより、3D都市モデルの更なる活用を促進する。

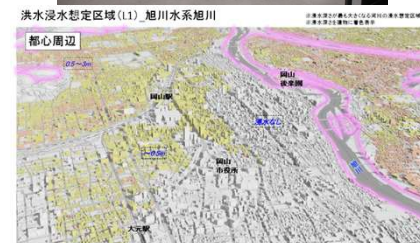
分野	人口規模	面積規模	予算規模
街	15万以上	500以上	10千以上

■ ユースケース開発成果イメージ図



職員向け説明会の開催

庁内職員向けに、3D都市モデル閲覧・解析システムの活用説明会を開催



都市計画情報の可視化・分析

3D都市モデルを用いて災害ハザードの見える化を行い、立地適正化計画検討部会での資料として活用

■ 今後の展望

- 令和7年度は、3D都市モデルを活用し、街路樹を可視化することで、マネジメントや緑化施策などの効率化を図る予定としている。
- 今後は、庁内の幅広い課で、様々な分野への活用を検討していきたい。

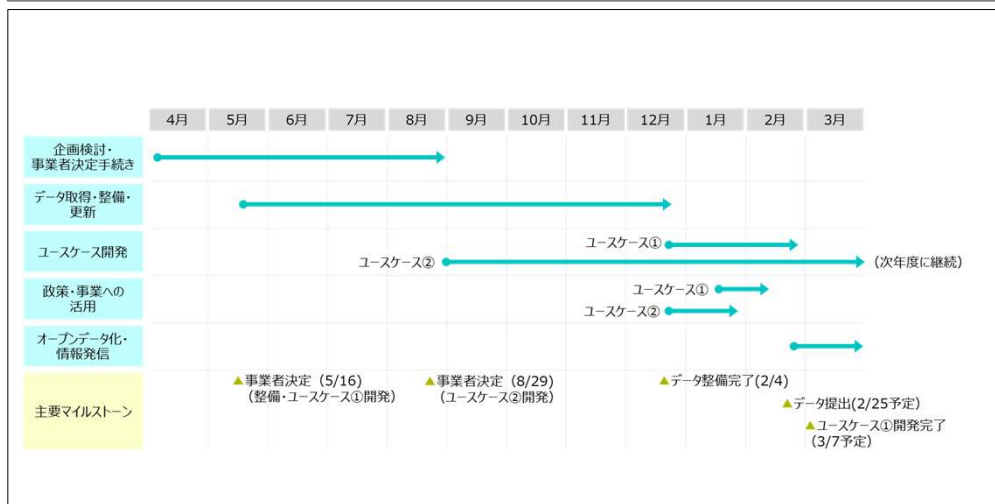
IV. 令和6年度採択団体 フォローアップ調査

R6-46.山口県周南市

■ 団体基礎情報・プロジェクト全体像

人口	134,733人（令和6年12月時点）
市域全域面積	656.29km ² （令和6年12月時点）
目標	多様なデータやサービスが連携したデータ駆動型・知識集約型都市の構築により、社会と暮らしの最適化を実現する。 まちの資源を活かした、誰もが主役となれるまち「公園都市 周南」を目指している。
課題	立体的な都市構造の可視化による効率的・効果的な都市計画やまちづくりの検討、合意形成 職員自らが編集可能なシミュレーションツールによる都心軸全体を俯瞰した施設整備計画の立案、ウォークアブルなまちづくりの検討

■ 令和6年度スケジュール



分野	人口規模	面積規模	予算規模
街	5-15万	500以上	2-3千

担当部局	都市政策課
------	-------



■ 補助事業実施項目

事前調査等	-
3D都市モデル整備・更新	・ 3D都市モデル整備 (LOD1, LOD2)
ユースケース開発	・ 3D都市モデルを活用した都市計画情報可視化事業 ・ 3D都市モデルを活用したまちづくりシミュレーション事業
推進事業	-

総事業費 (予定)	2,110 (万円) ※うちR6年度1,057.4 (万円)
R6年度補助額	528.7 (万円)
補助対象外の関連事業	3D都市モデル整備事業 (LOD1) (205km ²) (デジタル田園都市国家構想交付金)

オープンデータ化・可視化・情報発信	<ul style="list-style-type: none"> G空間情報センターへの掲載 PLATEAU VIEWへの掲載 山口県オープンデータカタログサイトに掲載 	<ul style="list-style-type: none"> 【3D都市モデル/UC②データ (予定)】 【3D都市モデル/UC②データ (予定)】 【3D都市モデル/UC②データ (予定)】
-------------------	---	---

R6年度委託事業者	株式会社日建技術コンサルタント (3D都市モデル整備事業 (LOD1, LOD2)、3D都市モデルを活用した都市計画情報可視化事業) 株式会社フォーラムエイト (3D都市モデルを活用したまちづくりシミュレーション事業)
-----------	--

IV. 令和6年度採択団体 フォローアップ調査

R6-46.山口県周南市

■ 3D都市モデル整備状況（基本セット） ※赤字：R6補助対象地物

LOD	整備地物	対象区域	整備面積	整備年度
LOD1	建築物 交通(道路) 都市計画決定情報 土地利用 災害リスク 地形	市街化区域等※	205km ²	R6年度整備
LOD2	建築物	都心軸	0.47km ²	R6年度整備

※デジタル田園都市国家構想交付金

■ 3D都市モデル整備状況（基本セット以外） ※赤字：R6補助対象地物

LOD	整備地物	対象区域	整備面積	整備年度
LOD1	都市設備 植生	都心軸	0.05km ²	R6年度整備
LOD2	交通（道路） 交通（広場）	都心軸	0.47km ²	R6年度整備

項目	活用したデータ	作成年度	地図情報レベル
平面図	4.数値地形図（DMデータ）（既存）	R5年度	2,500
測量成果	3.既存資料（航空写真）	R5年度	1,000
属性情報	1.都市計画基礎調査（既存）	R4年度	—
	3.その他（立地適正化計画）	H30年度	—

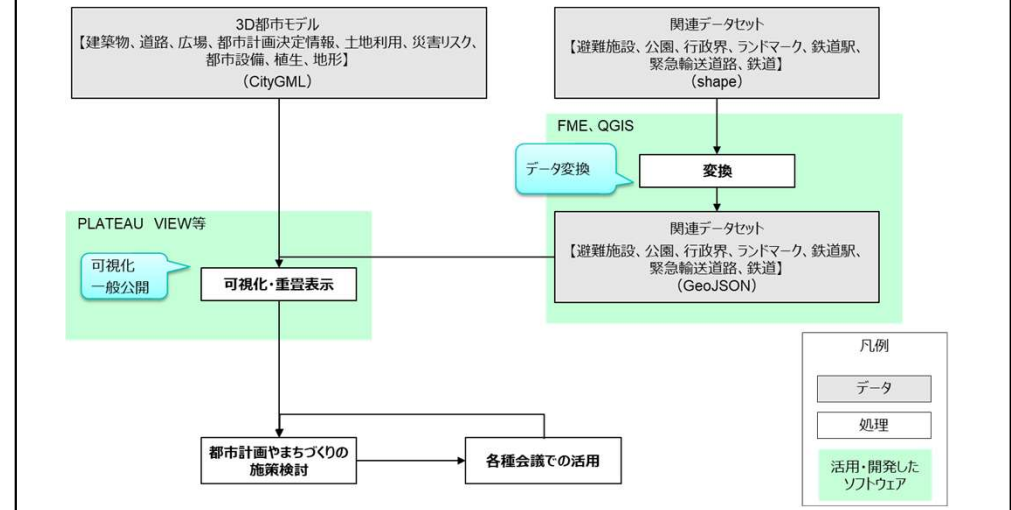
分野	人口規模	面積規模	予算規模
街	5-15万	500以上	2-3千



■ ユースケース①概要

分野	都市計画・まちづくり
目的	立体的な都市構造の可視化による効率的・効果的な都市計画やまちづくり施策立案の高度化、合意形成。
取組内容	個別の2次元地図データではエリア全体を俯瞰した都市計画やまちづくりの検討、また、その検討結果について、関連する会議等で参加者にわかりやすい説明ができていないといった課題がある。そのため、都市計画決定情報や都市計画基礎調査、各施設等のデータを3D都市モデル上で重畳表示し、都市計画やまちづくりの施策立案の検討及び説明資料として活用する。

■ システム構成図



IV. 令和6年度採択団体 フォローアップ調査

R6-46.山口県周南市



■ ユースケース開発方法

活用データ (3D都市モデル)	<ul style="list-style-type: none"> 建築物LOD1,LOD2 (名称、用途、面積、計測高さ、地上階数) 道路LOD1,LOD2 (名称、機能、用途、幅員) 広場LOD2 (名称、機能、面積) 都市計画決定情報LOD1 (区域名称の区域の範囲、区域の種類) 土地利用LOD1 (用途、面積) 災害リスクLOD1 (浸水想定区域 (洪水、高潮、津波) の水面の範囲、浸水深の区分、土砂災害警戒区域の範囲、起こりうる災害の内容) 都市設備LOD1 (分類、機能) 植生LOD1 (名称、樹種、高さ)
活用データ (上記以外)	<ul style="list-style-type: none"> 避難施設 (高さ、行政区域、名称、住所、施設の種類、収容人数、施設規模、災害分類、レベル) 公園 (管理都道府県・整備局、管理市区町村、公園名、公園種別、所在地都道府県名、所在地市区町村名、供用開始年、供用済面積、都市計画決定) 行政界 (都道府県の行政コード、都道府県名、市区町村の行政コード、市区町村名) ランドマーク (名称、高さ、種類) 鉄道駅 (駅名、高さ、鉄道区分、事業者種別、路線名、運営会社) 緊急輸送道路 (区分、道路種別、路線名称、任意ID、枝ID、資料名称、資料年月、行政区域) 鉄道 (行政区域、鉄道区分、事業者種別、路線名、運営会社)
ユースケース 開発方法	<ul style="list-style-type: none"> 対象区域の3D都市モデルと都市計画決定情報や都市計画基礎調査の土地利用現況等の既存データを変換し、PLATEAU VIEW等で重ね合わせ、都市構造を立体的に可視化。
政策・事業での 活用	<ul style="list-style-type: none"> わかりやすく可視化した都市構造を用いて、都市計画決定や土地利用等の施策検討に活用する。 都市計画やまちづくりの検討に伴う各種会議において、現況の都市構造や検討結果を、3D都市モデルから作成した静止画やPLATEAU VIEWを用いて複数の視点から説明し、内容への理解を深めてもらうことにより活発な意見交換等を促す。
オープンデータ化 情報発信	3D都市モデルを山口県オープンデータカタログサイトに掲載

分野	人口規模	面積規模	予算規模
街	5 - 15万	500以上	2 - 3千

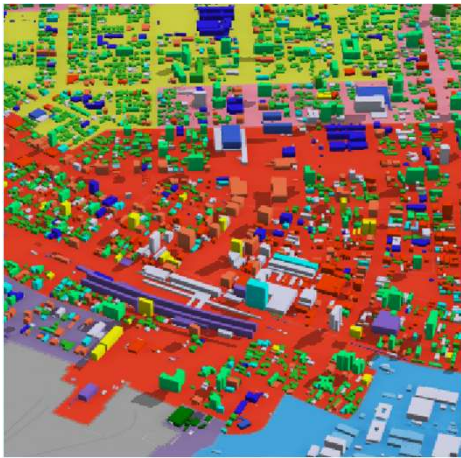
■ KPI

KPI	目標設定	達成状況
庁内外の会議出席者がPLATEAU VIEW等により作成した資料がわかりやすいと思う割合 (%)	60% (R6年度)	94.4% (R6年度)

IV. 令和6年度採択団体 フォローアップ調査

R6-46.山口県周南市

■ ユースケース開発成果イメージ図



都市構造の可視化

建築物モデル、都市計画決定情報等を重ね合わせ、都市構造を立体的にわかりやすく可視化。



都市計画施設

課題

都市計画やまちづくり施策での活用

可視化した都市構造を用いて、都市計画の見直しや土地利用等の施策検討に必要な資料を作成。

■ 今後の展望

今後、立地適正化計画の進捗状況の評価及び施策検討、外部会議等に活用したい。

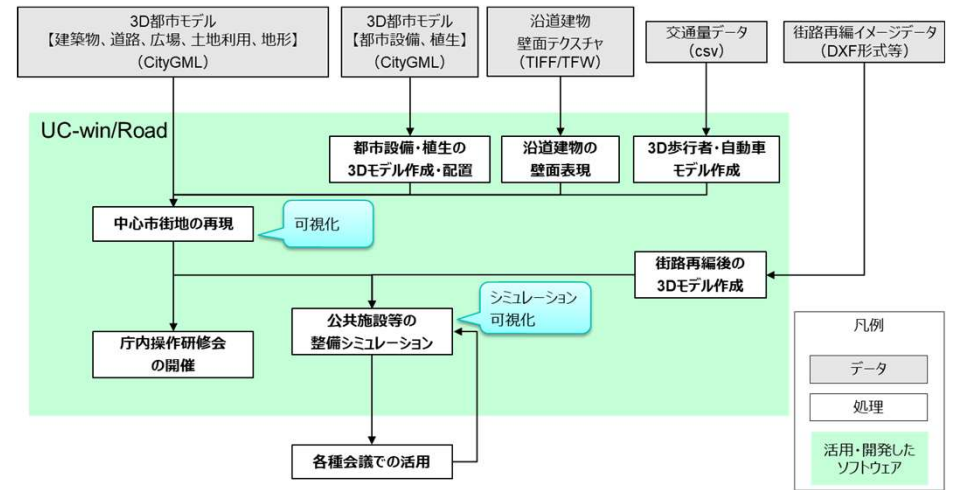
また、今回は都市計画・まちづくり分野での活用にとどまっているが、庁内で開催した3D都市モデルの説明会でのアンケート結果を踏まえ、他分野業務で活用されるよう周知・啓発していきたい。

分野	人口規模	面積規模	予算規模
街	5-15万	500以上	2-3千

■ ユースケース②概要

分野	都市計画・まちづくり
目的	職員自らが編集可能なシミュレーションツールによる都心軸全体を俯瞰した施設整備計画の立案、ウォークアブルなまちづくりの検討。
取組内容	景観やエリア価値の向上につながる施設整備計画の立案、また、ウォークアブルな空間の創出施策の検討に課題があるため、3D都市モデルや人流計測データを活用して都心軸をシミュレーションツール（VR）により再現し、職員自らが整備イメージを作成・可視化させ、施設整備計画等の立案に活用する。

■ システム構成図



IV. 令和6年度採択団体 フォローアップ調査

R6-46.山口県周南市



■ ユースケース開発方法

活用データ (3D都市モデル)	<ul style="list-style-type: none"> 建築物LOD1,LOD2 (名称、用途、面積、計測高さ、地上階数) 道路LOD1,LOD2 (名称、機能、用途、幅員) 広場LOD2 (名称、機能、面積) 都市設備LOD1 (分類、機能) 植生LOD1 (名称、樹種、高さ) 土地利用LOD1 (用途、面積)
活用データ (上記以外)	<ul style="list-style-type: none"> 建物テクスチャ (沿道建物の壁面表現) 街路再編イメージデータ (街路再編の断面構成) 歩行者交通量データ (歩行者交通量) 全国道路・街路交通情勢調査結果 (自動車交通量 (12時間、24時間)、大型車両混入率、混雑度、旅行速度)
ユースケース 開発方法	<ul style="list-style-type: none"> 職員自らが編集可能なソフトウェアを導入し、対象区域の3D都市モデルをソフトウェアで活用できるよう変換・可視化。 都心軸内の沿道建物の壁面を現地撮影により取得したテクスチャの貼り付けにより表現し、中心市街地のまちなみを再現。 中心市街地活性化協議会が作成した「未来ビジョン」等を基に、街路再編案の3Dモデルを2案程度作成し、可視化。 既存の歩行者交通量データや全国道路・街路交通情勢調査の結果を基に、中心市街地の歩行者や自動車の交通量を3Dモデルにより再現。 施設整備や街路再編による発生交通量を基に、交通量の変化を可視化し、都心軸内の回遊性を高めるエリア・ルートの検討に活用。 新たな公共施設の建設や街路再編の整備イメージを職員自らが作成・編集し、施設配置や建物高さ等の景観検討、また、ウォーカブルな空間の創出施策及びエリア価値の向上につながる施設整備計画の検討に活用。 シミュレーションツールの全庁的な活用に向け、庁内関係部署を対象とした庁内操作研修会を開催。 施設整備計画の検討やウォーカブルなまちづくりの検討に伴う庁内関係会議や関係団体への説明 (予定) において、シミュレーションツールを活用。
政策・事業での 活用	<ul style="list-style-type: none"> 新たな公共施設の建設や街路再編の整備イメージ。 施設整備計画やウォーカブルなまちづくりの検討に伴う各種会議で活用。
オープンデータ化 情報発信	PLATEAU VIEW、G空間情報センター、山口県オープンデータカタログサイトに掲載 (まちなみの現況再現データ) (予定)

分野	人口規模	面積規模	予算規模
街	5 - 15万	500以上	2 - 3千

■ KPI

KPI	目標設定	達成状況
まちづくりシミュレーションツールの庁内操作研修に参加した関係部署職員が施策検討に有用と思う割合 (%)	70% (R6年度)	66.7% (R6年度)

KPI未達を受けての今後の対応	<p>庁内操作研修に参加した関係部署職員の33.3%については、「有用かもしれない」と回答しており、その理由として、職員自らがシミュレーションツールにより整備イメージのモデル化やシミュレーションを行うことに自信がないという意見が多くあった。</p> <p>しかし、活用できそうな業務内容についての回答では、シミュレーションツールの機能で実施可能であること、また、合意形成や施策検討の高度化に高い効果を期待できるとの回答を得ていることから、シミュレーションツールのユースケース成果の発信を継続的に行い、庁内でシミュレーションツールが活用されるよう周知・啓発をしていく。</p>
-----------------	---

IV. 令和6年度採択団体 フォローアップ調査 R6-46.山口県周南市

分野	人口規模	面積規模	予算規模
街	5-15万	500以上	2-3千

■ ユースケース開発成果イメージ図



まちなみの再現

3D都市モデル及び交通量調査を活用し、まちづくりシミュレーションツールにより都心軸のまちなみを再現。



街路再編イメージの可視化

ウォークラブルな空間の創出のために必要な街路再編案を作成し、関係者間の検討・合意形成ツールとして活用。

■ 今後の展望

今回は一部エリアの現況のまちなみや交通量の再現、街路再編等の整備イメージを可視化し、庁内関係会議及び関係団体への説明（予定）での活用にとどまっているが、今後外部会議等に活用したい。

また、庁内操作研修に参加した関係部署職員から得たアンケート結果を踏まえ、高い評価を得られなかった土木・建築以外の分野及び業務で活用されるよう周知・啓発していきたい。

IV. 令和6年度採択団体 フォローアップ調査

R6-48. 愛媛県東温市

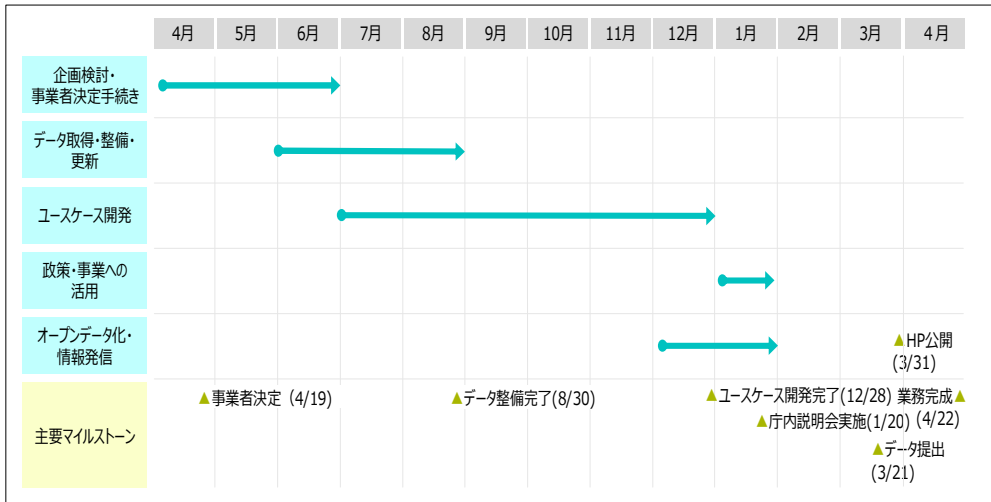


PLATEAU
by MLIT

■ 団体基礎情報・プロジェクト全体像

人口	約3万人（令和6年4月時点）
市域全域面積	23.80km ² （令和6年4月時点）
目標	3D都市モデルを活用したまちづくり
課題	<ul style="list-style-type: none"> 人口減少が進んでおり、効率的なまちづくりとしてコンパクト化に向けた取り組みが必要 都市計画や立地適正化計画など、居住の適正な誘導に加えて、暮らしを支える都市サービスを提供する拠点の形成、工業・商業など産業立地の適正な誘導が課題 本市の特性（交通利便性・企業誘致）を踏まえた取り組み効果の可視化が必要

■ 令和6年度スケジュール



分野	人口規模	面積規模	予算規模
街・防	1-3万	200-500	2-3千

担当部局	都市整備課
------	-------

■ 補助事業実施項目

事前調査等	・ ユースケース開発に関する事前調査
3D都市モデル整備・更新	—
ユースケース開発	・ シナリオに基づく地区シミュレーション
推進事業	—

総事業費（予定）	4,370（万円） ※うちR6年度2,300（万円）
R6年度補助額	1,150（万円）
補助対象外の関連事業	—

オープンデータ化・可視化・情報発信	<ul style="list-style-type: none"> G空間情報センターへの掲載 【UCデータ】 PLATEAU VIEWへの掲載 【UCデータ】
-------------------	---

R6年度委託事業者	国際航業株式会社（ユースケース開発に関する事前調査、シナリオに基づく地区シミュレーション）
-----------	---

IV. 令和6年度採択団体 フォローアップ調査 R6-48. 愛媛県東温市



■ 3D都市モデル整備状況（基本セット） ※赤字：R6補助対象地物

LOD	整備地物	対象区域	整備面積	整備年度
LOD1	建築物 交通(道路) 土地利用 地形	松山広域都市計画区域	23.80km ²	R5年度整備済
	都市計画決定情報	都市計画区域、区域区分、用途地域、交通施設、公共空地、水路、市街地開発事業モデル、土地区画整理事業、地区計画	23.80km ²	R2年度整備済
	災害リスク	洪水浸水想定区域(1区域 重信川水系 重信川) 土砂災害警戒区域	23.80km ²	R5年度整備済
LOD2	建築物	主要公共施設 10棟	0.04km ²	R5年度整備済

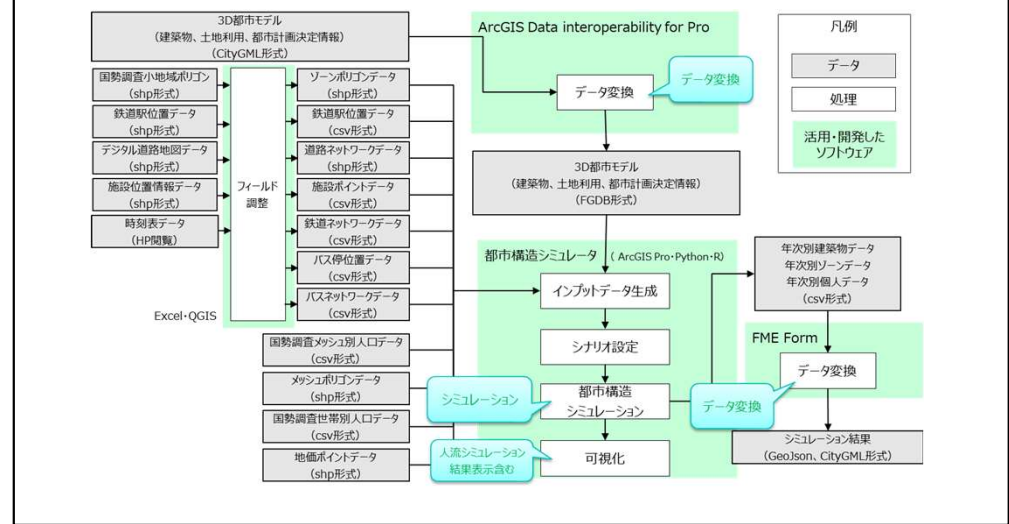
項目	活用したデータ	作成年度	地図情報レベル
平面図	都市計画基本図（既存）	H30年度	2,500
測量成果	既存資料（航空写真）	H30年度	1,000
属性情報	都市計画基礎調査（既存）	R2年度	—

分野	人口規模	面積規模	予算規模
街・防	1-3万	200-500	2-3千

■ ユースケース概要

分野	都市計画・まちづくり
目的	居住の誘導、拠点の形成、産業立地の適切な誘導を推進するため、3D都市モデルを活用した都市構造シミュレーションを開発、施策シナリオ検討を行い、今後の都市計画の方向性の検討に活用する。
取組内容	R5年度事業により整備した3D都市モデルへ、地区開発を行った場合のシミュレーション効果（人口、世帯、地価、空き家の変化）を可視化し、コンパクトシティへの理解と庁内の関連施策との連携強化を図る。

■ システム構成図



IV. 令和6年度採択団体 フォローアップ調査

R6-48. 愛媛県東温市



■ ユースケース開発方法

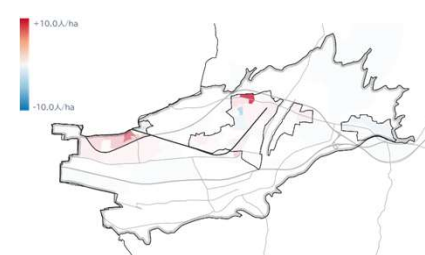
活用データ (3D都市モデル)	<ul style="list-style-type: none"> 建築物LOD1 (用途、計測高さ、地上階数、建築年、延床面積、図形面積) 都市計画決定情報LOD1 (区域名称の区域の範囲、区域の種類) 土地利用情報LOD1 (土地利用用途)
活用データ (上記以外)	<ul style="list-style-type: none"> 施設位置情報データ (施設の種類、緯度、経度) デジタル道路地図データベース (DRM) (道路幅員、ジオメトリ) 鉄道駅位置データ (鉄道駅の名称、位置) 時刻表データ (鉄道駅間、バス停間の所要時間、運行本数) 国勢調査メッシュ別人口データ (メッシュコード、性別、年齢、人口) メッシュポリゴンデータ (メッシュコード、ジオメトリ) 国勢調査世帯別人口データ (小地域コード、世帯類型、人口) 国勢調査小地域ポリゴン (小地域コード、ジオメトリ) 地価ポイントデータ (地価、緯度、経度)
ユースケース 開発方法	<ul style="list-style-type: none"> 都市構造シミュレーションの実施にあたり、必要となるゾーン単位データ、交通データ、個人データ等の各種資料の収集及び整理を行うものとする。 3D都市モデル上に、居住人口、地価変動、空き家分布等の都市構造の変化を予測・可視化する都市構造シミュレーション環境を整備する。 本市における都市計画で検討している施策シナリオ (5テーマ) について、施策実施後の効果を表現するデータを作成する。 R5年度に開発した人流ユースケース成果を活用し、都市構造シミュレータに活用できることを検討する。 本業務で整備した都市構造シミュレーションデータをビューワへセットアップする。 シミュレーションオープンデータを作成するとともに、庁内調整会議等で説明できるデータ等を作成する。
政策・事業での 活用	<ul style="list-style-type: none"> 都市計画マスタープラン等で位置付けた地域拠点について、施策実施による都市構造の変化・効果を検証し、方針決定の資料とする。 庁内関係部局及び都市計画審議会での説明資料として活用する。
オープンデータ化 情報発信	<ul style="list-style-type: none"> 市ホームページの紹介ページにPLATEAU VIEWへのリンクを掲載する。

分野	人口規模	面積規模	予算規模
街・防	1-3万	200-500	2-3千

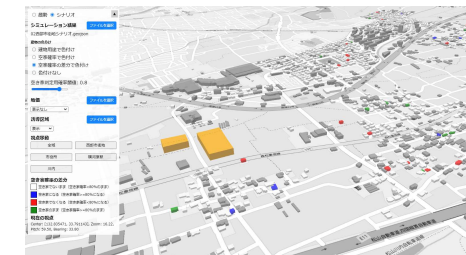
■ KPI

KPI	目標設定	達成状況
都市データを活用した都市計画 (都市計画マスタープラン・立地適正化計画) の策定計画数 (件)	2件 (R6年度)	2件 (R6年度)
都市機能の集約効果が、従来の手法より理解しやすいと回答した職員の割合 (%)	50% (R6年度)	85% (R6年度)

■ ユースケース開発成果イメージ図



将来都市構造の変化を可視化
商業施設が整備された場合の人口密度の増加をシミュレーション



将来都市構造の変化を可視化
シミュレーション結果を三次元で可視化事業の効果説明に活用

■ 今後の展望

今回は、都市計画の方針に沿った開発事業による都市の変化を確認した。現時点では算定方法が確立していないが、庁内からの意見も多かった他の施策やイベント開催の効果確認など、幅広い分野への活用を検討していきたい。

都市空間情報デジタル基盤構築支援事業（PLATEAU補助事業）取組事例集（令和7年度）

令和8年3月

国土交通省都市局
